

飯能市の地域福祉に関するアンケート 調査結果報告書

令和5年3月

飯 能 市
社会福祉法人 飯能市社会福祉協議会

— 目 次 —

序章 調査の概要	1
第1節 調査の概要	2
1 調査の目的	2
2 調査対象者	2
3 調査方法及び調査期間	2
4 回収結果	3
5 報告書を見る際の留意点	4
第1章 一般市民向けアンケート	5
第1節 回答者自身の状況について	6
1-1-1 性別（問1）	6
1-1-2 年齢（問2）	6
1-1-3 地域福祉圏域（問3）	8
1-1-4 居住年数（問4）	8
1-1-5 世帯形態（問5）	10
1-1-6 自治会加入の有無（問6）	12
第2節 住民同士の交流や支え合いについて	14
1-2-1 普段のあいさつの状況（問7）	14
1-2-2 住民同士のつながりの状況（問8）	16
1-2-3 ボランティア活動への関心（問9（1））	18
1-2-4 ボランティア活動の参加経験（問9（2））	21
〔参考〕ボランティア活動に参加している・したことがある回答者の男女別動向	24
1-2-5 ボランティア活動への参加意向（問9（3））	25
1-2-6 ボランティア活動促進の条件（問9（4））	28
第3節 「地域の居場所」について	33
1-3-1 「地域の居場所」の認知度（問10）	33
1-3-2 「地域の居場所」の利用状況・必要性（問11）	36
1-3-3 「地域の居場所」の満足度（問11-1）	40
1-3-4 「地域の居場所」を利用できない理由（問11-2）	40
第4節 地域福祉に関する組織や制度等の認知度	43
1-4-1 地域福祉に関する組織や制度等の認知度（問12）	43
第5節 福祉情報の入手状況	55
1-5-1 福祉情報の入手先（問13）	55
1-5-2 福祉情報の入手先の数（問13を基に作成）	61
1-5-3 福祉情報の充足度（問14）	63
第6節 安心・安全なまちづくりについて	66
1-6-1 虐待に関する通報義務の認知度（問15）	66
〔参考〕虐待に関する通報義務の認知度の有無による福祉情報の入手状況の違い	68
1-6-2 防災対策の実施状況（問16）	70
1-6-3 防災訓練への参加状況（問17）	72
第7節 困っていることや相談窓口について	74
1-7-1 困りごとの内容（問18）	74

1-7-2	気軽に相談できる相手や窓口の有無（問 19）	79
1-7-3	相談しやすい窓口の数（問 19 を基に作成）	84
1-7-4	公的な相談窓口の有無（問 19 を基に作成）	86
1-7-5	相談しやすい窓口の条件（問 20）	88
第 8 節	今後取り組むべきことについて	93
1-8-1	市や社会福祉協議会が取り組むべきこと（問 21）	93
1-8-2	支え合いの地域づくりのために必要なこと（問 22）	102

第 2 章 児童・生徒向けアンケート 115

第 1 節	回答者自身の状況	116
2-1-1	学年（問 1）	116
2-1-2	学校（問 2）	116
2-1-3	同居している家族（問 3）	117
第 2 節	飯能市への想いについて	118
2-2-1	飯能市への愛着感（問 4）	118
2-2-2	飯能市への定住意向（問 5）	119
2-2-3	大人になっても住み続けたいまちの条件（問 6）	120
第 3 節	近所の人とのあいさつの状況	133
2-3-1	自分からのあいさつの状況（問 7）	133
2-3-2	近所の人からのあいさつの状況（問 8）	134
第 4 節	相談相手や居場所について	135
2-4-1	悩みや不安の内容（問 9）	135
2-4-2	気軽に相談できる相手（問 10）	136
2-4-3	相談相手がない児童・生徒が気軽に相談できると思う相手（問 10-1）	137
2-4-4	気軽に相談できる相手の数（問 10 を基に作成）	137
2-4-5	気軽に相談できる相手の構成区分（問 10 を基に作成）	138
2-4-6	安心できる居場所（問 11）	139
2-4-7	安心できる居場所の数（問 11 を基に作成）	140
2-4-8	安心できる居場所の構成区分（問 11 を基に作成）	141
〔参考〕	気軽に相談できる相手がない児童・生徒の状況	142
第 5 節	地域福祉に関する行動について	144
2-5-1	現在の福祉的行動の状況（問 12）	144
2-5-2	今後の福祉的行動の意向（問 13）	145
〔参考〕	現在の福祉的行動の状況と今後の福祉的行動の意向の比較（問 12、問 13）	146

第 3 章 保護者向けアンケート 147

第 1 節	回答者自身の状況について	148
3-1-1	性別（問 1）	148
3-1-2	年齢（問 2）	148
3-1-3	地域福祉圏域（問 3）	149
3-1-4	居住年数（問 4）	149
3-1-5	世帯形態（問 5）	150
3-1-6	自治会加入の有無（問 6）	150
第 2 節	住民同士の交流や支え合いについて	151

3-2-1	普段のあいさつの状況（問 7）	151
3-2-2	住民同士のつながりの状況（問 8）	151
3-2-3	ボランティア活動への関心（問 9（1））	152
3-2-4	ボランティア活動の参加経験（問 9（2））	152
3-2-5	ボランティア活動の参加意向（問 9（3））	153
3-2-6	ボランティア活動促進の条件（問 9（4））	153
第 3 節	「地域の居場所」について	154
3-3-1	「地域の居場所」の認知度（問 10）	154
3-3-2	「地域の居場所」の必要性（問 11）	154
3-3-3	「地域の居場所」の満足度（問 11-1）	155
3-3-4	「地域の居場所」を利用できない理由（問 11-2）	156
第 4 節	地域福祉に関する組織や制度等の認知度	158
3-4-1	地域福祉に関する組織や制度等の認知度（問 12）	158
第 5 節	福祉情報の入手状況	159
3-5-1	福祉情報の入手先（問 13）	159
3-5-2	福祉情報の入手先の数（問 13 を基に作成）	160
3-5-3	福祉情報の充足度（問 14）	161
第 6 節	安心・安全なまちづくりについて	162
3-6-1	虐待に関する通報義務の認知度（問 15）	162
3-6-2	防災対策の実施状況（問 16）	162
3-6-3	防災訓練への参加状況（問 17）	163
第 7 節	困っていることや相談窓口について	164
3-7-1	困りごとの内容（問 18）	164
3-7-2	気軽に相談できる相手や窓口の有無（問 19）	165
3-7-3	相談しやすい窓口の数（問 19 を基に作成）	166
3-7-4	公的な相談窓口の有無（問 19 を基に作成）	166
3-7-5	相談しやすい窓口の条件（問 20）	167
第 8 節	今後取り組むべきことについて	168
3-8-1	市や社会福祉協議会が取り組むべき施策（問 21）	168
3-8-2	支え合いの地域づくりのために必要なこと（問 22）	169

第 4 章 ボランティア団体向けアンケート

173

第 1 節	回答者自身の状況	174
4-1-1	活動分野（問 1）	174
4-1-2	活動年数（問 2）	174
4-1-3	活動範囲（問 3）	175
第 2 節	団体運営上の課題について	176
4-2-1	新型コロナウイルス感染症の影響（問 4）	176
4-2-2	運営において困っていること（問 5）	176
4-2-3	運営上の課題の解決に必要なこと（問 6）	177
4-2-4	今後の活動のために市や社協に望むこと（問 7）	179
第 3 節	他の組織・団体等との連携について	180
4-3-1	現在連携している組織・団体等（問 8）	180
4-3-2	今後連携を深めていきたい組織・団体等（問 9）	180
4-3-3	連携によって期待される効果（問 9-1）	181

〔参考〕現在連携している組織・団体等（問 8）と今後連携を深めていきたい組織・団体等（問 9）の比較.....	185
第 4 節 共に支え合う地域づくりについて	186
4-4-1 「第 3 次はんのうふくしの森プラン」の認知度（問 10）	186
4-4-2 市や社協が力を入れるべき取組（問 11）	187
4-4-3 共に支え合う地域づくりのために必要なこと（問 12）	188

第 5 章 福祉関係事業所向けアンケート 191

第 1 節 回答者自身の状況	192
5-1-1 取組の分野（問 1）	192
5-1-2 運営主体（問 2）	192
5-1-3 事業所の規模（問 3）	193
5-1-4 活動範囲（問 4）	193
第 2 節 他の組織・団体等との連携について.....	194
5-2-1 現在連携している組織・団体等（問 5）	194
5-2-2 今後連携を深めていきたい組織・団体等（問 6）	195
5-2-3 連携によって期待される効果（問 6-1）	196
〔参考〕現在連携している組織・団体等（問 5）と今後連携を深めていきたい組織・団体等（問 6）の比較.....	200
第 3 節 地域貢献活動について.....	201
5-3-1 現在の地域貢献活動の状況（問 7）	201
5-3-2 活動している内容（問 7-1）	201
5-3-3 今後の地域貢献活動に対する意向（問 8）	202
5-3-4 今後行いたい取組の内容（問 8-1）	202
5-3-5 取り組みやすくなるための条件（問 8-2）	203
第 4 節 「はんのうふくしの森プラン」について.....	204
5-4-1 「第 3 次はんのうふくしの森プラン」の認知度（問 9）	204
5-4-2 「第 3 次はんのうふくしの森プラン」の基本施策の評価（問 10）	205
〔参考〕加重平均値による項目の比較.....	206
5-4-3 今後重点的に進めるべき施策（問 11）	207
第 5 節 共に支え合う地域づくりのための方策について.....	209
5-5-1 共に支え合う地域づくりのための重点施策（問 12）	209
5-5-2 共に支え合う地域づくりのために事業所として可能な関わり方（問 13）	210
5-5-3 市や社会福祉協議会に期待すること（問 14）	211
5-5-4 情報提供の希望の有無（問 15）	213

第 6 章 専門職向けアンケート 215

第 1 節 回答者自身の状況	216
6-1-1 取組の分野（問 1）	216
6-1-2 事業所の運営主体（問 2）	216
6-1-3 業務の内容（問 3）	217
6-1-4 業務の活動範囲（問 4）	217
第 2 節 対象者をめぐる課題や問題点	218
6-2-1 対象者や家族等をめぐる課題（問 5）	218
6-2-2 対象者をめぐる課題の具体的内容（問 5-1）	218

6-2-3	現行のサービス等で解決できない問題（問 6）	220
6-2-4	問題の具体的な内容と解決に向けた提案（問 6-1、問 6-2）	220
第 3 節	多職種連携について	224
6-3-1	相談支援業務の有無（問 7）	224
6-3-2	相談支援業務における多職種連携の状況（問 8）	224
6-3-3	多職種連携に対する意識（問 9）	225
6-3-4	連携が円滑になるための条件（問 9-1）	225
6-3-5	「参加支援」の必要性（問 10（1））	226
6-3-6	「参加支援」対象者の有無（問 10（2））	226
6-3-7	「参加支援」対象者の具体的な状況（問 10（3））	227
第 4 節	「はんのうふくしの森プラン」について	228
6-4-1	「第 3 次はんのうふくしの森プラン」の認知度（問 11）	228
6-4-2	「第 3 次はんのうふくしの森プラン」の施策内容の評価（問 12）	229
	〔参考〕加重平均値による項目の比較（問 12）	231
6-4-3	今後重点的に進めるべき施策（問 13）	233
第 5 節	共に支え合う地域づくりについて	235
6-5-1	「地域共生社会」実現のための重点施策（問 14）	235
6-5-2	共に支え合う地域づくりのために必要なこと（問 15）	236

第 7 章 市内企業向けアンケート

239

第 1 節	回答者自身の状況	240
7-1-1	事業活動の分野（問 1）	240
7-1-2	事業所の規模（問 2）	240
7-1-3	事業活動の範囲（問 3）	241
第 2 節	地域貢献活動について	242
7-2-1	地域貢献活動の状況（問 4）	242
7-2-2	地域貢献活動に取り組んでいる理由（問 4-1）	242
7-2-3	現在取り組んでいる活動（問 4-2）	243
7-2-4	今後の取組の意向（問 5）	244
7-2-5	今後取り組みたい活動（問 5-1）	245
	〔参考〕現在取り組んでいる活動と今後取り組みたい活動の比較（問 4-2、問 5-1）	246
7-2-6	地域への貢献活動がしやすくなるための条件（問 6）	247
第 3 節	福祉のまちづくりについて	248
7-3-1	「第 3 次はんのうふくしの森プラン」の認知度（問 7）	248
7-3-2	共に支え合う地域づくりのために必要なこと（問 8）	248

第 8 章 個人商店向けアンケート

251

第 1 節	回答者自身の状況	252
8-1-1	事業活動の分野（問 1）	252
8-1-2	事業活動の範囲（問 2）	252
第 2 節	地域貢献活動について	253
8-2-1	現在取り組んでいること（問 3（1））	253
8-2-2	今後取り組みそうなこと（問 3（2））	254
	〔参考〕現在取り組んでいることと今後取り組みそうなことの比較（問 3（1）、問 3（2））	

.....	255
8-2-3 取組を行うための条件（問 3（3））	256
8-2-4 商店等による福祉機能への評価（問 4）	256
第 3 節 福祉のまちづくりについて	257
8-3-1 「第 3 次はんのうふくしの森プラン」の認知度（問 5）	257
8-3-2 市や社会福祉協議会が取り組むべき施策（問 6）	258
8-3-3 共に支え合う地域づくりのために必要なこと（問 7）	259

資料 1 第 3 次プランに関する主な指標のまとめ 261

基本目標 1【知】 お互いを知り合う・わかり合う機会をつくろう	262
1 地域コミュニティづくり	262
2 福祉学習の推進	262
3 情報の発信と共有	262
基本目標 2【交】 交流が生まれる居場所と地域の移動・交通をつくろう	263
1 交流の場づくり	263
2 地域の移動・交通の充実	263
基本目標 3【支】 支え合いの仕組みをつくろう	264
1 地域で支え合う人の育成	264
2 支え合いの地域づくり	264
基本目標 4【安】 安心して暮らせる仕組みをつくろう	265
1 相談支援体制の強化	265
2 権利擁護の推進	265
3 防災・防犯の地域づくり	265
4 すこやかに暮らせる地域づくり	266
その他計画全体に関すること	266
1 「はんのうふくしの森プラン」等の認知度	266

資料 2 調査票 267

1 一般市民向けアンケート／3 保護者向けアンケート	268
2 児童・生徒向けアンケート	272
4 ボランティア団体向けアンケート	274
5 福祉関係事業所向けアンケート	276
6 専門職向けアンケート	280
7 市内企業向けアンケート	284
8 個人商店向けアンケート	286

序章

調査の概要

第1節 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、「第4次はんのうふくしの森プラン（第4次飯能市地域福祉計画・第5次飯能市地域福祉活動計画）」策定のための基礎資料を得るために実施しました。

2 調査対象者

次の調査区分ごとに対象者を設定しました。

調査名	対象者	対象者数
①一般市民向けアンケート	18歳以上の市民 ※市内13地区ごとに無作為抽出 ※地区の人口規模に応じて抽出数を調整	2,000人
②児童・生徒向けアンケート	児童：小学5年生 生徒：中学2年生 ※各公立小中学校の全児童生徒	1,091人
③保護者向けアンケート	児童・生徒向けアンケートの対象者の保護者	1,091人
④ボランティア団体向けアンケート	社協登録ボランティア団体及び地域福祉に関する活動を行っている団体	107団体
⑤福祉関係事業所向けアンケート	市内の福祉関係事業所（全事業所）	219事業所
⑥専門職向けアンケート	市内の福祉関係事業に従事する専門職等（全員）	—
⑦市内企業向けアンケート	市内の一般企業から抽出	300件
⑧個人商店向けアンケート	市内の個人商店等から抽出	100件

※専門職向けアンケートは、福祉関係事業所を通じて各事業所の専門職に依頼したため、対象者数は特定できない。

3 調査方法及び調査期間

調査名	調査方法		調査期間
①一般市民向けアンケート	郵送	郵送及びオンライン回答	令和4年10月24日～11月15日
②児童・生徒向けアンケート	学校を通じた案内の配布	オンライン回答	令和4年10月24日～11月22日
③保護者向けアンケート	同上	同上	令和4年10月24日～11月22日
④ボランティア団体向けアンケート	郵送	郵送及びオンライン回答	令和4年11月1日～11月30日
⑤福祉関係事業所向けアンケート	電子メールによる案内の配布	オンライン回答	令和4年11月14日～12月7日

調査名	調査方法		調査期間
⑥専門職向けアンケート	同上	同上	令和4年11月8日 ～12月7日
⑦市内企業向けアンケート	郵送	郵送及びオンライン回答	令和4年11月14日 ～11月30日
⑧個人商店向けアンケート	同上	同上	令和4年10月14日 ～11月30日

4 回収結果

調査名	対象者数	有効回収数	有効回収率
①一般市民向けアンケート	2,000人	846人	42.3%
②児童・生徒向けアンケート	1,091人	915人	83.9%
③保護者向けアンケート	1,091人	281人	25.8%
④ボランティア団体向けアンケート	107団体	86団体	80.4%
⑤福祉関係事業所向けアンケート	219事業所	40事業所	18.3%
⑥専門職向けアンケート	—	47人	—
⑦市内企業向けアンケート	300件	115件	38.3%
⑧個人商店向けアンケート	100件	27件	27.0%

【一般市民向けアンケートの地区別・年齢別回収率】

区分	対象者数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)	区分	対象者数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)
飯能中央	458	196	42.8	29歳未満	238	43	18.1
第二区	70	28	40.0	30～39歳	241	69	28.6
富士見	162	61	37.7	40～49歳	280	96	34.3
精明	118	40	33.9	50～59歳	328	127	38.7
双柳	166	78	47.0	60～64歳	146	79	54.1
加治東	164	72	43.9	65～74歳	378	214	56.6
加治	240	87	36.3	75～84歳	276	166	60.1
美杉台	244	98	40.2	85歳以上	113	43	38.1
南高麗	56	24	42.9	年齢不明	-	9	-
吾野	50	24	48.0	計	2,000	846	42.3
東吾野	48	21	43.8				
原市場	178	71	39.9				
名栗	46	17	37.0				
地区不明	-	29	-				
計	2,000	846	42.3				

5 報告書を見る際の留意点

(1) 回答率について

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。このため、比率の合計は100%を上下することがあります。
- ②1人の回答者が2つ以上の回答をすることができる設問（複数回答）では、比率の合計が100%を上回ることがあります。

(2) 表記について

- ①図表及び文章中で、選択肢を一部省略して用いています。
- ②文章中で選択肢を引用する場合は「 」を用いています。また、いくつかの選択肢を合わせて一つのまとまりとする場合は“ ”で囲んで表記しています。
- ③属性のクロス分析で用いられる帯グラフでは、可読性を高めるため、3%未満の数値は省略している場合があります。
- ④属性のクロス分析で用いられる帯グラフでは、属性が無回答のグラフの掲載を省略しています。そのため、各属性の回答者数の和は設問の回答者数と一致しません。

(3) 加重平均値について

福祉関係事業所向けアンケートの問10 (P.206) 及び専門職アンケートの問12 (P.231) では、調査結果をわかりやすく表現するため、加重平均による点数化を行いました。

これは、ある設問における回答構成の平均値を算出する際に、項目の内容に応じて+2点、+1点、0点、-1点、-2点といった重みを便宜的に加えて計算する手法のことです。

具体的な計算方法は次のとおりです。

【加重平均値の算出方法】

A:「とても進んだ」の回答数	(+2点)	
B:「やや進んだ」の回答数	(+1点)	
C:「あまり進んでいない」の回答数	(-1点)	→
D:「まったく進んでいない」の回答数	(-2点)	
E:「わからない」の回答数	(0点)	

$$\frac{A \times 2 + B - C - D \times (-2)}{A + B + C + D}$$

計算の結果得られる加重平均点はいずれも「+2」～「-2」の値となり、0点を中心に「+2」に近くなるほど評価が高く、「-2」に近くなるほど評価が低いということになります。

第1章 一般市民向けアンケート

第1節 回答者自身の状況について

1-1-1 性別（問1）

問1 あなたの性別を教えてください。（1つだけに○）

「女性」が50.8%

性別については、「男性」が47.4%、「女性」が50.8%となっています。

図 性別

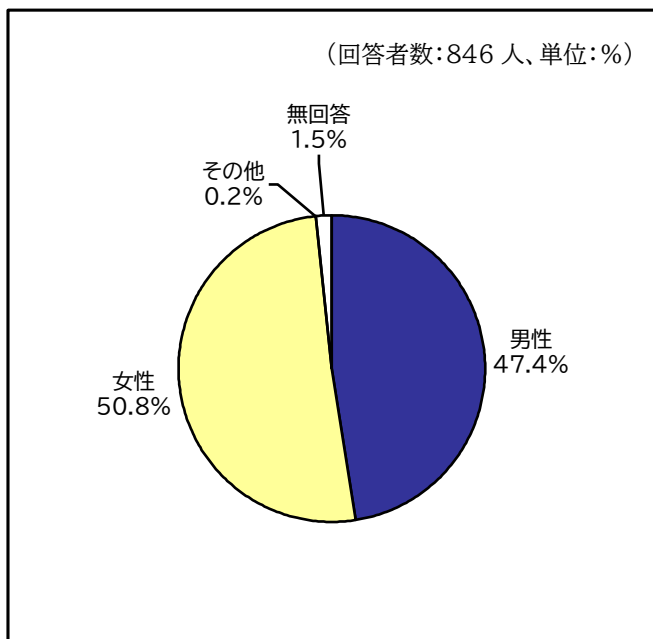


表 性別

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
男性	401 (47.4)
女性	430 (50.8)
その他	2 (0.2)
無回答	13 (1.5)

1-1-2 年齢（問2）

問2 あなたの年齢を教えてください。（1つだけに○）

“65歳以上”が50.0%

年齢については、「65～74歳」が25.3%で最も多く、次いで「75～84歳」が19.6%が続いています。これに「85歳以上」(5.1%)を加えると50.0%が“65歳以上”と回答しています。

図 年齢

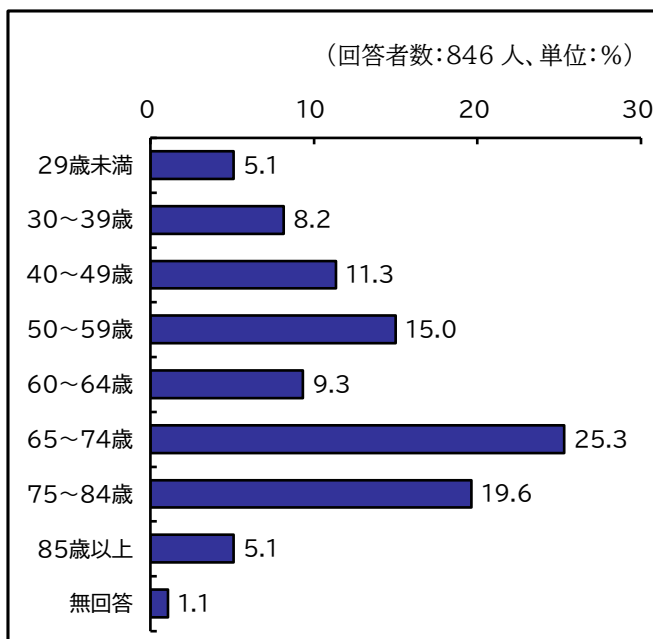


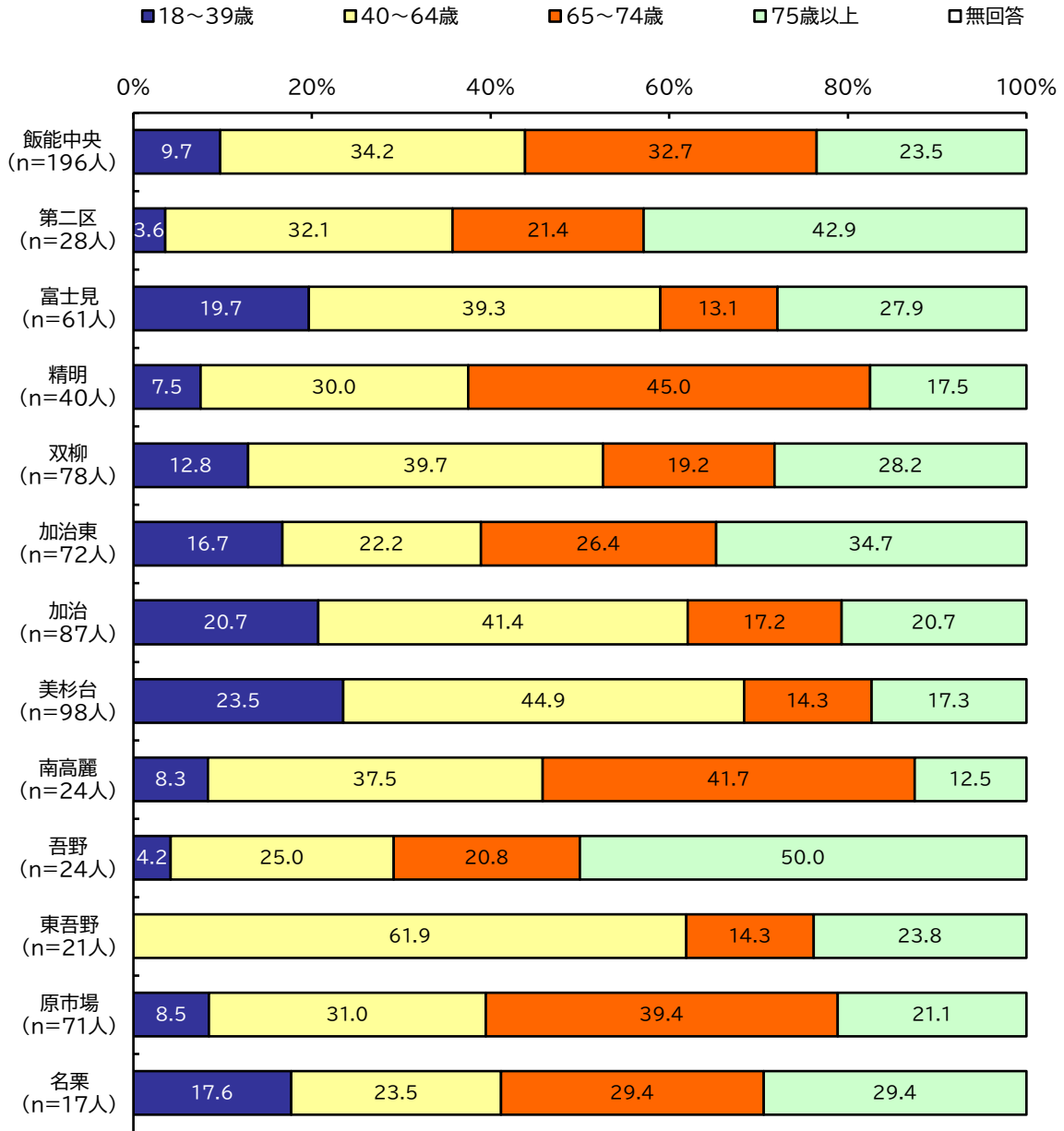
表 年齢

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
29歳未満	43 (5.1)
30～39歳	69 (8.2)
40～49歳	96 (11.3)
50～59歳	127 (15.0)
60～64歳	79 (9.3)
65～74歳	214 (25.3)
75～84歳	166 (19.6)
85歳以上	43 (5.1)
無回答	9 (1.1)

【圏域別】

これを圏域別にみると、吾野、第二区は「75歳以上」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた年齢



1-1-3 地域福祉圏域（問3）

問3 あなたのお住まいの地区を教えてください。（右欄の町名または字名1つだけに○）

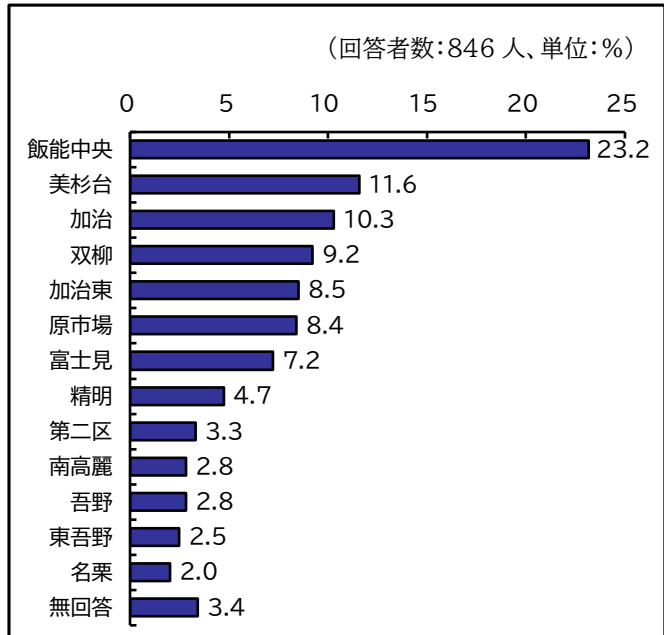
「飯能中央」が最も多い

地域福祉圏域については、「飯能中央」が23.2%で最も多く、次いで「美杉台」が11.6%、「加治」が10.3%が続いています。

表 地域福祉圏域

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
飯能中央	196 (23.2)
美杉台	98 (11.6)
加治	87 (10.3)
双柳	78 (9.2)
加治東	72 (8.5)
原市場	71 (8.4)
富士見	61 (7.2)
精明	40 (4.7)
第二区	28 (3.3)
南高麗	24 (2.8)
吾野	24 (2.8)
東吾野	21 (2.5)

図 地域福祉圏域



区分	人 (%)
名栗	17 (2.0)
無回答	29 (3.4)

1-1-4 居住年数（問4）

問4 飯能市に何年お住まいですか。生まれた時からお住まいの方（一時的に転出した方も含みます）は、年数に関わらず「1 生まれた時から」を選択してください。（1つだけに○）

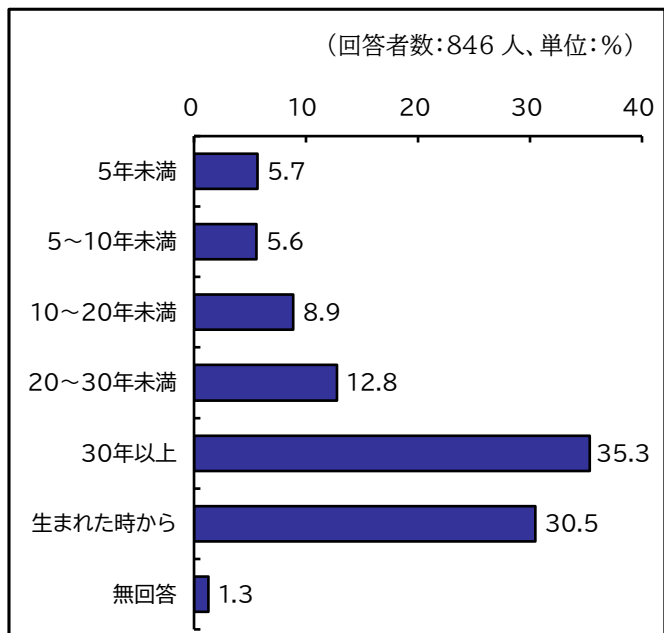
“生まれた時からまたは30年以上”が65.8%

居住年数については、「30年以上」が35.3%で最も多く、次いで「生まれた時から」が30.5%が続いています。これらを合わせると65.8%が“生まれた時からまたは30年以上”と回答しています。

表 居住年数

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
5年未満	48 (5.7)
5~10年未満	47 (5.6)
10~20年未満	75 (8.9)
20~30年未満	108 (12.8)
30年以上	299 (35.3)
生まれた時から	258 (30.5)
無回答	11 (1.3)

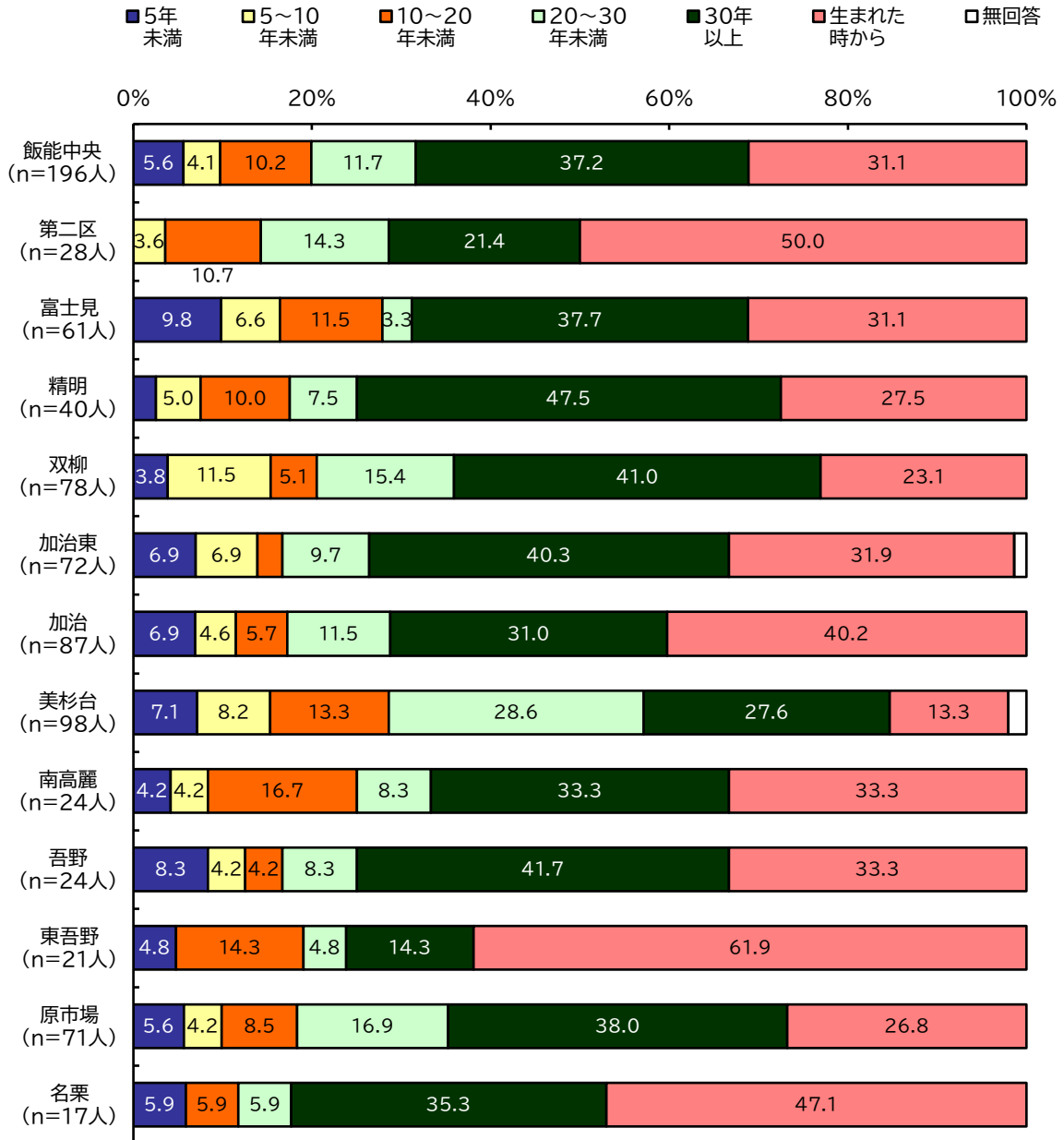
図 居住年数



【圏域別】

これを圏域別にみると、東吾野、第二区は「生まれた時から」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。一方、美杉台、富士見、南高麗は20年未満の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた居住年数



1-1-5 世帯形態 (問5)

問5 あなたの家族構成を教えてください。(1つだけに○)

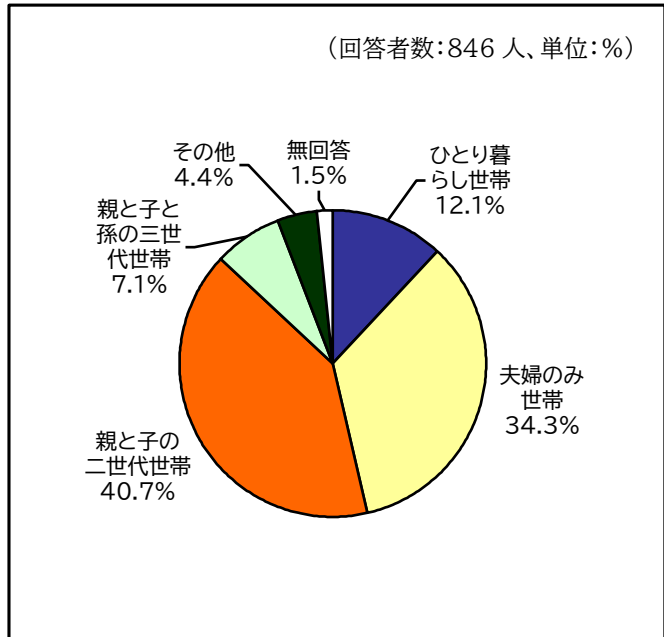
「親と子の二世帯世帯」が最も多い

世帯形態については、「ひとり暮らし世帯」が12.1%、「夫婦のみ世帯」が34.3%、「親と子の二世帯世帯」が40.7%、「親と子と孫の三世帯世帯」が7.1%となっています。

表 世帯形態

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
ひとり暮らし世帯	102 (12.1)
夫婦のみ世帯	290 (34.3)
親と子の二世帯世帯	344 (40.7)
親と子と孫の三世帯世帯	60 (7.1)
その他	37 (4.4)
無回答	13 (1.5)

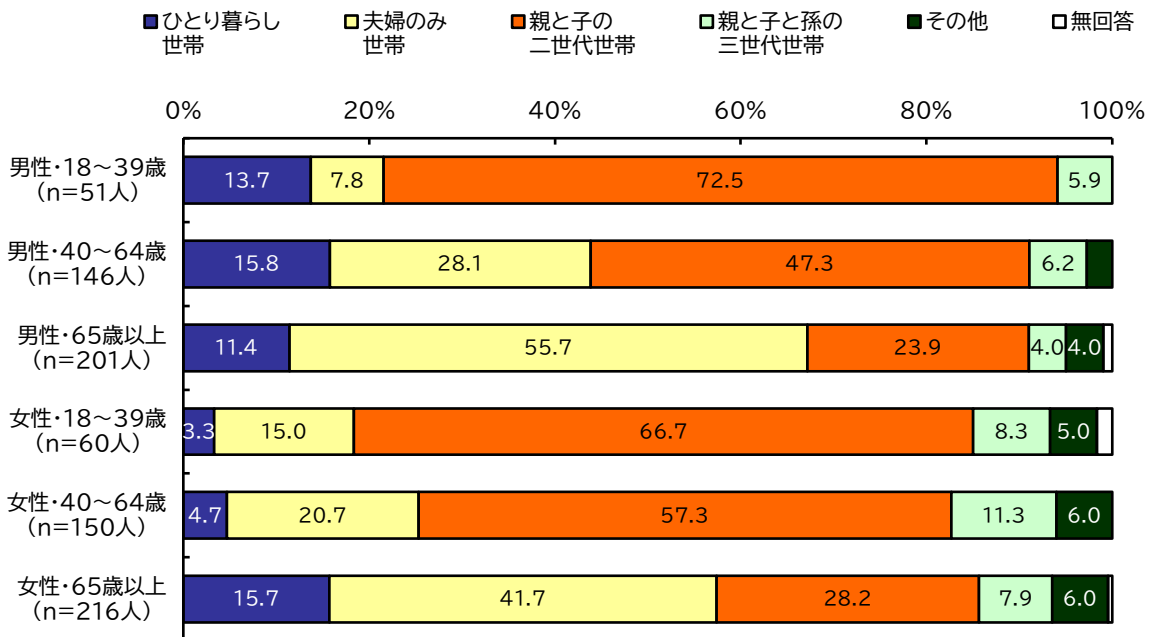
図 世帯形態



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに65歳以上は「夫婦のみ世帯」の割合が高くなっています。

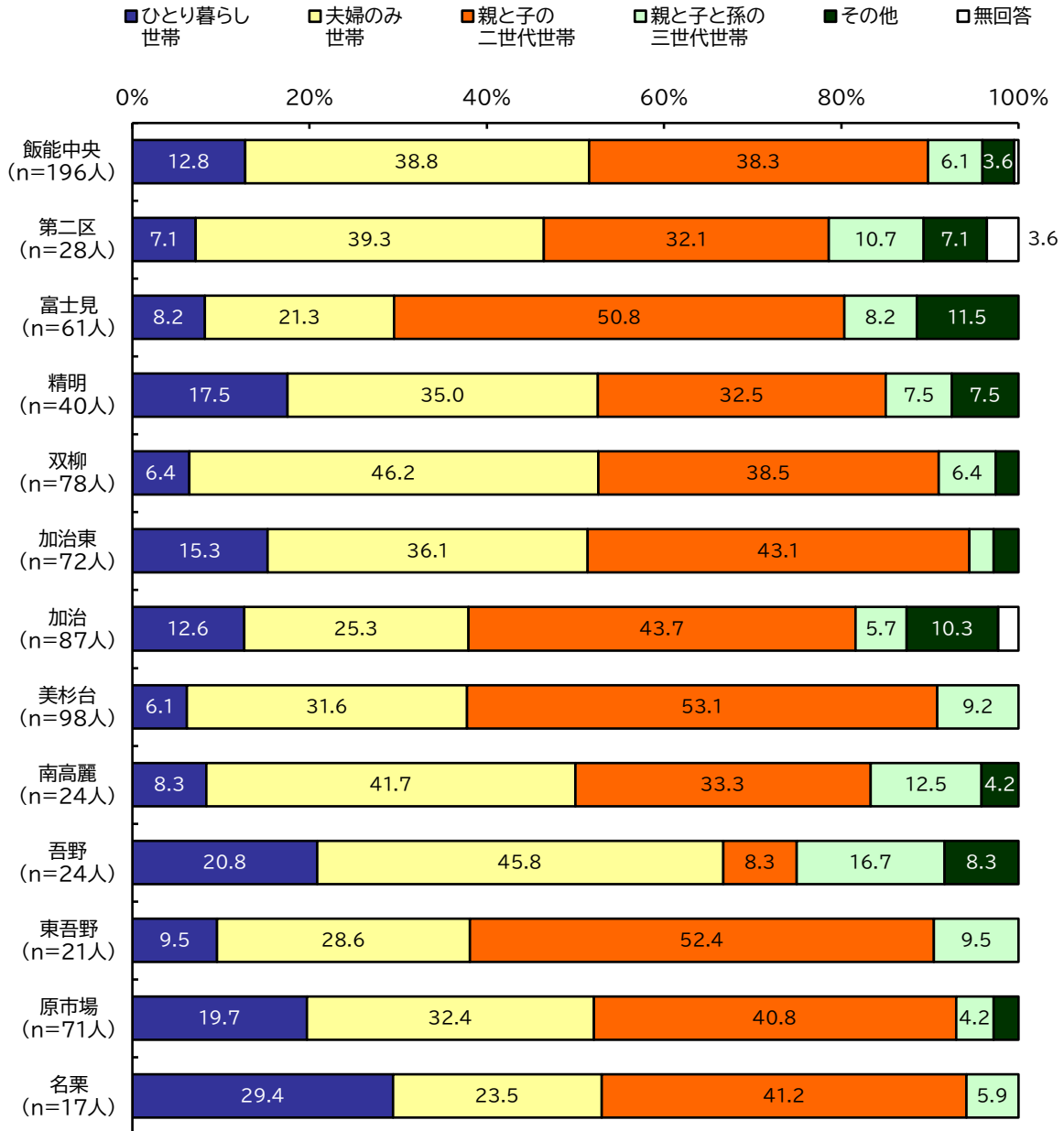
図 性・年齢別にみた世帯形態



【圏域別】

これを圏域別にみると、名栗は「ひとり暮らし世帯」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。また、双柳及び吾野は「夫婦のみ世帯」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた世帯形態



1-1-6 自治会加入の有無（問6）

問6 あなたの世帯は、自治会に加入していますか。（1つだけに○）

「はい」が83.2%

自治会加入の有無については、「はい」が83.3%、「いいえ」が11.6%となっています。

図 自治会加入の有無

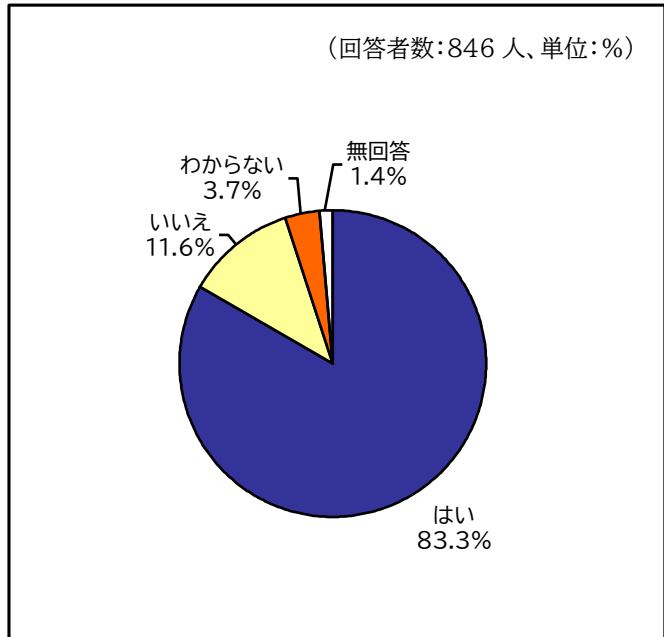


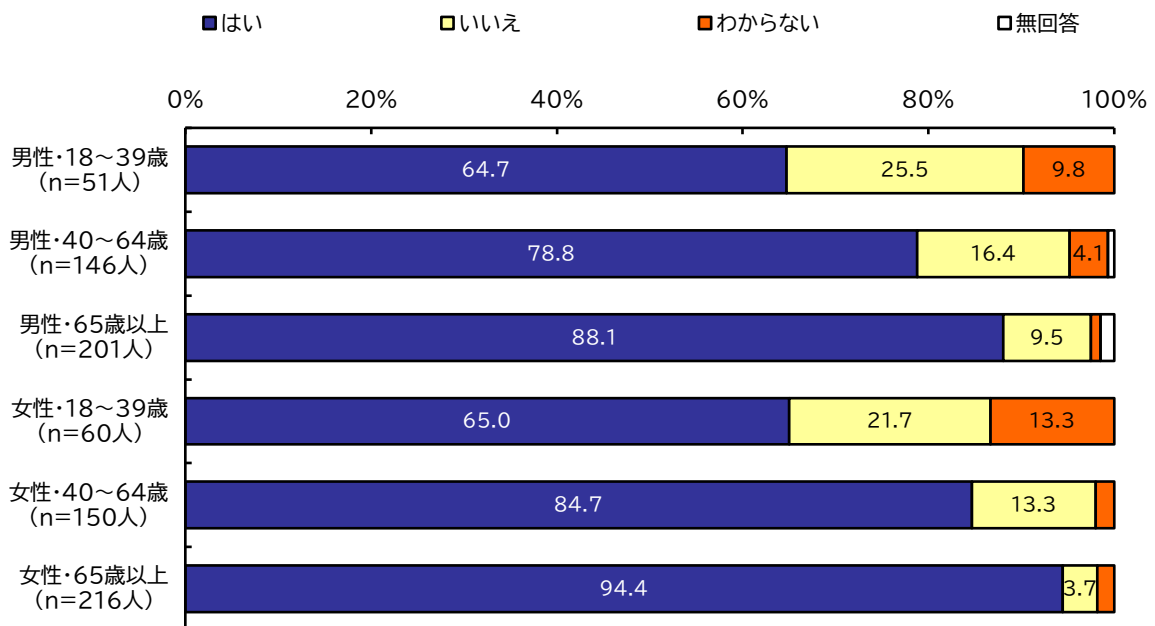
表 自治会加入の有無

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
はい	705 (83.3)
いいえ	98 (11.6)
わからない	31 (3.7)
無回答	12 (1.4)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに年齢層が高くなるほど「はい」の割合が高くなっています。

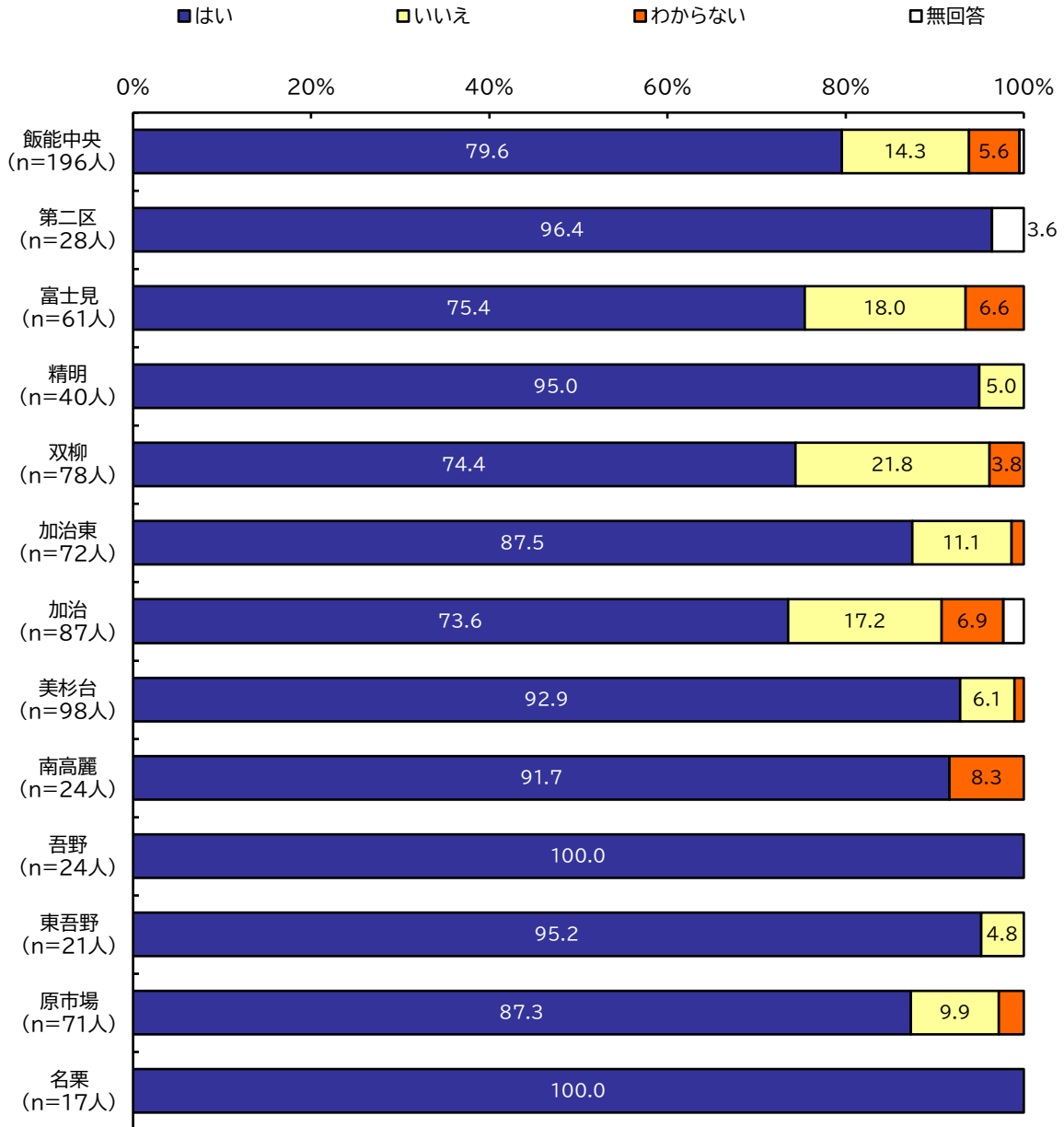
図 性・年齢別にみた自治会加入の有無



【圏域別】

これを圏域別にみると、飯能中央、富士見、双柳及び加治では「はい」の割合が他の圏域に比べて低くなっています。

図 圏域別に見た自治会加入の有無



第2節 住民同士の交流や支え合いについて

1-2-1 普段のあいさつの状況（問7）

問7 あなたは、ふだん、ご近所の方とのあいさつをどの程度していますか。（1つだけに○）

“している”が83.8%

普段のあいさつの状況については、「積極的にしている」が41.5%、「どちらかといえばしている」が42.3%であり、これらを合わせると83.8%が“している”と回答しています。

図 普段のあいさつの状況

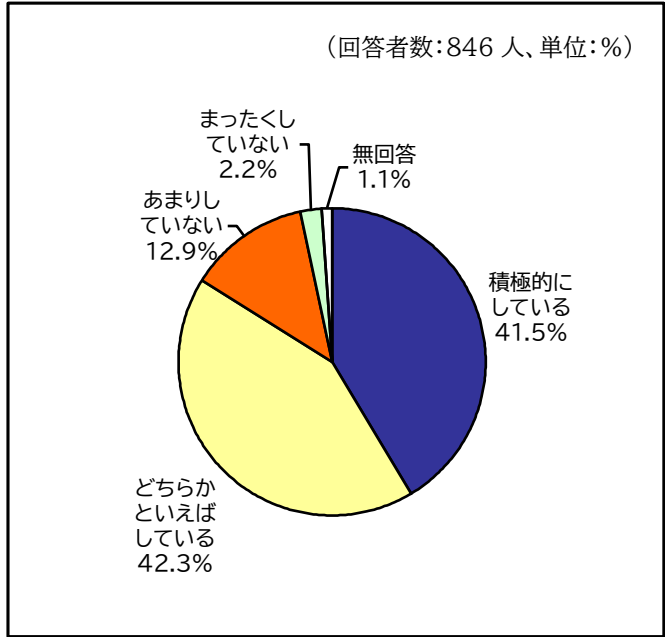


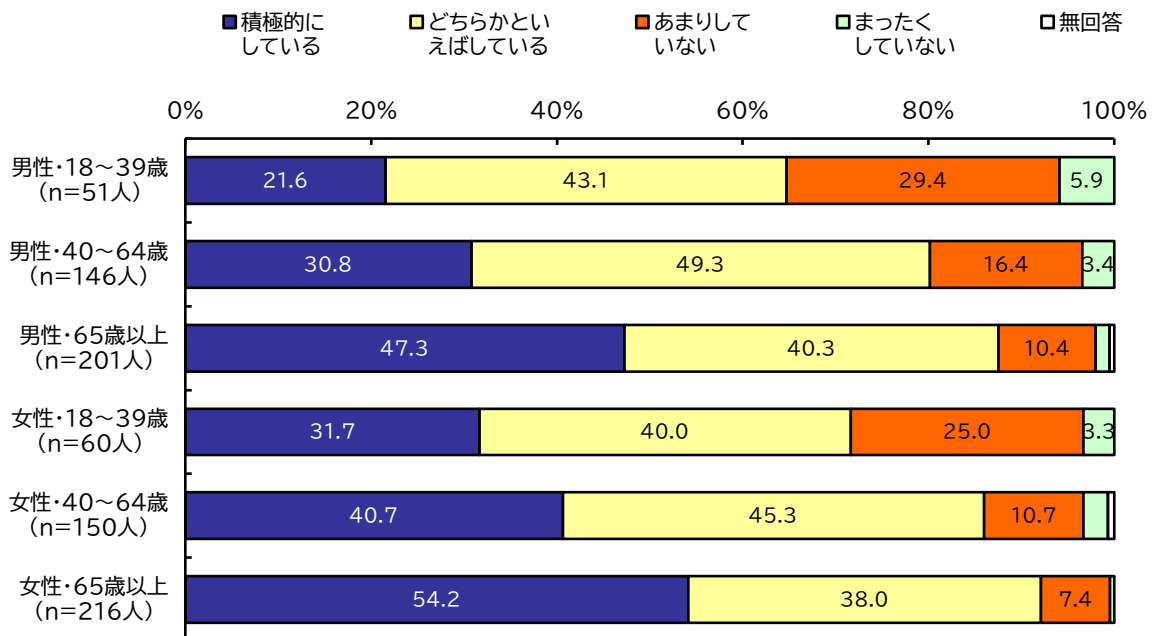
表 普段のあいさつの状況

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
積極的にしている	351 (41.5)
どちらかといえばしている	358 (42.3)
あまりしていない	109 (12.9)
まったくしていない	19 (2.2)
無回答	9 (1.1)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに年齢層が高くなるほど「積極的にしている」の割合が高くなっています。

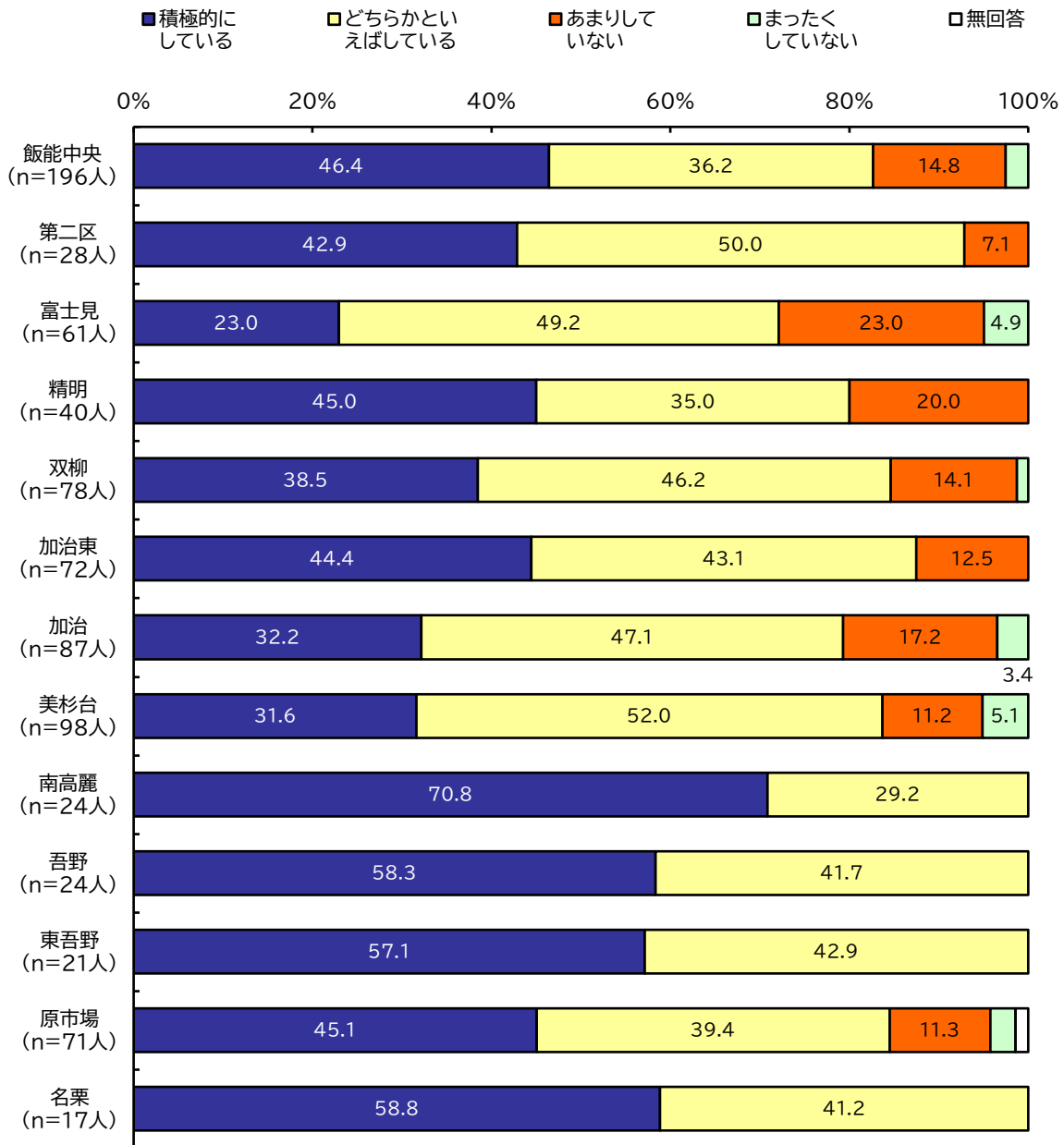
図 性・年齢別にみた普段のあいさつの状況



【圏域別】

これを圏域別にみると、「積極的にしている」の割合が南高麗及び名栗では高く、富士見では低くなっているなど、圏域による違いがみられます。

図 圏域別にみた普段のあいさつの状況



1-2-2 住民同士のつながりの状況（問8）

問8 あなたのご近所では、住民同士のつながりや交流はどの程度行われていますか。（1つだけに○）

“行われている”が51.3%

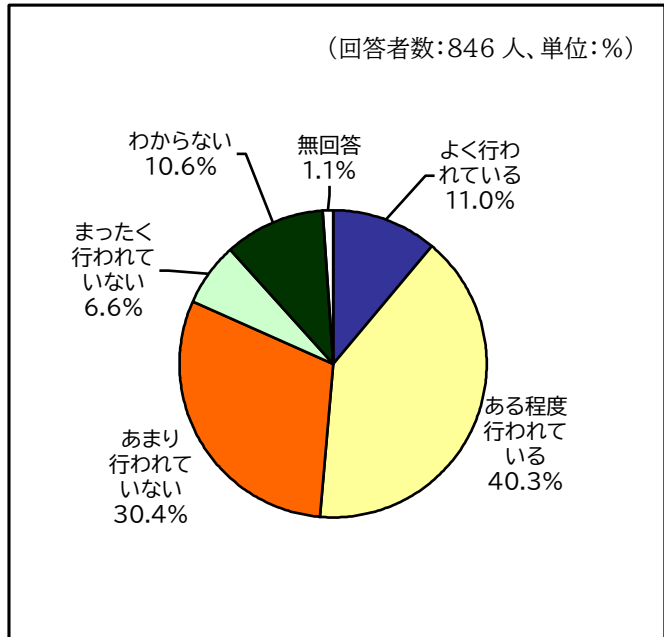
住民同士のつながりの状況については、「よく行われている」が11.0%、「ある程度行われている」が40.3%であり、これらを合わせると51.3%が“行われている”と回答しています。

一方、「あまり行われていない」が30.4%、「まったく行われていない」が6.6%であり、これらを合わせると37.0%が“行われていない”と回答しています。

表 住民同士のつながりの状況

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
よく行われている	93 (11.0)
ある程度行われている	341 (40.3)
あまり行われていない	257 (30.4)
まったく行われていない	56 (6.6)

図 住民同士のつながりの状況

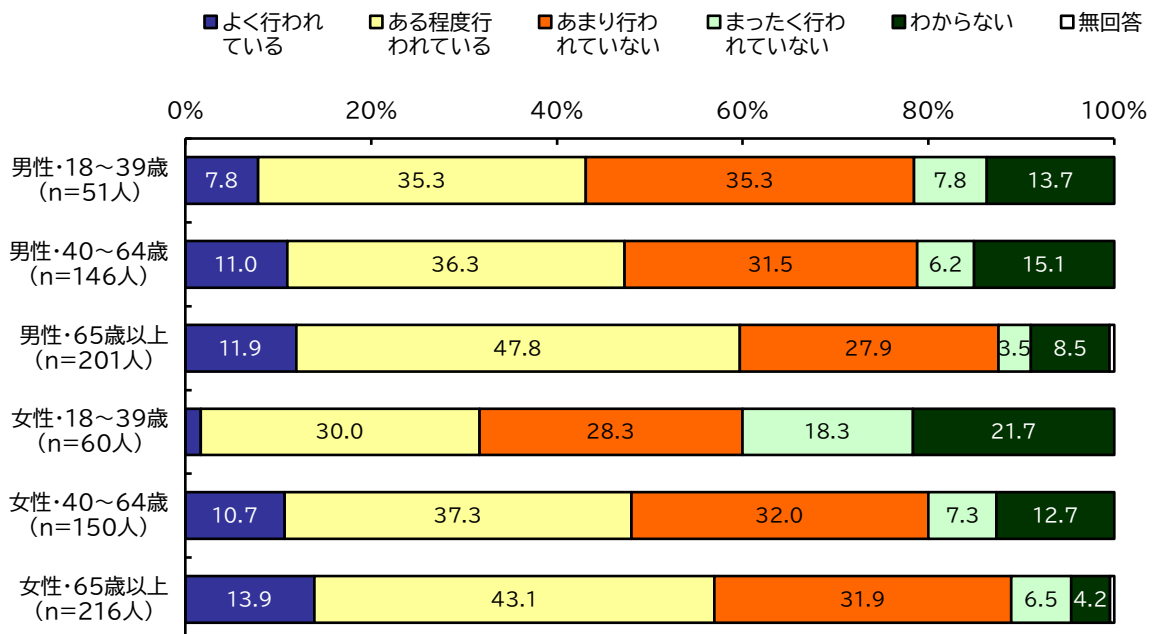


区分	人 (%)
わからない	90 (10.6)
無回答	9 (1.1)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに年齢層が高くなるほど“行われている”の割合が高くなっています。

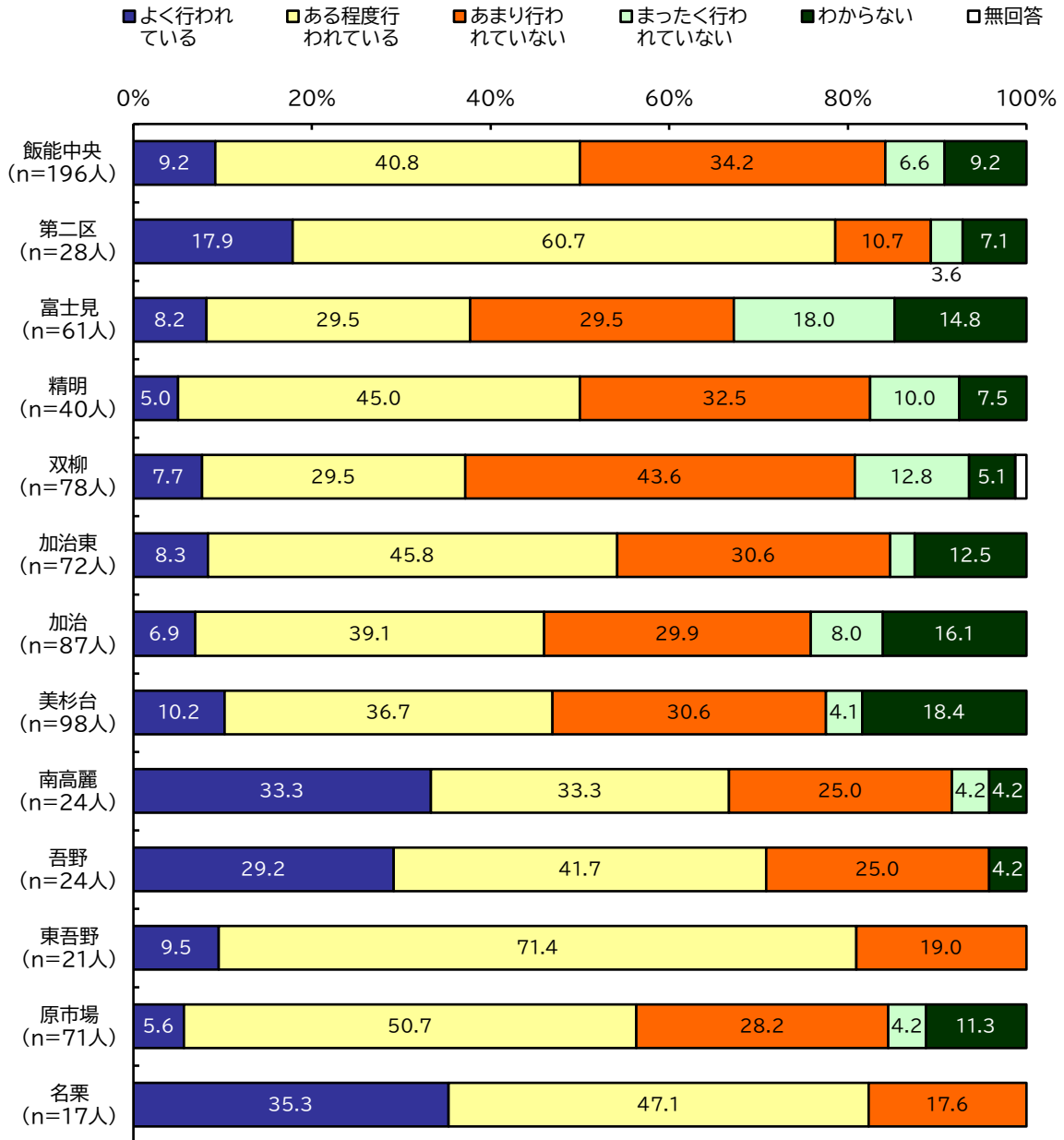
図 性・年齢別にみた住民同士のつながりの状況



【圏域別】

これを圏域別にみると、名栗、南高麗及び吾野では「よく行われている」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。また、“行われている”の割合は第二区、東吾野及び名栗で高くなっています。

図 圏域別にみた住民同士のつながりの状況



1-2-3 ボランティア活動への関心（問9（1））

問9 市内で行われているボランティア活動など、支え合いの取組についてうかがいます。
 (1) あなたは、こうした取組に関心がありますか。(1つだけに○)

“関心がある”が64.6%

ボランティア活動への関心については、「とても関心がある」が6.3%、「ある程度関心がある」が58.3%であり、これらを合わせると64.6%が“関心がある”と回答しています。

図 ボランティア活動への関心

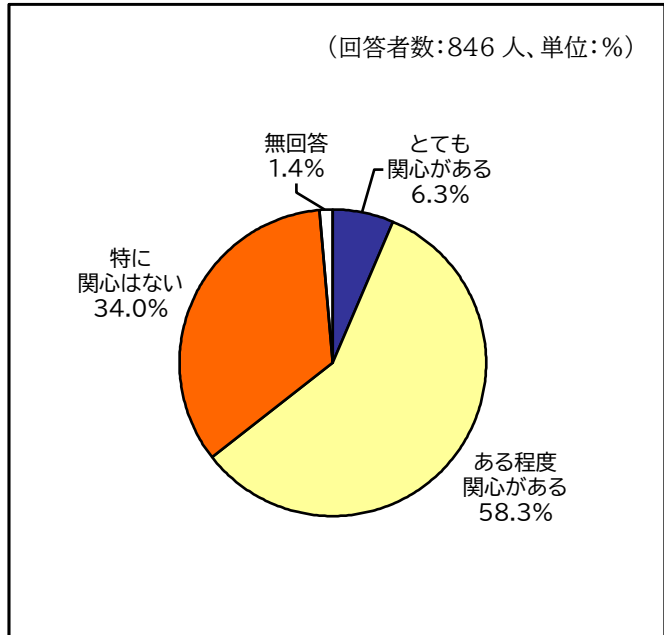


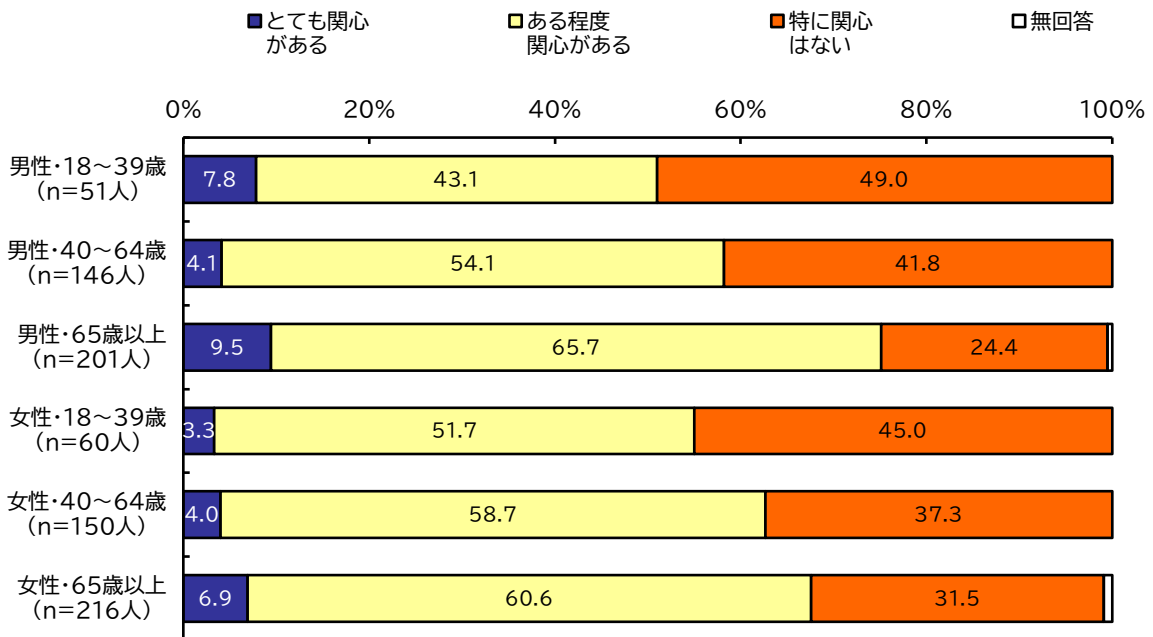
表 ボランティア活動への関心

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
とても関心がある	53 (6.3)
ある程度関心がある	493 (58.3)
特に関心はない	288 (34.0)
無回答	12 (1.4)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに年齢層が高くなるほど“関心がある”の割合が高くなっています。

図 性・年齢別にみたボランティア活動への関心

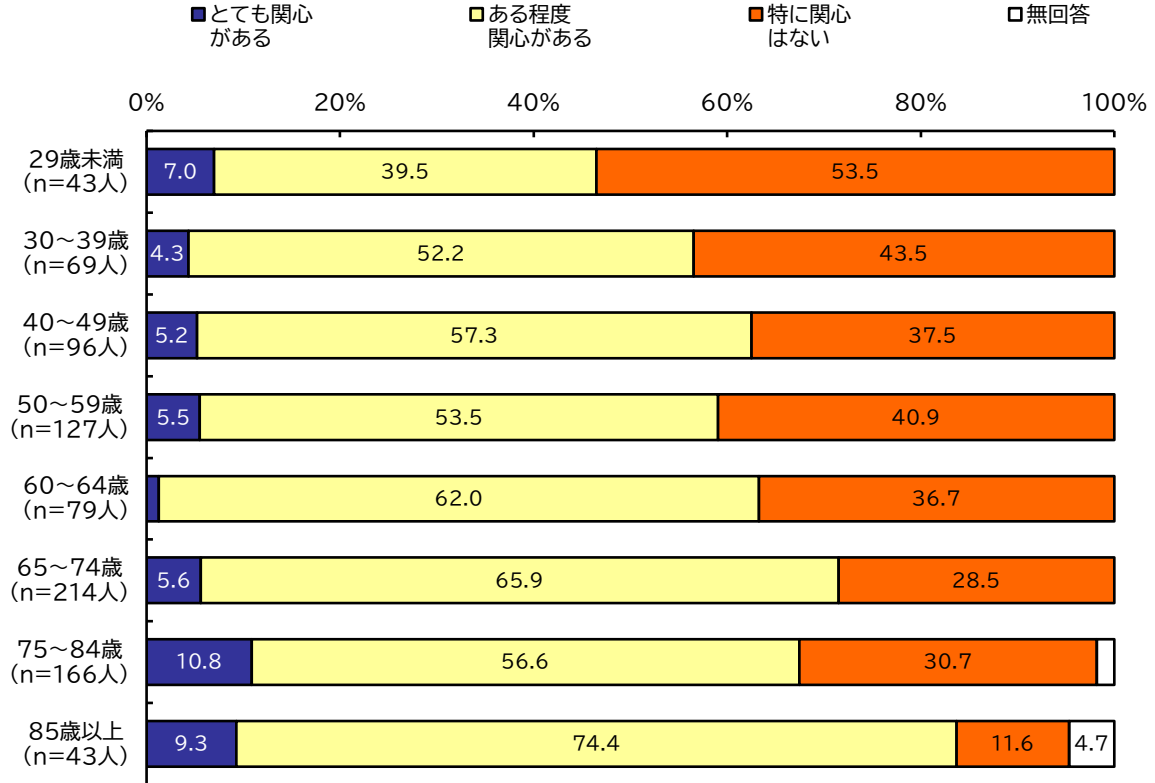


【年齢別】

これを年齢別にみると、30歳以上ではどの年齢層においても“関心がある”の割合が5割以上となっています。

また、85歳以上は“関心がある”の割合が他の回答者に比べて高くなっています。

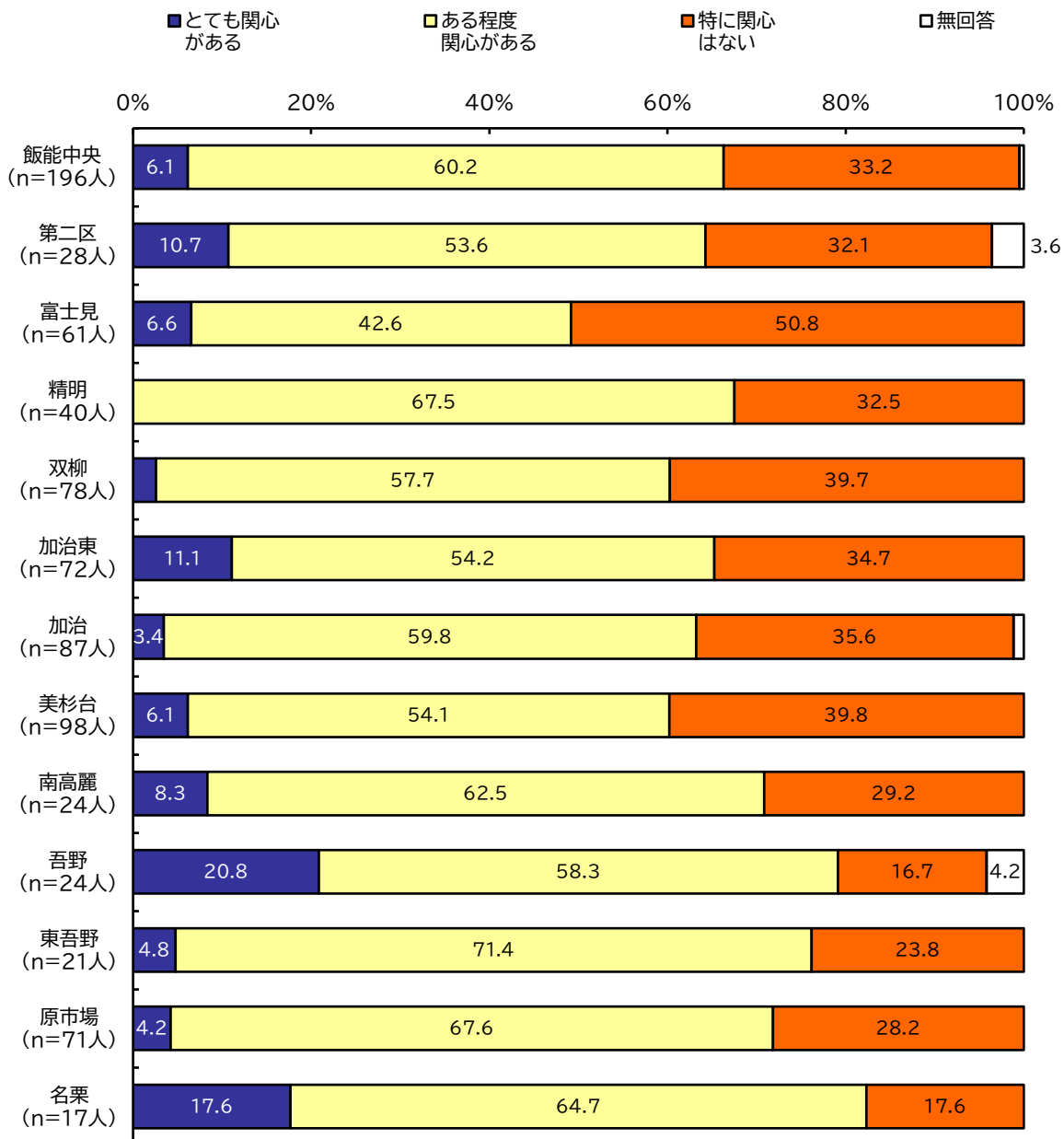
図 年齢別にみたボランティア活動への関心



【圏域別】

これを圏域別にみると、吾野は「とても関心がある」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。また、“関心がある”の割合は南高麗、吾野、東吾野、原市場及び名栗で比較的高くなっています。

図 圏域別にみたボランティア活動への関心



1-2-4 ボランティア活動の参加経験（問9（2））

(2) ここ5年間でこうした取組に参加したことがありますか。(1つだけに○)

“参加している・したことがある”が33.4%

ボランティア活動の参加経験については、「現在、参加している」が10.0%、「以前、参加したことがある」が23.4%で、これらを合わせると33.4%（283人）が“参加している・したことがある”と回答しています。

図 ボランティア活動の参加経験

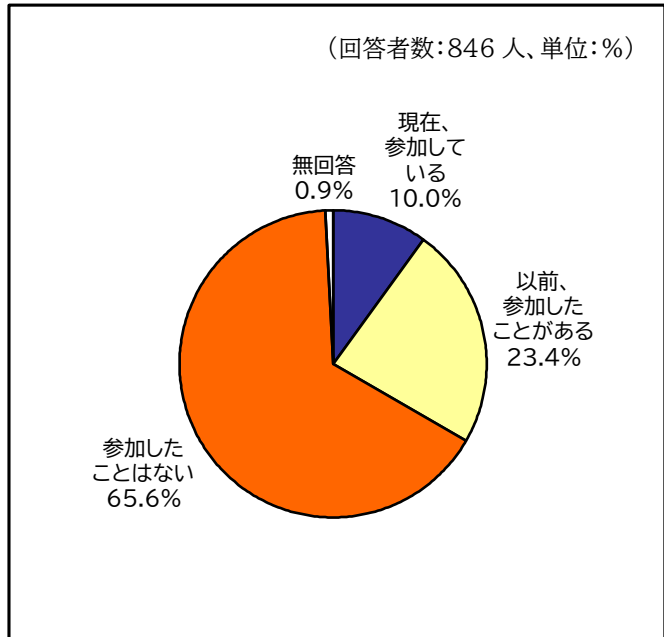


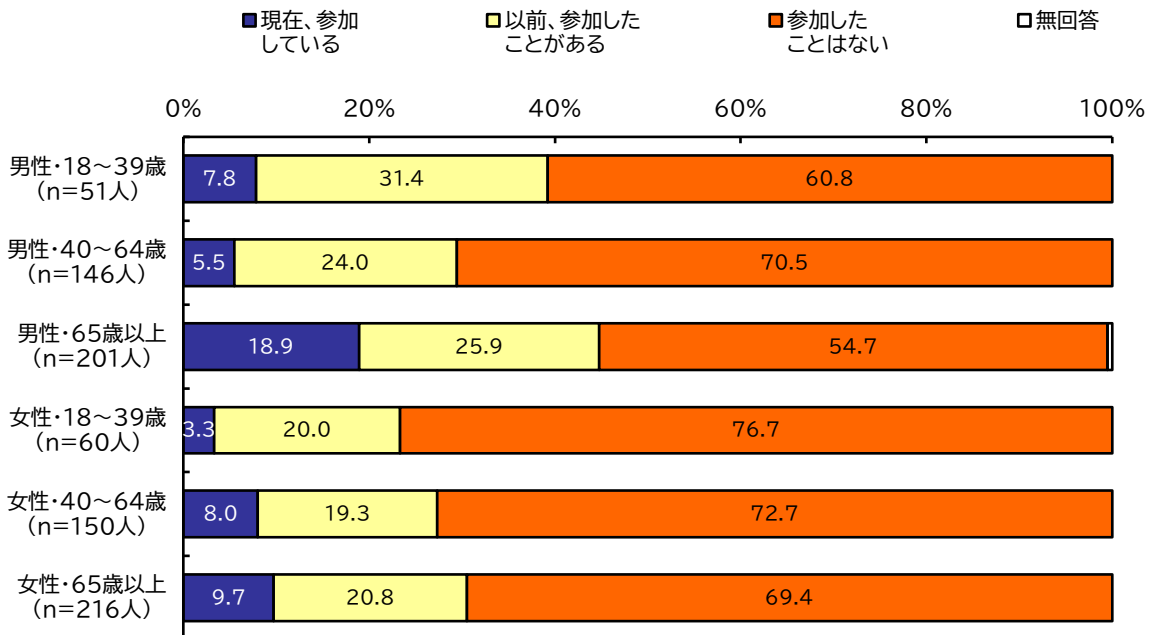
表 ボランティア活動の参加経験

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
現在、参加している	85 (10.0)
以前、参加したことがある	198 (23.4)
参加したことはない	555 (65.6)
無回答	8 (0.9)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の65歳以上は「現在、参加している」の割合が他の回答者に比べて高くなっています。また、どの年齢層においても、男性は女性に比べて“参加している・参加したことがある”の割合が高くなっています。

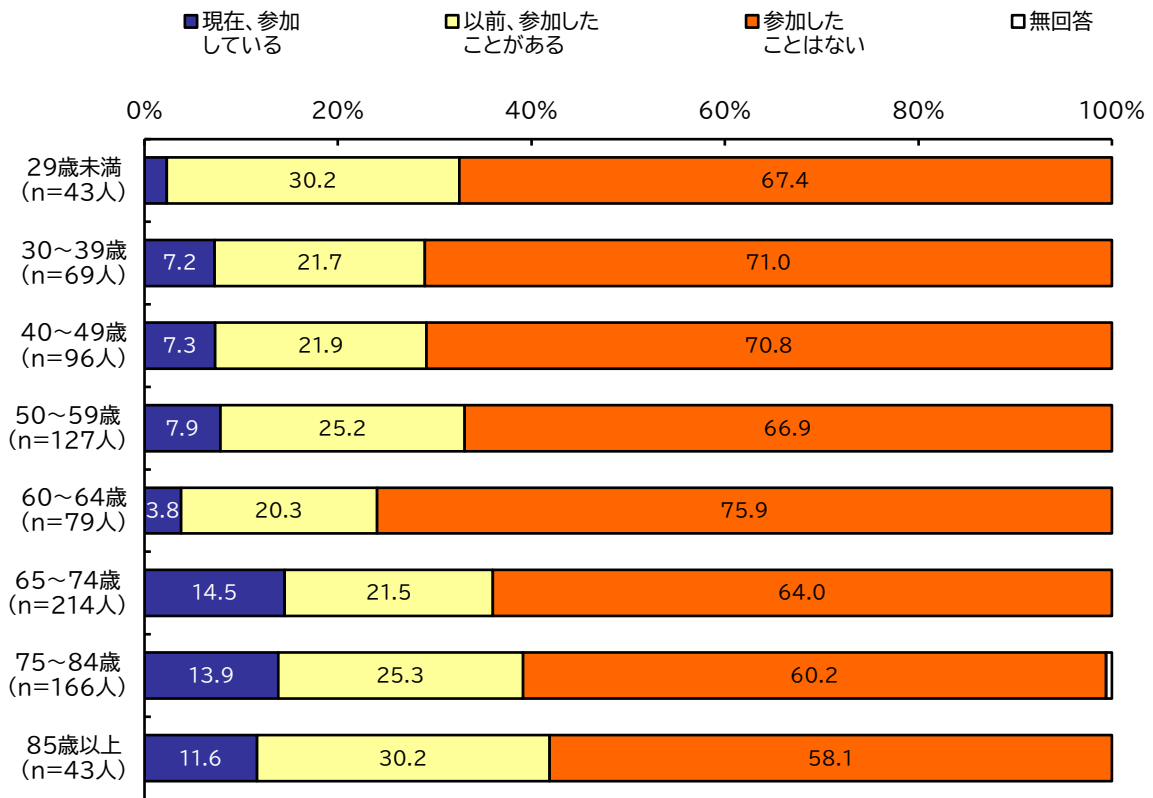
図 性・年齢別にみたボランティア活動の参加経験



【年齢別】

これを年齢別にみると、29歳未満及び60～64歳は“参加している”の割合が低くなっています。

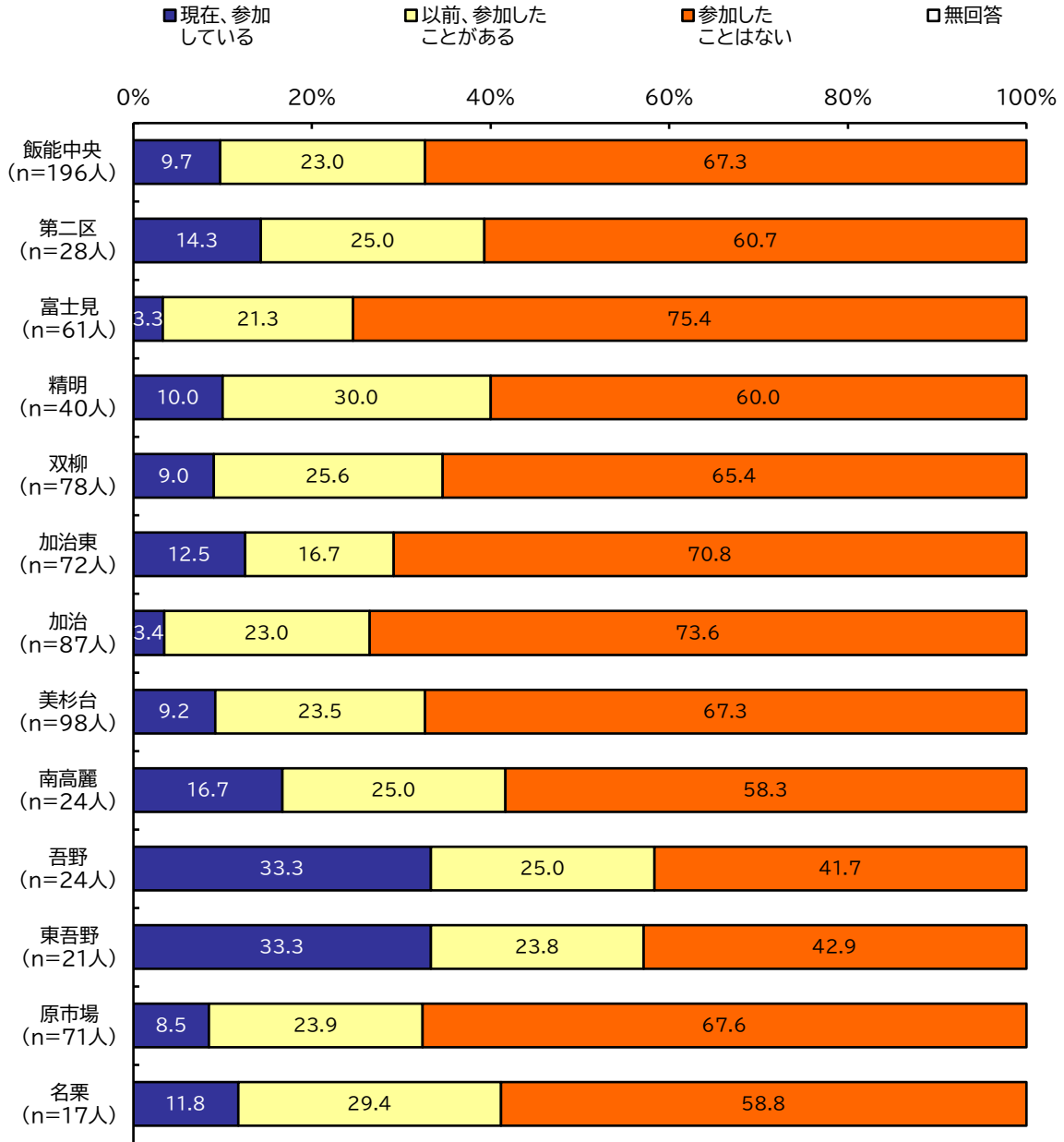
図 年齢別にみたボランティア活動の参加経験



【圏域別】

これを圏域別にみると、吾野及び東吾野は「現在、参加している」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみたボランティア活動の参加経験



〔参考〕 ボランティア活動に参加している・したことがある回答者の男女別動向

※問1、問3、問9(2)を基に作成

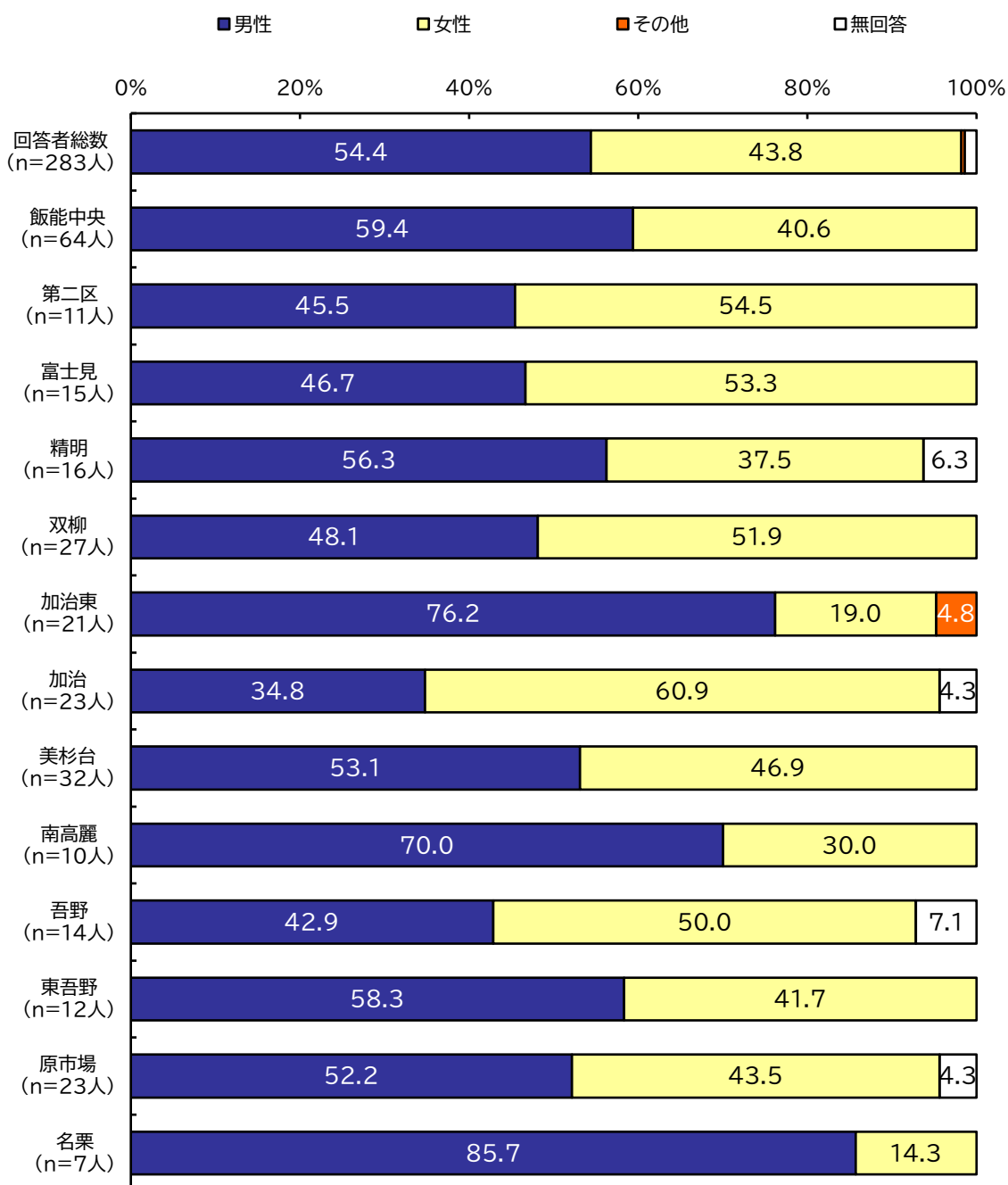
加治東、南高麗及び名栗では「男性」の割合が高く、加治では「女性」の割合が高い

ボランティア活動の参加経験(問9(2))において、「参加している・したことがある」と回答した283人について男女別動向を調べました。

その結果、回答者全体では「男性」が54.4%、「女性」が43.8%となっています。

また、これを圏域別にみると、加治東、南高麗及び名栗では「男性」の割合が高く、加治では「女性」の割合が高くなっています。

図 圏域別にみたボランティア活動に参加している・したことがある回答者の性別



1-2-5 ボランティア活動への参加意向（問9（3））

(3) 今後、参加したいと思いますか。(1つだけに○)

“参加したい”が65.4%

ボランティア活動への参加意向については、「ぜひ参加したい」が5.0%、「機会があれば参加したい」が60.4%であり、これらを合わせると65.4%が“参加したい”と回答しています。

図 ボランティア活動への参加意向

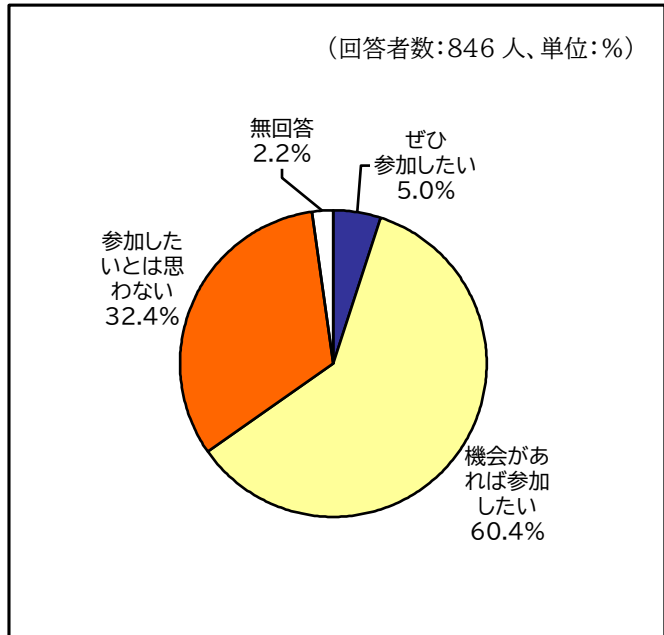


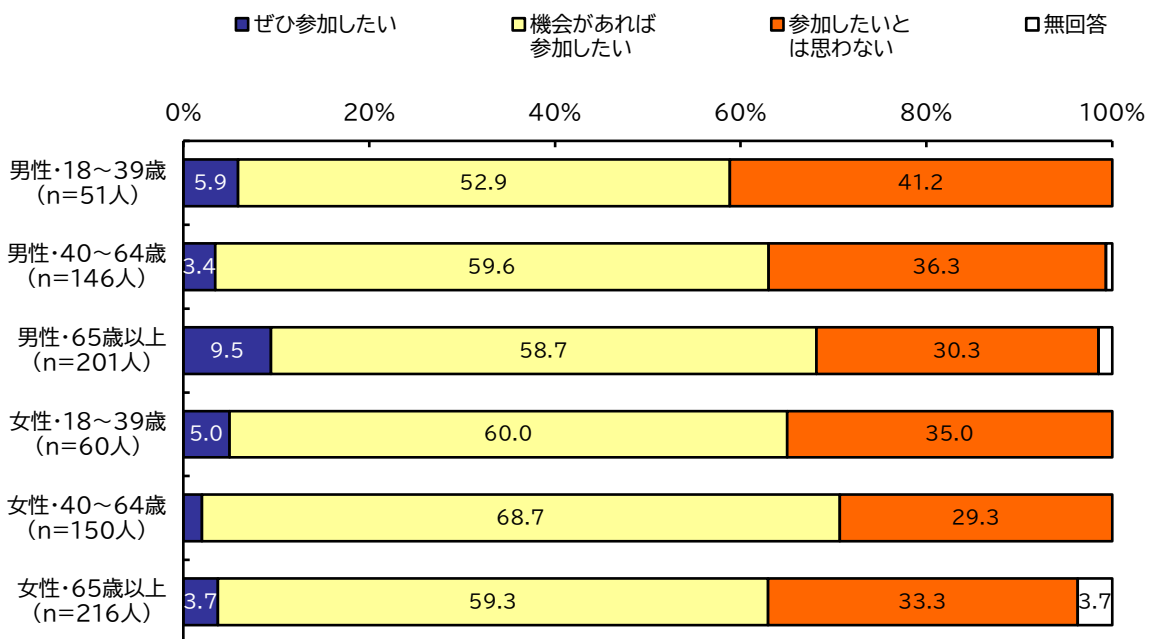
表 ボランティア活動への参加意向

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
ぜひ参加したい	42 (5.0)
機会があれば参加したい	511 (60.4)
参加したいとは思わない	274 (32.4)
無回答	19 (2.2)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の65歳以上で「ぜひ参加したい」の割合がやや高くなっています。

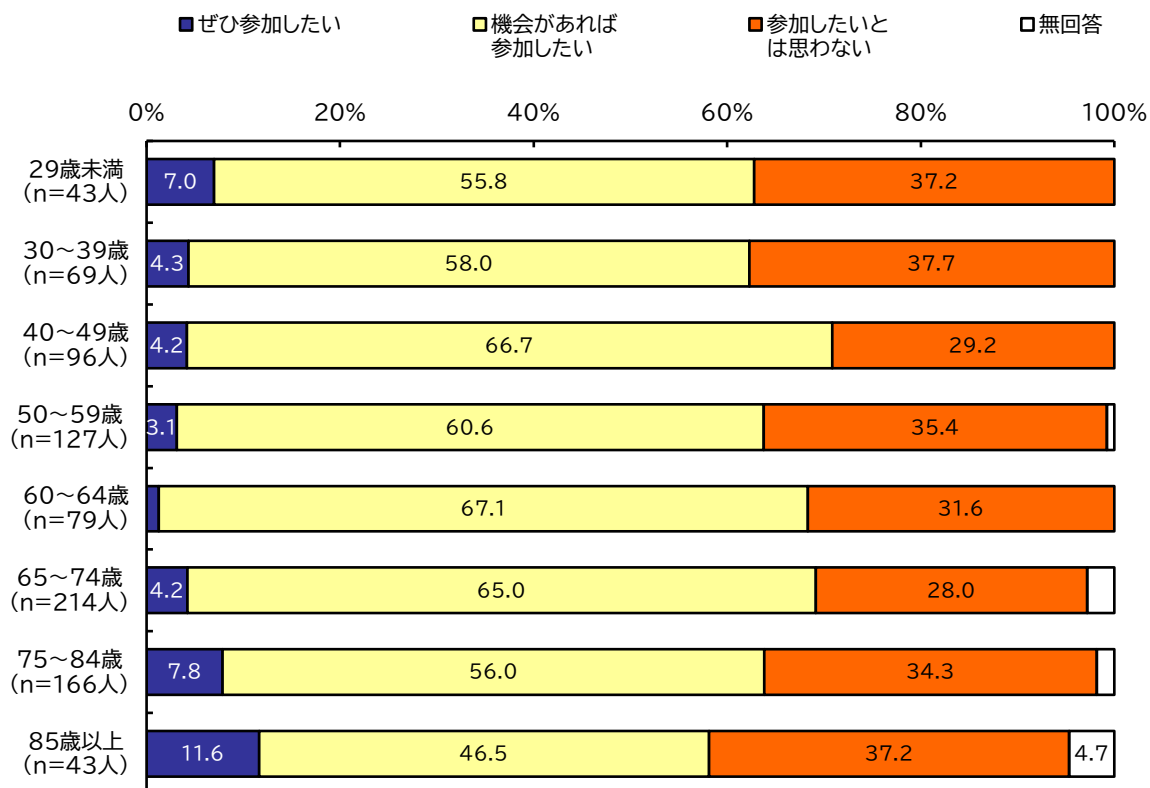
図 性・年齢別にみたボランティア活動への参加意向



【年齢別】

これを年齢別にみると、85歳以上は「ぜひ参加したい」の割合が他の年齢層に比べてやや高くなっています。

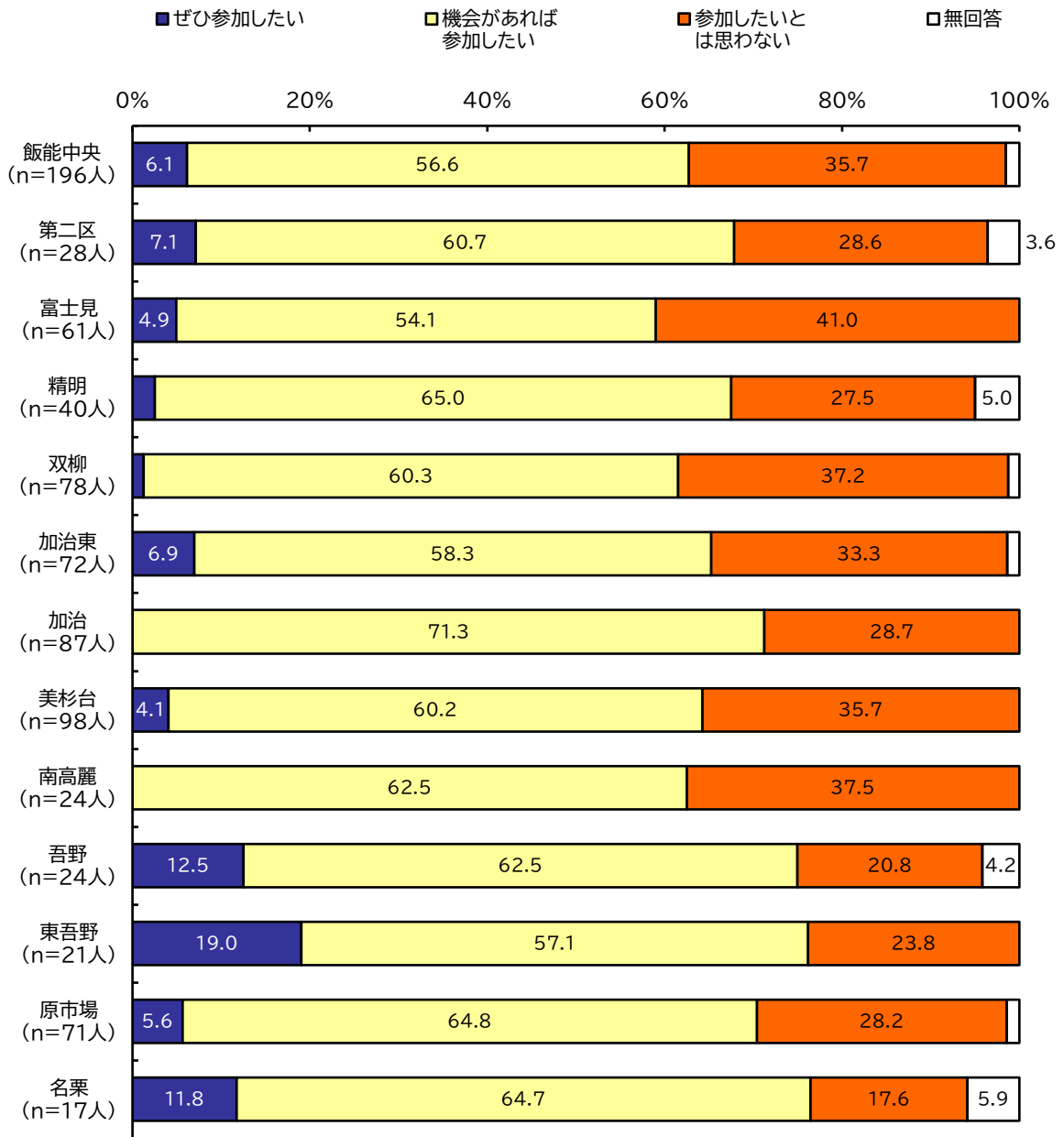
図 年齢別にみたボランティア活動への参加意向



【圏域別】

これを圏域別にみると、東吾野、吾野及び名栗は「ぜひ参加したい」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみたボランティア活動への参加意向



1-2-6 ボランティア活動促進の条件（問9（4））

（4）どのようなことがあれば、こうした取組への参加がもっと進むと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「自分に都合のつく時間に参加できる」が最も多い

ボランティア活動促進の条件については、「自分に都合のつく時間に参加できる」が56.3%で最も多く、次いで「自宅から近いところで参加できる」が44.1%、「一緒に参加する仲間がいる」が34.2%で続いています。

図 ボランティア活動促進の条件（複数回答）

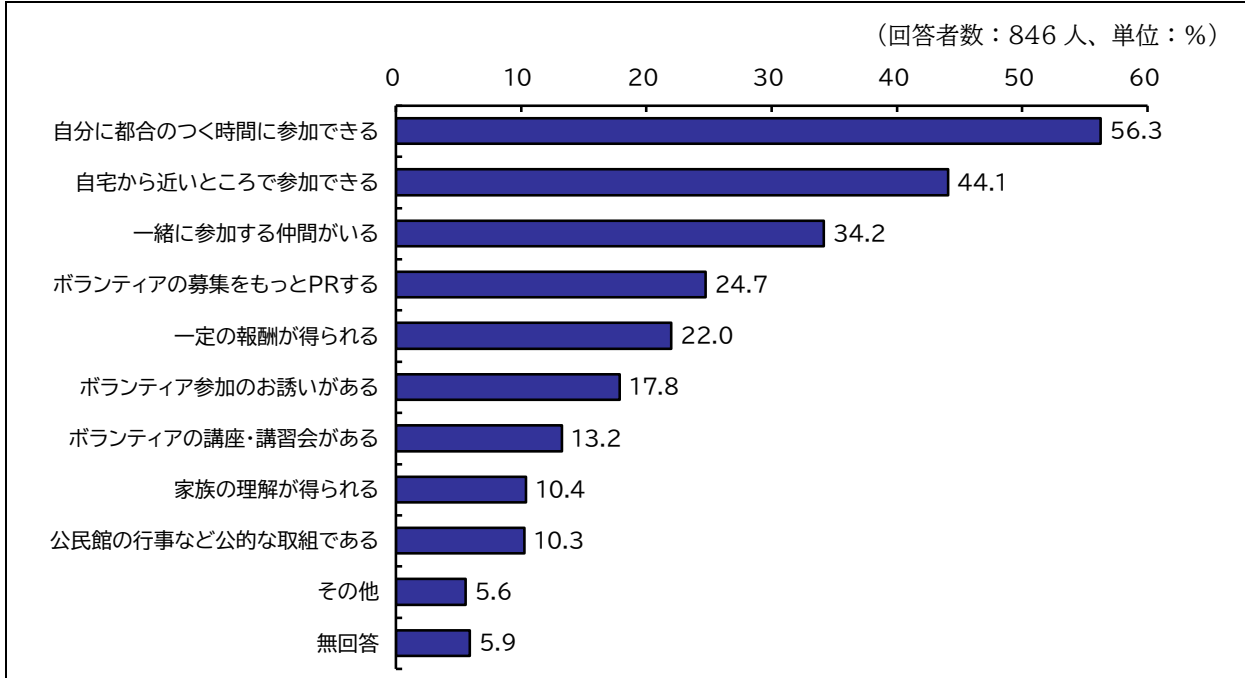


表 ボランティア活動促進の条件（複数回答）

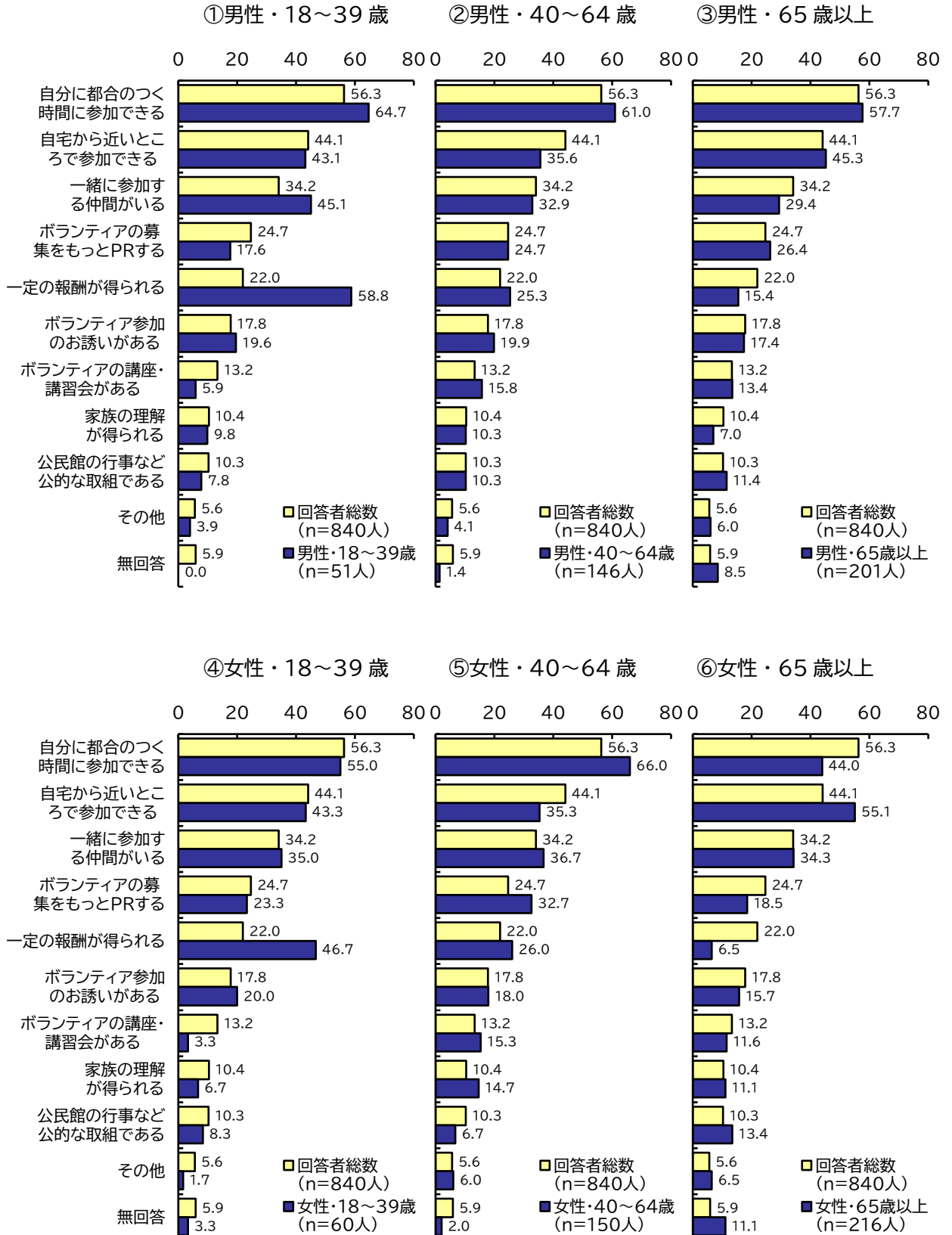
区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
自分に都合のつく時間に参加できる	476 (56.3)
自宅から近いところで参加できる	373 (44.1)
一緒に参加する仲間がいる	289 (34.2)
ボランティアの募集をもっとPRする	209 (24.7)
一定の報酬が得られる	186 (22.0)

区分	人 (%)
ボランティア参加のお誘いがある	151 (17.8)
ボランティアの講座・講習会がある	112 (13.2)
家族の理解が得られる	88 (10.4)
公民館の行事など公的な取組である	87 (10.3)
その他	47 (5.6)
無回答	50 (5.9)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに18～39歳は「一定の報酬が得られる」の割合が高くなっています。また、女性の65歳以上は「自宅から近いところで参加できる」の割合が高くなっています。

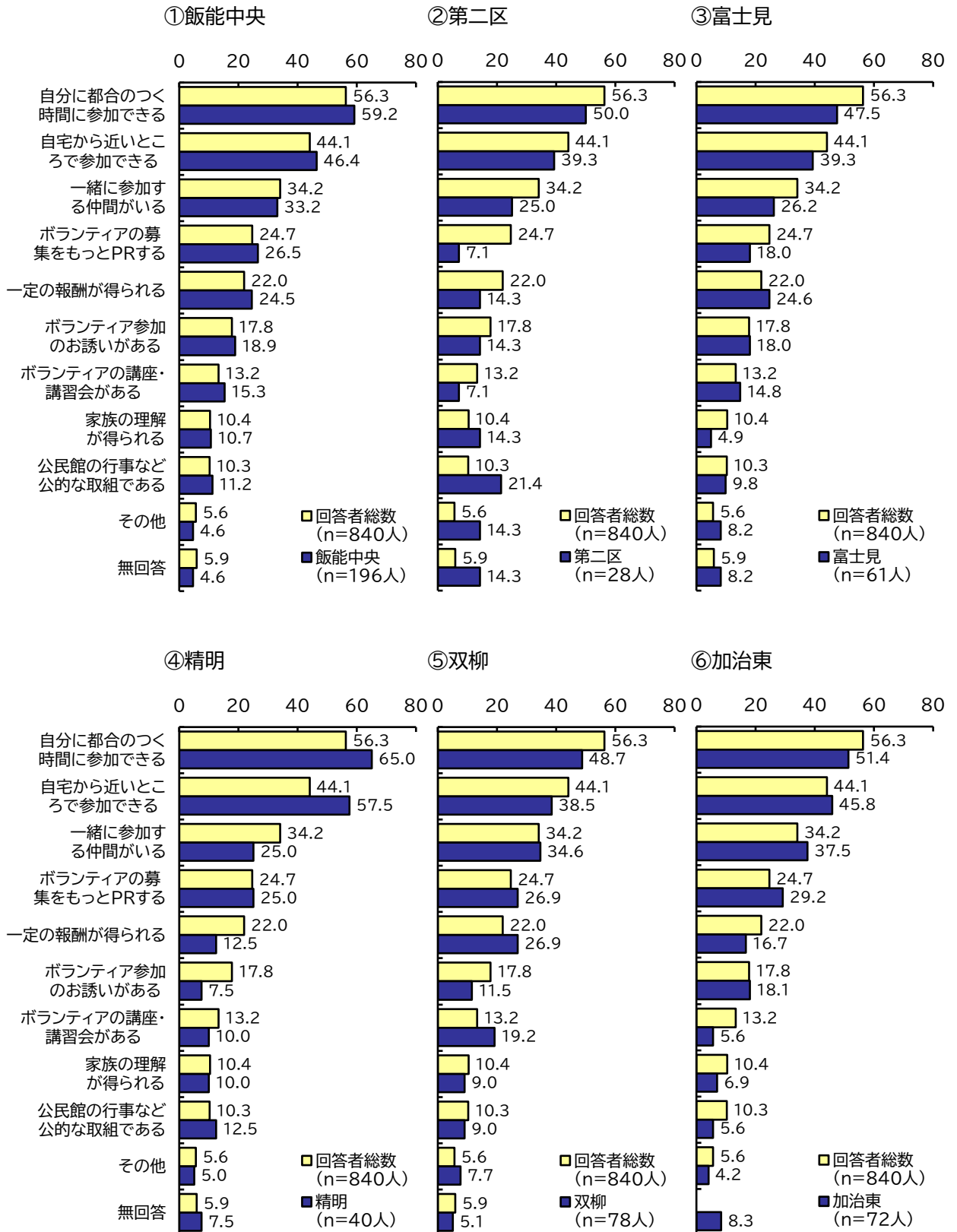
図 性・年齢別にみたボランティア活動促進の条件（複数回答）

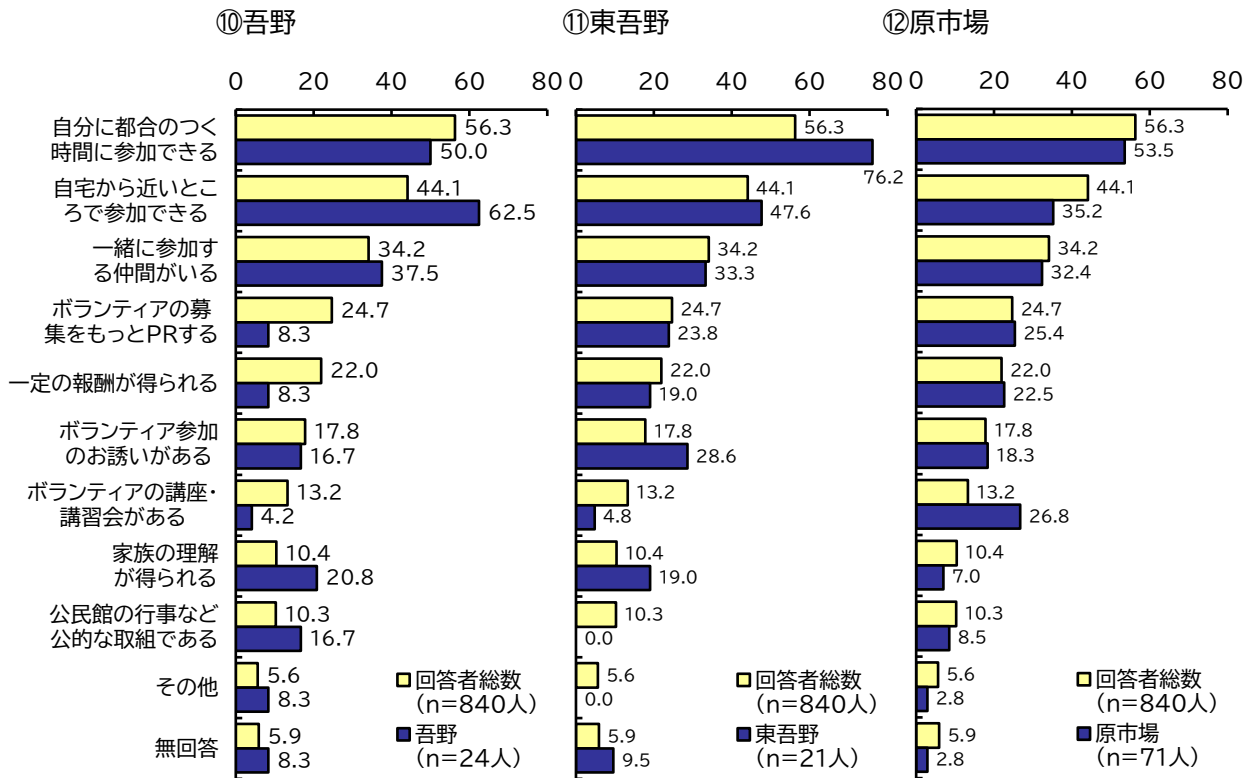
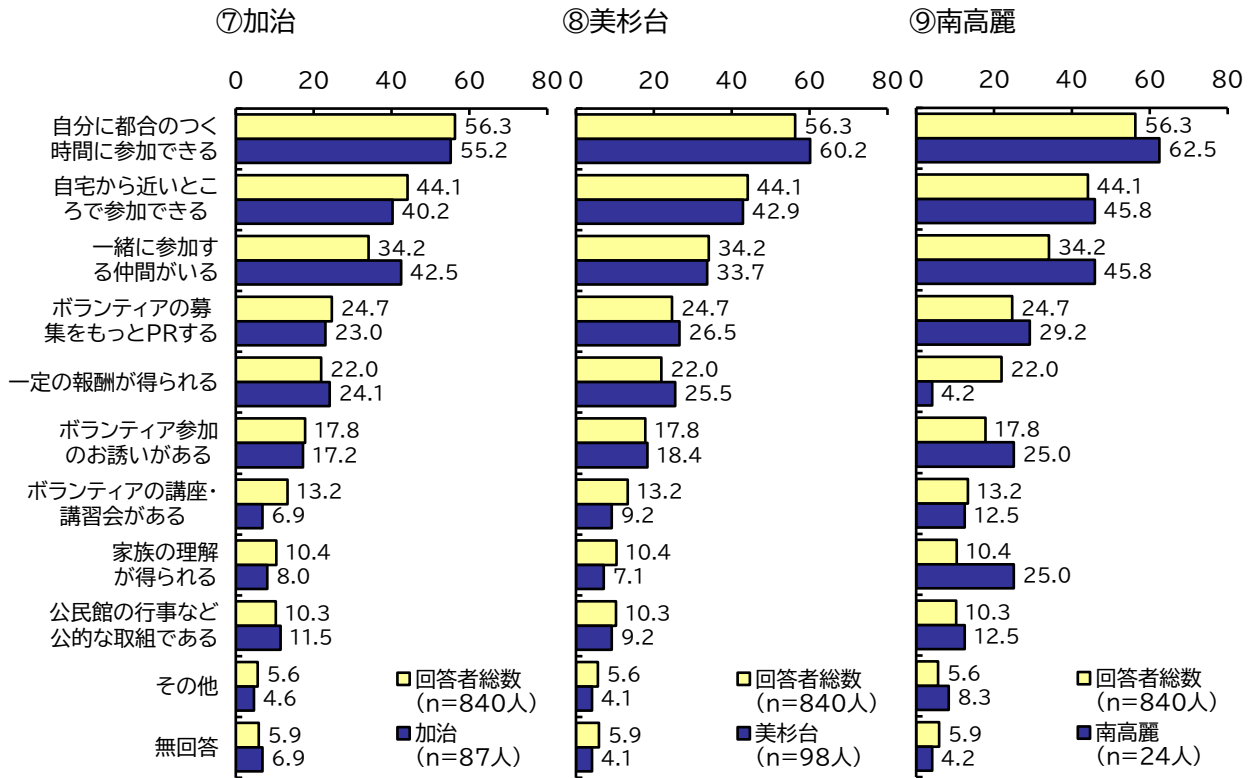


【圏域別】

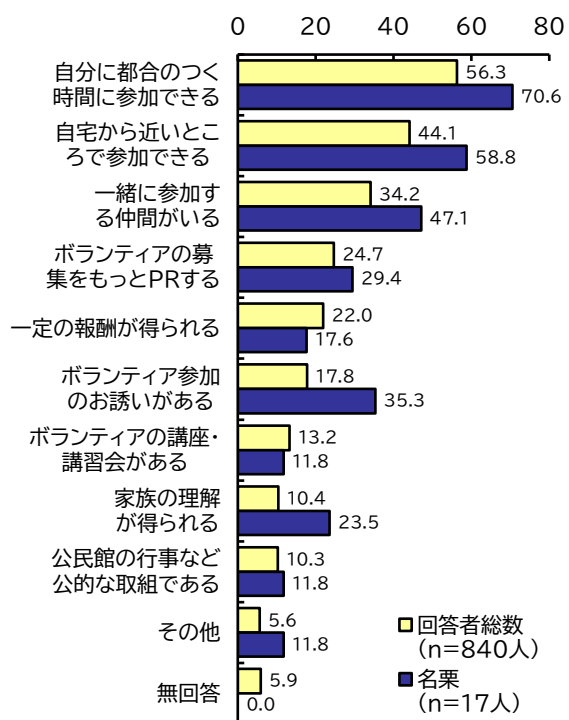
これを圏域別にみると、「自分に都合のつく時間に参加できる」の割合は精明、東吾野及び名栗で他の圏域に比べて高く、「自宅から近いところで参加できる」の割合は精明、吾野及び名栗で高くなっているなど、地区による違いがみられます。

図 圏域別にみたボランティア活動促進の条件（複数回答）





⑬名栗



第3節 「地域の居場所」について

1-3-1 「地域の居場所」の認知度（問10）

問10 「地域の居場所」とは、地域において、他人と関わりながら安心して過ごすことのできる場所のことです。市内では、多様な居場所づくりが進められており、コロナ禍においても「ふれあいいいきサロン・地域の茶の間」、「地域子育て支援拠点」、「ひだまりカフェ（認知症カフェ）」などが運営されています。あなたは、市内で実施されている「地域の居場所」をご存じですか。（1つだけに○）

“知っている”が49.8%

「地域の居場所」の認知度については、「名前も内容も知っている」が13.7%、「内容は知らないが、名前程度は知っている」が36.1%であり、これらを合わせると49.8%が“知っている”と回答しています。

図 「地域の居場所」の認知度

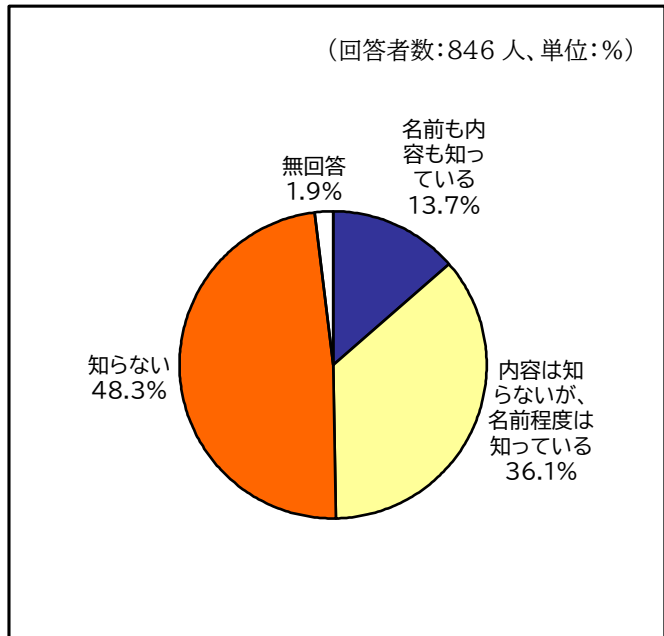


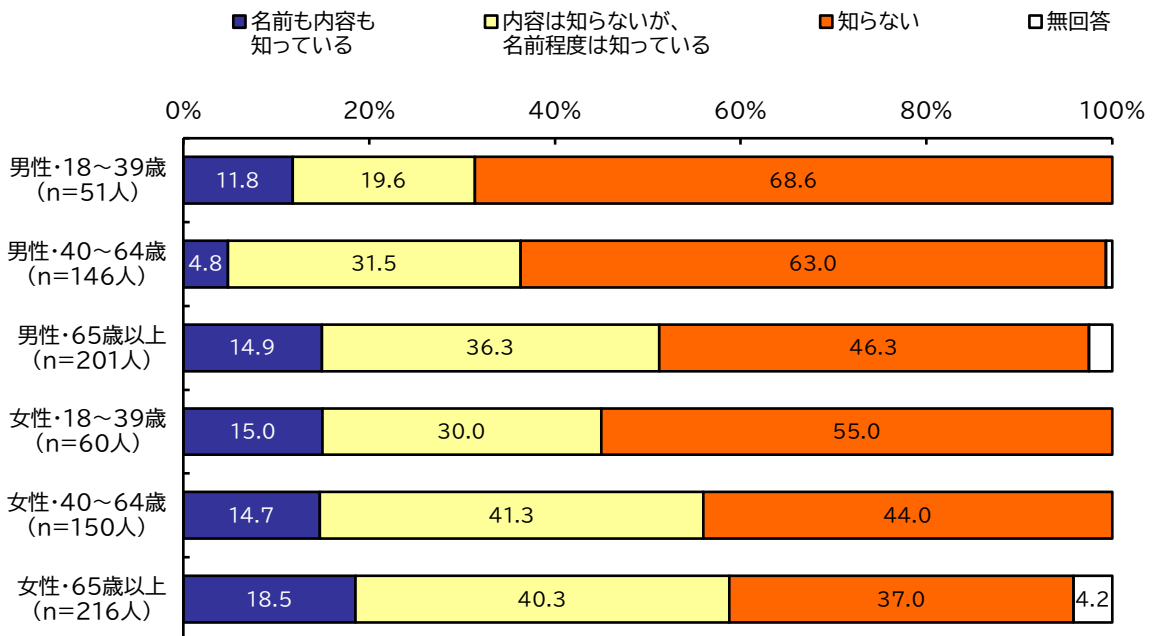
表 「地域の居場所」の認知度

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
名前も内容も知っている	116 (13.7)
内容は知らないが、名前程度は知っている	305 (36.1)
知らない	409 (48.3)
無回答	16 (1.9)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の40～64歳は「名前も内容も知っている」の割合が他の回答者に比べて低くなっています。また、女性は年齢による違いはみられません。

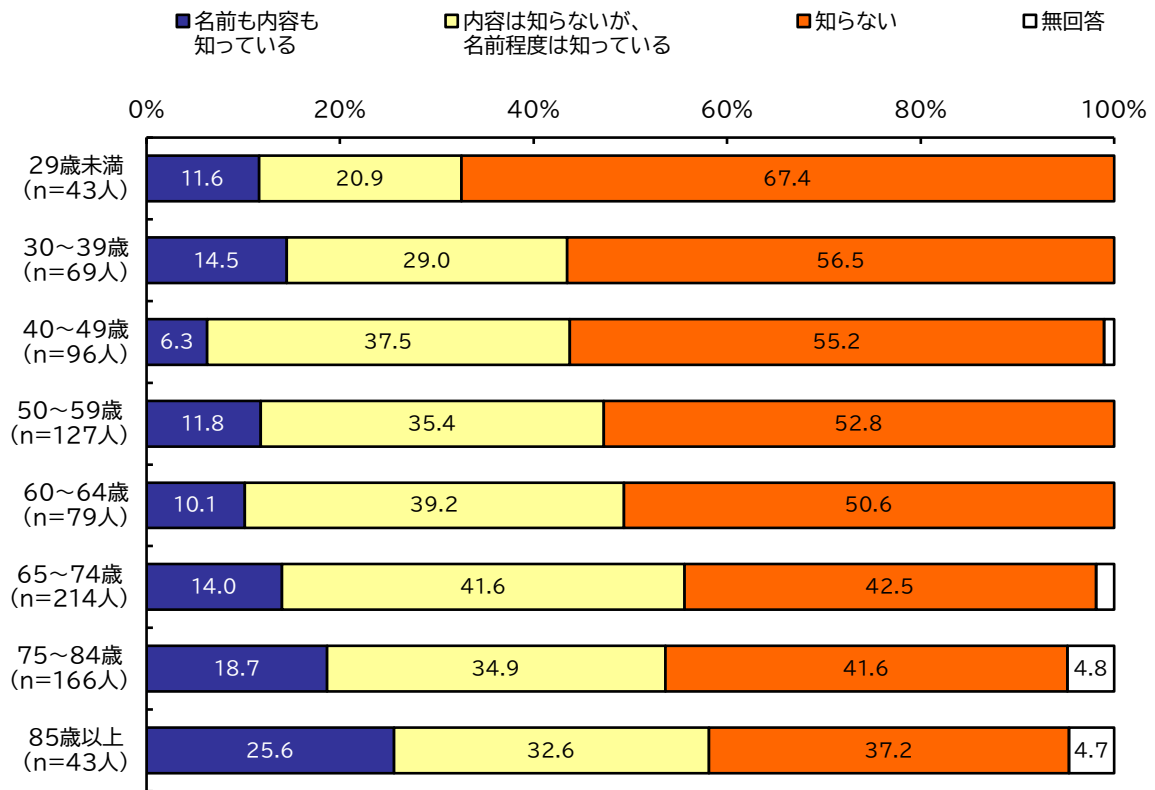
図 性・年齢別にみた「地域の居場所」の認知度



【年齢別】

これを年齢別にみると、75歳以上は「名前も内容も知っている」の割合が高くなっています。

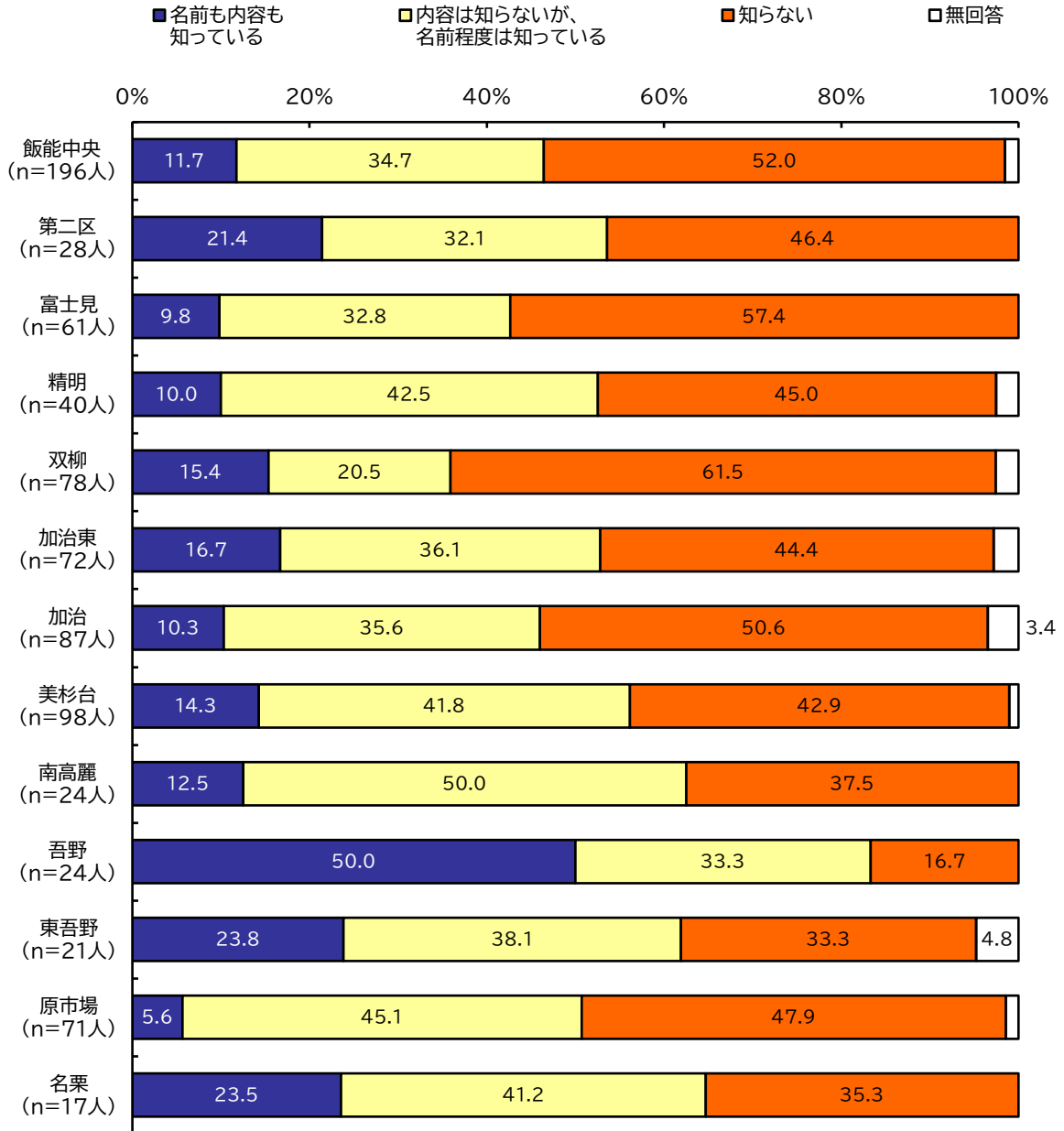
図 年齢別にみた「地域の居場所」の認知度



【圏域別】

これを圏域別にみると、吾野は「名前も内容も知っている」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた「地域の居場所」の認知度



1-3-2 「地域の居場所」の利用状況・必要性（問11）

問11 問10のような、身近な地域において他人と関わりながら安心して過ごせる居場所について、あなたご自身や家族は、現在、必要性を感じていますか。（1つだけに○）

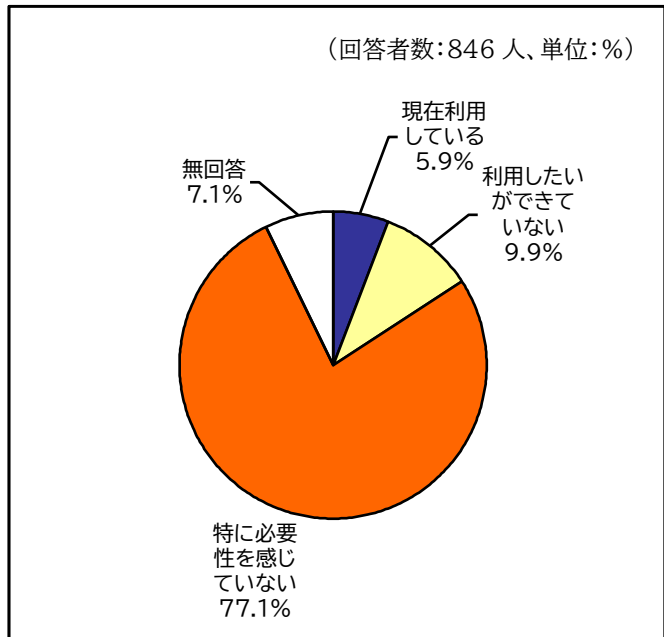
**“利用している・利用したい”が
15.8%**

「地域の居場所」の利用状況・必要性については、「現在利用している」が5.9%（50人）、「利用したいができていない」が9.9%（84人）であり、これらを合わせると15.8%が“利用している・利用したい”と回答しています。

表 「地域の居場所」の利用状況・必要性

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
現在利用している	50 (5.9)
利用したいができていない	84 (9.9)
特に必要性を感じていない	652 (77.1)
無回答	60 (7.1)

図 「地域の居場所」の利用状況・必要性



なお、「現在利用している」及び「利用したいができていない」と回答した人に、その具体的な場所を記入していただいたところ、次の通りとなっています。

【現在利用している場所】

- 公民館
- 公民館の集会場
- 精明公民館
- 地区の会館
- 中山城会館
- 自治会館
- 自治会館
- 原町会館
- 公民館
- 茶の間（コロナで全員で集まる事はできない）
- 茶の間
- 茶の間
- 福祉センター
- 行政センター
- 福祉協議会
- あまやどり
- 子育て支援拠点
- 子育て支援センター
- 子育て支援センター
- どんぐりルーム
- どんぐりルーム、ゆりかご
- どんぐりルーム
- 旧小学校
- ひだまりカフェ
- デイサービス
- デイサービスセンター太行路
- デイケア
- 高齢者が参加する体操教室みたいな
- むーま（サロン、ワクワク体操）
- 街中コミュニティサロン
- にこにこハウス、希望
- のびのび～の
- 公園でのグラウンドゴルフ
- カルナ（ボールを使った体操や手足のマッサージなど）
- NPO法人あおろー希望
- あさひやまライフネット
- 楽器のサークル
- 売っている物を買う（ケーキなど作ってその場で売っている）

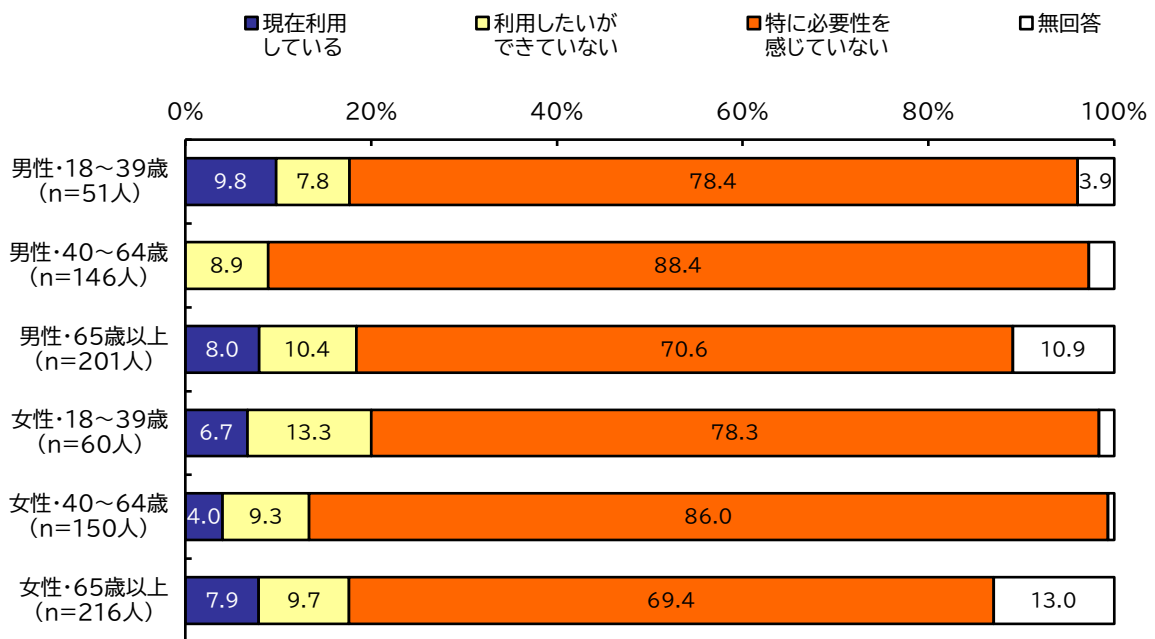
【利用したいができていない場所】

- 地域の茶の間
- 老人同士の交流の場
- 話のできる場所。飲み物がある場所。
- 話せるところ
- 近くで同年代の仲間がいる
- みんなで楽しくおしゃべりができる場所
- 地域（近くに）週1回でも誰が参加しても良い場所、お話し場所作り
- 地域の公民館での軽い運動など
- 認知症カフェ
- ひだまりカフェ
- ひだまりカフェ
- ひだまりカフェ
- 地域子育て支援拠点
- 子育て支援センター。保育所入所前はよく利用していました。
- スポーツジム
- 猫カフェ
- そういう場所を知らない
- 協力しあってなんでも話せるような場所がほしい。
- 地域の方と会館で行っていた。コロナで今は行っていません。
- 自宅になるべく近い所
- 交通手段が不便である
- 公的施設で趣味のあった活動できる所
- その場所へひとり（自力で）行けて、単時間を過ごせる場所なら行ってみたい。
- そういう所があれば、今の所知っておきたい！
- むしろ自分で作りたいと考えている。
- 地域の居場所を知らない
- どういう場所があるか良く知らない
- 場所内容がわからない！！
- 近所にそのような場所がない
- 計画場所等が不明の為

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、「利用したいができていない」はすべての性・年齢層で回答者がみられます。

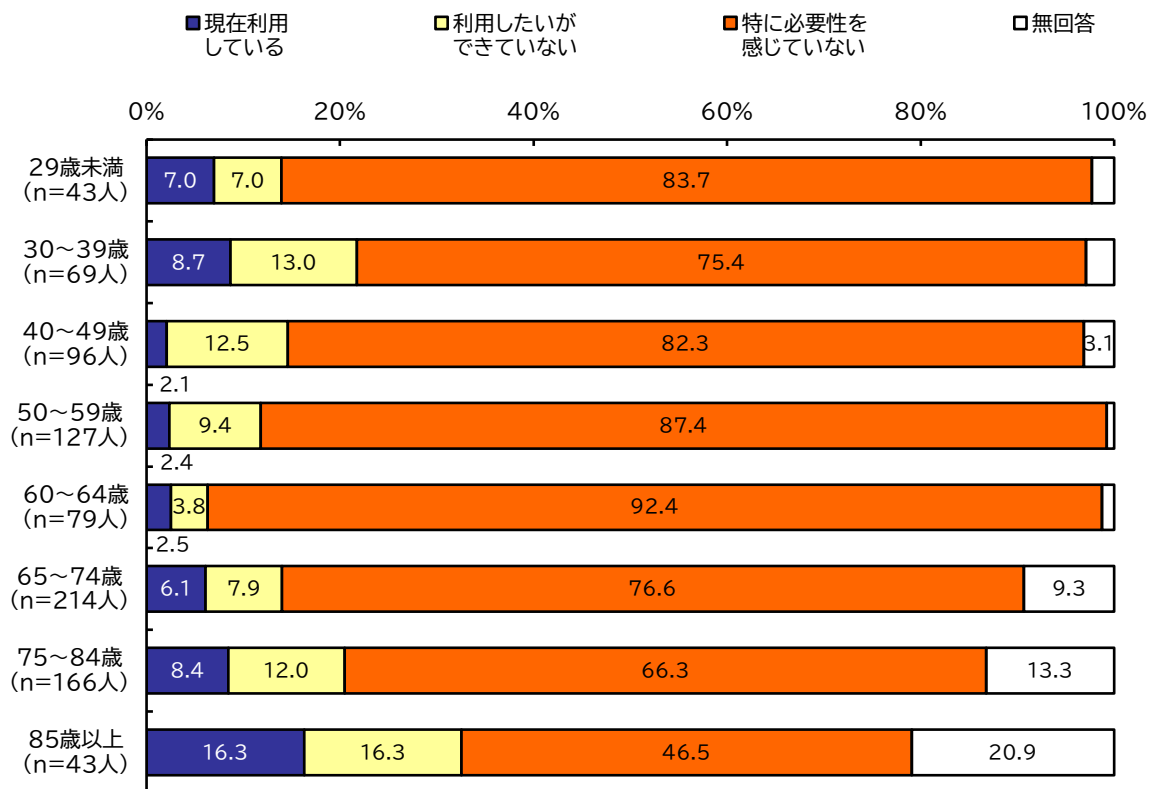
図 性・年齢別にみた「地域の居場所」の利用状況・必要性



【年齢別】

これを年齢別にみると、「利用したいができていない」の割合は30～49歳及び75歳以上で高くなっています。

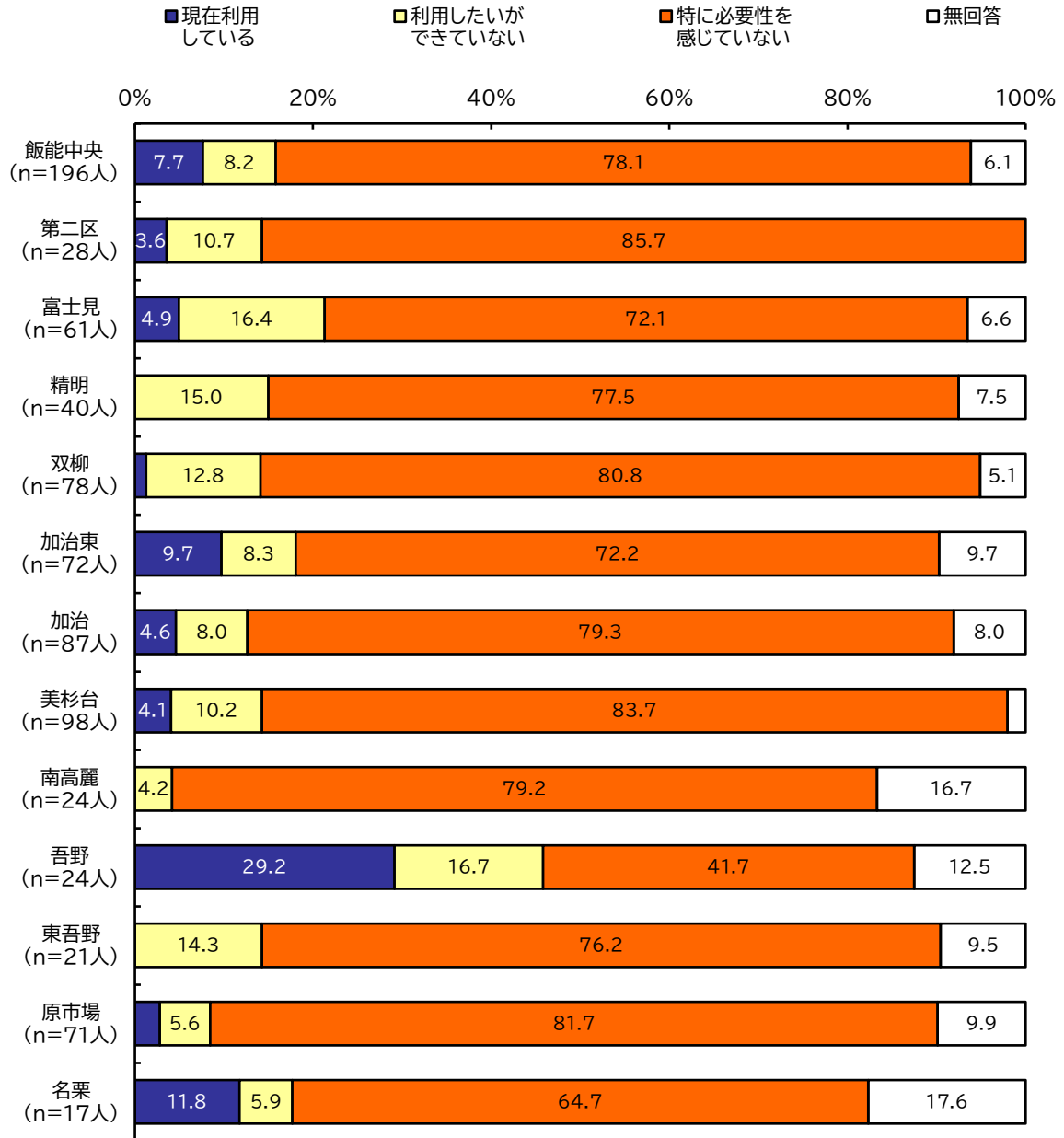
図 年齢別にみた「地域の居場所」の利用状況・必要性



【圏域別】

これを圏域別にみると、吾野は「現在利用している」の割合が高くなっています。

図 圏域別にみた「地域の居場所」の利用状況・必要性



1-3-3 「地域の居場所」の満足度（問 11-1）

問 11-1 問 11 で「1 現在利用している」を選んだ方にうかがいます。現在利用している居場所に満足していますか。（1つだけに○）

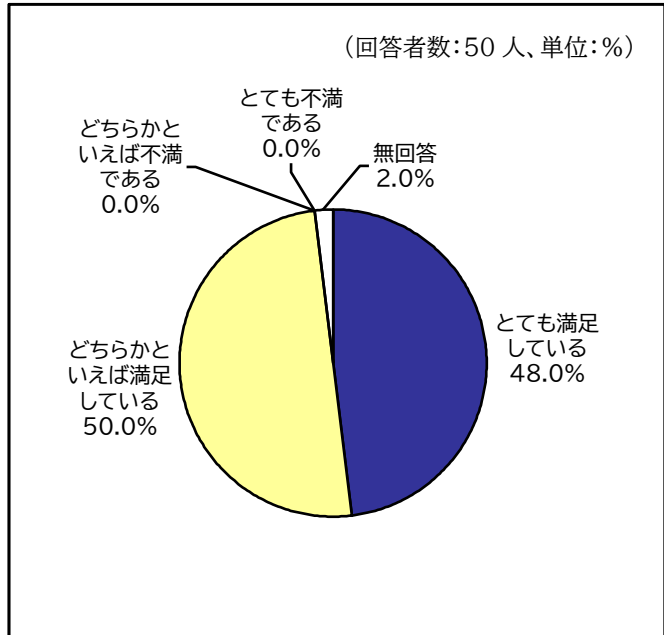
“満足している” が 98.0%

「地域の居場所」の必要性について、「現在利用している」と回答した 50 人に対し、「地域の居場所」の満足度について聞いたところ、「とても満足している」が 48.0%、「どちらかといえば満足している」が 50.0%であり、これらを合わせると 98.0%が“満足している”と回答しています。

表 「地域の居場所」の満足度

区分	人 (%)
回答者数	50 (100.0)
とても満足している	24 (48.0)
どちらかといえば満足している	25 (50.0)
どちらかといえば不満である	0 (0.0)
とても不満である	0 (0.0)
無回答	1 (2.0)

図 「地域の居場所」の満足度



1-3-4 「地域の居場所」を利用できない理由（問 11-2）

問 11-2 問 11 で「2 利用したいができていない」を選んだ方にうかがいます。利用したいのにできないのはなぜですか。下の枠内に具体的にお書きください。

「地域の居場所」の必要性（問 11）において、「利用したいができていない」と回答した 84 人に対しその理由を聞いたところ、次の通りとなっています。

(1) 飯能中央

- 利用するタイミングが合わない。(男性・40～64 歳)
- 問 10 の答え、ゆえに分からない。(男性・40～64 歳)
- 父母は高齢なので、長距離の移動が困難のため、自宅の近くにあると助かります。また情報が高齢者に伝わりやすくしてほしいです。(男性・40～64 歳)
- 子どもが手離れした、社会参加しやすい世代にちょうどよい枠組みが無い印象。(男性・40～64 歳)
- 機会が (男性・40～64 歳)
- 時間がない。(男性・65 歳以上)
- 近くにはない。(男性・65 歳以上)

- わからない。多分場所がないから。(男性・65 歳以上)
- 何処にあり何が出来る場所なのか知らない。転入した際に説明してもらえると知る機会が増えるのでは？(女性・18～39 歳)
- 情報に接していない。(女性・65 歳以上)
- 参加する勇気がない(女性・65 歳以上)
- 今の所、行動ができていますので、それなりに楽しんでいます。例) 体育館での筋トレルーム、帰りにいるまの湯へ。市民活動センターでの健康体操教室に参加。常にアンテナを張り、無理せず参加を心がけてます。(女性・65 歳以上)
- 問の「安心して過ごせる居場所」という意味がわかりません。他人と関わることは多いに必要と思う。(女性・65 歳以上)

- 他人との関わりは大切だと思っているので、できれば行動範囲を広げ、人とのつながりを持ちたいのですが、どのような場 (or サークル) があるか良く知りません。(女性・65歳以上)
- グループホームにいるから。(女性・65歳以上)
- 高齢の親がいて、自分の自由な時間があまり持てないから。(女性・65歳以上)
- 知らないから。(女性・65歳以上)

(2) 第二区

- 知らないから。(男性・40~64歳)
- 予約なしで気軽に公民館など利用したい。→打合せ場所の拡大 (男性・65歳以上)
- 神経障害でねたきり状態 (3年以上) (男性・65歳以上)
- 仕事をしているので時間がない。(女性・40~64歳)
- 仕事のため時間に余裕がない。またコロナ禍においては難しい。(女性・40~64歳)
- 年齢のことです。(女性・65歳以上)

(3) 富士見

- 仕事で疲れ、休日は体を休ませないと、仕事に影響する。余裕がない。(男性・40~64歳)
- 場所等も知る方法がない (男性・65歳以上)
- 自治会に入っていないため、回覧板が回ってこないの、やっていることを知らない。(女性・18~39歳)
- 気軽に行きたいが、人数制限や予約制になっており、都合が合わなかったり手間がかかる。(女性・18~39歳)
- 平日しかやっていたいなかたりで、仕事していると難しいため。(女性・18~39歳)
- 足腰が悪く移動が困難。認知症のため付き添いが必要。(女性・40~64歳)
- 体調不良のため。(女性・65歳以上)
- コロナで休業、休み (女性・65歳以上)
- 年齢が来ているのであまりできない。(女性・65歳以上)
- 知らなかったから。(女性・65歳以上)

(4) 精明

- 仕事などで参加できない。(男性・18~39歳)
- 場所が少なく折込などで周知できればよいが。(男性・65歳以上)

- 必要性はあっても積極的に情報を得ようとしていないため前に進んでいない。(女性・40~64歳)
- 孫 (1歳と3歳) がいますが、コロナ禍で多数の方が集まる場所への参加はなるべく避けて過ごしてきたので、他者との関わりがないことが現況です。同年代のお子さんとの関わりを持ちたいと考えていますが、どこでどのようなことをしているのか、情報不足で利用できていません。(女性・40~64歳)
- 近くにない。(女性・65歳以上)

(5) 双柳

- 知らないから。(男性・40~64歳)
- 居場所を知らない。(男性・40~64歳)
- 本人が行きたいと思っていないため。(男性・40~64歳)
- 飯能市営球場での高校、大学の大会試合等が一般市民によく宣伝されていない。近くをたまたま通り初めて知る程度。(男性・65歳以上)
- 知らないので利用できない。(男性・65歳以上)
- 興味が無い。(女性・18~39歳)
- どこでどのような活動をやっているかわからない。(女性・40~64歳)
- 家族が行きたがらない。(女性・40~64歳)
- 足が悪くなったので。(女性・65歳以上)

(6) 加治東

- 他人との (仲間) が少ないため。(男性・65歳以上)
- 知らない。(男性・65歳以上)
- 里帰り中のため。(女性・40~64歳)
- 高齢者は情報を得るのが難しい。(女性・65歳以上)
- 今仕事をしているため。(女性・65歳以上)
- 時間に余裕がないので。(女性・65歳以上)
- 上に記入済。(性・年齢不明)

(7) 加治

- 若者ケアラーになってしまい、外との関わりが無くなってしまった。就職も断念し、介護のみをしていたため、お金がなく、色々と疲れてしまった。家族と独りでいる時間が長くなり過ぎていた結果、外に助けを求めるといった思考が薄くなっている。(男性・18~39歳)

- 時間がない。(男性・40～64歳)
- 時間が合わない、どんな方が参加しているかわからないし、こわい。(女性・18～39歳)
- 現在、保育所に通っているため、平日の日中に行くことができない。(女性・18～39歳)

(8) 美杉台

- 地域の居場所がどこにあるか分らない。(男性・18～39歳)
- 内容、場所など不明のためです。(男性・65歳以上)
- 具体的内容が把握できていない。(男性・65歳以上)
- できれば自分の場合はインターネット(環境があっても利用なしの場合もあります)ができればよいなと思います…その時にあったときに考えてみたいと思います。(男性・65歳以上)
- 良く知らないため(女性・18～39歳)
- 参加の仕方がわからない(女性・40～64歳)
- ①持病があること。②周りの目が気になる。(女性・40～64歳)
- 時間がなくて(女性・40～64歳)
- 「地域の居場所」のそれぞれの対象を考えると、自分または家族がどこにも属さないと思うところ。カテゴリーは必要だが、こちら側とあちら側というように、関わらない「壁」になっていると思う。(女性・40～64歳)
- 月一度の集まりでしたが、コロナで今はまだ行なっていません。(女性・65歳以上)

(9) 南高麗

- 運営内容の理解が不十分なため。(男性・40～

64歳)

(10) 吾野

- どうすれば利用できるのか知らないです。(男性・40～64歳)
- 体が不自由、交通がない。(男性・65歳以上)
- 内容、システムがわからない!!(男性・65歳以上)
- 利用したいがよくわからず、情報も入ってこない。自治会役員もこれらには動かない。(男性・65歳以上)
- 加齢。(男性・65歳以上)

(11) 東吾野

- 高齢のため。(男性・65歳以上)
- 交通手段がないから。(男性・65歳以上)

(12) 原市場

- 時間がない。(男性・65歳以上)
- 高齢の当人達があまり参加する気がないから。(女性・40～64歳)
- 参加したいが初めの勇気があまりない。また、自分の希望に合っているかが不安。(女性・65歳以上)

(13) 名栗

- 全てはコロナ。(男性・65歳以上)

(14) 圏域不明

- 体調。(性・年齢不明)

第4節 地域福祉に関する組織や制度等の認知度

1-4-1 地域福祉に関する組織や制度等の認知度（問12）

問12 地域福祉の推進に関係している次の組織や計画、制度等をご存じですか。（それぞれ1つだけに○）

「民生委員・児童委員」や「成年後見制度」、「飯能市社会福祉協議会」の周知度が高い

地域福祉に関する組織や制度等の認知度について、「名前も内容も知っている」の割合をみると、「民生委員・児童委員」が41.5%で最も多く、次いで「成年後見制度」が29.1%、「飯能市社会福祉協議会」が28.4%で続いています。

図 地域福祉に関する組織や制度等の認知度

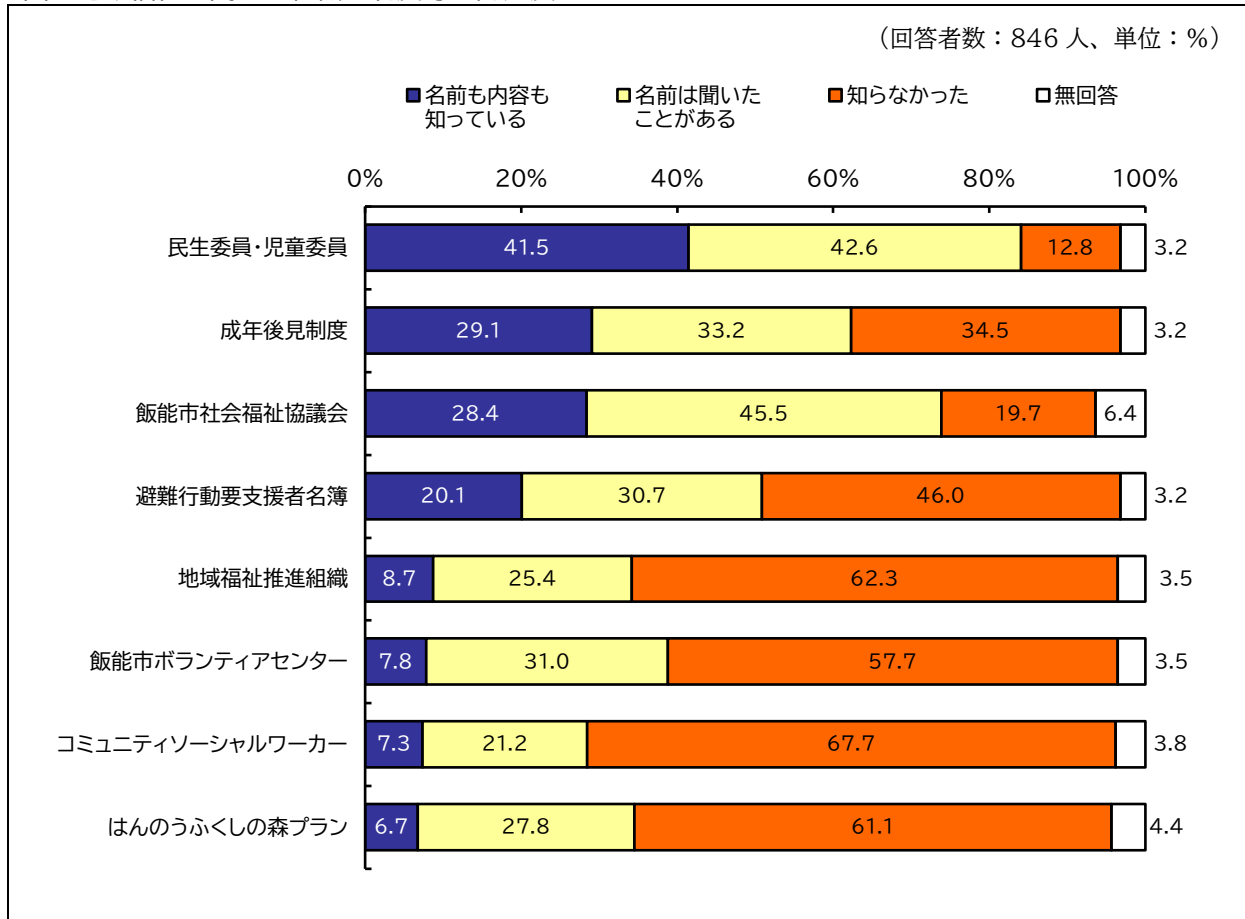


表 地域福祉に関する組織や制度等の認知度

回答者数：846人、単位：人 (%)

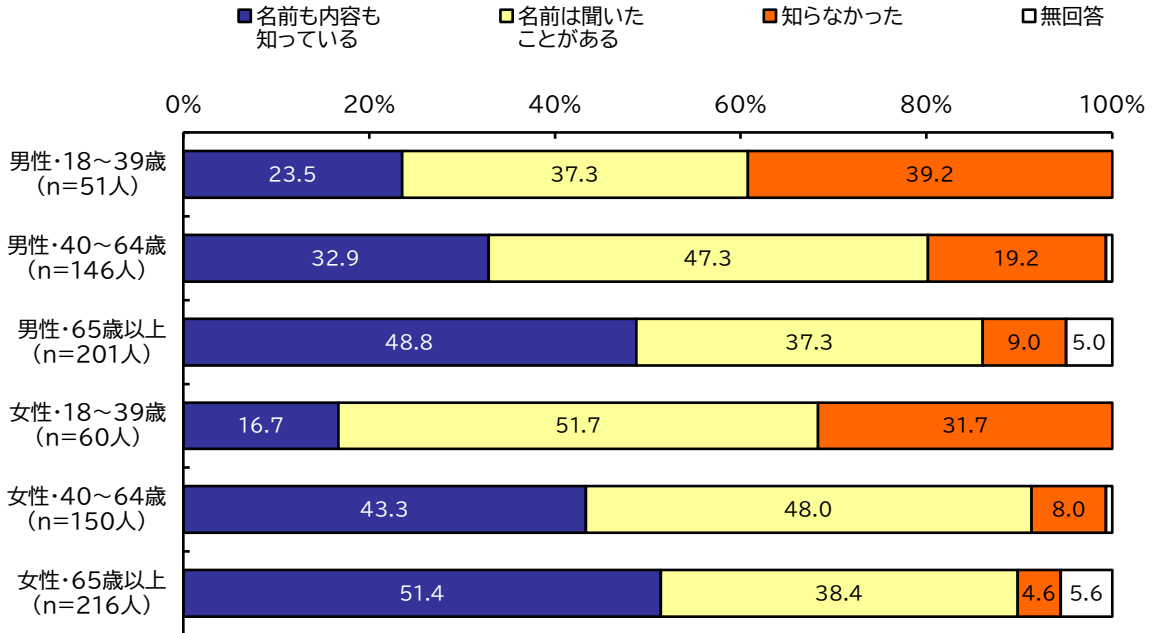
区分	名前も内容も知っている	名前は聞いたことがある	知らなかった	無回答
民生委員・児童委員	351 (41.5)	360 (42.6)	108 (12.8)	27 (3.2)
成年後見制度	246 (29.1)	281 (33.2)	292 (34.5)	27 (3.2)
飯能市社会福祉協議会	240 (28.4)	385 (45.5)	167 (19.7)	54 (6.4)
避難行動要支援者名簿	170 (20.1)	260 (30.7)	389 (46.0)	27 (3.2)
地域福祉推進組織	74 (8.7)	215 (25.4)	527 (62.3)	30 (3.5)
飯能市ボランティアセンター	66 (7.8)	262 (31.0)	488 (57.7)	30 (3.5)
コミュニティソーシャルワーカー	62 (7.3)	179 (21.2)	573 (67.7)	32 (3.8)
はんのうふくしの森プラン	57 (6.7)	235 (27.8)	517 (61.1)	37 (4.4)

【性・年齢別】

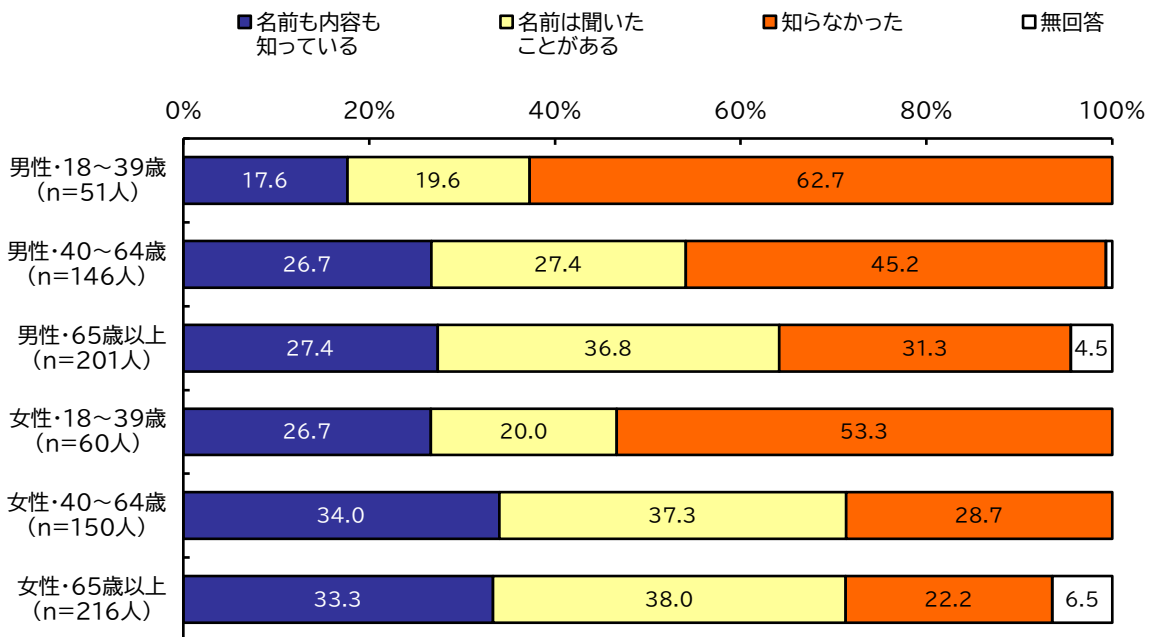
これを性・年齢別にみると、民生委員・児童委員や飯能市社会福祉協議会及び避難行動要支援者名簿は年齢層が高くなるほど「名前も内容も知っている」の割合が高くなっています。

図 性・年齢別にみた地域福祉に関する組織や制度等の認知度

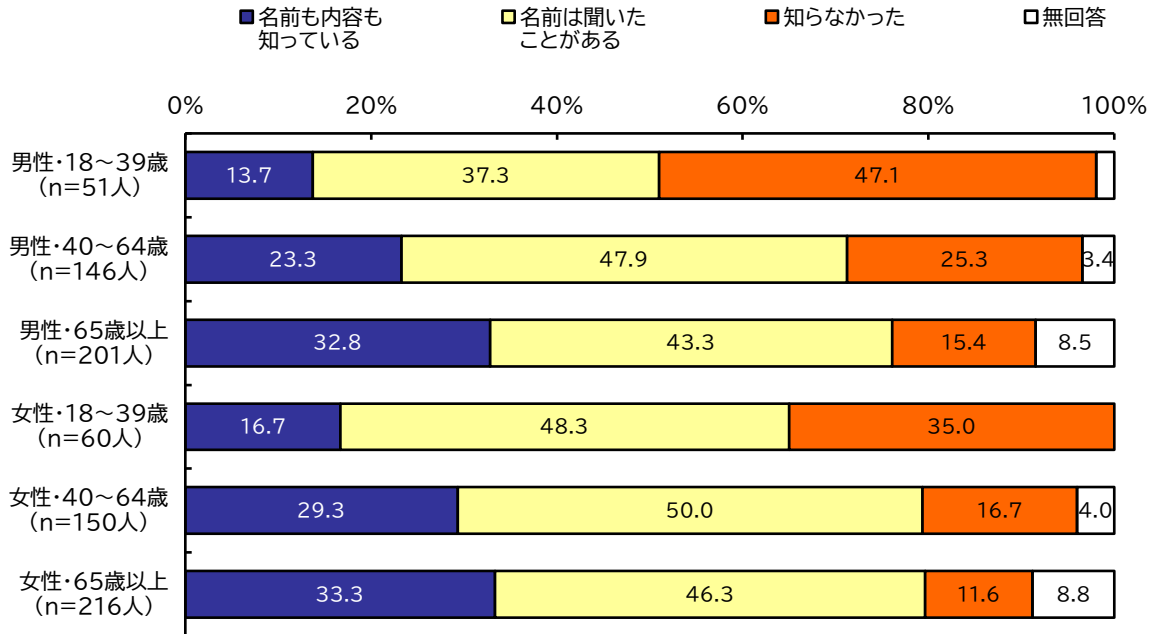
①民生委員・児童委員



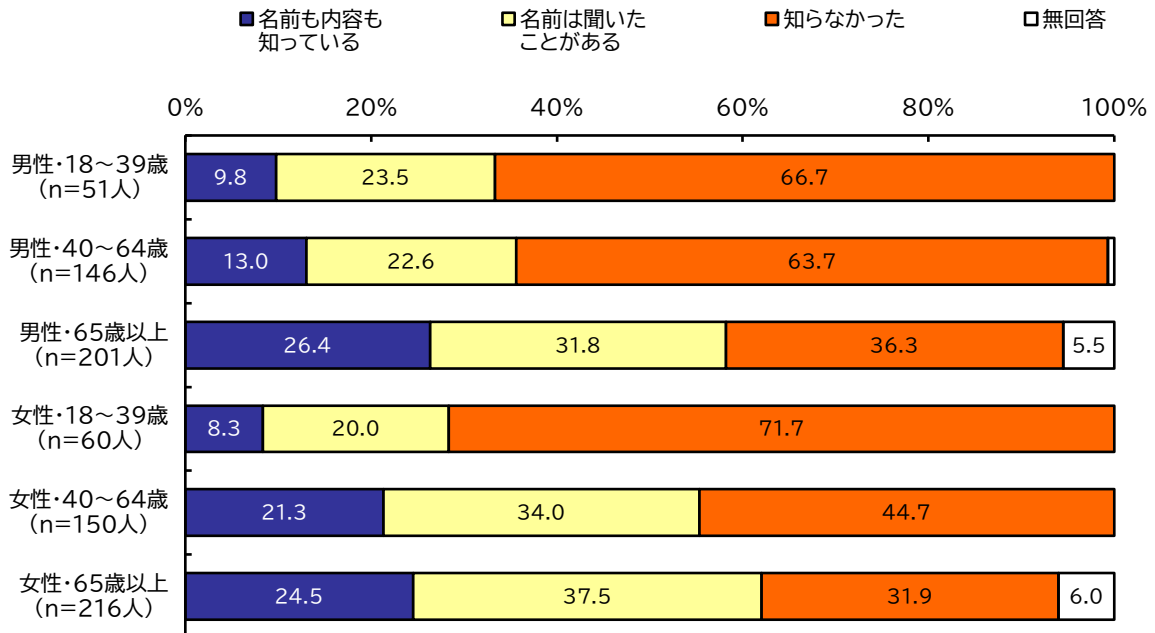
②成年後見制度



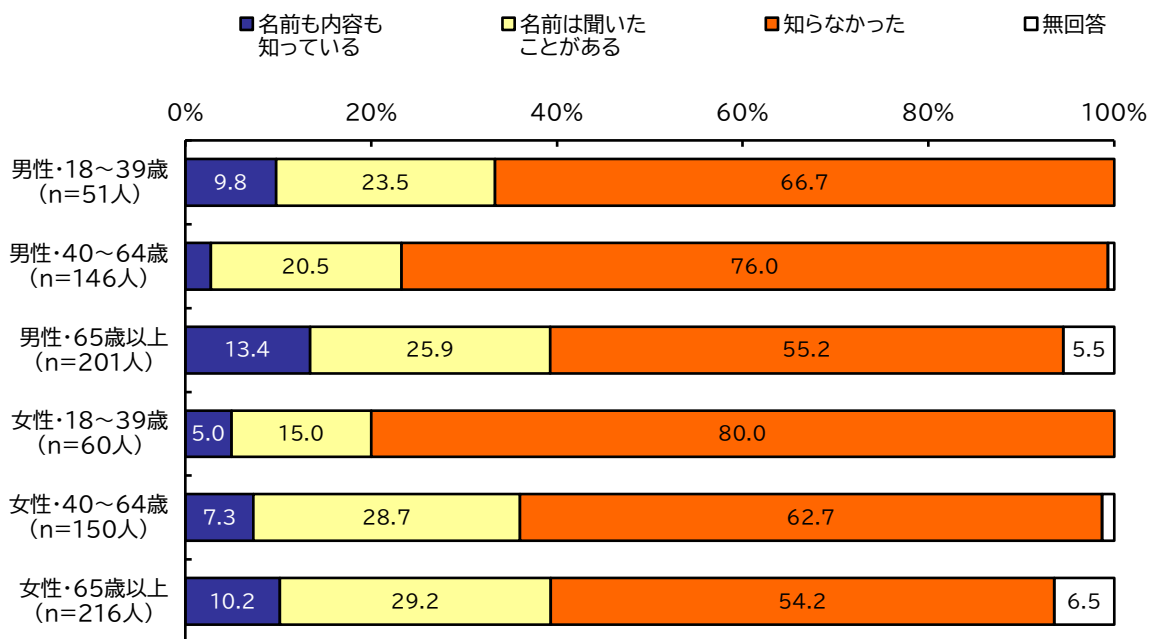
③飯能市社会福祉協議会



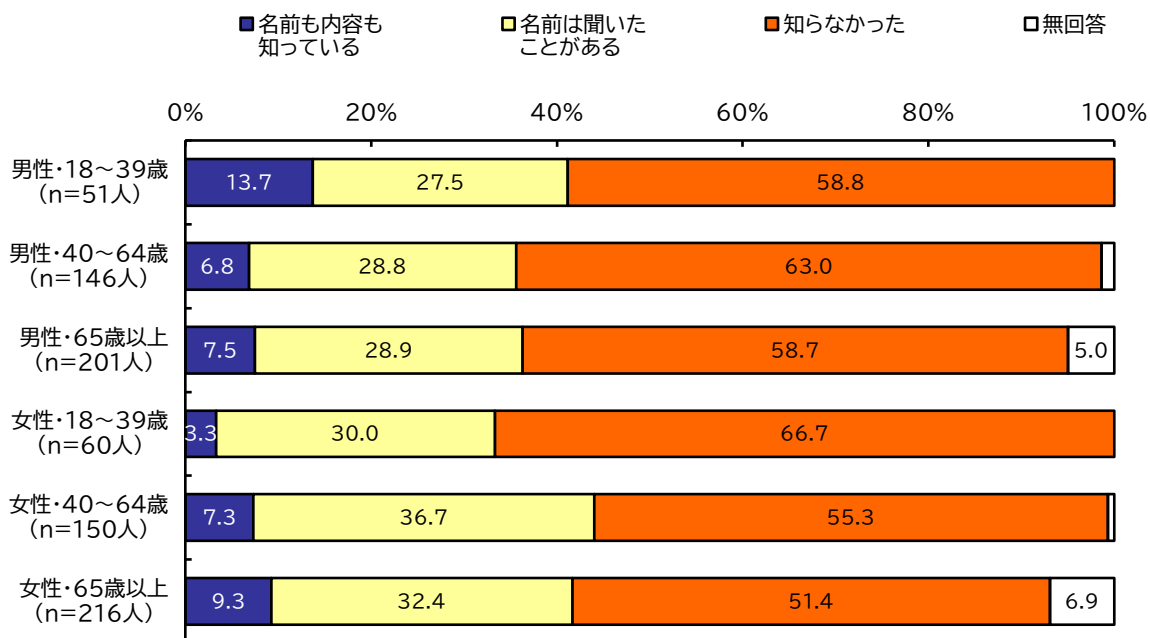
④避難行動要支援者名簿



⑤地域福祉推進組織



⑥飯能市ボランティアセンター

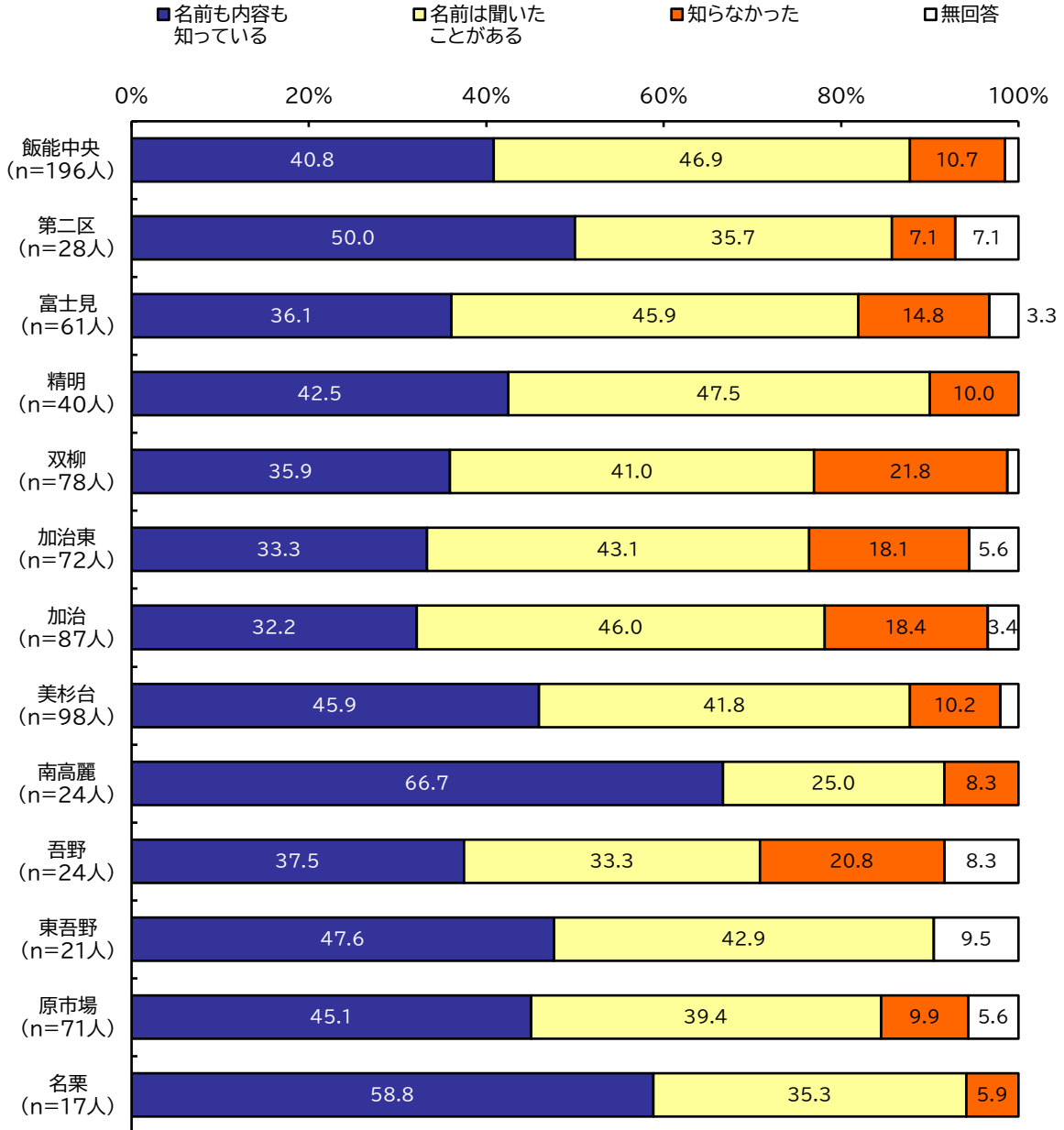


【圏域別】

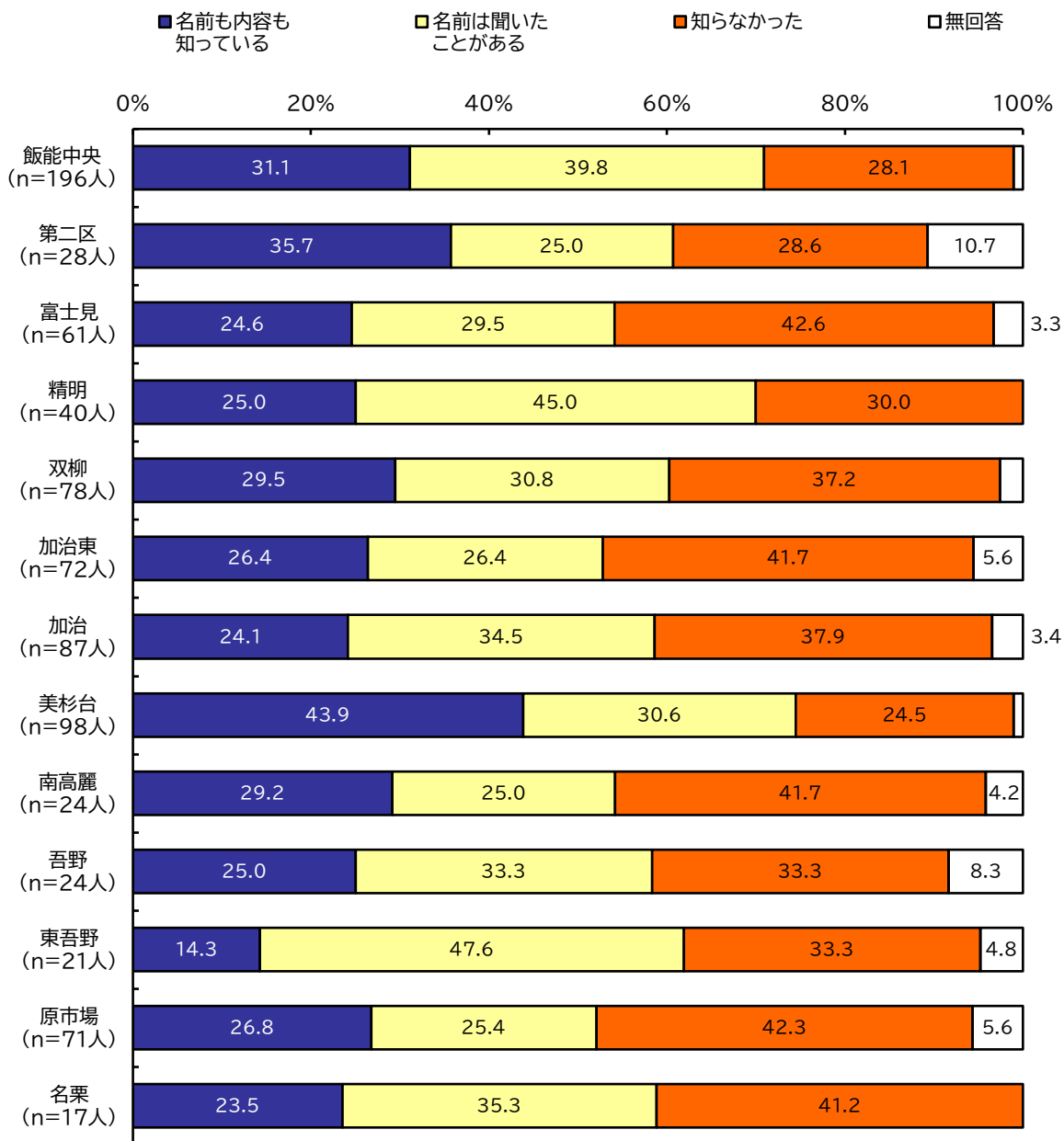
これを圏域別にみると、「民生委員・児童委員」は南高麗で多く、「飯能市社会福祉協議会」及び「地域福祉推進組織」は名栗で多くなっているなど、圏域による違いがみられます。

図 圏域別にみた地域福祉に関する組織や制度等の認知度

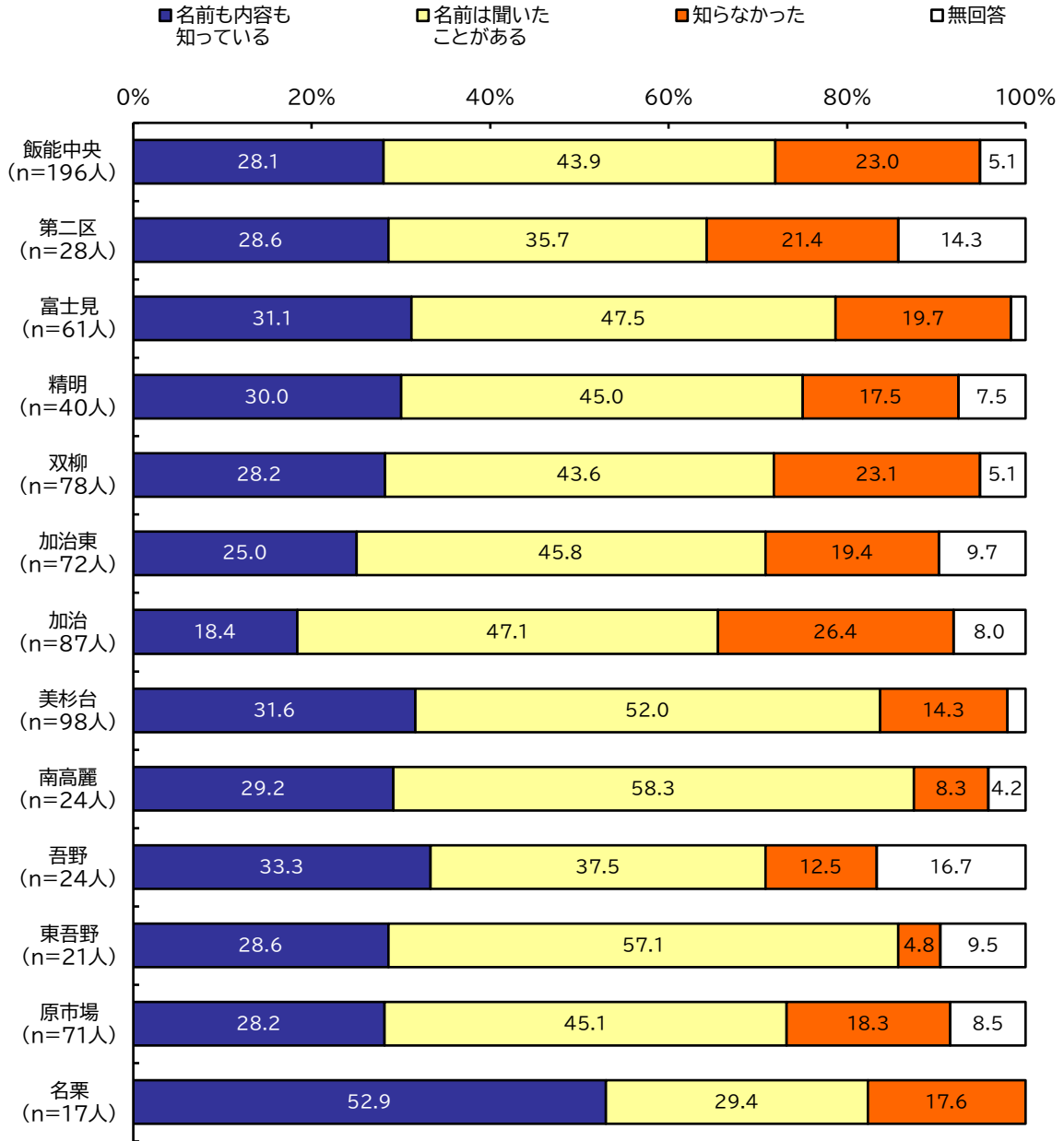
①民生委員・児童委員



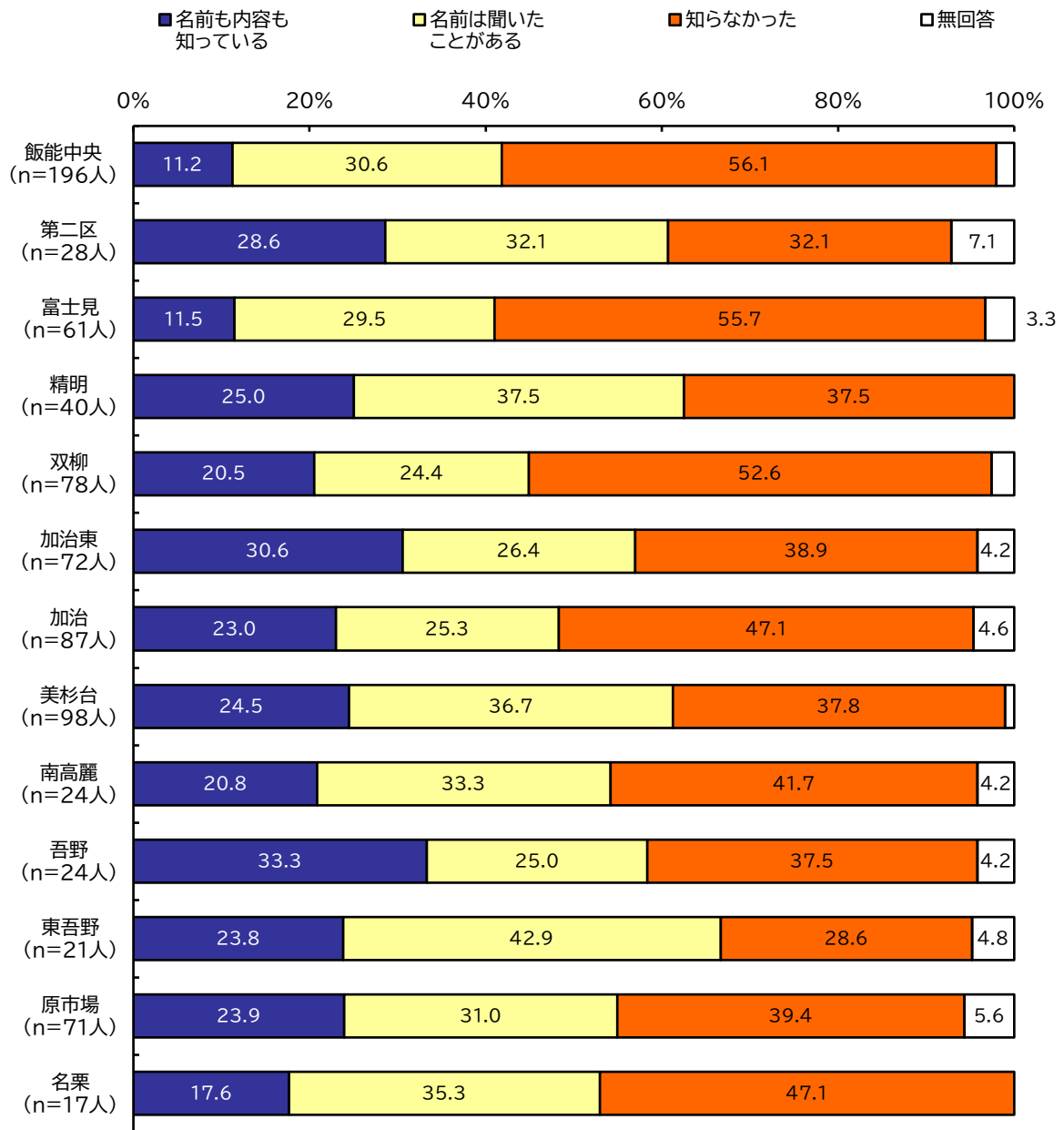
②成年後見制度



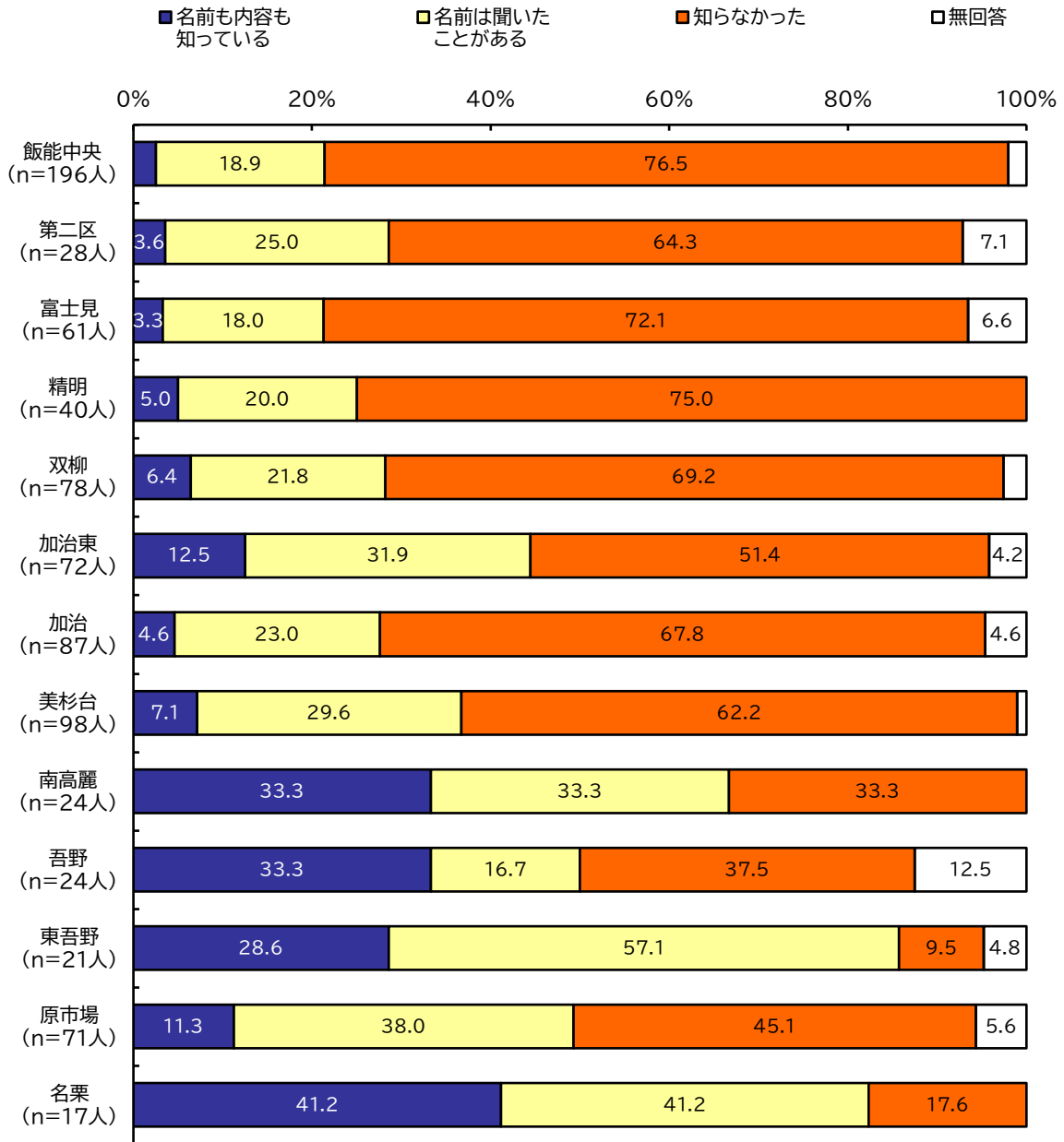
③飯能市社会福祉協議会



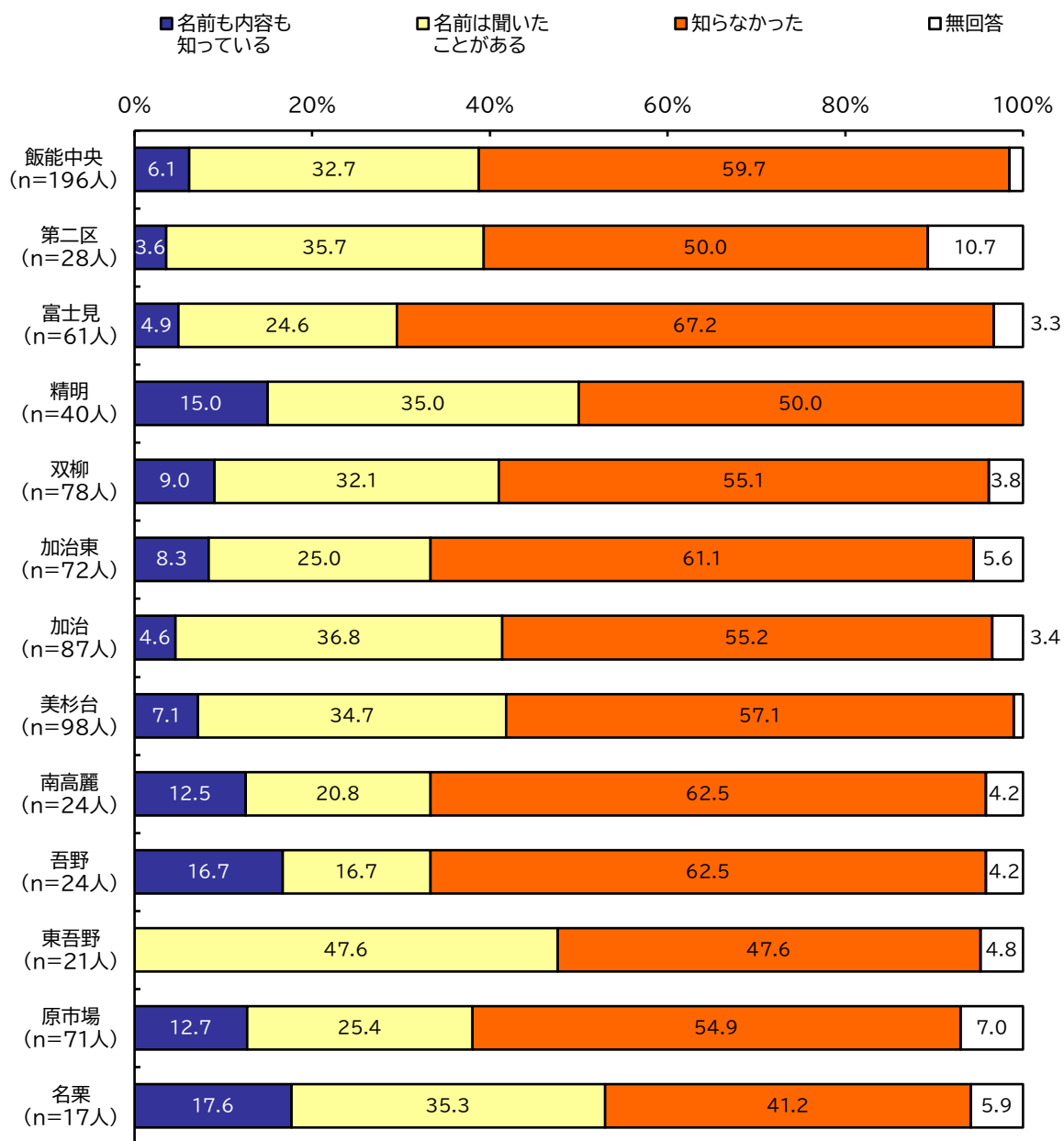
④避難行動要支援者名簿



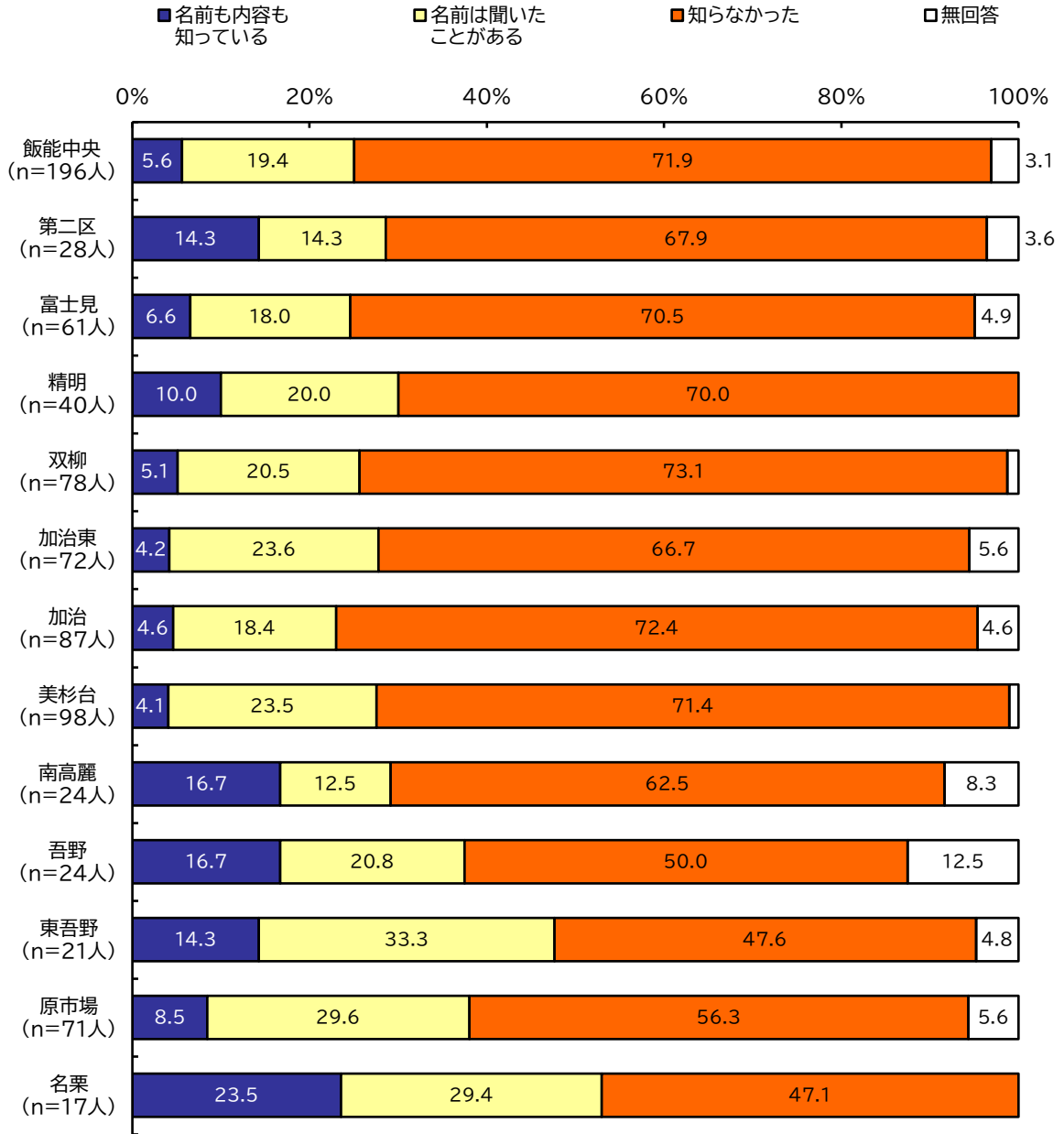
⑤地域福祉推進組織



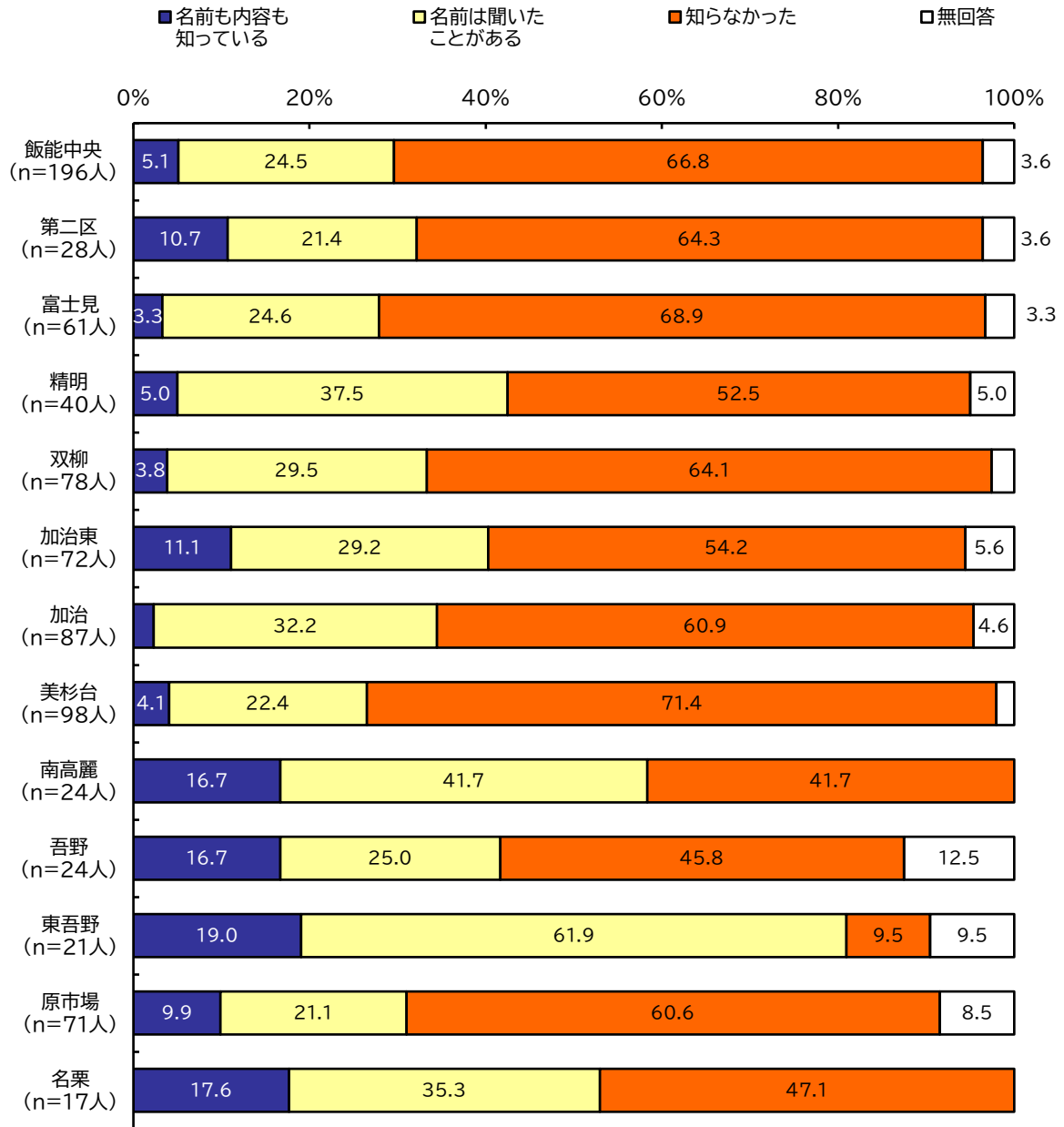
⑥飯能市ボランティアセンター



⑦コミュニティソーシャルワーカー



⑧はんのうふくしの森プラン



第5節 福祉情報の入手状況

1-5-1 福祉情報の入手先（問13）

問13 福祉に関する情報（サービスや制度、イベントなど）をどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

「市の広報紙」や「自治会のお知らせ」が多くみられる

福祉情報の入手先については、「市の広報紙」が74.3%で最も多く、次いで「自治会のお知らせ」が36.2%、「社会福祉協議会の広報紙」が19.0%で続いています。

図 福祉情報の入手先（複数回答）

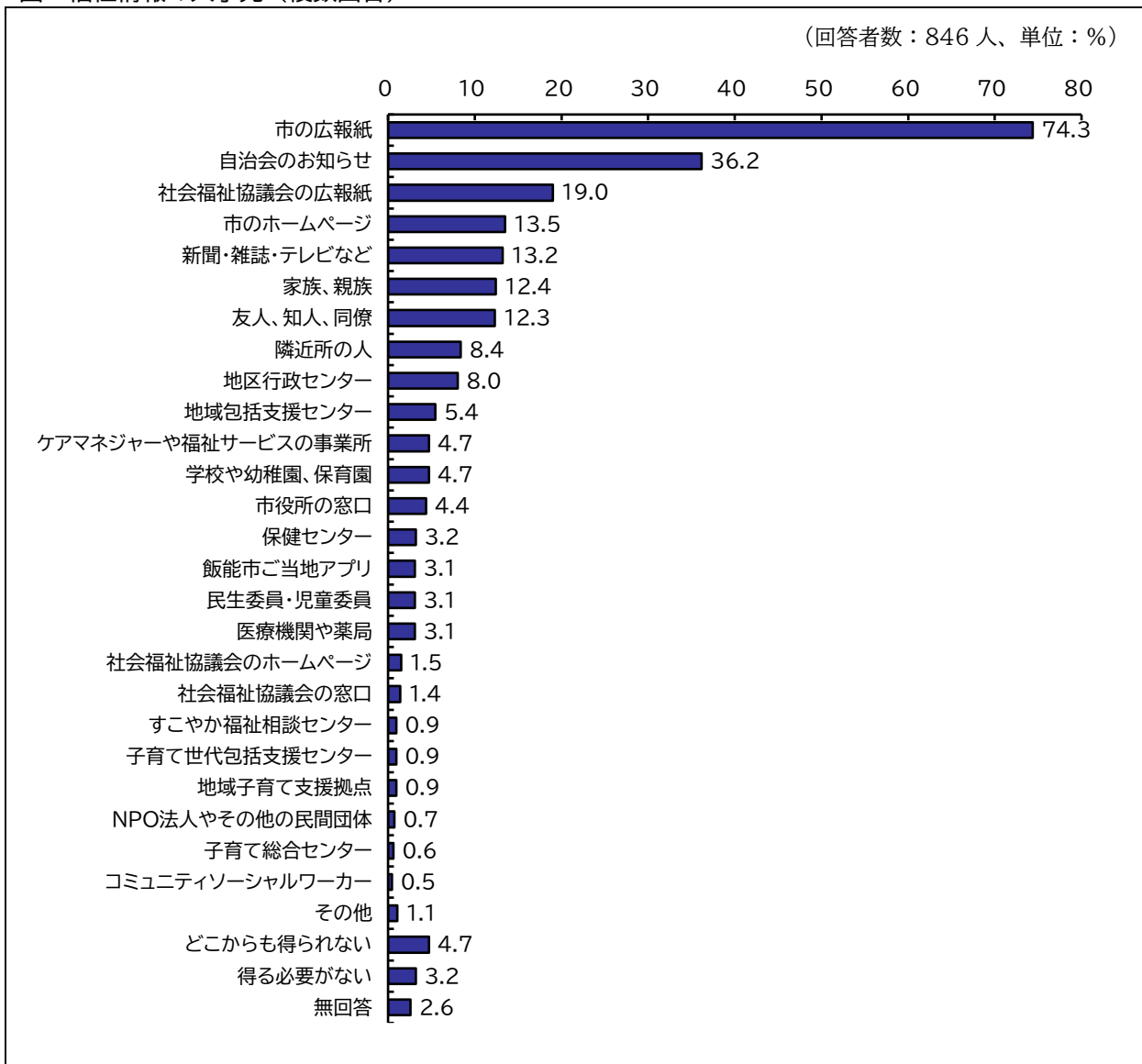


表 福祉情報の入手先（複数回答）

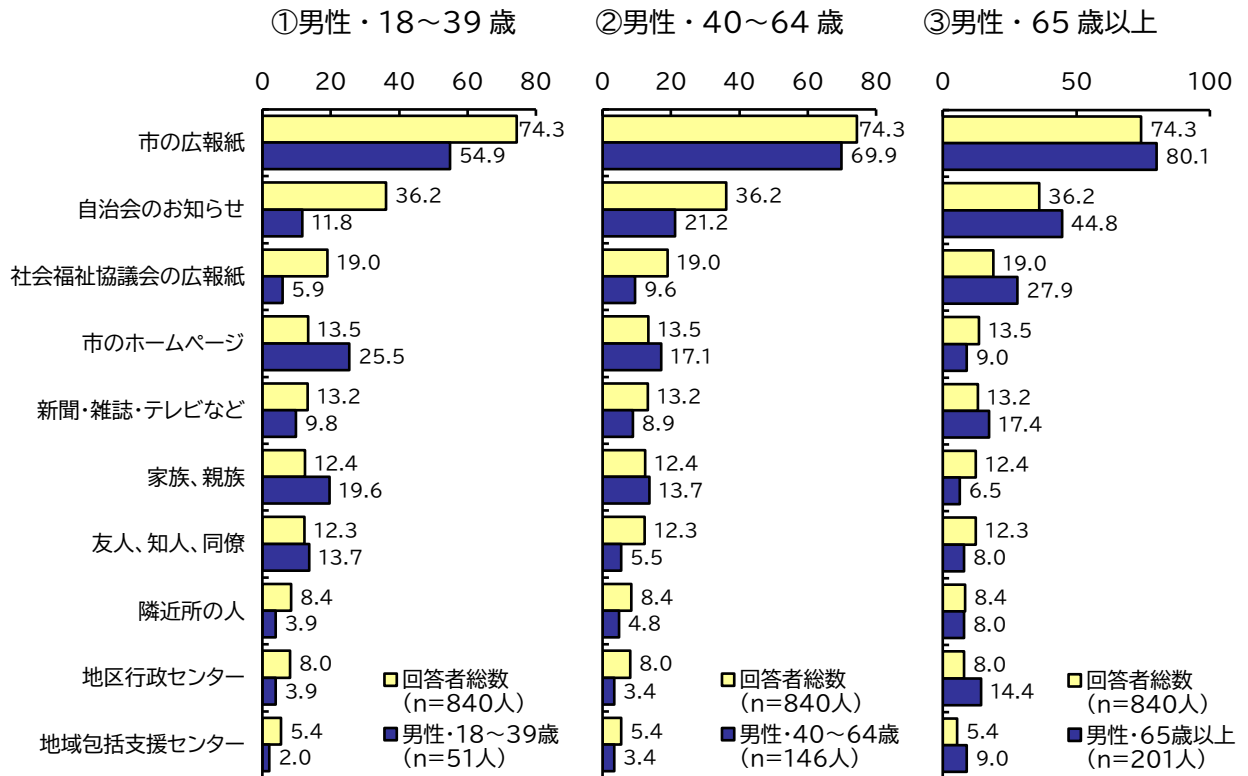
区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
市の広報紙	629 (74.3)
自治会のお知らせ	306 (36.2)
社会福祉協議会の広報紙	161 (19.0)
市のホームページ	114 (13.5)
新聞・雑誌・テレビなど	112 (13.2)
家族、親族	105 (12.4)
友人、知人、同僚	104 (12.3)
隣近所の人	71 (8.4)
地区行政センター	68 (8.0)
地域包括支援センター	46 (5.4)
ケアマネジャーや福祉サービスの事業所	40 (4.7)
学校や幼稚園、保育園	40 (4.7)
市役所の窓口	37 (4.4)
保健センター	27 (3.2)

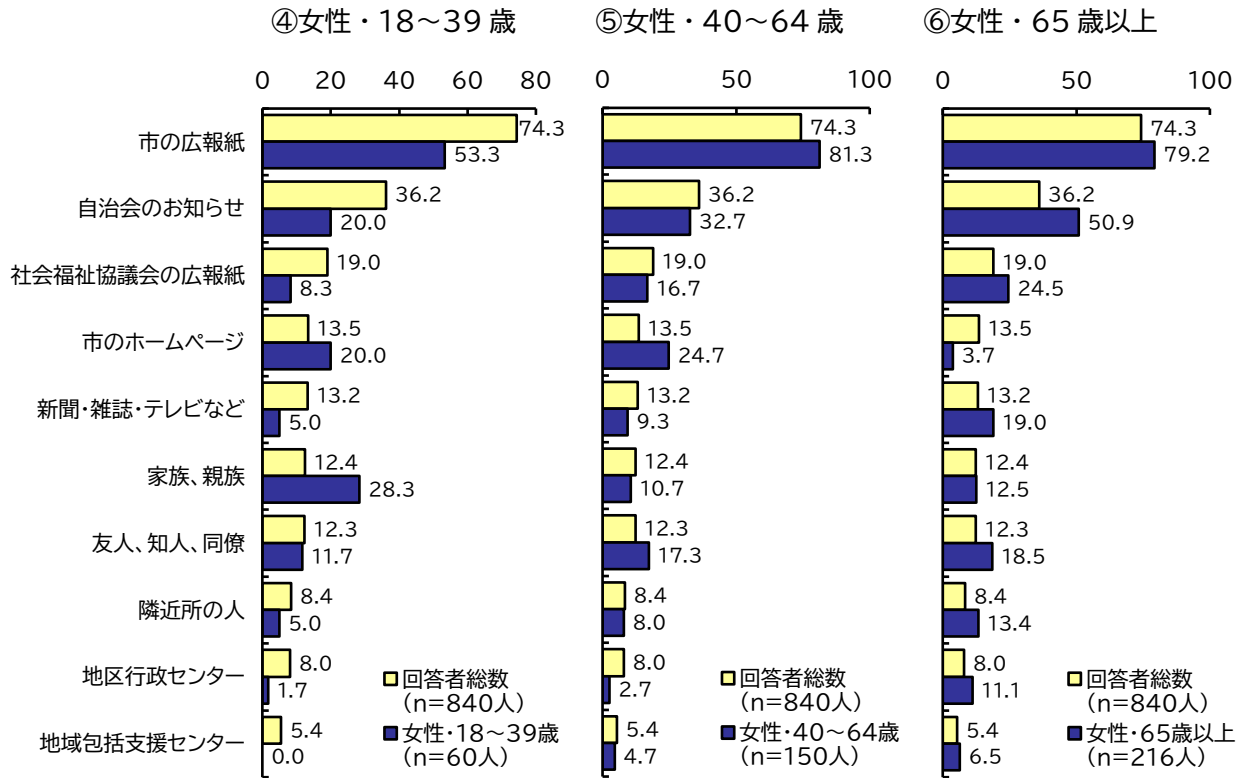
区分	人 (%)
飯能市ご当地アプリ	26 (3.1)
民生委員・児童委員	26 (3.1)
医療機関や薬局	26 (3.1)
社会福祉協議会のホームページ	13 (1.5)
社会福祉協議会の窓口	12 (1.4)
すこやか福祉相談センター	8 (0.9)
子育て世代包括支援センター	8 (0.9)
地域子育て支援拠点	8 (0.9)
NPO 法人やその他の民間団体	6 (0.7)
子育て総合センター	5 (0.6)
コミュニティソーシャルワーカー	4 (0.5)
その他	9 (1.1)
どこからも得られない	40 (4.7)
得る必要がない	27 (3.2)
無回答	22 (2.6)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに 18～39 歳は「市の広報紙」及び「自治会のお知らせ」の割合が低く、「市のホームページ」の割合が高くなっています。

図 性・年齢別にみた福祉情報の入手先（複数回答）

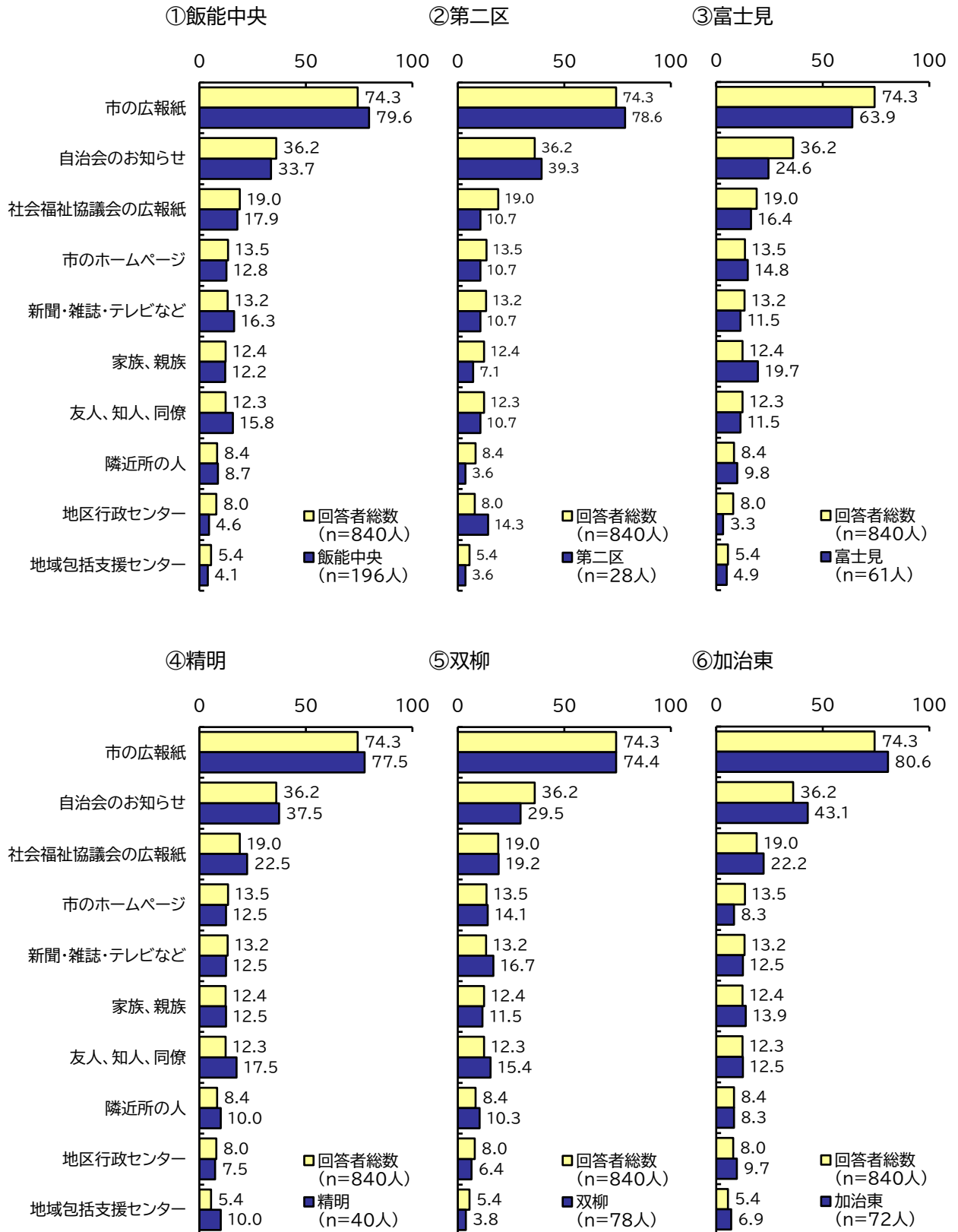


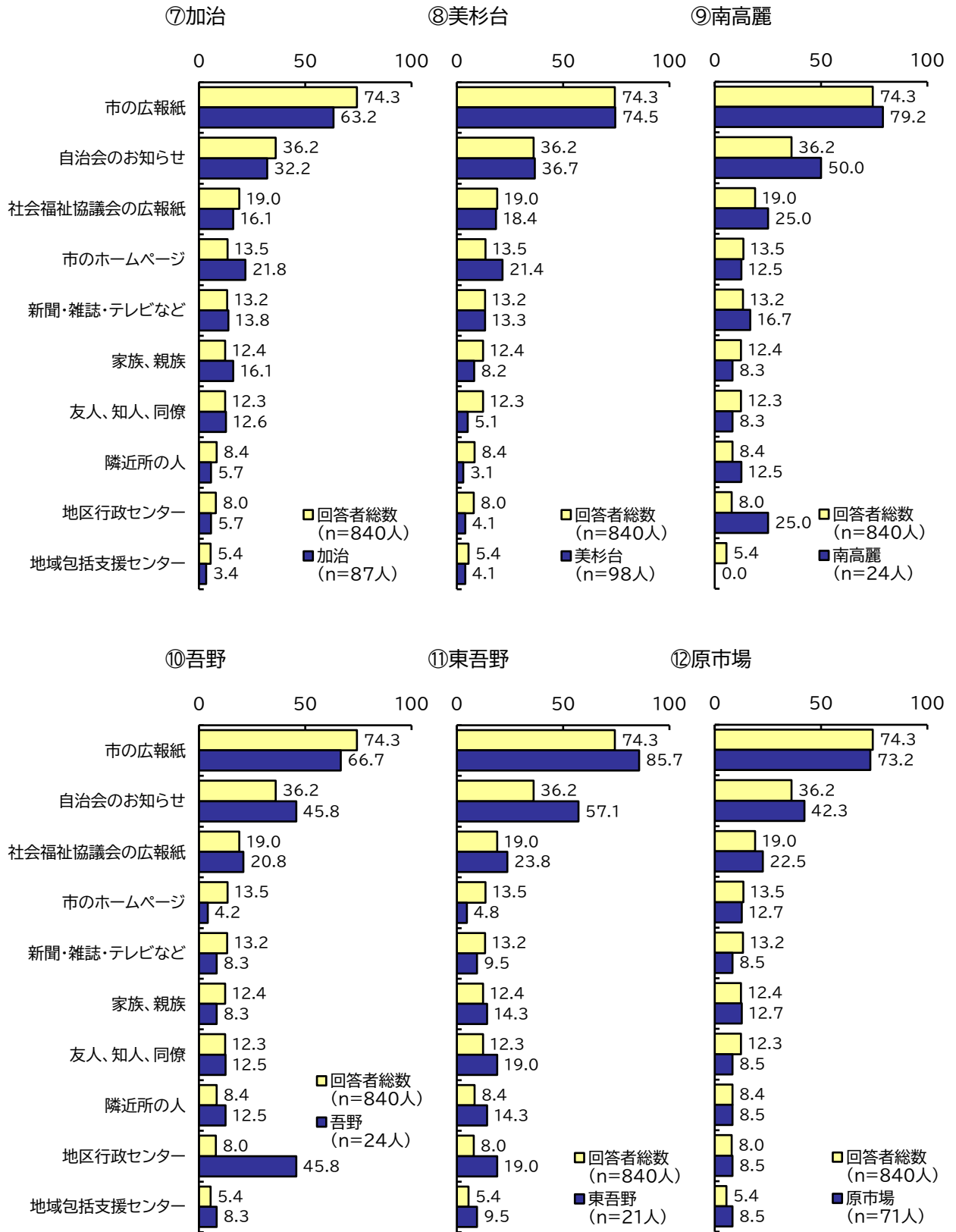


【圏域別】

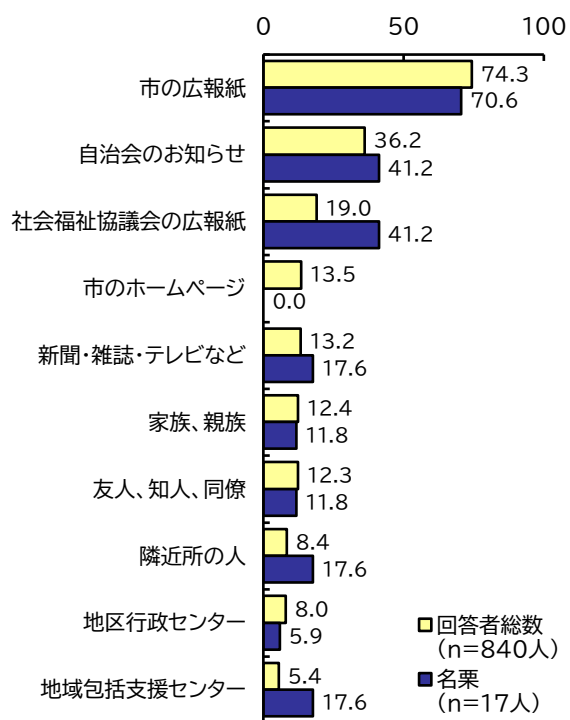
これを圏域別にみると、吾野及び南高麗は「地区行政センター」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。また、東吾野は「自治会のお知らせ」、名栗では「社会福祉協議会の広報紙」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた福祉情報の入手先（複数回答）





⑬名栗



1-5-2 福祉情報の入手先の数（問13を基に作成）

※問13の回答構成を基に作成

「3つ以上」が38.8%

福祉情報の入手先（問13）の回答構成を基に福祉情報の入手先の数について調べたところ、「1つ」が25.8%、「2つ」が24.9%、「3つ以上」が38.8%となっています。

図 福祉情報の入手先の数

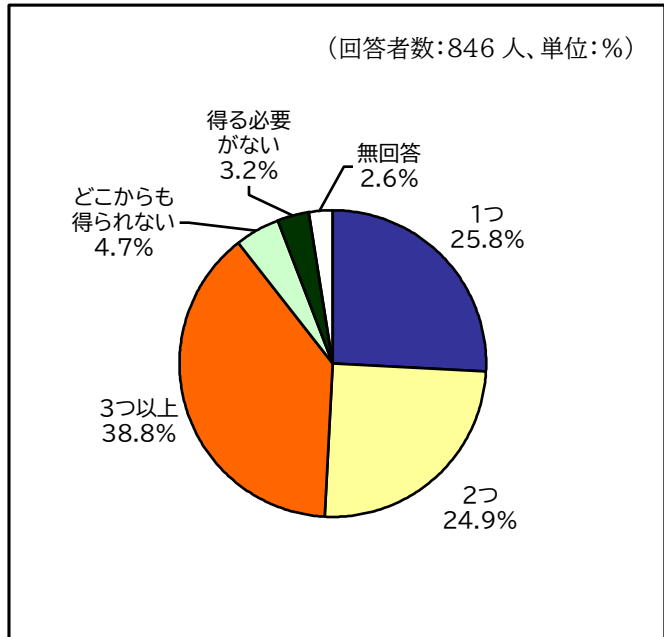


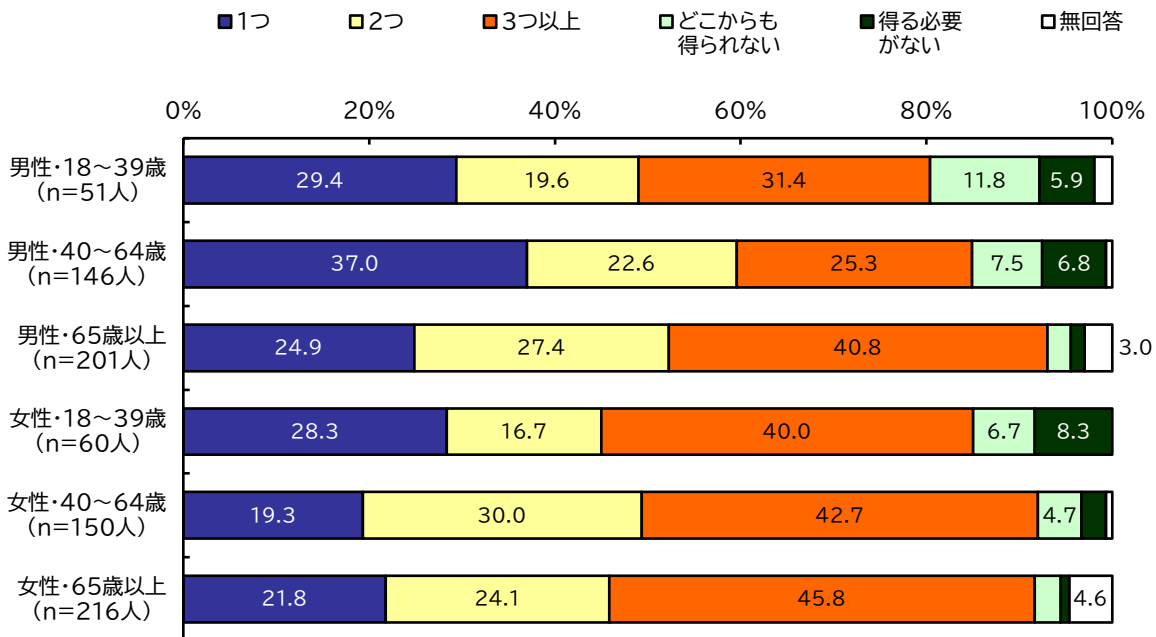
表 福祉情報の入手先の数

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
1つ	218 (25.8)
2つ	211 (24.9)
3つ以上	328 (38.8)
どこからも得られない	40 (4.7)
得る必要がない	27 (3.2)
無回答	22 (2.6)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の40～64歳は「1つ」の割合が高く、「3つ以上」の割合が低くなっています。

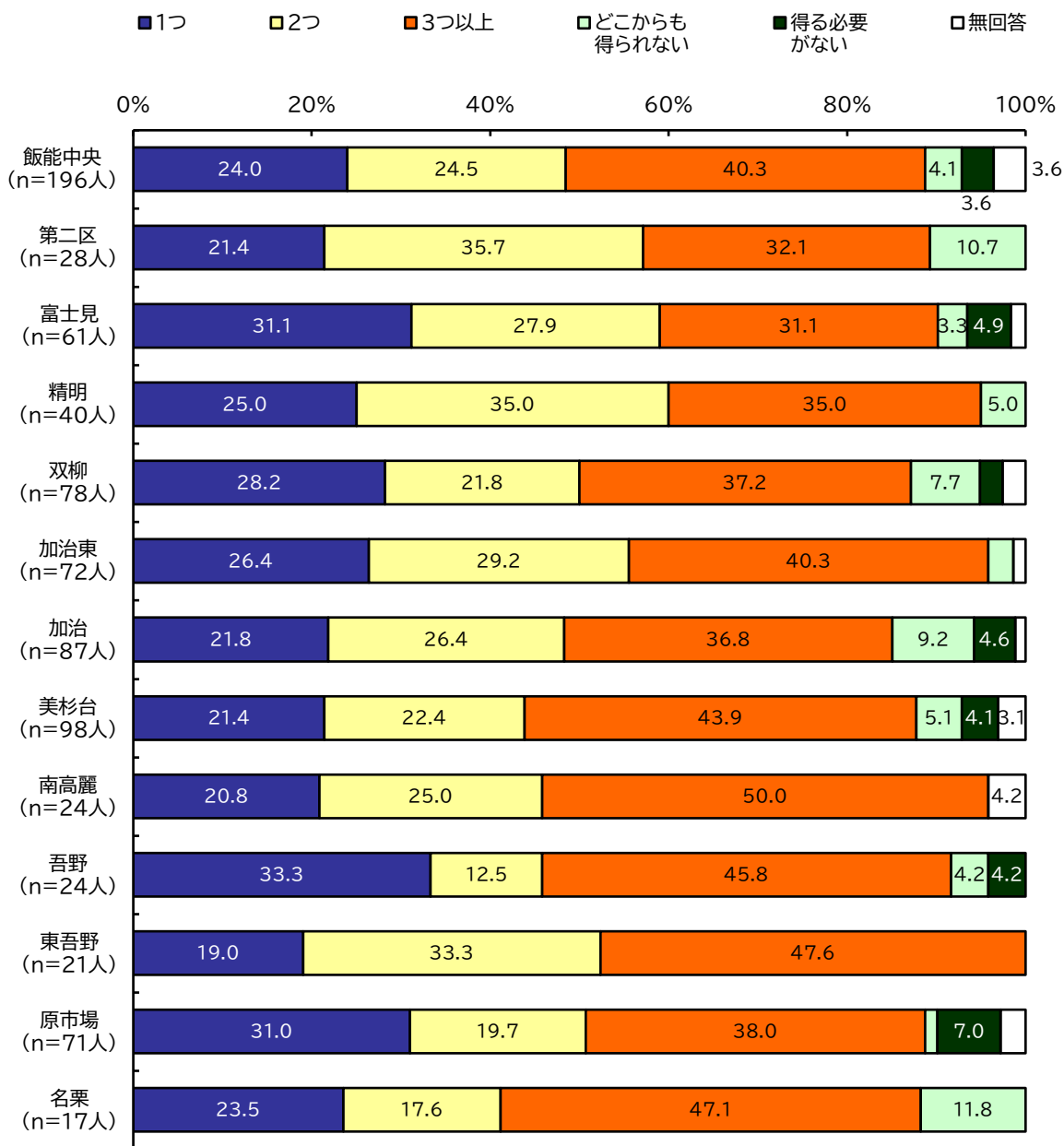
図 性・年齢別にみた福祉情報の入手先の数



【圏域別】

これを圏域別にみると、吾野、富士見、原市場では「1つ」の割合が他の圏域に比べて高く、富士見、南高麗、東吾野では「3つ以上」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた福祉情報の入手先の数



1-5-3 福祉情報の充足度 (問 14)

問 14 本市の福祉に関する情報は、どの程度得られていると感じていますか。(1つだけに○)

“得られていない”が61.7%

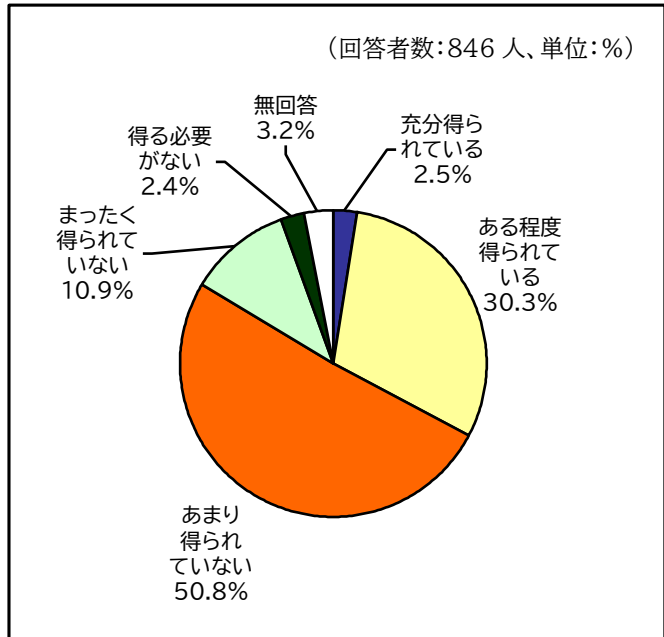
福祉情報の充足度については、「充分得られている」が2.5%、「ある程度得られている」が30.3%であり、これらを合わせると32.8%が“得られている”と回答しています。

一方、「あまり得られていない」が50.8%、「まったく得られていない」が10.9%であり、これらを合わせると61.7%が“得られていない”と回答しています。

表 福祉情報の充足度

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
充分得られている	21 (2.5)
ある程度得られている	256 (30.3)
あまり得られていない	430 (50.8)
まったく得られていない	92 (10.9)

図 福祉情報の充足度

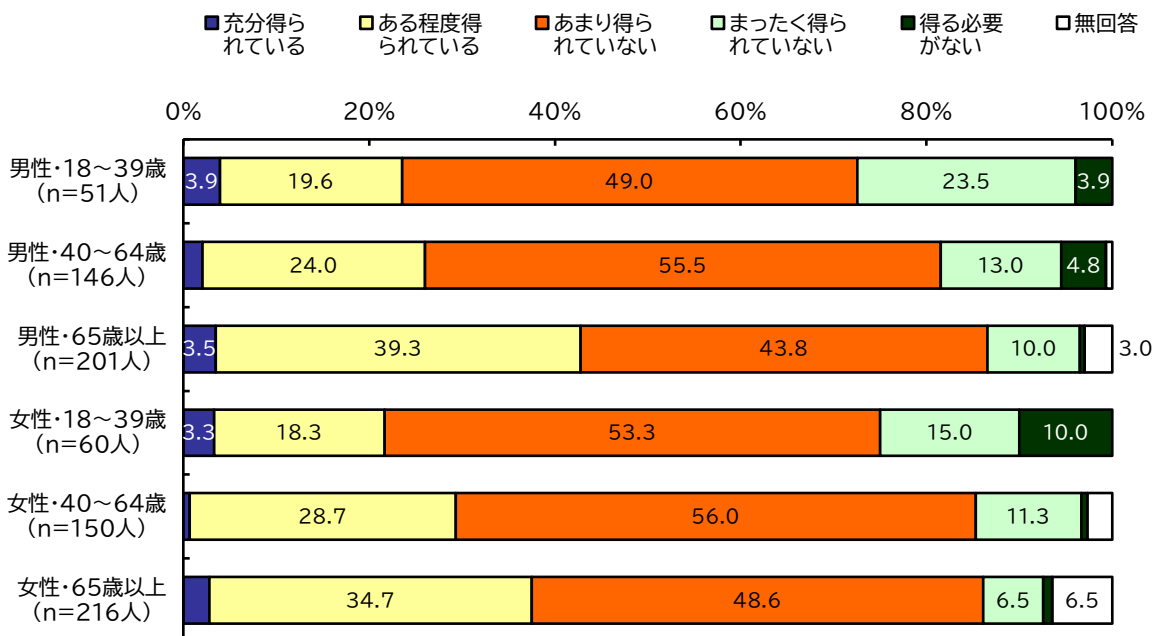


区分	人 (%)
得る必要がない	20 (2.4)
無回答	27 (3.2)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに年齢層が高くなるほど“得られている”の割合が高くなっています。

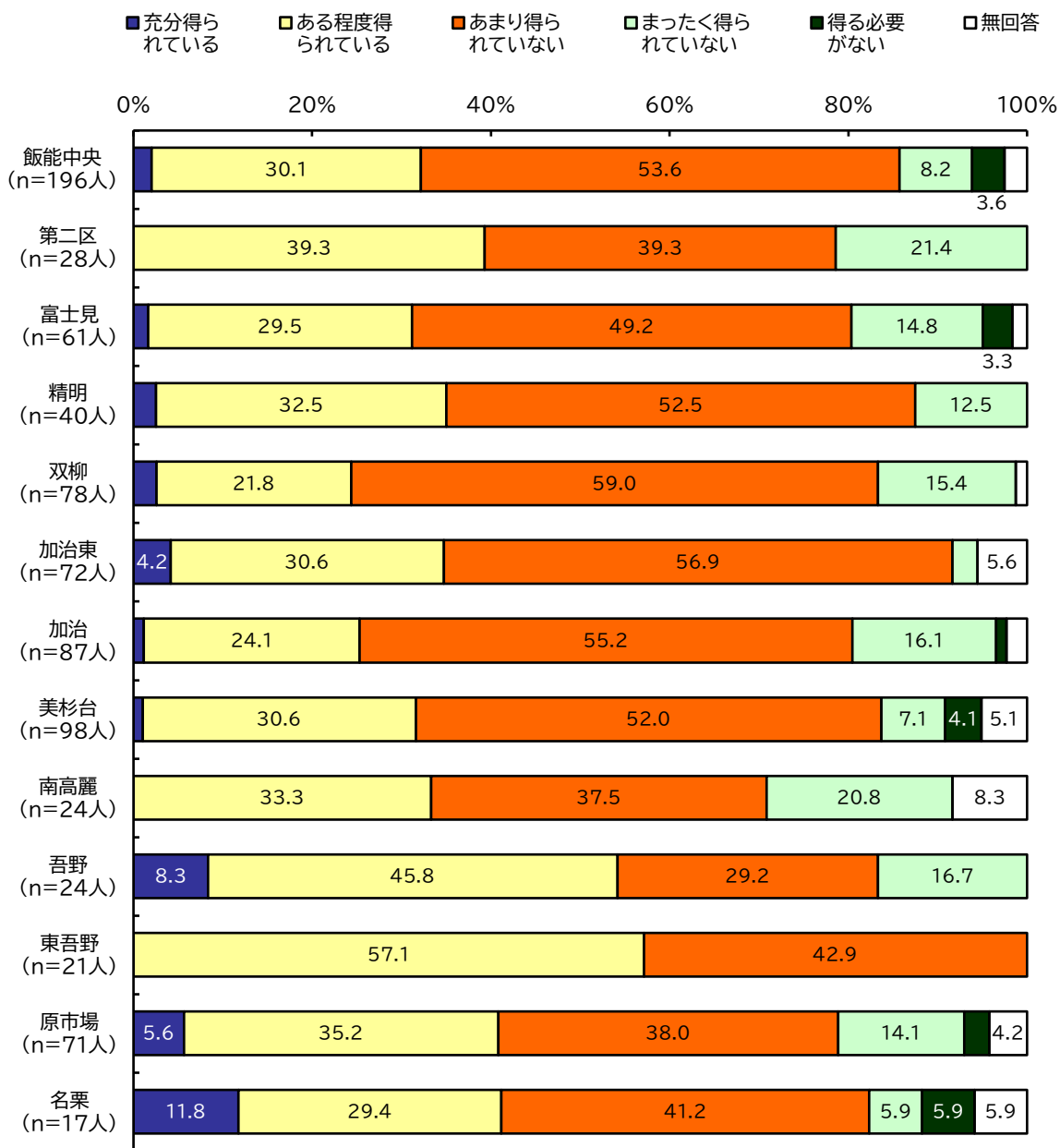
図 性・年齢別にみた福祉情報の充足度



【圏域別】

これを圏域別にみると、“得られている”の割合は吾野及び東吾野で高く、加治で低くなっています。

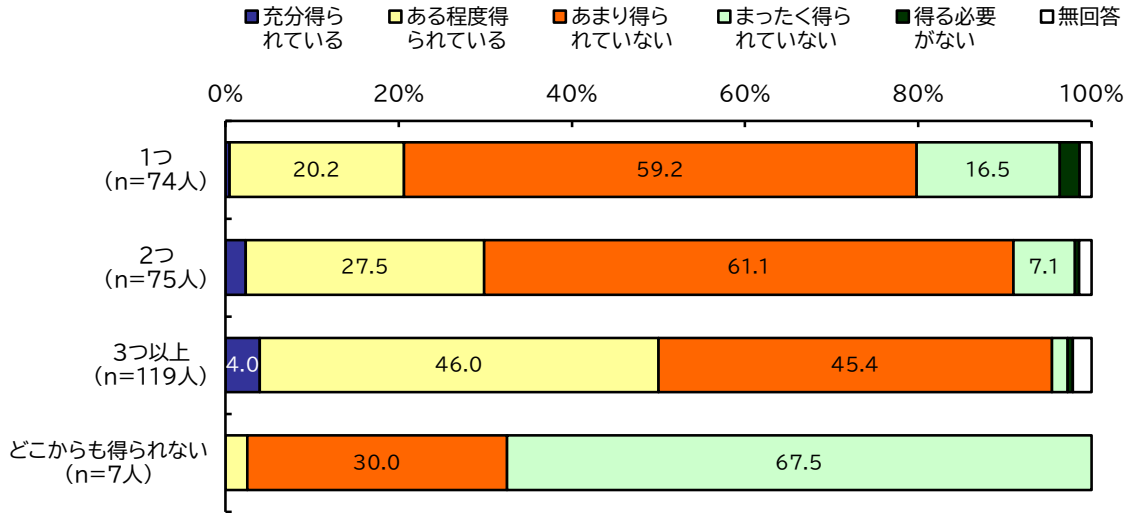
図 圏域別にみた福祉情報の充足度



【福祉情報の入手先の数別】

これを福祉情報の入手先の数別にみると、入手先の数が増えるに従って「ある程度得られている」の割合が高くなる傾向がみられます。なお、「3つ以上」の回答者においても「あまり得られていない」が45.4%と比較的多くみられます。

図 福祉情報の入手先の数別にみた福祉情報の充足度



第6節 安心・安全なまちづくりについて

1-6-1 虐待に関する通報義務の認知度（問15）

問15 高齢者虐待防止法、児童虐待防止法及び障害者虐待防止法では、虐待を見聞きした市民は市町村や児童相談所、警察などに通報することが義務づけられています。あなたは、このこと（通報義務）をご存じでしたか。（1つだけに○）

「はい」が53.5%

虐待に関する通報義務の認知度については、「はい」が53.5%、「いいえ」が31.3%、「どちらともいえない」が13.1%となっています。

図 虐待に関する通報義務の認知度

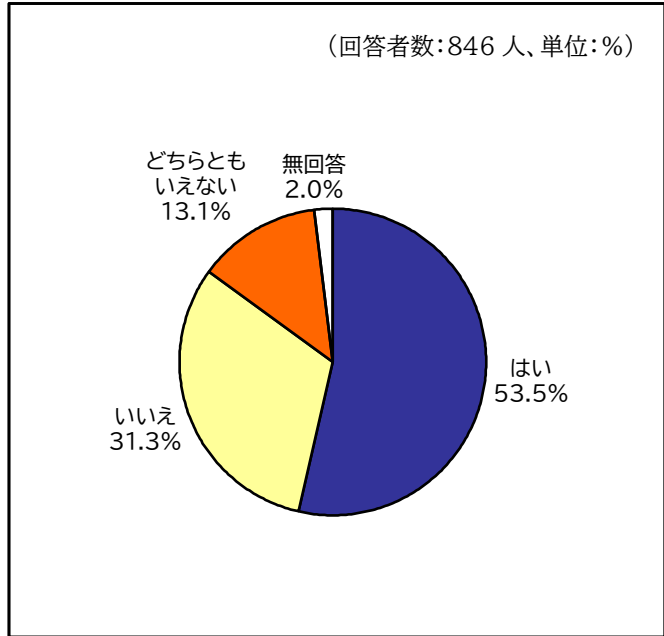


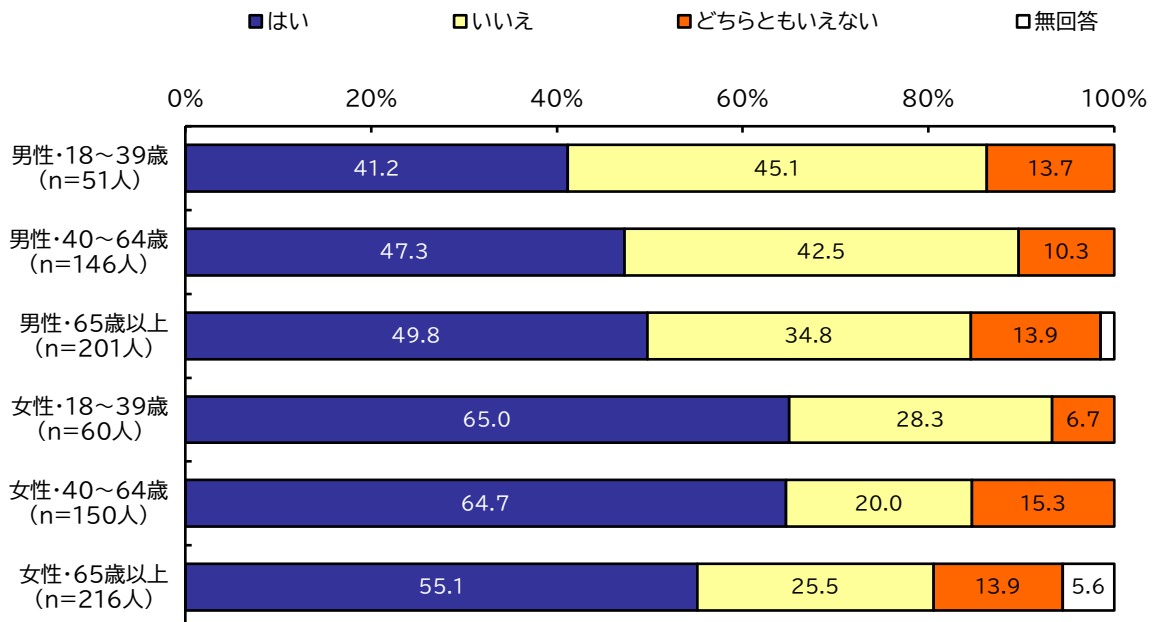
表 虐待に関する通報義務の認知度

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
はい	453 (53.5)
いいえ	265 (31.3)
どちらともいえない	111 (13.1)
無回答	17 (2.0)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、女性の18～64歳では「はい」の割合が他の回答者に比べて高くなっています。

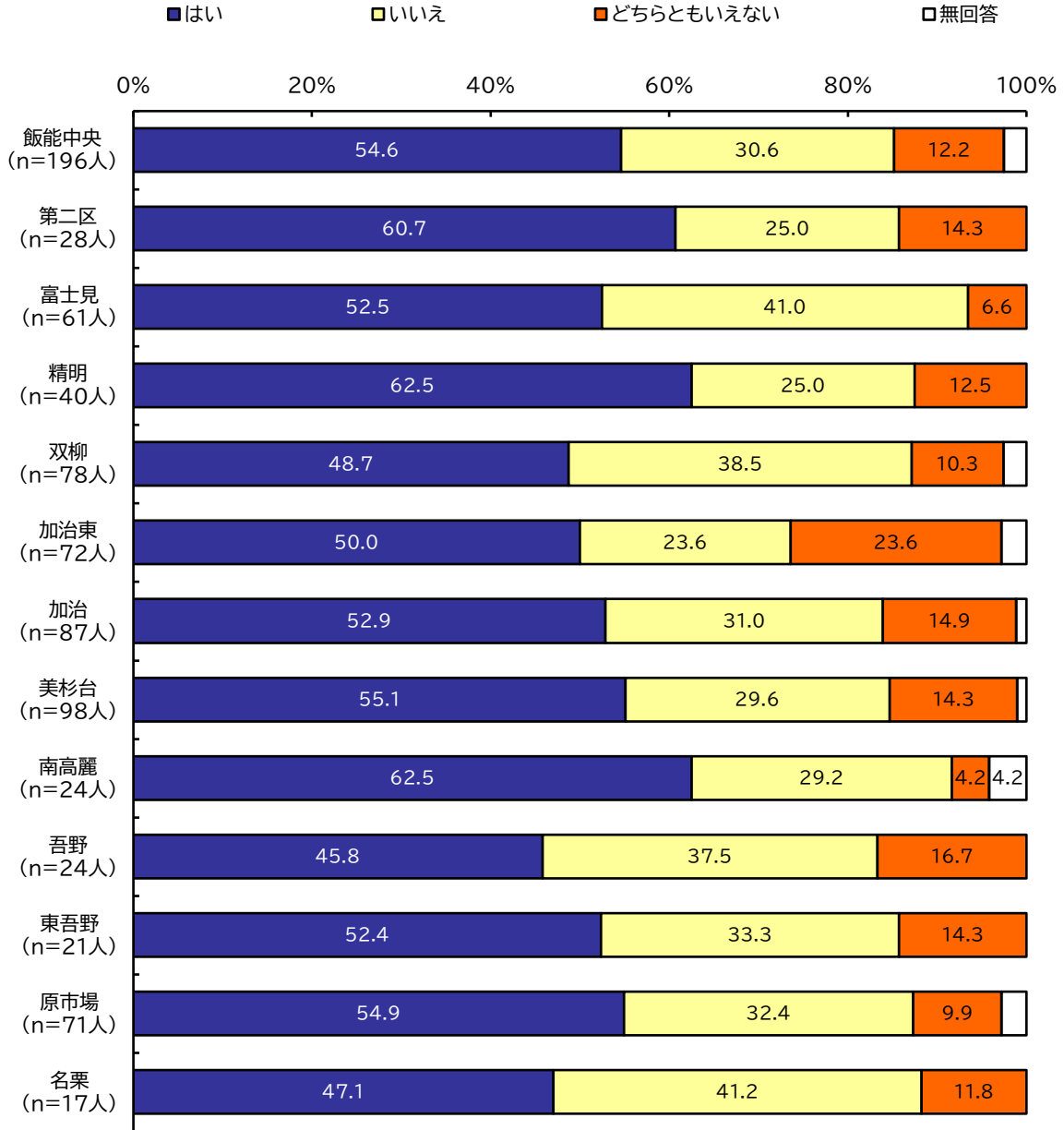
図 性・年齢別にみた虐待に関する通報義務の認知度



【圏域別】

これを圏域別にみると、南高麗、精明及び第二区で「はい」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた虐待に関する通報義務の認知度



〔参考〕虐待に関する通報義務の認知度の有無による福祉情報の入手状況の違い

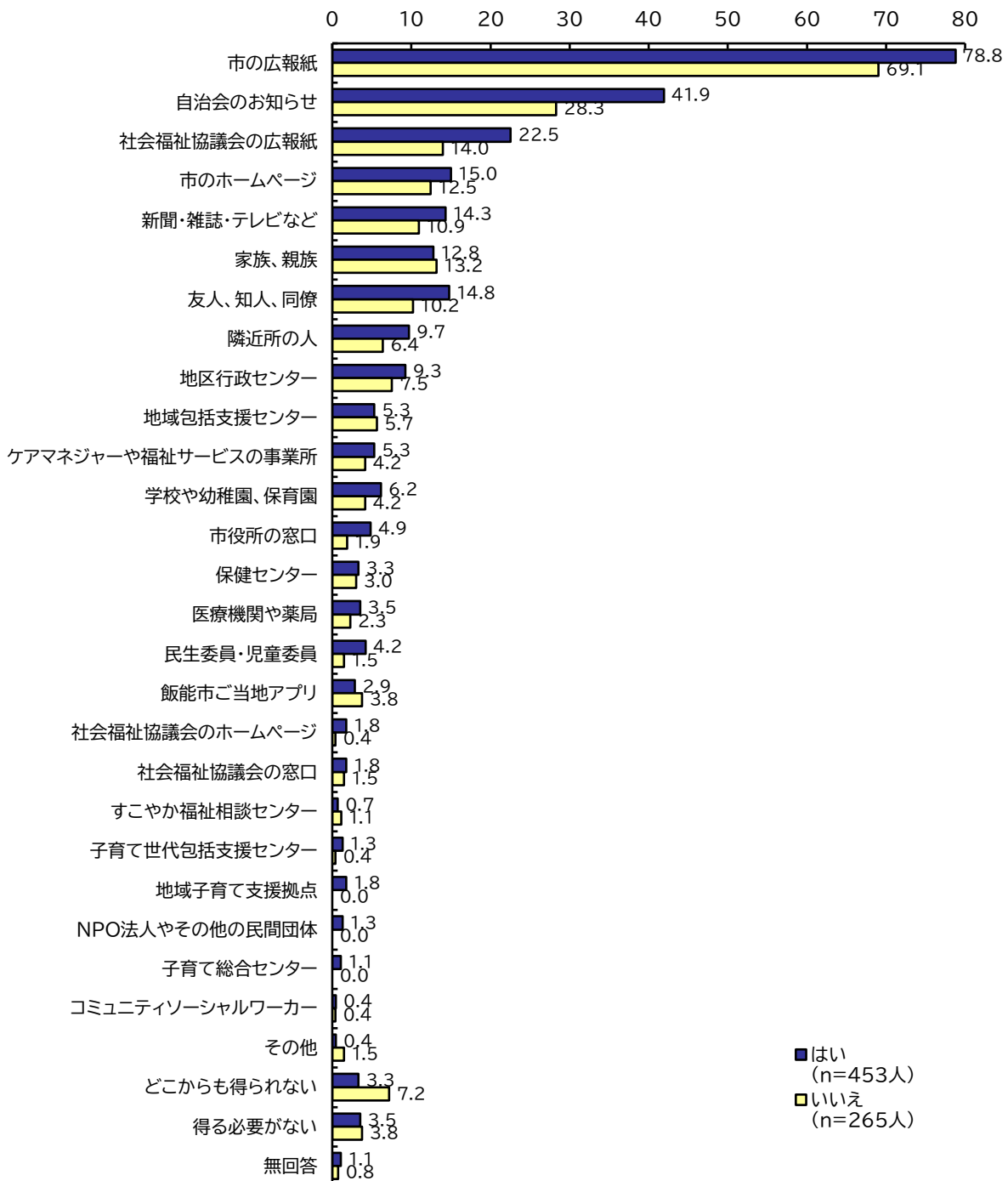
※問15、問13を基に作成

通報義務を認知している回答者は「市の広報紙」や「自治会のお知らせ」、「社会福祉協議会の広報紙」の割合が高い

虐待に関する通報義務を認知している回答者と認知していない回答者では、福祉情報の入手の仕方にもどのような違いがあるかを調べるため、問15と問13をクロス集計した。

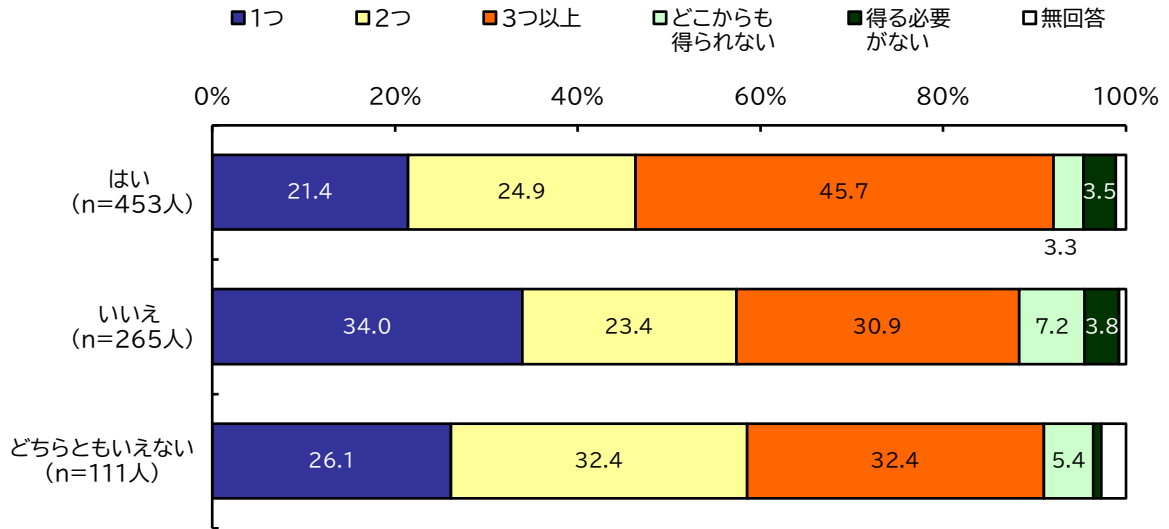
その結果、通報義務を認知している回答者は、認知していない回答者に比べて「市の広報紙」や「自治会のお知らせ」、「社会福祉協議会の広報紙」の割合が高くなっています。

図 虐待に関する通報義務の認知度（問15）別にみた福祉情報の入手先（問13：複数回答） 単位：%



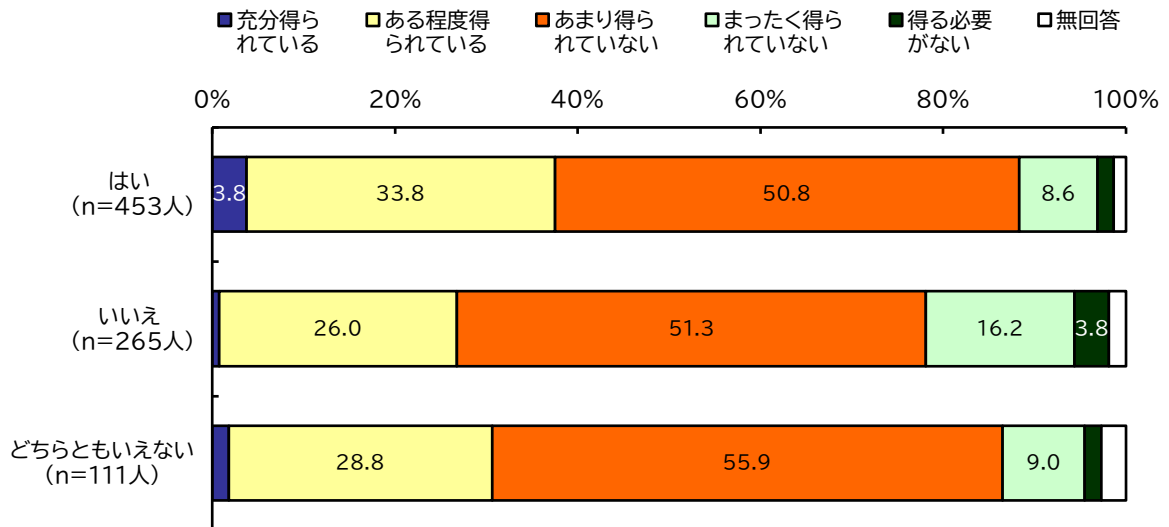
また、虐待に関する通報義務の認知度（問15）別に福祉情報の入手先の数（問13を基に作成）をみると、認知している回答者は認知していない回答者に比べて「3つ以上」の割合が高くなっています。

図 虐待に関する通報義務の認知度（問15）別にみた福祉情報の入手先の数（問13を基に作成）
単位：%



虐待に関する通報義務の認知度（問15）別に福祉情報の満足度（問14）をみると、認知している回答者は認知していない回答者に比べて「充分得られている」及び「ある程度得られている」の割合が高くなっています。

図 虐待に関する通報義務の認知度（問15）別にみた福祉情報の満足度（問14）
単位：%



1-6-2 防災対策の実施状況（問16）

問16 あなたのご家庭では、飲料、食料、生活必需品等の備蓄や家族の安否確認の方法、避難方法の確認などの防災対策を行っていますか。（1つだけに○）

“行っている”が72.9%

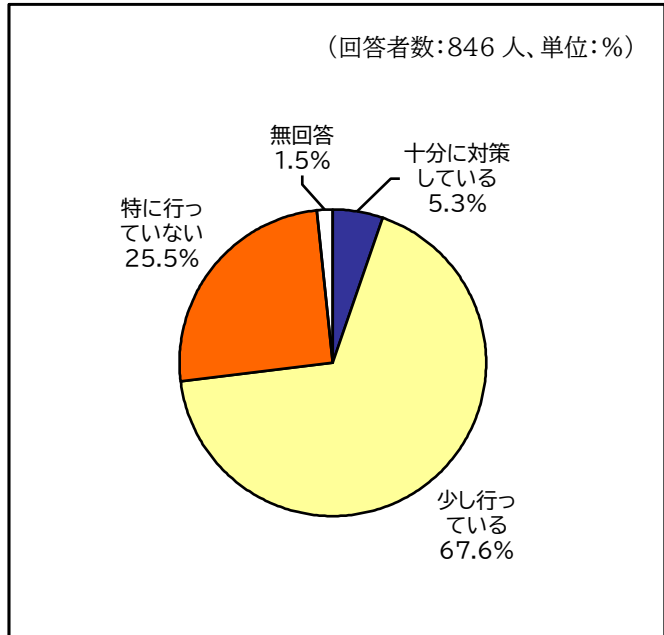
防災対策の実施状況については、「十分に対策している」が5.3%、「少し行っている」が67.6%であり、これらを合わせると72.9%が“行っている”と回答しています。

一方、「特に行っていない」は25.5%となっています。

表 防災対策の実施状況

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
十分に対策している	45 (5.3)
少し行っている	572 (67.6)
特に行っていない	216 (25.5)
無回答	13 (1.5)

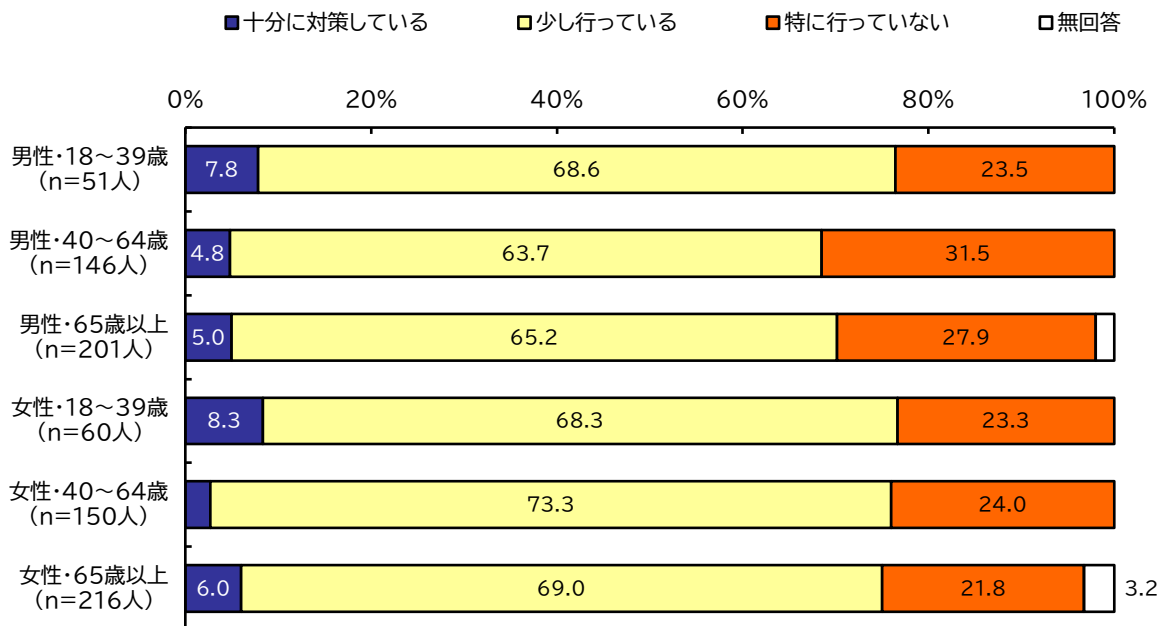
図 防災対策の実施状況



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、特に顕著な違いはみられません。

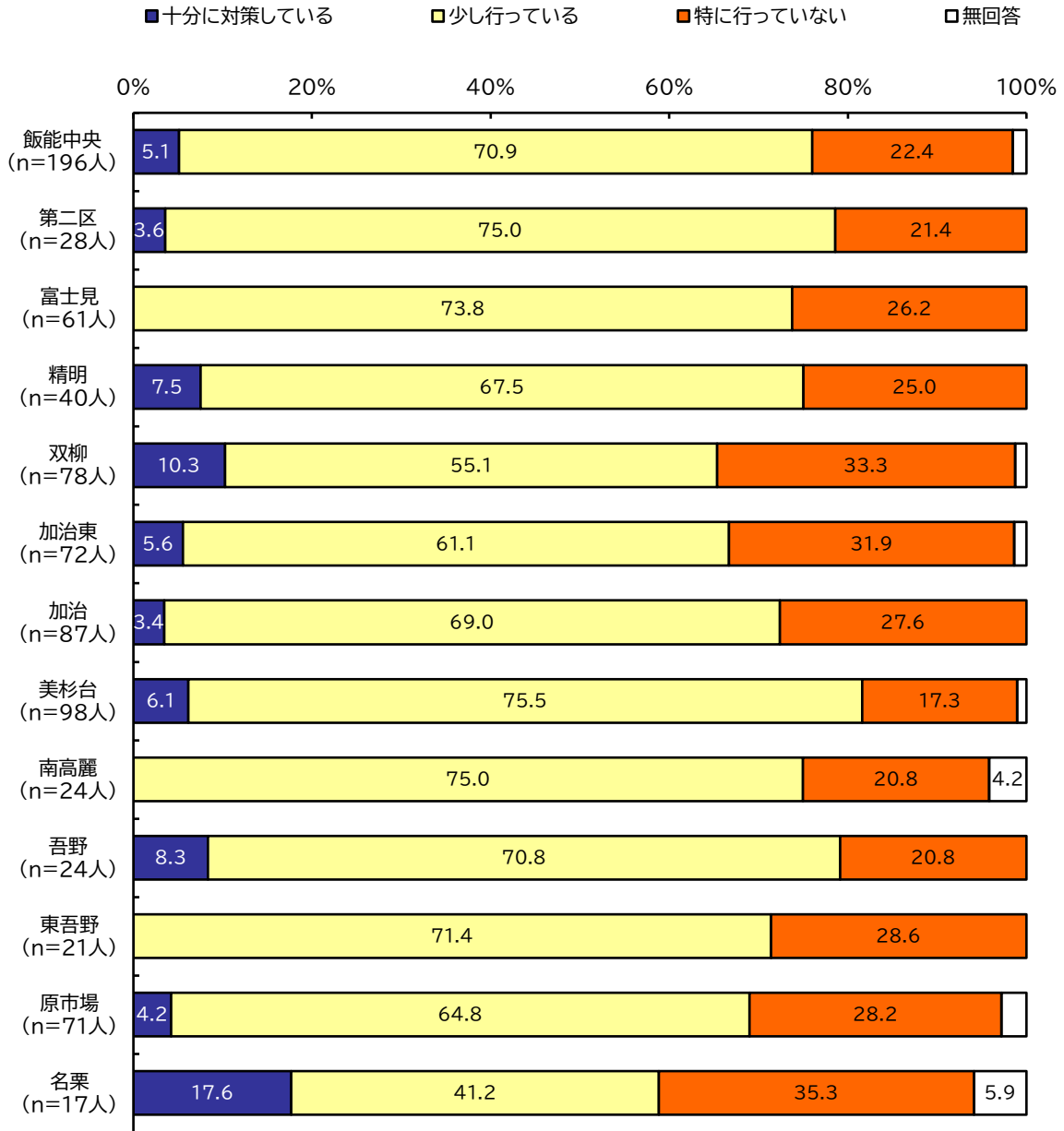
図 性・年齢別にみた防災対策の実施状況



【圏域別】

これを圏域別にみると、名栗は「充分に対策している」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別に見た防災対策の実施状況



1-6-3 防災訓練への参加状況（問17）

問17 地域の防災訓練に参加していますか。（1つだけに○）

“参加している”は42.7%

防災訓練への参加状況については、「いつも参加している」が11.1%、「ときどき参加している」が31.6%であり、これらを合わせると42.7%が“参加している”と回答しています。

一方、「参加したことはない」は55.0%となっています。

図 防災訓練への参加状況

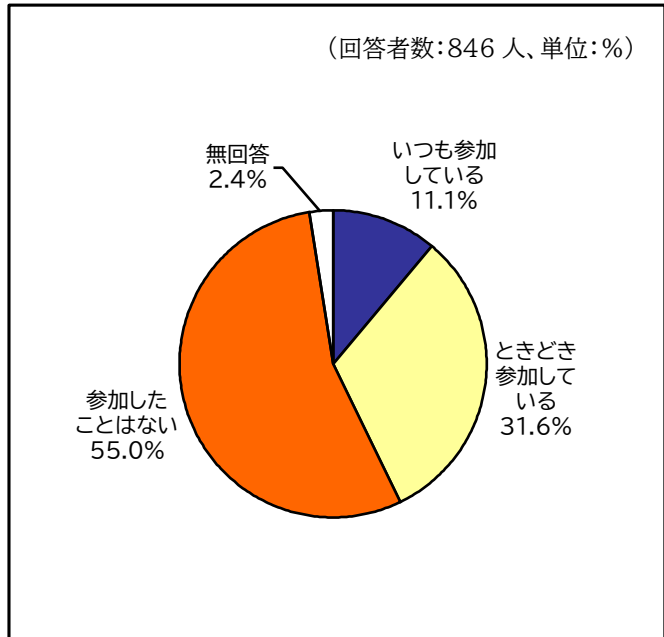


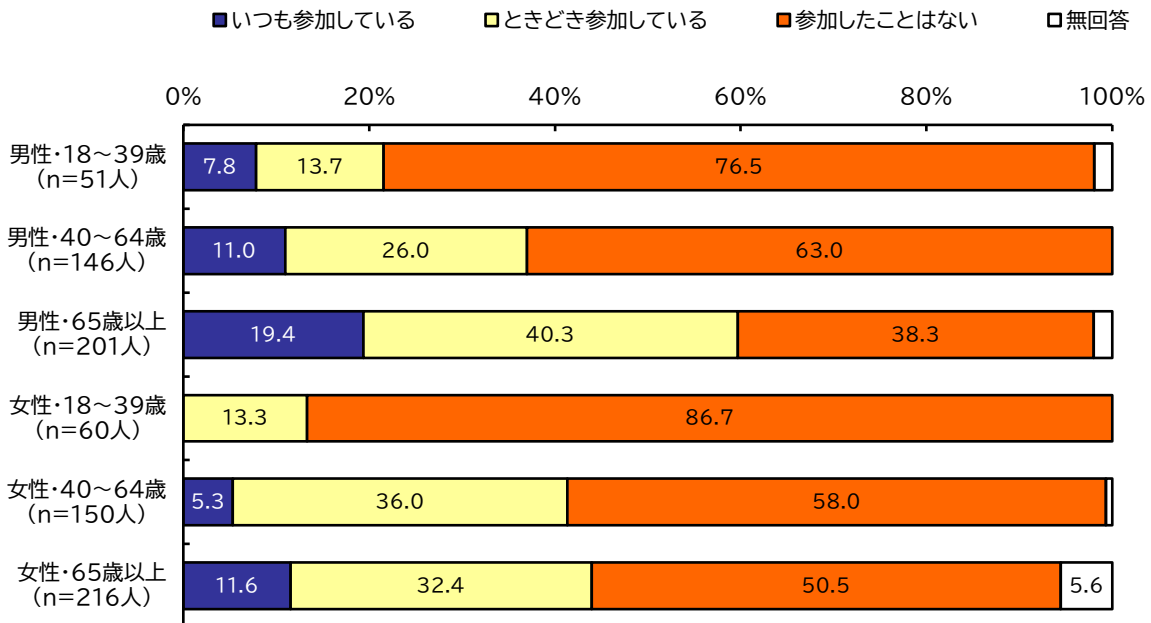
表 防災訓練への参加状況

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
いつも参加している	94 (11.1)
ときどき参加している	267 (31.6)
参加したことはない	465 (55.0)
無回答	20 (2.4)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性は年齢層が高くなるほど「いつも参加している」の割合が高くなっています。また、女性はそのどの年齢層においても「いつも参加している」の割合が男性に比べて低くなっています。

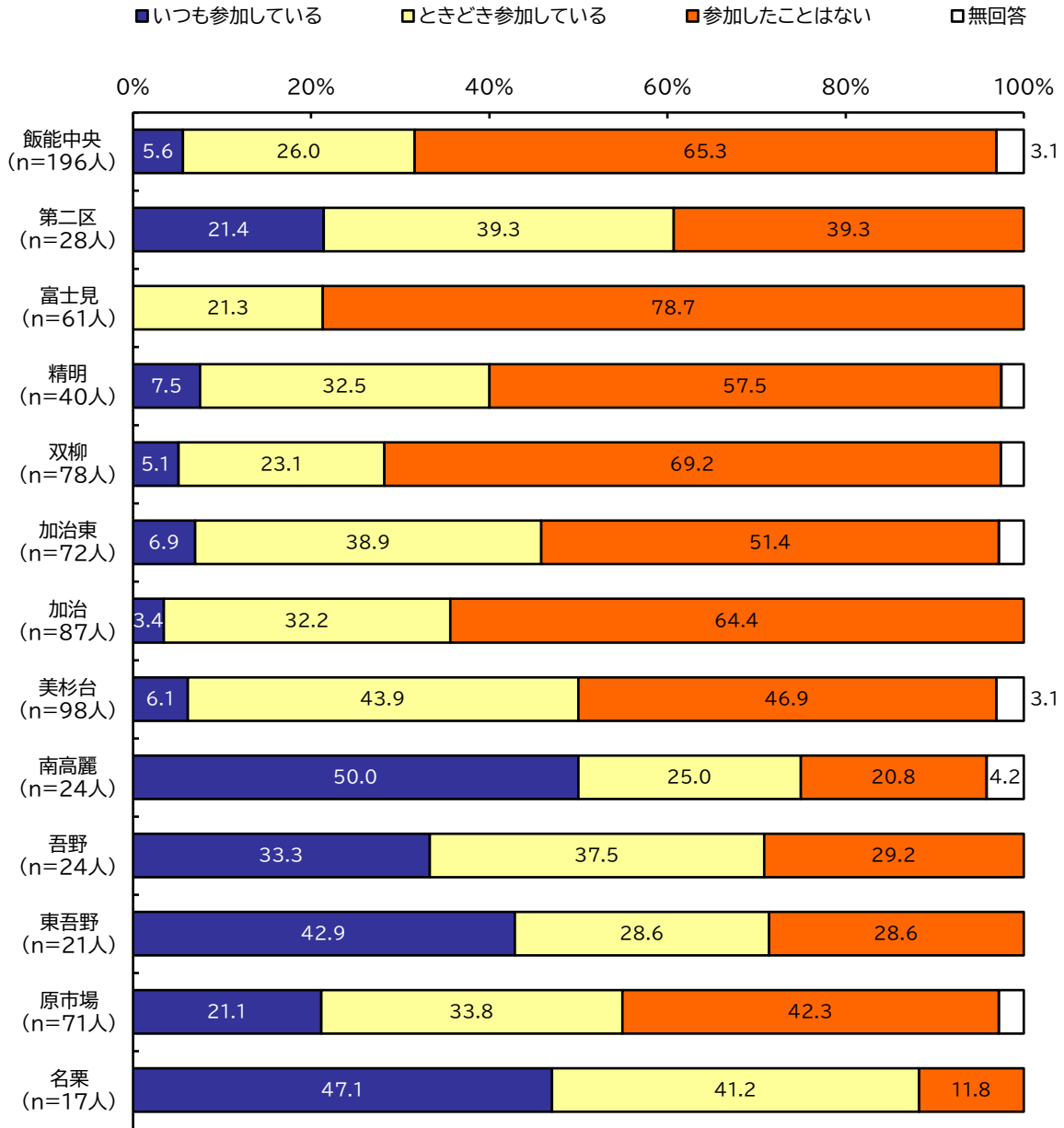
図 性・年齢別にみた防災訓練への参加状況



【圏域別】

これを圏域別にみると、南高麗、吾野、東吾野及び名栗では「いつも参加している」の割合が高く、富士見や加治などでは低くなっているなど、圏域による違いが顕著となっています。

図 圏域別にみた防災訓練への参加状況



第7節 困っていることや相談窓口について

1-7-1 困りごとの内容（問18）

問18 現在、あなた自身やご家庭のことで困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

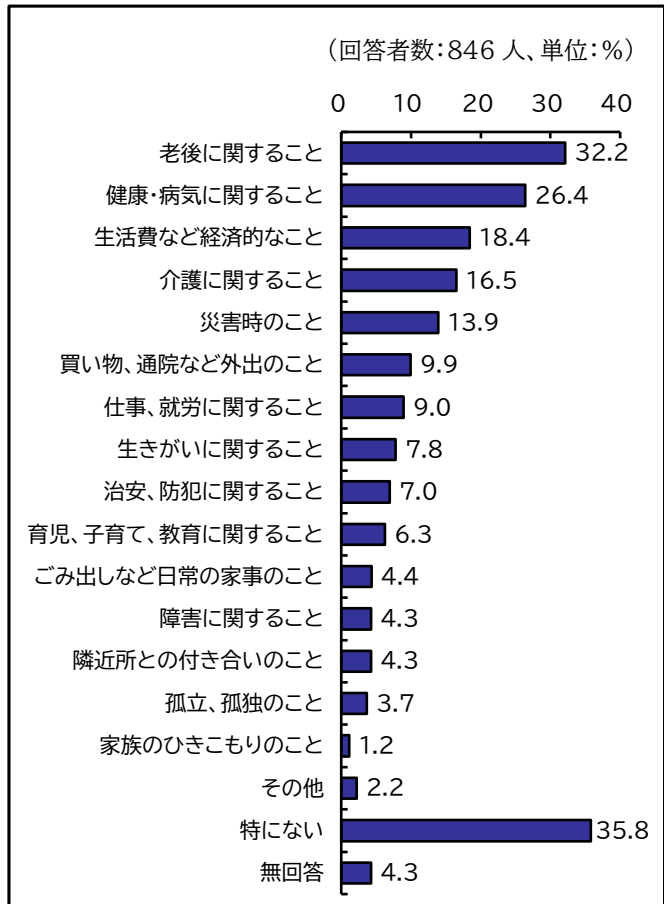
「老後に関すること」が最も多い

困りごとの内容については、「老後に関すること」が32.2%で最も多く、次いで「健康・病気に関すること」が26.4%、「生活費など経済的なこと」が18.4%で続いています。

表 困りごとの内容（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
老後に関すること	272 (32.2)
健康・病気に関すること	223 (26.4)
生活費など経済的なこと	156 (18.4)
介護に関すること	140 (16.5)
災害時のこと	118 (13.9)
買い物、通院など外出のこと	84 (9.9)
仕事、就労に関すること	76 (9.0)
生きがいに関すること	66 (7.8)
治安、防犯に関すること	59 (7.0)
育児、子育て、教育に関すること	53 (6.3)
ごみ出しなど日常の家事のこと	37 (4.4)
障害に関すること	36 (4.3)
隣近所との付き合いのこと	36 (4.3)
孤立、孤独のこと	31 (3.7)
家族のひきこもりのこと	10 (1.2)
その他	19 (2.2)
特にない	303 (35.8)
無回答	36 (4.3)

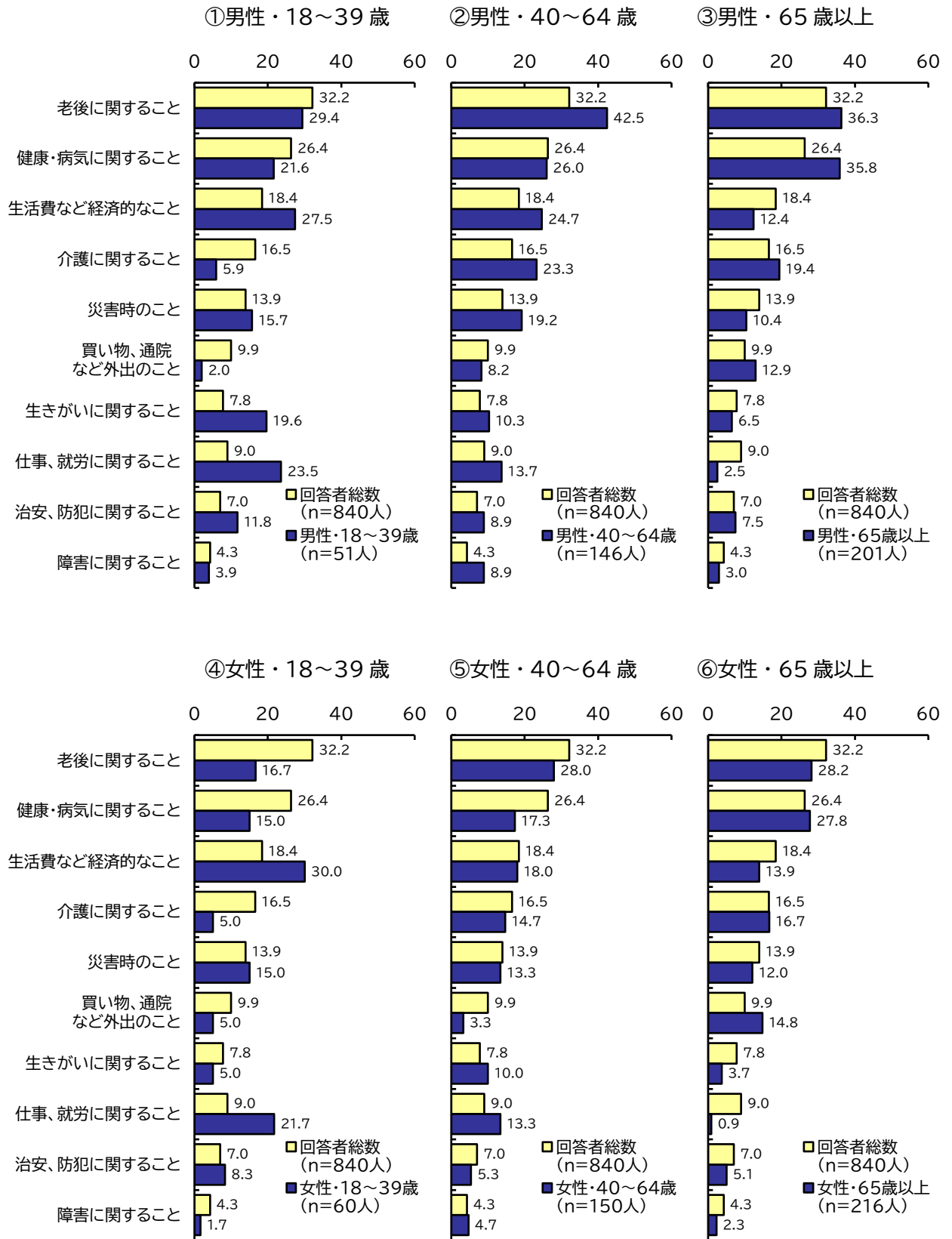
図 困りごとの内容（複数回答）



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「生活費など経済的なこと」や「生きがいに関すること」、「仕事、就労に関すること」など、他の回答者に比べて多くの項目で割合が高くなっています。

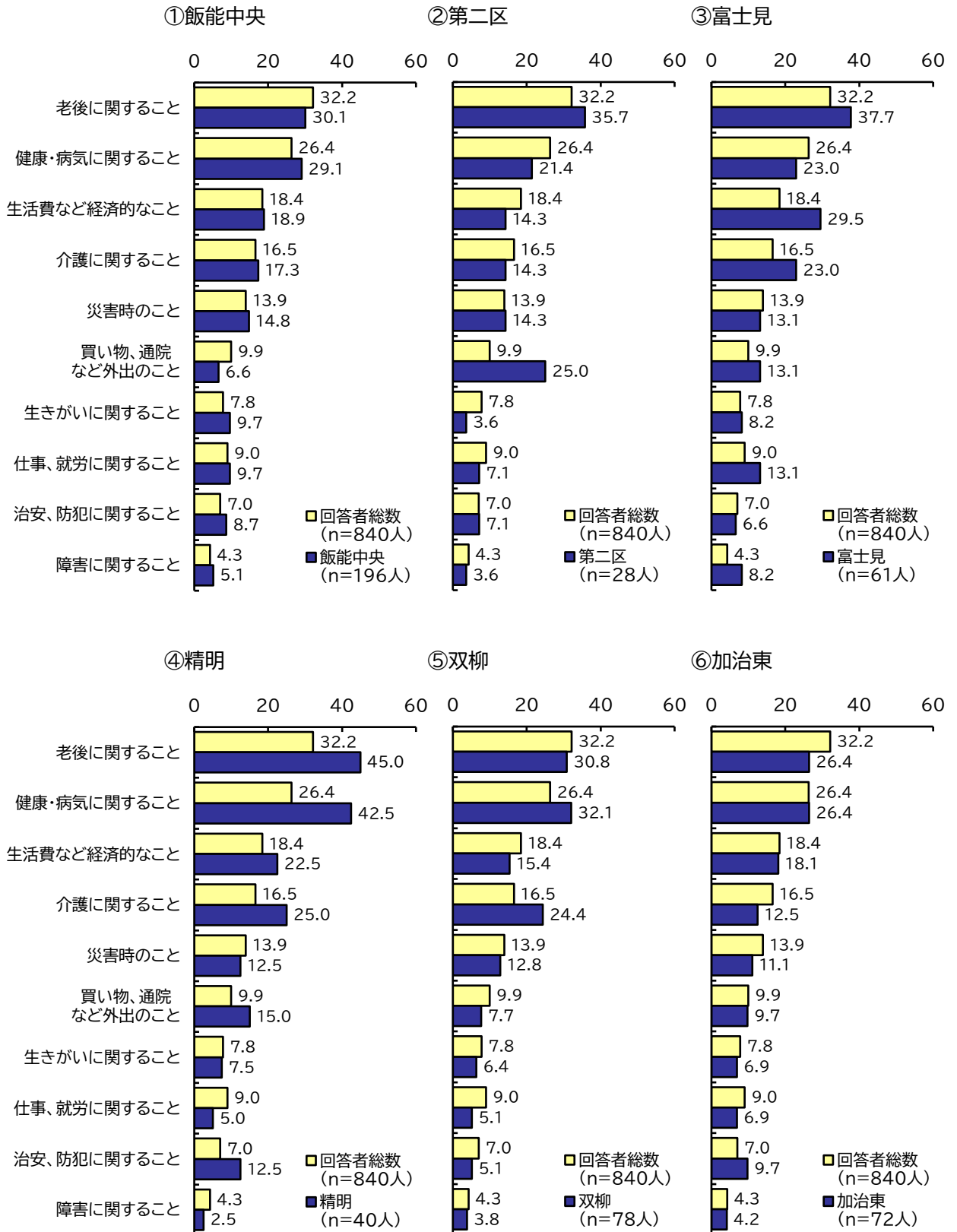
図 性・年齢別にみた困りごとの内容（複数回答）

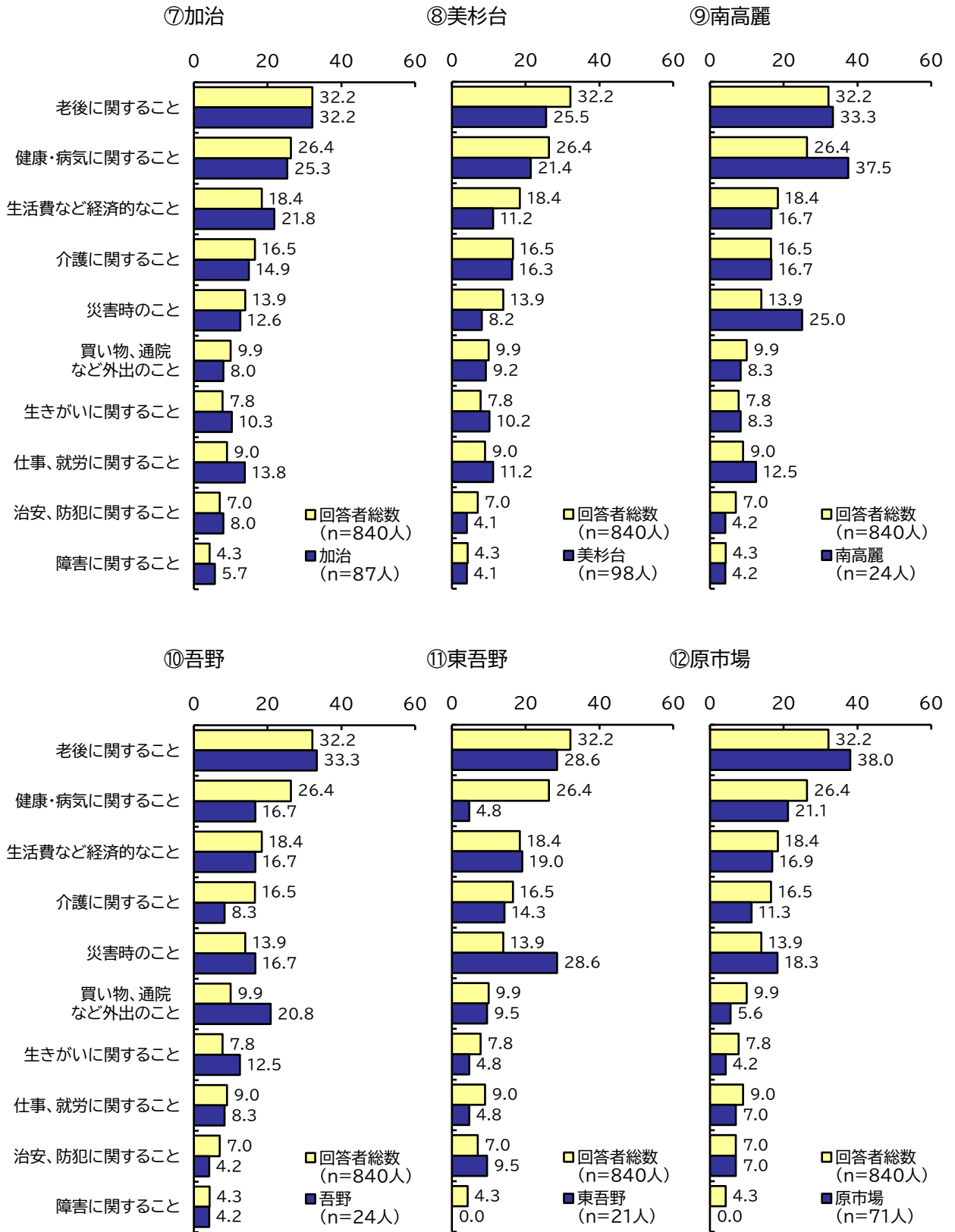


【圏域別】

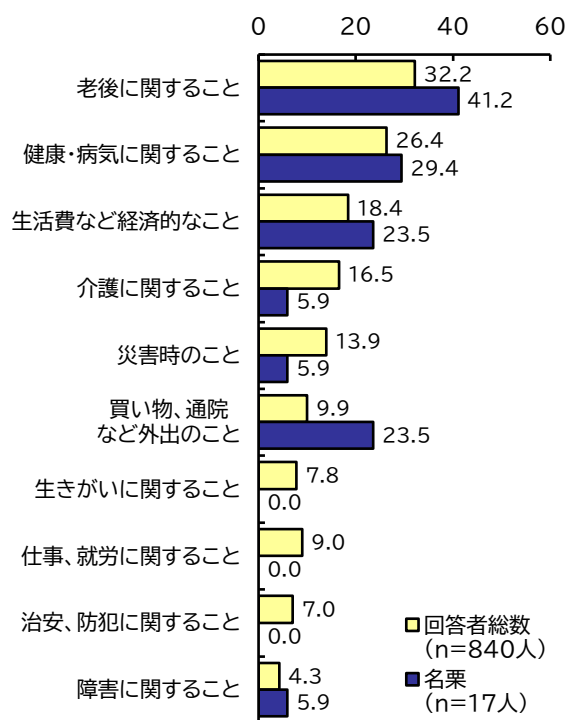
これを圏域別にみると、「老後に関すること」は精明及び名栗で多く、「健康・病気に関すること」は精明及び南高麗で多くみられます。また、「災害時のこと」は南高麗及び東吾野で多く、「買い物・通院など外出のこと」は第二区、吾野及び名栗で多くみられます。

図 圏域別にみた困りごとの内容（複数回答）





⑬名栗



1-7-2 気軽に相談できる相手や窓口の有無（問19）

問19 生活の中での困りごとが発生した際に、気軽に相談できる相手や窓口はありますか。（あてはまるものすべてに○）

「家族・親族」が最も多い

気軽に相談できる相手や窓口の有無については、「家族・親族」が78.3%で最も多く、次いで「友人、知人、同僚」が42.8%、「隣近所の人」が15.7%が続いています。

図 気軽に相談できる相手や窓口の有無（複数回答）

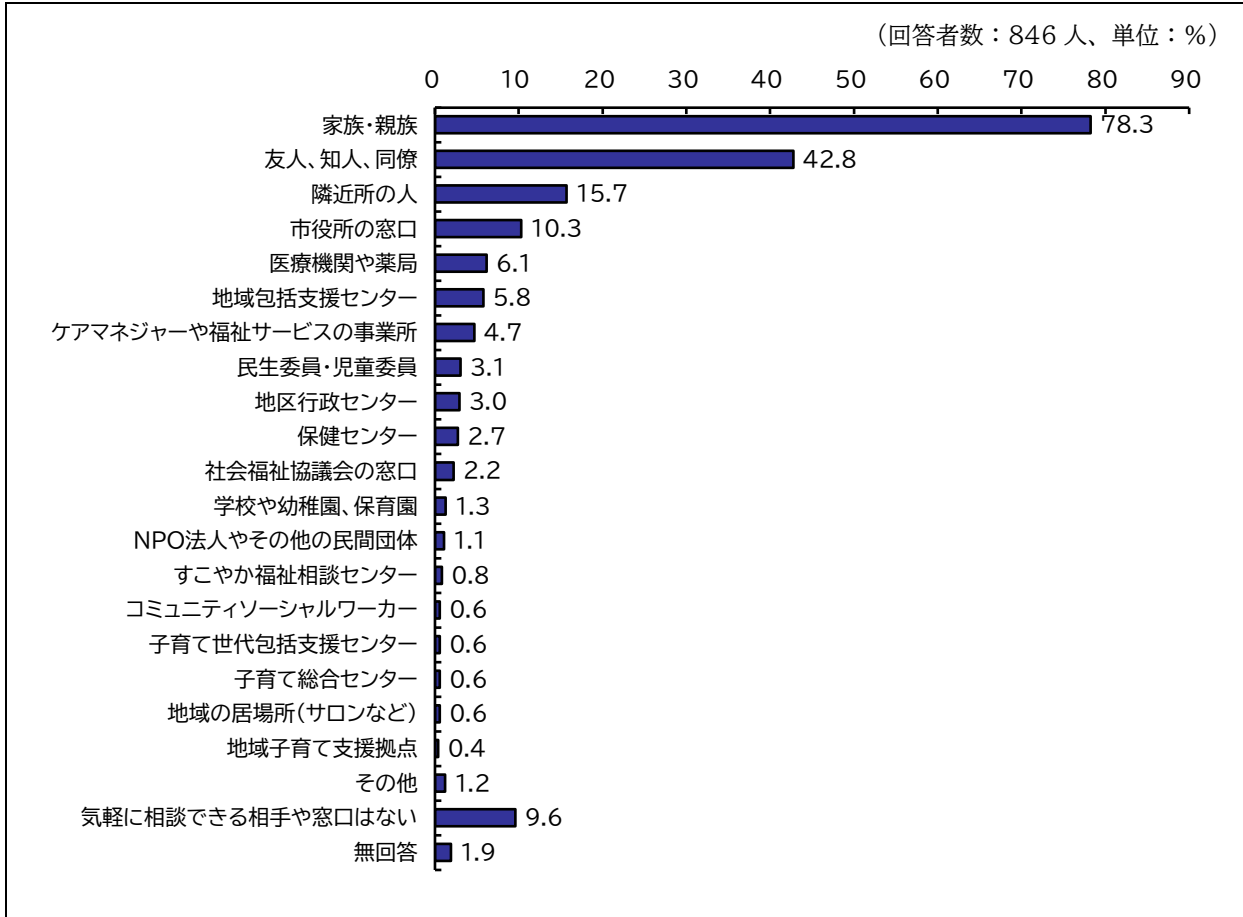


表 気軽に相談できる相手や窓口の有無（複数回答）

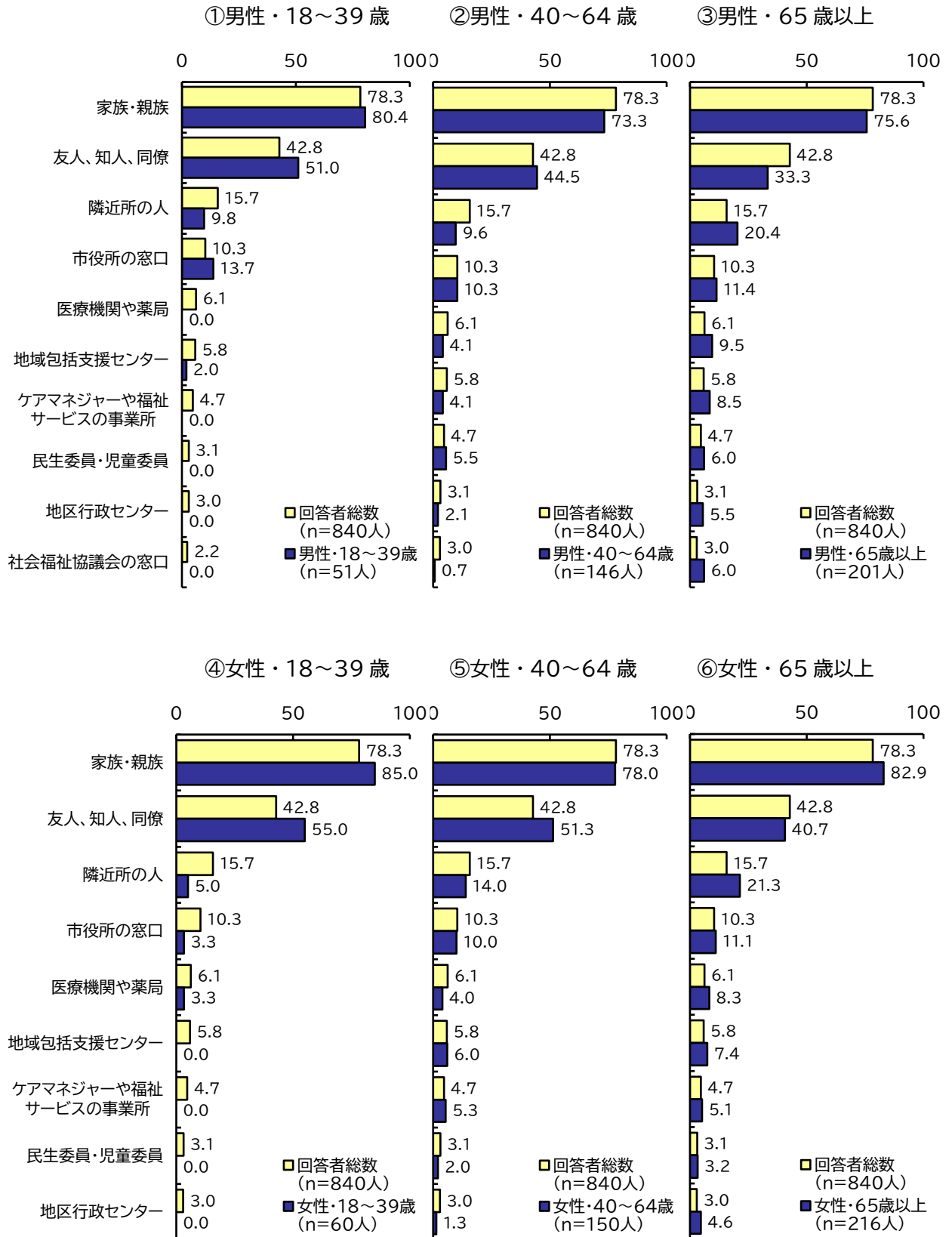
区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
家族・親族	662 (78.3)
友人、知人、同僚	362 (42.8)
隣近所の人	133 (15.7)
市役所の窓口	87 (10.3)
医療機関や薬局	52 (6.1)
地域包括支援センター	49 (5.8)
ケアマネジャーや福祉サービスの事業所	40 (4.7)
民生委員・児童委員	26 (3.1)
地区行政センター	25 (3.0)
保健センター	23 (2.7)
社会福祉協議会の窓口	19 (2.2)
学校や幼稚園、保育園	11 (1.3)
NPO法人やその他の民間団体	9 (1.1)
すこやか福祉相談センター	7 (0.8)
コミュニティソーシャルワーカー	5 (0.6)

区分	人 (%)
子育て世代包括支援センター	5 (0.6)
子育て総合センター	5 (0.6)
地域の居場所(サロンなど)	5 (0.6)
地域子育て支援拠点	3 (0.4)
その他	10 (1.2)
気軽に相談できる相手や窓口はない	81 (9.6)
無回答	16 (1.9)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、「家族・親族」の割合は性・年齢による違いはみられず、「友人・知人、同僚」の割合は男性の65歳以上が他の回答者に比べてやや低くなっています。

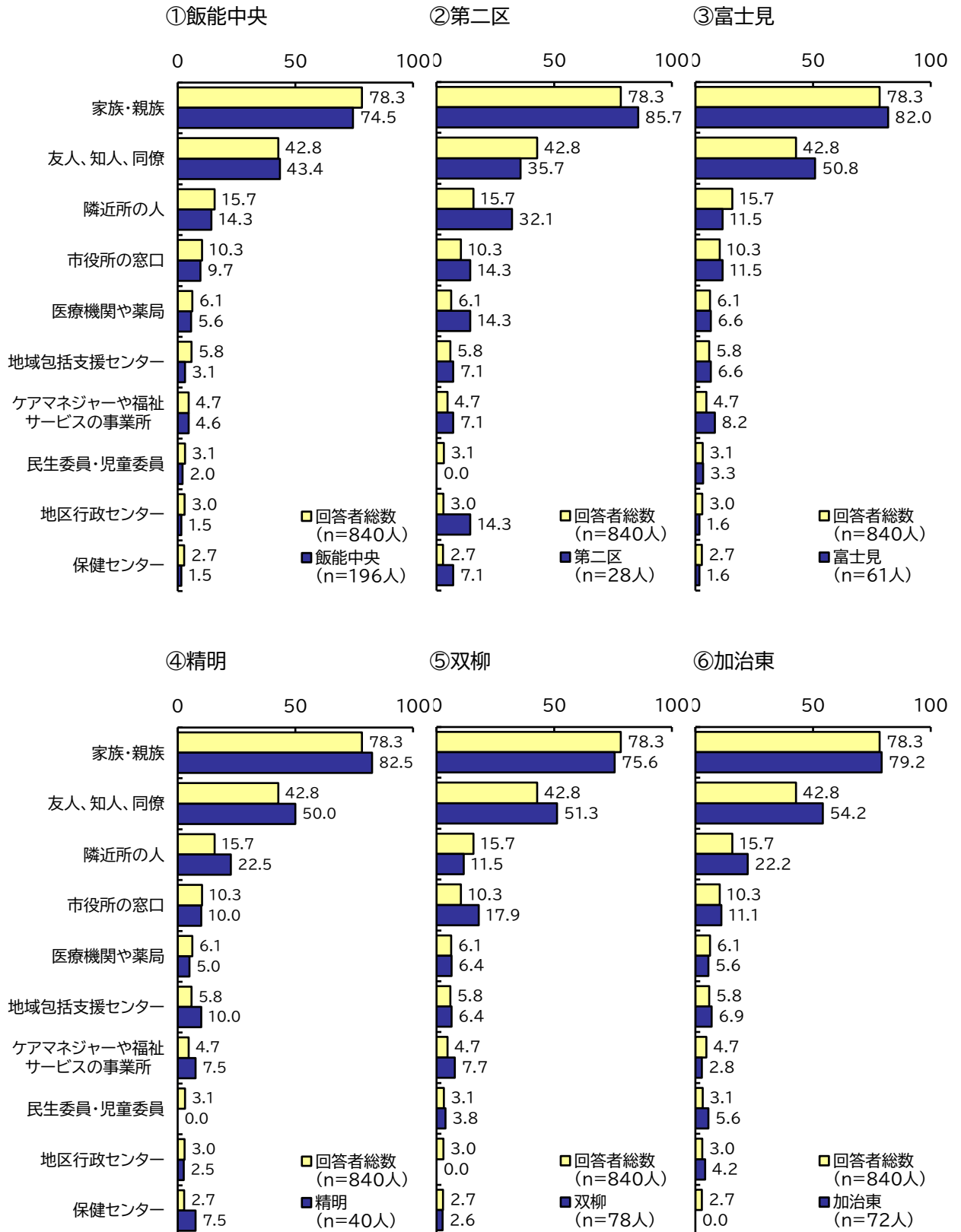
図 性・年齢別にみた気軽に相談できる相手や窓口の有無（複数回答、上位10位）



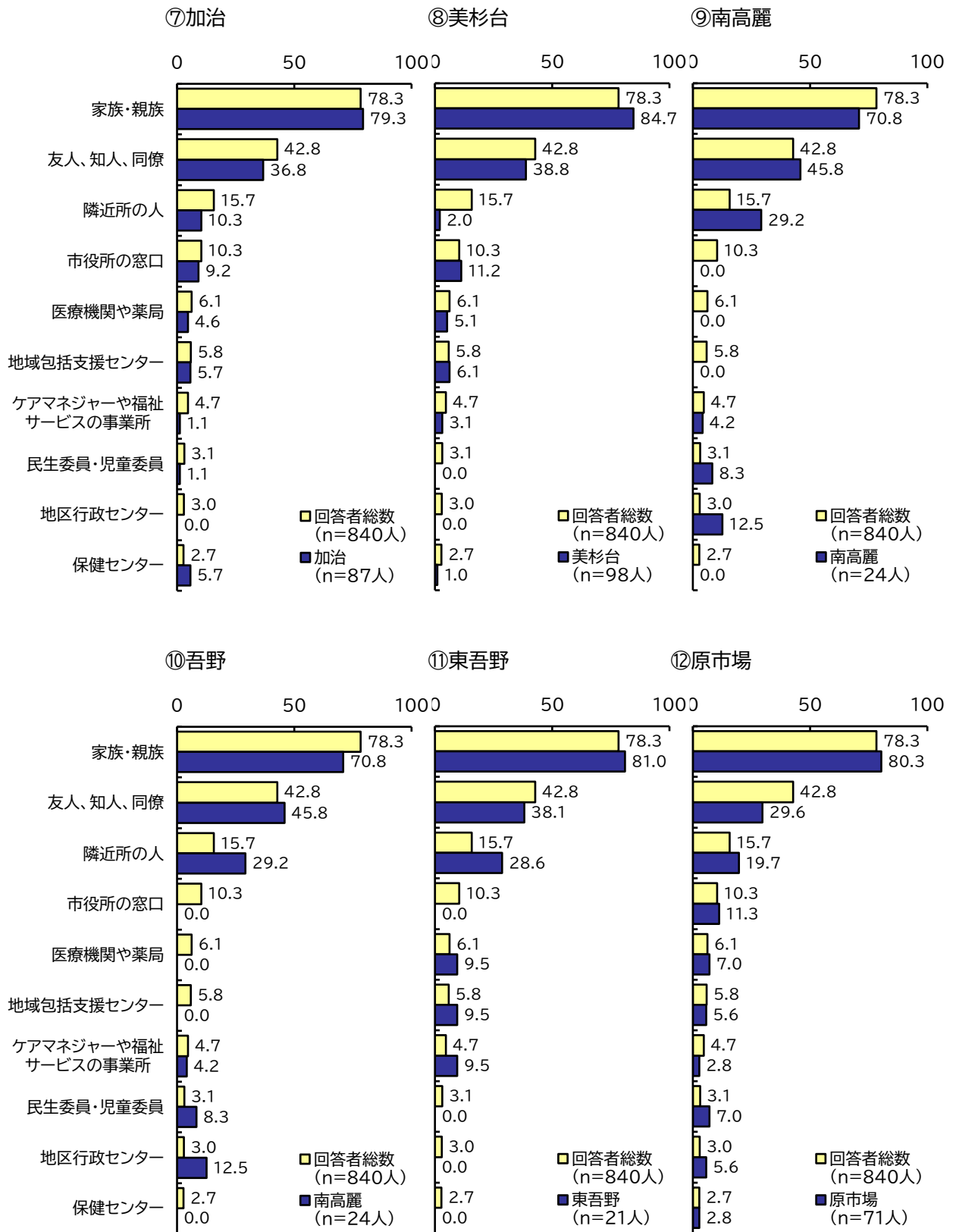
【圏域別】

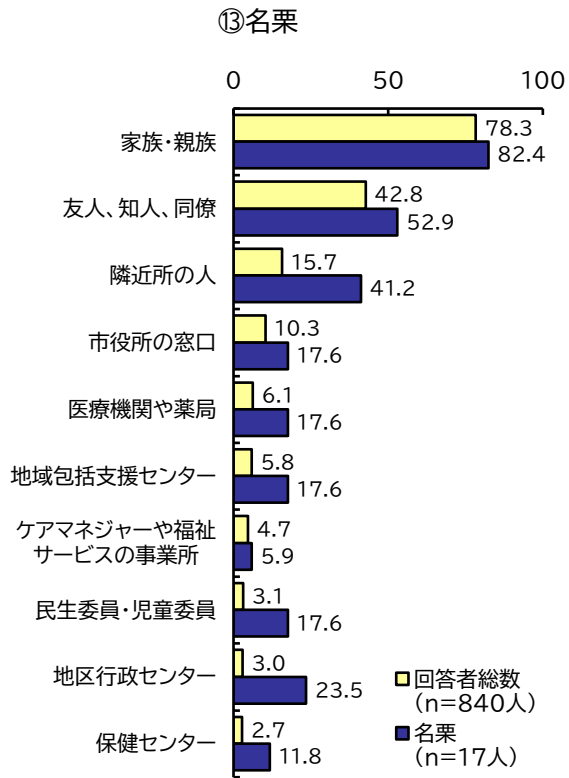
これを圏域別にみると、名栗は「友人・知人、同僚」や「隣近所の人」など、様々な項目における割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた気軽に相談できる相手や窓口の有無（複数回答、上位10位）



第1章 一般市民向けアンケート





1-7-3 相談しやすい窓口の数（問19を基に作成）

※問19の回答構成を基に作成

“2つ以上”が54.4%

気軽に相談できる相手や窓口（問19）の回答構成から相談窓口の数について調べたところ、「2つ」が30.4%、「3つ以上」が24.0%であり、これらを合わせると54.4%が“2つ以上”と回答しています。

図 相談しやすい窓口の数

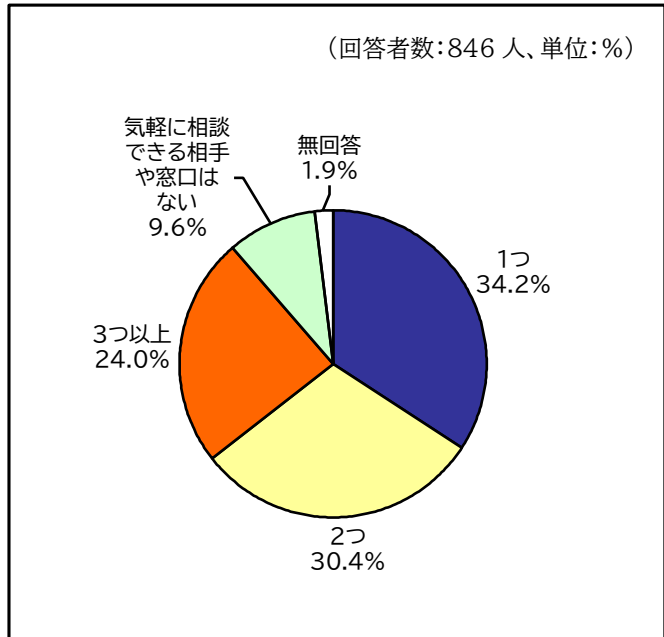


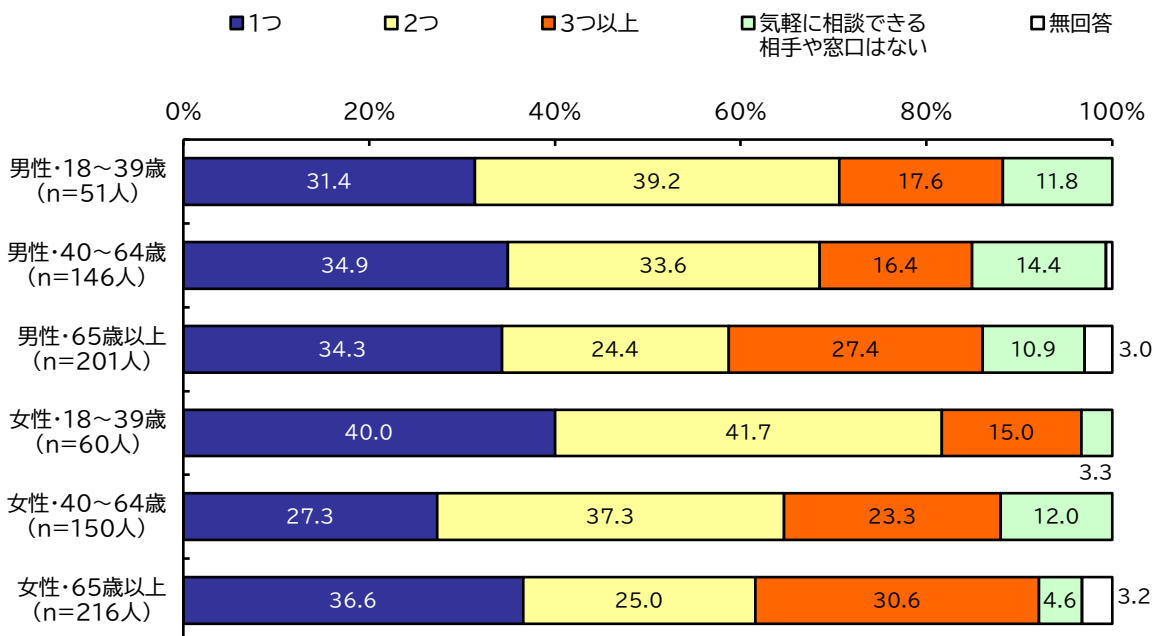
表 相談しやすい窓口の数

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
1つ	289 (34.2)
2つ	257 (30.4)
3つ以上	203 (24.0)
気軽に相談できる相手や窓口はない	81 (9.6)
無回答	16 (1.9)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに年齢が高くなるほど「2つ」の割合が低くなり、「3つ以上」の割合が高くなる傾向がみられます。また、男性はどの年齢層においても「気軽に相談できる相手や窓口はない」の割合が10%超となっています。

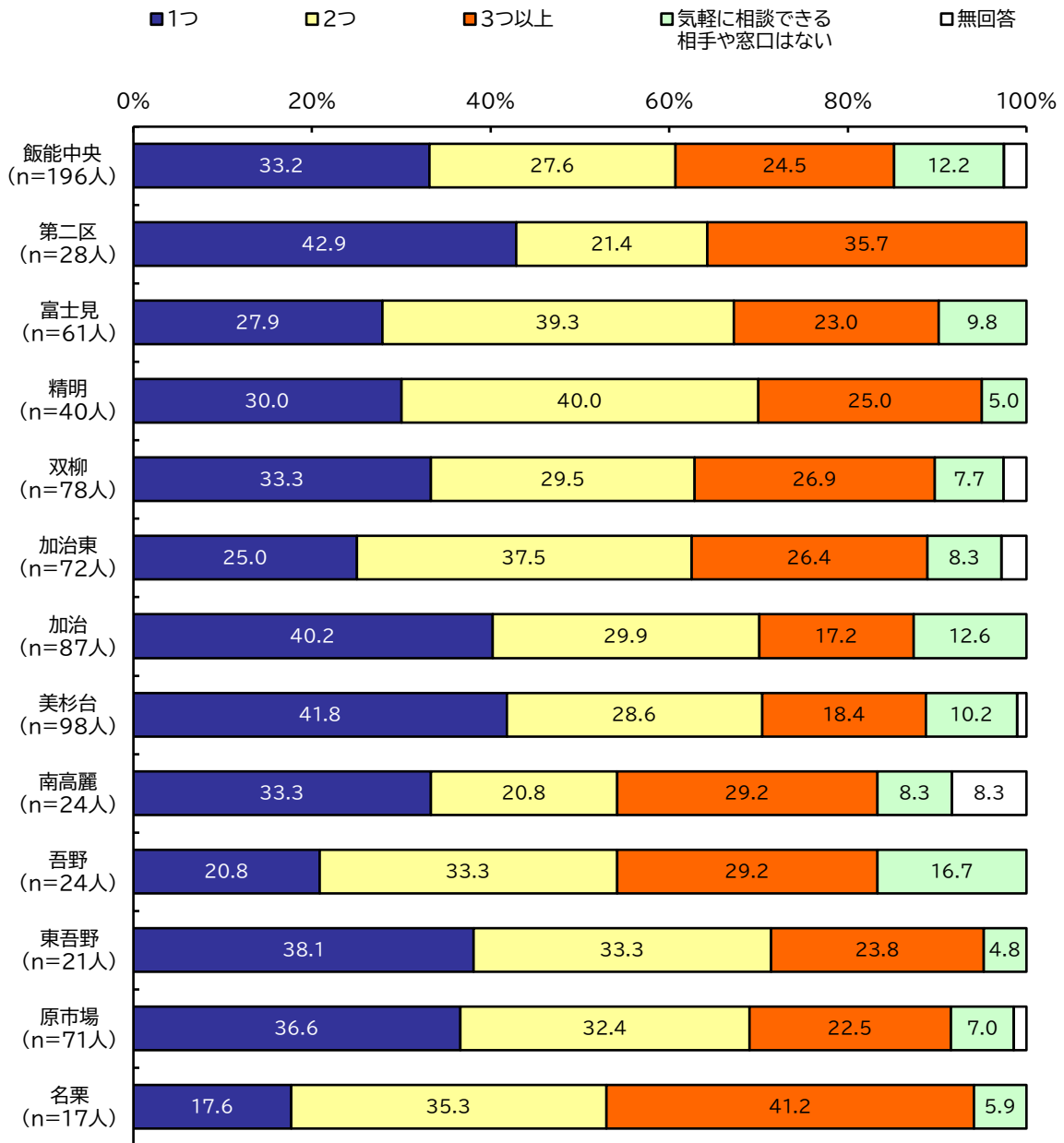
図 性・年齢別にみた相談しやすい窓口の数



【圏域別】

これを圏域別にみると、名栗及び第二区では「3 つ以上」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた相談しやすい窓口の数



1-7-4 公的な相談窓口の有無（問19を基に作成）

※問19の回答構成を基に作成

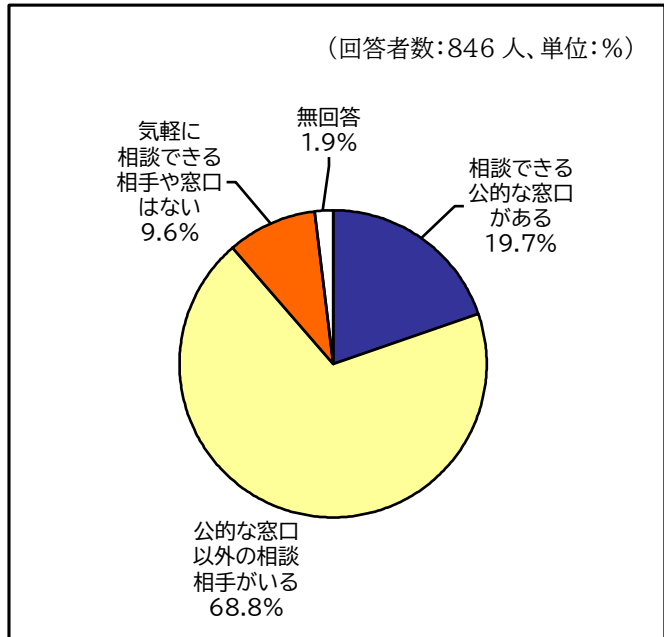
「公的な窓口がある」は19.7%

気軽に相談できる相手や窓口（問19）の回答構成から公的な相談窓口の有無[※]について調べたところ、「相談できる公的な窓口がある」が19.7%、「公的な窓口以外の相談相手がいる」が68.8%、「気軽に相談できる相手や窓口はない」が9.6%となっています

表 公的な相談窓口の有無

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
相談できる公的な窓口がある	167 (19.7)
公的な窓口以外の相談相手がいる	582 (68.8)
気軽に相談できる相手や窓口はない	81 (9.6)
無回答	16 (1.9)

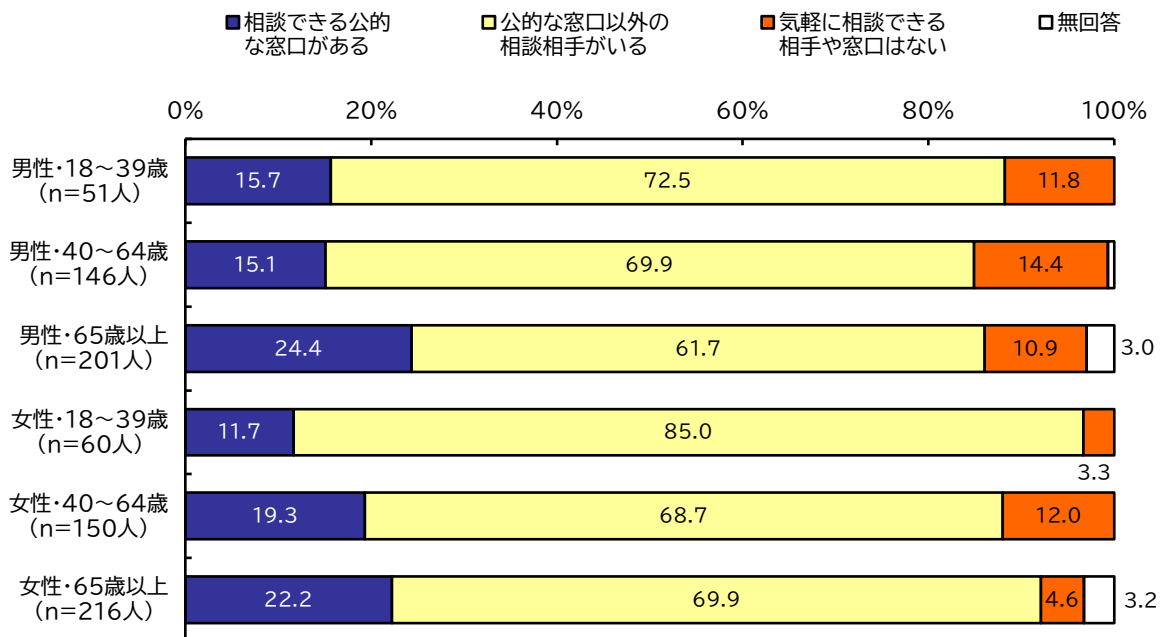
図 公的な相談窓口の有無



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに65歳以上は「相談できる公的な窓口がある」の割合がやや高くなっています。

図 性・年齢別にみた公的な相談窓口の有無

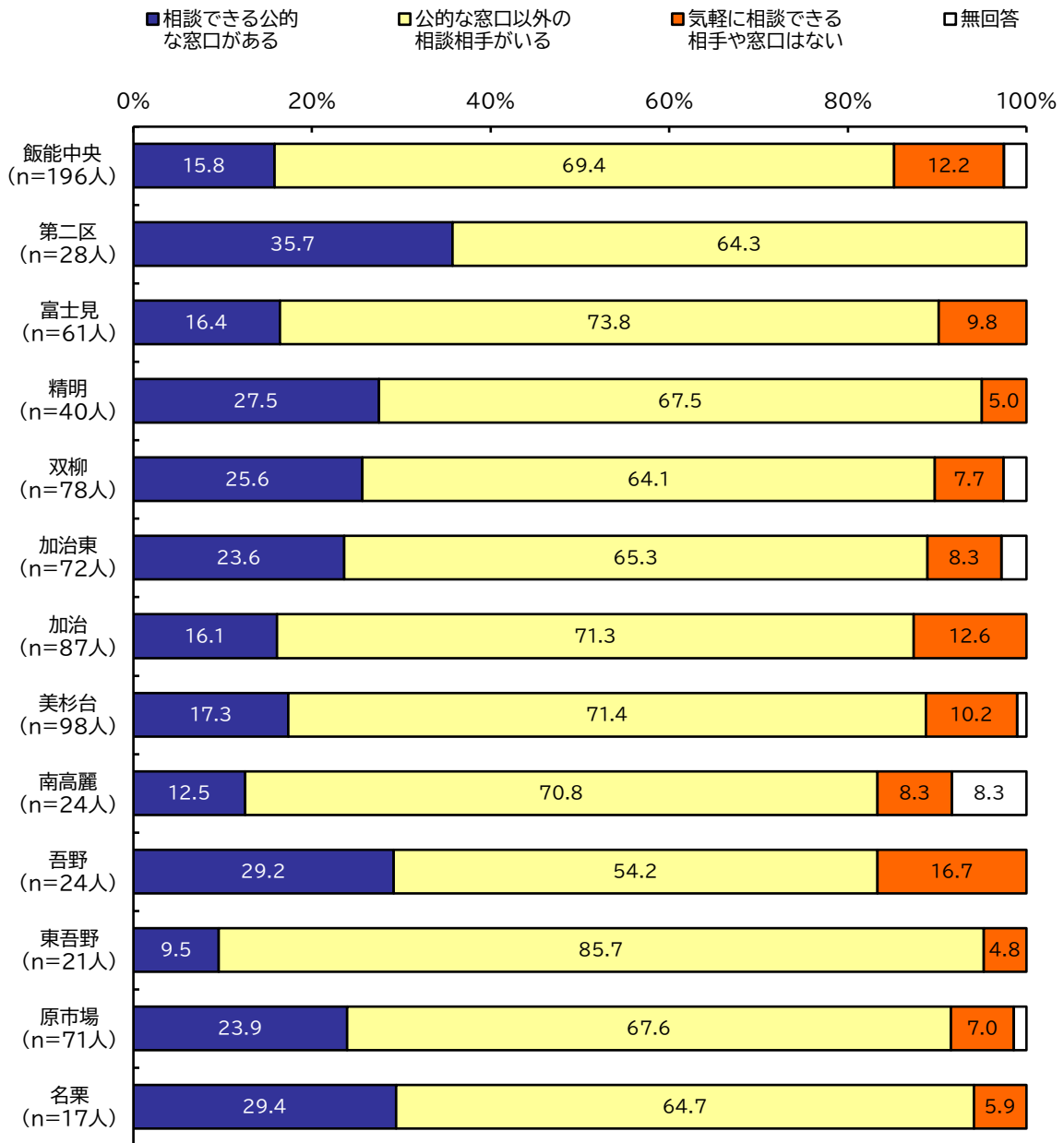


※ 巻末調査票の問19の選択肢のうち4～14のいずれかを選択した人を「公的な相談窓口がある」としました。

【圏域別】

これを圏域別にみると、「相談できる公的な窓口がある」の割合は第二区、吾野及び名栗で高く、東吾野及び南高麗で低くなっています。

図 圏域別にみた公的な相談窓口の有無



1-7-5 相談しやすい窓口の条件（問 20）

問 20 福祉に関する相談窓口について、どのような窓口であれば相談しやすいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「一つの窓口で相談ができる」が最も多い

相談しやすい窓口の条件については、「相談内容に関わらず、一つの窓口で相談ができる」が55.1%で最も多く、次いで「秘密を絶対に守ってくれる」が41.0%、「相談窓口が自宅から近い場所にある」が40.5%で続いています。

図 相談しやすい窓口の条件（複数回答）

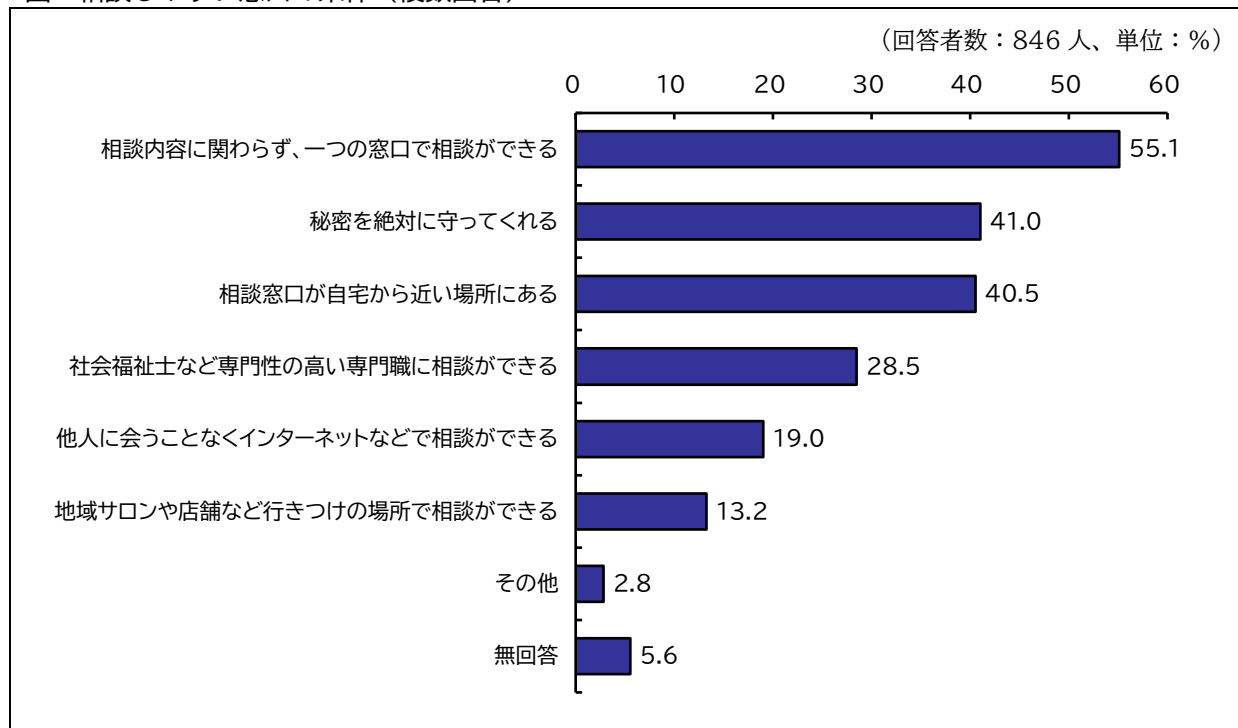


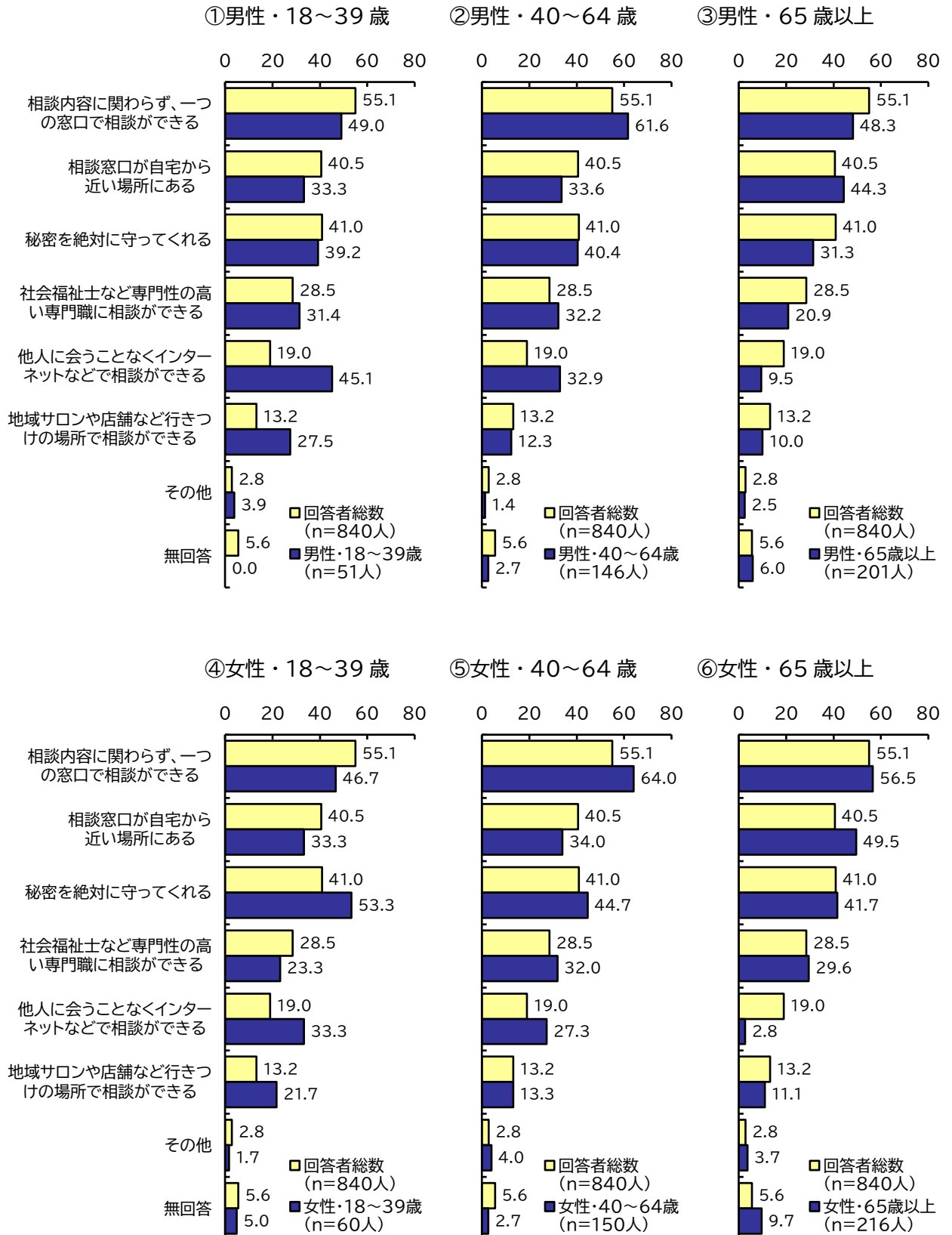
表 相談しやすい窓口の条件（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	846 (100.0)
相談内容に関わらず、一つの窓口で相談ができる	466 (55.1)
秘密を絶対に守ってくれる	347 (41.0)
相談窓口が自宅から近い場所にある	343 (40.5)
社会福祉士など専門性の高い専門職に相談ができる	241 (28.5)
他人に会うことなくインターネットなどで相談ができる	161 (19.0)
地域サロンや店舗など行きつけの場所で相談ができる	112 (13.2)
その他	24 (2.8)
無回答	47 (5.6)

【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「他人に会うことなくインターネットなどで相談ができる」の割合が他の回答者に比べて高く、女性の18～39歳は「秘密を絶対に守ってくれる」の割合が高くなっています。

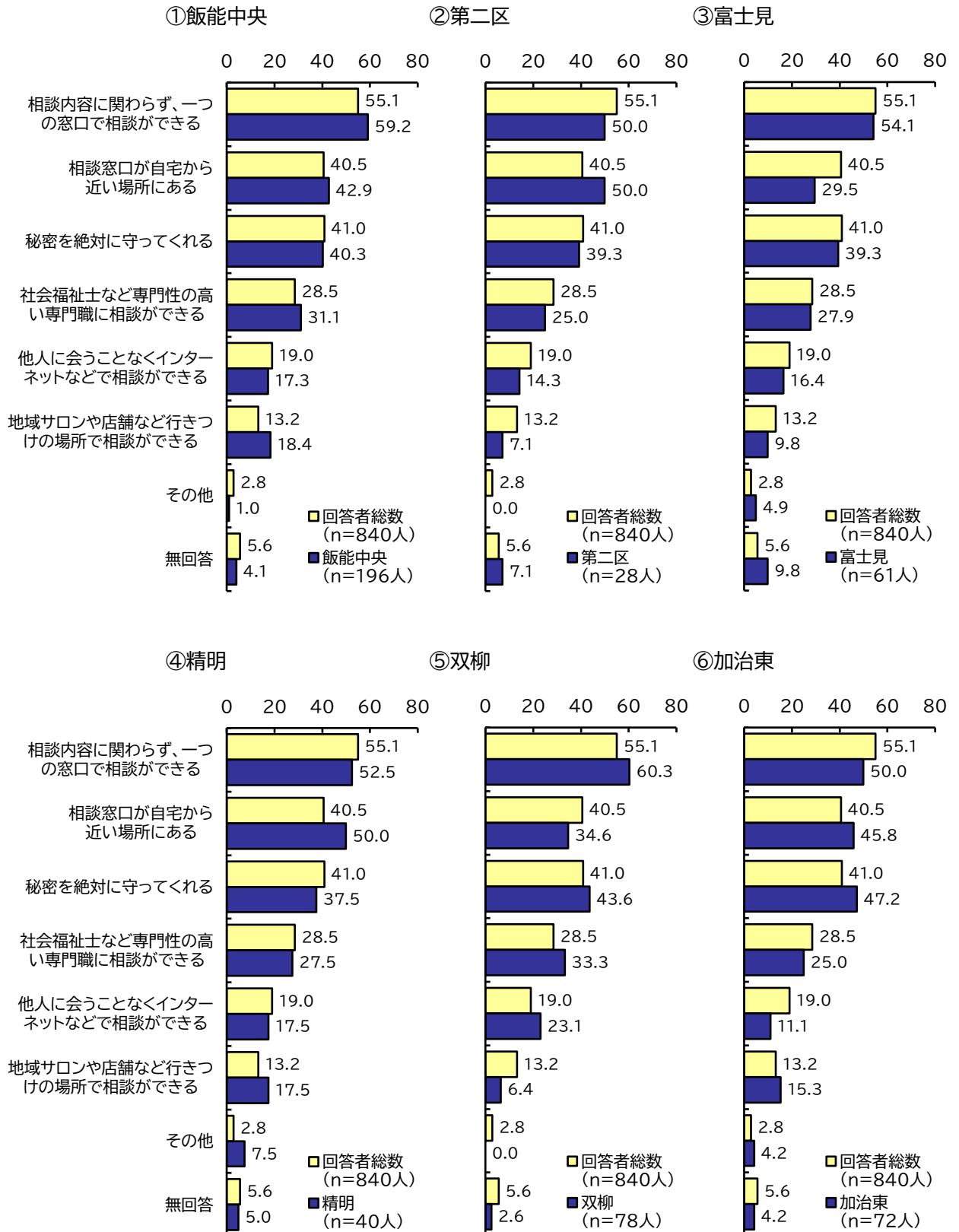
図 性・年齢別にみた相談しやすい窓口の条件（複数回答）

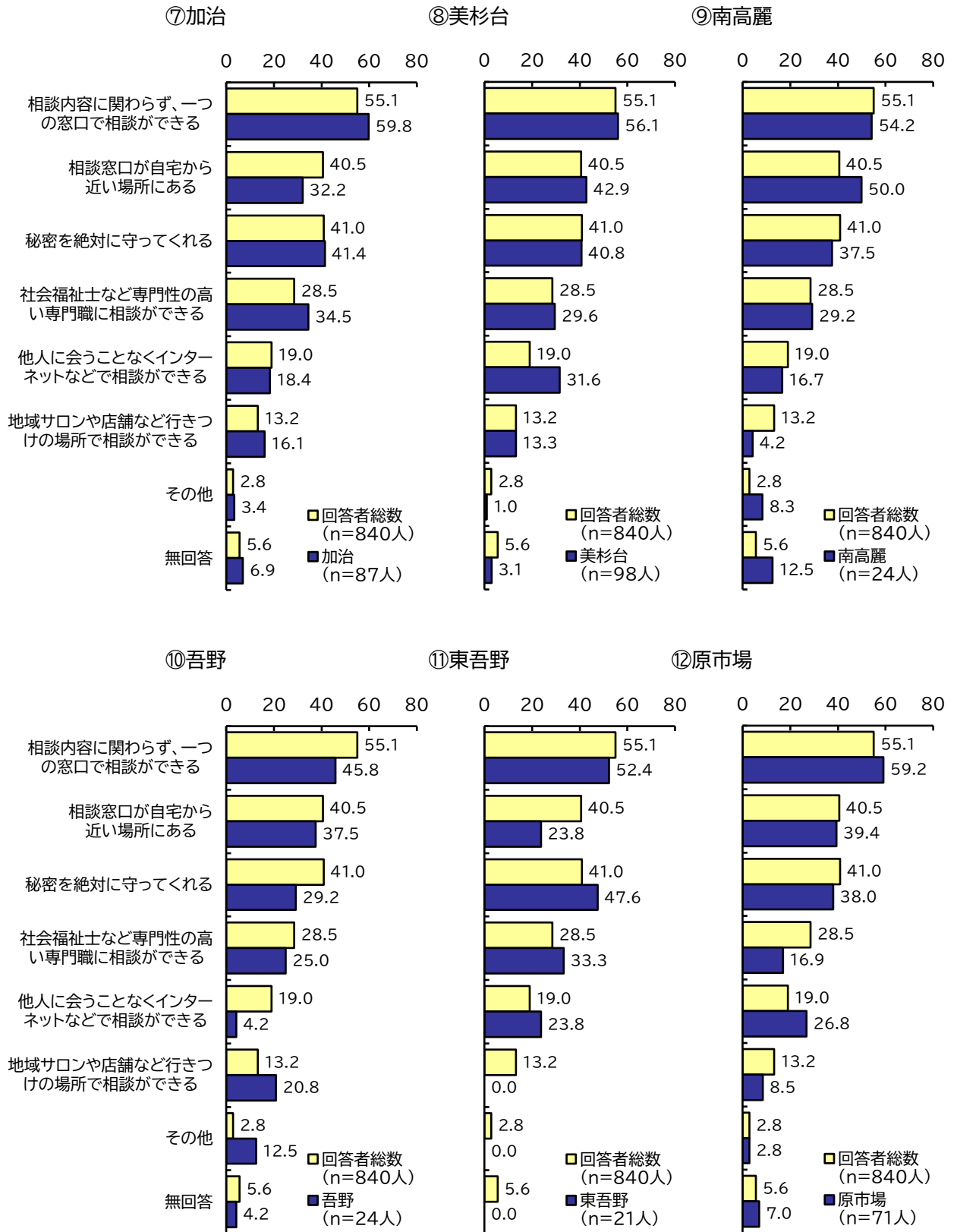


【圏域別】

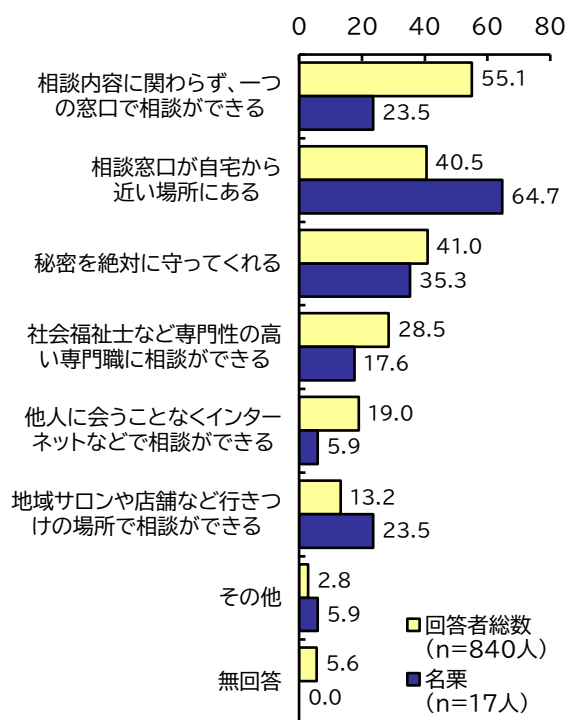
これを圏域別にみると、名栗は「相談窓口が自宅から近い場所にある」の割合が他の圏域に比べて高くなっています。

図 圏域別にみた相談しやすい窓口の条件（複数回答）





⑬名栗



第8節 今後取り組むべきことについて

1-8-1 市や社会福祉協議会が取り組むべきこと（問21）

問21 共に支え合う地域づくりのために、市や社会福祉協議会はどのような取組に力を入れるとよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「気軽に相談できる窓口に関すること」が最も多い

市や社会福祉協議会が取り組むべきことについては、「気軽に相談できる窓口に関すること」が51.5%で最も多く、次いで「高齢者福祉に関すること」が40.7%、「移動や交通環境に関すること」が33.7%が続いています。

図 市や社会福祉協議会が取り組むべきこと（複数回答）



第1章 一般市民向けアンケート

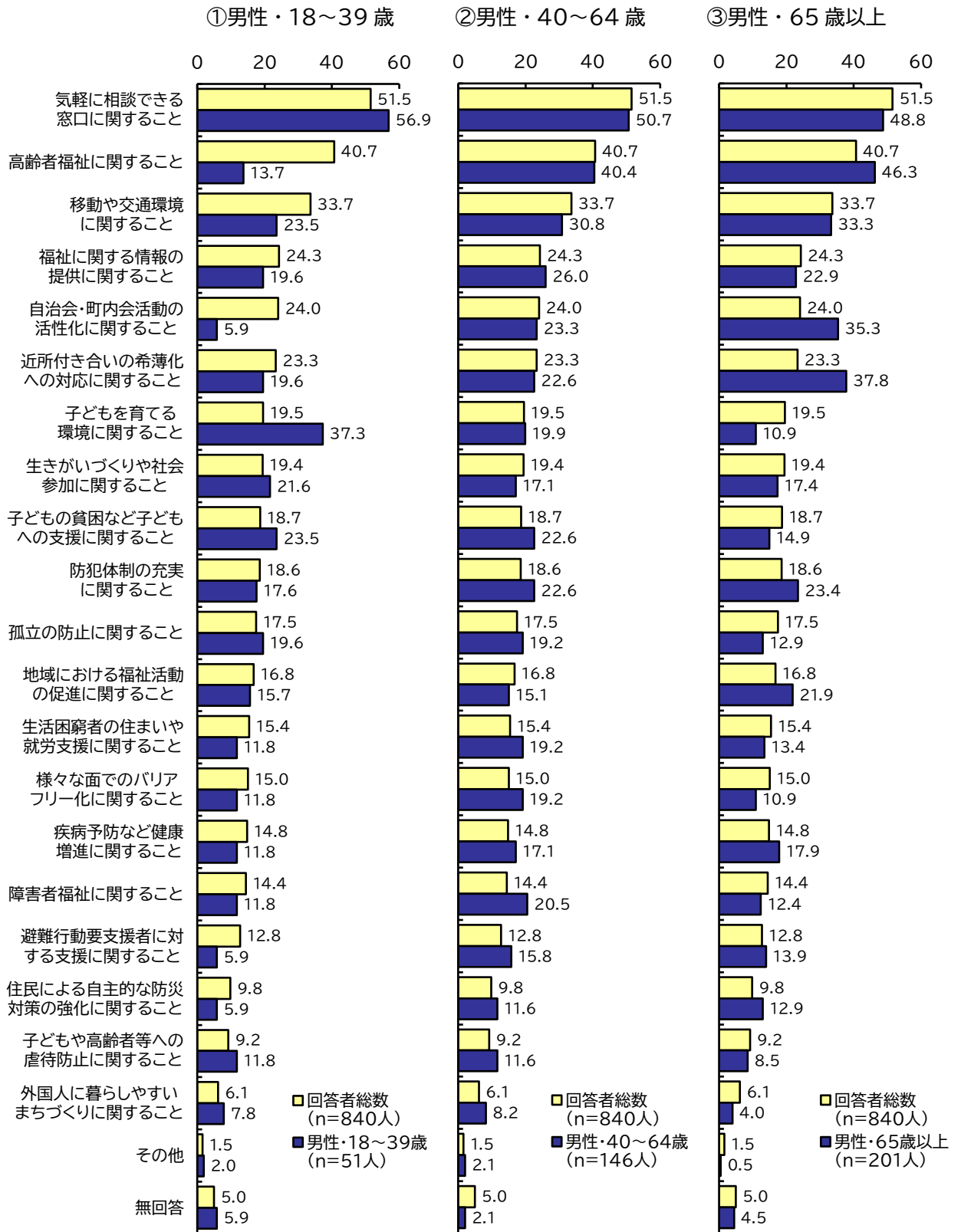
表 市や社会福祉協議会が取り組むべきこと（複数回答）

区 分	人 (%)	区 分	人 (%)
回答者数	841 (100.0)	生活困窮者の住まいや就労支援に関すること	130 (15.5)
気軽に相談できる窓口に関すること	435 (51.7)	様々な面でのバリアフリー化の推進の充実に関すること	127 (15.1)
高齢者福祉に関すること	343 (40.8)	疾病予防など健康増進に関すること	124 (14.7)
移動や交通環境に関すること	282 (33.5)	障害者福祉に関すること	121 (14.4)
福祉に関する情報の提供に関すること	205 (24.4)	避難行動要支援者に対する支援に関すること	108 (12.8)
自治会・町内会活動の活性化に関すること	203 (24.1)	住民による自主的な防災対策の強化への支援に関すること	83 (9.9)
近所付き合いの希薄化への対応に関すること	195 (23.2)	子どもや高齢者等への虐待防止に関すること	78 (9.3)
子どもを育てる環境に関すること	164 (19.5)	外国人に暮らしやすいまちづくりに関すること	52 (6.2)
生きがいづくりや社会参加に関すること	163 (19.4)	その他	13 (1.5)
子どもの貧困など子どもへの支援に関すること	158 (18.8)	無回答	42 (5.0)
防犯体制の充実に関すること	157 (18.7)		
孤立の防止に関すること	148 (17.6)		
ボランティアなど地域における福祉活動の促進に関すること	142 (16.9)		

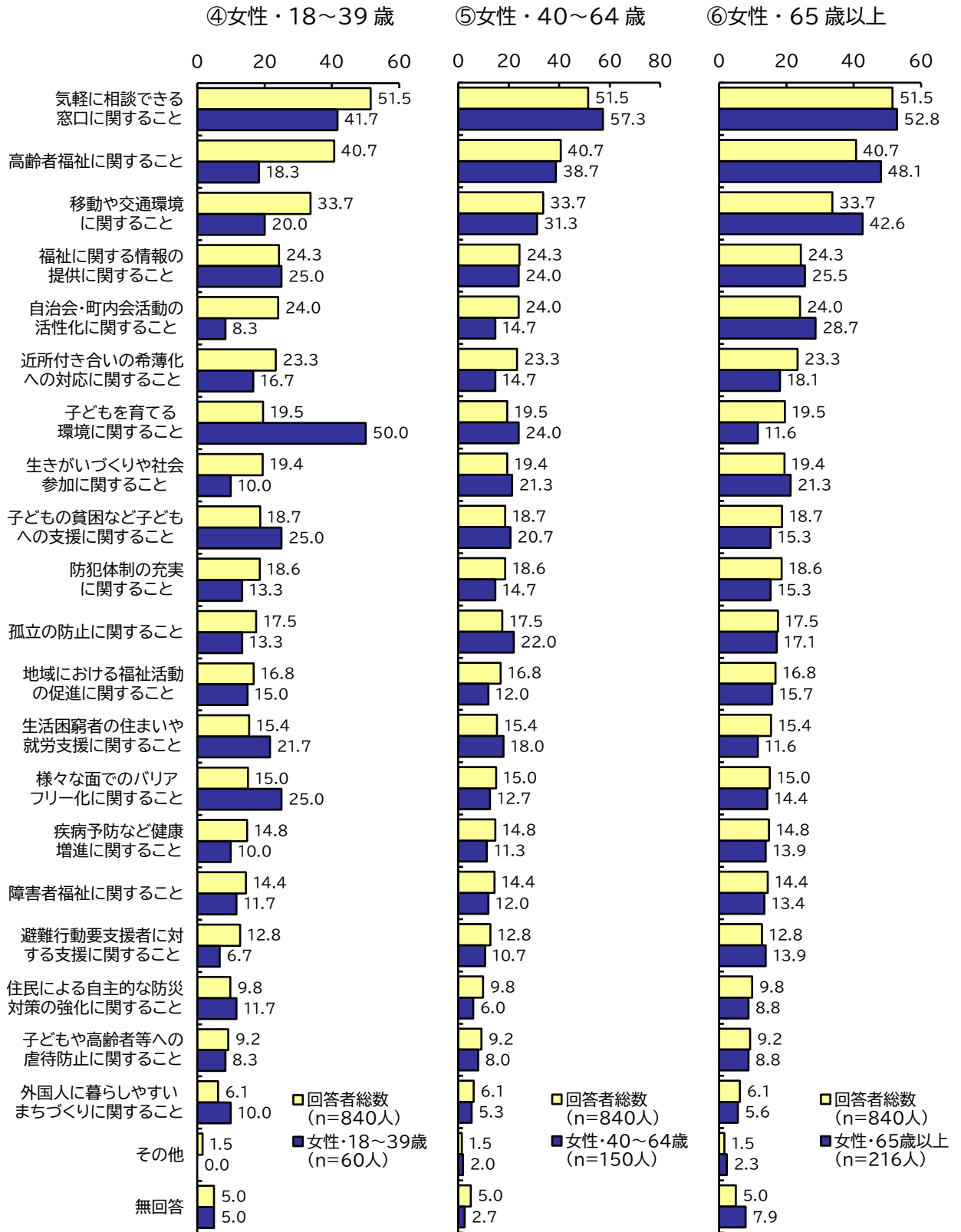
【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに18～39歳は「子どもを育てる環境に関すること」の割合が高くなっています。また、男性の65歳以上は「自治会・町内会活動の活性化に関すること」及び「近所付き合いの希薄化への対応に関すること」の割合が高く、女性の65歳以上は「高齢者福祉に関すること」及び「移動や交通環境に関すること」の割合が高くなっています。

図 性・年齢別にみた市や社会福祉協議会が取り組むべきこと（複数回答）



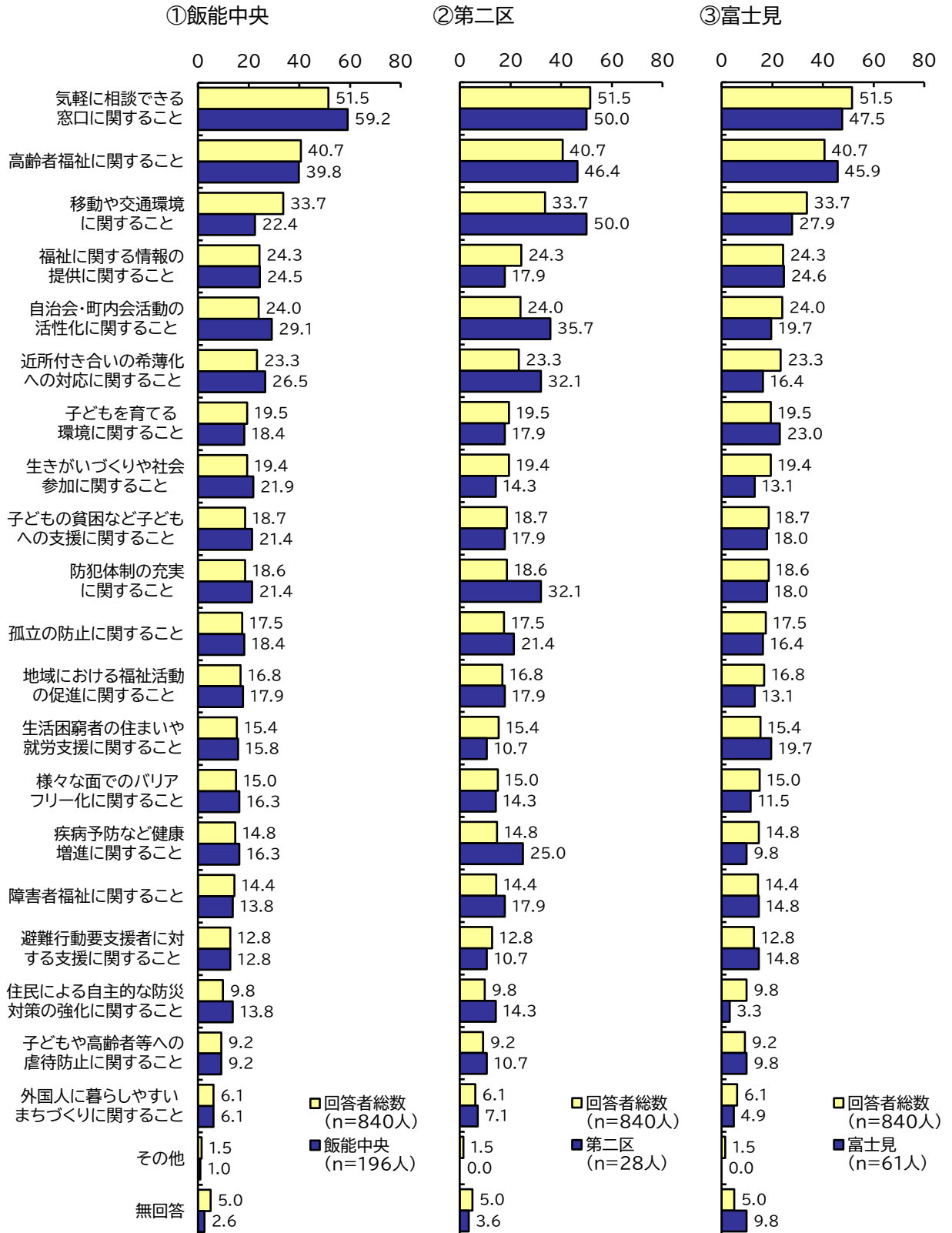
第1章 一般市民向けアンケート



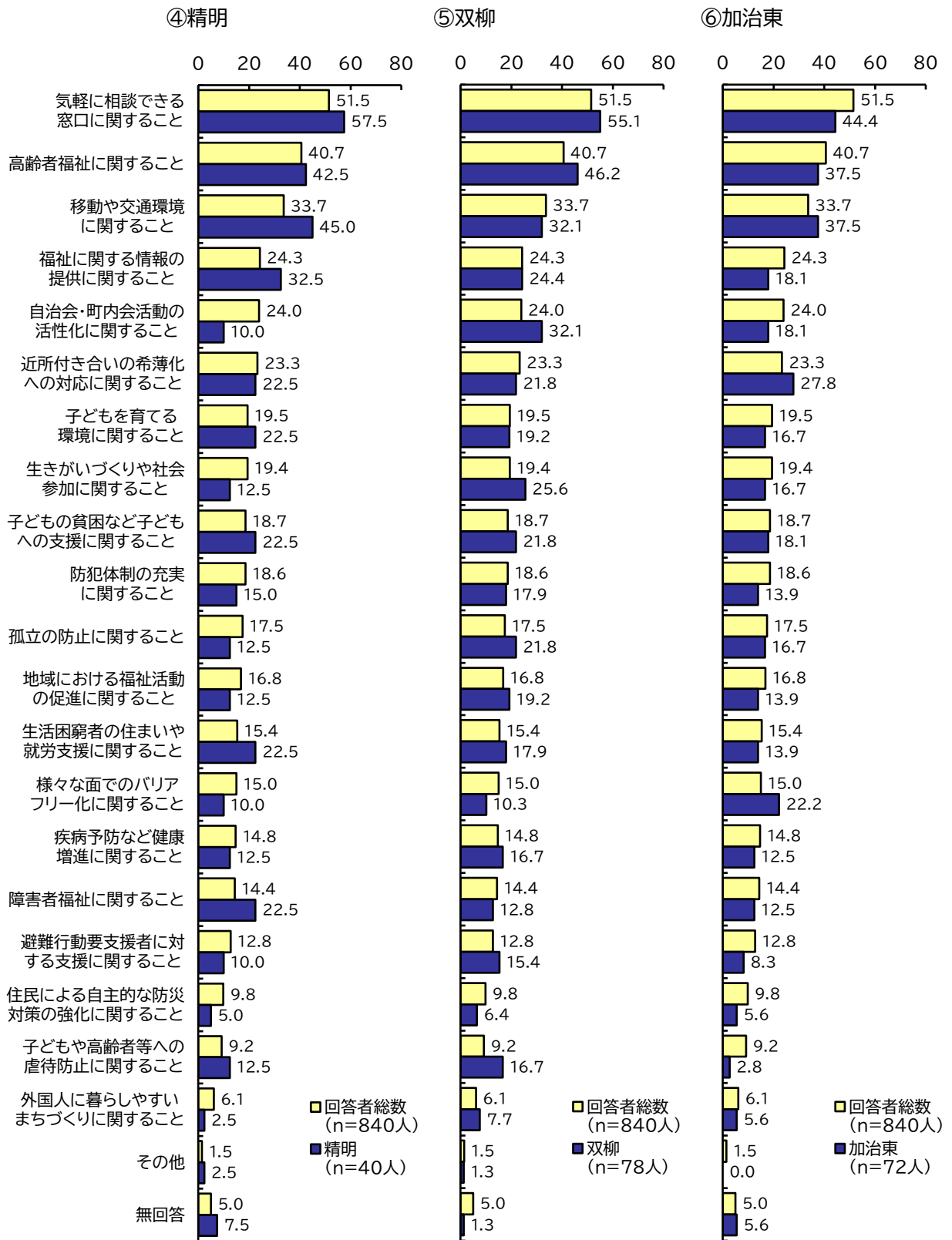
【圏域別】

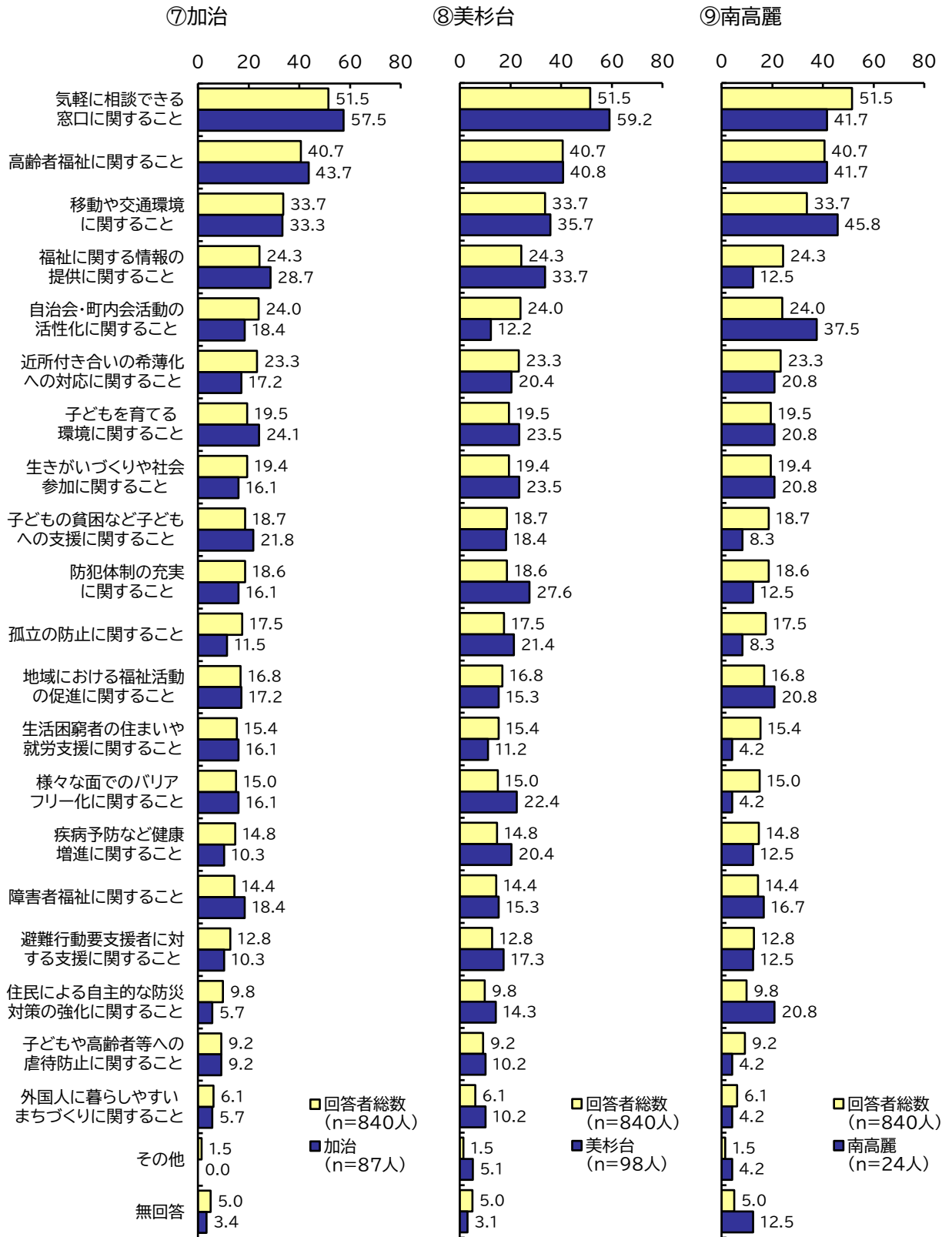
これを圏域別にみると、「気軽に相談できる窓口に関すること」は飯能中央で多くみられ、「高齢者福祉に関すること」は名栗で多くみられます。また、「移動や交通環境に関すること」は第二区、精明、南高麗、吾野、東吾野及び名栗で多く、「福祉に関する情報の提供に関すること」は名栗で多くなっているなど、圏域による違いがみられます。

図 圏域別にみた市や社会福祉協議会が取り組むべきこと（複数回答）

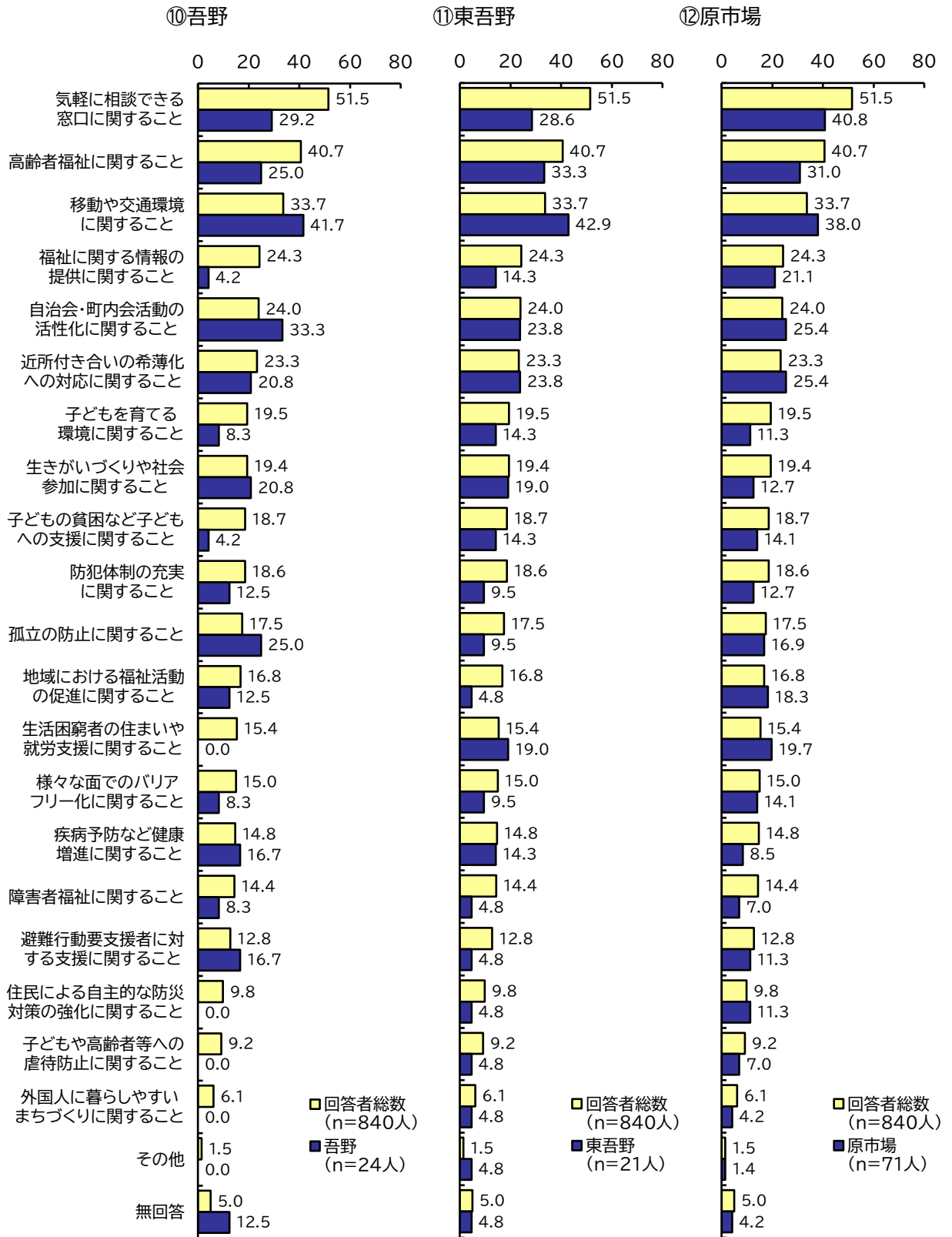


第1章 一般市民向けアンケート

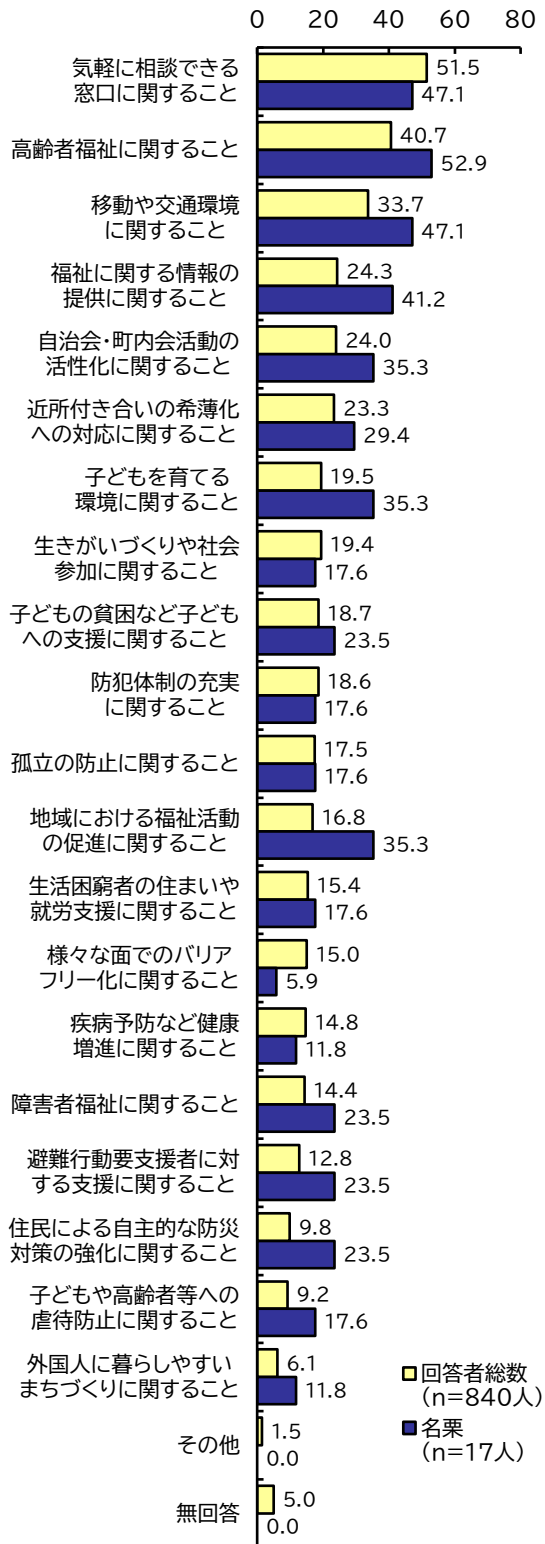




第1章 一般市民向けアンケート



⑬名栗



1-8-2 支え合いの地域づくりのために必要なこと（問22）

問22 市民、関係団体、市及び社会福祉協議会等が協働し、共に支え合う地域づくりを進めるために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

支え合いの地域づくりのために必要なことについて記入していただいたところ、次の通りとなっています。

(1) 飯能中央

- 外国人への配慮も結構ですが、その前に日本人への対応はちゃんと行われているのか、今一度確認をしていただきたい。外国人への生活保護、国保税未納率の問題、飯能市として見直していただきたい。もう一つ。市の不活性の問題は、駅前の広大な駐車場に端的に現れています。地権者の権利も大切ですが、それを保護することで、逆に市の活力を削ぐことになってはいませんか。飯能はもっともっと伸びていい町だと思います。(男性・40～64歳)
- 飯能市内の高校生などで、街づくりの会議を行って頂ければ、面白いアイデアが出ると思います。またふくしの森プランの会議では、警察の方々や医師の方々、市議会議員の方なども参加して頂きたいと思います。(男性・40～64歳)
- 何をやっているか不明ゆえ、まずはそこを開示、広報すること。何を市民が望んでいるかをしっかり聞くこと。(男性・40～64歳)
- どのような団体があって、また協議会がどのような活動をしている組織で、どのようなシーンで利用できるのか、簡単な小冊子を作り各家庭に配布し、まず知ってもらうことが必要かと思えます。(男性・40～64歳)
- 高齢者が容易に集える場所が増えたらよいと思います。(男性・40～64歳)
- 昔のように近所付き合いが気軽にできる社会がほしいです。若い人たちが周りにいるのですが、声がかげにくい！！(男性・65歳以上)
- 税が高くともよいが「ゆりかごから、墓場まで」を目指して下さい。安心して暮らせる社会を！！(男性・65歳以上)
- 市は自治会に依存しない様にしてもらいたい。(自治会は不要)(男性・65歳以上)
- 問21全項目について、こうあるべき指針のサンプルを作成し、安全安心なまちづくりが必要と考えます。このコロナ禍では、無理かな。早くコロナウイルスをなくすことが先決かな。
(男性・65歳以上)
- 今の世の中の流れで、とても難しい課題だと思う。自治会活動に年配者がもっと参加できる雰囲気をつくってほしい。隣近所支え合える地域づくりができればと。市民清掃 DAY が全く行われていない地域もあり、今住んでいる私の地域では、清掃 DAY が唯一隣近所が顔を合わせる貴重な時間です。(男性・65歳以上)
- 市民にもっと知ってもらうため PR を積極的に行う。(男性・65歳以上)
- 地域づくりのためには、その拠点となる小・中学校の存在が大きいと思う。そのためにも子育てしやすい環境や、若い世代の移住者を増やし、学校を中心とした地域活動が活発化することが必要だと考える。(男性・65歳以上)
- 市当局や関係団対等の取組や、その努力については感謝しています。しかし地域住民の間の「つながり」が、以前に比べ弱くなっているように感じられます。共助の基本は人と人との「つながり」であると思うので、これを強化できるように、話し合っって良い方策を導き出して頂けたらと思います。(男性・65歳以上)
- 支援が必要な人には、窓口に関する情報を提供する。ボランティアを志す人々には、どういうことで困っている人がどれだけいるんだという情報を、まとめて提供してほしいと思います。(男性・65歳以上)
- ①高齢者が増えている。②定年の年齢が下がっているため高齢者に関する意識が薄い。(65歳まで現役で仕事をしている。)③地域の高齢者対応の活動が弱い。(男性・65歳以上)
- 飯能駅周辺において、もう少し飲食店を増やしてほしい。ファーストフード店やその他、立喰いそば等、以前にはあったはずでは？(男性・65歳以上)
- アパート、共同住宅等の居住者も、地域社会の家や人々と一緒に付き合い、話し合いするよう PR、組織設立を期待したい。(男性・65歳以上)

- 窓口をまずは、1つにして頂くことで困ったら先ずあそことすることで相談しやすい環境ができるのではないかと考えています。(女性・18~39歳)
- 子育て支援拠点に行く際の予約が事前にインターネットなどで行えるとよい。毎回電話するのが子育て中だと面倒だったりする。毎回、行われる行事等をネットでも見れるようにすると気軽に行ける。(女性・18~39歳)
- コロナ禍で仕方がないことと思いますが、イベントやお祭りは地域の人と交流する貴重な機会だったと思うので、徐々に再開できると思います。(女性・18~39歳)
- [地域の居場所] いきいきサロンなどに行きたいのですが、足が悪いので歩いて行けないと話を聞いたことがあります。鳩山町みたいにタクシー代などを申し込みの方に低額で乗れるようにしたら、高齢者も買物や車の免許証も返すのでは無いのでは。事故なども少なくなるのではないですか？(女性・40~64歳)
- 特定の団体を優遇して、お金のムダ使いをやめてほしい。エリートサッカー少年はいりません。小学校では先生足りない。学童の教室も足りない。一般の児童にお金を回してほしいです。(女性・40~64歳)
- 5年以上住んでるが、市の広報紙が届いたことがない。たまにイベントをやっているのをみかけるが情報を見たことがない。市民、関係団体の中だけで盛り上がっているように見える。広報がへた。(女性・40~64歳)
- 仕事中心の生活をしているため、自らこのような事を知ろうともしないので、もっと発表していただけるとありがたい。(女性・40~64歳)
- 地域における自治会活動は必要と思います。しかし若い人には負担が大きく(仕事や子育てで多忙)また65歳以上の人も年金減額が続き、アルバイト等で生活費を捻出しているのが現状であり、自治会役員などにはできればやりたくないと考えがちだからです(役員になると出費が増える)。Q2の(4)にある「一定の報酬」を市が負担できれば、多少なりとも「まあ仕方ないか」と役員を受け入れる可能性が向上すると思います。(女性・40~64歳)
- 「2」に○はしたが、あまり負担にならない程度の活動(例えば年1回とか)があることによって、地域の人を知ることになり、支え合いもしやすくなるのではないか。全ての面で、今ある制度を残しながらも、その制度や活動の隙間を埋める支援ができるようになればいいと思う。(女性・40~64歳)
- 共に支え合う地域づくりには関係ないかもしれないが、たまに兄弟などの暴力に悩んでいる。でも警察に電話で相談したことがあるが、現行犯でないとちょっと対処しにくいと言われた。警察とかは事件性がないと動いてくれないような気がする。児童の問題にしても、障害者の問題にしても、もっと気軽に、そして親身になってくれる相談機関があればと思う。(女性・40~64歳)
- 各世代で悩みごとは異なるが、お互い話をすることで少しは気持ちが楽になるので、どんな人でも来やすい、安心できる場所があったらいいと思う。そういった場所を作るのであれば、お互い気分良く過ごせるよう、ルールを設けた方がいいと思う。(女性・40~64歳)
- 困ったことを気軽に相談できる場をお願いします。高齢で一人暮らしのうちの母はエアコンが壊れたまま暑い夏、寒い冬を過ごし、孤独死でよいと言っています。大家さんに相談したら？と言っても言いづらいようで…困ったことありますか？と聞いてくれる人の訪問がほしい(高齢者・虐待疑いの家庭.etc)。(女性・40~64歳)
- 一人ひとりが人に迷惑をかけないように生活し、困った人がいれば助け合うことが必要と考えます。(女性・65歳以上)
- 自治会単位などでカフェなどを作り話しやすい環境を作ってもらいたい。(女性・65歳以上)
- まず、個人主義とした現今において共助の必要性、素晴らしさを認識する必要があると思います。そのために「国内外における模範となるような地域」の活動内容を紹介し、理想的なあり方をPRすることにより、市民及び関係者の認識を新たにすること。その後、必要な事項を考察するのがよいでしょう。(女性・65歳以上)
- コミュニティバスを充実させてほしい。車を手離しても買物や医院に行きやすいようにしてほしい。(女性・65歳以上)
- できる範囲で地域を支えたいと考えている市民は一定数存在すると思います。単発で、短時間でできるボランティアや寄付金込みの物品の購入など、支え合える活動をSNSで募集し

たり、寄付金をクラウドファンディングで募ったりして、紙媒体以外の情報発信を工夫する必要があります。行政が限りある予算、時間の中で多岐にわたる社会福祉に取り組む事は大変な事と思います。しかし取組が多岐にわたるという事はそれだけ市民にとって多岐にわたっての活躍の場があるという事ではないでしょうか。地域を支えたいさやかな市民の気持ちをすくい上げる事がやがて活動が積み重なり、市民生活の大きな力となるかもしれません。(女性・65歳以上)

- 私の住んでいる中山は、一番近い店はセブンイレブン(12分)で、スーパーまでは徒歩15分、他の店は個人商店もありません。おそらくこの程度の地域は他にもたくさんあるでしょうか。昔は5分程歩くと店があり安心でした。公的施設はもっとずっと遠いです。市営住宅はあるのですが、みなさんどうしておられるのでしょうか。アパートは増えて、近くに住む方の名前もわからない状態。自分の家を居場所にできたらよいと思っていますが、お話しても聞き流されている感じで残念です。アンケートもよいかもかもしれませんが、ちゃんと話を聴くことから始められては？(女性・65歳以上)
- 情報が少なく、どこに相談すればいいかわからない。相談内容が他の人に知られてしまうか不安。(女性・65歳以上)
- 人は一人では生きていけない。互いに心身共に支え合いが不可欠だ。特に一人暮らしの人、高齢者、介護が必要な人、経済的に援助が必要な人。働きかけを望みます。(女性・65歳以上)
- ずう～と前に母子愛育会の役員をさせてもらいました。子どもたちを取り巻く事故、事件、虐待等々悲しいの一言です。私はウォーキングを週に2回位していますが、小学生の下校時に「おかえり～」と声をかけるようにしています。時には小学生から、「こんにちは」と声をかけられることもあり、そんな時は本当に嬉しい気持ちになります。「おはよう」、「こんにちは」。みんなで子どもたちを見守る。挨拶が一番だと思います。乱筆乱文で失礼しました。(女性・65歳以上)
- 便利屋さんみたいな密着型の支援。低料金でサービスしてもらえらる支援。TVなどで紹介されているのは高額で使えない。(女性・65歳以上)
- 私もボランティア支援する側から、お世話にな

るであろう年齢になってきました。20年程前、NHK放送で、大阪のNPO法人が営むボランティア活動が面白いもので、それはボランティア活動を内容によってポイント制にして、将来そのポイントを使えるというものでした。私が考えるに、ボランティア活動に年齢は問わず、小学生からでもいいのではないのでしょうか。缶拾い、草むしり等の美化活動でポイントを得たら、将来子育て支援で使ってもらえるのもよし、長いスパンで貯めて頂き、つまり循環型にするのです。実際ボランティア経験者として思うことは、無償の奉仕ではありますが、ガソリンを入れての車出しだけでも0円ではありません。

(女性・65歳以上)

- 子どもを貧困・暴力・事故等から、しっかり守る組織を作ること。大人は自身でしっかり生きること、だと思えます。なにしろ飯能の住民税は本当に高い。有効に使ってほしい。(女性・65歳以上)
- 最近家人が車椅子を使うことになり、不便を感じる事が多々あります。今後高齢化が進む中で、さらにインフラの拡充が必要かと思えます。(女性・65歳以上)
- 相談窓口の統一等。すべてにおいて分かりにくい。利用しにくい。遠い存在である。(女性・65歳以上)
- 気軽に集まって地域の問題を語り合う場、機会があったらよいと思えます。誰でも参加できて、意識が高いか、あまり高くなくても参加できて、はじめは聞いてるだけでも、だんだんと深くかかわって理解できて、自分の考えもまとめて高めていけるような。(女性・65歳以上)
- 広く大勢の人たちに活動の様子やPRをしてほしい。(女性・65歳以上)
- 国の団体の人が協力し合って変えてほしい。(女性・65歳以上)
- 共助が効果的になされるかは簡単な問題ではありません。公助、自助が有効に働いてこそ、共助が働くと思えます。低迷する経済とコロナ禍の中、給付頼み、その場しのぎの安易な公助から、少子化、自然災害、環境問題、先進医療など、将来への投資としての公助に直ちに切り組まなければ、国の将来は危ういと思えます。そのためにも自助努力のあり方を、改めて基本から考え直すべきでしょう。しっかりとした「自助」「公助(国の将来投資)」があつてこそ、

「共助」が効果を上げると思います。そうでなければならぬと思います。コロナ禍の旅行、飲食などへの大盤振る舞いや、本来の意図から外れた「ふるさと納税」など安易過ぎます。ウクライナ国民の苦難を思わなくてははいけません。(女性・65歳以上)

- 市公報にも「詳細は飯能市ホームページを確認してください」とありますが、スマートフォンは持っていてもホームページを見ることができません。自分が時代遅れだとは思いますが、水道、ガラス割れたりしても業者を探すのも大変。安心して暮らしたいです。よろしくお願い致します。(女性・65歳以上)
- 高齢も元気な方が多いので最近雑草が目につきます。みんなで草むしりした後に菓子を持ち寄りお茶会などしたらよいと思います。それから支え合う地域づくりに前進できるように思います。(女性・65歳以上)
- 生活保護等でもいいですが不正受給者も多いようです。もう少し市役所の方もよく考えてください。税金だから人様のお金だから安易に出しているようです。本当に困っている方には手を差し伸べるべきですが立派な子どもたちがいるのに別居というだけで受給している方もいます。市営住居なども同じようなものですね。トイレが詰まったら自分で直せと思います。(女性・65歳以上)

(2) 第二区

- コミュニケーションの拡大のための活動を行って頂きたい。高齢化社会への対応→趣味づくりの活動。人生90年社会を展望した活動。(男性・65歳以上)
- 現在寝たきり高齢者となってしまって、特に希望なし。(男性・65歳以上)
- 飲食店が少なく、子どもなし世帯はなかなか交流できない。少しさみしい気持ちです。ペットを飼っているので、ドックランやドックカフェなど、犬を通したコミュニティが行政として取り組んでくれるとうれしいです。(女性・18～39歳)
- 障害のある子の就労先について、協力して頂けたらありがたいです。(女性・40～64歳)
- 生活保護の方などの支援も必要と考えますが、本当に支援が必要な高齢者などに、もっと支援ができればと考えます。不当な生活保護を受け

ている人、ひとり親で支援を受けている人等、正確に調べて頂ければ、必要な人に援助ができると思います。現状、高齢者の方で孤独死している方や、ギリギリまで一人で頑張っていて餓死して発見される例もあると思います。子どもたちのために親の収入費を調査するように、同様に生活保護の人たちも、毎年生活状況を調べていくことを望みます。(女性・40～64歳)

- 上記(問21)の全てが当てはまる人に優しい住み心地の良い地域であってほしいですね！(そして、心も体も健康でありたいものです！)(女性・65歳以上)
- 回答できることが少なくすみません。リハビリに通っている状態ですので、体の回復に頑張っています。(女性・65歳以上)
- 高齢者の一人暮らしの人は、自治会、班の役、行事、作業、会合などを避けて、自治会を抜けてしまいます。ますます近所付き合いもなく、人との会話もなくて、家に引きこもり孤立してしまいがちです。小学生が学校へ登校する途中に、声かけに毎日寄るとか。(もちろん事前に了解の上で)他にも子どもが小さいうちから、お年寄りと交流を持つ活動をしたらどうかと思います。(女性・65歳以上)
- 買物、通院ができなくなった時が一番心配です。(女性・65歳以上)

(3) 富士見

- 孤立しないでみんなが仲良しになること。(男性・18～39歳)
- 精明小学校学区の公共交通機関の整備。自宅や家族の車しか交通手段がないので…。高齢者の買物、通院等の支援、平松か川崎あたりに大規模な産業の拠点となるような施設を誘致しないと、ますます人、物、金が動かなくなり、市がさびれてしまう。市街化調整区域が問題、住宅が建たないと人が増えない。(男性・40～64歳)
- 身体障害者を抱える家族ですが、社会福祉の活動や組織に関する情報がまだ少ないし、全ての家庭にまで届いていないと思います。折角の組織や活動が見えておらず、一般国民からは税金の無駄遣いと言われてもおかしくありません。もっと身近なものにしてもらいたいです。(男性・40～64歳)
- 自助に頼らないで大きな公助に力を入れる。

(男性・40~64歳)

- 旧社会館の管理がごみ屋敷状態で周辺道路も草、木伸び放題で非常に見苦しい状況です。市そのものの管理に周辺住民に対する配慮もありません。お役所仕事の典型的な所業と考えます。火災、ねずみ等の心配もあり手遅れにならない内に善処願いたいものです。(男性・65歳以上)
- 今回のアンケートのように、市民と意見交換できる機会をもっとたくさん持つ必要がある。(男性・65歳以上)
- 素早い対応(市に何か言っても検討しただけ改善なし)。課内で検討(係員が判断、回答し遅い、やらない)。人はいるのに見えない振り、待たされる。(男性・65歳以上)
- 人を支えるためには、自分自身が満たされていることが必要だと思います。(女性・40~64歳)
- マニュアル通りの対応では限界があると思います。正直どこへ相談しても、どこを頼っても助けてもらえるとは思えないです。今少し自分に余裕があって、どなたかの力になりたいと思っても、このような浅い関係性の中では、お互いに無理だと思います。ほしい情報がインターネットですぐに得られるようにしておく、これが唯一できることではないでしょうか。(女性・40~64歳)
- 近所の人が高齢者一人になってしまったり、高齢者が多いので、相談する方がいらっしやると便利だと思う。(女性・65歳以上)
- 高齢になるとなかなか近所付き合いがなくなると思います。社会福祉協議会が、年寄り、子どもたちの見守りをお願いしたいです。(女性・65歳以上)

(4) 精明

- ・月に一度社会福祉に関するチラシを配る。
 - ・市で共に支え合える人を育成するため、市内でセミナーなど受けて資格を与える(悪用する方もいるので考える)。(男性・18~39歳)
- 地域福祉への取組状況及び結果等のPR(男性・65歳以上)
- もっと交流を行うべきだと思う。(女性・18~39歳)
- 支援したあとのケアもお願いしたい。まだまだ一人ひとりのケアはできないですが、不安な方はいっぱいいると思っています。子どもが病

気になった時、相談に行きましたが、はっきり言って残念な気持ちになって帰りました。(女性・40~64歳)

- 訴えて変わるなら協力もしますし、共に活動するのも喜んでさせていただきますが、今まで何か市民にとってプラスになったことが飯能市にはあったでしょうか？福祉に関しては両親のことで嫌な思いしかないなので、引越しも考えてます。(女性・40~64歳)
- 乗合タクシーを提案します。病院、買物に行く時に気軽に利用できる乗合タクシーがあると助かります。(女性・65歳以上)
- ハラスメント???相手からされて不愉快なこと。上手に相手に言える、伝えるにはどうしたらよいの？(女性・65歳以上)
- 難しいですね。自分ひとりの考えでは、どうしてよいか判りません。お役に立たず申し訳ございません。(女性・65歳以上)
- ⑲→防災対策についてのお願い。現在住んでいる地域で(双柳地区)聖望グラウンドと椿本チェーンの裏の通りで、椿本チェーンのフェンスの中にある外燈が最近消えている状態です。夜は暗く、通勤の人たちは大変危険です。防犯的にも対策をお願いします。急な災害があった時にも、道路が暗いと行動できません。よろしくをお願いします。(女性・65歳以上)
- 高齢者の各家に、病院に行かれています方のアンケートを取って、時間を決めて市内各病院の送り迎え。飯能市に一台、専用のバスがあると、家族も本人助かると思います。※本人は毎月1回でも助かると思います。※家族との和合ができると思います。(女性・65歳以上)
- 時々に応じて、お願いしたいです!!(女性・65歳以上)

(5) 双柳

- これからの時代を担う子どもたちへの福祉等へ力を入れていただけたら幸いです。よろしくをお願いします。(男性・18~39歳)
- 社会福祉協議会って何やってるところかよくわからない。募金も何に使われてるのかわからない。市役所との違いもわからない。わからないのにアンケートを送りつける。迷惑です。(男性・18~39歳)
- 兄が障害者、自分も一生独身です。賃金も上がらず、物価も高騰、税金上昇、年金も不安。よ

- って自分の事で精一杯で、人様を支える余裕はありません。(男性・40~64歳)
- 一人ひとり考え方が違うのでとても難しいと思う。(男性・40~64歳)
 - 情報の公開しゃくし定規な役所対応よりやさしい対応(忙しくて時間がないのでしょうが)。スピード感のある対応(地域に限らず国の行政も)。(男性・40~64歳)
 - 団体及び活動内容をもっとPRしてほしい。(男性・40~64歳)
 - 産前産後のサポートの充実をお願いしたいです。特にパートナーが休みを取れない、周りに頼れる人がいないママは、産後大変な思いをしています。食事、家事、育児のサポートをするところが、飯能市にはないのが残念です。赤ちゃんのクーポンも、そのようなサポートに利用できたら、もっと住みやすい町になるのではないかと思います。(男性・40~64歳)
 - 令和元年から腎クリニックで通院中ですが細やかな気配りでとても感激しております。(男性・65歳以上)
 - 市民全体と特に公務員主導による「5S運動の徹底」。5S=整理、整頓、清潔、清掃、躰(男性・65歳以上)
 - 妻が要介護2のためケアマネージャーとの月に一度の面会でいろいろな相談をし、アドバイスを受けています。(妻も私も高齢でいつ救急の事故が発生するか心配)(男性・65歳以上)
 - 豊かな飯能市になるよう大企業を誘致し市の財政が良くなる様に各団体に活動費を手厚く。(男性・65歳以上)
 - 支援を必要としている人が気軽に相談できる窓口があり、支援する側がボランティア内容をキャッチできる体制が広がると、支え合う地域づくりの輪が広がると思います。(男性・65歳以上)
 - 近所に独居高齢者が生活していますが、孤立死等を心配し、家の前を通る時、雨戸の開閉や室内の電気等必ず確認し、姿を見た時は声かけして、犯罪に巻き込まれないよう説明しています。ご主人が亡くなり、高齢女性のお宅への声かけや垣根庭木剪定など、無料(ボランティア)でやっています。家族が死亡し、無住になった家については、都内や遠くに住む親族と連絡を取り、盗難や火災予防の見守り、雑草の除去、庭木の剪定など無料で行き、地域の安全環境に努
- 力しています。自治会設置の防災倉庫の施錠の状態や、いたずら書き防止の見守り、周辺の除草など自主的に行っています。地域の子どもの登下校の見守りや声かけして、犯罪防止と交通事故防止に努めています。※個人個人の奉仕の心がけが大事だと思います。最近地域のことに関心を持たず、自分だけ(家族だけ)の考えの人が多くなっています。(男性・65歳以上)
 - 情報が少ないので、もっと情報を発信してほしい。(男性・65歳以上)
 - どんなことでも気軽に何でも相談できる窓口の設置とそのPR。悩みごとがあっても個人的な事が相談できるのか、どこへ相談したらいいのかわからない。もっとPRが必要であると思う。(男性・65歳以上)
 - 高齢者、関西・沖縄・台湾出身他の健康面に配慮した減塩運動を、飲食産業・スーパー等、食品業界・団体をも巻き込んだ運動展開を希望。※飯能・入間・秩父等、西部地区独特の甘辛味には辟易している(塩分多)。(男性・65歳以上)
 - ほど良い距離で付き合い、互いに尊重し合う気持ち。(女性・18~39歳)
 - 高齢者福祉の仕事をしていました。現在は両親の体調不良で休職中です。近所に要介護、要支援に満たない一人暮らしの高齢者を多く見かけます。買物を手伝ったりすることも多くなってきました。一つの窓口で相談できたらと思います。本人たちはどこに相談していいのかわからない様子です。(女性・40~64歳)
 - 高齢者の一人暮らしの住宅が増え、体調不良や歩行困難、食事や衛生面などの日常生活力の低下に対し、各個人への老人ホーム的な介護が必要となっているからその体制を考えてほしい(単独世帯が増えている事への対応)。(女性・65歳以上)
 - 高齢世帯と若い世帯が分断されるようなことが無いように、取り組めたらよいと思う。経済的な困窮はどちらにもあるので。(女性・65歳以上)
 - 気軽に話せる相談窓口を増やす。近隣の何でも話せる友人を作る。(女性・65歳以上)
 - 近所同士お互い気軽に話し合いができるようにすればよいかなと思います。(女性・65歳以上)
 - こちらに来て年月が少ないため、わからないこ

とが多い。知り得る情報は回覧板のみです。今のところ、主人がいるのと子どもが1時間くらいのところにいるので、特に困ったところはないのですが、状況が変わったり突然何が起こるかかわからないので、やはり近くに相談できる場所、機関があるといいです。また貧困な子どもがいたとしたら、やはりしっかりと対応してほしいと願います。(女性・65歳以上)

- いろいろな集会でも子どもを連れていけるようなところ。(女性・65歳以上)
- 元気な高齢者を地域福祉に活用する(参加しやすい)システムづくりと、その広報を希望します。(女性・65歳以上)

(6) 加治東

- 市がもう少し積極的に支え合う地域づくりを行う。宣伝が足りない。高齢者が出しゃばらないこと。若者にやらせるようにしないで協力する。仕事をしている人もできる時間で!(男性・18~39歳)
- 明るい活気ある町に住んでいるという気持ちになることが重要と考えます。若い年代の活動が目に見えるようになること。様々な世代の社会参加への機会を作って頂けるとありがたいです。(男性・18~39歳)
- 様々な施策も必要と感じますが、お互いの思いやりが大切と感じています。まずは近所付き合いの希薄化への対応、自分にできることはしていきたいと考えています。(男性・40~64歳)
- 差別や偏見をなくすための勉強会など、知らない人が知る機会を作ること。(男性・40~64歳)
- 高齢者の住人がいる大家さんへの支援(孤独死対策)。(男性・40~64歳)
- コミュニティバスが必要です。(男性・65歳以上)
- 地域で積極的にサロン活動を進めているが、近い所ということが参加しやすい要因の一つなので、サロンの数をもっと増やす。そのためには、関心を持って参加してくれるボランティアの人が必要なので、その養成を積極的にする。市全体に広がる雰囲気づくりをお金を掛けて企画する。例えば「子どもは地域全体で育てる」等、駿大の学生さんとのタイアップ、高校生のボランティア募集、リタイアした人の有効活用。(男性・65歳以上)
- みんなが参加できる(ボランティア)行事。例、

入間川の土手に四季の花を植えること等。(男性・65歳以上)

- 岩沢地区は歩いて行けるような公園が少ないです。もっと小さな子どもが遊べるような公園を増やしてください。(女性・18~39歳)
- 社会福祉協議会は個人で直接相談できるころなのではしょうか?そんなこともわからないので、個人でも気軽に相談できる窓口を知りたい。それがご近所の方だと、高齢者には抵抗があるようなので、「近所のウワサ」にならない距離で、支援の一步が踏み出せるようであればよいと思います。(女性・40~64歳)
- 道路の整備(見通しの悪い場所等の)自転車に乗っていると、そういう場所がけっこうあります。(女性・65歳以上)
- 学生に修身教育学業の1単位として、ボランティアを取り入れたらいいと思います。(女性・65歳以上)
- 少し違うかもしれないが、自治会に入っていない場合、市の広報紙が来ない。取りに行けない人もいるのではないか?広報紙で知ることあるのでは?他の市では送付している所も。(性・年齢不明)

(7) 加治

- ・問21で○をつけた所の支援の強化 ①が改善できたら⑭も改善可能だし、⑰へのアプローチにも繋げられるのでは?・④はそもそも相談できないから問題になっているので支援を市から提供する。
 - ・⑤と⑦と⑧と⑫は、情報を詳しく載せていくべきだと感じる。
 - ・③と⑪と⑬で福祉活動や社会参加、就労ができるようになれば嬉しくはある。
 - ・⑥と⑨は⑬の生活困窮者(この場合はシングル家庭)に対しての支援が必須で、⑨の「子どもの貧困と子どもへの支援」はシングル(片親)への支援制度が増えれば⑥への対策になるのではないのか。
 - ・⑱と⑳に関しては、「防災対策の強化」を促すために防災グッズがあるのなら、各家庭に支給し、興味を持って『自主性』を自覚させるキッカケづくりをしたらよいと考える。(男性・18~39歳)
- 生活支援、福祉、介護に関する相談窓口を気軽に利用できるよう市民に周知、PRすることが

必要だと思います。(男性・40~64歳)

- ①高齢者福祉(障害者福祉も含む)。今後、高齢化社会がますます進む中、社会の中でどちらかといえば弱い立場の人々が安心、安全に暮らせる地域づくりは大変重要だと思います。②少子化が進む中、子どもに対する支援は今後ますます重要になると思います。各地域に現在生活している子どもたちが成人した時に他の地域に出ていってしまうことのない飯能市にずっと住み続けたいと思ってもらうような地域づくり。(男性・40~64歳)
- 助け合い(男性・40~64歳)
- 若い人の参加。相談したくても古くから飯能にお住まいの方で、「昔からこんなよ…。」の一言で片付けられてしまっては相談が進まない。(女性・18~39歳)
- 病院や買物等巡回バスがあればうれしい。飯能市駅南口方はあまり店がないので増えればいい!!店が増えれば雇用も増えるし、高齢者も散歩もできる。商店街だめすぎ。南口開発すればいいのに。(女性・40~64歳)
- 飯能市へは引っ越してきたばかりなので、住みごころはまだ分かりませんが市役所の方でいいので、良い印象を受けました。難しい事は分かりませんが、市役所へ足を運ぶだけでも大変な事なので、その人たちの話に耳を傾けてくれるだけでよいと思います。(女性・40~64歳)
- 市の職員がマニュアル通りに接する事が許せない。融通のきく対応を希みます。また、窓口、相談相手、TEL番号等、情報がなさすぎる。難しいとは思いますが、なんのためのマニュアルなのか、基準もなっていないと思います。(女性・40~64歳)
- 少子高齢化が進むため、福祉サービスの充実や高齢者世帯の方が安心して過ごせるように、相談窓口がわかりやすいといいと感じました。(女性・40~64歳)
- イベント等を企画して、ご近所付き合いの交流をすればよいと思います。コロナのことで出かけるのが控えているため、距離を置いて、紅葉ツアーetc健康を考えた企画を行うとよいと思います。(女性・40~64歳)
- 多くの高齢者は最期を自宅でと願っていますが、現在それができるのは僅かです。生活の基本は、他人に頼って生きるのではなく、自立することが必要なのではないかと考えています。

それは年老いて急にできることではなく、幼い頃から培うものだと思います。地域で共に支え合うことは大切ですが、私はこの地域の民生委員さんにさえお会いしたことがありません。

(女性・40~64歳)

- 市のイベントより、小さい地域のイベントが密着するために必要かと思います。(女性・65歳以上)
- すべてのことが気軽に相談できる窓口(女性・65歳以上)
- わかりません。ごめんなさい。(女性・65歳以上)
- 免許返納して思うことですが、いかに交通の便が悪いかということです。区長がお調べ下さったのですが(常に私共住民の問題点等、さまざまな事柄に積極的に活動して頂き、大変感謝しております)。私共の地区では、130世帯中、世代別の年齢構成は、80歳以上21%、70歳以上30%、60歳以上では63%を占めるということです。他の地域でも高齢化がとて進んでいると思います。ご近所の方々との間でよく話題に上るのが、交通の便が非常に悪く、どちらに出るのにも坂があり、苦勞しているということです。特に現在80歳を過ぎて運転している方が多くいらっしゃいますが、不便になるので返納をためらっていらっしゃいます。岩沢方面はバスが巡回しているようですが、コースを延長して頂けますよう、ご検討を切に希望しお願い申し上げます。(女性・65歳以上)

(8) 美杉台

- Web上の目安箱に様々な意見を入れてもらう。(男性・18~39歳)
- 一人暮らしの方の支援や空き家、空き地(山、畑も含む)の対応をしっかりしてほしいです。(男性・18~39歳)
- 防災訓練(近所に寝たきりの身障者がいた事を参加するまで知らなかった。)、祭り、イベントを通して地域住民同士がかかわれる機会を設ける。(男性・40~64歳)
- 自治会のイベント等が土日祝に集中することが多く、我が家は夫婦共サービス業なので参加できず疎外感を感じることがあります。自治会の役員になったら仕事はどうしようと不安に思います。「やりたくない」という声もききます。自治会は大切ですが、飯能市が業務を負担

第1章 一般市民向けアンケート

- していただけたら、より住民はすごしやすいのではないかと思います。(男性・40～64歳)
- 特に考えた事がない。(男性・40～64歳)
 - 阿須の大規模ソーラー建設など、民意は反映していない公共事業(?)を、新市長新井重治氏は中止を含む検討を公約に当選したのでは？まずはそこからです。(男性・40～64歳)
 - 「社協だより」はじっくりとは読んでいません。切実なこととなったら見るのでしょうか。問21は「足りないかな」と思うものにつけました。14の隣近所のことが気にかかるのですが、どうしてよいかも分かりません。(男性・40～64歳)
 - 相応な予算措置と安定的で安価な労働力の確保。(男性・65歳以上)
 - 外燈をもっと多くしてもらいたい。(男性・65歳以上)
 - 飯能祭りや駅の改札付近とかにたまに相談ブースをやる。改まって行くのではなく、世間話程度から入って本題に入れるようにする。(女性・18～39歳)
 - 困った時にすぐにアクセスできるように、困る前から相談窓口の存在を認知しておくこと。(女性・18～39歳)
 - 子育てがしやすい飯能市ではあるが、小児科が少ない。きちんと小児を診てくれる医者がもっといてほしい。保育所、幼稚園、学童の数が足りてないように感じる。また病気の子どもを預かってくれる病児保育が近くにないので、完全に仕事を休まなければならない。コロナ禍で少しの咳や鼻水でも保育所は休んでと言うので、なかなか仕事に行けずに困る。(女性・18～39歳)
 - 最近、不審者情報や誘拐の脅迫メールが多くなってきました。現在の所、事件にはつながっていませんが、いつ起きてもおかしくないことだと思います。各家庭に防犯カメラが普及すれば、犯罪の予防、起きてしまった時の早期発見につながるかと思います。少しの補助でもいいので、援助があると普及につながり、街の安全にもつながるのではないのでしょうか。その際は自治会を通して情報を拡散する等、自治会の後押しがあるとよいと思います。実際に防犯カメラをつけたくても、「近所の方にプライバシーのことでクレームを言われたら」と悩んでいるご近所さんがいました。社会全体で推進していく雰囲気になればありがたいです。(女性・18～39歳)
 - 今のところ、現実的なこととして捉えていませんが、高齢者に対し手厚い支援を福祉の強みにしていただきたいと思います。(女性・40～64歳)
 - 市民皆に伝わる様分かりやすく、困っている事や支える側の事を回数多く、誰でも見やすく市民の意見も発言、考えが簡単に聴いてもらえるシステムがあれば。(女性・40～64歳)
 - 自治会での活動が多く、負担に思うことがある(役員の時は特に)。簡略化できることはし、多くの人が自治会活動の内容を理解し、無理なく参加しやすいものにしてほしい。(女性・40～64歳)
 - お年寄りの一人暮らしの人とか、多分どうしていいかわからないことがたくさんあると思います。そういう人たちを色々助けてあげられる役所になってもらいたいです。子どもがいる人はまだ若いし、ほっておいても情報は得ることはできると思うので、お年寄りが良い市に住んだなと思って、安心できると思います。あと市内循環バスは必要です。どこでもこれは導入しています。だいぶ遅れていると思います。あと大きなスーパーにコミュニティの場所とか、老人ホームとか子どもの塾みたいな場所がほしいです。森も林も多くて良い町なんだから、人間の住みやすい町づくり、魅力ある町を目指してほしいです。どれか一つぐらい実現してくれないと、アンケートに答えた意味ないです。(女性・40～64歳)
 - 私は障害者手帳1級を持つ障害者です。普段外出をすると、左半身麻痺のため様々な困りごとにぶつかります。例)歩道を歩いていても、整備されていない所で足を取られ転倒したり、急に自転車に後方から追い抜かれたり。常日頃、私にできることはないかと考えております。ですが、何から始めていいかわからないのです。せっかくこの地に住んでいるのですから、ハンデの有無に関わらず、誰もが安心して生活できる地域にしたいと願っております。私でもできることがあれば、指南いただけると幸いです。(女性・40～64歳)
 - そもそも共助の土壌が無い。他人のプライバシーに関わるのは難しい。自分も介入を望まない。だから自治会の加入率も下がっているのでは？従って自助と公助の仕組みを中心に据え

て、市と社協は取り組むべき。それが現実的な対応だと思うし近道である。共助については、今ある仕組みを充実させるためにはどうすればよいのか、といったアプローチをするしかない。自治会にもっと予算を配分して、加入のメリットをアピールすべき。不公平と言う市民も出てくるだろうが、自治会が辛うじて存続しているうちに手を打たないと手遅れになる。個人でボランティアに関わるよりも、自治会という組織で対応の方が関わりやすいし動きやすい。責任が個人でなく組織にある方が安心でもある。(女性・40~64歳)

- 特に飯能市が、ということではないが、行政がする福祉は制度設計内でしか対応できず、限界もあるように思います。多様なケースがあり、マンパワーもあり、難しいところだと思います。得意分野もあると思うので、NGOやNPOなどに協力を得て進めていけるとよいのではないのでしょうか。自己責任という言葉のせいもあるが、仮に自分が困った時に助けて求められるかといえば、どうだろうかとも思う。メンタル面での変化が一番難しいのかもしれないとも思う。(女性・40~64歳)
- ・近所の方との関わり方が大切と思う。・趣味等で気の合う仲間づくりも必要と考える。(女性・65歳以上)
- (取り組むべき内容を掲げる)①人目につくように掲げる。②主義・方針など人目につくように示す。③新聞雑誌など目立つ場所に載せる。④広く示して知らせる。⑤多くの人が参加できる取組。宜しくお願い致します。(女性・65歳以上)
- 自治会の加入は全世帯が理想ですが、班長や役員等ができず、未加入世帯が高齢と共に増えると思う。(女性・65歳以上)
- 夫の病を機に引越して参りましたが、障害、難病の申請がそれぞれ窓口が違うのに苦労しました。若い者が側にいたからできはしましたが、老々の身だと難しいと感じました。買物も取り寄せ等が可能ですが、車の運転ができなくなると不便になると痛感しています。(女性・65歳以上)

(9) 南高麗

- 興味がないためなのか、知らないことが多い。様々な施策があるが活用しきれていない。他人

事のように感じる。情報の発信も大切だが、受け取る方も考え方、受け取る情報の選択が大切。

(男性・18~39歳)

- 地域内で連絡網やライン登録などを設けて防犯の連絡や年配者の孤立化を防げたらよいと思う。(男性・40~64歳)
- 岩淵は福祉センターまで遠いし、情報が少ない。もっと自由に出入りする事ができる場所が少ないと思います。地域地域で丸めないで。(男性・65歳以上)
- 気軽に立ち寄ってゆっくり話をしたり、飲食ができたり、カラオケ、読書、趣味、運動など総合的な事ができる場所。また移動手段(乗合自動車、バスなど)が身近にあるとよい(年齢に関係なく)。(女性・40~64歳)
- 一人住まいで何も協力できず、申し訳なく思います。ご近所付き合いに重点を置き暮らしています。健康に気をつけ、皆様にご迷惑をおかけすることのないよう暮らせたら最高です。南高麗に住んでいますが、コミュニティーバスも充実して、今のところ最高です。ご近所のお年寄り(私もですが)のなるべく聞き役として過ごしたいです。お話すると、だんだん皆さん目が輝いてきます。(女性・65歳以上)

(10) 吾野

- 健康で快樂な活動を推進することが大事です。(男性・40~64歳)
- アンケートを取っている事を高齢者にも分かる様にバラバラ(別々)な情報でなくひとつに纏めた情報がほしいと思う。別々では読まずに捨てる事がある。分りにくいので専門的で分りにくい。簡単に分かる読める情報がほしい。(男性・65歳以上)
- 一人ひとりが教養を高めて、処理機能も高める努力をする。
 - ・自分の世代のことだけでなく総合的に見て何が大切かを見失わぬよう、自由に暮らせることが幸せで甘え合う勇気も恐れずに持ちたいものです。
 - ・自動運転の車をシェアできる日が早く来ることを期待します。(男性・65歳以上)
- 現在はコロナのためできないけど、小さくてもよいイベント、食事会等があるとよいかも。(男性・65歳以上)
- 自治会役員が積極的に動いてもらう事。(男性・

65歳以上)

- 自家用車が使えなくなったら（免許返納など）現在の場所で住むのは大変不便で、交通の便や車などでの食品等の販売（生協など1週間に1回注文以外）が来て、直接買えるとうれしい。（女性・40～64歳）
- コロナで閉ざされてしまったコミュニティを、まず再開できるように、同じ形ではできないと思いますが、少しずつ人が集まれる場を作っていく方法を考える。飲食なしでマスク着用、短時間でもよいので触れ合う場、話し合える場を復活させる。（女性・40～64歳）
- 支援は待っているのではなく積極的に働きかける。特に高齢の方には訪問事業をぜひ取り組んでほしい。（女性・65歳以上）

(11) 東吾野

- 支援金がどれだけ集められ、より良く配分し使うことができるか。（男性・40～64歳）
- 社会福祉協議会の皆様にはいつも親切にして頂いております。（男性・40～64歳）

(12) 原市場

- 個々の生活が、コロナや社会生活の中で当たり前になってきている時代なので、いろいろなことに多面的に対応してもらえればよいと思います。正解を求めるよりは、それぞれの立場の人に寄り添いながら、地域活動をしてもらえればと思います（インターネットの利用等）。（男性・40～64歳）
- 自治会と市がもっと意見交換できたらよいと思います。（男性・40～64歳）
- 数人のお人好きな人によって支えられていたものが、お人好き不足により、破綻してしまっていて、新たなお人好きが名乗り出てくれるのを待ちぼうけているような状態が今なのだと思います。もう、ひと昔前のようにお人好きが出てくれるような世の中ではない、現状を理解し、多少義務のような形をとってでも協力を請わないとまらないのではないのでしょうか。（男性・40～64歳）
- 役所窓口（飯能市民）高齢者110番設置（よろず相談含）・近隣トラブル、ごみ問題含 ・介護 ・葬儀費用緊急融資等の話、直接家庭に関わること。（男性・65歳以上）

- 一部の役員等で周辺の間が動く（行動）のみで地域全体には行き渡ってない。個々に視点を当てた取組が希望。個人→自治会→地区→市。現行はここから。個人が知らないことが多い。（男性・65歳以上）

- 上記（問21）の項目は、いずれも大切であると考えます。順番をつけがたい。「福祉子ども部介護福祉課」からもアンケートが届いています。双方を互いに活用することで、部分的にでも問題や方向性が明確になってくるのでは？（生涯現役生き生き調査はんのう）（男性・65歳以上）

- 笑顔、親切、感謝（女性・40～64歳）
- 1. 高齢化しているので、独居の人の安否確認が大事であると感じます。2. 生活費でその方に見合う福祉がしっかり受けることができるとよいと思います。（女性・65歳以上）
- 身近な自治会を中心に気軽に参加できるお茶会でもあるとよいのではと思います。（女性・65歳以上）
- コロナ禍高齢者の地域活動に参加する機会が少なくなった事が残念です。（女性・65歳以上）
- 民生委員の方は、地域にいても何年も前に一度話ただけです。もう少し高齢の方とかに回って歩いた方がよいと思う。（女性・65歳以上）
- 意見を話し合うことが必要だと思います。（女性・65歳以上）
- 自然な形で心からの対話ができる関係を築き上げていきたいです。できるだけ心の負担にならないような、気軽な気持ちで相談できる相談窓口の設置。生活困窮者への生活必需品（エアコンなど）の支給率を上げることなど。（性・年齢不明）

(13) 名栗

- 散歩中の挨拶とか、他人に優しく思いやりの心を大切にしていきたいですね。（男性・40～64歳）
- ①高齢者として安全な散歩コースを作る。（男性・65歳以上）
- 地域のサロンに参加したことがあるが、年々高齢者の参加が減り、運営が厳しくなっているように感じている。しかし取組自体を無くしてしまうと自宅に引きこもりがちになり、社会との関わりがなくなることで孤立し、老化が進む原因になってしまう。月1のサロンの参加を逃す

と2か月が空いてしまい、参加しにくくなる
と考える。そのため回数を増やし、歌やお茶だ
けでなく、老化防止の体操や訪問医療のように、
病院に行かなくても地域の集会場で健康相談
ができれば、参加者が増えるのではないかと考
える。さらに移動販売で買物をして、送迎車で
自宅付近まで送ってもらえれば、たくさんのメ
リットがあるため、高齢者の外出が増え健康増
進に繋がると考える。(女性・18~39歳)

(14) 圏域不明

- 気力、体力にゆとりのある方は、助け合い社会
に向かって一人一つずつ良いことをしましょ
う、と思うばかりです。一人が二人、二人が四
人、四人が八人と良いサークルメンバーが増え
ることこそ、自然の理想のように思います。
(性・年齢不明)
- 手助け(性・年齢不明)
- 1. 自治会への入会促進。2. ごみ当番や清掃な
ど、地域生活を営む上で最低限必要な活動への
促進。(性・年齢不明)
- 福祉とは名目だけ、行政をとり行う年齢は20

代~50代の車で走り回り、足も達者なメンバ
ーは、高齢者の立場には理解できていない。例
えば選挙の事前投票所が、役所の2階の奥に
行けとのこと。高齢者が歩いていくのに、あき
れた場所につくるものだ！駅前とかスーパー
とかの入口に注意してだれでも、すぐ行ける所
に作るのが必要だ！心配りが全く足りない。役
所の出張所など駅に作る必要がある！歩く
人の事が全く考えられていない。あちこちに手
すりを付けるとか、福祉とは言葉だけのうすら
寒い状態だと思う。とりあえずあちこちよく考
えて、歩いて高齢者をみなさい。一時間か二時
間に一本のバスで町に出てくる人がいるのを
考えなさい。キャンプの若者の無法状態も目に
余る。大勢で大騒ぎしている！ノーマスクで騒
いでいる。女性の多くが下水道料金が高いと言
っている。ベンチが石では意味がない。木のベ
ンチ、駅の中のようなベンチで、高齢者が歩い
て休める所に、あちこち屋根の下にある所につ
けて下さい。高齢者の店とかいっても、いつも
閉めてて活動していない。(性・年齢不明)

第 2 章

児童・生徒向けアンケート

第1節 回答者自身の状況

2-1-1 学年（問1）

問1 あなたの学年を教えてください。（1つだけに○）

「中学2年生」が51.5%

学年については、「小学5年生」が49.5%、「中学2年生」が50.5%となっています。

図 学年

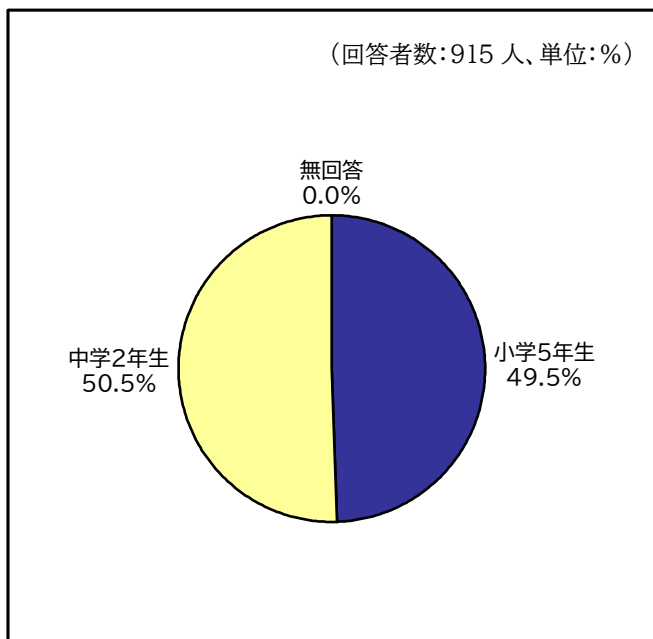


表 学年

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
小学5年生	453 (49.5)
中学2年生	462 (50.5)
無回答	0 (0.0)

2-1-2 学校（問2）

問2 あなたの通っている学校を教えてください。（1つだけに○）

(1) 小学校

「加治小学校」「飯能第一小学校」が多い

小学校については、「加治小学校」が20.5%で最も多く、次いで「飯能第一小学校」が19.9%が続いています。

図 小学校

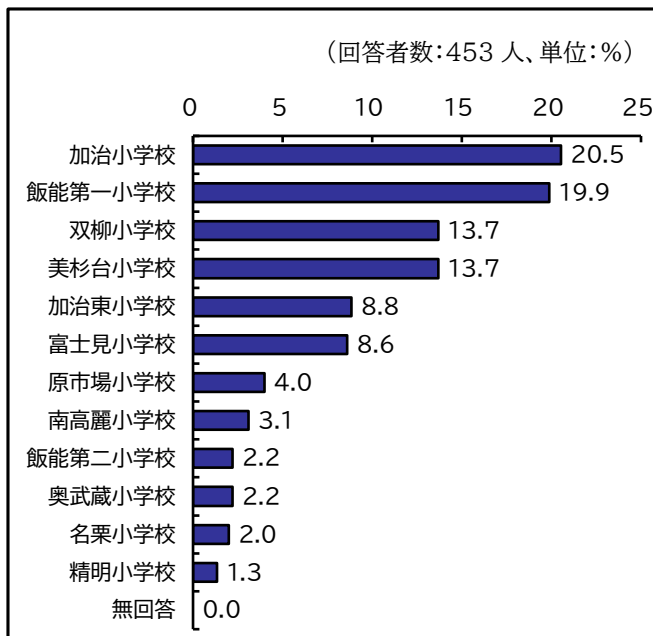


表 小学校

区分	人 (%)
回答者数	453 (100.0)
飯能第一小学校	90 (19.9)
飯能第二小学校	10 (2.2)
南高麗小学校	14 (3.1)
加治小学校	93 (20.5)
精明小学校	6 (1.3)
原市場小学校	18 (4.0)
富士見小学校	39 (8.6)
加治東小学校	40 (8.8)
双柳小学校	62 (13.7)
美杉台小学校	62 (13.7)
奥武蔵小学校	10 (2.2)
名栗小学校	9 (2.0)
無回答	0 (0.0)

(2) 中学校

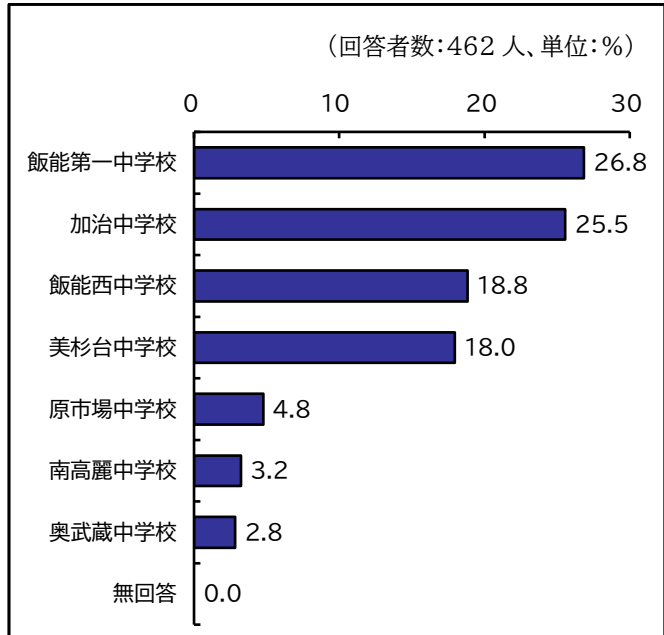
「飯能第一中学校」「加治中学校」が多い

中学校については、「飯能第一中学校」が26.8%で最も多く、次いで「加治中学校」が25.5%で続いています。

表 中学校

区分	人 (%)
回答者数	462 (100.0)
飯能第一中学校	124 (26.8)
加治中学校	118 (25.5)
飯能西中学校	87 (18.8)
美杉台中学校	83 (18.0)
原市場中学校	22 (4.8)
南高麗中学校	15 (3.2)
奥武蔵中学校	13 (2.8)
無回答	0 (0.0)

図 中学校



2-1-3 同居している家族 (問3)

問3 あなたはだれと一緒に住んでいますか。(あてはまるものすべてに○)

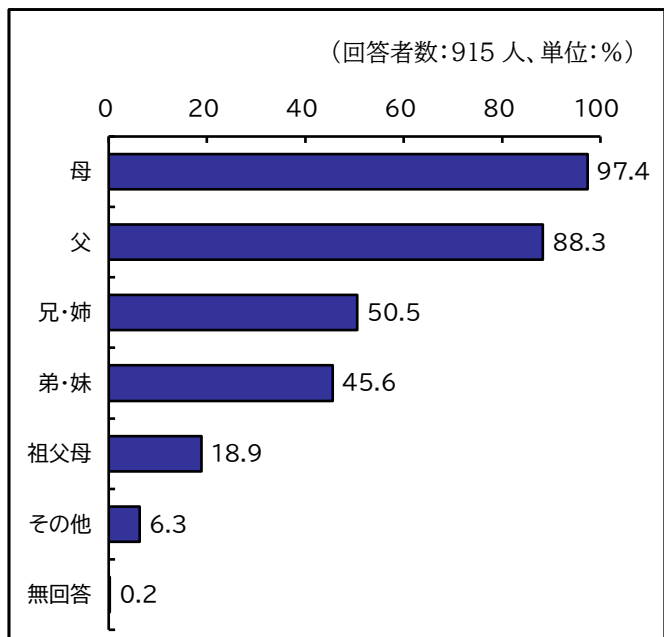
「母」が最も多い

同居している家族については、「母」が97.4%で最も多く、次いで「父」が88.3%で続いています。

表 同居している家族

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
母	891 (97.4)
父	808 (88.3)
兄・姉	462 (50.5)
弟・妹	417 (45.6)
祖父母	173 (18.9)
その他	58 (6.3)
無回答	2 (0.2)

図 同居している家族



第2節 飯能市への想いについて

2-2-1 飯能市への愛着感（問4）

問4 あなたは、飯能市がどのくらい好きですか。（1つだけに○）

“好き”が93.8%

飯能市への愛着感については、「とても好き」が49.9%、「少し好き」が43.9%であり、これらを合わせると93.8%が“好き”と回答しています。

一方、「好きではない」は6.1%となっています。

図 飯能市への愛着感

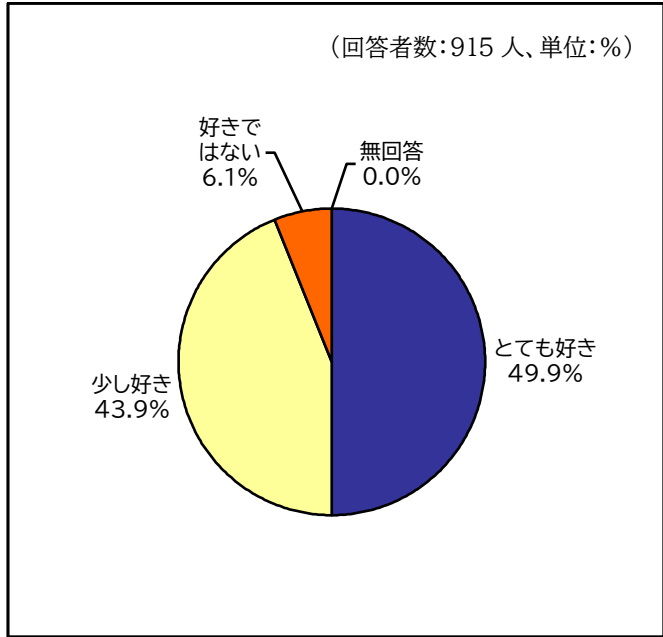


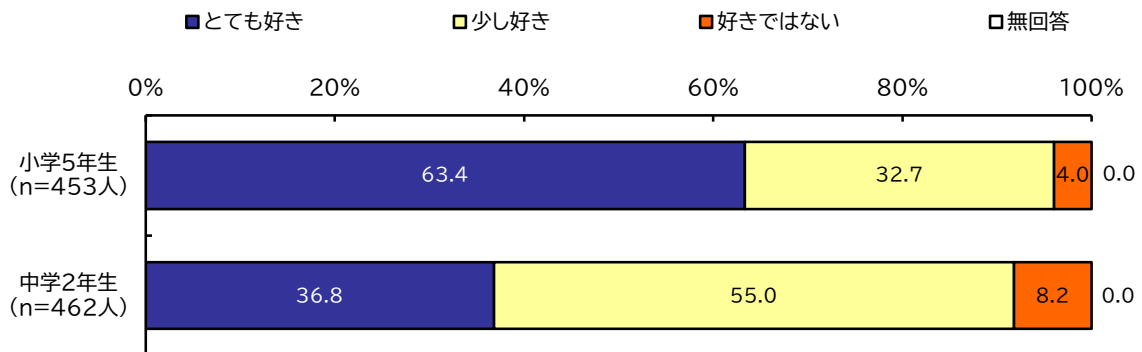
表 飯能市への愛着感

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
とても好き	457 (49.9)
少し好き	402 (43.9)
好きではない	56 (6.1)
無回答	0 (0.0)

【学年別】

これを学年別にみると、中学2年生は小学5年生に比べて「好き」の割合が低くなっています。

図 学年別にみた飯能市への愛着感



2-2-2 飯能市への定住意向（問5）

問5 あなたは、大人になっても飯能市に住み続けたいですか。（1つだけに○）

「はい」は23.4%

飯能市への定住意向については、「はい」が23.4%、「いいえ」が17.2%、「わからない」が59.5%となっています。

図 飯能市への定住意向

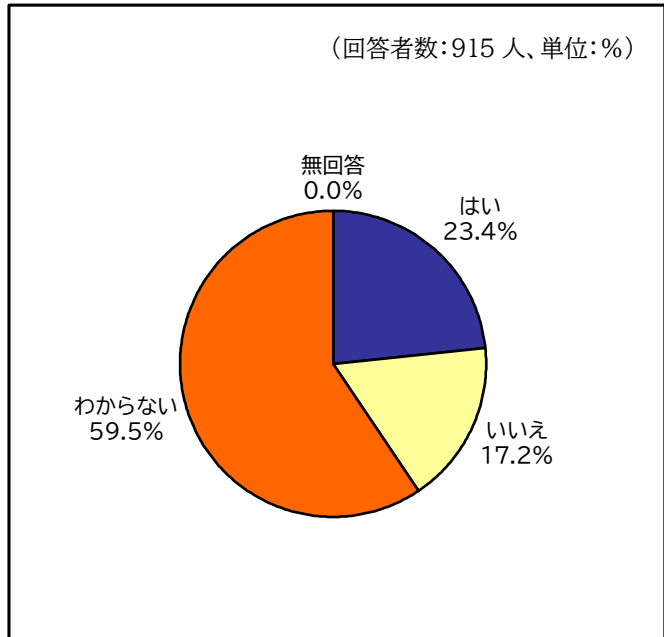


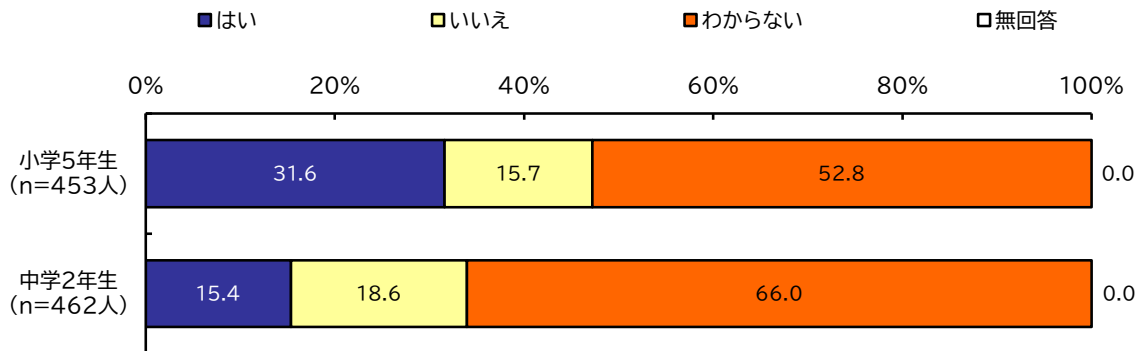
表 飯能市への定住意向

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
はい	214 (23.4)
いいえ	157 (17.2)
わからない	544 (59.5)
無回答	0 (0.0)

【学年別】

これを学年別にみると、中学2年生は小学5年生に比べて「はい」の割合が低くなっています。

図 学年別にみた飯能市への定住意向



2-2-3 大人になっても住み続けたいまちの条件（問6）

問6 飯能市がどのようなまちなら大人になっても住み続けたいと思えますか。下の枠に記入してください。

大人になっても住み続けたいまちの条件について記入していただいたところ、次の通りとなっています。

(1) 小学5年生

①飯能第一小学校

- 自然がある町
- 思いやりがある町
- 公園があるし子どもも楽しめる街
- 大人も子どもも楽しめる場所がいっぱいあるまち
- 楽しいところを作る
- 自然に囲まれてて機械がない町
- 自然豊かで静かな場所
- 自然豊か
- 都会
- 自然がいっぱい
- 海がある所
- 健康で楽しい飯能市がいいです。
- 自然と機械のバランスを保った飯能市。
- 森がいっぱい
- ゲームセンターやいっぱいお店があったら。
- 都会
- 未開発の自然の宝庫
- にぎわっている
- もう少しコンビニを増やしたりスーパーマーケットを作ったりする。
- 花粉が少ない
- 森林が豊かな街
- もっと魅力的なところがあると住みたくなる。
- 東京みたいなまち
- 都会
- いろんなお店や場所が増えたら
- 観光地や遊べる場所などがたくさんあるまち
- 大きなお店や出掛けて楽しめる場所がある
- 都会
- 安全 便利
- もっと森がたくさんあって、リラックスできる環境なら住み続けたいと思う。
- 自然あがり便利な町
- いろんな楽しい行事があって、冬には氷の滑り台などがあってほしい??
- 安全第一
- 都会で人口も多く、遊び場もあり、いろんな物がある街
- 今と変わらない
- 小さい子がたくさんいる。
- 森を感じられる場所、森林がたくさんあるところがある。
- 交通が便利
- ネットワークが良くなったら。
- 自然が豊かなままだったら住む。
- アニメイトがある
- 住みやすいまち
- ショッピングモールが多くあるといい
- たくさんの人がいてほしい
- 自然豊かでかつ、店がいっぱいあるところなど
- 自然を壊さず、都会の街（便利）に近づくといいかもしれません
- わからない
- 祭りとかは残しつつ、新しい娯楽場所を作ったりとかする。
- ごみが道端に捨てられていない
- もっと発展してほしい。
- 施設が充実していたら
- お店が多い
- 交通手段が多くある
- 自然が綺麗なまち
- 住みやすい町
- 都市化が進んだら
- 事故が少ない
- もう少し生活に便利な施設が多くなれば住み続けたいと思う。
- 駅がもっと便利になったら。
- 人口が少なく自然があるまま
- 人がちょっと多い町
- 自然がたくさんある
- 市民の声を聞いて行動してくれる町
- 店が発展してる
- 有名なものがある町
- イオンモールなどの商業施設がもっとできたら。
- 静岡

- とてもひどくなければ（汚いなど）住みたい。
- もっと発展したまち
- 今のままでいい
- 仕事が充実しているまち
- お店が多くて便利なまち
- 平和なまち
- 交通のアクセス あと通学路が危ないので改善してほしい。
- このまま
- 普通の暮らしができる

②飯能第二小学校

- 発展している。ショッピングモールがあるなど
- 色んなお店が沢山できれば
- 平和でおだやかなところ
- しっかりと整備されている
- 環境に優しく治安が良い
- 安全、不良がない
- 今のように不自由のない普通の暮らしができれば住みたいと思う。
- モールなど遊べる所が増えてほしい。

③南高麗小学校

- 楽しめるお店が多い街
- 自然が残っていて都市化していない
- 施設が充実しているまち
- 観光スポットとかがあるといいと思います。
- お店が沢山あったり、交通が栄えてたら住み続けているかもしれない。
- 都会的な建物とかあったら。
- 別に今のままでも全然いいと思う。
- 住みやすかったら
- 都会
- ビルというか最近高い建物などが多く建設されてるので、飯能市の豊かな自然を守ってほしい。
- 楽な暮らしができる町
- モールなどがある
- このままだったら住みたい。
- 出かける場所が多いなら

④加治小学校

- 栄えてる町
- みんなが優しい町
- モールなどがある

- ショッピングモールとかがある町
- 有名な場所とかがあったら。
- 医療費の負担が少ない
- 今のまま
- 育児に関するサポートが充実している。
- 楽しむ場所が多くなったらいいと思う。
- 今までと同じ
- 近くにスーパーなどの店があるまち
- 犯罪率最下位、路上喫煙無し、人々が皆協力するまち
- もっと様々な施設が多いまち
- 今よりも緑豊かな町
- 安心して暮らせるまち
- もっと道が広くなったら住みたいと思う。
- 助け合いができるまち
- 公園や店が増えたら
- 飯能市にもっといろんな施設があるといいと思います。
- もう少しショッピングモールなどが作られるなど、発展していけば住みたいと思う。
- 福祉が充実しているまち
- お店が多い町
- もう少し交通が発展してほしい。
- 今以上にパークや、公園？広場が多いまち
- モールのような大きな施設があると買物しやすくすみやすそうだなと思った。
- たくさんのお店ができて遊び場に困らないような街
- 遊べる店が増えた町
- 物がもっといろいろある
- 暮らしに便利な街・どの年代でも楽しめる施設
- 通勤、通学のしやすい交通 自然と調和の取れた街
- でかいショッピングセンターとかができれば
- 賑やかで楽しい
- 不便がなく、買物などがしやすい。遊べるところがある
- コロナ対策などをもっと積極的に取り組んでほしい。もう少し飯能市民が楽しめる場所を作ってほしい。
- 色々な観光地がある
- いろんな行事が続いていたら住みたいと思う
- いろんなお店があって、もうちょっと街灯がある明るいまち
- 自然豊かで落ち着ける町

- より、都会に近い街の方が便利でよい。
- 公共交通機関がもっと便利になり、自然と人が共存できるまち
- 住みやすい所なら住みたい。
- 買物とかが便利になるようにイオンモールなどの施設があったら。
- 最近のお店などができたらいいと思う。
- スーパーなどが増えたり、特徴と言えるものが増えたりすること。
- ショッピングモールとかをもう少し
- もっと色んな建物があるといい。
- 明るくて活気のある街
- 街灯がもっとあって、夜でも安心できる場所
- 自然が溢れた飯能市
- 自然が溢れている町
- 綺麗で豊かで、人も心優しく、楽しいところ
- 緑にあふれる、自然がたくさん
- バスケの強いチームがあったら。
- 賑やかな町
- 今は災害があっても被害が起こりにくい街だから、まったりできるところや、自分が好きな事をできる市だったらいいと思う。
- 自然と色々なお店などがたくさんある市
- いろんな施設が増えたら住み続けたい。
- 自然と町がにぎやかなところ
- 平和な町
- 自然がある公園があったら住み続けたいです。
- テーマパークをもう少し増やしてほしい。
- お店などがたくさんあり、物が購入しやすい市
- 海があって映画館があってイオンがあるといい。
- もっと穏やかな町
- ずっと平和な街
- 協力??する街
- 遊園地があって恋愛スポットがあれば
- 海に面していないから津波の心配などないし、埼玉県南部は地震が起こりにくいから飯能市に住み続けたい。
- おしゃれな店を建てる。
- お店などがたくさんあり、物が購入しやすい市
- 緑がたくさんある、自然ゆたかなまち。環境がいいまち。
- もっと有名な飯能市だったら住み続けたい。
- 映画館があるといい。
- 今は災害があっても被害が起こりにくい街だから、まったりできるところや、自分が好きな

事をできる市だったらいいと思う。

- 原宿竹下通り見たいのがあったり、大きい公園があったら住み続けたい。
- 株式会社ポケモンやポケモンセンターなどがあれば住み続けたいです。
- 自然豊かな町
- 原宿竹下通りみたいなのがあったり、大きな公園があれば住み続けたい
- 家が建ちすぎない
- 山や川があり、お店が多い町
- もうちょっと便利になってほしい。
・交通機関など

⑤精明小学校

- 近くに公園や楽しい施設があるといい。
- 交通アクセスがいい
- 暮らしやすい町
- 自然が豊かで、暮らしやすい平和なまち
- 色々と充実してるまち。緑がたくさんあるまち

⑥原市場小学校

- 飯能に住んでいる人は色々なところで割引ができることなど
- 子育て支援が充実している町
- ショッピングモールなど買物がしやすい場所があればよい。
- 子育て支援が充実している町
- 安定した収入を得られるような企業がある。近場でいろいろなものが揃う。
- 衣・食・住の保証
- もう少し店を増やして食堂も増やしてほしい。
- 温かくて、安心する街
- 遊園地など若い人たちが楽しめる場所があればいいなと思う。
- 近場にショッピングモールがあったり道路が整備されていること。
- 小中学生とかの通学路の整備、道を綺麗にする、カーブミラーとか危ないところとかにつけるとか、子どもが住みやすいとか安全に暮らせるようなこと。コンビニとか増やす。
- 遊園地など若い人たちが楽しめる場所があればいいなと思う。
- 渋谷くらい街が発展していて商業施設が豊富なら。
- 大きい会社が沢山あり、今より栄えている

- 自然が近くにある町
- 人口や建物が多くなったら

⑦富士見小学校

- もう少し出かけられる場所が増えたら。
- 温かくて、安心する街
- 自然を大切に、良い環境のまちなら住み続けていきたい。
- もう少しビルを増やす。
- 23区のように何でもある。
- 仕事やバイトをするところが沢山あって、仕事の種類が色々ある町。綺麗で飯能市だけの魅力、住み続けた方がいい魅力がある町。
- 買物できる場所が多くある。
- 便利
- 住みやすい町
- 住宅地へバスを充実させてほしい。
- ポイ捨てなどしないとか、綺麗にもものを扱って町が汚くない所。
- もっと栄えている町
- 利便性の高い街 また、人口密度が極端に高くなく住宅地と自然の両立した街
- 自然は今のままでいいけどショッピングモールとかを作ってほしい。
- 色々なものがあるところ
- 自然豊かで山水もおいしくなったら住みたい。
- 観光スポットを増やしてほしい。「イオンモールなど。
- 今のような街
- 綺麗で治安がいい市
- 自然が多い
- より利便性が高く、買物をする店や娯楽施設が多くあるまち
- 銀座通り辺りなどが豊かで土地など生活面の値段が安い。
- 自然が豊か、道が整備されているまち
- 生活するのに便利な町
- もう少し発展した町
- 学校などが綺麗に、人気になったら。
- 安全
- 発展したら
- ショッピングモールなどの買物が楽にできる施設がもっと増えたらいいなと思います。ゲームセンターもあつたらよいいと思います。
- 自然豊かで安全な街
- 都会になったら

- 地域の人たちとの繋がりが深い
- 時代の最先端な街
- 楽しい場所などを造る
- 今のままの飯能らしい自然豊かなまちに住み続けたいです。
- ショッピングモールとかがあると住み続けたいなと思えるかなと思いました。
- 赤ちゃん、子どもたちを殺さないで、いつも平和な町にいたいです。

⑧加治東小学校

- 都市と森が混在しているようなまち
- 今よりも道が平らで広かったり、インフラがしっかり整備されている街
- 発信力があり、自然を大切に、家賃が安いところ
- ごみが落ちていないような綺麗な町
- 大きなショッピングモールとかがあっている街
- 発信力があり、自然を大切に、家賃が安いところ
- 大きな商業施設ができれば。
- ショッピングモールやお店、建物がたくさんあって、住みやすい町
- 自然豊かな飯能
- 遊べる場所がたくさんある。
- 栄えている町
- 人口や建物多くなったら。
- 整備された環境と土地
- 森が少なく、都会
- 大人も子どもも楽しめるまち
- もっと買物できるデパートとか交通網がもっと発達しているといいと思います
- 近くにお店とかが並んでいる。
- みんな優しくてゆずりあえるまち
- 街が明るくなったら住み続けたいと思います。夜、暗すぎます。
- イオンとかの大きめのショッピングモールを増やしてくれたら。
- 穏やかで自然を感じられる街
- 大きなショッピングモールがあつて飯能でなんでも済ませられる。
- 交通機関が整って。大人でも遊べるような場所(20代30代)
- 商業が栄えている、イオンモールなどの大型モールがある
- 大型のショッピングモールなどがある街なら

第2章 児童・生徒向けアンケート

住みたいと思う。

- 有名になる(記憶に残る)ような観光地がある
- 賑やかで楽しいまち、みんな一人ひとりが助け合ったりするまち…こんなまちがいいです。
- 充実していて楽しい場所がある
- テーマパークもうちょっと増えたり、大きなショッピングモールなどがあったら。
- 遊べる場所が多く、給料が高い
- テーマパークもうちょっと増えたり、大きなショッピングモールなどがあったら。
- 今のままでも住みたいと思います
- 便利な街
- 自然で、お店がいっぱいあるところ
- もう少し買物できる場所を増やしてほしい。ショッピングモールなど大きいところではなくてスーパーやコンビニとかを増やしてもらえると買物に行きやすくなるので。
- 平和な町
- 自然がたくさんあるところ

⑨双柳小学校

- 自然豊かで平和である町
- みんなが助けあって楽しい町
- 環境が良い
- 戦いの無い平和町
- 都市部のように大型のショッピングセンターを作ったり、遊ぶことができる施設を増やす。
- 清潔で不審者などがいない明るい飯能市
- 買物できる場所が近くにある。駅が便利。安全性が高い。
- 高速道路、商業施設があったら。
- 自然の豊かさを守りつつ、店などが発展していたら。
- 飯能市がどう変わろうと、大人になった自分の意思次第だと思いますが、自然は守り続けてほしいです。
- 土地単価が下がったら。
- 東京みたいな所
- 自然がたくさんあってみんな優しい
- 綺麗で賑やか
- スーパーやショッピングモールが増えれば住みたい。
- 道路などがもう少し整備され、便利になれば
- 東京みたいに人口が多かったら住みます。
- 海
- ショッピングモールなど、みんなが行きやすい

場所をつくる。遊び場所をつくる。

- 平和だったら住みたいです。
- もう少し栄えているまちなら住みたい
- きれいな町
- 通勤しやすい。暮らしやすい。
- 公共交通機関がもっと発展していてお金がかかりにくいまち
- 自然のまま
- お店などをつくる。ショッピングモールなど
- 道路や歩道がしっかり整備されている。飯能駅や東飯能駅の近くに商業施設があると便利。森林資源を大切にす町。
- 都会、治安がよかったら
- 安全で豊かな町
- 地域の人たちが親切や、優しくしたら続ける。
- 楽しく笑顔がいっぱいの町
- イオンモールとかアウトレットパークなどがあれば…。
- 今と同じような町
- 地域な交流が深い町
- 綺麗な町
- 自然豊かな町
- わからない
- にぎやかになる
- 友達と遊ぶところができたりオシャレなご飯屋さんができたら住みたい。
- 治安がいい
- 自然豊かな町
- うまいものがなさすぎるから増やせばいいかな。
- お店の沢山あって綺麗な町
- 賑やかで豊かな町
- 自然豊か
- 平和な町
- このままでいいと思う。
- ショッピングモールがあるところ
- 虫が少ない町
- もっと広がってほしい。
- 今が完璧
- 都会のまち
- 今のまま
- きれいで環境の良い飯能市に住みたいです。
- もっと面白いものがほしい。

⑩美杉台小学校

- 新しく

- とても良いところだからです。
- 広くなる
- いつまでもみんなが平和で幸せになる世界
- 自然が沢山ある町
- 犯罪など警察の関わる事が起きない飯能市になってほしい。
- もう少し子どもが遊べる場所や、服を買ったり、食べ物食べられるようなイオンモールがあるととても便利だし、もし、子どもが産まれたらその子と来ることができていいなと思います。花粉がたくさん飛んでいるので、あまり飛ばないようにしたらなと思います。
- きれいな町
- 色々楽になるけどほぼそのままだいい。
- 今のままの町
- 医療費が無料な飯能市
- きれいな町です。
- 遊園地があったら！
- 楽しい町
- 学校、仕事が誰もが楽しいと思える街なら、住みたいと思います。
- 物価が安くなったら住み続ける。
- イオンができれば住み続けける。
- 遊園地
- 平和な飯能市
- 遊園地がある町
- 日本一の何かがあってほしい。
- 将来的に明るく経済的に発展した町
- いろいろな人が親切な町
- いろいろな人が優しく、犯罪がない所
- 東京みたいにライブ会場があったらすみ続けたい。
- 平和で、事故のない町
- 平和な街
- 安全
- 平和である町
- みんなが幸せで暮らせる町
- 犯罪、事故、コロナみたいな病気がなくなったら。
- 自然だけではなく都会もあるまち
- 花粉がない
- 自然が沢山ある色んな店がある
- 環境がよい町
- 環境が良い

- もっと魅力があるまち
- 若者でも楽しめるような施設の建設
- 楽しいまち
- 自然がある町
- 海がある
- 店がたくさんある
- 自然豊かなまち
- 買物できる場所がある町
- もっと（見た目が）美しい市だったら住み続けたい。
- 行楽地を増やしてほしい。
- 自然が豊か、かつ他の地域に比べて発展していて、サービスが充実しているまち
- お店が多くなる
- 今のままでいい
- 服屋などの店がほしいです。
- 人口が増えたら。
- もっと遊んだりするところがあるまち
- 優しい人がいるとか、公園が多いとかです。
- 近くにショッピングモールとか、買物できるところがあるまち

⑪奥武蔵小学校

- 都会っぽく色々な楽しめる施設？や場所がある
- ショッピングセンターが多いまち
- 色々な商業施設があるとよい。
- ここにしかないものがほしい。
- 車がなくても出かけやすい
- 大都会
- 空気が綺麗で、気持ちよく過ごせそうだったら。
- もっと緑が増えたら。

⑫名栗小学校

- 大型ショッピングモール、遊園地ができれば。
- もっと遊んで楽しめるところが多い
- 遊ぶ場所がほしい
- ショッピングモールができてばちいんこがなくなったら。
- イベントや自然
- 近くにショッピングモールがあったら。
- 清潔、医療や介護施設が充実している。
- 商業施設や行楽地が充実している。

(2) 中学2年生

①飯能第一中学校

- もっと遊ぶところが周りにある
- 大型ショッピングモールを作ったりお店を増やす
- もっとイベントなどが増えたら。
- でっかいショッピングモール、遊園地
- いろいろなお店とか建物がある。
- 栄えているところがあり飲食店が沢山ある
- ショッピングモールを増やす。
- 環境がいいまち
- ショッピングモールなどがある。
- 誰も飯能市の自然を壊さない。
- 犯罪が減ったらです。
- 虫が減ったら。
- 伝統文化に親しむことができ、自然に溢れ、のびのび過ごすことができるまち
- 市民に尽くしてくれる、市民の意見を聞き入れてくれる安心して暮らせるまち
- 飯能駅の近くをもうちょい都会にしてほしい。
- 治安の良さが続いていて都会へのアクセスがしやすく、人口が多すぎないまち(過密状態でも過疎状態でもない)
- 大型ショッピングモールがある、遊園地がある
- ゲーセン(優良株あり)
- ショッピングモールなどが作られる。
- 川が綺麗・橋が綺麗・道が綺麗なら住む。
- 緑がたくさんあって変に観光に力を入れない町
- もう少しイオンとかポケモンセンターなどの大型ショッピングモールがほしい。
- 水族館や遊園地がほしい。
- もう少し便利
- 子どもや、大人でも楽しめる物を作るとより飯能に人気がつくと思います!
- どんなところでも歩いて行けるくらい便利
- 大きな公園がありボールを蹴れるところ
- ショッピングモールがほしい
- 災害に強く、いい仕事の間がある所
- 木が多い街でスーパーとコンビニがある。
- 自然が多く住みよい豊かな町
- テーマパークや、ショッピングモールを増やしてほしい。
- 治安がいい
- 休みの日に近場で気軽に気分転換をしに行けるところがある。
- 球場

- 自然豊かで楽しい街
- 自然がいっぱいある。
- 悪い人とかがない飯能市がいい。
- 花粉がすくなくなったら。
- 年寄りになっても安心して暮らせるようなまち。
- 誰でも楽しめる場所がある場所
- 自然が豊かで子どもも楽しく遊べる街なら住み続けたいです。
- 今と変わらない飯能市
- 他のところへ行く
- 綺麗なまち
- もう少し自然が多かったら。
- 都会みたいなどこ
- デルパラをサビアにしてほしい。
- 自然豊かなところ
- 7丁目だけでなく、5丁目などの下の方のところでも「ハロウィンパーティー」などのパーティー系をやってほしい。駄菓子屋さんがあったらいいなと思います。
- 平和である町
- 自然がたくさんで、あまり機械にたよらず、みんなが気持ちよく暮らしていける飯能市
- もっと色々な建物を作ってほしい(博物館とか)
- 自然豊かで平和なまち
- ショッピングモールがあれば。
- 自然豊かで平和な飯能市
- 自然が綺麗だったら飯能市に住んでも大丈夫です。
- 引っ越すかもしれない。
- 自然がたくさんあって綺麗なら
- 自然の中でゆっくりバードウォッチングできる建物があったら住み続けたいです。
- 自然を守る
- 好きなスポーツがあったら。
- 自然がたくさん町
- 公園がたくさんある町
- 今のままでよい。
- 大きなショッピングモールなどがある町
- 遊べる。出かけられる。安全性の高い。駅が便利。
- 活気のあるまち
- 自然豊かなところ。
- お店を増やしてほしい
- 自然豊かな街
- 都会になったら。

- きれいな景色がある所やテーマパークがある
飯能市
- 公園に遊具を増やしてほしい。
- 街灯がないところを減らす。
- 自然が多いがモールとかがちょっとだけほしい。
- 有名な市
- 環境が壊れていない、空気が綺麗、場所がある
- ショッピングモール、遊園地などがあったら
- 技術が発達したら。
- 安全な町
- 津波や地震が少ない交通便利
- 自然豊かだけどちょっとモールなどがほしい。
- 都会になったら
- きれい にぎやか 楽しい
- 綺麗で人気がある。
- キレイで平和
- きれいで自然がたくさん
- もっと人がいる。
- 川や山かとても綺麗
- もう少しイオンとかそういうところができたら住んでもいいかもしれない。
- 都会になったら。
- テーマパークが増える（自然を残す）。
- きれいな町
- 今よりもホッケーが有名で飯能のチームが何個もあるまちがいいです。
- ごみが少なく、地震による影響が少ない町
- 遊園地的な物が増える。
- 自然豊かな街
- 陸上競技場ができたら。
- 私の夢次第です。できればずっと飯能にいたいです。
- 便利になれば住みたい。
- もっと自然が綺麗だったら。
- 西川材をもうちょっと増やしてほしい+田んぼ&畑を作ってほしい。
- 遊び場が沢山ある。
- 自然豊かなままみんなが暮らしやすいまち
- 店がいっぱいある 都会
- 思えない
- 市民プールや子どもだけで行ける場所がもっとあったら、住み続けるかもしれない。
- 今のまま
- 飯能に海があったら住みたい。
- 都会らしい

- 水族館 サファリパーク
- ショッピングモールが近くにある。
- 飯能の西川材を使ったカフェ（東京みたいにスタバみたいな）美味しいご飯屋さんがある所がいい。理想?????????”
- 都会
- 危ないところがないまち
- 東京みたいに広くなったら住みたいと思います。
- 今のまま
- 自然を楽しめられる。
- 遊ぶ所が増えたら。

②南高麗中学校

- 東京みたいな感じ
- 木の町
- 都市部のように大型のショッピングセンターを作ったり、遊ぶことができる施設を増やす。
- 住みやすく自然に溢れた楽しいところ
- 治安がいい、駅から遠いところにもデパートなどのショッピングモールがある。
- テーマパークがいっぱいあれば
- 自然がいっぱいあり空気がきれいかつ水源が豊富
- きれいで環境が良く平和な町
- わからない
- 買物が便利、街灯が多く夜でも明るい
- 花粉が減れば。
- テーマパークが増える。
- もっと都会みたいに発展して、エレベーターとかの動きが速くなったり、あと…駄菓子屋さんができたら、ずっと住みたいです（夢物語なことを言っていて、すみません）。
- 自然と文明が融合する、自然と社会が共存できる街
- 店が増える

③原市場中学校

- 海を作れ！・・・個人の感想です。
- コンビニが安定して何店かある。
- 店が多く、便利な街
- 楽しめる場所
- 環境がしっかりしている。
- 道が狭いところがあるので、道を広くしてほしい。

- 店がもう少し近くにあったらいい。
- コンビニや買物ができる場所
- 公共交通機関がもっと栄えたり、市が栄えたりしたら。
- スーパーなどのお店がもっと増えたりしてほしい。
- めっちゃ都会
- もっと生き生きとしていて、もちろん自然豊かで森を活かしたテーマパークなど楽しめるようなものが充実していればいいと思います。
- 沢山お店が並ぶ街
- アニメイトなどがあれば住みたい。色々な企業とコラボしてほしい。
- お店がもっと増えて、気軽にほしいものが手に入れやすくなると、大人になっても住みたいと思える。
- 動物と接触事故がなく、山にいる動物が、安心、安全とした環境
- 衛生的で子どもが気軽に遊べる街
- 今と変わらない自然が豊かなまち
- 都会になって色々な、学校、会社、店があれば住む。

④飯能西中学校

- 豊かな自然を守ってくれるまち。人権についてしっかりと教育してくれたり、社会問題に取り組んでくれるまち。
- 自然が多い町
- みんなが挨拶を返してくれる街
- 楽しいとこ
- もっと都会みたいな感じ
- もう少し便利で住みやすいまち
- 楽しめる場所がある町
- 自然が豊かで、治安も良く、空気がおいしく、住んでいて誇れるような町
- 都会
- 都会
- 自然豊かな観光スポットがあるまち
- 虫が少ない町
- 平和だったら。
- もう少し都会になってほしい。
- 犯罪のない平和な市
- ショッピングモールをつけられ。
- 都会みたいなまち
- 気軽に買物ができるところが増える。
- 自然が豊かでおいしい食べ物があるまち

- 楽しい
- 仲良し
- 交通網が便利 仕事がしやすい町
- スーパーを増やす。
- のんびり
- 観光スポットが沢山ある。
- 移動が楽で地域の人で助け合えたりしている。
- お店が増えて住みやすくしてほしい。
- 今の飯能のままで私は満足しています。
- 自然が豊か
- 地域の方などがあいさつしてくれて、協力してくれる町
- 洪水も土砂崩れも少ないので安心して暮らせる。
- 自然的なもの的人工的なもののバランスがイイまち
- 皆んな優しいなら住みたい。
- みんなにとって住みやすい場所
- 自然が好きだから
- ちょっとだけお金がある市 仕事場がたくさんあるとこ
- 子どもとかが保育園に安心して行けたり、近くに病院とかあるといいと思う。
- 自然豊かで生物がいる市
- 自然がどんどん増えているなら。
- ショッピングモールやカフェなど休日に楽しめる所が増えたらよと思う。
- 自然豊かで生物がいる市
- 自然があつて楽しめる市なら。
- 自然が残っていて、きれいな町。
- 楽しめる場所があったら。
- もう少しコンビニやスーパーなどを増やしたり生活に便利な物を買えるようになる。
- 遊園地や楽しい所があったらいいな。
- バスケットコートがいっぱいある飯能市
- 楽しい場所
- スロープや障害者の安定した生活ができる事
- 都会と自然がどちらもあるまち
- 自然が綺麗で事故とかがない飯能市に住みやすいです。
- 明るくてみんな仲良し
- 自然豊かで楽しい場所
- 事故がないまち
- もっと有名になったら住みたいと思うかもしれません。
- 自然がどんどん増えていくなら。

- もっと魅力的で遊べるところがある。大きい店とかがある(ビックカメラとかイオンとかそういう大きい店)。そして風景も柵などを設置していい感じになっている(古いものは新しくしたりして)。
 - 空気が気持ちい、事故がない
 - 楽しいことがたくさんあるとよいなーと思います。??
 - 綺麗な町
 - 飯能市全体がもっと活発になってほしい。
 - 自然が豊かで、空気がきれいなまち。子ども、お年寄り、妊婦の方への支援がたくさんあるまち。みんなが優しく、笑顔があふれるまち。病院が家の近くにあり、便利なまち。子ども110番の家がたくさんあり、犯罪が起きにくいまち。
 - もっと自然のある町
 - もう少し近場にスーパーコンビニなどがあれば。
 - 今のままで十分
 - 平和
 - いろんなお店がある。
 - お店や楽しい場所ができること
 - 便利
 - 買物などもっと便利になったら。
 - 買物がしやすく 交通が便利
 - 住みやすい
 - もうちょっとショッピングモールとかできてほしい。
 - 家賃が安かったらよいです。土地の値段が安かったらいいです。
 - 子どもが過ごしやすく、動物を大切に、変なアピールをしない。
 - このままあまりかわらなければ
- ⑤加治中学校**
- 近所の人と仲がいい市
 - おかしでいっぱい動物がいっぱいあって勉強がなくて体育だけで誰もが幸せになれる市
 - 自然があるのとでかい広場
 - 家の近くにあってほしいお店があったらいいと思う。
 - 観光地などが増える。
 - 自然豊かな町
 - もっとゲーセンとか、増やしてほしい。
 - 遊ぶところが増えたら。
 - 綺麗な町
 - もっと都会になってくれば(ゲーセンや今どきの川や自然に慣れていない子どもも楽しく遊べる場所)。
 - 都会になればいい。
 - 住みやすければ。
 - どうなっても住みたくない。なぜなら山が多いから。
 - 飯能市の中心部と地域の差が小さくなる。限界集落状態の地区がなくなる。お店がさまざまなところにあって、買物や生活に不便がなくなる。
 - 住みやすくて、大きいショッピングモールがあり、発展している所
 - 東京のようなまち
 - もっとアミューズメントパークや、イオンなどがあったらよい。
 - もう少し大きなスーパーなどを増やしてほしい。
 - このまま
 - 自然が美しい、安く住める、交通が便利
 - ネット回線がスムーズ
 - 自然豊かで川が綺麗で、外来種がいなくて、結婚式があって、事件事故がなくて、多少子どもが増えて、建物がそこそこあって、美男美女がいて、補助金がついて、家が安い。有名人が増えてほしい。
 - 都会で交通が便利で、花粉がなくて駅が近くにあって、安全。一番は街灯がちゃんとある(夜すごい暗くて危ない)。
 - たくさんお店があって、交通が便利、自然が豊か、事件がない、子どもも住みやすい、電灯があって、暗くない(道)。
 - 住みやすく、もっと若い人でも楽しめる施設やお店などがあるようなまち
 - 暮らしに便利のように大きなショッピングモールを作る。
 - 遊べる所や、買物できる店舗が増えてほしい。
 - やさしいまち
 - 子どもでも大人でも楽しめる所がある。
 - もうちょい田舎
 - 楽しいものや飯能市だけっていうものがあるといい。
 - スーパーとかが近くにあって便利なまち
 - お店とかがいっぱいあるまち
 - ・自然豊かなまち
 - ・平和なまち
 - ・大きなショッピングモールがあるまち

第2章 児童・生徒向けアンケート

- ・動物を大切にできるまち
- ・平和なまち
- ・キャンプ場など家族やペットと楽しく過ごせる場所があるまち
- ・春は桜祭り、夏は夏祭り、秋は秋祭り、冬はイルミネーション というようにどの季節でもそれぞれ楽しめるイベントの開催があるまち
- ・みんなが安心して居心地のいいと思えるまち
- 若者層にも人気が出る施設等をつくる、高齢者のための整備を充実する。
- ショッピングモールなど大きなお店があると便利になる。
- 都会化してくれたら住みたい。
- 都会になればいい。
- 自然がある
- 飯能で生まれて飯能で育ったから
- 自然が残っていたら
- 自然豊かなところ
- 楽しい町
- 治安が良くてごみなどが落ちていないところ
- 自然豊かな街
- もっと自然豊か
- 平和な町なら住み続けたいです。
- もうすこし楽しくなったら。
- 今みたいに都会すぎない豊かな環境
- いつも 1000 円もらえるなら。
- にぎやかにお祭りなど行事が増えたら。
- 自然がもっといっぱいだったら住み続けたい。
- 森林がおおくて豊かな街
- 命に関わる事故などがあまりない飯能市がいいです。(安全)
- 自然にもっと恵まれたところ
- スペインのバルセロナのようにサッカーが強い場所
- すごく自然があり、いい感じだったら。
- 平和なところ
- 平和安全
- 命に関わる事故がない飯能市がいいです(安全)。
- 自然が多い街ならよと思う。
- 他の都市とかが自然が無くなっても、自然が沢山ある飯能市だったら絶対に住みたいです。
- 自然がいい感じで魅力がある市
- 東京のように都会にする。。
- 都会にしたらね。
- 海がある
- 都会になったら
- 自然が多くて動物の多い平和な飯能市
- 都会みたいなら。
- もっと目立つものがあればいい。
- にぎやかな住みやすい飯能市になれば住み続けたいと思います。
- 少し静かな広々としたまち
- 今のままの飯能市
- 盗みや犯罪がなければいいと思う。
- 緑がきれいなまち
- ポイ捨てをしなくなったら飯能に住みたい。
- 都会にしたら
- 都会になってほしい
- 強盗が起きない町
- 今のままの飯能市
- 移動手段が増えたら。
- 無理のないルールを守り、賑やかで楽しい町
- 自然が沢山ある。
- 自然が多くて人が多い所
- 買物がしやすいようにすればいい
- 今のまま、変わらず自然豊かで子どもの予防接種が無料のままだったら住みたいと思えると思います。
- 変わらない
- 緑が豊かで社会がとても発展している時
- いろんなお店があったり、自然を壊さないで大切にしていたら住み続けたいです。
- 快適な町
- 自然が残っている市だったら。
- 色んな観光地やイベントがある街なら住み続けたい。
- 観光客がたくさんいて、楽しいところがたくさんあるところ
- 観光スポットなど、子どもも大人も遊べる所がたくさんあったら住み続けたい。
- イオンなどを作る。ドラックストアだけではなく。
- 海があるまち
- 色んな観光地やイベントがある街なら住み続けたい。
- みんなが平等に暮らせるまち
- 綺麗な川があるからです。
- 自然豊かな市
- いろんなお店があったり、自然を壊さないで大切にしていたら住み続けたい。

- 自然が豊か
- 全てが安いまち
- 公園や遊ぶ広場などの場所がある
- 今みたいにきれいな道といろんなところに行ける駅があって、川と山もあって、新しい町や住宅街もある町。これに加え、寝るときに暴走族のバイクがうるさくなければもっといい。

⑥美杉台中学校

- 自然環境や珍しい虫が出る自然環境がほしい。
- 自然がたくさんある飯能市
- 公園や散歩ができる。
- 環境がよく、清潔面的にもよく便利で楽しく住める街なら住みたい。
- イモンモールやアスレチックパーク、ホテルを作れば夏休み来る人が増えるし暮らしやすくなると思う。
- 自然がいっぱいあるところ
- 遊園地やでかい公園とかなど
- 優しい人がたくさんいたり、自然がいっぱいですみやすい飯能市だったらいいと思います。
- ユニバみたいな街、死なない街
- きれいな自然環境があるといい。
- 自然豊かな市
- 自然環境や自然の生き物がいる環境
- 楽しくて、安心安全なところ
- 誰でも楽しめる場所があればいい
- 優しい人がたくさんいて癒しの場所があったらよいと思います。
- 平和に暮らせる。
- 食べ物がある町
- お金持ちで平和に暮らせる町
- 町が新しくなって自然が豊かで平和に暮らせる。
- お店が近かったりお店がたくさんあったり
- 自然がいい平和な飯能市
- もっと自然がある町
- 税金が安い。
- 学校がきれいになって、洋式にしてほしい。
- 今でもいい。
- 変わらなく平穏な飯能市
- ショッピングモールがあったり、人が集まるようなにぎやかな町
- 会社が沢山ある
- 楽しい物が沢山あるまち
- 自然がもっとあったら住みたいです。

- もう少し有名で技術が発展していれば・・・
- 美味しい物がいっぱいあったら。
- 今みたいな危ないことが何も起きない飯能市だったら。
- 楽しめる場所が増えたら。
- ゆたかな環境です。
- 猫が沢山いるまち
- もっと観光が発展して、お店などを増やす
- USJがすぐ近くにあれば。
- 自然に囲まれてて、子どもが遊べる場所もあって、住みやすい所
- テーマパークがあったら。
- 働く場所が増えたら。
- もっと都会みたいに遊べる場所があったりすると住みたいと思う。
- 安心して住める飯能市
- 猫と一緒に暮らせるまち
- 遊べる所を増やす。
- 公園が増えたら。
- サッカーが盛んになったら
- 喧嘩もなく安全な県市でいてほしい。
- イオン
- イベントが増える。
- いろんな食べ物屋さん、お店があれば。
- 子どもや大人が楽しめる場所がたくさんあって、いろんな観光客の人が来るようなところがあったら住み続けたいです。
- 楽しい町
- 平和な町
- 有名なお店や建物があったら。
- 未来の埼玉県飯能市が平和で豊かに暮らせる状態だったら大人になっても住みたいと思います。
- 飯能市は自分の住んでいるところで、台風が来たとしても飯能市は海が無いので安心して、大事故にまきこまれる事はありません。
- 杉の木がなければ。
- 栄えている街
- 綺麗で便利な町でも便利すぎではないくらい
- うまく、地域を生かして、観光ツアーなど、稼げる仕組みを作る。
- 自然がいっぱい
- 便利な(電車が通っていたら)
- 飯能市にいけすを作って魚が釣れるようになったら住み続けられる。
- 安心できる町

第2章 児童・生徒向けアンケート

- 自然がたくさんある飯能市
- いろんな施設が揃っている町。
- 実際住んでいる住民をそっちのけで、中途半端に外面だけ良くしようとしてる市です。市民のことを第一に考えず、教育面福祉面、古臭くて、未だに頭がかたい。まずは市民第一に考える体制になれば。
- イオンが近くにある。
- 自然が豊かなまち
- 人が住む場所と動物が住む場所のバランスが取れているまち
- 都会にしすぎないけど暮らしやすい施設やお店があってほしい。
- 歌舞伎町みたいな感じ
- 自然豊かなまち
- 都会の様なビルがある所

⑦奥武蔵中学校

- 家の近くの人が全員仲良し
- わからない
- 森がもう少し豊かな環境で住みたい。
- 駅が近い。
- 自然を守り続けて、いい環境に暮らしていきながら住み続けたいです。
- 遊ぶ所
- 自然がいっぱいある所。木とかもいっぱいあってほしい。動物もたくさん。
- 自然が綺麗な町
- 自然を壊さないなら。
- 山を壊さないで環境を大切にするまち
- ごみが少ない

第3節 近所の人とのあいさつの状況

2-3-1 自分からのあいさつの状況（問7）

問7 あなたは、近所の人に自分から進んであいさつをしていますか。（1つだけに○）

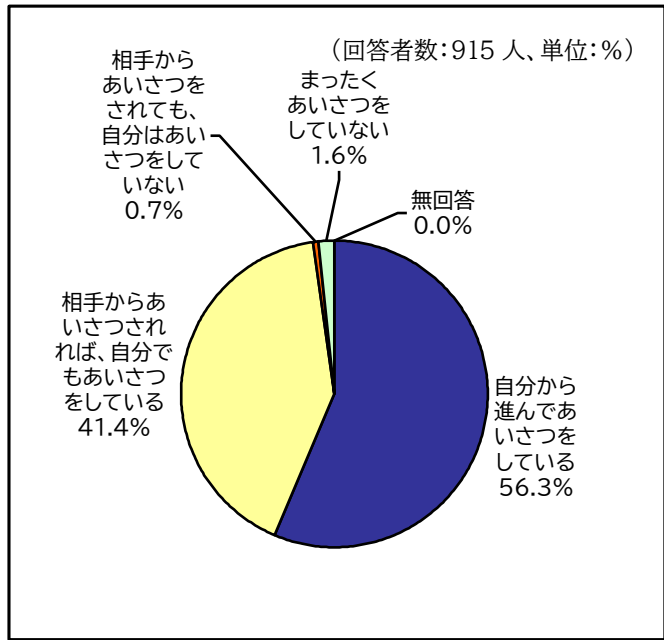
「自分から進んであいさつ」が56.3%

自分からのあいさつの状況については、「自分から進んであいさつをしている」が56.3%で最も多く、次いで「相手からあいさつされれば、自分でもあいさつをしている」が41.4%が続いています。

表 自分からのあいさつの状況

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
自分から進んであいさつをしている	515 (56.3)
相手からあいさつされれば、自分でもあいさつをしている	379 (41.4)
相手からあいさつをされても、自分はあいさつをしていない	6 (0.7)
まったくあいさつをしていない	15 (1.6)
無回答	0 (0.0)

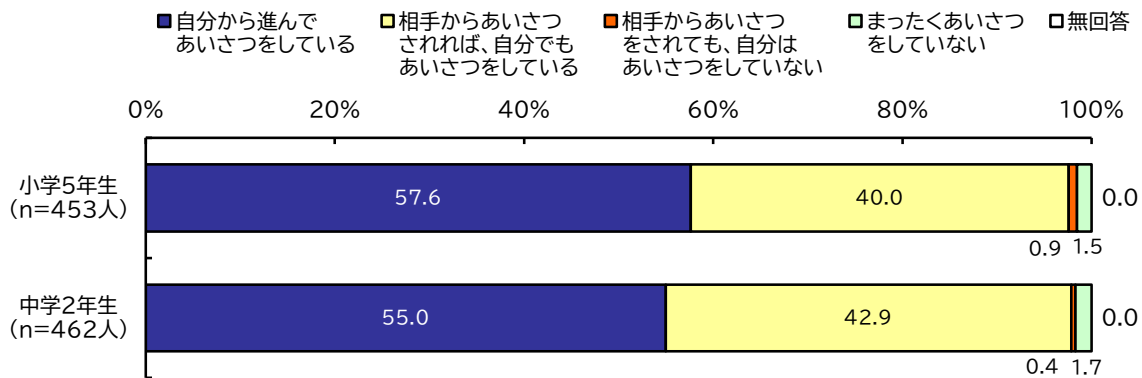
図 自分からのあいさつの状況



【学年別】

これを学年別にみると、顕著な違いはみられません。

図 学年別にみた自分からのあいさつの状況



2-3-2 近所の人からのあいさつの状況（問8）

問8 近所の方は、あなたにあいさつをしてくれますか。（1つだけに○）

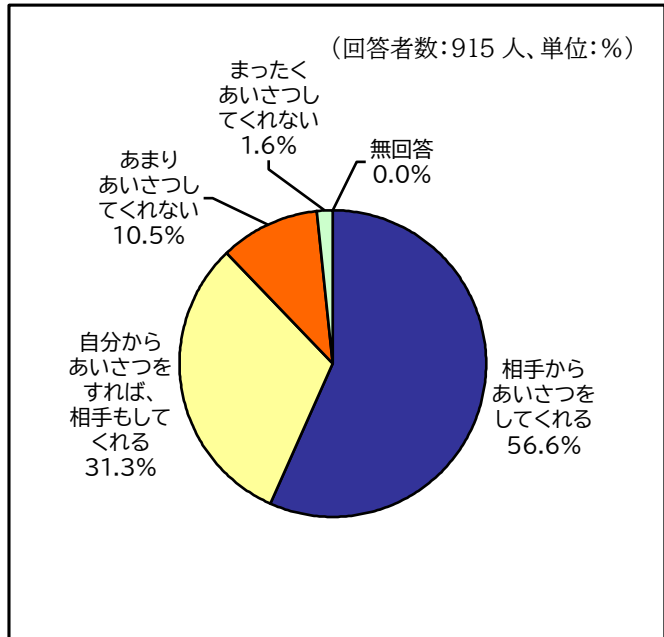
「相手からあいさつ」が56.6%

近所の人からのあいさつの状況については、「相手からあいさつをしてくれる」が56.6%で最も多く、次いで「自分からあいさつをすれば、相手もしてくれる」が31.3%で続いています。

表 近所の人からのあいさつの状況

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
相手からあいさつをしてくれる	518 (56.6)
自分からあいさつをすれば、相手もしてくれる	286 (31.3)
あまりあいさつしてくれない	96 (10.5)
まったくあいさつしてくれない	15 (1.6)
無回答	0 (0.0)

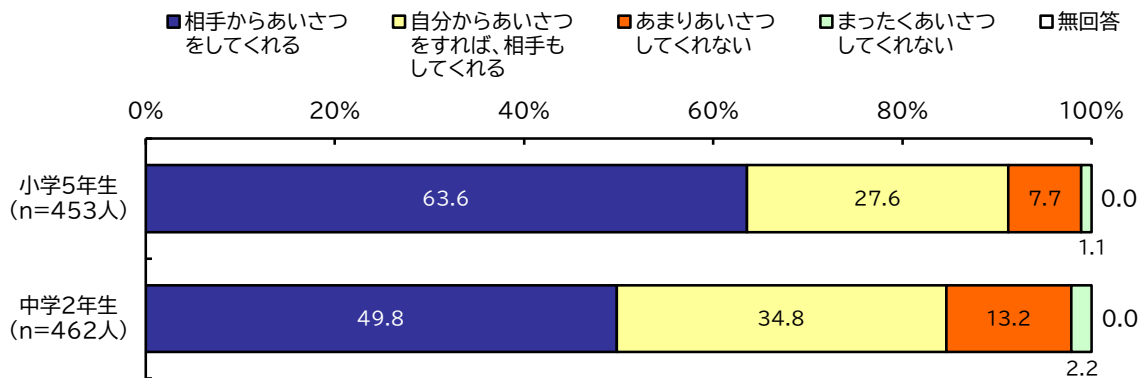
図 近所の人からのあいさつの状況



【学年別】

これを学年別にみると、中学2年生は小学5年生に比べて「相手からあいさつをしてくれる」の割合が低くなっています。

図 学年別にみた近所の人からのあいさつの状況



第4節 相談相手や居場所について

2-4-1 悩みや不安の内容（問9）

問9 あなたには、いま、どのような悩みや不安がありますか。（いくつでも○）

「勉強のこと」や「自分の将来のこと」が多い

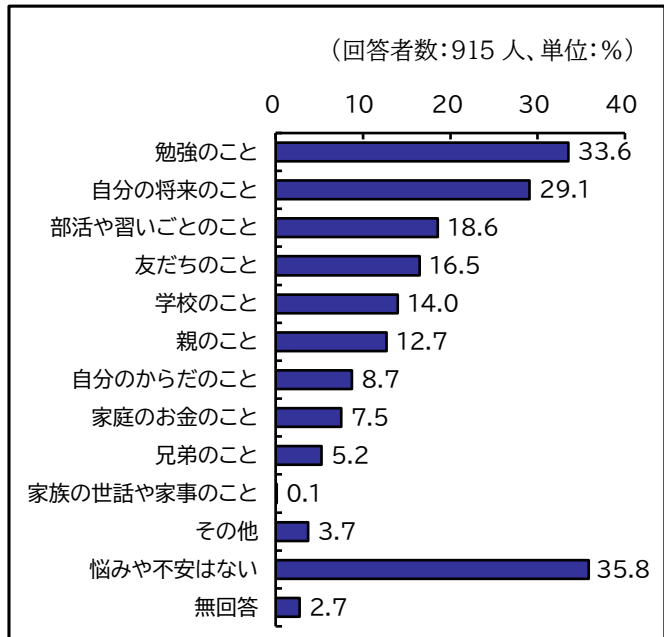
悩みや不安の内容については、回答者数から「悩みや不安はない」（35.8%）及び無回答（2.7%）を除く61.5%が“悩みや不安がある”と回答しています。

その内容は「勉強のこと」が33.7%で最も多く、次いで「自分の将来のこと」が29.3%で続いています。

表 悩みや不安の内容（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
勉強のこと	307 (33.6)
自分の将来のこと	266 (29.1)
部活や習いごとのこと	170 (18.6)
友だちのこと	151 (16.5)
学校のこと	128 (14.0)
親のこと	116 (12.7)
自分のからだのこと	80 (8.7)
家庭のお金のこと	69 (7.5)
兄弟のこと	48 (5.2)

図 悩みや不安の内容（複数回答）

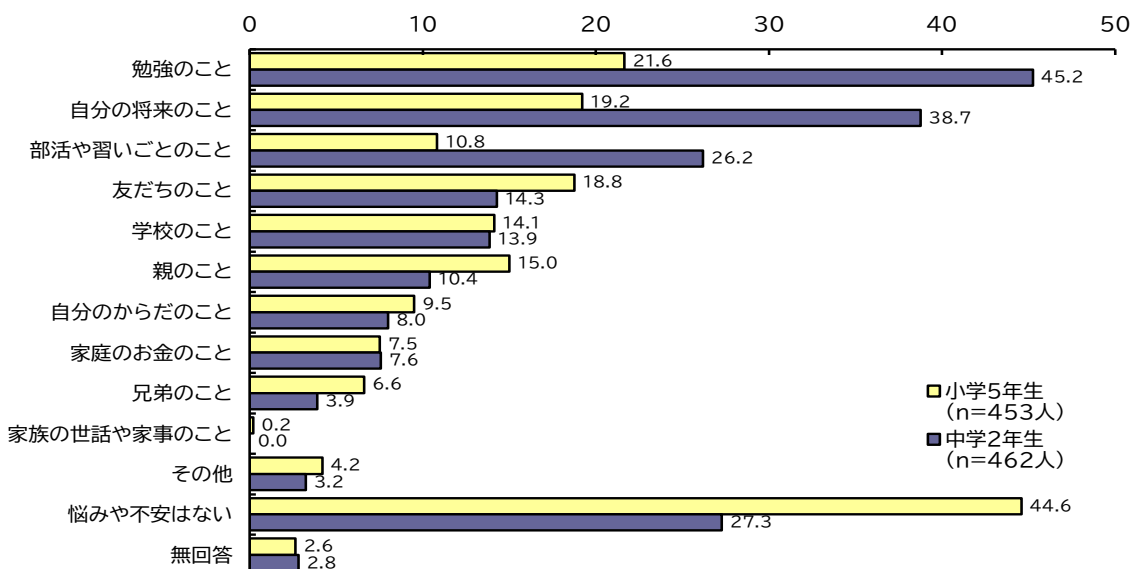


区分	人 (%)
家族の世話や家事のこと	1 (0.1)
その他	34 (3.7)
悩みや不安はない	328 (35.8)
無回答	25 (2.7)

【学年別】

これを学年別にみると、小学5年生は中学2年生に比べて「悩みや不安はない」の割合が高く、中学2年生は小学5年生に比べて「勉強のこと」や「自分の将来のこと」及び「部活や習いごとのこと」の割合が高くなっています。

図 学年別にみた悩みや不安の内容（複数回答）



2-4-2 気軽に相談できる相手（問10）

問10 悩みや不安があったとき、気軽に相談できる相手は誰ですか。（いくつでも○）

「友だち」や「親」が多い

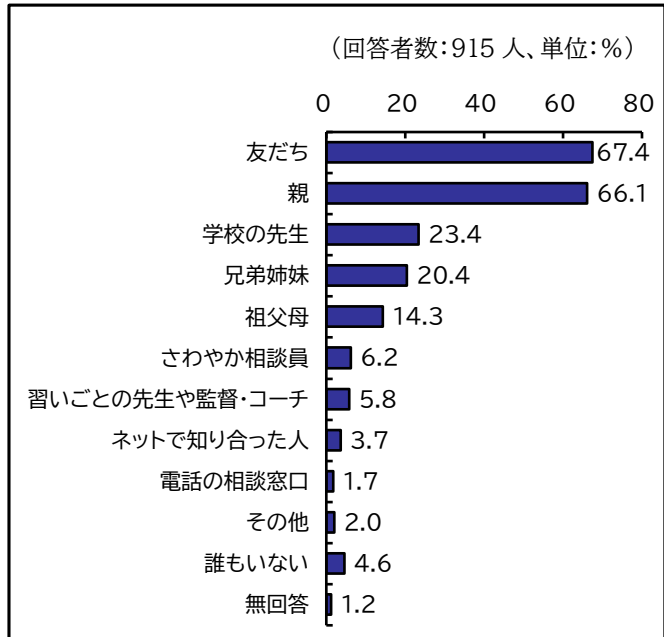
気軽に相談できる相手については、回答者数から「誰もいない」（5.1%）及び無回答（1.2%）を除く93.7%が“相談できる相手がいる”と回答しています。

その内訳は「友だち」が67.4%で最も多く、次いで「親」が66.1%が続いています。

表 気軽に相談できる相手（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
友だち	617 (67.4)
親	605 (66.1)
学校の先生	214 (23.4)
兄弟姉妹	187 (20.4)
祖父母	131 (14.3)
さわやか相談員	57 (6.2)
習いごとの先生や監督・コーチ	53 (5.8)
ネットで知り合った人	34 (3.7)
電話の相談窓口	16 (1.7)

図 気軽に相談できる相手（複数回答）

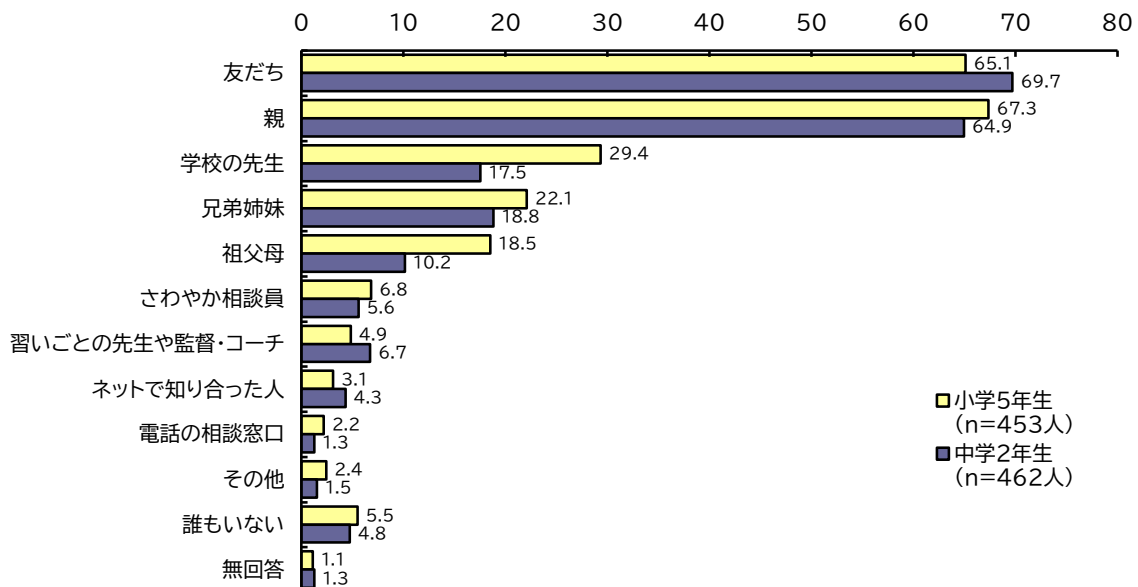


区分	人 (%)
その他	18 (2.0)
誰もいない	42 (4.6)
無回答	11 (1.2)

【学年別】

これを学年別にみると、中学2年生は小学5年生に比べて「友だち」の割合が高く、「学校の先生」や「祖父母」の割合が低くなっています。

図 学年別にみた気軽に相談できる相手（複数回答）



2-4-3 相談相手がいない児童・生徒が気軽に相談できると思う相手（問10-1）

問10-1 どのような相手だったら、気軽に相談できると思いますか。下の枠に記入してください。

気軽に相談できる相手（問10）において「誰もいない」と回答した児童・生徒42人に対し、どのような相手だったら気軽に相談できると思うか記入していただいたところ、次の通りとなっています。

- 心を許していて、冷静に答えをくれる人（小学5年生）
- 自分が信頼できると思った人（小学5年生）
- どのようにしたらよいか正確に答えられる人（小学5年生）
- 優しいそうな女の人（小学5年生）
- 優しくて仲のいい（小学5年生）
- 受け止めてくれる人（小学5年生）
- 何でも私のことを受け入れてくれて、最後まで話を聞いてくれて、いつも一緒にいる人（中学2年生）

2-4-4 気軽に相談できる相手の数（問10を基に作成）

※問10の回答構成を基に作成

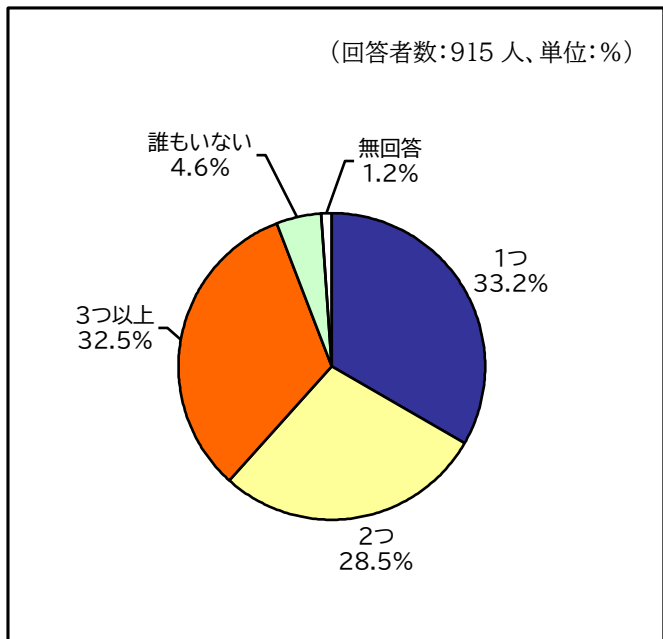
「1つ」が33.2%

気軽に相談できる相手（問10）の回答構成から気軽に相談できる相手の数について調べたところ、「1つ」が33.2%、「2つ」が28.5%、「3つ以上」が32.5%となっています。

表 気軽に相談できる相手の数

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
1つ	304 (33.2)
2つ	261 (28.5)
3つ以上	297 (32.5)
誰もいない	42 (4.6)
無回答	11 (1.2)

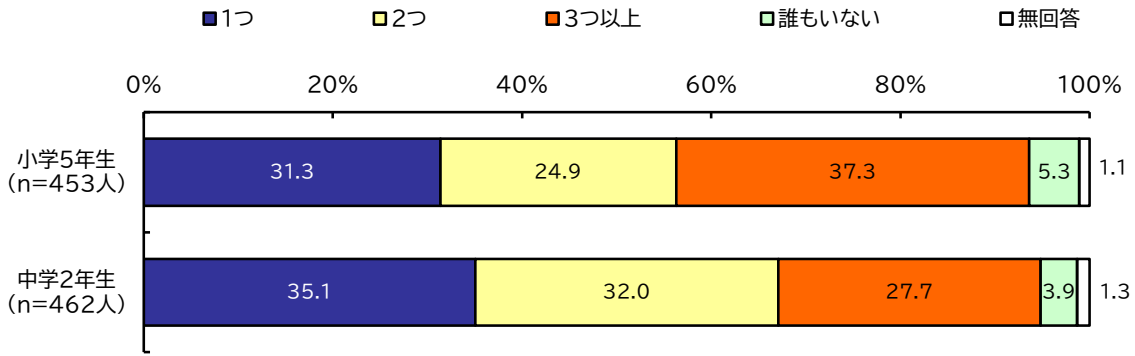
図 気軽に相談できる相手の数



【学年別】

これを学年別にみると、中学2年生は小学5年生に比べて「3つ以上」の割合が低く、「1つ」及び「2つ」の割合が高くなっています。

図 学年別にみた気軽に相談できる相手の数



2-4-5 気軽に相談できる相手の構成区分 (問 10 を基に作成)

※問 10 の回答構成を基に作成

「家族にいる」が 71.3%

気軽に相談できる相手 (問 10) の回答構成から気軽に相談できる相手の構成区分について調べたところ、「家族にいる」が 71.3% となっています。一方、「家族にはいないが友だちがいる」が 19.2%、「家族・友だち以外の相手がいる」が 3.7% となっています。

図 気軽に相談できる相手の構成区分

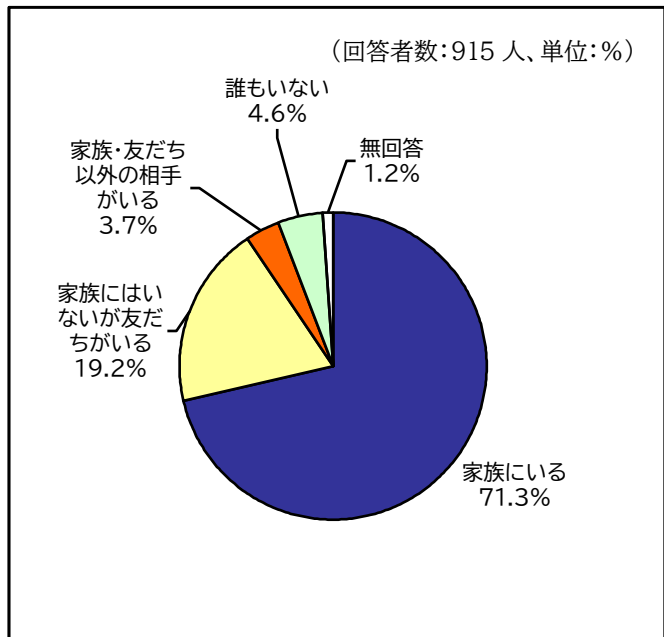


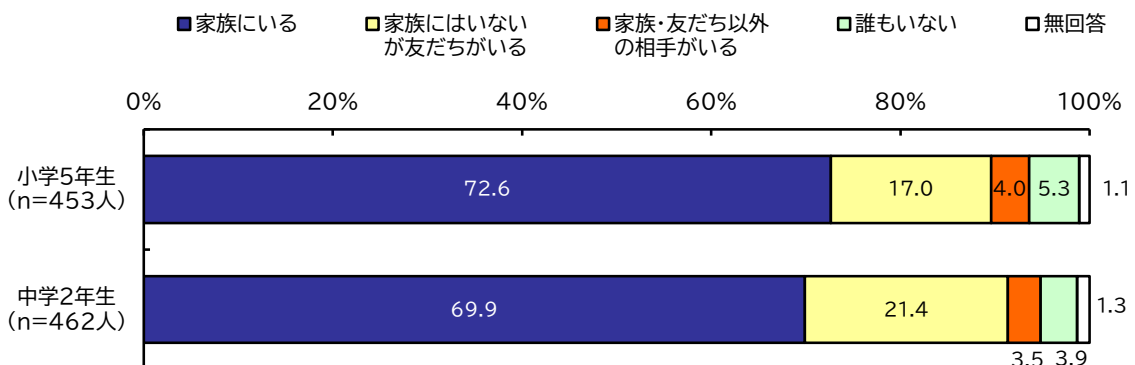
表 気軽に相談できる相手の構成区分

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
家族にいる	652 (71.3)
家族にはいないが友だちがいる	176 (19.2)
家族・友だち以外の相手がいる	34 (3.7)
誰もいない	42 (4.6)
無回答	11 (1.2)

【学年別】

これを学年別にみると、中学 2 年生は小学 5 年生に比べて「家族にいる」の割合が低く、「家族にはいないが友だちにいる」の割合が高くなっています。

図 学年別にみた気軽に相談できる相手の構成区分



2-4-6 安心できる居場所（問11）

問11 あなたが、安心して過ごすことのできる居場所はどこですか。（いくつでも○）

「家庭」が88.9%

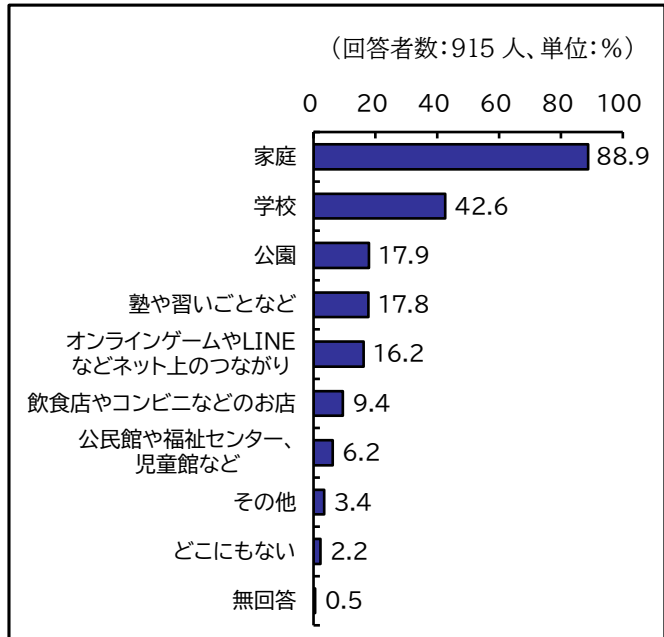
安心できる居場所については、回答者数から「どこにもない」（2.5%）及び無回答（0.5%）を除く97.0%が“安心できる居場所がある”と回答しています。

その内訳は「家庭」が88.9%で最も多く、次いで「学校」が42.6%が続いています。

表 安心できる居場所（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
家庭	813 (88.9)
学校	390 (42.6)
公園	164 (17.9)
塾や習いごとなど	163 (17.8)
オンラインゲームやLINEなどネット上のつながり	148 (16.2)
飲食店やコンビニなどのお店	86 (9.4)
公民館や福祉センター、児童館など	57 (6.2)
その他	31 (3.4)

図 安心できる居場所（複数回答）

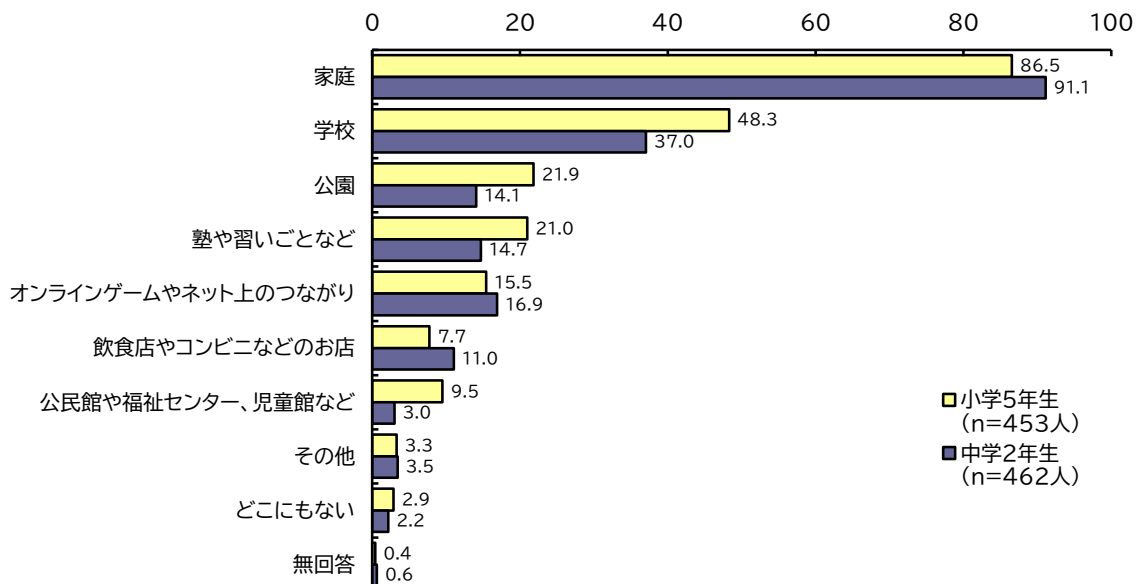


区分	人 (%)
どこにもない	20 (2.2)
無回答	5 (0.5)

【学年別】

これを学年別にみると、中学2年生は小学5年生に比べて「学校」や「塾や習いごと」、「公園」の割合が低くなっています。

図 学年別にみた安心できる居場所（複数回答）



2-4-7 安心できる居場所の数（問11を基に作成）

※問11の回答構成を基に作成

「1つ」が39.2%

安心できる居場所（問11）の回答構成から安心できる居場所の数について調べたところ、「1つ」が39.2%、「2つ」が30.1%、「3つ以上」が28.0%となっています。

図 安心できる居場所の数

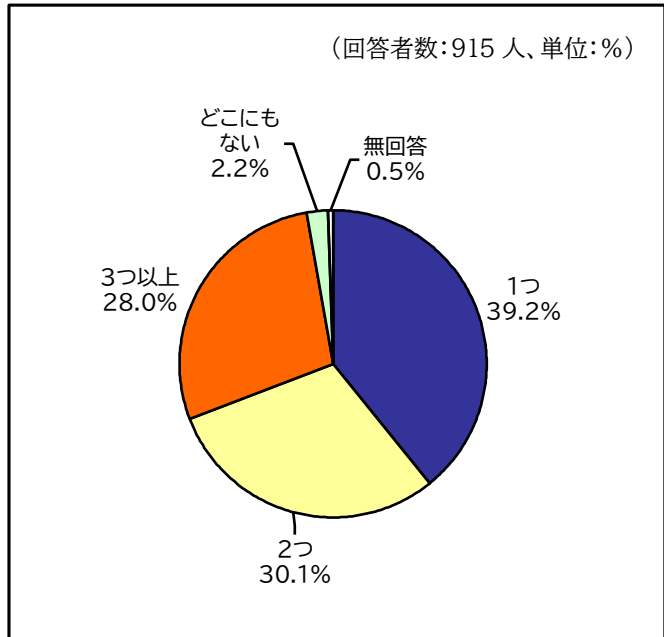


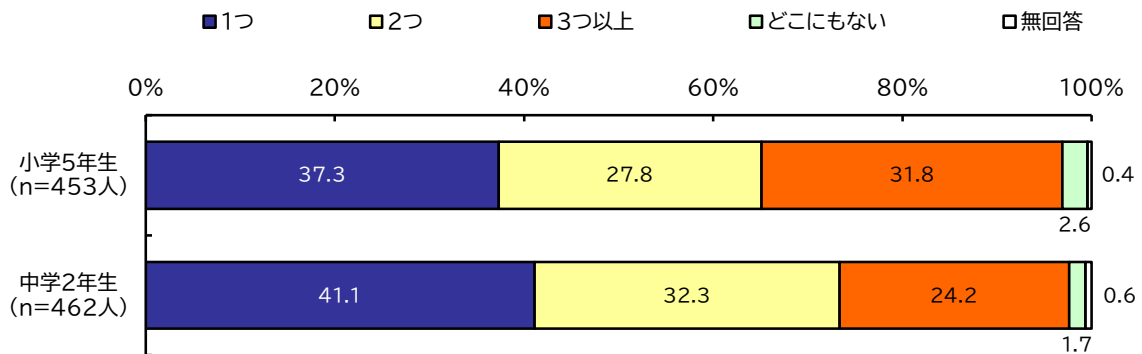
表 安心できる居場所の数

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
1つ	359 (39.2)
2つ	275 (30.1)
3つ以上	256 (28.0)
どこにもない	20 (2.2)
無回答	5 (0.5)

【学年別】

これを学年別にみると、中学2年生は小学5年生に比べて「3つ以上」の割合が低く、「1つ」及び「2つ」の割合が高くなっています。

図 学年別にみた安心できる居場所の数



2-4-8 安心できる居場所の構成区分（問11を基に作成）

※問11の回答構成を基に作成

「家庭にある」が88.9%

安心できる居場所（問11）の回答構成から安心できる居場所の構成区分について調べたところ、「家庭にある」が88.9%、「家庭にはないが学校にある」が3.7%、「家庭・学校以外の居場所がある」が4.7%となっています。

図 安心できる居場所の構成区分

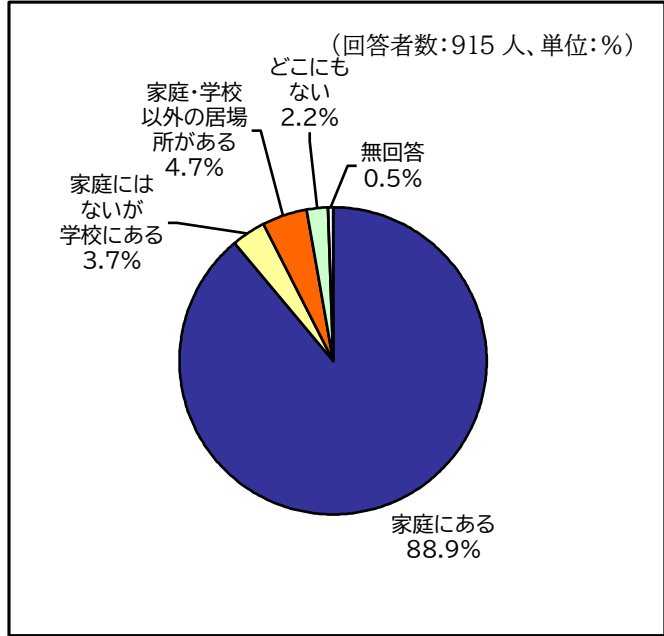


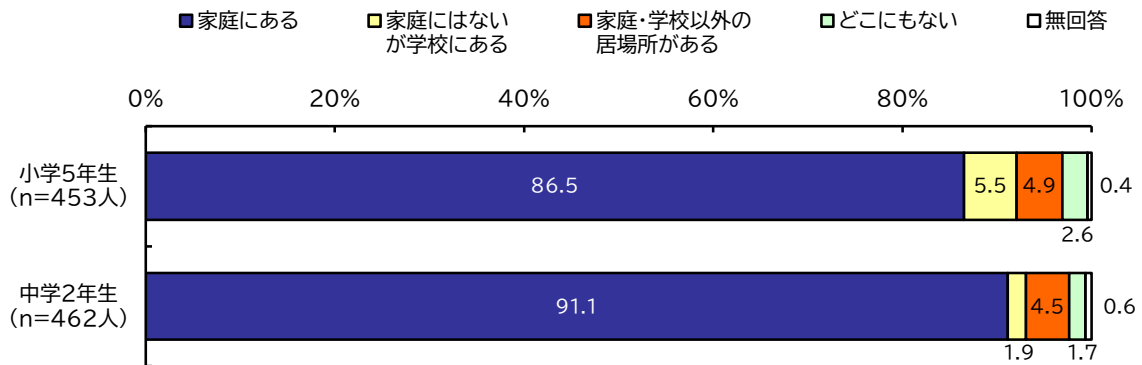
表 安心できる居場所の構成区分

区分	人 (%)
回答者数	915 (100.0)
家庭にある	813 (88.9)
家庭にはないが学校にある	34 (3.7)
家庭・学校以外の居場所がある	43 (4.7)
どこにもない	20 (2.2)
無回答	5 (0.5)

【学年別】

これを学年別にみると、中学2年生は小学5年生に比べて「家庭にある」の割合が高くなっています。

図 学年別にみた安心できる居場所の構成区分



〔参考〕 気軽に相談できる相手がいない児童・生徒の状況

(1) 悩みや不安の内容（問10・問9を基に作成）

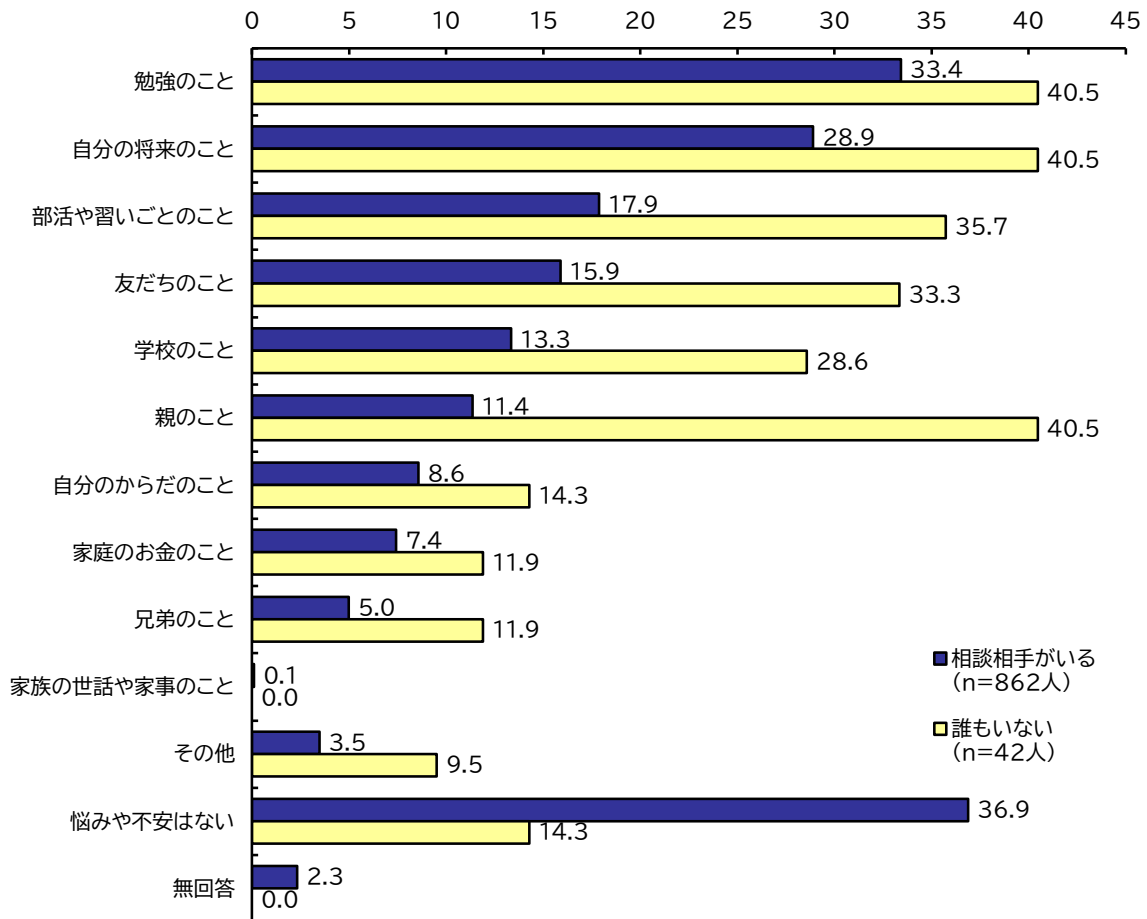
※問10・問9を基に作成

相談相手が誰もいない児童・生徒は、様々な項目において悩みや不安の割合が高い

気軽に相談できる相手（問10）における回答者を、「気軽に相談できる相手がいない」と回答した児童・生徒（42人）と、その他の児童・生徒（862人）に分け、悩みや不安の内容（問9）の回答構成を調べました。

その結果、相談相手が誰もいない児童・生徒は、相談相手がいる児童・生徒に比べて様々な悩みや不安の項目で割合が高くなっており、特に、「部活や習いごとのこと」や「学校のこと」及び「親のこと」では相談相手がいる児童・生徒との差が大きくなっています。

図 気軽に相談できる相手の有無別にみた悩みや不安の内容（複数回答）



(2) 安心できる居場所（問10・問11を基に作成）

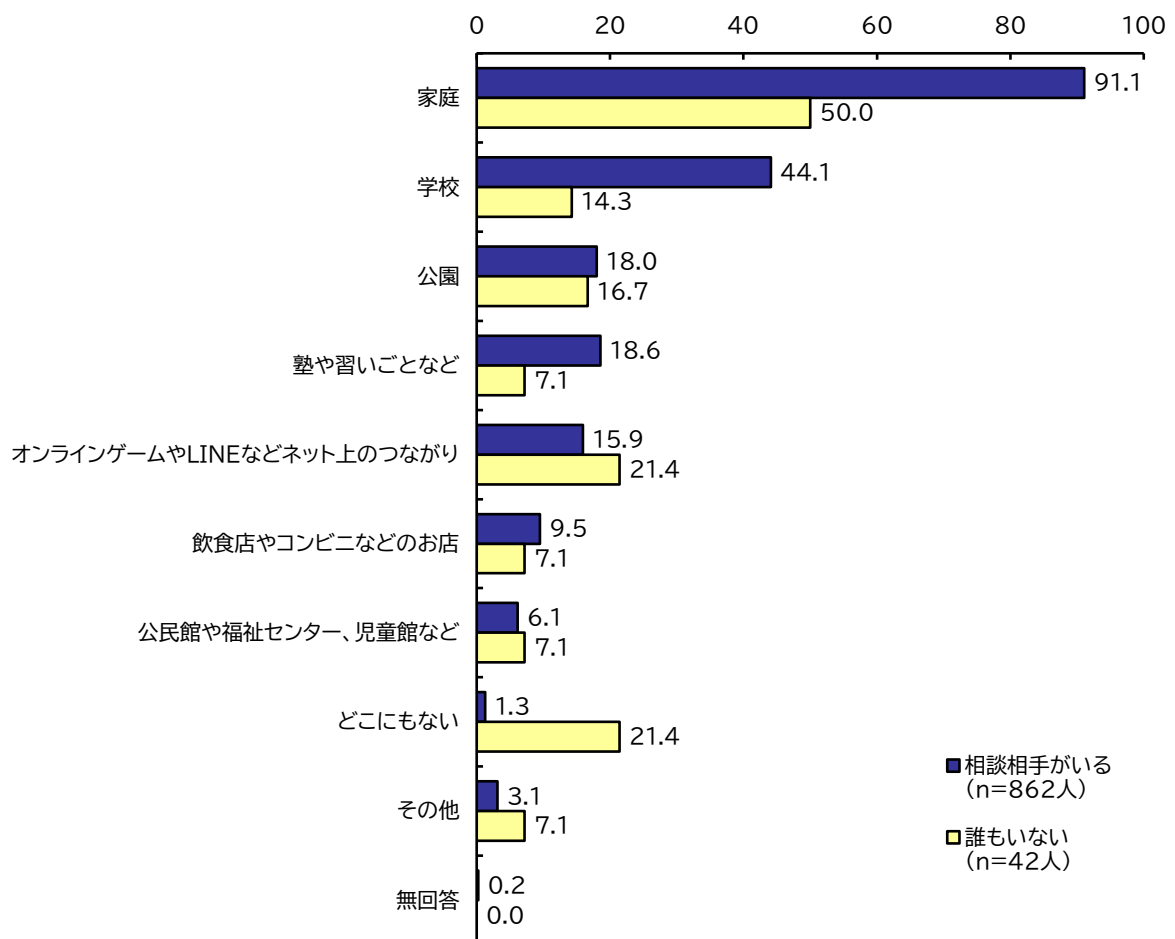
※問10・問11を基に作成

相談相手が誰もいない児童・生徒は、安心できる居場所が「どこにもない」の割合が高い

気軽に相談できる相手（問10）における回答者を、「気軽に相談できる相手がいない」と回答した児童・生徒（42人）と、その他の児童・生徒（862人）に分け、安心できる居場所（問11）の回答構成を調べました。

その結果、相談相手が誰もいない児童・生徒は、相談相手がいる児童・生徒に比べて「家庭」や「学校」の割合が著しく低く、「どこにもない」の割合が高くなっています。

図 気軽に相談できる相手の有無別にみた安心できる居場所（複数回答）



第5節 地域福祉に関する行動について

2-5-1 現在の福祉的行動の状況（問12）

問12 この1年間、次のことを行いましたか。（ア～キのそれぞれ1つに○を付けてください）ア）お年寄り
と交流する

「学校での困っている人への声かけ」や「高齢者との交流」、「乳幼児との交流」で「行った」が比較的多くみられる

現在の福祉的行動の状況について、「行った」の割合をみると、「学校での困っている人への声かけ」が53.0%で最も多く、次いで「高齢者との交流」が41.0%、「乳幼児との交流」が40.5%で続いています。

図 現在の福祉的行動の状況

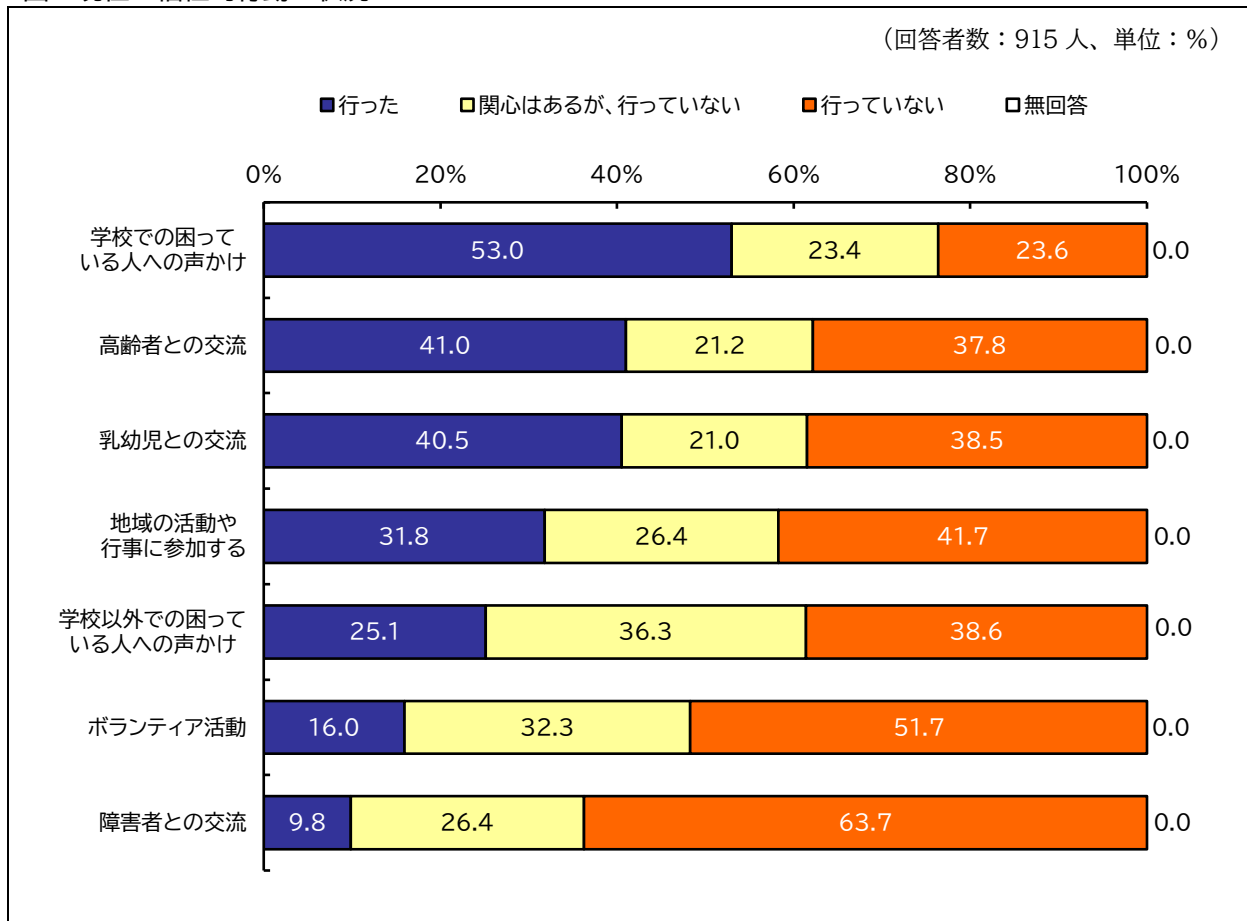


表 現在の福祉的行動の状況

回答者数：915人、単位：人 (%)

区分	行った	関心はあるが、行ってない	行ってない	無回答
学校での困っている人への声かけ	477 (53.2)	210 (23.4)	210 (23.4)	0 (0.0)
高齢者との交流	367 (40.9)	189 (21.1)	341 (38.0)	0 (0.0)
乳幼児との交流	364 (40.6)	186 (20.7)	347 (38.7)	0 (0.0)
地域の活動や行事に参加する	288 (32.1)	236 (26.3)	373 (41.6)	0 (0.0)
学校以外での困っている人への声かけ	223 (24.9)	328 (36.6)	346 (38.6)	0 (0.0)
ボランティア活動	143 (15.9)	288 (32.1)	466 (52.0)	0 (0.0)
障害者との交流	90 (10.0)	235 (26.2)	572 (63.8)	0 (0.0)

2-5-2 今後の福祉的行動の意向（問13）

問13 今後、次のことを行ってみたいと思いますか。（ア～キのそれぞれ1つに○を付けてください）（ア～キのそれぞれ1つに○を付けてください）ア）お年寄りと交流する

「学校での困っている人への声かけ」や「乳幼児との交流」、「学校以外で困っている人への声かけ」で「ぜひ行いたい」が比較的多くみられる

今後の福祉的行動の意向について、「ぜひ行いたい」の割合をみると、「学校での困っている人への声かけ」が51.5%で最も多く、次いで「乳幼児との交流」が41.2%、「学校以外での困っている人への声かけ」が39.2%で続いています。

図 今後の福祉的行動の意向

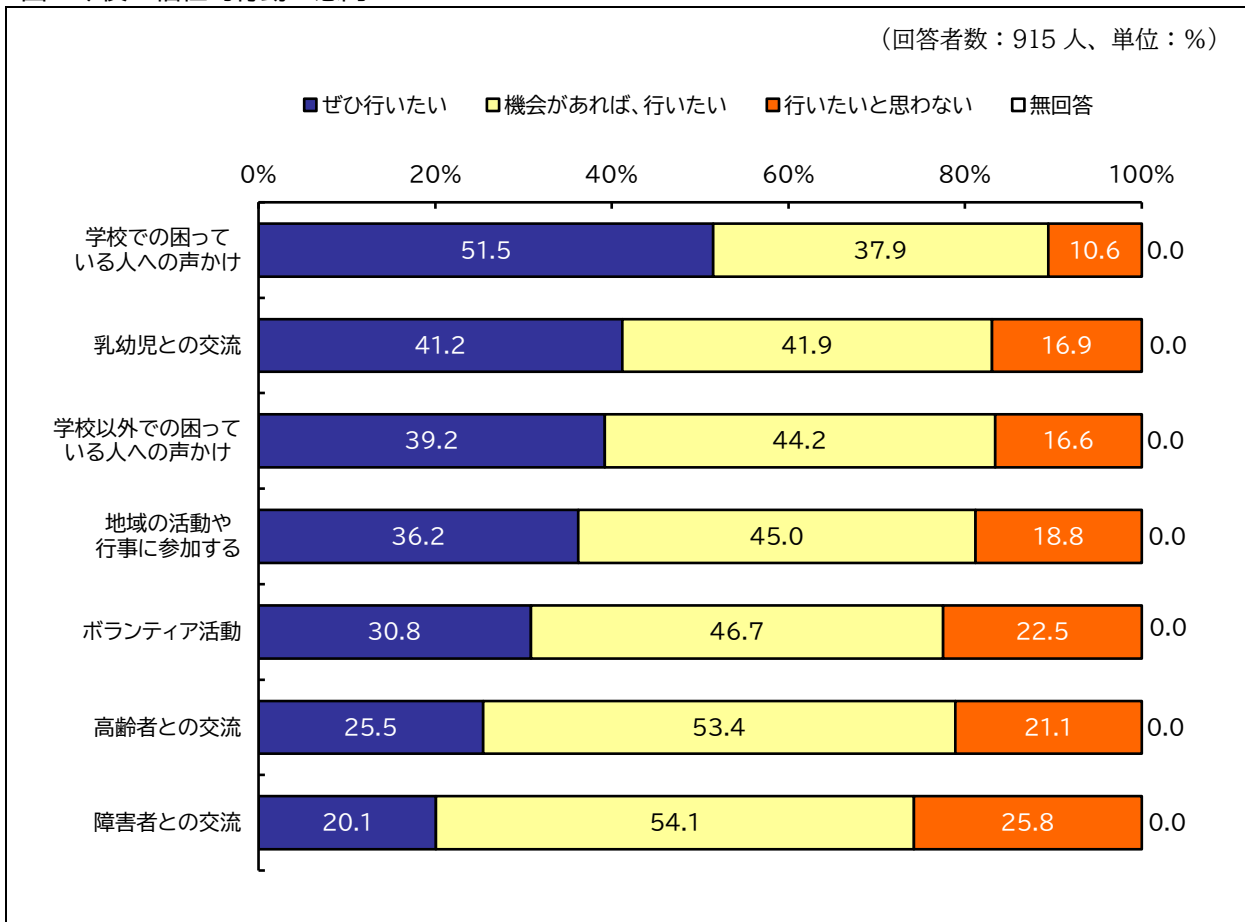


表 今後の福祉的行動の意向

回答者数：915人、単位：人（%）

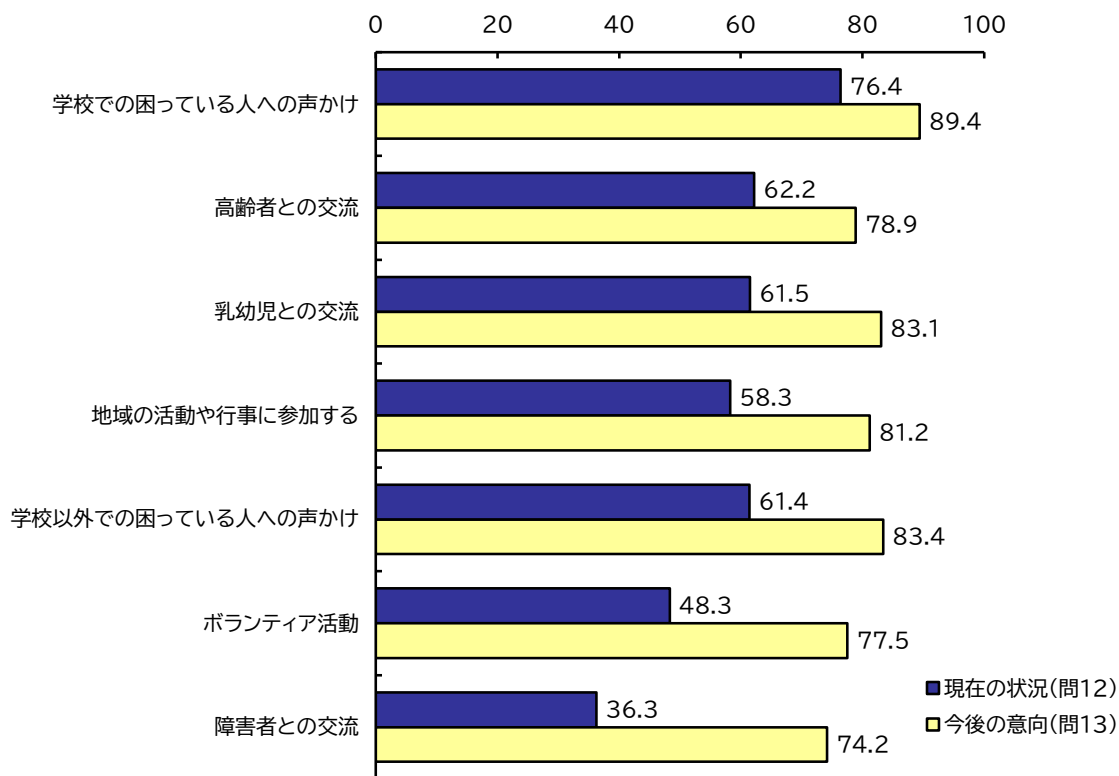
区分	ぜひ行いたい	機会があれば、行いたい	行っていない	無回答
学校での困っている人への声かけ	465 (51.8)	337 (37.6)	95 (10.6)	0 (0.0)
乳幼児との交流	373 (41.6)	372 (41.5)	152 (16.9)	0 (0.0)
学校以外での困っている人への声かけ	356 (39.7)	392 (43.7)	149 (16.6)	0 (0.0)
地域の活動や行事に参加する	325 (36.2)	401 (44.7)	171 (19.1)	0 (0.0)
ボランティア活動	276 (30.8)	416 (46.4)	205 (22.9)	0 (0.0)
高齢者との交流	229 (25.5)	478 (53.3)	190 (21.2)	0 (0.0)
障害者との交流	181 (20.2)	483 (53.8)	233 (26.0)	0 (0.0)

〔参考〕現在の福祉的行動の状況と今後の福祉的行動の意向の比較（問12、問13）

※問12, 問13を基に作成

福祉的行動の現在の状況（問12）と今後の意向（問13）を比較したところ、すべての項目で今後の意向の割合が高く、特に「ボランティア活動」や「障害者との交流」では現在の状況との差が大きくなっています。

図 福祉的行動の現在の状況と今後の意向の比較（複数回答） （回答者数：915人、単位：％）



※福祉的行動の現在の状況（問12）は、「行った」及び「関心はあるが、行っていない」を合わせた割合、今後の意向（問13）は、「ぜひ行いたい」及び「機会があれば、行いたい」を合わせた割合です。

第 3 章

保護者向けアンケート

第1節 回答者自身の状況について

3-1-1 性別（問1）

問1 あなたの性別を教えてください。（1つだけに○）

「女性」が88.3%

性別については、「男性」が10.3%、「女性」が88.3%となっています

図 性別

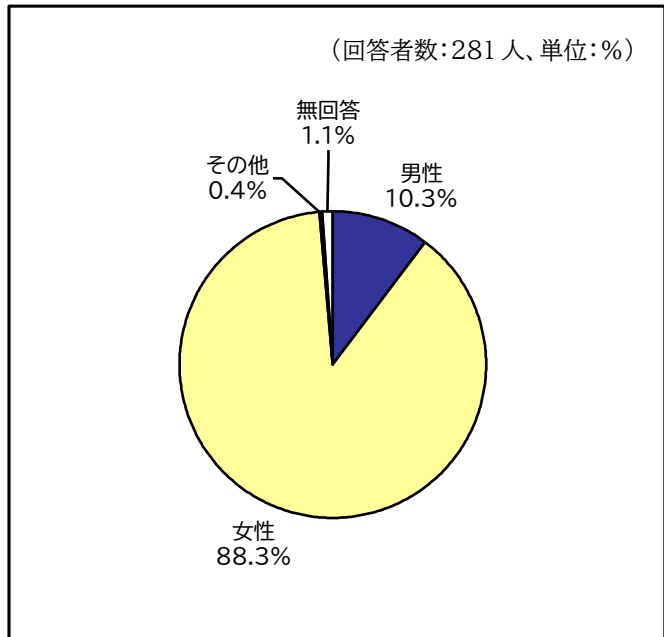


表 性別

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
男性	29 (10.3)
女性	248 (88.3)
その他	1 (0.4)
無回答	3 (1.1)

3-1-2 年齢（問2）

問2 あなたの年齢を教えてください。（1つだけに○）

「40～49歳」が71.2%

年齢については、「40～49歳」が71.2%で最も多く、次いで「30～39歳」が15.7%、「50～59歳」が11.7%で続いています。

図 年齢

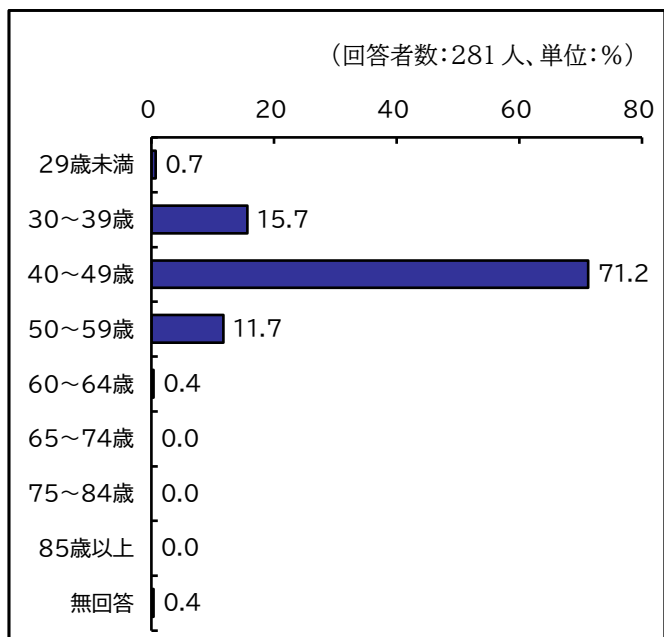


表 年齢

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
29歳未満	2 (0.7)
30～39歳	44 (15.7)
40～49歳	200 (71.2)
50～59歳	33 (11.7)
60～64歳	1 (0.4)
65～74歳	0 (0.0)
75～84歳	0 (0.0)
85歳以上	0 (0.0)
無回答	1 (0.4)

3-1-3 地域福祉圏域（問3）

問3 あなたのお住まいの地区を教えてください。（右欄の町名または字名1つだけに○）

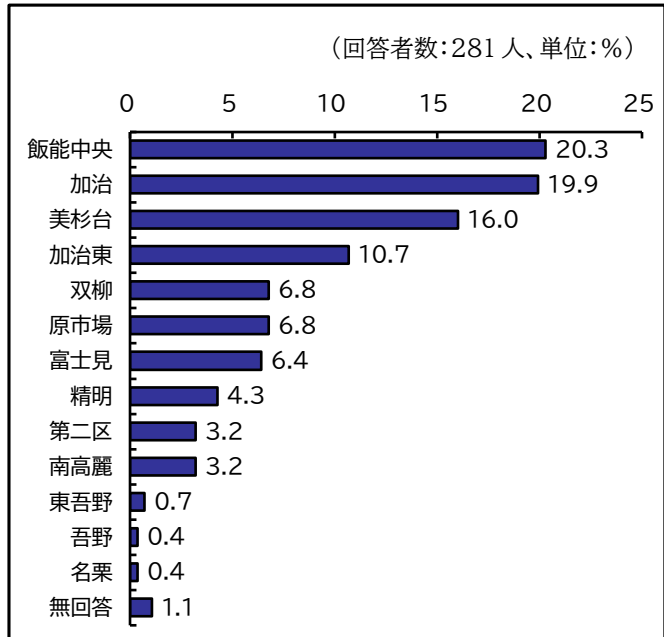
「飯能中央」が最も多い

地域福祉圏域については、「飯能中央」が20.3%で最も多く、次いで「加治」が19.9%、「美杉台」が16.0%が続いています。

表 地域福祉圏域

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
飯能中央	57 (20.3)
加治	56 (19.9)
美杉台	45 (16.0)
加治東	30 (10.7)
双柳	19 (6.8)
原市場	19 (6.8)
富士見	18 (6.4)
精明	12 (4.3)
第二区	9 (3.2)
南高麗	9 (3.2)
東吾野	2 (0.7)
吾野	1 (0.4)

図 地域福祉圏域



区分	人 (%)
名栗	1 (0.4)
無回答	3 (1.1)

3-1-4 居住年数（問4）

問4 飯能市に何年お住まいですか。生まれた時からお住まいの方（一時的に転出した方も含みます）は、年数に関わらず「1 生まれた時から」を選択してください。（1つだけに○）

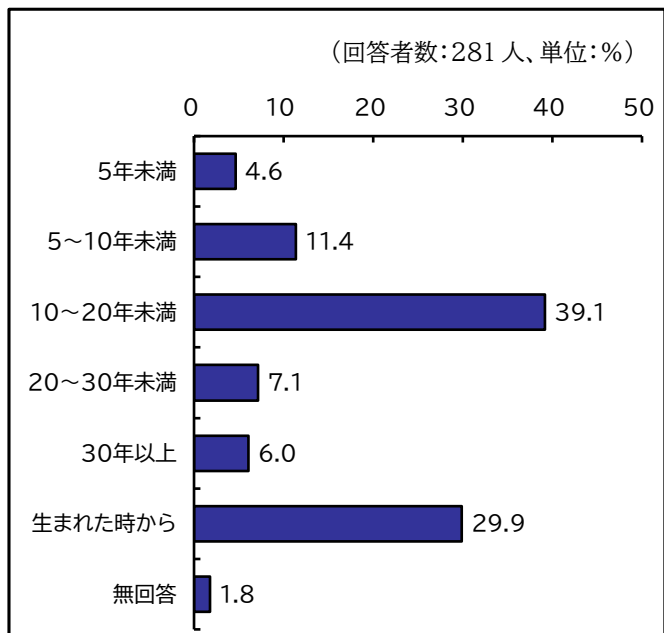
「10～20年未満」が最も多い

居住年数については、「10～20年未満」が39.1%で最も多く、次いで「生まれた時から」が29.9%、「5～10年未満」が11.4%が続いています。

表 居住年数

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
5年未満	13 (4.6)
5～10年未満	32 (11.4)
10～20年未満	110 (39.1)
20～30年未満	20 (7.1)
30年以上	17 (6.0)
生まれた時から	84 (29.9)
無回答	5 (1.8)

図 居住年数



3-1-5 世帯形態 (問5)

問5 あなたの家族構成を教えてください。(1つだけに○)

「親と子の二世帯世帯」が84.7%

世帯形態については、「親と子の二世帯世帯」が84.7%で最も多く、次いで「親と子と孫の三世帯世帯」が10.0%が続いています。

図 世帯形態

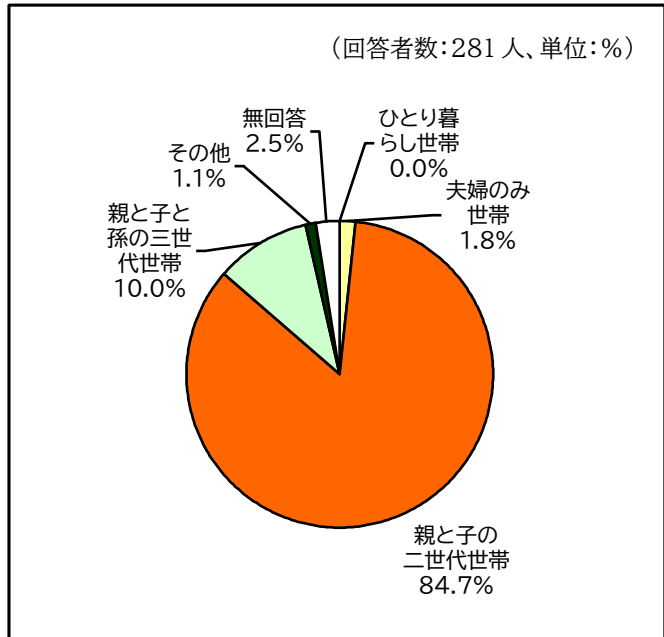


表 世帯形態

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
ひとり暮らし世帯	0 (0.0)
夫婦のみ世帯	5 (1.8)
親と子の二世帯世帯	238 (84.7)
親と子と孫の三世帯世帯	28 (10.0)
その他	3 (1.1)
無回答	7 (2.5)

3-1-6 自治会加入の有無 (問6)

問6 あなたの世帯は、自治会に加入していますか。(1つだけに○)

「はい」が90.4%

自治会加入の有無については、「はい」が90.4%、「いいえ」が6.8%となっています

図 自治会加入の有無

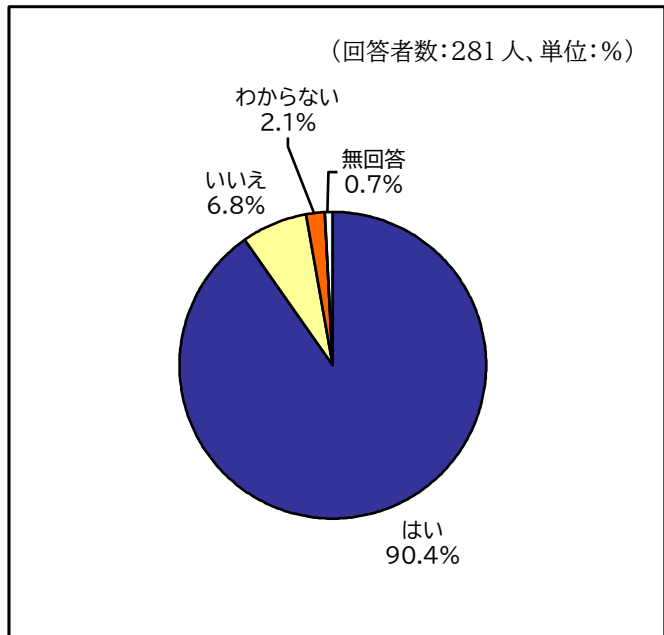


表 自治会加入の有無

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
はい	254 (90.4)
いいえ	19 (6.8)
わからない	6 (2.1)
無回答	2 (0.7)

第2節 住民同士の交流や支え合いについて

3-2-1 普段のあいさつの状況（問7）

問7 あなたは、ふだん、ご近所の方とのあいさつをどの程度していますか。（1つだけに○）

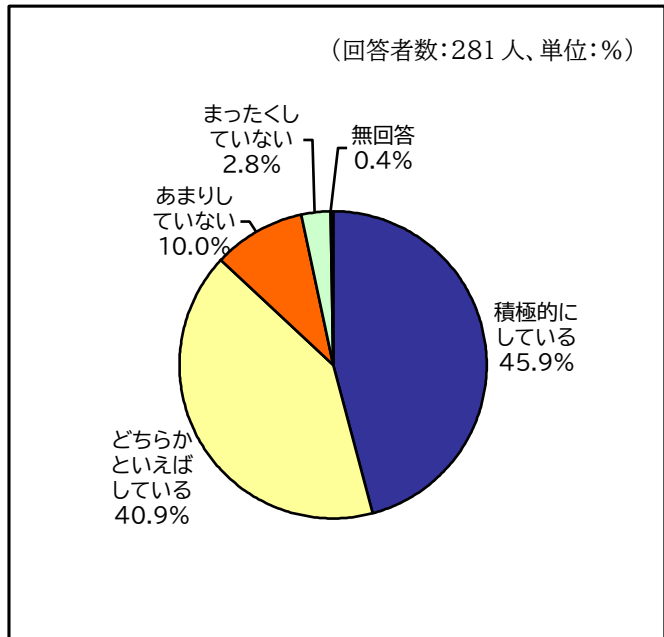
“している”が86.8%

普段のあいさつの状況については、「積極的にしている」が45.9%、「どちらかといえばしている」が40.9%であり、これらを合わせると86.8%が“している”と回答しています。

表 普段のあいさつの状況

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
積極的にしている	129 (45.9)
どちらかといえばしている	115 (40.9)
あまりしていない	28 (10.0)
まったくしていない	8 (2.8)
無回答	1 (0.4)

図 普段のあいさつの状況



3-2-2 住民同士のつながりの状況（問8）

問8 あなたのご近所では、住民同士のつながりや交流はどの程度行われていますか。（1つだけに○）

“行われている”が56.6%

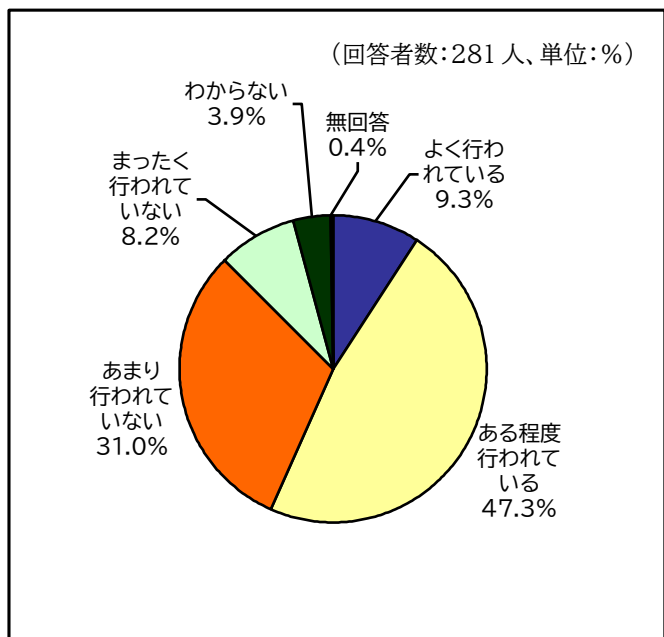
住民同士やつながりの状況については、「よく行われている」が9.3%、「ある程度行われている」が47.3%であり、これらを合わせると56.6%が“行われている”と回答しています。

一方、「あまり行われていない」が31.0%、「まったく行われていない」が8.2%であり、これらを合わせると39.2%が“行われていない”と回答しています。

表 住民同士のつながりの状況

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
よく行われている	26 (9.3)
ある程度行われている	133 (47.3)
あまり行われていない	87 (31.0)
まったく行われていない	23 (8.2)

図 住民同士のつながりの状況



区分	人 (%)
わからない	11 (3.9)
無回答	1 (0.4)

3-2-3 ボランティア活動への関心（問9（1））

問9 市内で行われているボランティア活動など、支え合いの取組についてうかがいます。
 (1) あなたは、こうした取組に関心がありますか。(1つだけに○)

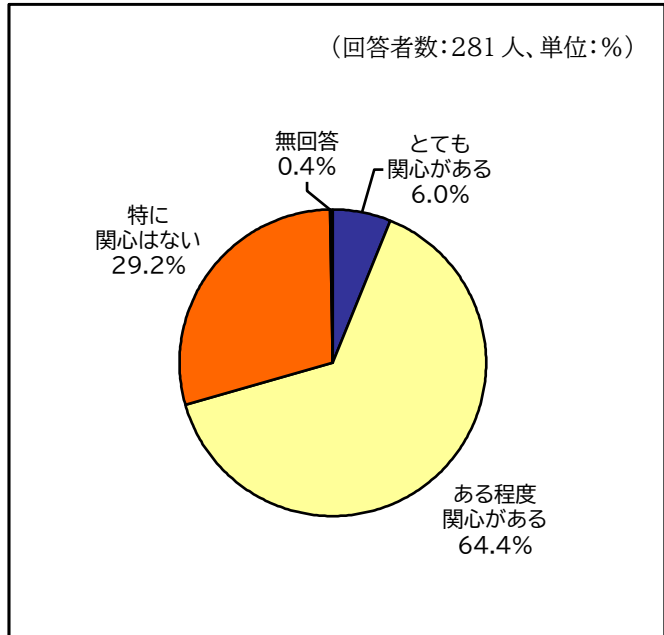
“関心がある”が70.4%

ボランティア活動への関心については、「とても関心がある」が6.0%、「ある程度関心がある」が64.4%で、これらを合わせると70.4%が“関心がある”と回答しています。

表 ボランティア活動への関心

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
とても関心がある	17 (6.0)
ある程度関心がある	181 (64.4)
特に関心はない	82 (29.2)
無回答	1 (0.4)

図 ボランティア活動への関心



3-2-4 ボランティア活動の参加経験（問9（2））

(2) ここ5年間でこうした取組に参加したことがありますか。(1つだけに○)

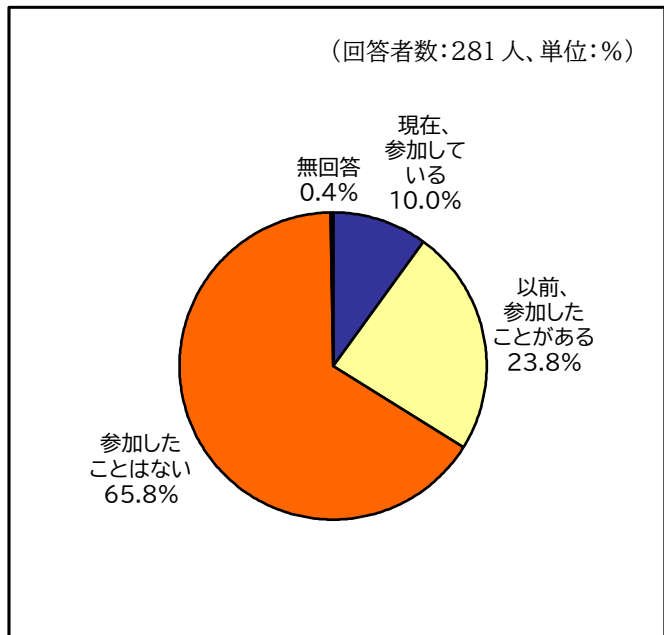
“参加している・したことがある”が33.8%

ボランティア活動の参加経験については、「現在、参加している」が10.0%、「以前、参加したことがある」が23.8%であり、これらを合わせると33.8%が“参加している・したことがある”と回答しています。

表 ボランティア活動の参加経験

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
現在、参加している	28 (10.0)
以前、参加したことがある	67 (23.8)
参加したことはない	185 (65.8)
無回答	1 (0.4)

図 ボランティア活動の参加経験



3-2-5 ボランティア活動の参加意向（問9（3））

(3) 今後、参加したいと思いますか。(1つだけに○)

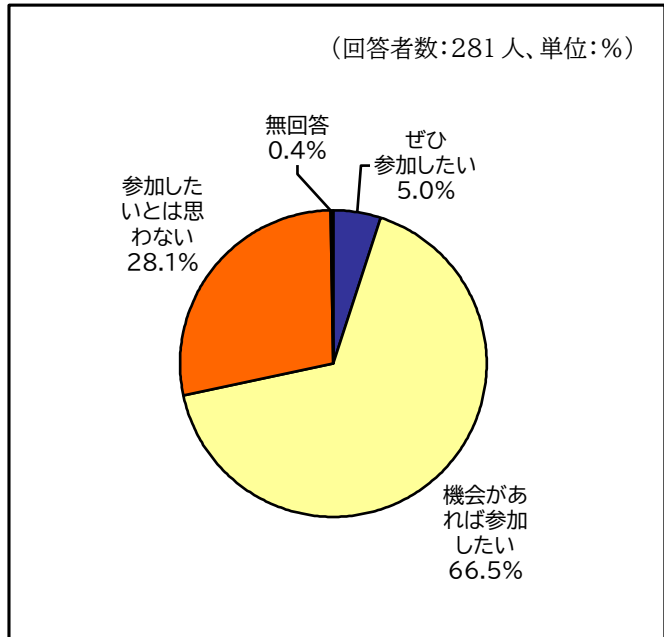
“参加したい”が71.5%

ボランティア活動の参加意向については、「ぜひ参加したい」が5.0%、「機会があれば参加したい」が66.5%であり、これらを合わせると71.5%が“参加したい”と回答しています。

表 ボランティア活動の参加意向

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
ぜひ参加したい	14 (5.0)
機会があれば参加したい	187 (66.5)
参加したいとは思わない	79 (28.1)
無回答	1 (0.4)

図 ボランティア活動の参加意向



3-2-6 ボランティア活動促進の条件（問9（4））

(4) どのようなことがあれば、こうした取組への参加がもっと進むと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

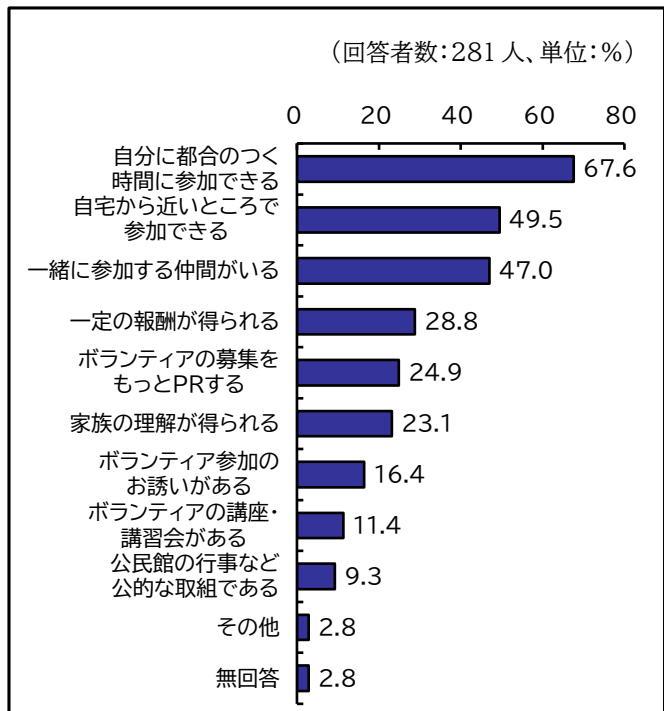
「自分に都合のつく時間に参加できる」が最も多い

ボランティア活動促進の条件については、「自分に都合のつく時間に参加できる」が67.6%で最も多く、次いで「自宅から近いところで参加できる」が49.5%、「一緒に参加する仲間がいる」が47.0%で続いています。

表 ボランティア活動促進の条件（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
自分に都合のつく時間に参加できる	190 (67.6)
自宅から近いところで参加できる	139 (49.5)
一緒に参加する仲間がいる	132 (47.0)
一定の報酬が得られる	81 (28.8)
ボランティアの募集をもっとPRする	70 (24.9)
家族の理解が得られる	65 (23.1)
ボランティア参加のお誘いがある	46 (16.4)
ボランティアの講座・講習会がある	32 (11.4)
公民館の行事など公的な取組である	26 (9.3)
その他	8 (2.8)

図 ボランティア活動促進の条件（複数回答）



区分	人 (%)
無回答	8 (2.8)

第3節 「地域の居場所」について

3-3-1 「地域の居場所」の認知度（問10）

問10 「地域の居場所」とは、地域において、他人と関わりながら安心して過ごすことのできる場所のことです。市内では、多様な居場所づくりが進められており、コロナ禍においても「ふれあいいきいきサロン・地域の茶の間」、「地域子育て支援拠点」、「ひだまりカフェ（認知症カフェ）」などが運営されています。あなたは、市内で実施されている「地域の居場所」をご存じですか。（1つだけに○）

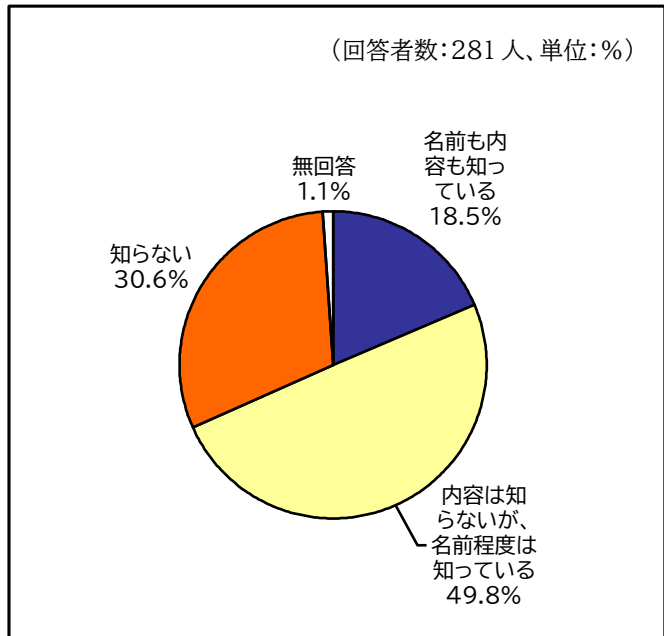
“知っている”が68.3%

「地域の居場所」の認知度については、「名前も内容も知っている」が18.5%、「内容は知らないが、名前程度は知っている」が49.8%であり、これらを合わせると68.3%が“知っている”と回答しています。

表 「地域の居場所」の認知度

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
名前も内容も知っている	52 (18.5)
内容は知らないが、名前程度は知っている	140 (49.8)
知らない	86 (30.6)
無回答	3 (1.1)

図 「地域の居場所」の認知度



3-3-2 「地域の居場所」の必要性（問11）

問11 問10のような、身近な地域において他人と関わりながら安心して過ごせる居場所について、あなたご自身や家族は、現在、必要性を感じていますか。（1つだけに○）

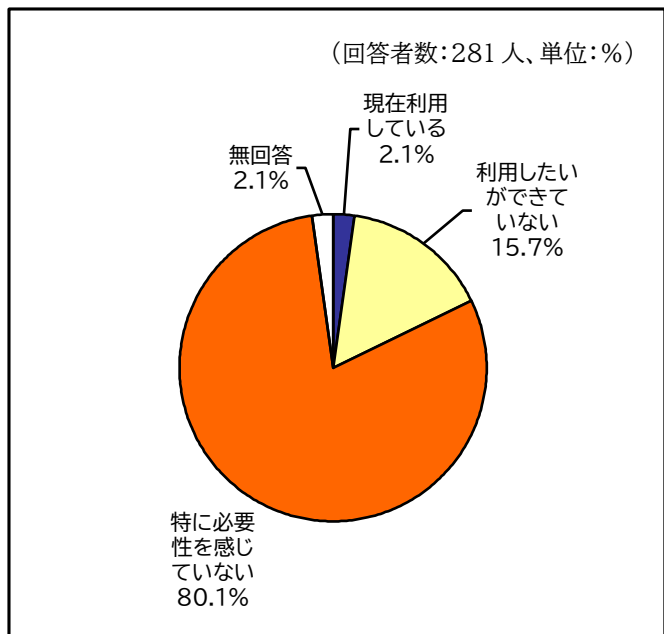
“利用している・したい”が17.8%

「地域の居場所」の必要性については、「現在利用している」が2.1%（6人）、「利用したいができていない」が15.7%（44人）であり、これらを合わせると17.8%が“利用している・したい”と回答しています。

表 「地域の居場所」の必要性

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
現在利用している	6 (2.1)
利用したいができていない	44 (15.7)
特に必要性を感じていない	225 (80.1)
無回答	6 (2.1)

図 「地域の居場所」の必要性



なお、「現在利用している」と回答した6人にその場所について記入していただいたところ、次の通りとなっています。

- 丸徳カフェ（飯能中央）
- 子育ての場（富士見）
- 公民館でのサークル活動（富士見）
- 育児支援、公民館でのサークルや交流。（加治）
- 「こどもの居場所づくり」に子どもが参加しました（加治東）
- なぐり広場茶の間（名栗）

3-3-3 「地域の居場所」の満足度（問11-1）

問11-1 問11で「1 現在利用している」を選んだ方にうかがいます。現在利用している居場所に満足していますか。（1つだけに○）

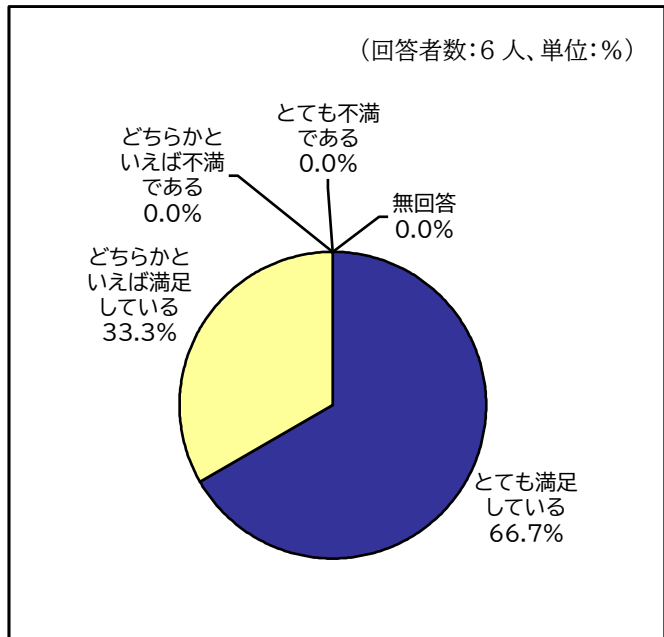
回答者全員が“満足している”

問11で「利用している」と回答した6人に対し、「地域の居場所」の満足度について聞いたところ、「とても満足している」が66.7%、「どちらかといえば満足している」が33.3%であり、回答者全員が“満足している”と回答しています。

表 「地域の居場所」の満足度

区分	人 (%)
回答者数	6 (100.0)
とても満足している	4 (66.7)
どちらかといえば満足している	2 (33.3)
どちらかといえば不満である	0 (0.0)
とても不満である	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)

図 「地域の居場所」の満足度



なお、満足している点や不満な点について、具体的な内容を記入していただいたところ、下記の通りとなっています。

- 食べものなど、購入できるから（飯能中央）
- コロナ禍で、人と話す機会が減ってしまったが、サークル活動をしていると、その時だけでも人と交流することができる。普段の生活では、用事もなく他人を誘えないし、誘われない。（富士見）
- 出会う人みんな、あたたかい。いろいろな情報を共有することができる。（加治）
- まだ一度しか参加していないのでよくは知らないものの、雰囲気もよく、子どもが楽しめる場所でした。もう少し家から近いところで日常的に行ければもっとうれしいです。（加治東）
- どの年代とも楽しくおしゃべりできる（名栗）

3-3-4 「地域の居場所」を利用できない理由（問11-2）

問11-2 問11で「2 利用したいができていない」を選んだ方にうかがいます。利用したいのにできないのはなぜですか。下の枠内に具体的にお書きください。

「地域の居場所の満足度」(問11)で「利用したいができていない」と回答した44人に対し、その理由について聞いたところ、次の通りとなっています。

(1) 飯能中央

- 子どもが小さい頃は利用していたが、なかなか平日に時間が取れない。
- 身近にいくつもあると言う訳ではないので、気軽に行けない。
- 子育て支援センターを利用したいが、電話での予約制で時間や定員が限られているため、気軽に利用できないから。
- よくわからないから。
- どこにあるのかわからない。
- 余裕が無いから。
- 時間があわない。
- 飯能市は年寄りか子どもにしか目線を向けていない。すなわち、1番手っ取り早くて誰でも思いつく対象。やっつけ感が否めない。そんな市が企画する案件には協力したくない。
- 仕事しているため時間がとれない。

(2) 第二区

- あるのが知らないから。
- 小学生の不登校の子どもがいます。フリースクールを利用したいと思っておりますが、登下校は親が送り迎えしなければならず、正社員で両親が働いていると利用は無理です。その子他に2人子どもがおり将来を考えると仕事を辞める訳にも行きません。
- 仕事中心のため。

(3) 精明

- 仕事が日中なのでなかなか難しい。

(4) 双柳

- どのような所かわからないからため。
- 学童とかではなく、子どもが気楽に遊びに行ける校庭や図書室体育館などで子どもを見守ってくれる場所があるといいと思った。他市ではあると聞いたため。

- 選択肢が少ない。本人に合うものがない。
- 時間がない。

(5) 加治東

- 普段お仕事をしているため参加できません。
- 子どもが少し鼻水が出たり咳をしてこのご時世迷惑を掛けないか心配、休日に仕事があるなど、タイミングが合わないため。
- 時間がない。
- 義父は年寄りの集まりというイメージがあるのか、そういった場所には行きたがらず、地域や友人関係はとても希薄です。同居はしていても挨拶程度で、日中誰とも喋らない日もあり、今の現状は良くないと感じています。人との交流が苦手な人や頑固な男性世代でも気軽に参加できるものがあるとありがたいです。

(6) 加治

- 微妙に求めている活動と違う気がするから。
- 平日は働いており、カフェなどの営業時間に行くことができない。
- 利用したいが、地域の事をよく知らない。引越してきて近所に知人もいない。
- 仕事や休みの日の予定が忙しいから。
- 機会がなかなかないため。
- 詳しく知らないから。
- 現在の所は、必要性を感じないが、今後利用しなくなる可能性があると思っている。
- 自分自も家族も利用する必要がない。

(7) 美杉台

- 仕事をしているため利用する時間がない。
- 情報が無いので利用のしようが無い。
- 仕事等でなかなか時間がないため。

(8) 南高麗

- 仕事をしていて時間がない。

○利用予定があったが、都合で行けなかった。

(9) 原市場

○探し方がわからない。

○コロナ禍で不安、1人で外出できない日がある、
過去集まりに参加して心無い事を言われてし

まったり行った事で精神的にダメージを負っ
てしまい行きたいけど行くのが怖い。

○支援側だったり、別の仕事でゆっくり関われな
い。

第4節 地域福祉に関する組織や制度等の認知度

3-4-1 地域福祉に関する組織や制度等の認知度（問12）

問12 地域福祉の推進に関係している次の組織や計画、制度等をご存じですか。（それぞれ1つだけに○）

「民生委員・児童委員」や「成年後見制度」、「飯能市社会福祉協議会」の認知度が比較的高い

地域福祉に関する組織や制度等の認知度について、「名前も内容も知っている」の割合をみると、「民生委員・児童委員」が32.7%で最も多く、次いで「成年後見制度」が26.7%、「飯能市社会福祉協議会」が25.6%で続いています。

図 地域福祉に関する組織や制度等の認知度

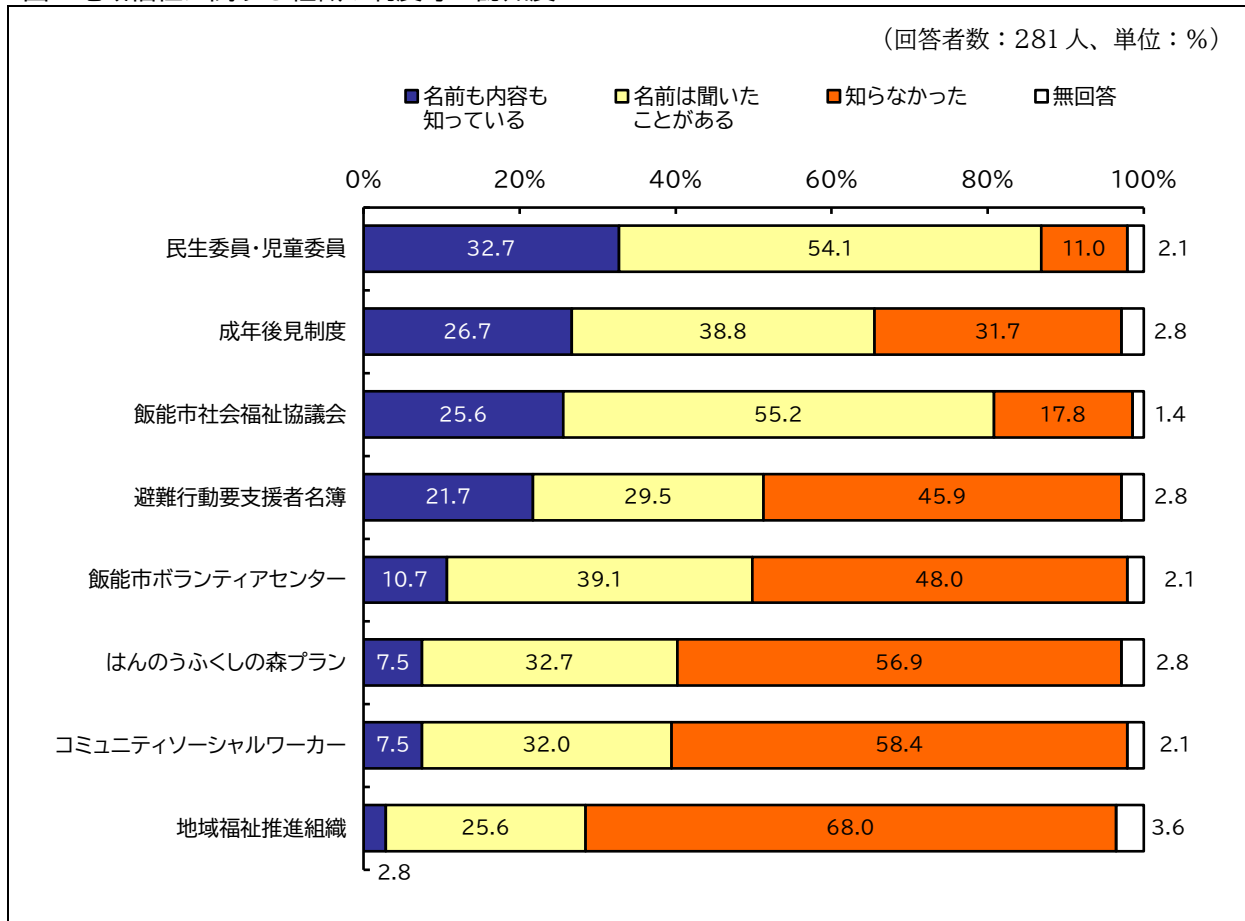


表 地域福祉に関する組織や制度等の認知度

回答者数：281人、単位：人（％）

区分	名前も内容も知っている	名前は聞いたことがある	知らなかった	無回答
民生委員・児童委員	92 (32.7)	152 (54.1)	31 (11.0)	6 (2.1)
成年後見制度	75 (26.7)	109 (38.8)	89 (31.7)	8 (2.8)
飯能市社会福祉協議会	72 (25.6)	155 (55.2)	50 (17.8)	4 (1.4)
避難行動要支援者名簿	61 (21.7)	83 (29.5)	129 (45.9)	8 (2.8)
飯能市ボランティアセンター	30 (10.7)	110 (39.1)	135 (48.0)	6 (2.1)
はんのうふくしの森プラン	21 (7.5)	92 (32.7)	160 (56.9)	8 (2.8)
コミュニティソーシャルワーカー	21 (7.5)	90 (32.0)	164 (58.4)	6 (2.1)
地域福祉推進組織	8 (2.8)	72 (25.6)	191 (68.0)	10 (3.6)

第5節 福祉情報の入手状況

3-5-1 福祉情報の入手先（問13）

問13 福祉に関する情報（サービスや制度、イベントなど）をどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

「市の広報紙」や「自治会のお知らせ」、「社会福祉協議会の広報紙」が多い

福祉情報の入手先については、「市の広報紙」が82.6%で最も多く、次いで「自治会のお知らせ」が36.7%、「社会福祉協議会の広報紙」が28.5%で続いています。

図 福祉情報の入手先（複数回答）

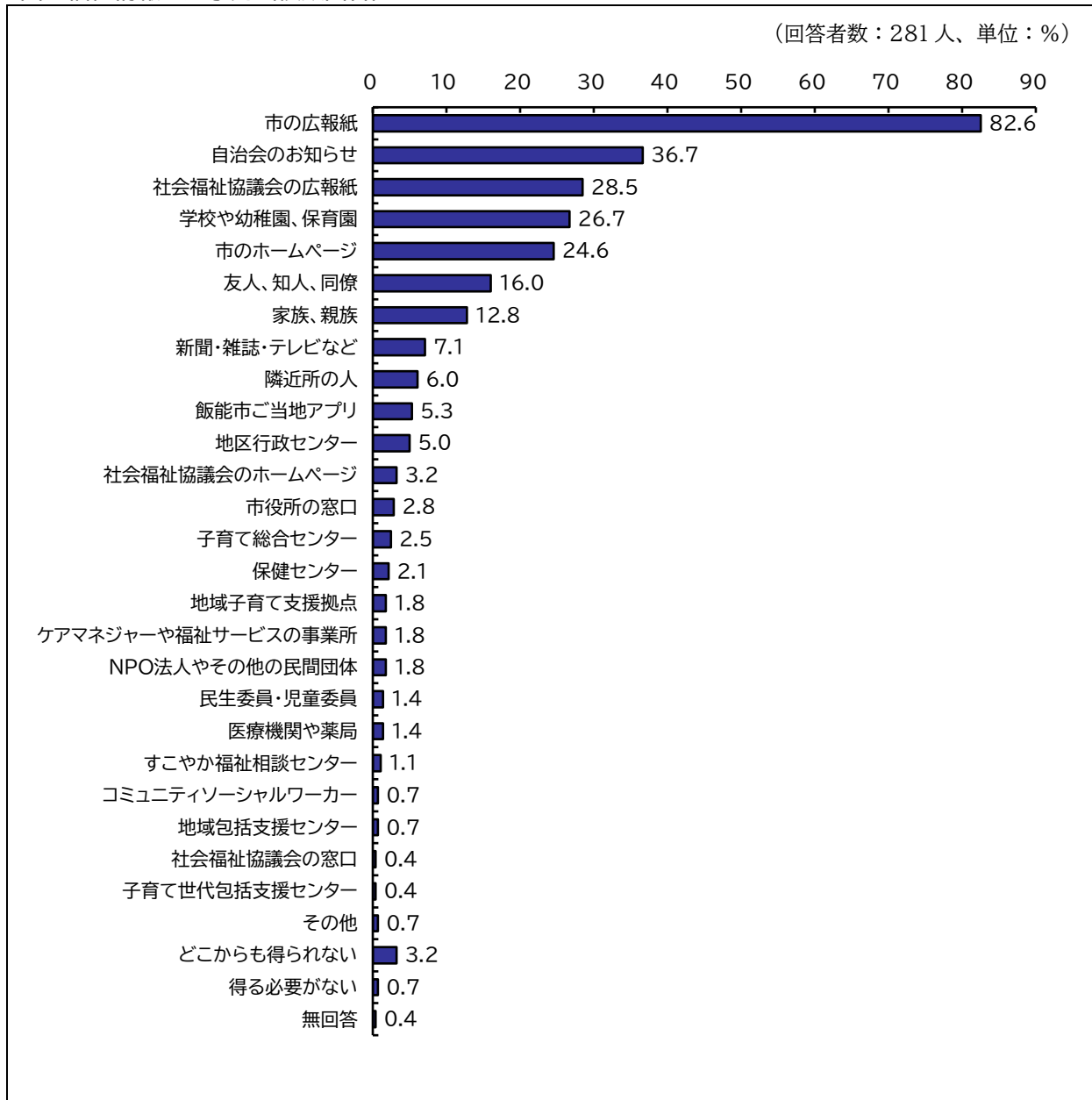


表 福祉情報の入手先（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
市の広報紙	232 (82.6)
自治会のお知らせ	103 (36.7)
社会福祉協議会の広報紙	80 (28.5)
学校や幼稚園、保育園	75 (26.7)
市のホームページ	69 (24.6)
友人、知人、同僚	45 (16.0)
家族、親族	36 (12.8)
新聞・雑誌・テレビなど	20 (7.1)
隣近所の人	17 (6.0)
飯能市ご当地アプリ	15 (5.3)
地区行政センター	14 (5.0)
社会福祉協議会のホームページ	9 (3.2)
市役所の窓口	8 (2.8)
子育て総合センター	7 (2.5)
保健センター	6 (2.1)

区分	人 (%)
地域子育て支援拠点	5 (1.8)
ケアマネジャーや福祉サービスの事業所	5 (1.8)
NPO 法人やその他の民間団体	5 (1.8)
民生委員・児童委員	4 (1.4)
医療機関や薬局	4 (1.4)
すこやか福祉相談センター	3 (1.1)
コミュニティソーシャルワーカー	2 (0.7)
地域包括支援センター	2 (0.7)
社会福祉協議会の窓口	1 (0.4)
子育て世代包括支援センター	1 (0.4)
その他	2 (0.7)
どこからも得られない	9 (3.2)
得る必要がない	2 (0.7)
無回答	1 (0.4)

3-5-2 福祉情報の入手先の数（問13を基に作成）

※問13の回答構成を基に作成

「3つ以上」が42.7%

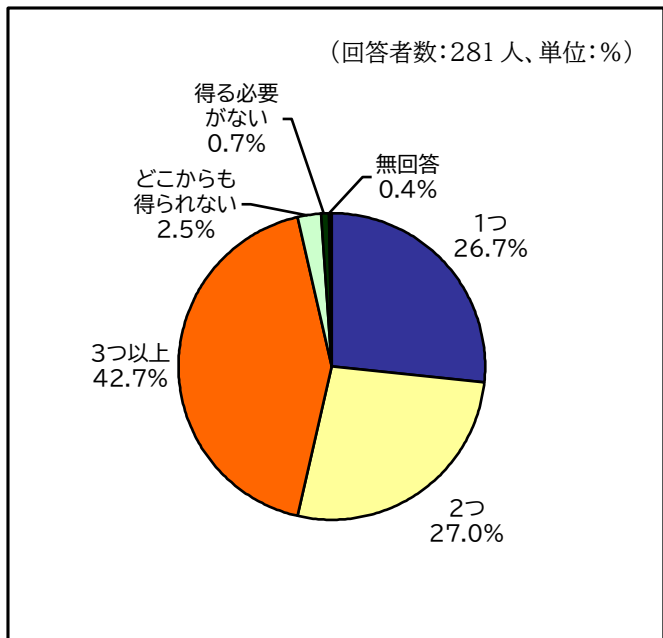
福祉情報の入手先（問13）の回答構成から福祉情報の入手先の数について調べたところ、「1つ」が26.7%、「2つ」が27.0%、「3つ以上」が42.7%となっています。

一方、「どこからも得られない」は2.5%となっています。

表 福祉情報の入手先の数

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
1つ	75 (26.7)
2つ	76 (27.0)
3つ以上	120 (42.7)
どこからも得られない	7 (2.5)
得る必要がない	2 (0.7)
無回答	1 (0.4)

図 福祉情報の入手先の数



3-5-3 福祉情報の充足度 (問 14)

問 14 本市の福祉に関する情報は、どの程度得られていると感じていますか。(1つだけに○)

“得られていない”が61.6%

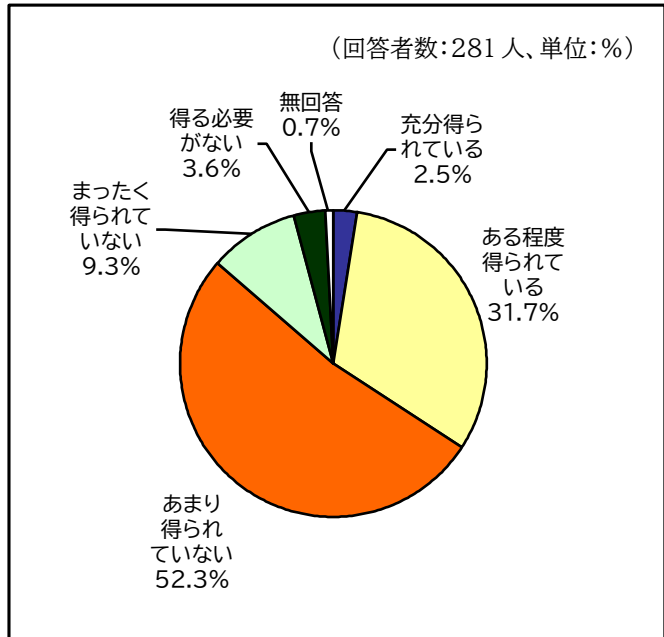
福祉情報の充足度については、「充分得られている」が2.5%、「ある程度得られている」が31.7%であり、これらを合わせると34.2%が“得られている”と回答しています。

一方、「あまり得られていない」が52.3%、「まったく得られていない」が9.3%であり、これらを合わせると61.6%が“得られていない”と回答しています。

表 福祉情報の充足度

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
充分得られている	7 (2.5)
ある程度得られている	89 (31.7)
あまり得られていない	147 (52.3)
まったく得られていない	26 (9.3)

図 福祉情報の充足度

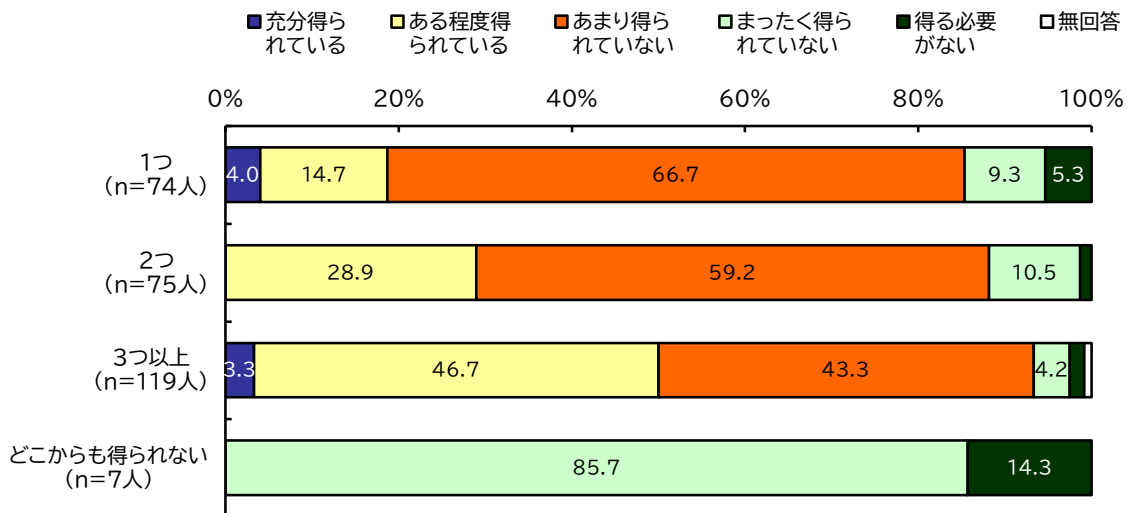


区分	人 (%)
得る必要がない	10 (3.6)
無回答	2 (0.7)

【福祉情報の入手先の数別】

これを福祉情報の入手先の数別にみると、入手先の数が多くなるに従って「ある程度得られている」の割合が高くなる傾向がみられます。なお、「3つ以上」の回答者においても「あまり得られていない」が43.3%と比較的多くみられます。

図 福祉情報の入手先の数別にみた福祉情報の充足度



第6節 安心・安全なまちづくりについて

3-6-1 虐待に関する通報義務の認知度（問15）

問15 高齢者虐待防止法、児童虐待防止法及び障害者虐待防止法では、虐待を見聞きした市民は市町村や児童相談所、警察などに通報することが義務づけられています。あなたは、このこと（通報義務）をご存じでしたか。（1つだけに○）

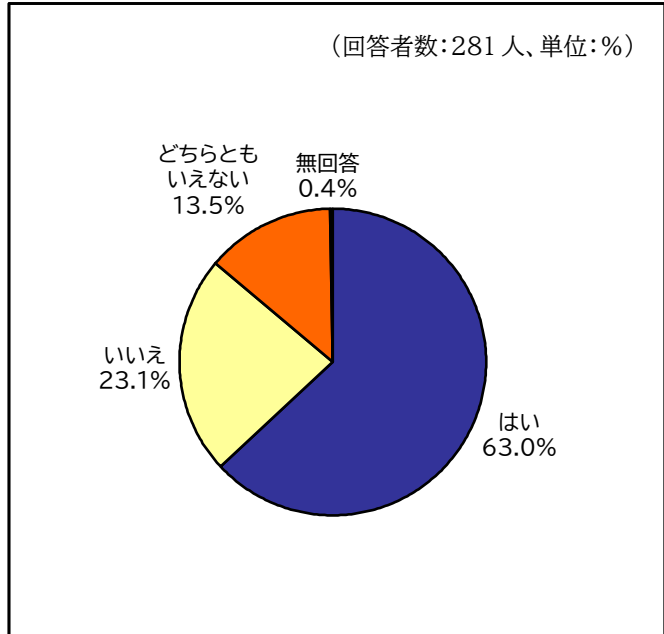
「はい」が63.0%

虐待に関する通報義務の認知度については、「はい」が63.0%、「いいえ」が23.1%、「どちらともいえない」が13.5%となっています

表 虐待に関する通報義務の認知度

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
はい	177 (63.0)
いいえ	65 (23.1)
どちらともいえない	38 (13.5)
無回答	1 (0.4)

図 虐待に関する通報義務の認知度



3-6-2 防災対策の実施状況（問16）

問16 あなたのご家庭では、飲料、食料、生活必需品等の備蓄や家族の安否確認の方法、避難方法の確認などの防災対策を行っていますか。（1つだけに○）

“行っている”が78.3%

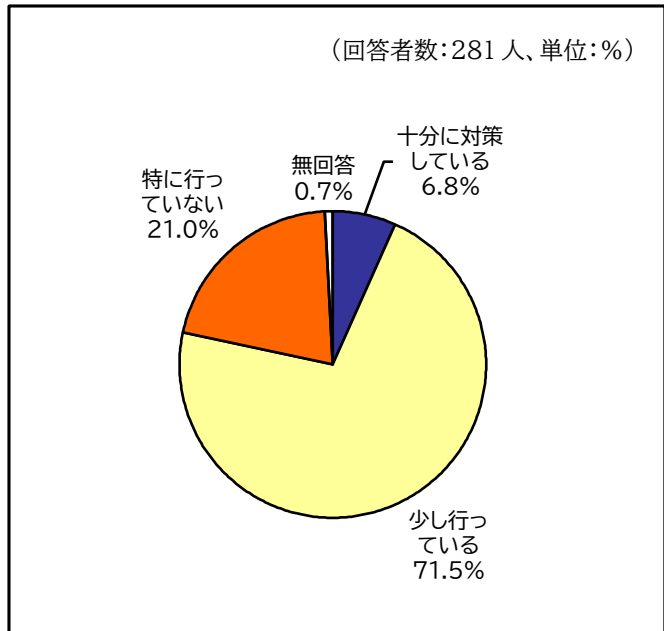
防災対策の実施状況については、「十分に対策している」が6.8%、「少し行っている」が71.5%であり、これらを合わせると78.3%が“行っている”と回答しています。

一方、「特に行っていない」は21.0%となっています

表 防災対策の実施状況

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
十分に対策している	19 (6.8)
少し行っている	201 (71.5)
特に行っていない	59 (21.0)
無回答	2 (0.7)

図 防災対策の実施状況



3-6-3 防災訓練への参加状況（問17）

問17 地域の防災訓練に参加していますか。（1つだけに○）

“参加している”は38.8%

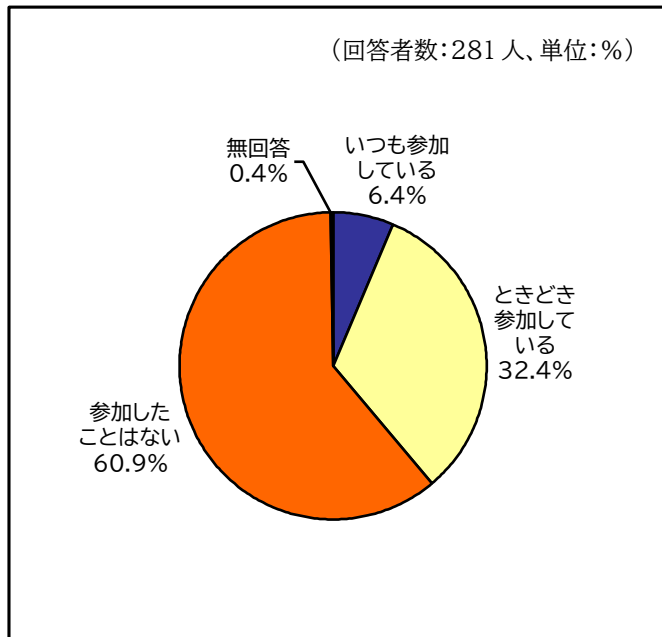
防災訓練への参加状況については、「いつも参加している」が6.4%、「ときどき参加している」が32.4%であり、これらを合わせると38.8%が“参加している”と回答しています。

一方「参加したことはない」は60.9%となっています。

表 防災訓練への参加状況

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
いつも参加している	18 (6.4)
ときどき参加している	91 (32.4)
参加したことはない	171 (60.9)
無回答	1 (0.4)

図 防災訓練への参加状況



第7節 困っていることや相談窓口について

3-7-1 困りごとの内容（問18）

問18 現在、あなた自身やご家庭のことで困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「育児、子育て、教育に関すること」が最も多い

困りごとの内容については、「育児、子育て、教育に関すること」が30.2%で最も多く、次いで「生活費など経済的なこと」が23.1%、「老後に関すること」が19.6%が続いています。

図 困りごとの内容（複数回答）

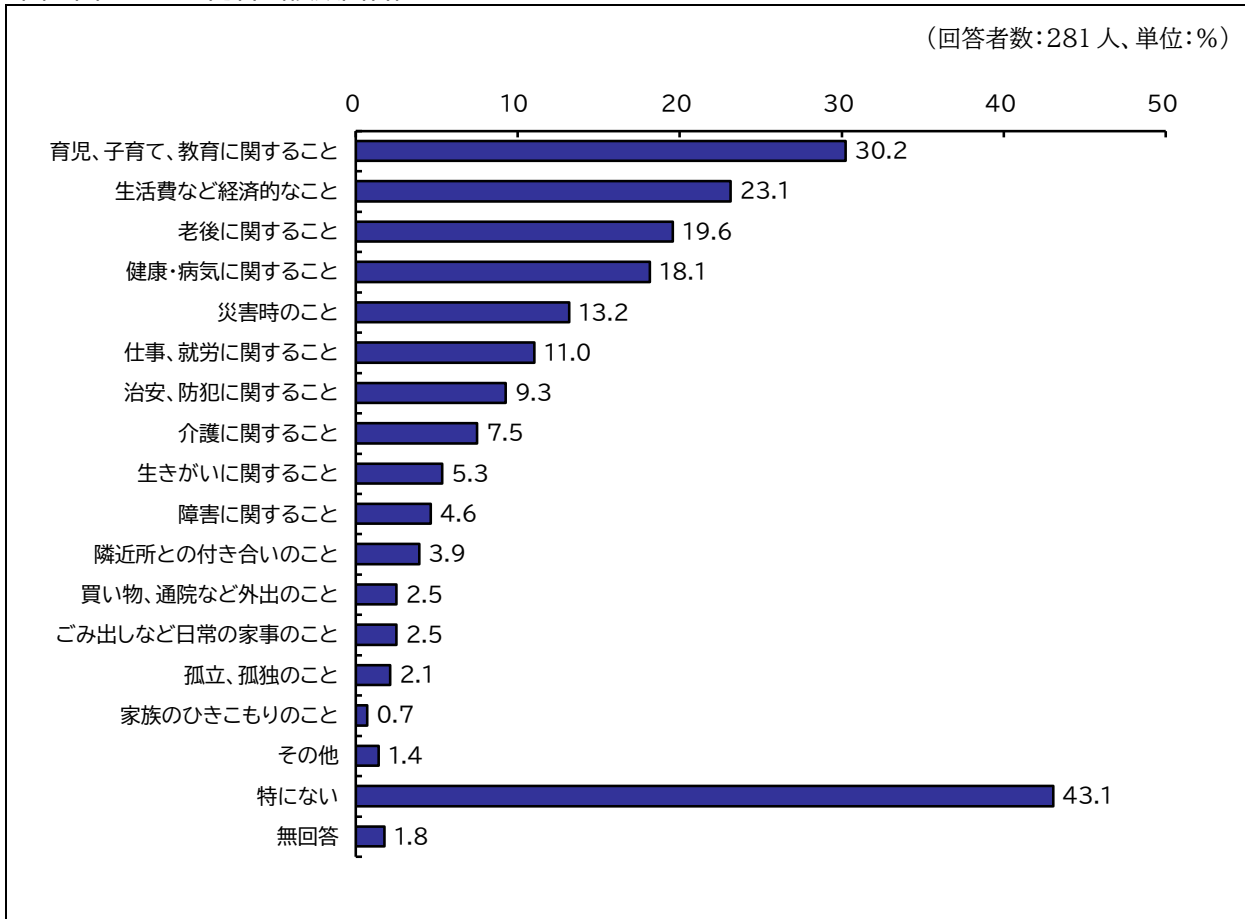


表 困りごとの内容（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
育児、子育て、教育に関すること	85 (30.2)
生活費など経済的なこと	65 (23.1)
老後に関すること	55 (19.6)
健康・病気に関すること	51 (18.1)
災害時のこと	37 (13.2)
仕事、就労に関すること	31 (11.0)
治安、防犯に関すること	26 (9.3)
介護に関すること	21 (7.5)
生きがいに関すること	15 (5.3)

区分	人 (%)
障害に関すること	13 (4.6)
隣近所との付き合いのこと	11 (3.9)
買い物、通院など外出のこと	7 (2.5)
ごみ出しなど日常の家事のこと	7 (2.5)
孤立、孤独のこと	6 (2.1)
家族のひきこもりのこと	2 (0.7)
その他	4 (1.4)
特にない	121 (43.1)
無回答	5 (1.8)

3-7-2 気軽に相談できる相手や窓口の有無（問19）

問19 生活の中での困りごとが発生した際に、気軽に相談できる相手や窓口はありますか。（あてはまるものすべてに○）

「家族・親族」や「友人、知人、同僚」が多い

気軽に相談できる相手や窓口の有無については、「家族・親族」が85.8%で最も多く、次いで「友人、知人、同僚」が67.6%、「隣近所の人」が19.6%が続いています。

図 気軽に相談できる相手や窓口の有無（複数回答）

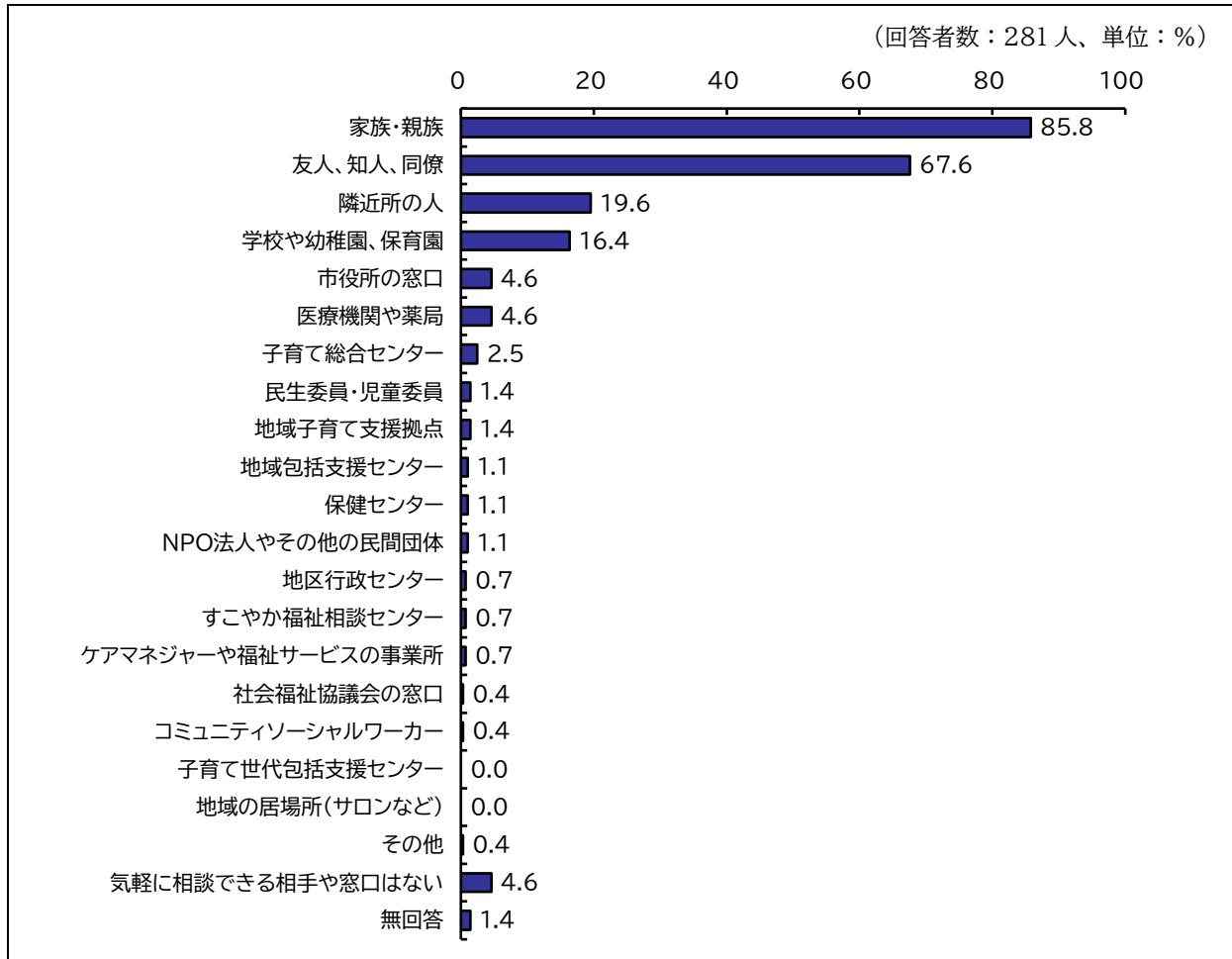


表 気軽に相談できる相手や窓口の有無（複数回答）

区分	人 (%)	区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)	NPO法人やその他の民間団体	3 (1.1)
家族・親族	241 (85.8)	地区行政センター	2 (0.7)
友人、知人、同僚	190 (67.6)	すこやか福祉相談センター	2 (0.7)
隣近所の人	55 (19.6)	ケアマネジャーや福祉サービスの事業所	2 (0.7)
学校や幼稚園、保育園	46 (16.4)	社会福祉協議会の窓口	1 (0.4)
市役所の窓口	13 (4.6)	コミュニティソーシャルワーカー	1 (0.4)
医療機関や薬局	13 (4.6)	子育て世代包括支援センター	0 (0.0)
子育て総合センター	7 (2.5)	地域の居場所(サロンなど)	0 (0.0)
民生委員・児童委員	4 (1.4)	その他	1 (0.4)
地域子育て支援拠点	4 (1.4)	気軽に相談できる相手や窓口はない	13 (4.6)
地域包括支援センター	3 (1.1)	無回答	4 (1.4)
保健センター	3 (1.1)		

3-7-3 相談しやすい窓口の数（問19を基に作成）

※問19の回答構成を基に作成

「2つ」が34.5%

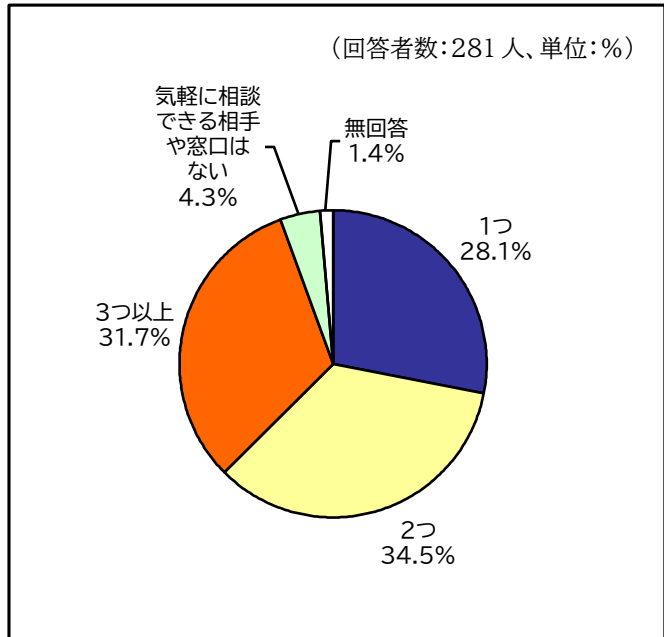
気軽に相談できる相手や窓口（問19）の回答構成から相談窓口の数について調べたところ、「1つ」が28.1%、「2つ」が34.5%、「3つ以上」が31.7%となっています。

一方、「気軽に相談できる相手や窓口はない」は4.3%となっています。

表 相談しやすい窓口の数

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
1つ	79 (28.1)
2つ	97 (34.5)
3つ以上	89 (31.7)
気軽に相談できる相手や窓口はない	12 (4.3)
無回答	4 (1.4)

図 相談しやすい窓口の数



3-7-4 公的な相談窓口の有無（問19を基に作成）

※問19の回答構成を基に作成

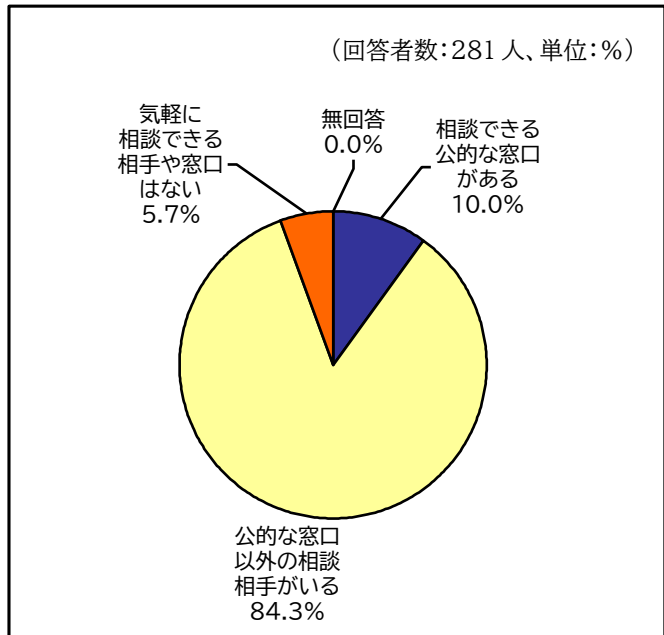
「相談できる公的な窓口がある」は10.0%

気軽に相談できる相手や窓口（問19）の回答構成から公的な相談窓口の有無※について調べたところ、「相談できる公的な窓口がある」が10.0%、「公的な窓口以外の相談相手がいる」が84.3%、「気軽に相談できる相手や窓口はない」が5.7%となっています。

表 公的な相談窓口の有無

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
相談できる公的な窓口がある	28 (10.0)
公的な窓口以外の相談相手がいる	237 (84.3)
気軽に相談できる相手や窓口はない	16 (5.7)
無回答	0 (0.0)

図 公的な相談窓口の有無



※ 巻末調査票の問19の選択肢のうち4~14のいずれかを選択した人を「公的な相談窓口がある」としました。

3-7-5 相談しやすい窓口の条件（問20）

問20 福祉に関する相談窓口について、どのような窓口であれば相談しやすいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「秘密を絶対に守ってくれる」や「一つの窓口で相談ができる」が多い

相談しやすい窓口の条件については、「秘密を絶対に守ってくれる」が55.2%で最も多く、次いで「相談内容に関わらず、一つの窓口で相談ができる」が50.5%、「他人に会うことなくインターネットなどで相談ができる」が39.1%が続いています。

図 相談しやすい窓口の条件（複数回答）

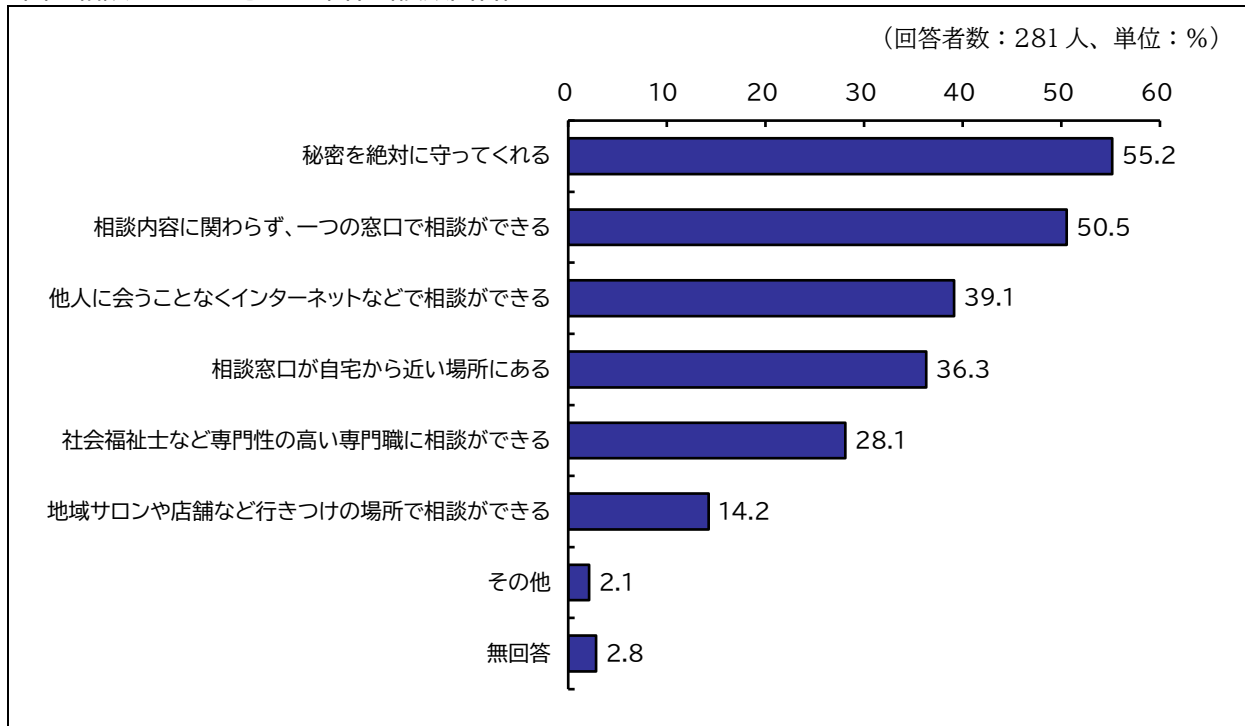


表 相談しやすい窓口の条件（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)
秘密を絶対に守ってくれる	155 (55.2)
相談内容に関わらず、一つの窓口で相談ができる	142 (50.5)
他人に会うことなくインターネットなどで相談ができる	110 (39.1)
相談窓口が自宅から近い場所にある	102 (36.3)
社会福祉士など専門性の高い専門職に相談ができる	79 (28.1)
地域サロンや店舗など行きつけの場所で相談ができる	40 (14.2)
その他	6 (2.1)
無回答	8 (2.8)

第8節 今後取り組むべきことについて

3-8-1 市や社会福祉協議会が取り組むべき施策（問21）

問21 共に支え合う地域づくりのために、市や社会福祉協議会はどのような取組に力を入れるとよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「気軽に相談できる窓口に関すること」や「子どもを育てる環境に関すること」が多い

市や社会福祉協議会が取り組むべきことについては、「気軽に相談できる窓口に関すること」が46.6%で最も多く、次いで「子どもを育てる環境に関すること」が43.8%で続いています。

図 市や社会福祉協議会が取り組むべきこと（複数回答）

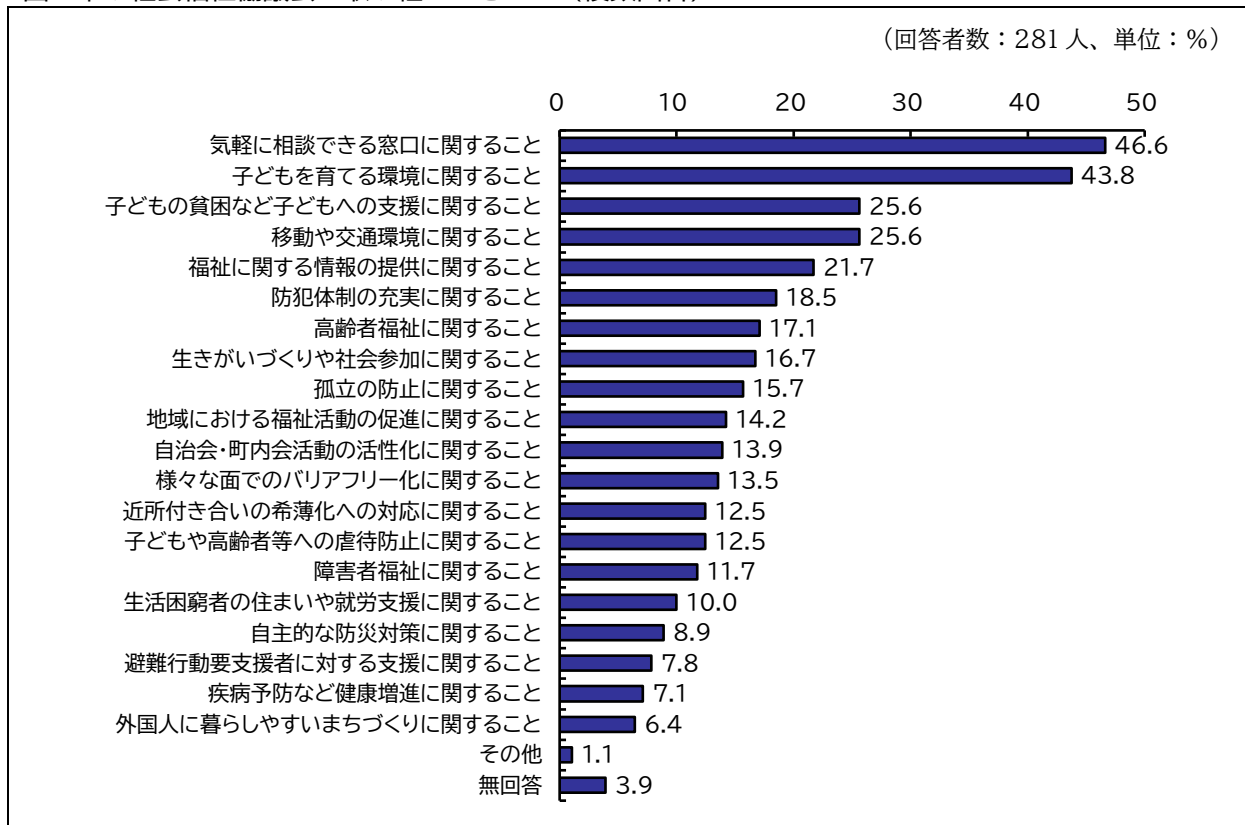


表 市や社会福祉協議会が取り組むべきこと（複数回答）

区分	人 (%)	区分	人 (%)
回答者数	281 (100.0)	様々な面でのバリアフリー化に関すること	38 (13.5)
気軽に相談できる窓口に関すること	131 (46.6)	近所付き合いの希薄化への対応に関すること	35 (12.5)
子どもを育てる環境に関すること	123 (43.8)	子どもや高齢者等への虐待防止に関すること	35 (12.5)
子どもの貧困など子どもへの支援に関すること	72 (25.6)	障害者福祉に関すること	33 (11.7)
移動や交通環境に関すること	72 (25.6)	生活困窮者の住まいや就労支援に関すること	28 (10.0)
福祉に関する情報の提供に関すること	61 (21.7)	自主的な防災対策の強化に関すること	25 (8.9)
防犯体制の充実に関すること	52 (18.5)	避難行動要支援者に対する支援に関すること	22 (7.8)
高齢者福祉に関すること	48 (17.1)	疾病予防など健康増進に関すること	20 (7.1)
生きがいづくりや社会参加に関すること	47 (16.7)	外国人に暮らしやすいまちづくりに関すること	18 (6.4)
孤立の防止に関すること	44 (15.7)	その他	3 (1.1)
地域における福祉活動の促進に関すること	40 (14.2)	無回答	11 (3.9)
自治会・町内会活動の活性化に関すること	39 (13.9)		

3-8-2 支え合いの地域づくりのために必要なこと（問22）

問22 市民、関係団体、市及び社会福祉協議会等が協働し、共に支え合う地域づくりを進めるために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

支え合いの地域づくりのために必要なことについて自由に記入していた大ところ、次の通りとなっています。

（1）飯能中央

- それぞれの分野の連携と継続性
- 市民の意見が反映されること
- 高齢者ではなく、子育て世代や子どもへの支援を増やしてほしい。飯能市は高齢者が多いが、未来を支えるのは子どもたちなので。
- 飯能市は、教育委員会が統一しないのか、関係ないのか、公立小学校なのに違いがある。具体的には、市内小学校で福祉の授業をやっていたり、やらなかったり。例えば、聴覚障害者に理解ある学校は手話など体験学習がある。第一小学校は、市内で唯一「ことばの教室」があるにも関わらず、手話体験学習が1度もない。理解のない学校で、この教室の位置づけがわからない。社協がもっと力を入れて全学校で福祉授業をやるべきです。
- お互いを思いやることが大切だと思う。
- 老後のために身近で歩いて買物ができる場所の確保やバスの時間を増やしたりしてほしい。また、街灯が少ない、暗いため子どもが冬の帰宅時に暗いことも不安なので、飯能という町がもっと快適に暮らせる活気のある場所になってほしい。
- 祭りとか人がたくさん集まる場所でPRしてもらおうと入りやすいと思う。
- 母子家庭など生活が苦しい家庭の洗い出しと対応。受けられる支援を知らないのでは。
- 各団体との横の繋がりを密にすることと、相互理解。
- 何度も言いますが、とにかく考えが古い体質の町です。綺麗事ばかり言ってます。田舎だから仕方ないんでしょうね。そこの膿出しができるのであれば、少しは希望があるのかもしれない。

（2）第二区

- まず子どもが少なすぎる。高齢の方ばかりかつ自分の仕事の休みの都合で関わりもない。仕事

を休んでまで自治会の集まりにも出たくない。正直、地域の福祉や支え合いより自分の生活を優先せざるを得ない状況である。

- 近所との交流があればいい。
- 随時変化し続けるであろう、各自治体が抱える困り事に、対応や対策のアドバイスができるような臨機応変さが行政にあれば、より細やかな行政サービスの周知や、深刻化する前の対応策につながると思う。
- 実際に子育てや、高齢者向けの支援をお願いしたい時、細かな内容がかなり不親切です。そんな無理でしょ…と思うことが多くて残念。シミュレーションをすればすぐ不都合さが解るはず。決め事、マニュアル設定を利用者に優しい内容にしてほしい。

（3）富士見

- 市民個人の要望に応えるべく柔軟にルールを決めていく姿勢。制度は公共のみんなのものなので、そこから不利益を被る人がいるならば、見直す必要もあると思う。市民の側も要望をあげるだけではなくて主体性を持って参加するものだという土壌の意識を変えていかなければいけないのでは。意識を変えるには教育、啓発、実践者からのお誘いなど。広報などの媒体からの周知と口コミ。ゆるくつながることの大切さの認知は広がっていると思うので、いくつも身近に場があると参加しやすいかも。
- 自治会防災対策、地域清掃、見守り等本当に必要なものだけにしてほしい。体育祭、新年会等のイベントや役員は大変煩わしく迷惑でしかない。

（4）精明

- 数人のお人好きな人によって支えられていたものが、お人好し不足により、破綻してしまっていて、新たなお人好しが名乗り出てくれるのを待ちぼうけているような状態が今ののだと

思われます。もう、ひと昔前のようにお人好しが出てきてくれるような世の中ではない、現状を理解し、多少義務のような形をとってでも協力を請わないとならないのではないのでしょうか。

- ご近所でも老老介護が増えてきて介護保険や後期高齢者医療制度など今まで健康に過ごしていた方たちが、いきなりの手続き申請など役所に出向いて行かなければならず、内容把握するまでに時間がかかる高齢者にしっかり説明される事なく、もう一度足を運ばなければならないという事がありました。高齢者やご病気の方だからこそ逆に足を運んでいただけたらではないかと思えます。
- 市役所が積極的に関わる必要があると思いません。

(5) 双柳

- 自分の親が介護を必要となった頃、やっと気づく市のバックアップ体制。自分が、その立場にならないと対岸の火事には関心を持ってない。
- 短い紹介映像などを作り、市役所利用時の待合や駅の待機場所で放映してみてもは。
- その時その人にとって必要な情報をより確実に知らせるとよいと思えます
- 協力
- 子どもから高齢者まで誰でも集える複合施設がほしい。お店があったり、フードコートがあったり。サビアがあるころはよかった。行けば誰かに会えるし雨の日でも遊べる。飯能にはないのであちこち他の市の施設に行くが知り合いにはなかなか会えない。メッツァなど観光施設もよいが、市民が気楽に買物に行けたり、集まったりできる商業施設を誘致してほしい。
- 誰でも気軽に相談でき、様々な情報を提供してくれて親身になってくれる窓口があるとよいと思えます。

(6) 加治東

- たとえば食料不足のご家庭に対し、市内の農家や家庭菜園で作った野菜などを提供できる場所があるといいなと常々思っております。またいらなくなった物(まだ使えるもの)を必要とする家庭で使って頂くなど。SDGsの観点からもモノを循環していくことが共に支え合

うことにも繋がると思えます。

- 横の連携。
- 多様化する個々の生活形態があり、これまでの自治会町内会頼みでは成立しないと思う。また、自治会などのあり方もスピード感をもって変わらないと、加入者は減る一方だと思う。デジタル化を進めたり、現役の働く世代を取りこんでいかないと将来的な展望がみえないので、改革に成功している他の自治体などから、様々なやり方を取り入れてほしい。
- 市や協議会の方が相談相手の場合、市内の人間だと思ってしまうと話しにくい。相談しやすい環境がほしい。ネット上など。
- 一人ひとりの意見を蔑ろにしない。当たり前と思わない。
- 事業についても参加して楽しい、ワクワクする、面白かったなど、人がプラスに思う取組が必要だと思う。強制的な取組は、やらされてる感だけで、全く楽しくないので。
- 災害対策への意識を高めるために防災セットを各家庭に配るなどしたらいいと思えます。
- コロナ禍で集まる機会も少なくなってきており、地域参加型のイベントをどのようにしてなら実施していけるかなど検討しながらしっかり継続、残していってほしいです。

(7) 加治

- 市民の声を聞く制度が整っていない。
- 市への要望があった際に明確に広報などに載せて回答なり対策などを周知してほしいです。
- ボランティア活動の強化などではないかと思えます。
- 色々な活動をしているが、活動内容を知ることがあまりできないので、その辺りをお願いします。
- 子どもから高齢者まで、老若男女共に参加できる、また交流できる、イベントや講座などの開催。世代が違って、一緒に何かできるとよいです。
- 世代を超えて、飯能市の魅力を共有し、共に育てていくことができる活動を行うこと。
- 人それぞれ、生活や、考えることが違うので難しいです。

(8) 美杉台

- 各所から人材を提供し、3つが融合した新しいチームを作り、垣根のない総合的な支援ができる独立団体を作る。
- 福祉関係の人員増員及び人材育成。
- ネットでの情報配信。
- 市と自治会の連携。
- 子どもから大人まで誰もが参加できる催し物やボランティア活動。
- PR活動。
- 同世代での交流はある程度あるが、世代間の交流ができる機会や取組が必要だと思う。
- 新しい考えとスピードある対応。
- 飯能市が福祉や教育に関することにお金をかけること。共助をただ促すだけではだめだと思います。30年前から給与水準は変わらず、物価は高騰。国力が落ちている中、それぞれの生活で手一杯です。
- 有言実行。

- 情報の発信力。

(9) 南高麗

- 一人暮らしの方の支援や空き家、空き地（山、畑も含む）の対応をしっかりとしてほしいです。
- それぞれがしっかり連携し、情報を共有する。

(10) 原市場

- 幅広い横の繋がりと情報発信、参加しやすい活動やイベントなど。
- 子どもたちの社会福祉体験の回を増やし、地域住民との顔をつなぐ。子どもにも役職(係)を与えてもよいと思う。

(11) 名栗

- 各地域に団体の物品保管する場所や会議場、インターネットが使える場所、そんな拠点を用意すること。

第4章

ボランティア団体向けアンケート

第1節 回答者自身の状況

4-1-1 活動分野（問1）

問1 活動分野について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

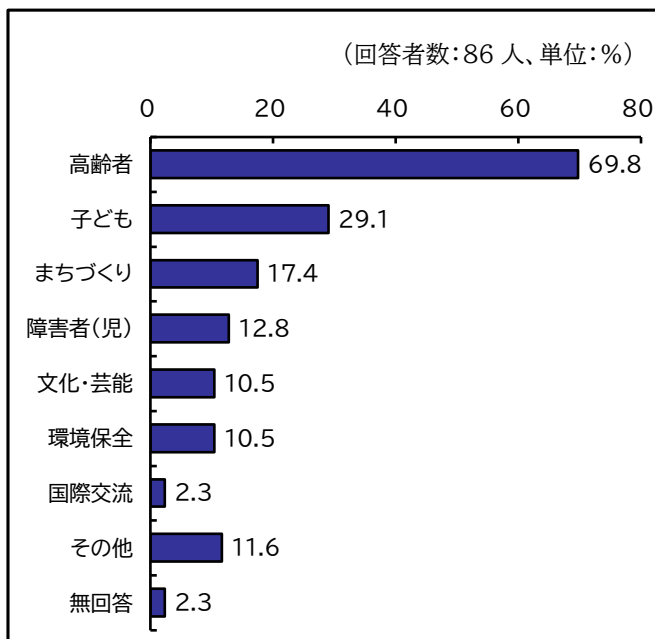
「高齢者」が69.8%

活動分野については、「高齢者」が69.8%で最も多く、次いで「子ども」が29.1%、「まちづくり」が17.4%が続いています。

表 活動分野（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	86 (100.0)
高齢者	60 (69.8)
子ども	25 (29.1)
まちづくり	15 (17.4)
障害者(児)	11 (12.8)
文化・芸能	9 (10.5)
環境保全	9 (10.5)
国際交流	2 (2.3)
その他	10 (11.6)
無回答	2 (2.3)

図 活動分野（複数回答）



4-1-2 活動年数（問2）

問2 活動年数について教えてください。（1つだけに○）

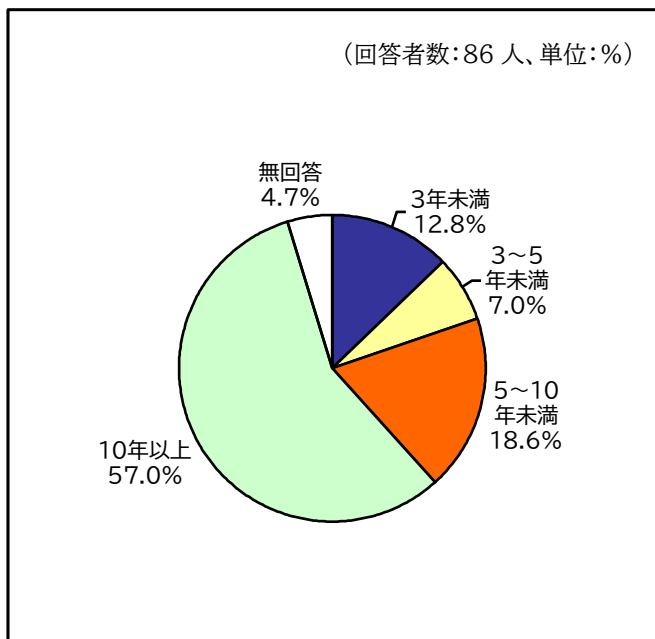
「10年以上」が57.0%

活動年数については、「10年以上」が57.0%で最も多く、次いで「5～10年未満」が18.6%が続いています。

表 活動年数

区分	人 (%)
回答者数	86 (100.0)
3年未満	11 (12.8)
3～5年未満	6 (7.0)
5～10年未満	16 (18.6)
10年以上	49 (57.0)
無回答	4 (4.7)

図 活動年数



4-1-3 活動範囲（問3）

問3 活動範囲を教えてください。（1つだけに○）

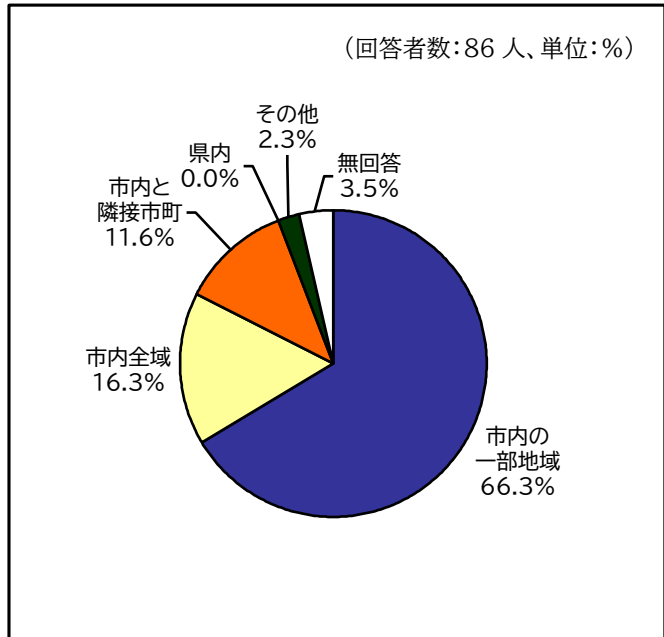
「市内の一部地域」が66.3%

活動範囲については、「市内の一部地域
市内全域」が66.3%で最も多く、次いで
「市内全域」が16.3%、「市内と隣接市町」
が11.6%で続いています。

表 活動範囲

区分	人 (%)
回答者数	86 (100.0)
市内の一部地域	57 (66.3)
市内全域	14 (16.3)
市内と隣接市町	10 (11.6)
県内	0 (0.0)
その他	2 (2.3)
無回答	3 (3.5)

図 活動範囲



第2節 団体運営上の課題について

4-2-1 新型コロナウイルス感染症の影響（問4）

問4 貴団体は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、どの程度影響を受けましたか。（1つだけに○）

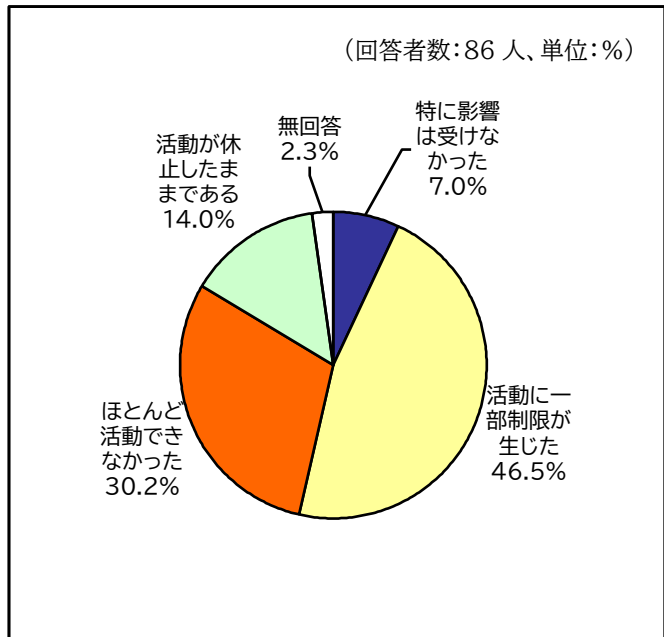
“ほとんど活動できなかった、または休止したまま”が45.2%

新型コロナウイルス感染症の影響については、「ほとんど活動できなかった」が30.2%、「活動が休止したままである」が15.0%であり、これらを合わせると45.2%が“ほとんど活動できなかった、または休止したまま”と回答しています。

表 新型コロナウイルス感染症の影響

区分	人 (%)
回答者数	86 (100.0)
特に影響は受けなかった	6 (7.0)
活動に一部制限が生じた	40 (46.5)
ほとんど活動できなかった	26 (30.2)
活動が休止したままである	12 (14.0)
無回答	2 (2.3)

図 新型コロナウイルス感染症の影響



4-2-2 運営において困っていること（問5）

問5 現在、運営において困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

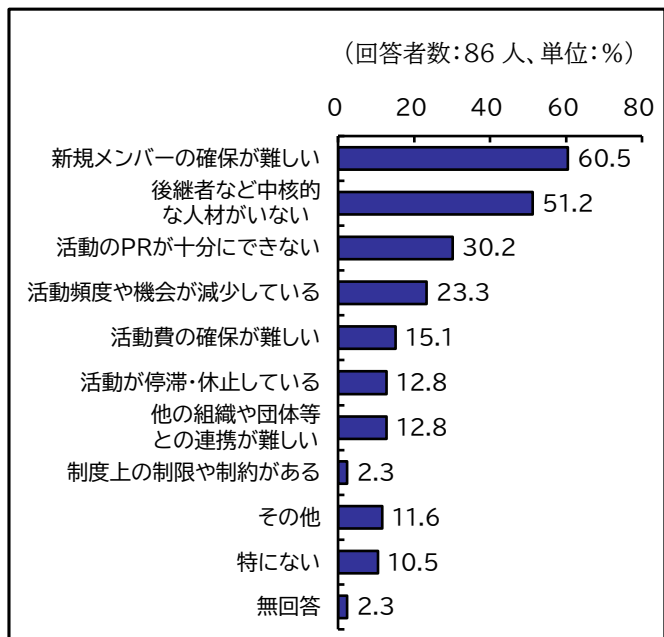
「新規メンバーの確保」が最も多い

運営において困っていることについては、「新規メンバーの確保が難しい」が60.5%で最も多く、次いで「後継者など中核的な人材がない」が51.2%、「活動のPRが十分にできない」が30.2%で続いています。

表 運営において困っていること（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	86 (100.0)
新規メンバーの確保が難しい	52 (60.5)
後継者など中核的な人材がない	44 (51.2)
活動のPRが十分にできない	26 (30.2)
活動頻度や機会が減少している	20 (23.3)
活動費の確保が難しい	13 (15.1)
活動が停滞・休止している	11 (12.8)
他の組織や団体等との連携が難しい	11 (12.8)
制度上の制限や制約がある	2 (2.3)
その他	10 (11.6)

図 運営において困っていること（複数回答）



区分	人 (%)
特にない	9 (10.5)
無回答	2 (2.3)

4-2-3 運営上の課題の解決に必要なこと（問6）

問5の困っていることの課題解決に向けて、どのようなことが必要と思われますか。下の枠にご記入下さい。

運営上の課題の解決に必要なことについて記述していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、回答した団体の活動分野を示しています。

※回答は、問1の活動分野の回答順となっています。

（1）高齢者に関する活動を行う団体

- コロナが収束しないことには、本来の活動ができない。（高齢者）
- ・地域高齢者会との連携。
 - ・飯能市社会福祉協議会がどのような活動をしているかのPR、及び高齢者にどのようなサービス提供ができるか等を知らせる機会を私達の活動時を利用してほしい。（高齢者）
- まだコロナのアップ・ダウンがあったり、これからインフルエンザなど落ち着いてませんので、自然の成り行きにまかせます。（高齢者）
- 企業に65歳まで雇用が確保され、70歳まで同じ会社に働ける場合があり、地域のためのボランティア活動に参加する方は少ない。活動参加へPRが必要である。（高齢者）
- 定期的（半年程度）に社協発、自治会経由のPRが必要。（高齢者）
- たくさんの方が集まったその中に入るのが苦手という方に対しての行動と、高齢者が多い地域も重なり、足腰の弱く、外出が難しくなってきた現状を考えると、サロンにおいても筋トレ（むまワクワク体操）等の取組を！！（改善案）（高齢者）
- お仕事をされている方が、平日の昼間に時間が取れず、ボランティアが集まらない。（高齢者）
- 今、社務所を利用していますが、（結構古いので）会場がほしい。自治会館ありません。（高齢者）
- 1年位のため、まだよくわかりません。（高齢者）
- 地域で必要とされている情報が知りたい（どんな事を支援してほしいか等の具体的な内容）。（高齢者）
- 安心・安全のサロンを実施するために・・・市内のコロナ感染状況についての情報、日々変化するコロナウイルスに対し専門的な情報と、感染防止対策の具体的方法が知りたいです。（高齢者）
- コロナ禍により活動が中止しているので、再開するには相当な準備が必要。名簿等の作成などは、できないのでしてほしい（個人情報のため）。（高齢者）
- メンバーの高齢化により中核となる人がいないため、若人方の参加で活動を続けてほしい。（高齢者）
- ・主な訪問先である高齢者施設がコロナ禍で活動ができなかったが、今後は若い方がたとの交流や、活動の共有等できる機会を見出したいと思います。
 - ・問5の⑦項の充実ができる様に思います。（高齢者）
- 解決はできないので、活動を閉じる方向で考えている。（高齢者）
- 子育て中の人、働いている人、定年すぎた人、どうしてもそれぞれの年代の事について知るの難しいと思いますので、何かを通して説明とかお話しできるといいと思います。（高齢者）
- 活動（公演）を見てもらう機会を増やせると、見た人が興味をもって来て活動メンバーになってくれたらいい。子ども向けの人形や衣装などを作れるとより一層楽しくなるが、予算がない。謝礼はもらわないので、公的な予算がほしい。（高齢者、子ども）
- 高齢者が地域を支えている現状である。若い夫婦の世帯を地域で積極的に活動できるようにする方法は？（高齢者、子ども）
- 公共の紙面やSNSに上げてPRしてもらう（高齢者、子ども）
- 新しい方々が参加するきっかけとして気軽に話せる場が必要だと思います。そのためには新しい方の考えを否定することのないように現活動者の意識改革も必要とも思います。（高齢者、子ども）
- 今までの活動の継続から、各世代の活動の創造へ向かう。（高齢者、子ども、まちづくり、障害者（児））

- 世代ごとの考え方の違いや、生活、仕事などによっていわゆる世代間でギャップがあり、福祉に対する向き合い方がまったく異なる。一緒に活動できないし、話もできない。若い世代への活動の移行が問題。(高齢者、子ども、まちづくり、文化・芸能)
- ひとり住居の方へのアピールが「個人情報」のしぼりでなかなかできない。(高齢者、子ども、障害者(児))
- 通訳派遣制度がなく、講習会も入門・基礎だけで終了。また、市の手話言語条例がないため、手話に対する市民の認識も低いように思います。(高齢者、子ども、障害者(児))
- 情宣活動(高齢者、子ども、障害者(児)、文化・芸能)
- コロナの影響で長い間休止していましたが、やっと活動再開し、これから活性化していきます。(高齢者、子ども、文化・芸能)
- 他の団体との情報共有、助成金(高齢者、子ども、その他)
- それがわからないので、上記のような状況となっている。10年以上、当初のメンバーで運営しており、一度解散して人員の刷新が必要なのかもしれない。(高齢者、まちづくり)
- 活動再開後、後継者の選出を進める。活動内容が限られたスペースで、会話・軽食を中心としたものを実施しており、再開の判断が難しい。高齢者内での感染は絶対に避けたい。(高齢者、まちづくり)
- 若い人が関心を抱くような講演・講座(高齢者、まちづくり)
- PR 活動情宣活動(高齢者、まちづくり)
- 退職を迎えた方に対して、退職後のボランティア活動について、積極的に参加するような、道筋を用意してほしいです。(高齢者、まちづくり、文化・芸能)
- 新しいメンバーを増やすための方法。活動を始めて13年目になったが、高齢化でこの先のことを考えると、活動を維持していく事が不安である。(高齢者、まちづくり、文化・芸能)
- 開始当初のボランティアで加わったメンバーが役員を継続しており、自治会等から交替要員が出てこない。強力な支援が必要。
コロナに依る休会、再会を数回繰り返しており、その都度の労力が大きすぎる。全面再開にふみ切る。(高齢者、まちづくり、その他)

○飯能市からの助成金のみでは、運営が困難であり、特別会員として当該活動区域内の事業所、個人に金銭的な支援をいただいている。

活動の大半が車輜を使用しての通院付添、買物などの付添業務です。車輜は活動に従事するサポーターの車両の加入している保険を事故があった場合使用できることを条件として、業務を行っています。サポーターの好意にゆだねざるを得ない状態です。

保険に加入していますが、保険対象外の事故があったことを社協よりお話があったことから対応として当団体として少ない金額ですが貯えていかざるをえないと考え、実施しているが、不安を抱えている。(高齢者、障害者(児))

○広報紙等で、飯能市全域に広報してほしいです。(高齢者、障害者(児))

○スタッフ確保のため、公民館や回覧板で照会していますが、反応がありません。ハローワークほどの募集にはあたらず、広報以外に考えられません。(高齢者、障害者(児))

○一部の人が中心に行っている。特に自治会との連携が取れていない。(ふくしの森の理解がない)(高齢者、文化・芸能)

○私達の会は、活動場所の確保にとっても苦労しています。会員はやる気があるのに活動場所が見つからないのがとてもつらい。(高齢者、文化・芸能)

(2) 上記以外で子どもに関する活動を行う団体

○山での生活の良さ、子育てにもゆったりとした良さが奥の地域にもあることをアピールする必要があるのかもしれない。(子ども)

○PRをした方がよいと思う。(子ども)

○活動をたくさんの人に知ってもらい、一緒に活動してもらえる人を増やす。(子ども)

○自宅を開放して活動する団体への助成制度を明確にしてほしい。水光熱費の基本料金でさえも、マイナスになってしまう。(子ども)

○新規メンバーは活動1年ということもあるので急いではいません。SNS以外の周知方法を検索中。(子ども)

○活動を知ってもらうための講習会を続けていく。(子ども、障害者(児)、その他)

○中学生を対象とした活動を行っていますが、コロナ禍で全て中止しています。ウィズコロナの

活動方針を決めないといけないと考えています。(子ども、文化・芸能)

(3) その他の団体

- 活動のPRが充分ではないので、新規メンバーの確保が難しく、会員が高齢になり退会が増加している。新規メンバーが中核となり委員会の継続につながるような方法が取れたらよい。(まちづくり、文化・芸能)
- 環境保全には草刈りのための、燃料、チップソ等消耗品の補助が必要です。(まちづくり、文化・芸能、文化・芸能)
- 市の福祉課との連携が必要(障害者(児))

- 保有資源を整理して、発信材料を蓄積する。(文化・芸能、文化・芸能)
- 誰にも参加できる活動づくり、魅力を伝えていく(国際交流)
- 個人で猫を預かっています。保護猫の頭数が多すぎて、預かっていただく方を募集しています。(その他)
- サポーター、サポートマネージャーは交換要員がいるが、事業推進の役員が不足。サポーターの増員準備はできているが、利用該当者が増えてこない。(その他)
- 私たちの集まりに一度参加してもらって、活動の内容を知ってもらうことが必要かなと思います。(活動分野不明)

4-2-4 今後の活動のために市や社協に望むこと(問7)

問7 今後とも活動していくために、市や社会福祉協議会に望む取組はありますか。(あてはまるものすべてに○)

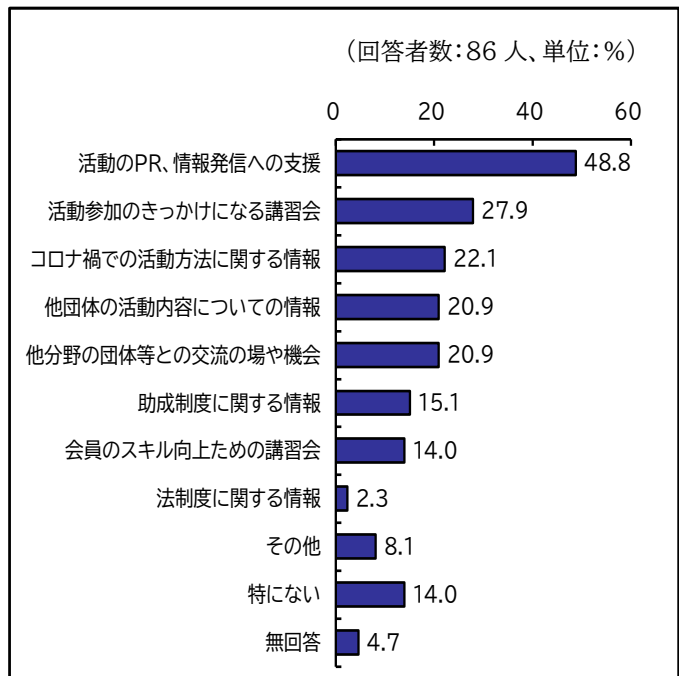
「活動のPR、情報発信への支援」が最も多い

今後の活動のために市や社協に望むことについては、「活動のPR、情報発信への支援」が48.8%で最も多く、次いで「活動参加のきっかけになる講習会」が27.9%、「コロナ禍での活動方法に関する情報」が22.1%で続いています。

表 今後の活動のために市や社協に望むこと(複数回答)

区分	人(%)
回答者数	86(100.0)
活動のPR、情報発信への支援	42(48.8)
活動参加のきっかけになる講習会	24(27.9)
コロナ禍での活動方法に関する情報	19(22.1)
他団体の活動内容についての情報	18(20.9)
他分野の団体等との交流の場や機会	18(20.9)
助成制度に関する情報	13(15.1)
会員のスキル向上のための講習会	12(14.0)
法制度に関する情報	2(2.3)
その他	7(8.1)

図 今後の活動のために市や社協に望むこと(複数回答)



区分	人(%)
特にない	12(14.0)
無回答	4(4.7)

第3節 他の組織・団体等との連携について

4-3-1 現在連携している組織・団体等（問8）

問8 現在、どの組織・団体と連携していますか。（あてはまるものすべてに○）

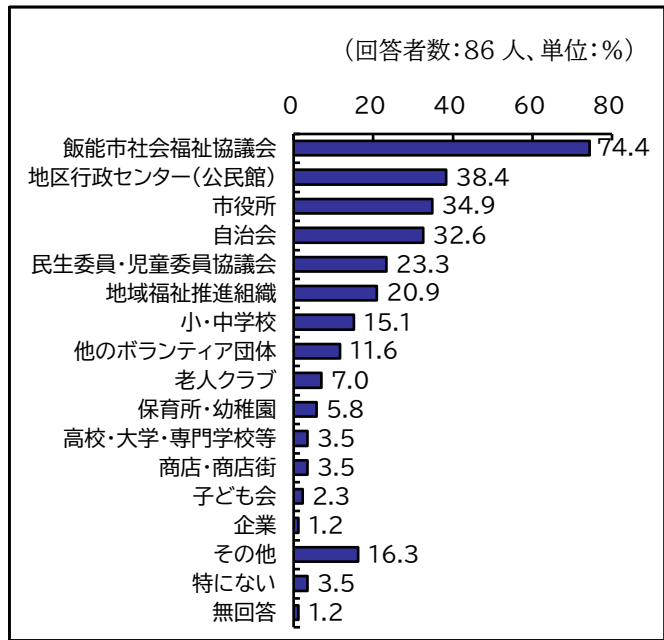
「飯能市社会福祉協議会」が74.4%

現在の連携の状況については、「飯能市社会福祉協議会」が74.4%で最も多く、次いで「地区行政センター（公民館）」が38.4%、「市役所」が34.9%が続いています。

表 現在連携している組織・団体等（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	86 (100.0)
飯能市社会福祉協議会	64 (74.4)
地区行政センター(公民館)	33 (38.4)
市役所	30 (34.9)
自治会	28 (32.6)
民生委員・児童委員協議会	20 (23.3)
地域福祉推進組織	18 (20.9)
小・中学校	13 (15.1)
他のボランティア団体	10 (11.6)
老人クラブ	6 (7.0)
保育所・幼稚園	5 (5.8)
高校・大学・専門学校等	3 (3.5)
商店・商店街	3 (3.5)
子ども会	2 (2.3)

図 現在連携している組織・団体等（複数回答）



区分	人 (%)
企業	1 (1.2)
その他	14 (16.3)
特にない	3 (3.5)
無回答	1 (1.2)

4-3-2 今後連携を深めていきたい組織・団体等（問9）

問9 今後、どの組織・団体と連携を深めていきたいと思いませんか。（あてはまるものすべてに○）

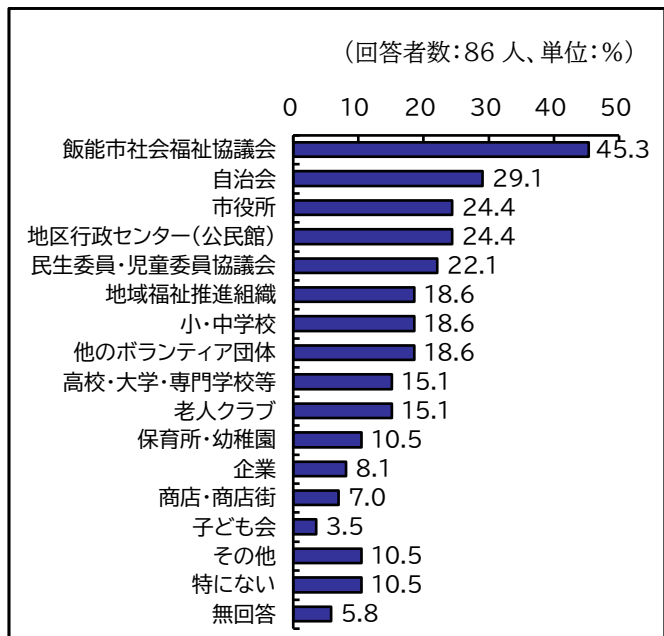
「飯能市社会福祉協議会」が45.3%

今後連携を深めていきたい組織・団体等については、「飯能市社会福祉協議会」が45.3%で最も多く、次いで「自治会」が29.1%、「市役所」が24.4%が続いています。

表 今後連携を深めていきたい組織・団体等（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	86 (100.0)
飯能市社会福祉協議会	39 (45.3)
自治会	25 (29.1)
市役所	21 (24.4)
地区行政センター(公民館)	21 (24.4)
民生委員・児童委員協議会	19 (22.1)
地域福祉推進組織	16 (18.6)

図 今後連携を深めていきたい組織・団体等（複数回答）



区分	人 (%)
小・中学校	16 (18.6)
他のボランティア団体	16 (18.6)
高校・大学・専門学校等	13 (15.1)
老人クラブ	13 (15.1)
保育所・幼稚園	9 (10.5)
企業	7 (8.1)

区分	人 (%)
商店・商店街	6 (7.0)
子ども会	3 (3.5)
その他	9 (10.5)
特になし	9 (10.5)
無回答	5 (5.8)

4-3-3 連携によって期待される効果 (問 9-1)

問 9-1 他の組織・団体等と連携することでどのようなことを期待していますか。記入例を参考に、問 9 にある連携先ごとにご記入下さい。

連携によって期待される効果について、連携先ごとに記述していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の () 内の表記は、回答した団体の活動分野を示しています。

※回答は、問 9 の回答数が多かった順となっています。

(1) 飯能市社会福祉協議会

- 各地区でのでき事、話題にしたい内容のお知らせなど。(高齢者)
- 活動費の補助。活動の PR。(高齢者)
- 情報の提供。(高齢者)
- 社協の方が、来てくれることで、日頃の日常の困りごとなどを聞いてもらうことができる。(高齢者)
- 今後中核になれる若い人が参加できる様な講座を開いてほしい。(高齢者)
- 協力メンバー等に増加につながる様なこと(高齢者)
- 活動の内容を知っていただく、また必要な講座を開催してほしい。(高齢者)
- 開催についての相談、具体的な助言。お知らせ等の回覧、費用の助成。(高齢者)
- 他組織や他団体との交流の機会があると課題の解決のヒントが得られる。(高齢者、子ども)
- メンバーを増やせるような講座を開催してほしい。(高齢者、子ども、障害者(児))
- 助成、情報提供。(高齢者、まちづくり)
- 現行の助成をお願いしたい。(高齢者、まちづくり)
- メンバーを増やせるような講座の開催(高齢者、まちづくり、文化・芸能)
- 社協…情報、活動上の支援をいただいている。(高齢者、障害者(児))
- 社協との連携で、イベントなどをできるとよい。

(子ども)

- 活動を PR してもらおう。(子ども)
- 障害者の方へ活動の PR をしてほしい。(障害者(児))
- エクセル講座やパソコン技術に関する講座の開催(国際交流)

(2) 自治会

- 活動 PR し人材の確保。(高齢者)
- 情報の提供。(高齢者)
- 生活において身近な存在なので、主に高齢者お相手のボランティアとして知る機会があればと思います。(高齢者)
- 活動者の相互補完(高齢者)
- 自治会のメンバーが高齢化していることからどう高齢化に対応していくかの講座の開催。(高齢者、子ども)
- 担い手の参加。利用者。(高齢者、まちづくり)
- 再開時の助成をお願いしたい。(高齢者、まちづくり)
- 役員・サポーターのメンバー選出。会員の募集。を、自治会が動いて推進する。(高齢者、まちづくり、その他)
- 自治会(高齢者、障害者(児))
- 自治会や地域住民の方々に存在を認めていただき、できれば、自治会費からの助成金などを頂くことはできないか。(子ども)
- 活動 PR(子ども)

- 各自治会から代表者を選出して頂き、活動に参加していただきたい。地域福祉には直接関わる活動ができていませんが、遊歩道の整備やヒガンバナの開花などのため、下草刈りを行っています。(まちづくり、文化・芸能)
- 地域福祉推進組織として、ボランティアだけに頼るのではなく、自治会として活動を理解して、役員を立てる。(その他)

(3) 市役所

- 活動費の補助。活動のPR。(高齢者)
- 情報の提供。(高齢者)
- 活動の内容を知っていただく、また必要な講座を開催してほしい。(高齢者)
- 活動を始めた時の数年間は、無理解だけでなく、足を引っ張られることが度々あった。ボランティア活動ではあっても、市職員よりはるかに知識も技術も上の人がいることを市役所は理解しなければならない。きちんと評価すべきです。地域活動の促進を住民にだけ求めるのではなく、市役所がその活動の評価を正しくしないと物事は進まない。(高齢者)
- 開催についての相談、具体的な助言。お知らせ等の回覧、費用の助成。(高齢者)
- 他組織や他団体との交流の機会があると課題の解決のヒントが得られる。(高齢者、子ども)
- 助成、情報提供。(高齢者、まちづくり)
- 市役所…助成金の増額。(高齢者、障害者(児))
- 子ども福祉課との連携。(子ども)
- 障害者の方へ活動のPRをしてほしい。(障害者(児))
- 活動費の補助。活動のPR。(高齢者)
- 行政センターを通じて、地域のボランティア団体との交流。(高齢者)
- 情報の提供。(高齢者)
- 活動の内容を知っていただく、また必要な講座を開催してほしい。(高齢者)

(4) 地区行政センター(公民館)

- 開催についての相談、具体的な助言。お知らせ等の回覧、費用の助成。(高齢者)
- 運営支援。(高齢者、まちづくり)
- 行政センター…印刷などの協力をいただいている。(高齢者、障害者(児))
- 活動をPRしてもらおう。(子ども)

- 活動PR(子ども)

(5) 民生委員・児童委員協議会

- 独居高齢者等の見守り及び掃除・草取り等。(高齢者)
- 情報の提供。(高齢者)
- 身近な困りごとなどを、解決できそう。(高齢者)
- すでに高齢者と接している。また、私たちの団体より若い方が多いので、参加して頂けたらと思っています。(高齢者)
- 生活において身近な存在なので、主に高齢者お相手のボランティアとして知る機会があればと思います。(高齢者)
- 企画、運営。(高齢者)
- 外出をあまりされない人へのアピール(高齢者、子ども、障害者(児))
- 情報提供。(高齢者、まちづくり)
- 活動の担い手となっていただいている。今後も続けていただきたい。(子ども)
- 民生委員さんから猫を増やしている方の情報がほしい。(その他)
- すでに高齢者と接している。また、私たちの団体より若い方が多いので、参加して頂けたらと思っています。(その他)

(6) 地域福祉推進組織

- 情報の提供。(高齢者)
- 活動の内容を知っていただく、また必要な講座を開催してほしい。(高齢者)
- 聴覚障害者の協力を得ながら聾者を招いたイベントなども開催したいと思います。市のサポートもお願いしたいです。(高齢者、子ども、障害者(児))
- 健康ステーション事業の資機材を活用したゲームの取り入れ。(高齢者、まちづくり)
- 活動量の面で、サポートしていただきたい。(子ども)

(7) 小・中学校

- 情報の提供。(高齢者)
- 子どもたちの笑顔と参加者の笑顔、これが一番(高齢者、子ども、その他)
- 同上(子ども)
- 現在名栗小と共催の絵画教室を開催しようと

しているが、SDGs ワークショップもやっていく予定。私たちを活用してほしい。(国際交流)

- 子どもたちが少ない地域なので、学校の事とか私たちと一緒に、なごやかな時間が過ごせればと思います。(無回答)

(8) 他のボランティア団体

- マンネリ化にならないためにも交流し発展したい。(高齢者)
- 行政センターを通じて、地域のボランティア団体との交流。(高齢者)
- ボランティア団体。会の内容を明るく、そして楽しみな内容となるように手助けをしていたければ嬉しいです。(高齢者)
- 環境維持団体が近くの公園池(調整池)で活動しており、この地内で散策を中心とした活動を入れたい。(高齢者、まちづくり)
- 一部の団体ではメンバーも不足していると思うので、連携する事により、他の団体からの応援により、困っている人を助ける事ができる。(高齢者、まちづくり)
- 交流(子ども)

(9) 高校・大学・専門学校等

- 情報の提供。(高齢者)
- 大学生の興味のあるボランティアの方達が、参加してくれることで、元気が出そう。(高齢者)
- 市内や市外の高校生や大学生との交流。(高齢者、子ども)
- 後継者を育てる。小さい時から地域で行われている活動を知ってもらい、後に続けていける。(高齢者、子ども、障害者(児))
- 後継者を育てる。小さい時から地域で行われている活動を知ってもらい、後に続けていける。(高齢者、子ども、障害者(児))
- 学生の子どものに興味のある方が、遊びをしてくれたらよいです。(子ども)
- 子育てに興味ある学生との交流。(子ども)
- 以前も大学サークルとの連携がありましたが、ここ数年なくなってしまいました。新たな形で、参加を進めていきたいと考えています。(子ども、文化・芸能)
- 身近な国際協力に参加してほしい。スペイン語の学生の参加、学園祭やサークルとしてSDGsの実践としての活動参加など。(国際交流)

(10) 老人クラブ

- シニア会等の相互交流。(高齢者)
- 外出を余りされない人へのアピール。(高齢者、子ども、障害者(児))
- 担い手の参加。利用者。(高齢者、まちづくり)
- 現会員には老人クラブの会員が数名含まれており、老人クラブの活動と連携した新しい分野を作りたい。(高齢者、まちづくり)
- まちなか歌声健康教室。合唱団は以前より高齢者の介護予防事業として活動しています。老人クラブ等で歌をうたう楽しさを知ってほしいです。コロナ禍でなかなか難しいと思いますが、換気、人数等、感染対策により可能です。(高齢者、障害者(児))

(11) 保育所・幼稚園

- 情報の提供。(高齢者)
- 保育所の子どもたちが、遊びに来れるとよいです。(コロナ前はできていました。)(子ども)
- 活動をPRしてもらおう。(子ども)
- 遊びの提供。活動日のお誘い。(子ども)

(12) 企業

- 企業(高齢者、障害者(児))
- 化粧品会社、女性向けの企業であるため、出産、子育てに何かのお役に立ちたいと思う。(子ども)
- 社会貢献として私たちの活動に関心を持ち、参加してほしい。(国際交流)

(13) 商店・商店街

- 商店・商店街との交流(高齢者、子ども)

(14) その他・不明

- すでに高齢者と接している。また、私たちの団体より若い方が多いので、参加して頂けたらと思っています。(高齢者)
- イベントの担い手として参加いただきたい。(高齢者)
- 自治会と協議し、地域の高齢者と子ども及びその父母との交流を思案中です。コロナ禍のため、なかなか難しくもありますが、コロナが落ち着いた際には、進めていきたいです。実現に向けて企画等一緒に検討していけたらと思います。

第4章 ボランティア団体向けアンケート

(高齢者)

- 吾野は自治会長の参加が少ないと思いますので、自分の住んでいる所のイベントに参加をうながしてほしいです。(高齢者)
- 連携するのは難しい。ほとんどお楽しみ会、誕生日会などで団体、幼稚園からの依頼を受ける事しかしていないのです。ただ、社協の「児童センター」が活動の拠点となっているため、年数回の公演や、行事への協力をしています。このコロナ禍で依頼が減った。(復活を望む) しかない！(高齢者、子ども)
- 発足して1年未満のグループです。知名度がないと感じます。ただ少しですが個人で(高齢者、子ども)
- 困窮者へのお弁当配布やパントリー、子ども食堂参加の周知をしてほしい。(高齢者、子ども)
- 地域活動のヒントを得るために新しい居住者の声を聞く機会を設ける。(高齢者、子ども)
- メンバー不足を補う施策を！(高齢者、子ども、障害者(児)、文化・芸能)
- 活動の周知 協力(高齢者、子ども、その他)
- その他…特別会員として金銭的支援をいただいている。(高齢者、障害者(児))
- 包括支援センター…情報提供など。(高齢者、障害者(児))
- スタッフとして参加できる人の獲得(高齢者、障害者(児))
- 高齢になってしまい残念です。何十年も施設へ出かけておりましたが仕方がないと思いつつ、数名で続けております。(高齢者、文化・芸能)
- 飯能市地域福祉の内容が高度すぎる。もっと、

関心を持つ様な内容にしてほしい。現状のものは義務化され、形だけができている。専門の先生方の意見が強く出ている。もっと、人と人とのつきあいを重んじる内容にする。(高齢者、文化・芸能)

- 他市のボランティア活動内容等、参考にしながら、活動の幅を広げてみたい。交流することで、組織内のモチベーションを高めたい。(子ども、障害者(児)、その他)
- 活動のための補助金がほしい。(まちづくり、文化・芸能、文化・芸能)
- 趣味の団体であるので、特にない(文化・芸能)
- 事業や知名度の向上。担い手の育成。資金の提供。(文化・芸能、文化・芸能)
- 連携することで、事業の幅を広げたい。(国際交流)
- 利用者は地域包括支援センターが相談を受け、必要性を認めた方の支援内容を決定し、掃除、洗濯、ごみ出しのみ委託に来る。利用したいニーズは高いが、センターに情報が集まっていないように感ずる。当方で利用者発掘をできるようにしたい。(その他)
- すでに高齢者と接している。また、私たちの団体より若い方が多いので、参加して頂けたらと思っています。(その他)
- コロナ前のように会場を利用できるようにしてほしい。(その他)
- 古切手整理ボランティアをしています。他市の福祉センターでも同じ活動をしている所がありますので、交流・意見交換などしたいです。(その他)

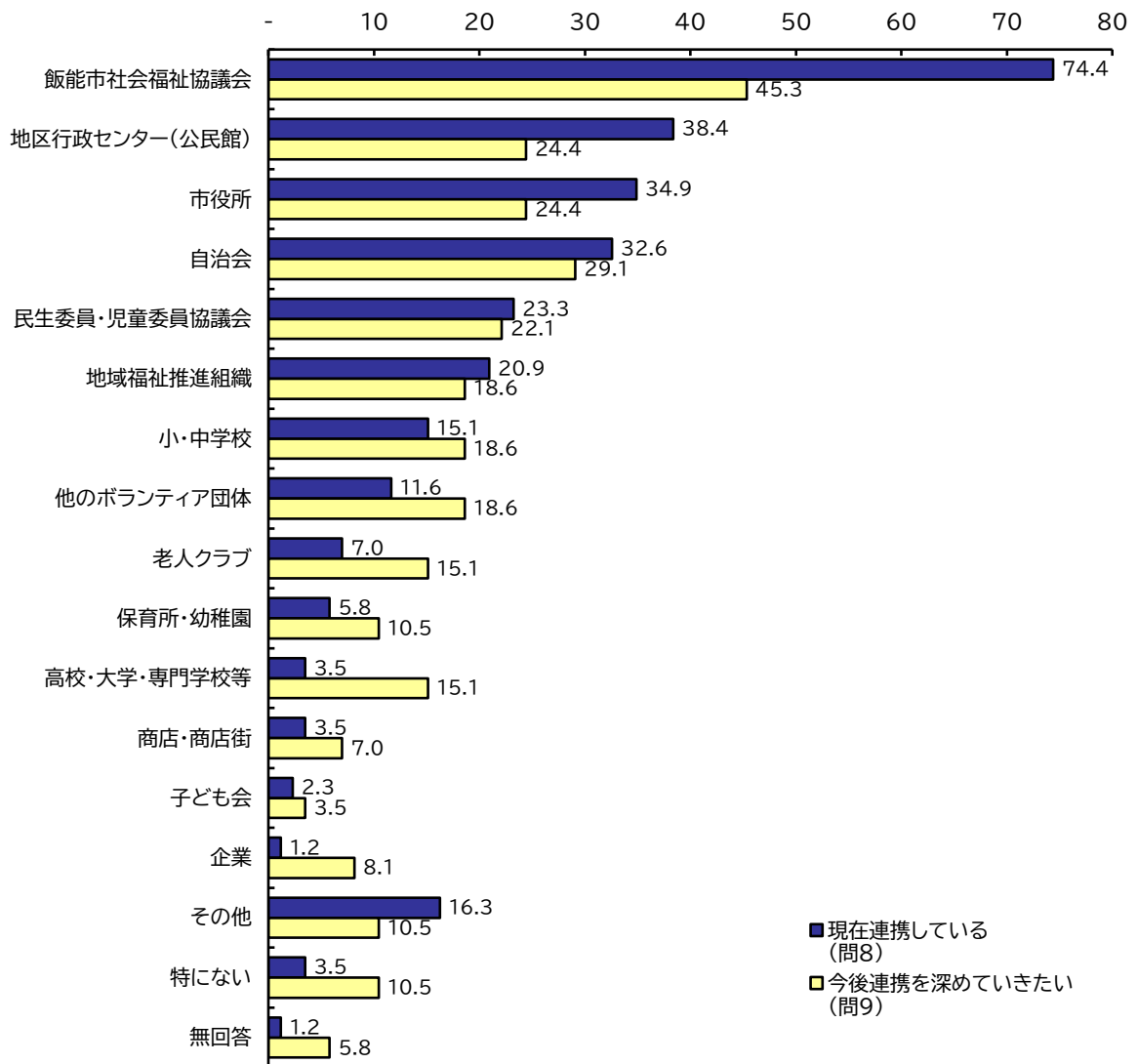
〔参考〕現在連携している組織・団体等（問8）と今後連携を深めていきたい組織・団体等（問9）の比較

※問8と問9を基に作成

「小・中学校」や「他のボランティア団体」や「老人クラブ」、「保育所・幼稚園」、「高校・大学・専門学校等」は、「今後連携を深めたい」の割合が高い

現在連携している組織・団体等（問8）と今後連携を深めていきたい組織・団体等（問9）を比較したところ、「小・中学校」や「他のボランティア団体」や「老人クラブ」、「保育所・幼稚園」、「高校・大学・専門学校等」では、「現在連携している」に比べて「今後連携を深めたい」の割合が高くなっています。

図 現在連携している組織・団体等（問8）と今後連携を深めていきたい組織・団体等（問9）の比較
（複数回答）
（回答者数：86人、単位：％）



第4節 共に支え合う地域づくりについて

4-4-1 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度(問10)

問10 あなたは、「第3次はんのうふくしの森プラン」(平成31年度～令和5年度)をご存じですか。(1つだけに○)

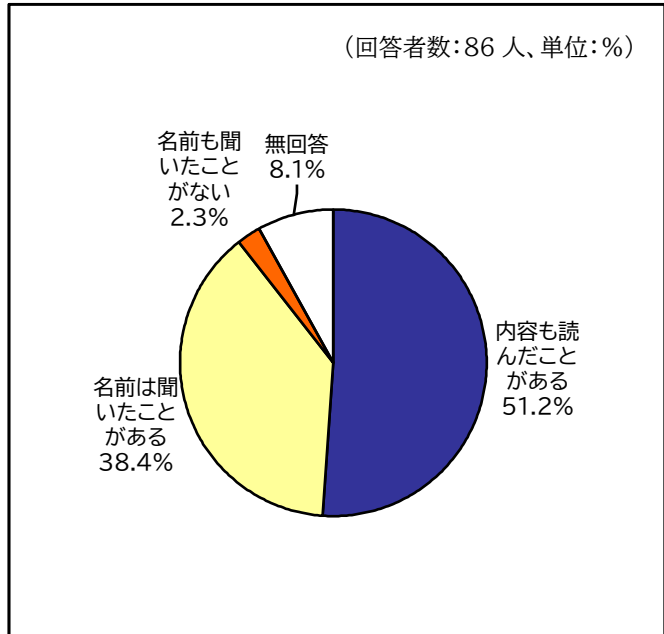
“知っている”が89.6%

「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度については、「内容も読んだことがある」が51.2%、「名前は聞いたことがある」が38.4%で、これらを合わせると89.6%が“知っている”と回答しています。

表 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度

区分	人 (%)
回答者数	86 (100.0)
内容も読んだことがある	44 (51.2)
名前は聞いたことがある	33 (38.4)
名前も聞いたことがない	2 (2.3)
無回答	7 (8.1)

図 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度



4-4-2 市や社協が力を入れるべき取組（問11）

問11 共に支え合う地域づくりのために、市や社会福祉協議会はどのような取組に力を入れるとよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「ボランティアなど地域における福祉活動の促進に関すること」及び「高齢者福祉に関すること」が最も多い

市や社協が力を入れるべき取組については、「ボランティアなど地域における福祉活動の促進に関すること」及び「高齢者福祉に関すること」がともに46.5%で最も多く、次いで「移動や交通環境に関すること」が43.0%で続いています。

図 市や社協が力を入れるべき取組（複数回答）

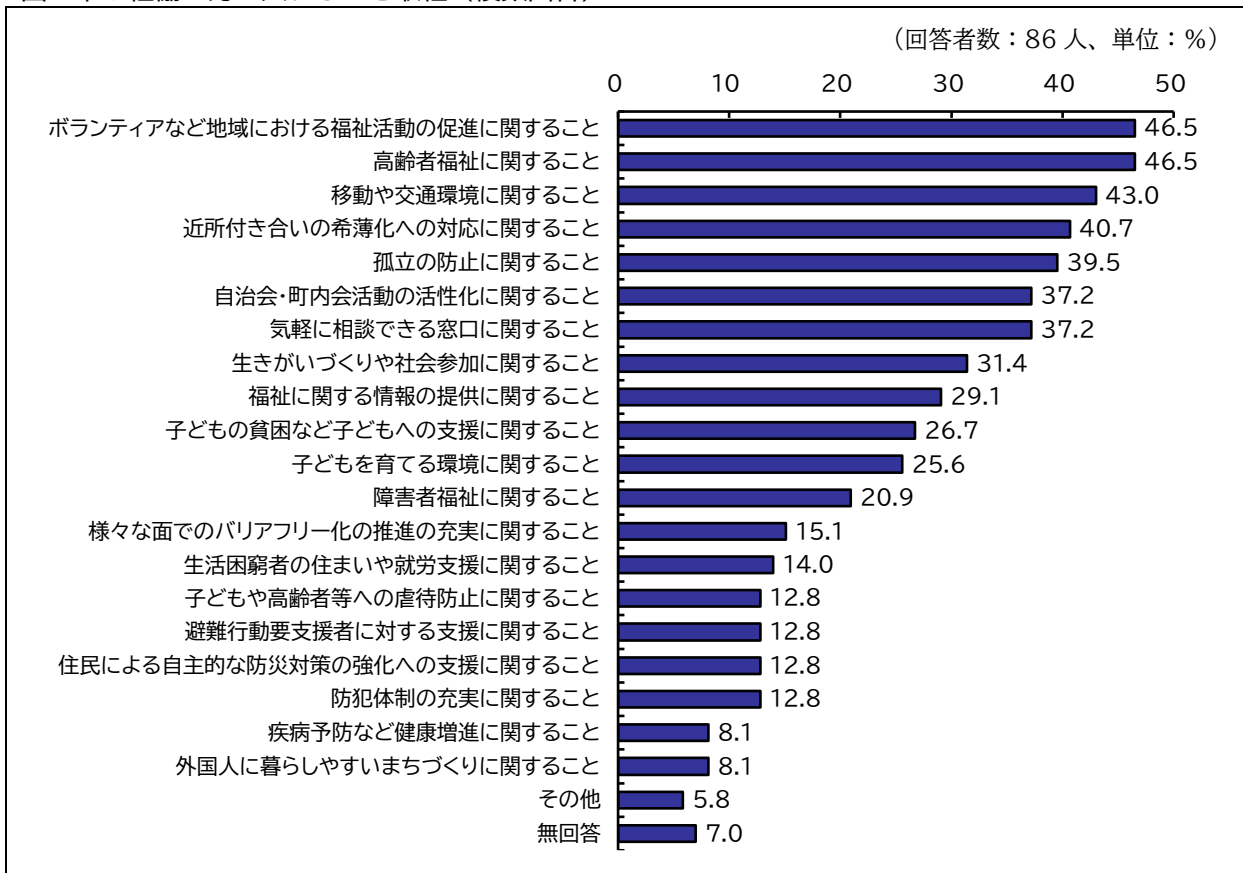


表 市や社協が力を入れるべき取組（複数回答）

区分	人 (%)	区分	人 (%)
回答者数	86 (100.0)	障害者福祉に関すること	18 (20.9)
ボランティアなど地域における福祉活動の促進に関すること	40 (46.5)	様々な面でのバリアフリー化の推進の充実に関すること	13 (15.1)
高齢者福祉に関すること	40 (46.5)	生活困窮者の住まいや就労支援に関すること	12 (14.0)
移動や交通環境に関すること	37 (43.0)	子どもや高齢者等への虐待防止に関すること	11 (12.8)
近所付き合いの希薄化への対応に関すること	35 (40.7)	避難行動要支援者に対する支援に関すること	11 (12.8)
孤立の防止に関すること	34 (39.5)	住民による自主的な防災対策の強化への支援に関すること	11 (12.8)
自治会・町内会活動の活性化に関すること	32 (37.2)	防犯体制の充実に関すること	11 (12.8)
気軽に相談できる窓口に関すること	32 (37.2)	疾病予防など健康増進に関すること	7 (8.1)
生きがいづくりや社会参加に関すること	27 (31.4)	外国人に暮らしやすいまちづくりに関すること	7 (8.1)
福祉に関する情報の提供に関すること	25 (29.1)	その他	5 (5.8)
子どもの貧困など子どもへの支援に関すること	23 (26.7)	無回答	6 (7.0)
子どもを育てる環境に関すること	22 (25.6)		

4-4-3 共に支え合う地域づくりのために必要なこと(問12)

問12 その他、地域で暮らす人々が共に支え合う地域にしていくために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

共に支え合う地域づくりのために必要なことについて記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の()内の表記は、回答した団体の活動分野を示しています。

- 組織や団体のあることを知らない人が多いと思われる。沢山の人が興味を持って知ってくれるといいと思う。(高齢者)
- 65歳以上になると、仕事を中心とした生活から家庭及び地域を中心とした生活になる方が増加することが見込まれる。これらの方々には有償のたすけあい組織への参加を促し、地域福祉活動への参加を促進させる。(高齢者)
- 閉じこもりがちの方々をひっぱり出すこと。同時に外に出るリスクを十分に軽減してあげること。交流の場はあるので、あえて仕組みを不完全なものにして、個々の参加を促す仕組みが必要なのではないか。(高齢者)
- 地域に直接関係する事ではないのですが、全国的にみて「ヤングケアラー」の家庭を学校へ行きやすいように！政治はもっと目をやるべきで、そして支援をしてあげてください。制度作りが必要だと思います。(高齢者)
- 個人のお店がなくなり、地域に活性化がなくなり、近所の人との出会いが少なくなりました。山間地域の支援にも、力を入れてほしいと思います。(行政センターや福祉センターにも、高齢で行けないでいる方もいると思います。)(高齢者)
- あいさつから始まると思います。声掛けから顔見知りになり、小さな支援へと広がっていったらと思います。(高齢者)
- 近所の方とのコミュニケーションが大切だと思います。(高齢者)
- ・高齢者だけの話になりがちですが、子ども、育てる親、介護する家族、障害の方、外国籍またさまざまな世代、境遇の方々の課題など、地域での支え合い認識が必要。
 - ・まちづくりのイベント、地域の問題、活動、思いなど、住民の声を集めていく。
 - ・地域について、思っている事、イベント等を感じたこと等、各家族全員アンケートを集めていく。(子ども、大人、高齢者)(高齢者)
- 顔を合わせる機会があまりない現代、また、それを好まない人が多い今、最低限必要なのは、防災訓練等で集まる事も知り合いになるチャンスになるのでは？そこから始まる人間関係も一つかなと思います。自治会に加入しない人も増えている今、今後、災害がますます予想されますので、「災害」をテーマに皆が、安心して、また、支え合う人間としての優しさを引き出せる場にもなるのではと感じます。)(高齢者)
- 住民が気楽に行ける拠点があればいいのではないか。しかしコロナ禍以来に行われている規制のために、行けるところがなくなり、孤立している人が多くなった。住民のためになる規制だったのでしょうが、それが本当に住民にとっていい方法だったのだろうか。「しかし」を無くして総括しないと同じ失敗を何度でもやりかねない。(高齢者)
- 地域で暮らす人々が互いに感心を持つこと。小さなことでも変化に気づくこと。(高齢者)
- 高齢者のお出かけ支援、高齢者のごみ出し支援(高齢者)
- 社協が強いリーダーシップをとり各地域のボランティアを引っ張っていく、強い力が必要です。現在はそれが一番の課題！地域のボランティアまかせにしない。(高齢者、子ども)
- 支え合う事の難しさも感じます。良かれとってする事が、相手に伝わらない時もあります。月並みですが、日頃から信頼関係を築いておく事が大切なのですか？と考えます。日ごろより大変お世話になっております。今後もよろしくお願い致します。(高齢者、子ども)
- 第3次「はんのう福祉の森プラン」を一般市民に広く知らせることが大切である。(高齢者、子ども)
- 地域で暮らす人々を支えていくためには地域の集いの場が必要だと思っていました。私達の地域は行政センターは日中空きがなく、また気軽に使用できる場がありませんでした。そのた

- め仲間の空き店舗を借りて集いの場として活動しています。これは埼玉県の地域包括ケアシステムのひとつの姿だと思っていますが、現在、飯能市では空き家の福祉活用についての助成制度がありません。今後、空き家の福祉活用のニーズは増加すると思われるだけに早急に制度化を望みます。(高齢者、子ども)
- 「生きづらさ」「生き苦しさ」を子どもから高齢者まで多くの人を感じている。交流し、表明し、知り合い、考えあうことが大切。その機会・場を設けたい。(高齢者、子ども、まちづくり、障害者(児))
 - 「個人情報」はある程度開示されないと支えることはできない。「自由」には「義務」が伴うと同様だと思うのだが、この法律の正しい使い方(良い使い方)を探してほしい。戦前、戦中、戦後の頃のご近所さんが理想だが…。(高齢者、子ども、障害者(児))
 - 毎日の生活の中で、近所の方とどう付き合うか、一番大切なことと思っています。(高齢者、子ども、その他)
 - 行政の介入 ボランティア団体の活動の強化(高齢者、子ども、その他)
 - 向こう10軒(回り10軒)近所付き合い支え合い。(高齢者、まちづくり)
 - 地域内には、自治会、自主防災会、環境維持団体、地域福祉団体などの活動が比較的前向きに進められている。しかし、これらの活動に全く参加しない孤立した生活が続ける家庭も多い。集会所等を利用し、常にオープンな場を用意し、散歩の時に寄って休める、おしゃべりができる、お茶が飲める場を作れないか?(常時開いていることが大事であり、人的支援がほしいと考える)(高齢者、まちづくり)
 - 参加するための輸送組織の立ち上げ(高齢者、まちづくり)
 - 高齢化が進むと、行政、各福祉団体だけでは対応ができないと思う。ご近所さんで、お互いに助け合う事の大事さを、行政の指導で行う事が必要と思う。(高齢者、まちづくり)
 - あまり個人情報にこだわり過ぎると、困窮者への理解が難しくなる。(高齢者、まちづくり、文化・芸能)
 - いつでも寄って休める、おしゃべりできる、お茶が飲める場をつくり、個人でも寄れるようにすることで、接点を創り出す。趣味の披露を行える様にし、入りやすい場とする。(高齢者、まちづくり、その他)
 - ①たすけあい事業を行っている団体相互の連携、情報交換、困っていることなど話し合える場がほしい。②上記の場に、市役所関係課の職員も参加し、対処していただくとありがたい。(高齢者、障害者(児))
 - 昔の様子にご近所で余り話もせず時には挨拶もしない。顔を見たら挨拶はしてもよいと思う。子どもたちに声がけしても返事が返ってこない方が多い。(高齢者、障害者(児))
 - 小さなコミュニティが必要と考えます。地域の班単位で週1回、半日位なら自宅を開放できる人を募集して、そこで認知症や食事等の講座を開く。その後お茶会、座談会月一回単位でも支え合う地域にしていく道ができると思います。(高齢者、障害者(児))
 - 施設へのボランティアで、頼まれた所へ行って来て、楽しくやってこられたことが満足でした。結果は80代90代となってしまう、自分の身を守ることすら大変な時代になり残念です。仕方ないことですが、残念です。しかし、灯りが消える迄、リーダーとして頑張ります。今後もよろしくお願いします。47年間休まず続けられている事さまざまに感謝いたします。出会う人たちとの交流が大切と感じます。明るく、楽しく、美しくをモットーに。(高齢者、文化・芸能)
 - 山間地域では話をする(集まる)場所の設備が悪い。夏のエアコン等を入れてほしい。場所はある。(高齢者、文化・芸能)
 - 現在、存在している茶の間の活動、他、ボランティアの活動を大切に継続できることが必要だと思います。(子ども)
 - 情報が本当に必要としている人に届いているか。届いていないとしたらどうすれば届くのか。広報の仕方?「誰に相談したらいいのかわからなかった」という悲しく寂しい発言を聞きたくないので…。本当に「一人もとり残さない社会」を実現するためには、課題は山積みですが、まずは「挨拶」。顔見知りになればそこで1つ繋がりが生まれる。少しおせっかいでも声をかける勇気を持ちたい。(子ども)
 - 自治会活動が正常に運営できること。(子ども)
 - 飯能市内でどんな団体が活動しているのかわからないので、交流を図り、士気を高めること

第4章 ボランティア団体向けアンケート

- も必要かと思います。そして、一般への発信があれば発展に繋がると思っています。(子ども)
- 色々なイベントや活動が行われていますが、参加する方は、いつも同じ様な気がします。今日は○○地区の方は全員集合と、できる様な進め方はないでしょうか。(子ども、文化・芸能)
 - 地域支援活動の内容や状況を市民に知らせ、支援活動への参加者を拡大する必要があると思います。(まちづくり、文化・芸能)
 - 各地区の自治会がもっと活発に活動し、年度ごとに目標を掲げ少しずつでもよいから地域の活性化につなげてほしい。(まちづくり、文化・芸能)
 - 地域の人が常にコミュニケーションを取り合い、困った時には助け合えるか雰囲気を作る。そのためには、ボランティア活動等皆で活動することが大事です。(まちづくり、文化・芸能、文化・芸能)
 - 地域福祉推進組織が地域社会や地域住民にオープンになっていなければ、その存在意義は消滅する。例・当該組織の総会等のイベント時に、使用時間でもない時間帯を地域住民を閉め出さずに開設するのが望ましい。そのイベントにも地域住民を参加できる仕組みがほしい。(文化・芸能、文化・芸能)
 - 社協の活動は重要だと思います。誰もが気軽に参加できる円卓会議ができるとよいですね。また、商品券サービスやPayPayポイントサービスやGOTOキャンペーンなど、スマホが使える人、旅行に行ける人、お金をまとめて出せる人といった、本当に大半な人には使えない支援が多すぎる気がしています。社会の底辺で大半な思いをして声も上げられない人が助かるような支援がほしいです。(国際交流)
 - 国、自治体の福祉・介護制度に基き、支援制度が働いているが、地域で支える(ボランティア活動が主体となってくる)支援活動は特に、自治体(当会の場合、飯能市・地域福祉課、飯能市社会福祉協議会)の制度を十分に理解した上で行う必要がある。当事者間で情報共有が大切と思います。(その他)
 - お互いの特性を認め合える社会(その他)
 - とにかく、隣近所で声を掛け合うことが必要(活動分野不明)

第 5 章

福祉関係事業所向けアンケート

第1節 回答者自身の状況

5-1-1 取組の分野（問1）

問1 実施している事業や取組の分野を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

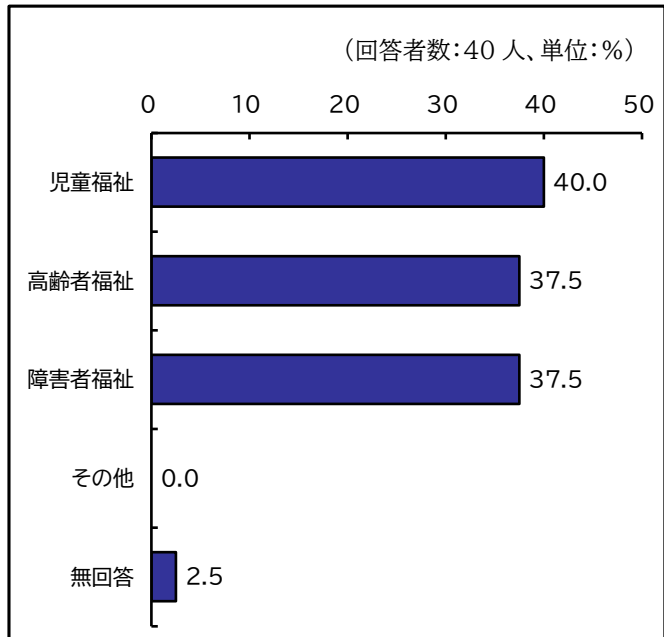
「児童福祉」が40.0%

取組の分野については、「児童福祉」が40.0%で最も多く、次いで「高齢者福祉」及び「障害者福祉」がともに37.5%で続いています。

表 取組の分野（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
児童福祉	16 (40.0)
高齢者福祉	15 (37.5)
障害者福祉	15 (37.5)
その他	0 (0.0)
無回答	1 (2.5)

図 取組の分野（複数回答）



5-1-2 運営主体（問2）

問2 運営主体を教えてください。（1つだけに○）

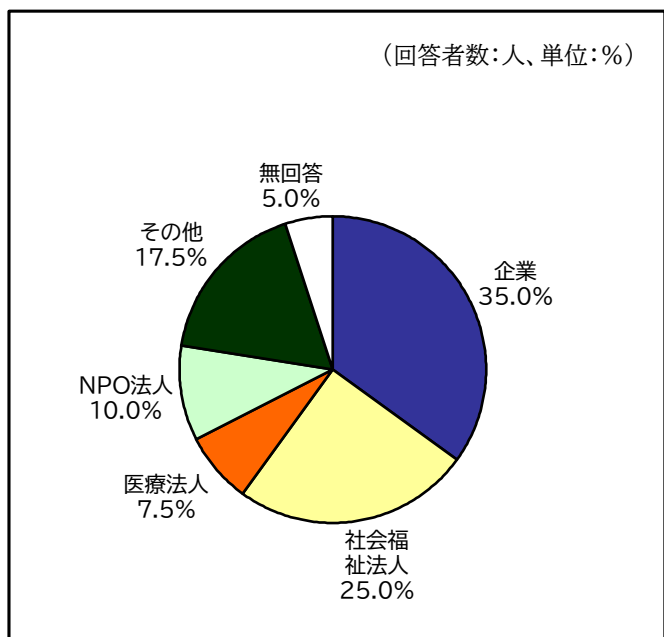
「企業」が35.0%

運営主体については、「企業」が35.0%で最も多く、次いで「社会福祉法人」が25.0%で続いています。

表 運営主体

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
企業	14 (35.0)
社会福祉法人	10 (25.0)
医療法人	3 (7.5)
NPO法人	4 (10.0)
その他	7 (17.5)
無回答	2 (5.0)

図 運営主体



5-1-3 事業所の規模（問3）

問3 事業所の規模（正規・非正規を合わせた社員数）は次のどれですか。（1つだけに○）

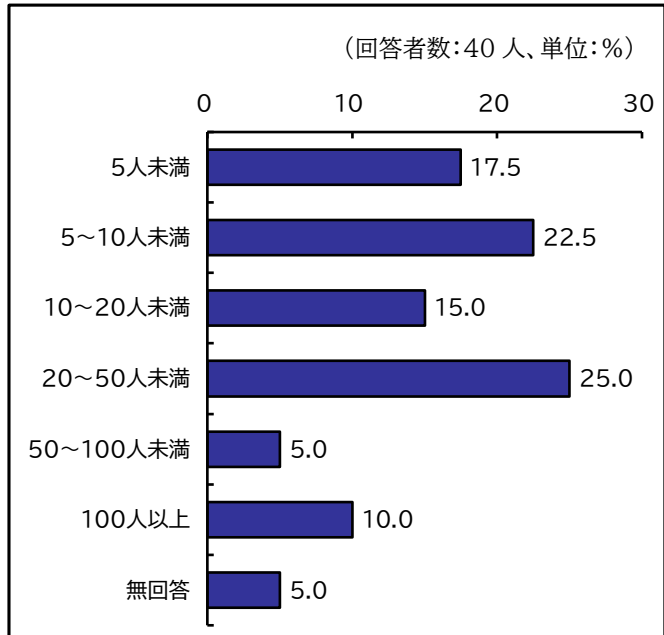
“10人未満”が40.0%

事業所の規模については、「20～50人未満」が25.0%で最も多く、次いで「5～10人未満」が22.5%が続いています。また、10人未満の事業者は合わせて40.0%となっています。

表 事業所の規模

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
5人未満	7 (17.5)
5～10人未満	9 (22.5)
10～20人未満	6 (15.0)
20～50人未満	10 (25.0)
50～100人未満	2 (5.0)
100人以上	4 (10.0)
無回答	2 (5.0)

図 事業所の規模



5-1-4 活動範囲（問4）

問4 活動範囲を教えてください。（1つだけに○）

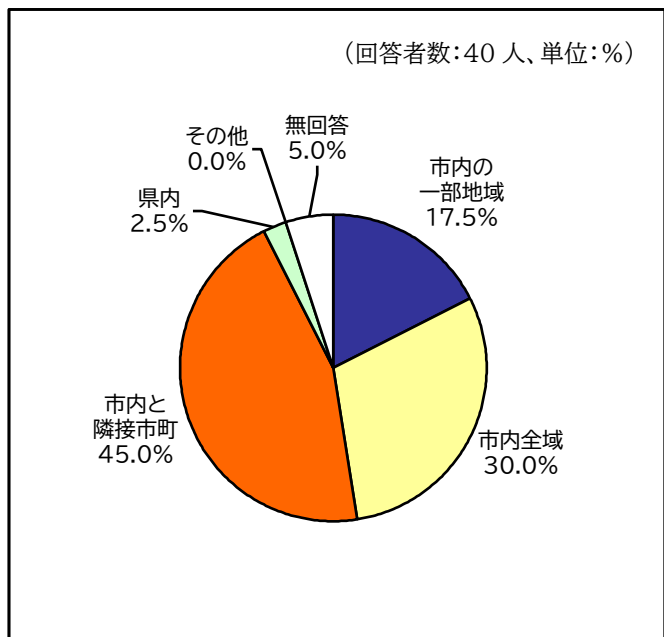
「市内と隣接市町」が最も多い

活動範囲については、「市内と隣接市町」が45.0%で最も多く、次いで「市内全域」が30.0%、「市内の一部地域」が17.5%が続いています。

表 活動範囲

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
市内の一部地域	7 (17.5)
市内全域	12 (30.0)
市内と隣接市町	18 (45.0)
県内	1 (2.5)
その他	0 (0.0)
無回答	2 (5.0)

図 活動範囲



第2節 他の組織・団体等との連携について

5-2-1 現在連携している組織・団体等（問5）

問5 現在、どの組織・団体と連携していますか。（あてはまるものすべてに○）

「市役所」が最も多い

現在連携している組織・団体等については、「市役所」が95.0%で最も多く、次いで「飯能市社会福祉協議会」が70.0%、「他の福祉関係事業所」が65.0%で続いています。

図 現在連携している組織・団体等（複数回答）

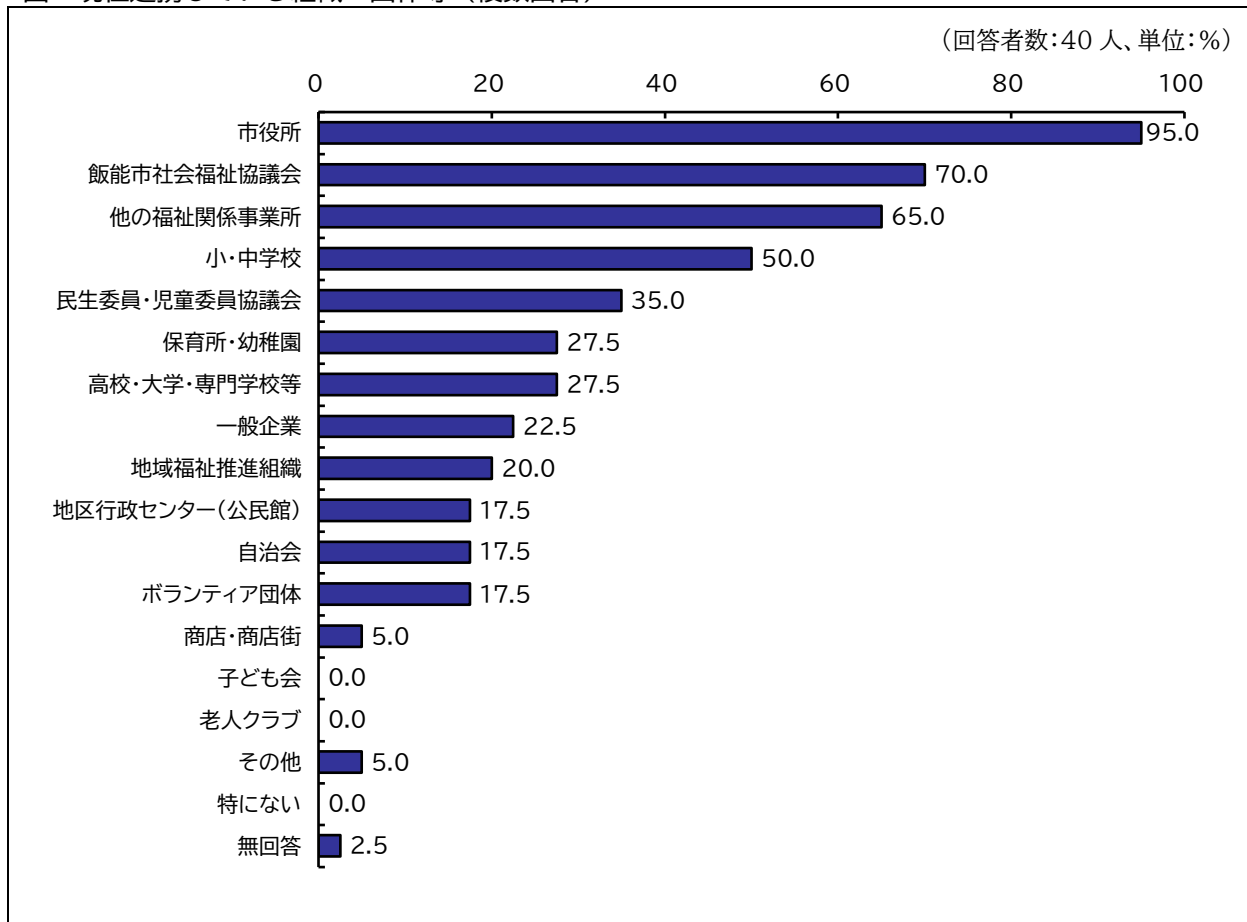


表 現在連携している組織・団体等（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
市役所	38 (95.0)
飯能市社会福祉協議会	28 (70.0)
他の福祉関係事業所	26 (65.0)
小・中学校	20 (50.0)
民生委員・児童委員協議会	14 (35.0)
保育所・幼稚園	11 (27.5)
高校・大学・専門学校等	11 (27.5)
一般企業	9 (22.5)
地域福祉推進組織	8 (20.0)

区分	人 (%)
地区行政センター(公民館)	7 (17.5)
自治会	7 (17.5)
ボランティア団体	7 (17.5)
商店・商店街	2 (5.0)
子ども会	0 (0.0)
老人クラブ	0 (0.0)
その他	2 (5.0)
特にない	0 (0.0)
無回答	1 (2.5)

5-2-2 今後連携を深めていきたい組織・団体等（問6）

問6 今後、どの組織・団体等と連携を深めていきたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「市役所」が最も多い

今後連携を深めていきたい組織・団体等については、「市役所」が70.0%で最も多く、次いで「飯能市社会福祉協議会」が67.5%、「民生委員・児童委員協議会」が60.0%が続いています。

図 今後連携を深めていきたい組織・団体等（複数回答）

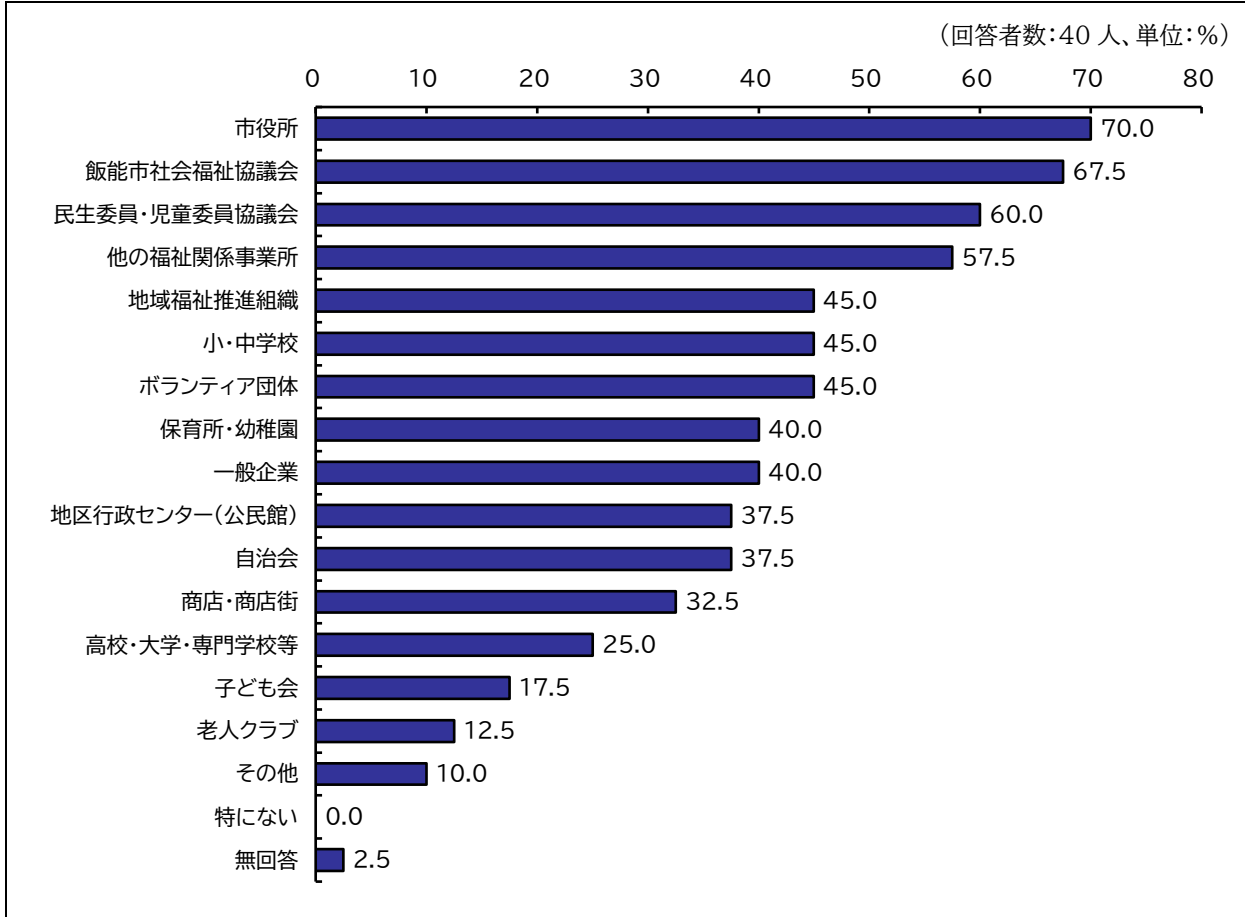


表 今後連携を深めていきたい組織・団体等（複数回答）

区分	人 (%)	区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)	地区行政センター(公民館)	15 (37.5)
市役所	28 (70.0)	自治会	15 (37.5)
飯能市社会福祉協議会	27 (67.5)	商店・商店街	13 (32.5)
民生委員・児童委員協議会	24 (60.0)	高校・大学・専門学校等	10 (25.0)
他の福祉関係事業所	23 (57.5)	子ども会	7 (17.5)
地域福祉推進組織	18 (45.0)	老人クラブ	5 (12.5)
小・中学校	18 (45.0)	その他	4 (10.0)
ボランティア団体	18 (45.0)	特にない	0 (0.0)
保育所・幼稚園	16 (40.0)	無回答	1 (2.5)
一般企業	16 (40.0)		

5-2-3 連携によって期待される効果（問6-1）

問6-1 他の組織・団体等と連携することでどのようなことを期待していますか。記入例を参考に、問6にある連携先ごとにご記入下さい。

連携によって期待される効果について記入していただいたところ、次の通りとなっています。

取組分野	連携したい相手	期待される効果
高齢者福祉 障害者福祉 児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 4.地域福祉推進組織 6.小・中学校	複雑な事例・対応困難な事例について連携していきたい
高齢者福祉 障害者福祉 児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 4.地域福祉推進組織 9.民生委員・児童委員協議会 14.他の福祉関係事業所	サービスの充実や困難事例への対応
高齢者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 4.地域福祉推進組織 9.民生委員・児童委員協議会 11.老人クラブ 12.ボランティア団体 13.商店・商店街 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業	地域に根差した事業所として活動を強化していきたい。
高齢者福祉	5.保育所・幼稚園 10.子ども会 11.老人クラブ 13.商店・商店街 15.一般企業	困難事例などに多様な視点で検討したい。
高齢者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 12.ボランティア団体 13.商店・商店街 14.他の福祉関係事業所	[1・2・14] 困難な事例等において連携して対応したい。 [12・13] 介護保険のサービスでは賅えない困りごとの対応を連携して対応できるようになればよい
高齢者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 4.地域福祉推進組織 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 12.ボランティア団体 13.商店・商店街 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業	情報交換や災害時の協力体制を得られるとよい
高齢者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 10.子ども会 12.ボランティア団体 13.商店・商店街 14.他の福祉関係事業所	情報交換

取組分野	連携したい相手	期待される効果
高齢者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 12.ボランティア団体 14.他の福祉関係事業所	特に独居の方の困難事例解決の糸口
高齢者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 4.地域福祉推進組織 6.小・中学校 7.高校・大学・専門学校等 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 11.老人クラブ 12.ボランティア団体 13.商店・商店街 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業 16.その他	複合的になることでより福祉を充実させたい。
障害者福祉 児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 4.地域福祉推進組織 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 7.高校・大学・専門学校等 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業	障害等があっても望む地域で安心して暮らせる環境づくり
障害者福祉 児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 7.高校・大学・専門学校等 12.ボランティア団体 14.他の福祉関係事業所	事業所にはないものを吸収し、活かしていく。障害者・児の事をもっと知って頂き、地域でよりよい生活が送れるように支援をしていきたい。
障害者福祉	14.他の福祉関係事業所	防災関係に関する点での連携
障害者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 4.地域福祉推進組織 14.他の福祉関係事業所	情報交換
障害者福祉	5.保育所・幼稚園 9.民生委員・児童委員協議会 10.子ども会 13.商店・商店街	地域で困っている事など連携していきたい。
障害者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 4.地域福祉推進組織 6.小・中学校 7.高校・大学・専門学校等 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 12.ボランティア団体 13.商店・商店街 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業	障害者福祉の理解を深め、地域と共に見守り対応していきたい。

第5章 福祉関係事業所向けアンケート

取組分野	連携したい相手	期待される効果
障害者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 7.高校・大学・専門学校等 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業	関係機関との連携の強化
障害者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 4.地域福祉推進組織 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 7.高校・大学・専門学校等 9.民生委員・児童委員協議会 12.ボランティア団体 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業	その人らしい生活を送れるように支援を行うためです。
障害者福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 4.地域福祉推進組織 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 7.高校・大学・専門学校等 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 10.子ども会 11.老人クラブ 12.ボランティア団体 13.商店・商店街 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業	活発な連携により利用者さん全ての幅（仕事、雇用、賃金、社会との交流、QOLの向上等々）が広がる。
障害者福祉	2.飯能市社会福祉協議会 4.地域福祉推進組織 9.民生委員・児童委員協議会	9、地域の問題を共有し協働したい。
児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 4.地域福祉推進組織 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 15.一般企業	園児を取り巻く家庭環境が複雑さを増しているために問題が起きた際に連携を深め多面的な視点から園児や家庭を支え対応していきたい。
児童福祉	1.市役所 3.地区行政センター（公民館） 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校	複雑な事例について連携して対応していきたい。 三密の回避。
児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 9.民生委員・児童委員協議会 10.子ども会	様々な方面で子どもに対する、対応を考えていきたい
児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 9.民生委員・児童委員協議会	学童に在所する児童の家庭を含めた支援として各団体、組織と連携していきたい。 また小学校入学前の保育園や幼稚園での子どもや家庭の様子を知るうえで、連携できたらいいと思っている。
児童福祉	9.民生委員・児童委員協議会 12.ボランティア団体 15.一般企業	重い障がい児を、いろいろな方々に知っていただき一緒に育ててほしい。

取組分野	連携したい相手	期待される効果
児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 7.高校・大学・専門学校等 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 12.ボランティア団体 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業	[1]地域での事例について連携して対応していきたい。 [2]公益活動等社会福祉法人同士での連携 [5]地域で見守るために情報共有や連携していきたい。 [6]地域で見守るために情報共有や連携をしていきたい。 [7]児童に興味がある方がいたら連携をしていきたい。 [8]避難訓練や防災時の連携 [9]地域で見守るための情報共有や連携をしていきたい。 [12]児童に興味がありボランティアしてみたい方がいたら連携をしていきたい。 [14]地域での事例について連携していく。 [15]災害時の連携
児童福祉	8.自治会	自分たちだけでは対応しきれない課題にも対応ができる期待を持っています。
児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 4.地域福祉推進組織 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 9.民生委員・児童委員協議会 14.他の福祉関係事業所 16.その他	[1] 施設状況や職務内容等に相談し合い、子どもたちのより良い環境を整えていきたい。 [2] 児童福祉のみではなく、いろんな福祉業界との交流を通して、仕事の視野を広げたい。 [4] 地域に根差した施設として連携を取っていきたい。 [5] 児童クラブ入所前の子どもの状況などの情報交流 [6] 連続した生活の中での小学校の子どもの様子を共有し合いたい。 [9] 生活困難な家庭等の情報交流と連携して支援する事 [14] 他事業所との交流を通して視野を広げたい。 [その他] 困難を抱える家庭を支えていく上で、色々な機関の方の意見交流をしたい。
児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 14.他の福祉関係事業所	相互に協力できることをすすめていきたい。
児童福祉	1.市役所 2.飯能市社会福祉協議会 3.地区行政センター（公民館） 4.地域福祉推進組織 5.保育所・幼稚園 6.小・中学校 7.高校・大学・専門学校等 8.自治会 9.民生委員・児童委員協議会 10.子ども会 11.老人クラブ 12.ボランティア団体 13.商店・商店街 14.他の福祉関係事業所 15.一般企業	地域で子育てをする。見守っていくには、多くの団体との関りが重要になってくる。そのため、できるだけ多くの団体と関わっていきたい。

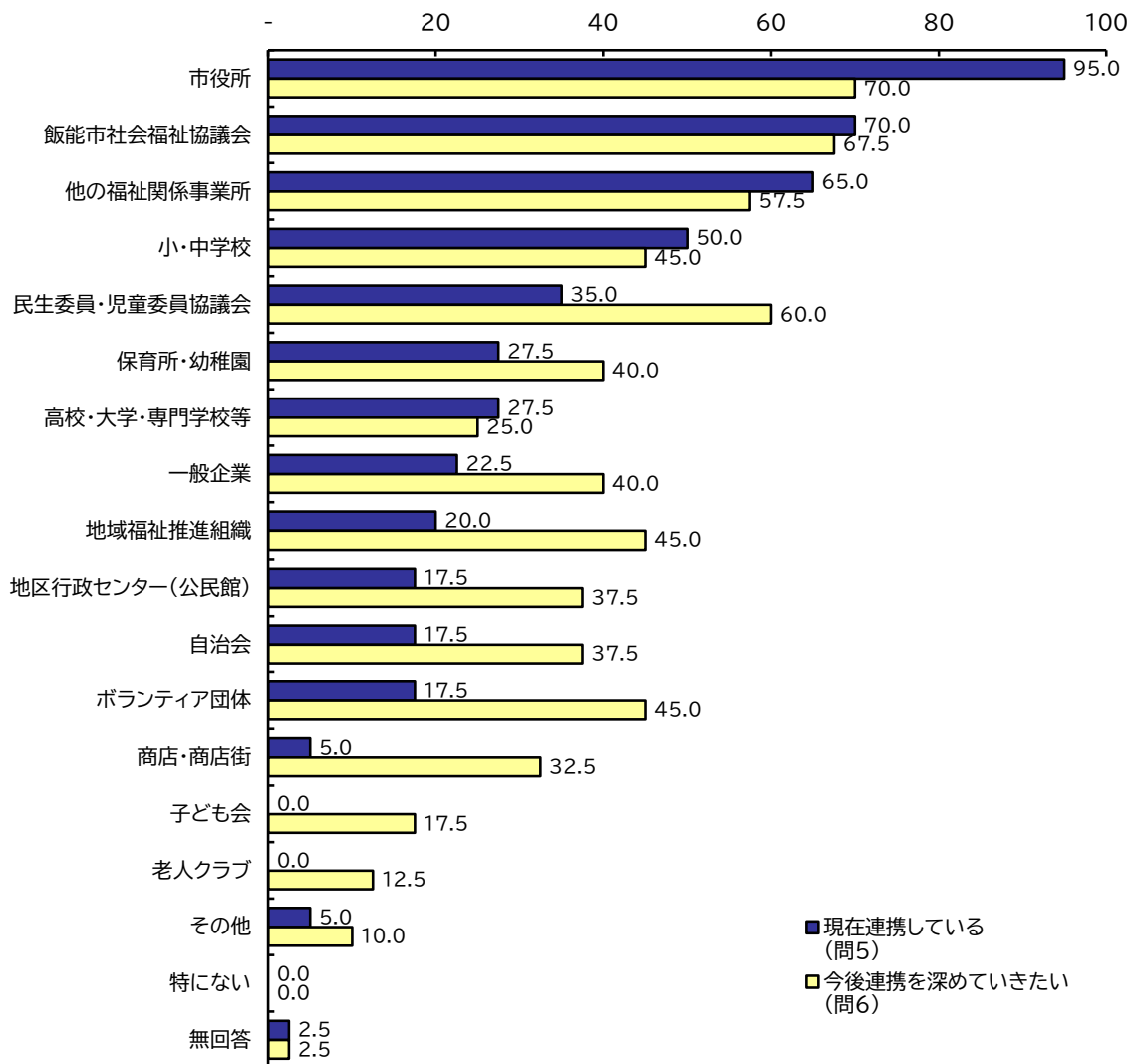
〔参考〕現在連携している組織・団体等（問5）と今後連携を深めていきたい組織・団体等（問6）の比較

※問5と問6を基に作成

多様な組織・団体等において「現在連携している」よりも「今後連携を深めていきたい」の割合が高い

現在連携している組織・団体等（問5）と今後連携を深めていきたい組織・団体等（問6）を比較したところ、「民生委員・児童委員協議会」や「保育所・幼稚園」、「一般企業」、「地域福祉推進組織」、「地区行政センター（公民館）」、「自治会」、「ボランティア団体」、「商店・商店街」など、多様な組織・団体等において「現在連携している」よりも「今後連携を深めていきたい」の割合が高くなっています。

図 現在連携している組織・団体等（問5）と今後連携を深めていきたい組織・団体等（問6）の比較（複数回答）
（回答者数:40人、単位:%）



第3節 地域貢献活動について

5-3-1 現在の地域貢献活動の状況（問7）

問7 現在、地域貢献活動（地域における公益的な取組）を行っていますか。（1つだけに○）

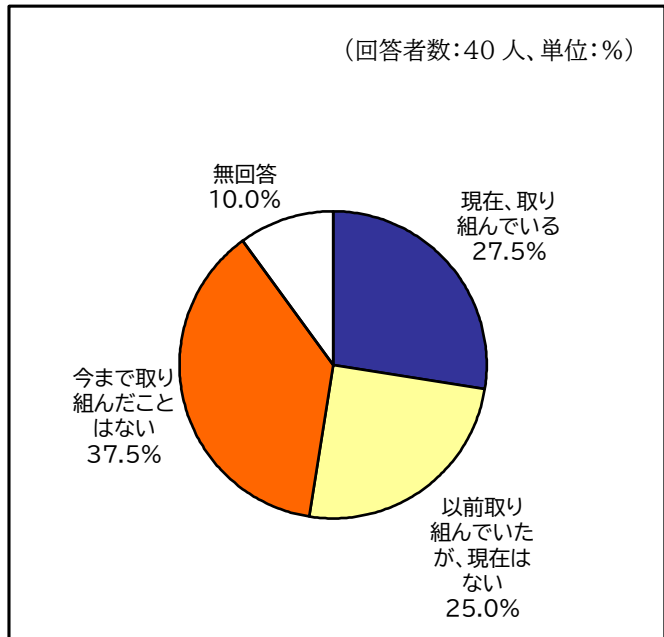
“取り組んでいる・取り組んだことがある”が52.5%

現在の地域貢献活動の状況については、「現在、取り組んでいる」が27.5%、「以前取り組んでいたが、現在は無い」が25.0%であり、これらを合わせると52.5%が“取り組んでいる・取り組んだことがある”と回答しています。

表 現在の地域貢献活動の状況

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
現在、取り組んでいる	11 (27.5)
以前取り組んでいたが、現在は無い	10 (25.0)
今まで取り組んだことはない	15 (37.5)
無回答	4 (10.0)

図 現在の地域貢献活動の状況



5-3-2 活動している内容（問7-1）

問7-1 それはどのような取組ですか。下の枠にお書き下さい。

活動している内容について記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、回答した事業者の取組分野を示しています。

- 職員が民生委員として活動中。（高齢者福祉）
- 地域との交流を持つことでの相互理解。（高齢者福祉）
- 等施設ではダンスなど行っているのので、福祉事業所に訪問してダンスを行う企画等しております。（障害者福祉）
- 公園清掃、せいかつ祭出店。（障害者福祉）
- 地域の行事、会議に参加。（障害者福祉）
- ボランティアの受け入れ、歳末助け合い募金の返礼品。（障害者福祉）
- 貧困層の方々への物資を配布。（児童福祉）
- 地域の子どものための団体のハロウィンイベントのお手伝いをする。（児童福祉）
- 飯能市社会福祉法人地域公益活動等連絡会。（児童福祉）
- 居場所づくり、地域の母子愛育会との連携、ふれあい広場への参加、子育てサークルの支援、子育て支援拠点運営。（児童福祉）

5-3-3 今後の地域貢献活動に対する意向（問8）

問8 今後（今後とも）、地域貢献活動を行いたいと思いますか。（1つだけに○）

“取り組みたい”が87.5%

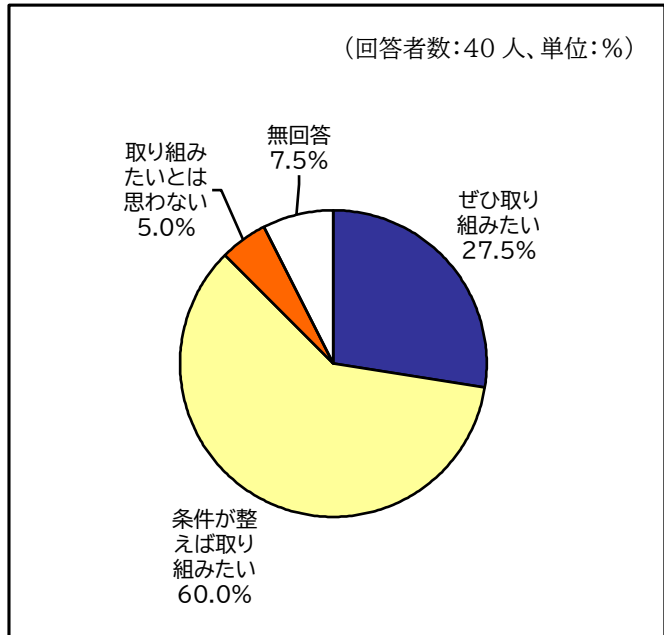
今後の地域貢献活動に対する意向については、「ぜひ取り組みたい」が27.5%、「条件を整えば取り組みたい」が60.0%であり、これらを合わせると87.5%が“取り組みたい”と回答しています。

取り組みたいとは思わない

表 今後の活動に対する意向

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
ぜひ取り組みたい	11 (27.5)
条件を整えば取り組みたい	24 (60.0)
取り組みたいとは思わない	2 (5.0)
無回答	3 (7.5)

図 今後の地域貢献活動に対する意向



5-3-4 今後行いたい取組の内容（問8-1）

問8-1 それは、どのような取組ですか。下の枠に記入してください。

今後、行いたい取組の内容について記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、回答した事業者の取組分野を示しています。

- 防災活動や地域清掃。(高齢者福祉)
- 避難訓練や災害時の協力や地域清掃など。(高齢者福祉)
- ホームの資産の有効活用。(高齢者福祉)
- 地域の名産物を浸透させたり、イベント等ダンスなど行い参加していく。(障害者福祉)
- 地域貢献活動がこういった取組になるのか不明だったので回答できませんでした。(障害者福祉)
- 地域取組活動がどのような活動になるのか不明のため、回答しませんでした。(障害者福祉)
- 地域を巻き込んだ行事を考えていきたい。(児童福祉)
- お散歩中のごみ拾いや自治会などへの参加。(児童福祉)
- 地域の方々との交流。(児童福祉)
- 地域の方を招いての交流会、お祭り、行事。(児童福祉)
- プレイパーク、子ども食堂、親子支援。(児童福祉)

5-3-5 取り組みやすくなるための条件（問8-2）

問8-2 どのような条件を整えば、地域貢献活動を行いやすくなると思いますか。下の枠にお書き下さい。

取り組みやすくなるための条件について記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、回答した事業者の取組分野を示しています。

- コロナが終息すればよい。（高齢者福祉）
- コロナが終息したら。（高齢者福祉）
- 自治会への参加 施設の開放。（高齢者福祉）
- 商店街など架け橋になれるような環境を整えば。（障害者福祉）
- 今の状況だとコロナが収束しないことには難しいと考える。（児童福祉）
- 地域を挙げて会報誌などで事業所の周知や連携を推進する。（児童福祉）
- 現在はコロナで中止せざるを得ない状況。行政から進んで行ってほしいと後押ししてほしい。（児童福祉）
- 自分のことだけでなく、みんなで地域をよくしていこうと考えを少しでももってもらうこと。（児童福祉）

第4節 「はんのうふくしの森プラン」について

5-4-1 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度(問9)

問9 「第3次はんのうふくしの森プラン」(平成31年度～令和5年度)をご存じですか。(1つだけに○)

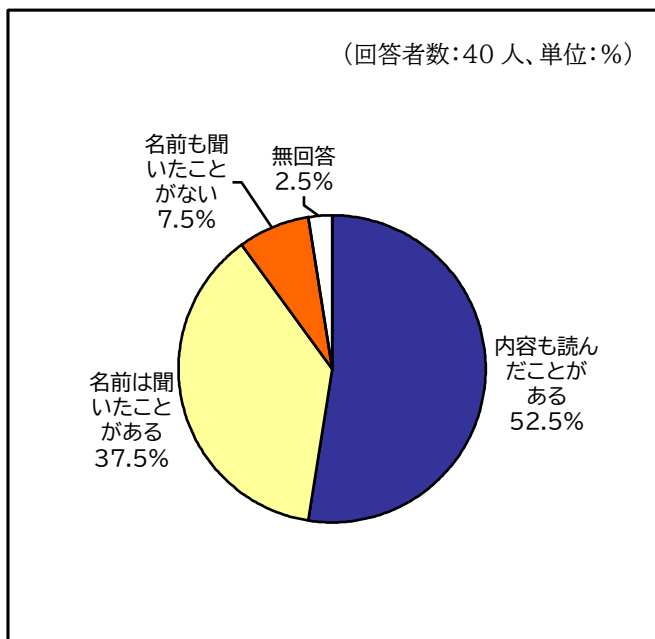
“知っている”が90.0%

「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度については、「内容も読んだことがある」が52.5%、「名前は聞いたことがある」が37.5%であり、これらを合わせると90.0%が“知っている”と回答しています。

表 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
内容も読んだことがある	21 (52.5)
名前は聞いたことがある	15 (37.5)
名前も聞いたことがない	3 (7.5)
無回答	1 (2.5)

図 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度



5-4-2 「第3次はんのうふくしの森プラン」の基本施策の評価（問10）

問10 現行の「第3次はんのうふくしの森プラン」では、次のように4つの基本目標とそれを実現するための取組を掲げ、市民、市及び社会福祉協議会が協働して行っています。これらの取組についてどのようにお考えですか。それぞれ1つずつお答えください。

「相談体制の強化」や「地域コミュニティづくり」への評価が比較的高い

「第3次はんのうふくしの森プラン」に掲げられた基本施策の評価について、「とても進んだ」と「やや進んだ」を合わせた“進んだ”の割合をみると、「相談体制の強化」が57.5%（7.5%+50.0%）で最も多く、次いで「地域コミュニティづくり」が55.0%（5.0%+50.0%）、「情報の発信と共有」が52.5%（7.5%+45.0%）で続いています。

図 「第3次はんのうふくしの森プラン」の基本施策の評価（“進んだ”の割合順）

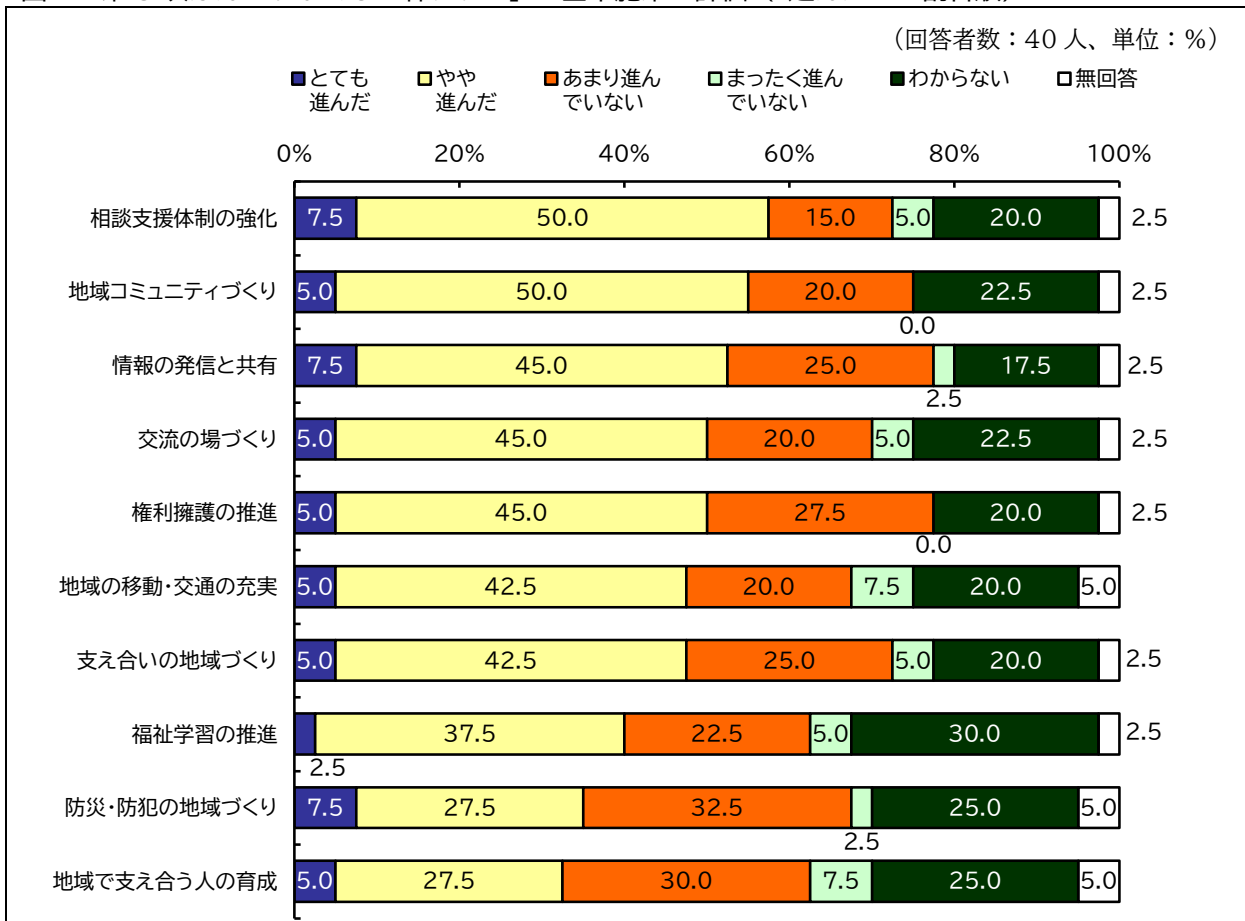


表 「第3次はんのうふくしの森プラン」の基本施策の評価 回答者数：40人、単位：人（%）

区分	とても進んだ	やや進んだ	あまり進んでいない	まったく進んでいない	わからない	無回答
相談支援体制の強化	3 (7.5)	20 (50.0)	6 (15.0)	2 (5.0)	8 (20.0)	1 (2.5)
地域コミュニティづくり	2 (5.0)	20 (50.0)	8 (20.0)	0 (0.0)	9 (22.5)	1 (2.5)
情報の発信と共有	3 (7.5)	18 (45.0)	10 (25.0)	1 (2.5)	7 (17.5)	1 (2.5)
交流の場づくり	2 (5.0)	18 (45.0)	8 (20.0)	2 (5.0)	9 (22.5)	1 (2.5)
権利擁護の推進	2 (5.0)	18 (45.0)	11 (27.5)	0 (0.0)	8 (20.0)	1 (2.5)
地域の移動・交通の充実	2 (5.0)	17 (42.5)	8 (20.0)	3 (7.5)	8 (20.0)	2 (5.0)
支え合いの地域づくり	2 (5.0)	17 (42.5)	10 (25.0)	2 (5.0)	8 (20.0)	1 (2.5)
福祉学習の推進	1 (2.5)	15 (37.5)	9 (22.5)	2 (5.0)	12 (30.0)	1 (2.5)
防災・防犯の地域づくり	3 (7.5)	11 (27.5)	13 (32.5)	1 (2.5)	10 (25.0)	2 (5.0)
地域で支え合う人の育成	2 (5.0)	11 (27.5)	12 (30.0)	3 (7.5)	10 (25.0)	2 (5.0)

〔参考〕加重平均値による項目の比較

「地域コミュニティづくり」及び「相談支援体制の強化」の点数が高い

「第3次はんのうふくしの森プラン」に掲げられた基本施策の評価（問10）において、各項目の加重平均値※を算出し比較したところ、「地域コミュニティづくり」及び「相談支援体制の強化」がともに0.41点で最も高く、次いで「情報の発信と共有」が0.31点で続いています。

一方、「地域で支え合う人の育成」は、マイナスの評価となっています。

図 加重平均値による「第3次はんのうふくしの森プラン」の基本施策の評価

回答者数：40人、単位：点

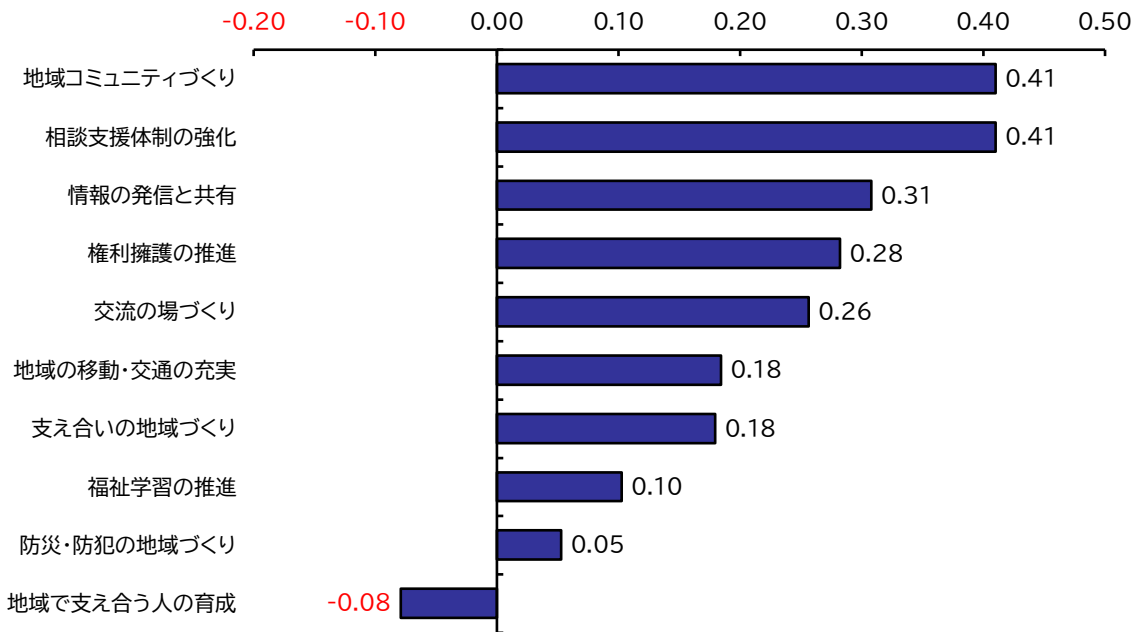


表 「第3次はんのうふくしの森プラン」の基本施策の評価と加重平均値

回答者数：40人、単位：点

区分	とても進んだ	やや進んだ	あまり進んでいない	まったく進んでいない	わからない	加重平均値(点)
地域コミュニティづくり	2	20	8	0	9	0.41
相談支援体制の強化	3	20	6	2	8	0.41
情報の発信と共有	3	18	10	1	7	0.31
権利擁護の推進	2	18	11	0	8	0.28
交流の場づくり	2	18	8	2	9	0.26
地域の移動・交通の充実	2	17	8	3	8	0.18
支え合いの地域づくり	2	17	10	2	8	0.18
福祉学習の推進	1	15	9	2	12	0.10
防災・防犯の地域づくり	3	11	13	1	10	0.05
地域で支え合う人の育成	2	11	12	3	10	-0.08

※ 「加重平均値」の考え方と算出方法については、4ページを参照してください。

5-4-3 今後重点的に進めるべき施策（問11）

問11 今後、どの分野の取組を重点的に進めるべきだと思いますか。記入例を参考に、問11の(1)～(11)の中から該当する番号とその具体的な内容を下の枠にご記入ください。(いくつでも)

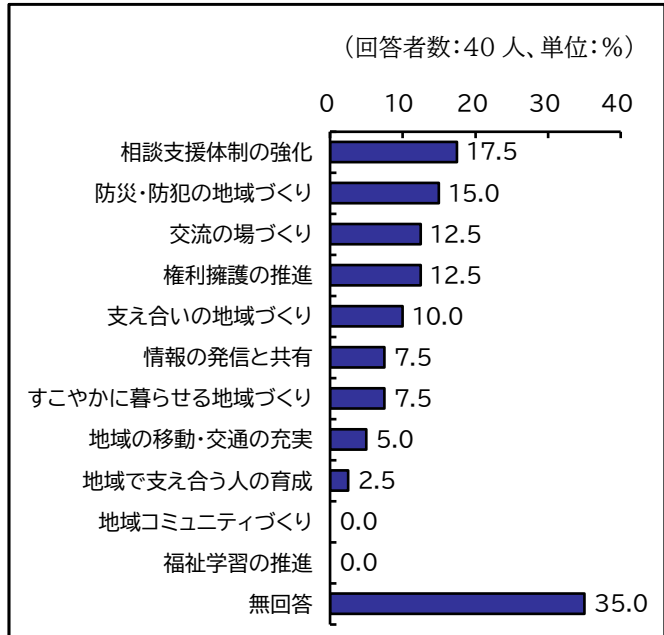
「相談体制の強化」が最も多い

今後重点的に進めるべき施策については、「相談支援体制の強化」が17.5%で最も多く、次いで「防災・防犯の地域づくり」が15.0%で続いています。

表 今後重点的に進めるべき施策（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
相談支援体制の強化	7 (17.5)
防災・防犯の地域づくり	6 (15.0)
交流の場づくり	5 (12.5)
権利擁護の推進	5 (12.5)
支え合いの地域づくり	4 (10.0)
情報の発信と共有	3 (7.5)
すこやかに暮らせる地域づくり	3 (7.5)
地域の移動・交通の充実	2 (5.0)
地域で支え合う人の育成	1 (2.5)
地域コミュニティづくり	0 (0.0)
福祉学習の推進	0 (0.0)
無回答	14 (35.0)

図 今後重点的に進めるべき施策（複数回答）



重点的に進めるべき施策の具体的な内容については、次の通りとなっています。

表 今後重点的に進めるべき施策の具体的な内容

取組分野	重点的に進めるべき施策	具体的な内容
高齢者福祉 障害者福祉 児童福祉	11.すこやかに暮らせる地域づくり	健康でいられる地域づくり
高齢者福祉 障害者福祉	4.交流の場づくり	相談につながるきっかけになることが大切。
高齢者福祉	11.すこやかに暮らせる地域づくり	高齢者が安心して暮らせる場所づくり 例)フランスのアルツハイマー村のようなまちづくり
高齢者福祉	—	困っている子どものためのこと
高齢者福祉	4.交流の場づくり	相談につながるきっかけになることが大切。
高齢者福祉	8.相談支援体制の強化	山間部等でも気軽に相談できる、物理的配慮が必要。
高齢者福祉	5.地域の移動・交通の充実	免許を返納した後の交通機関の利用について不安を抱く方が多いのでもっと対応が進めばよい。
高齢者福祉	10.防災・防犯の地域づくり	高齢者の防災や施設防災についての取組が必要。
高齢者福祉	8.相談支援体制の強化	相談できるなど窓口を知ることや、気軽にコミュニケーションできるよう関わられる機会が増えるとういこと。
高齢者福祉	—	[1]～[11] 山間地域では、高齢化がますます進行し、このようなことが、成り立ちません。
高齢者福祉	9.権利擁護の推進	高齢者への詐欺防止
高齢者福祉	7.支え合いの地域づくり	自治会の意見とりまとめ
障害者福祉 児童福祉	11.すこやかに暮らせる地域づくり	「地域包括支援センター」と「すこやか福祉相談センター」が同じ場所にあることで、高齢、障害を問わず包括的に支援できる体制がある。加えて、CSWや民生委員等との連携がスムーズにできる支援環境がある。また、保健所、保健センターとの連携が増えた。

第5章 福祉関係事業所向けアンケート

取組分野	重点的に進めるべき施策	具体的な内容
障害者福祉 児童福祉	8.相談支援体制の強化	相談支援のスキルアップをして頂きたい。
障害者福祉	10.防災・防犯の地域づくり	地域の防災に関わっていく必要があるから。
障害者福祉	3.情報の発信と共有	地域で暮らせるようになるための情報交換ができること
障害者福祉	8.相談支援体制の強化	CSW、保健師、包括、すこ福等の地区担当の連携の強化、体制作り
障害者福祉	6.地域で支え合う人の育成	ボランティア等の育成について、新型コロナウイルスの感染防止を行いながら、再開を検討してもいいのではないかと思います。
障害者福祉	4.交流の場づくり	コロナ禍で難しくはなっているがやっぱり交流の場を増やすことが大切。
児童福祉	7.支え合いの地域づくり 8.相談支援体制の強化 9.権利擁護の推進	虐待や発達障害を抱える家庭の家族への支援の窓口になる人材の育成
児童福祉	7.支え合いの地域づくり	学校、民生委員さんや児童委員さんと共有できたら、虐待などの事例に早く対処できるのではないかなと思う。今は、共有しているようでまだ個人情報などで教えていただけないことが多く、その点を緩和できたらもっと未然に防げることもあるのではないかなと思う。
児童福祉	4.交流の場づくり 7.支え合いの地域づくり 8.相談支援体制の強化 9.権利擁護の推進	<p>[4] 友達と遊び、勉強などができる場がないので（福祉センターがコロナ禍でその役割を果たせていない）子どもたちの居場所作りを真剣に考えてほしい。</p> <p>[7] 子どものことで市役所に相談に行き、「民生委員さんと連携します」と言ってもらえたが、その後本当に民生委員さんがその家庭や児童の支援にあたってもらったのかわからないままになっている。どういった支援に繋がったのか、連携することで一緒に支援できればと思っている。</p> <p>[8] 困窮家庭や家庭内に問題を抱えている子ども、親ほど相談をしづらい状況があると思う。学校にスクールソーシャルワーカーを配置して、問題のある家庭にもっと入り込んで支援にあたることができればいいと思っている。</p> <p>[9] 色々な場所で虐待防止のポスターなどを見かけるので、人々の意識は高まっていると思う。大人も子どもも、これは虐待なのでは？と思ったときに遠慮なく通報や相談ができたらいいと思う（その家庭や被虐待児の後々の影響を考えると通報や相談をためらうケースは多々あるのでは？）。</p>
児童福祉	3.情報の発信と共有	[3] 情報の発信と共有から地域の方々に知ってもらう機会を増やすことが大切。
児童福祉	10.防災・防犯の地域づくり	お互いに町の安全を助け合うことが必要です。
児童福祉	4.交流の場づくり 8.相談支援体制の強化 10.防災・防犯の地域づくり	<p>[4] コロナ禍で人とのつながりが希薄化しているため</p> <p>[8] 地域での孤立化が進んでいるところが多い。相談体制を強化してもらえることで、いろんな人が助けを求めやすいと思う。</p> <p>[10] 自然災害がいつ起きてもおかしくない時代。頼れるネットワークがあると助かる。</p>
児童福祉	9.権利擁護の推進	経済的な支援が必要な家庭に支援すること。

第5節 共に支え合う地域づくりのための方策について

5-5-1 共に支え合う地域づくりのための重点施策（問12）

問12 本市では、地域住民や地域の多様な主体が参画し、支える側と支えられる側の垣根を越えて人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現をめざしています。「地域共生社会」を実現するために、特にどのような取組が大切だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「身近な地域で気軽に相談できる体制の充実」が最も多い

共に支え合う地域づくりのための重点施策については、「身近な地域で気軽に相談できる体制の充実」が75.0%で最も多く、次いで「必要な人に出向き、支援を届ける仕組みづくり」が70.0%、「福祉に関する情報提供の充実」及び「孤立の防止に関する取組の充実」がともに60.0%で続いています。

図 共に支え合う地域づくりのための重点施策（複数回答）

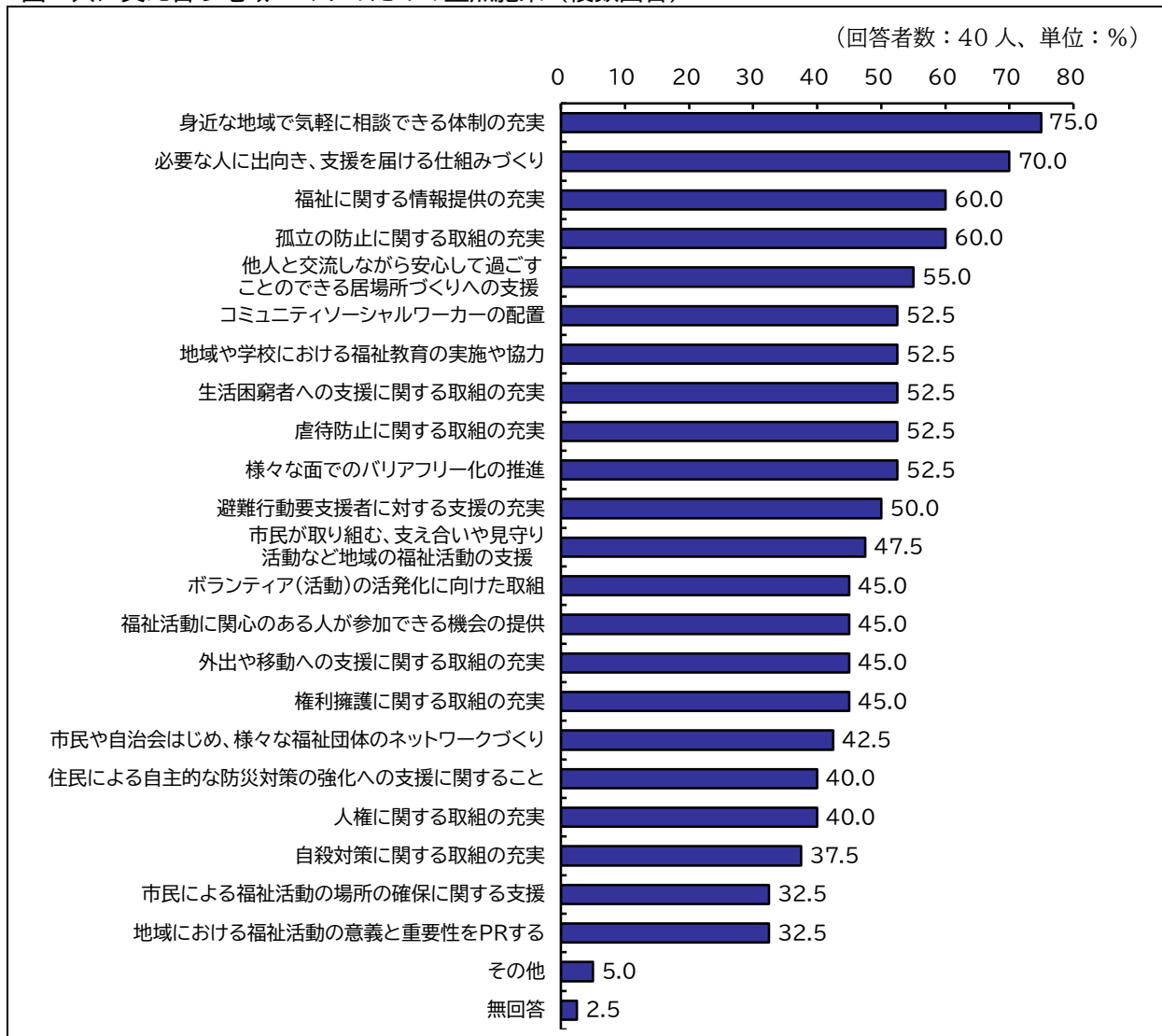


表 共に支え合う地域づくりのための重点施策（複数回答）

区 分	人 (%)	区 分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)	福祉活動に関心のある人が参加できる機会の提供	18 (45.0)
身近な地域で気軽に相談できる体制の充実	30 (75.0)	外出や移動への支援に関する取組の充実	18 (45.0)
必要な人に出向き、支援を届ける仕組みづくり	28 (70.0)	権利擁護に関する取組の充実	18 (45.0)
福祉に関する情報提供の充実	24 (60.0)	市民や自治会はじめ、様々な福祉団体のネットワークづくり	17 (42.5)
孤立の防止に関する取組の充実	24 (60.0)	住民による自主的な防災対策の強化への支援に関する事	16 (40.0)
他人と交流しながら安心して過ごすことのできる居場所づくりへの支援	22 (55.0)	人権に関する取組の充実	16 (40.0)
コミュニティソーシャルワーカーの配置	21 (52.5)	自殺対策に関する取組の充実	15 (37.5)
地域や学校における福祉教育の実施や協力	21 (52.5)	市民による福祉活動の場所の確保に関する支援	13 (32.5)
生活困窮者への支援に関する取組の充実	21 (52.5)	地域における福祉活動の意義と重要性をPRする	13 (32.5)
虐待防止に関する取組の充実	21 (52.5)	その他	2 (5.0)
様々な面でのバリアフリー化の推進	21 (52.5)	無回答	1 (2.5)
避難行動要支援者に対する支援の充実	20 (50.0)		
市民が取り組む、支え合いや見守り活動など地域の福祉活動の支援	19 (47.5)		
ボランティア(活動)の活発化に向けた取組	18 (45.0)		

5-5-2 共に支え合う地域づくりのために事業所として可能な関わり方（問13）

問13 地域で暮らす人々が共に支え合う地域づくりのために、貴事業所としてどのような関わりができますと考えますか。ご自由にお書きください。

共に支え合う地域づくりのために事業所として可能な関わり方について記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、回答した事業者の取組分野を示しています。

（1）高齢者に関する取組を行っている事業者

- 健康に関して相談に乗ることができる。（高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉）
- 介護保険枠外の地域貢献事業を現在検討中です。（高齢者福祉）
- 高齢者福祉に関する事（高齢者福祉）
- 高齢者福祉に関する研修会等の開催。（高齢者福祉）
- 地域活動の参加（高齢者福祉）
- コミュニケーションがとれる場への参加（高齢者福祉）
- 厳しいです。（高齢者福祉）
- 職員が施設外でも福祉の目を持つ。（高齢者福祉）

（2）障害者に関する取組を行っている事業者

- 地域住民等と日頃から顔の見える関係づくりを意識して行動する。（障害者福祉、児童福祉）
- イベントをすることで地域の方の理解を得ていく。（障害者福祉、児童福祉）
- パン販売などを通して地域との交流を図る。（障害者福祉）
- 地域の行事に参加する。（障害者福祉）
- 各事業所が所属する地元自治会との関係性づくり（障害者福祉）
- イベントを通して市民との地域交流。（障害者福祉）
- 障害があってもなくてもその人らしく生活できるような支援や関わり（障害者福祉）
- 買物ができる場所（障害者福祉）
- 相談を受けている方をCSWと共に支援すること（障害者福祉）

- CSW と共に相談を受けている方を支援していく。(障害者福祉)
- サービス事業よりも先に居場所を求めているニーズが強い場合がある、そのようなニーズの場合、期限のある事業所だといずれ慣れた場所を離れなくてはならないので、いつまでも利用できる場所(既存の形態以外)の確保も必要と思う。(障害者福祉)

(3) 児童に関する取組を行っている事業者

- 心身共に健康で知的好奇心や思いやりのある子どもたちの成長の支援に取り組む。(児童福祉)
- 地域の方々が児童の顔を覚えてくれたなら、非行などを未然に防ぐ一歩が踏み出せると思う。逆に児童が地域の方が困っていたら助けることもできるかもしれない。(児童福祉)
- 経済的な理由などで学童に入れず、居場所のない子どもがたくさんいるのではと感じています。地域に年齢関係なく集える場があるなら、子どもと関わる仕事をしているうえで協力できることがあると思います。(児童福祉)
- 地域活動への参加で顔の見える関係性を作る。(児童福祉)
- AED や福祉車両などが緊急で必要になった際に使えるようにする。(児童福祉)
- 地域のイベントへの参加や清掃活動などの協力(児童福祉)
- 地域交流を目的とした行事やバザーなどを開催して交流ができる場を設ける、子ども支援や保護者支援の手助け(学習会や情報提供)を発信するなどができる事だと思います。(児童福祉)
- 親子との関わり(児童福祉)

5-5-3 市や社会福祉協議会に期待すること(問14)

問14 その他、地域で暮らす人々が共に支え合う地域にしていくために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

市や社会福祉協議会に期待することについて記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の()内の表記は、回答した事業者の取組分野を示しています。

(1) 高齢者に関する取組を行っている事業者

- お互い顔の見える関係づくり(高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉)
- 困ったことを迅速に解決できる仕組みづくり(高齢者福祉)
- 市役所が間を取り持つ役割が期待されていると思います。(高齢者福祉)
- 意識向上のための啓発活動及び福祉活動の意義と重要性をPRする。(高齢者福祉)
- 多岐にわたる困りごとを気軽に相談できたり、利用者や住民の声が少しずつでも反映されることが大切だと思う。(高齢者福祉)
- より多くコミュニケーションをとることで、顔を覚えたり話しかけやすい関係ができる。(高齢者福祉)
- 近所でも、よく知らない人は怖い等のイメージもあり、声をかけにくかったりとコミュニケーションがとりづらい。関われば知っていくきっかけになると思う。参加したくなるイベントがあるとよい。(高齢者福祉)
- 繰り返しになりますが、山間地域では、高齢化が、ますます進行し、支え合いと言われても、特定の方に負担が集中してしまい、人間関係も悪化してしまっています。もう、支え合いという考え方を変える時期に来ています。(高齢者福祉)
- 地域・地区の中でのコミュニケーション(高齢者福祉)
- 人員の確保には有償もある。(高齢者福祉)

(2) 障害者に関する取組を行っている事業者

- 障害の理解を根気よく伝え、地域をまきこみながら、「おたがいさま」が普通にできる環境づくりを意識して行動する。(障害者福祉、児童福祉)
- 外出で会った時に気兼ねなく話ができる感じにしたい。(障害者福祉、児童福祉)
- 地域の人たちを雇用を通して地域住民との交流の幅を広げられるよう努める(施設の取組理解促進が将来的に必要)。(障害者福祉)
- 施設や精神病という病気について理解を深める。(障害者福祉)
- 福祉サービスが垣根を越えて連携できる体制づくり。(障害者福祉)
- なぜ地域の人々が共に支えあわなくてはいけないのか、住民に理解してもらう事が重要だと思います(例えば、多様性を尊重するのであれば、地域で支え合わない意思決定も重要なので)。(障害者福祉)
- 常日頃からのコミュニケーション(障害者福祉)
- 地域性に合わせ、住民が必要とする支援や課題を検討する場。縦割りの会議では地域課題の本質に向き合えないと感じる。(障害者福祉)
- 地域福祉に関する情報共有(障害者福祉)
- 市民全体の障害者への認識の変化(障害者福祉)

(3) 児童に関する取組を行っている事業者

- 「立腰教育」及び「躰の三原則」の励行による未来の飯能市を支える子どもたちの育成(児童福祉)
- コミュニティを豊かにし、みんながみんなの存在を知ることが大事。(児童福祉)
- 原市場地区は古くからこの地域に住んでいる高齢者の多い地域なので、自治会の役員など、若い世代が入りづらく、活動の活性化に繋がらない。また若い世代は仕事などで忙しく、自分の住んでる地域に目が向かず、どこか他人事として捉えていることが多いと感じる。自治会などの古い体制を廃止し、若い世代が率先して地域活動に参加できるような体制を作っていくと、もっと新しい意見や、すべての世代の人が必要としている支援などが見えてくるのではないかと思います。(児童福祉)
- 地域の資源を知ってもらう。(児童福祉)
- 地域の人々が気軽に過ごせる場所を作る。(児童福祉)
- 高齢期の方の活躍するイベントを考案する。(児童福祉)
- 行政と市民、議員さんと市民の距離がより近くなると、支えあう地域が作られるのではないかと思います。(児童福祉)
- 居場所づくり、各団体との連携(児童福祉)

5-5-4 情報提供の希望の有無（問15）

問15 飯能市及び飯能市社会福祉協議会では、今後、講座やイベントの案内など地域福祉に関する情報を発信していきたいと考えております。情報を希望しますか。

「希望あり」が82.5%

情報提供の希望の有無については、「希望あり」が82.5%、「希望なし」が7.5%となっています。

図 情報提供の希望の有無

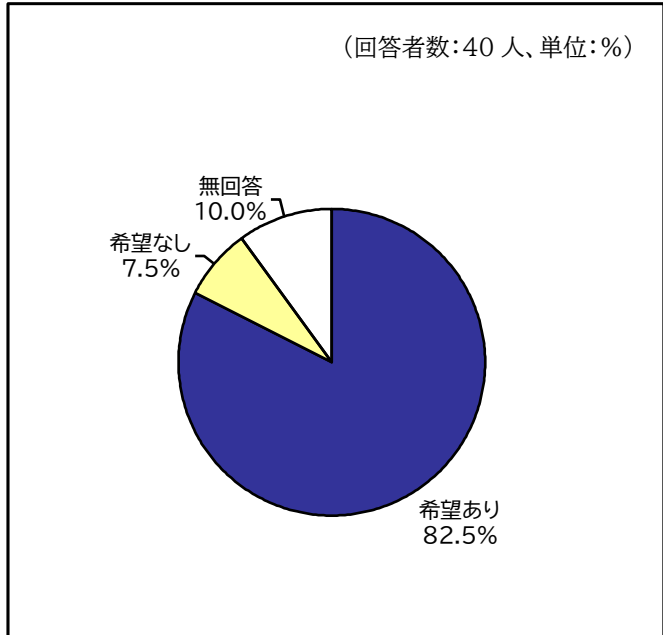


表 情報提供の希望の有無

区分	人 (%)
回答者数	40 (100.0)
希望あり	33 (82.5)
希望なし	3 (7.5)
無回答	4 (10.0)

第 6 章

専門職向けアンケート

第1節 回答者自身の状況

6-1-1 取組の分野（問1）

問1 あなたが勤務している事業や取組の分野を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

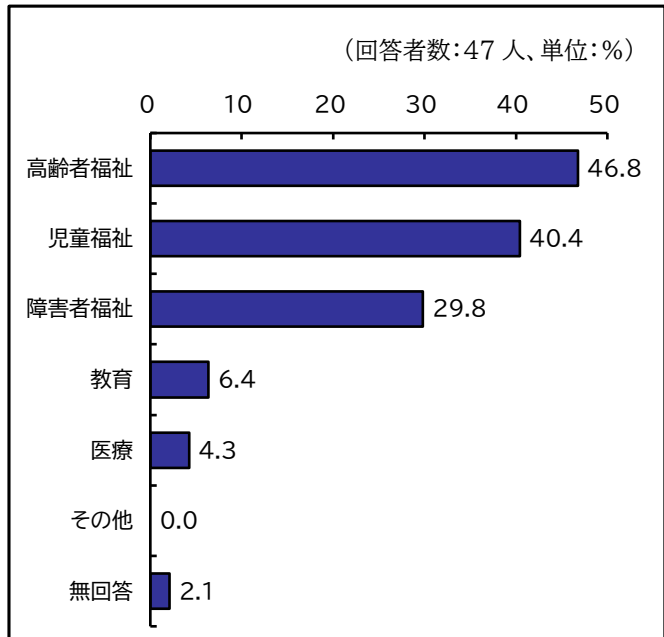
「高齢者福祉」が最も多い

取組の分野については、「高齢者福祉」が46.8%で最も多く、次いで「児童福祉」が40.4%、「障害者福祉」が29.8%が続いています。

表 取組の分野（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)
高齢者福祉	22 (46.8)
児童福祉	19 (40.4)
障害者福祉	14 (29.8)
教育	3 (6.4)
医療	2 (4.3)
その他	0 (0.0)
無回答	1 (2.1)

図 取組の分野（複数回答）



6-1-2 事業所の運営主体（問2）

問2 あなたが勤務している事業所の運営主体を教えてください。（1つだけに○）

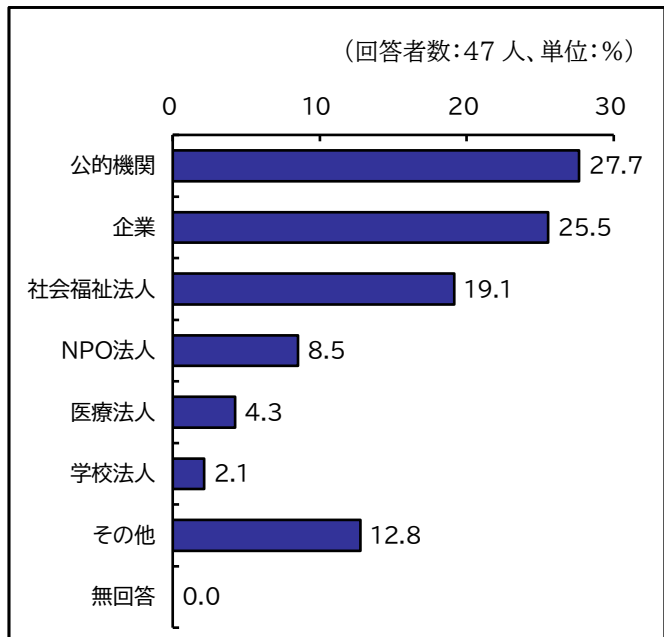
「公的機関」が最も多い

事業所の運営主体については、「公的機関」が27.7%で最も多く、次いで「企業」が25.5%、「社会福祉法人」が19.1%が続いています。

表 事業所の運営主体

区分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)
公的機関	13 (27.7)
企業	12 (25.5)
社会福祉法人	9 (19.1)
NPO法人	4 (8.5)
医療法人	2 (4.3)
学校法人	1 (2.1)
その他	6 (12.8)
無回答	0 (0.0)

図 事業所の運営主体



6-1-3 業務の内容 (問3)

問3 あなたの業務の内容は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

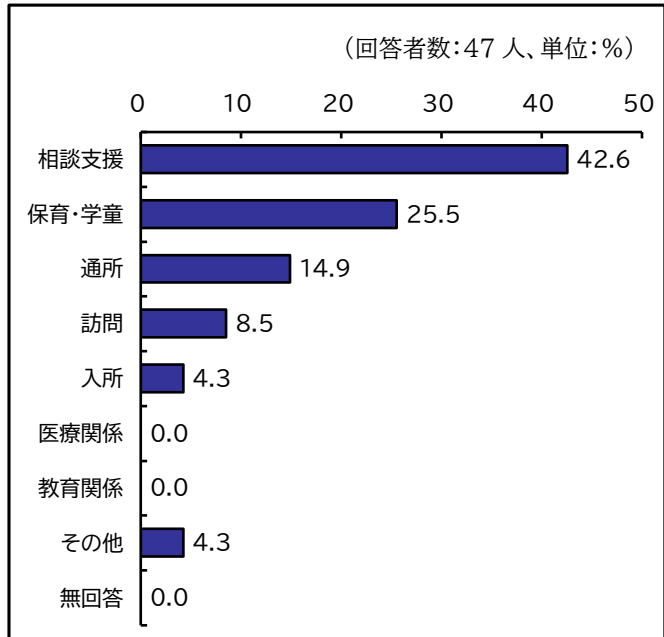
「相談支援」が最も多い

業務の内容については、「相談支援」が42.6%で最も多く、次いで「保育・学童」が25.5%、「通所」が14.9%が続いています。

表 業務の内容

区分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)
相談支援	20 (42.6)
保育・学童	12 (25.5)
通所	7 (14.9)
訪問	4 (8.5)
入所	2 (4.3)
医療関係	0 (0.0)
教育関係	0 (0.0)
その他	2 (4.3)
無回答	0 (0.0)

図 業務の内容



6-1-4 業務の活動範囲 (問4)

問4 あなたの業務の活動範囲を教えてください。(1つだけ○)

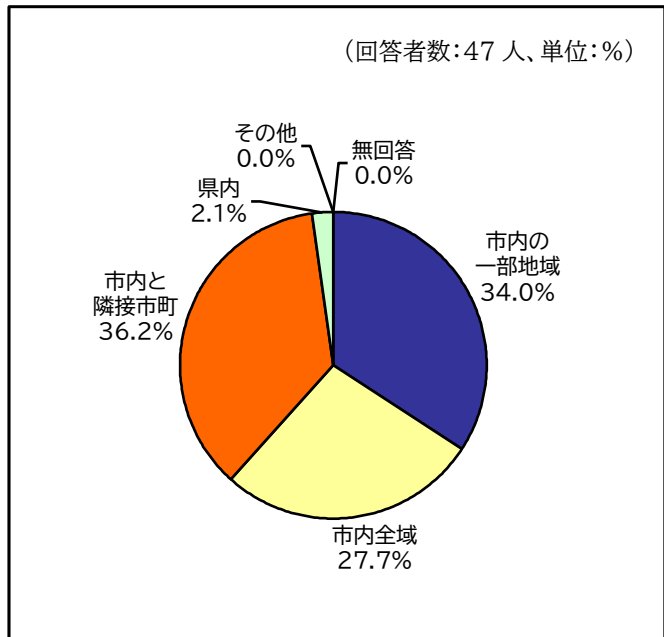
「市内と隣接市町」が最も多い

業務の活動範囲については、「市内の一部地域」が34.0%、「市内全域」が27.7%、「市内と隣接市町」が36.2%が続いています。

表 業務の活動範囲

区分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)
市内の一部地域	16 (34.0)
市内全域	13 (27.7)
市内と隣接市町	17 (36.2)
県内	1 (2.1)
その他	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)

図 業務の活動範囲



第2節 対象者をめぐる課題や問題点

6-2-1 対象者や家族等をめぐる課題（問5）

問5 あなたが担当している方ご家族等に関して、気になる課題はありますか。該当する項目に○をつけ、具体的な内容をお書きください。（あてはまるものすべてに○）

「高齢・介護」、「障害」、「子ども・子育て」など、一人あたり4.0件の課題

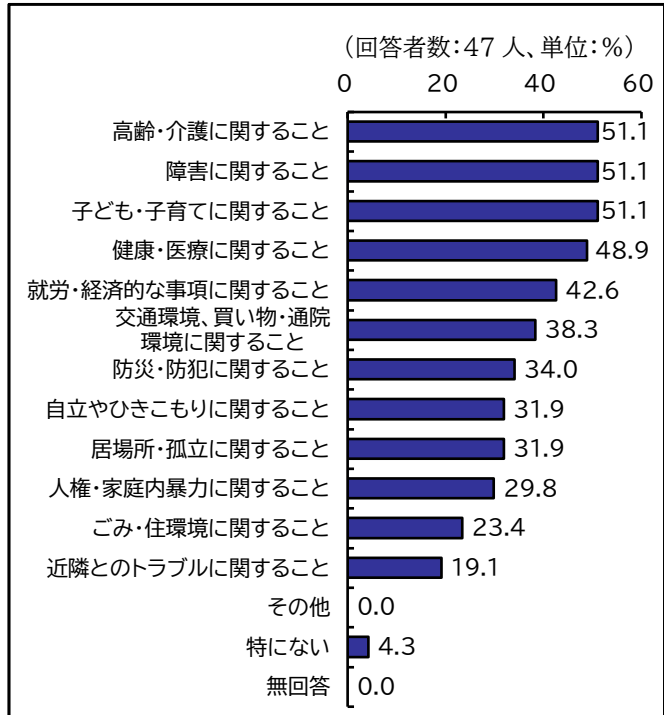
対象者や家族等をめぐる課題については、「高齢・介護に関すること」、「障害に関すること」及び「子ども・子育てに関すること」がいずれも51.1%で最も多くなっています。

なお、延べ回答件数は189件であり、一人あたり回答件数は4.0件となっています。

表 対象者や家族等をめぐる課題（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)
高齢・介護に関すること	24 (51.1)
障害に関すること	24 (51.1)
子ども・子育てに関すること	24 (51.1)
健康・医療に関すること	23 (48.9)
就労・経済的な事項に関すること	20 (42.6)
交通環境、買物・通院環境に関すること	18 (38.3)
防災・防犯に関すること	16 (34.0)
自立やひきこもりに関すること	15 (31.9)
居場所・孤立に関すること	15 (31.9)
人権・家庭内暴力に関すること	14 (29.8)

図 対象者や家族等をめぐる課題（複数回答）



区分	人 (%)
ごみ・住環境に関すること	11 (23.4)
近隣とのトラブルに関すること	9 (19.1)
その他	0 (0.0)
特にない	2 (4.3)
無回答	0 (0.0)

6-2-2 対象者をめぐる課題の具体的内容（問5-1）

問5-1 問5で答えたことについて、具体的な内容をご記入ください。

対象者をめぐる課題の具体的内容について記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、回答者の取組分野を示しています。

(1) 高齢者福祉に関する取組を行っている回答者

- 独居の認知症高齢者宅の防犯・防災の担保（高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉）
- 独居高齢者で家族の協力が得られない。あんサボを使うほどでもないけど金銭管理が難しい独居高齢者（高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、医療）
- 認知症独居の方のサービスの不足、金銭面でサービスが使えない方への社会資源、ごみ出しなどの社会資源の充実、家族支援の連携体制など（高齢者福祉、障害者福祉）
- 8050問題 資源屋敷（高齢者福祉）
- 認知症の家族を抱えて就労する難しさ（高齢者福祉）
- 就労していない家族がいる。認知症だが、一人

- 暮らしである。(高齢者福祉)
- 高齢化が進み、地域での災害時の対策が大変困っています。特に山間部は交通の便も悪く移動が大変です。(高齢者福祉)
- 山間部ではまだ交通環境が充分ではないので、免許返納後の買物や通院に不安を抱くケースがある(本人・ご家族)(高齢者福祉)
- 介護負担が増えて、争いが耐えない状態にある。(高齢者福祉)
- 虐待案件(高齢者福祉)
- セルフネグレクトや山間地域のケースなど(高齢者福祉)
- 家族も高齢化していることと、利用者さんの認知度も上がり、見守りや介助の頻度多くなり1:1の介助が必要なことも増えた。独居の方も増え、心配は多い。体が不自由なことで災害時の避難も不安である。(高齢者福祉)
- 認知症高齢者ご夫婦、または、独居の方がいたるところにいらっしゃいます。病院受診も定かではなく、健康状態を悪くしています。バスなどの交通機関はなく、電車は通っていても駅まで歩いて30分以上。ますます閉じこもりになり、生活の質を悪くしています。(高齢者福祉)
- 山間部の居住者が多く病院や通所施設に通うことが容易ではない。買物についても同様である。(高齢者福祉)
- 当施設では上記の事柄を踏まえ個々に対応している。(高齢者福祉)
- 良い病院がない。婦人科(高齢者福祉)

(2) 児童に関する取組を行っている回答者

- 障害福祉サービス利用の支援(児童福祉、障害者福祉、教育、医療)
- 児への虐待案件、本人の家族からの相談、触法行為がある。(児童福祉、障害者福祉)
- お子さんの障害に対する受容(児童福祉)
- DV、ひきこもり、障害児の専門機関への繋げ方。(児童福祉)

- 子どもの発達、感染症、DW、虐待等(児童福祉)
- 学校に行けない子どもがいた時がありました。(児童福祉)
- 子どもが安心、安全に過ごしていただける環境作り、施設(児童福祉)
- 今学校に来ていない子がいて、体調が良くなってあまり行けていないとの事なので気になりました(児童福祉)
- 的確なアドバイスができているか(児童福祉)
- 保護者の子どもに対する関わり方の課題。(児童福祉)
- 核家族化が進み、家族の孤立化。特に、転居して飯能市に来た親子。(児童福祉)
- 子どもの保護者が病気になっていて、経済的に困っている人がいる。(児童福祉)
- ご夫婦の仲が良くない家庭があり、子どもにも負担がかかっている。(児童福祉)
- 障害児とはっきり言われていない子に対する働きかけで、保護者の理解がなく、悩んでしまう。(児童福祉)

(3) 障害者に関する取組を行っている回答者

- 子どもの障がい福祉、保育 またその親子支援(障害者福祉)
- 医療と障害の違いが住民にわかりにくいのではないかと思います。成人が自立するためには経済的な要素が大きいため。(障害者福祉)
- 金銭管理や将来の不安についてのご相談が多いです。(障害者福祉)

(4) 教育等に関する取組を行っている回答者

- 教育相談、就学相談(教育)
- 保育(教育)
- 個性的なお子さんが多いので、発達に対しての見通しや子育てについて相談される。(不明)

6-2-3 現行のサービス等で解決できない問題（問6）

問6 あなたが担当している方やご家族等について、現行のサービスや社会資源の活用では解決できずに困っている問題・事例はありますか。（あてはまるものすべてに○）

「利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース」が最も多い

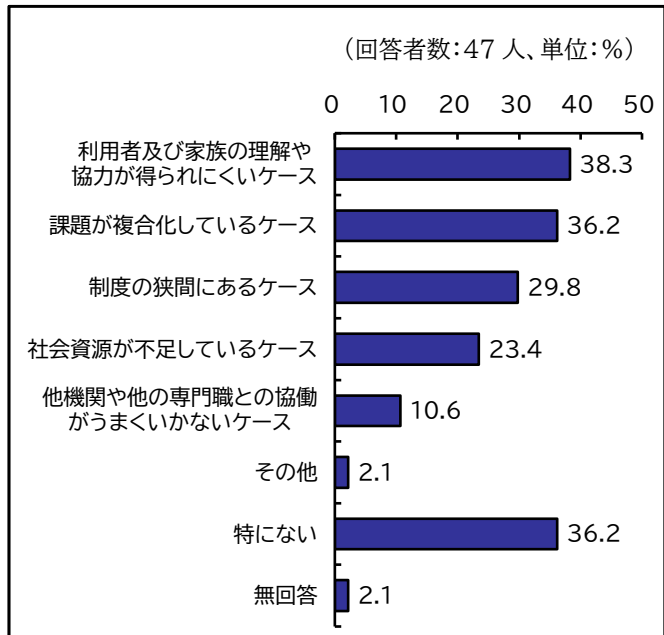
現行のサービス等で解決できない問題については、回答者数から「特にない」（36.2%）及び無回答（2.1%）を除く61.7%が“問題がある”と回答しています。

その内訳は「利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース」が38.3%で最も多く、次いで「課題が複合化しているケース」が36.2%、「制度の狭間にあるケース」が29.8%で続いています。

表 現行のサービス等で解決できない問題（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)
利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース	18 (38.3)
課題が複合化しているケース	17 (36.2)
制度の狭間にあるケース	14 (29.8)
社会資源が不足しているケース	11 (23.4)

図 現行のサービス等で解決できない問題（複数回答）



区分	人 (%)
他機関や他の専門職との協働がうまくいかないケース	5 (10.6)
その他	1 (2.1)
特にない	17 (36.2)
無回答	1 (2.1)

6-2-4 問題の具体的な内容と解決に向けた提案（問6-1、問6-2）

問6-1 その具体的な内容を、問6の番号ごとに下の枠に記入してください。

問6-2 上記で書かれた問題・事例に対して、解決に向けたご提案がありましたらお書きください。

解決できない問題の具体的な内容及び解決に向けた提案について記入していただいたところ、次の通りとなっています。

(1) 高齢者福祉に関する取組を行っている回答者

取組分野	問6 解決できない問題	問6-1 問題の具体的な内容	問6-2 解決に向けた提案
高齢者福祉 児童福祉 障害者福祉 医療	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース	独居高齢者で家族が協力してもらえない方の受診援助。	受診同行してもらえるサービスがあるとよい。

取組分野	問6 解決できない問題	問6-1 問題の具体的な内容	問6-2 解決に向けた提案
高齢者福祉 障害者福祉	2.課題が複合化しているケース 3.制度の狭間にあるケース 4.社会資源が不足しているケース 6.その他	[2] 多問題家族への対応 [3] 介護と障害のサービス利用 [4] 巡回型や小規模多機能のサービスが山間部などのサービス不足 [6] お金がなくてサービスが利用できない。お金がかからない支援	介護と障害の線引きをケース毎に臨機応変に対応できる市独自の決まりを作る、地域住民が自発的に活動できるボランティアや助け合いの場・システムを更に充実させる、など。
高齢者福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース 2.課題が複合化しているケース 3.制度の狭間にあるケース 4.社会資源が不足しているケース 5.他機関や他の専門職との協働がうまくいかないケース	8050 問題・金銭的困窮・山間地域・高齢者虐待・認知症高齢者	地域の助け合い活動
高齢者福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース 2.課題が複合化しているケース	精神疾患や、住宅環境問題。サービス利用にあてるお金がないなどの経済的課題。	提案する内容がないので困ってるんです。
高齢者福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース 2.課題が複合化しているケース 3.制度の狭間にあるケース 4.社会資源が不足しているケース	複雑な制度を理解していただくのが大変です。	—
高齢者福祉	7.特になし	—	今現在のケースはいないが、定期巡回型の対応のサービス事業所があればよいと思った経験がある。
高齢者福祉	3.制度の狭間にあるケース 4.社会資源が不足しているケース	身体が元気だが、認知症がある方は、介護度は低くなってしまう。サービスに制限がある。	なくて困っています。
高齢者福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース 3.制度の狭間にあるケース	同居家族がいるために、必要な支援ができない。	同居家族がいても、本人の持病を勘案しての介護サービスの利用。
高齢者福祉	2.課題が複合化しているケース	認知症、虐待、貧困	相談窓口の多様化

第6章 専門職向けアンケート

取組分野	問6 解決できない問題	問6-1 問題の具体的な内容	問6-2 解決に向けた提案
高齢者福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース 2.課題が複合化しているケース 3.制度の狭間にあるケース 4.社会資源が不足しているケース 5.他機関や他の専門職との協働がうまくいかないケース	[1] 虐待ケースなど [2] 介護保険制度ではなく、他の制度にも該当しないが、支援者が必要なケース。他県在住の親族とのトラブルで他県の専門機関に繋がりたいが、支援機関が不明瞭で難航するケース [3] 山間地域で遠方のため、事業所が不足しているケース [4] 精神科領域の支援が必要だが、担当ケアマネジャーが対応しかねるケース [5] 医療の必要性が高いが説明の理解が困難で末期ガン等が進行しているケース	—
高齢者福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース 2.課題が複合化しているケース	独居でなかなか受診もできず悪化するケースや危険な環境内(家の中)で生活をしている。薬の管理や食事の賞味期限も見れないなど、経済的に選択肢が狭いので、アドバイスにも限りがある。	根気強く、家族に話したり、ケアマネさんに相談する。

(2) 児童福祉に関する取組を行っている回答者

取組分野	問6 解決できない問題	問6-1 問題の具体的な内容	問6-2 解決に向けた提案
児童福祉 障害者福祉 教育 医療	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース 3.制度の狭間にあるケース 4.社会資源が不足しているケース	[1] 金銭管理ができず生活が破綻しているが、本人が拒否しサービスに結びつかない。 [3] [4] 若年層の方で「居場所がほしい」「話し相手がほしい」という希望があるが、現行の社会資源(地活やサロンなど)は雰囲気合わないとのことで利用に至らない。	—
児童福祉 障害者福祉	2.課題が複合化しているケース 3.制度の狭間にあるケース 4.社会資源が不足しているケース	[2] 児が発達・知的障害で親が精神疾患、子どもに対して暴力・暴言を吐いてしまう。 [3] 福祉サービスから介護保険への移行 [4] 本人・家族が納得して使える資源がない、短期入所の不足、就業先の不足、ヘルパーの人員不足	農ある暮らし飯能とコラボして福祉従事者を増やす。市とホテルが提携して福祉部門でシェルターとして使用できるようにする。
児童福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース	障害の理解	—
児童福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース	お子さんの発達について、話をしても、なかなか理解してもらえず、療育へ繋がらない。	—
児童福祉	2.課題が複合化しているケース	発達障害や施設にいた子への関わりや支援	—
児童福祉	5.他機関や他の専門職との協働がうまくいかないケース	行政機関との話し合いが、必要な時にできない。	障害の名前がついていない子の相談にも乗っていただけたらいいと思う。

(3) 障害者福祉に関する取組を行っている回答者

取組分野	問6 解決できない問題	問6-1 問題の具体的な内容	問6-2 解決に向けた提案
障害者福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース 3.制度の狭間にあるケース 4.社会資源が不足しているケース 5.他機関や他の専門職との協働がうまくいかないケース	市内での連携がスムーズにいかないことがある。 また親の障がい需要の受け入れにくさ。	職員増員 管理職の方に都内などへの研修
障害者福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース 2.課題が複合化しているケース 3.制度の狭間にあるケース 4.社会資源が不足しているケース	ヘルパー事業所やケアマネジャー、計画相談の不足がある。福祉サービスでは解決できない問題や家族、地域の理解、協力が得られないことで問題解決に至っていない事例もある。	報酬改定など事業所が存続できる体制の整備。地域の居場所となるところへの財政的な支援があるといい。地域や家族に理解を得られるために伴走する相談員が増えるといい。地域で問題について共有したり、話し合う場があるといい。
障害者福祉	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース	本人が理解していなければ、自己決定する事ができない。家族の協力を得られなければ保証人や緊急連絡先を必要とするサービスの利用に制限がかかってしまうため。	医療福祉に関する総合窓口を作った方がいいのではないかと思います。支援機関によっても自己決定よりも、本人を保護するために支援を行う機関もある。所属機関によって、支援の方法や視点は異なるので、総合窓口を作って初期の振り分けや、横断的な指示系統があってもいいのではないかと思います。
障害者福祉	2.課題が複合化しているケース 3.制度の狭間にあるケース	[2] ご本人のことだけでなくご家族の問題も含んでいるケースがある。 [3] ご本人が困っていることに対してのサービスが見当たらない	—

(4) 教育等に関する取組を行っている回答者

取組分野	問6 解決できない問題	問6-1 問題の具体的な内容	問6-2 解決に向けた提案
教育	2.課題が複合化しているケース	教育分野を超えた事案が多い。	お互いに手を取り合う連携姿勢を図りたい。
教育	1.利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース	良い保育、子育て、親がやるべき子育てを親が理解をしてくれない	標準保育の時間を短縮すべきだと思います
不明	5.他機関や他の専門職との協働がうまくいかないケース	支援は入っているが、保護者と信頼関係が築くのに時間がかかっている機関があり、情報を伝える際に難しいことがある。	保護者とのコミュニケーションを密に取り、訪問や面談等行うとよいのではないかと思います。抱えているケースが多いので、電話だけの対応が多くなってしまうのは仕方がないと思いますが、各機関、顔の見える関係になることも大事に思います。

第3節 多職種連携について

6-3-1 相談支援業務の有無（問7）

問7 あなたは、相談支援業務を行っていますか。（1つだけに○）

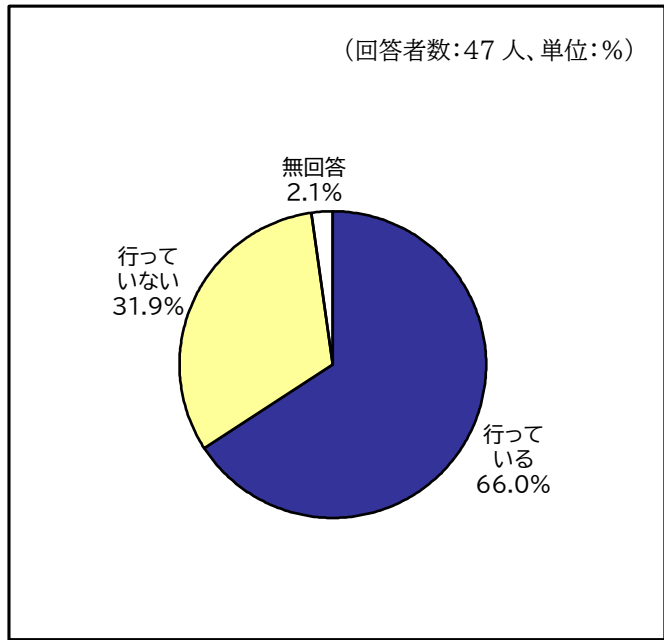
「行っている」が66.0%

相談支援業務の有無については、「行っている」が66.0%（31人）、「行っていない」が31.9%となっています。

表 相談支援業務の有無

区分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)
行っている	31 (66.0)
行っていない	15 (31.9)
無回答	1 (2.1)

図 相談支援業務の有無



6-3-2 相談支援業務における多職種連携の状況（問8）

問8 相談支援業務を行うにあたり、他の機関や職種と連携して取り組むことはありますか。（1つだけに○）

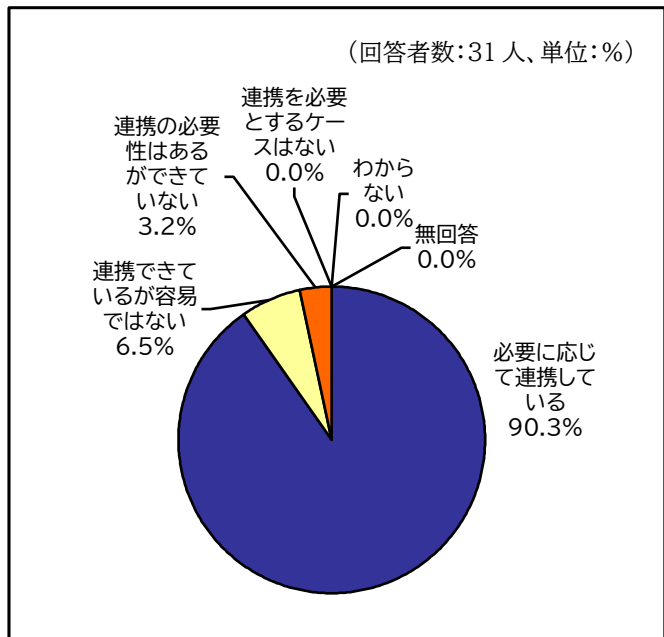
「連携している」が90.3%

相談支援業務の有無(問7)において「行っている」と回答した31人に対し、相談支援業務における多職種連携の状況について聞いたところ、「必要に応じて連携している」が90.3%となっています。

表 相談支援業務における多職種連携の状況

区分	人 (%)
回答者数	31 (100.0)
必要に応じて連携している	28 (90.3)
連携できているが容易ではない	2 (6.5)
連携の必要性はあるができていない	1 (3.2)
連携を必要とするケースはない	0 (0.0)
わからない	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)

図 相談支援業務における多職種連携の状況



6-3-3 多職種連携に対する意識（問9）

問9 相談支援業務を行うにあたり、他の機関や職種と連携して取り組むことについてどのように思いますか。
(1つだけに○)

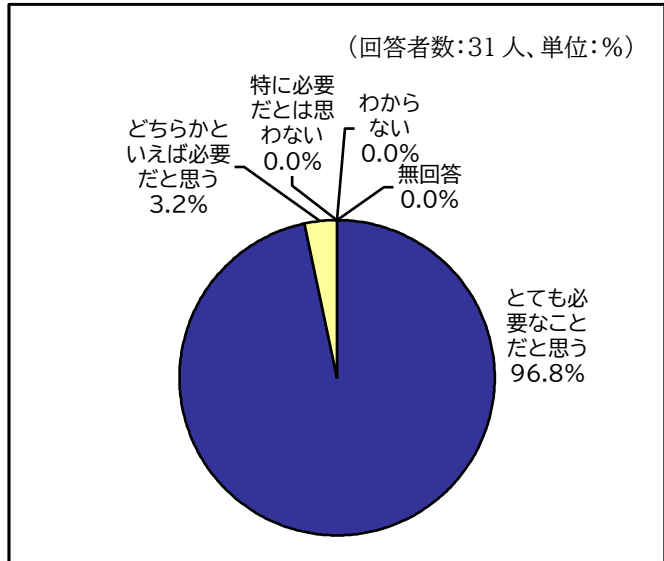
「とても必要なことだと思う」が96.8%

相談支援業務の有無(問7)において「行っている」と回答した31人に対し、多職種連携に対する意識について聞いたところ、「とても必要なことだと思う」が96.8%となっています。

表 多職種連携に対する意識

区分	人 (%)
回答者数	31 (100.0)
とても必要なことだと思う	30 (96.8)
どちらかといえば必要だと思う	1 (3.2)
特に必要だとは思わない	0 (0.0)
わからない	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)

図 多職種連携に対する意識



6-3-4 連携が円滑になるための条件（問9-1）

問9-1 今後、他の機関や職種との連携が円滑になるためには、どのような条件が整えばよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

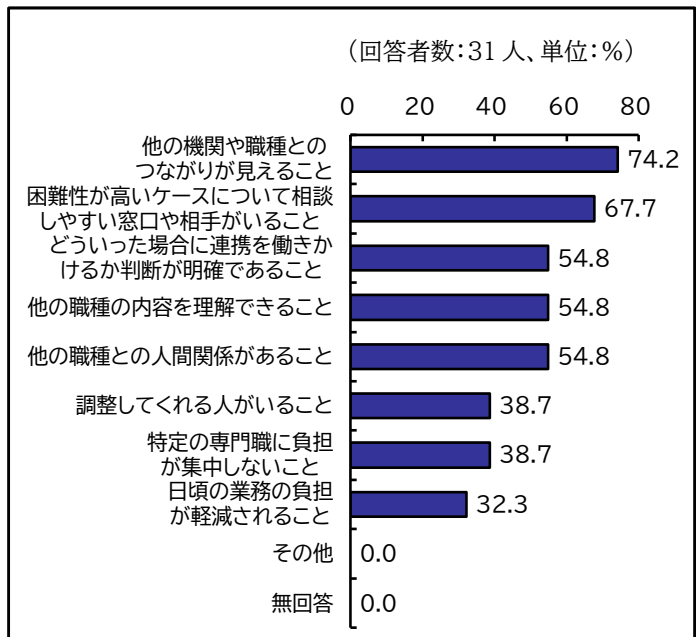
「他の機関や職種とのつながりが見えること」が最も多い

相談支援業務の有無(問7)において「行っている」と回答した31人に対し、連携が円滑になるための条件について聞いたところ、「他の機関や職種とのつながりが見えること」が74.2%で最も多く、次いで「困難性が高いケースについて相談しやすい窓口や相手がいること」が67.7%で続いています。

表 連携が円滑になるための条件（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	31 (100.0)
他の機関や職種とのつながりが見えること	23 (74.2)
困難性が高いケースについて相談しやすい窓口や相手がいること	21 (67.7)
どういった場合に連携を働きかけるか判断が明確であること	17 (54.8)
他の職種の内容を理解できること	17 (54.8)
他の職種との人間関係があること	17 (54.8)
調整してくれる人があること	12 (38.7)

図 連携が円滑になるための条件（複数回答）



区分	人 (%)
特定の専門職に負担が集中しないこと	12 (38.7)
日頃の業務の負担が軽減されること	10 (32.3)
その他	0 (0.0)
無回答	0 (0.0)

6-3-5 「参加支援」の必要性（問10（1））

問10 本人やご家族のニーズと地域の資源との間を取り持つなど社会とのつながりを回復する支援（参加支援）についてお伺いします。

(1) あなたは、「参加支援」についてどのように思いますか。（1つだけに○）

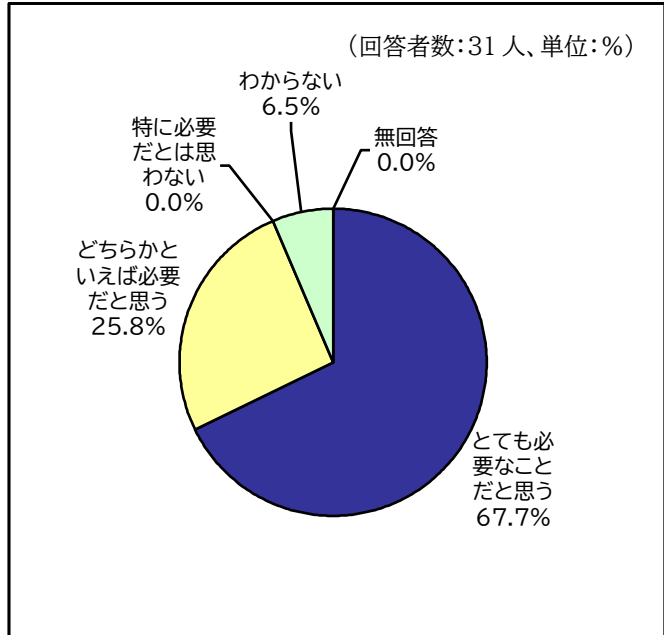
“必要なことだと思う”が93.5%

相談支援業務の有無(問7)において「行っている」と回答した31人に対し、「参加支援」の必要性について聞いたところ、「とても必要なことだと思う」が67.7%、「どちらかといえば必要だと思う」が25.8%であり、これらを合わせると93.5%が“必要なことだと思う”と回答しています。

表 「参加支援」の必要性

区分	人 (%)
回答者数	31 (100.0)
とても必要なことだと思う	21 (67.7)
どちらかといえば必要だと思う	8 (25.8)
特に必要だとは思わない	0 (0.0)
わからない	2 (6.5)
無回答	0 (0.0)

図 「参加支援」の必要性



6-3-6 「参加支援」対象者の有無（問10（2））

(2) 普段の業務の中で、「参加支援」を必要とする対象者はいますか。（1つだけに○）

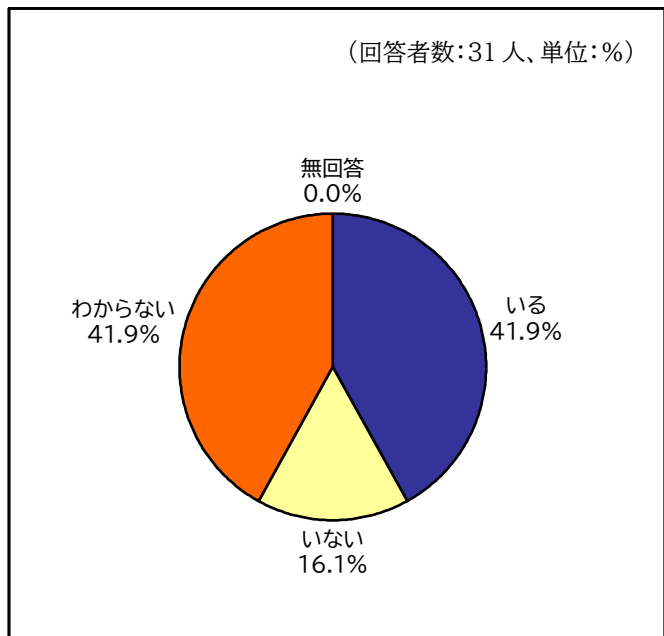
「わからない」が41.9%

相談支援業務の有無(問7)において「行っている」と回答した31人に対し、「参加支援」対象者の有無について聞いたところ、「いる」が41.9%、「いない」が16.1%、「わからない」が41.9%となっています。

表 「参加支援」対象者の有無

区分	人 (%)
回答者数	31 (100.0)
いる	13 (41.9)
いない	5 (16.1)
わからない	13 (41.9)
無回答	0 (0.0)

図 「参加支援」対象者の有無



6-3-7 「参加支援」対象者の具体的な状況（問10（3））

（3）「参加支援」を必要とする対象者について、具体的な内容をお書き下さい。

「参加支援」を必要とする対象者の具体的な状況について記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、回答者の取組分野を示しています。

（1）高齢者に関する取組を行っている回答者

- 認知症高齢者（高齢者福祉）
- 見守り支援があれば、自宅ですごせる（高齢者福祉）
- 家に閉じこもりがちで近所の付き合いもない。（高齢者福祉）
- 全員（高齢者福祉）

（2）児童福祉に関する取組を行っている回答者

- うつ病で何年もひきこもりで家族以外とのつながりがない。（児童福祉、障害者福祉、教育、医療）
- 山間部に住んでおり、母が支援を必要とせず息子が社会との関わりを閉ざされている。（児童福祉、障害者福祉）
- 4年生の1月ぐらいから学校に行けていなくて、そこから不登校になってしまった子がいます。その原因はお母さんの体調不良もあって、その子も一緒に体調不良になってしまったり

で学校に行けていません。（児童福祉）

- 子をもつ親（特に母）（児童福祉）

（3）障害者福祉に関する取組を行っている回答者

- 学校に行けなくなってしまった生徒。会社や学校に馴染めず家に引きこもっている人。行けるところはあるが生活に困り感があり、同行するなどの支援を必要とする人。医療機関にもつながっておらず、生活困窮となっている60代前後の方。家族と関係が上手くいかないでストレスを抱えている方など。（障害者福祉）
- こちらは必要性を感じても、本人が望んでいない場合もあるため、その判断は難しい。（障害者福祉）
- ご本人やご家族が必要としない場合もあるため、ケースにより臨機応変に対応している。（障害者福祉）
- 緘黙症の方や、知的障害があり、サービスの導入に支援を必要としている人。（障害者福祉）

第4節 「はんのうふくしの森プラン」について

6-4-1 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度(問11)

問11 あなたは、「第3次はんのうふくしの森プラン」(平成31年度～令和5年度)をご存じですか。(1つだけに○)

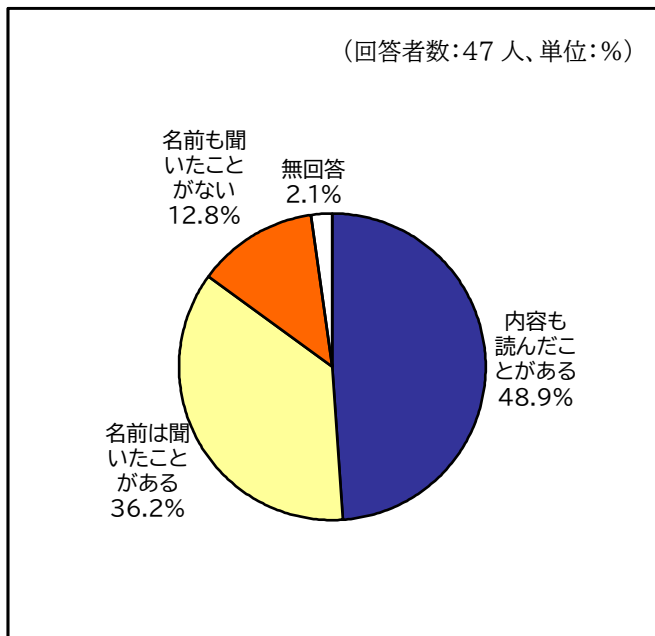
“知っている”が85.1%

「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度については、「内容も読んだことがある」が48.9%、「名前は聞いたことがある」が36.2%であり、これらを合わせると85.1%が“知っている”と回答しています。

表 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度

区分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)
内容も読んだことがある	23 (48.9)
名前は聞いたことがある	17 (36.2)
名前も聞いたことがない	6 (12.8)
無回答	1 (2.1)

図 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度



6-4-2 「第3次はんのうふくしの森プラン」の施策内容の評価（問12）

問12 現行の「第3次はんのうふくしの森プラン」では、次のように4つの基本目標とそれを実現するための取組を掲げ、市民、市及び社会福祉協議会が協働して行っています。あなたは、(1)～(21)の取組についてどのようにお考えですか。それぞれ1つずつお答えください。

「交流の場づくり」や「相談支援体制の強化」、「多様な福祉学習」が多くみられる

「第3次はんのうふくしの森プラン」に掲げられた施策内容について、「とても進んだ」及び「やや進んだ」を合わせた“進んだ”の割合をみると、「地域の居場所などの交流の場づくり」が46.9%（4.3%+42.6%）で最も多く、次いで「ネットワークによる相談支援体制の強化」が42.5%（2.1%+40.4%）、「学校などにおける多様な福祉学習の推進」が40.4%（6.4%+34.0%）で続いています。

図 「第3次はんのうふくしの森プラン」の施策内容の評価

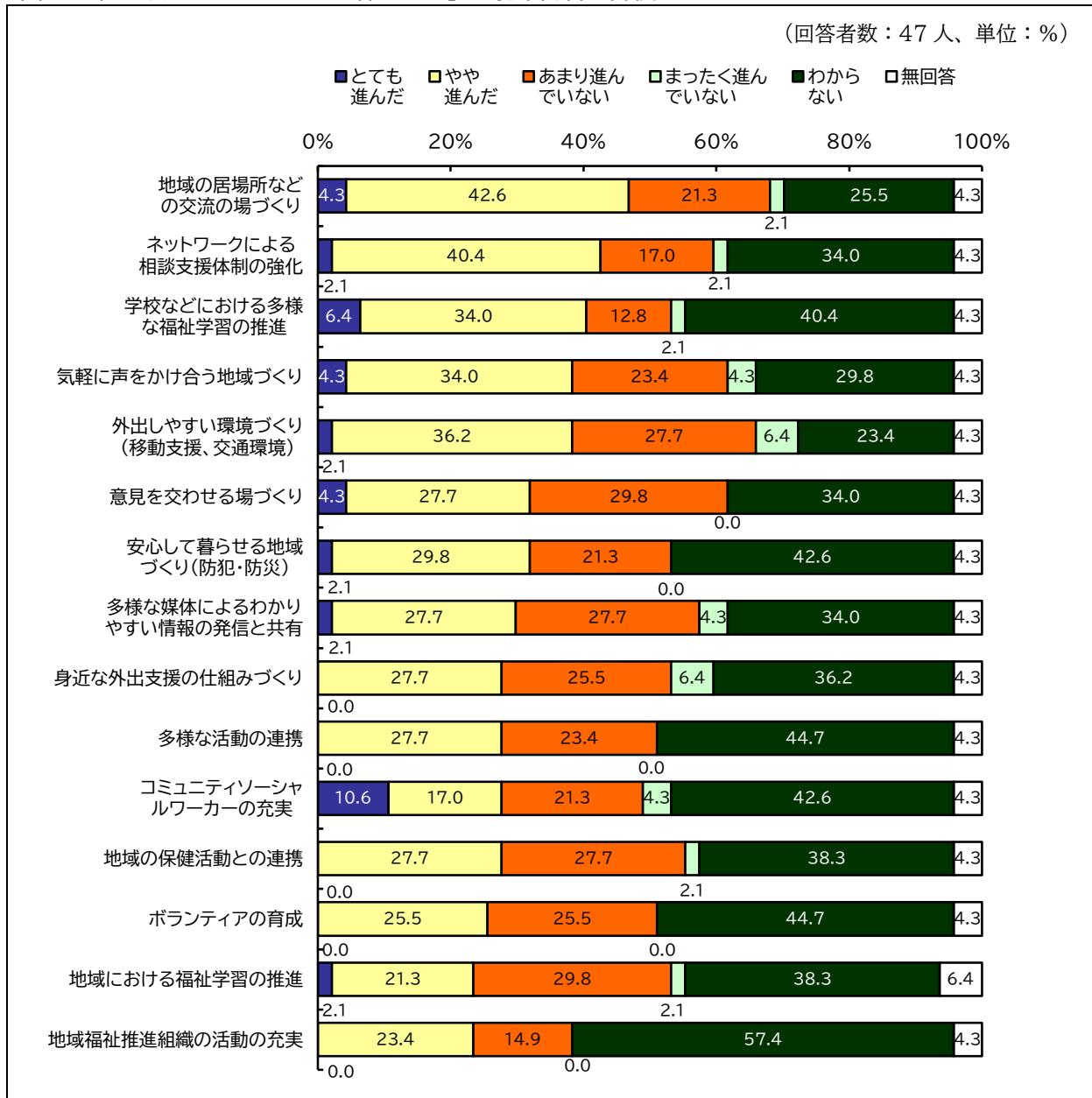


図 「第3次はんのうふくしの森プラン」の施策内容の評価(続き)

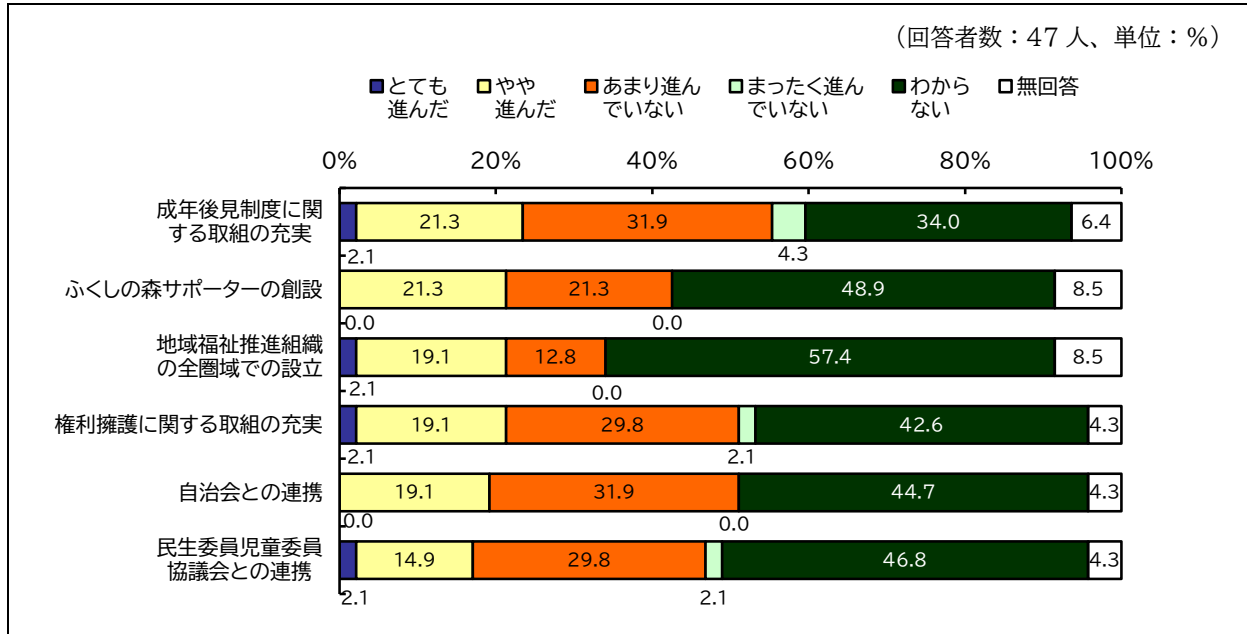


表 「第3次はんのうふくしの森プラン」の施策内容の評価

回答者数: 47人、単位: %

区分	とても進んだ	やや進んだ	あまり進んでいない	まったく進んでいない	わからない	無回答
地域の居場所などの交流の場づくり	2 (4.3)	20 (42.6)	10 (21.3)	1 (2.1)	12 (25.5)	2 (4.3)
ネットワークによる相談支援体制の強化	1 (2.1)	19 (40.4)	8 (17.0)	1 (2.1)	16 (34.0)	2 (4.3)
学校などにおける多様な福祉学習の推進	3 (6.4)	16 (34.0)	6 (12.8)	1 (2.1)	19 (40.4)	2 (4.3)
気軽に声をかけ合う地域づくり	2 (4.3)	16 (34.0)	11 (23.4)	2 (4.3)	14 (29.8)	2 (4.3)
外出しやすい環境づく(移動支援、交通環境)	1 (2.1)	17 (36.2)	13 (27.7)	3 (6.4)	11 (23.4)	2 (4.3)
意見を交わせる場づくり	2 (4.3)	13 (27.7)	14 (29.8)	0 (0.0)	16 (34.0)	2 (4.3)
安心して暮らせる地域づくり(防犯・防災)	1 (2.1)	14 (29.8)	10 (21.3)	0 (0.0)	20 (42.6)	2 (4.3)
多様な媒体によるわかりやすい情報の発信と共有	1 (2.1)	13 (27.7)	13 (27.7)	2 (4.3)	16 (34.0)	2 (4.3)
身近な外出支援の仕組みづくり	0 (0.0)	13 (27.7)	12 (25.5)	3 (6.4)	17 (36.2)	2 (4.3)
多様な活動の連携	0 (0.0)	13 (27.7)	11 (23.4)	0 (0.0)	21 (44.7)	2 (4.3)
コミュニティソーシャルワーカーの充実	5 (10.6)	8 (17.0)	10 (21.3)	2 (4.3)	20 (42.6)	2 (4.3)
地域の保健活動との連携	0 (0.0)	13 (27.7)	13 (27.7)	1 (2.1)	18 (38.3)	2 (4.3)
ボランティアの育成	0 (0.0)	12 (25.5)	12 (25.5)	0 (0.0)	21 (44.7)	2 (4.3)
地域における福祉学習の推進	1 (2.1)	10 (21.3)	14 (29.8)	1 (2.1)	18 (38.3)	3 (6.4)
地域福祉推進組織の活動の充実	0 (0.0)	11 (23.4)	7 (14.9)	0 (0.0)	27 (57.4)	2 (4.3)
成年後見制度に関する取組の充実	1 (2.1)	10 (21.3)	15 (31.9)	2 (4.3)	16 (34.0)	3 (6.4)
ふくしの森サポーターの創設	0 (0.0)	10 (21.3)	10 (21.3)	0 (0.0)	23 (48.9)	4 (8.5)
地域福祉推進組織の全圏域での設立	1 (2.1)	9 (19.1)	6 (12.8)	0 (0.0)	27 (57.4)	4 (8.5)
権利擁護に関する取組の充実	1 (2.1)	9 (19.1)	14 (29.8)	1 (2.1)	20 (42.6)	2 (4.3)
自治会との連携	0 (0.0)	9 (19.1)	15 (31.9)	0 (0.0)	21 (44.7)	2 (4.3)
民生委員児童委員協議会との連携	1 (2.1)	7 (14.9)	14 (29.8)	1 (2.1)	22 (46.8)	2 (4.3)

〔参考〕加重平均値による項目の比較（問12）

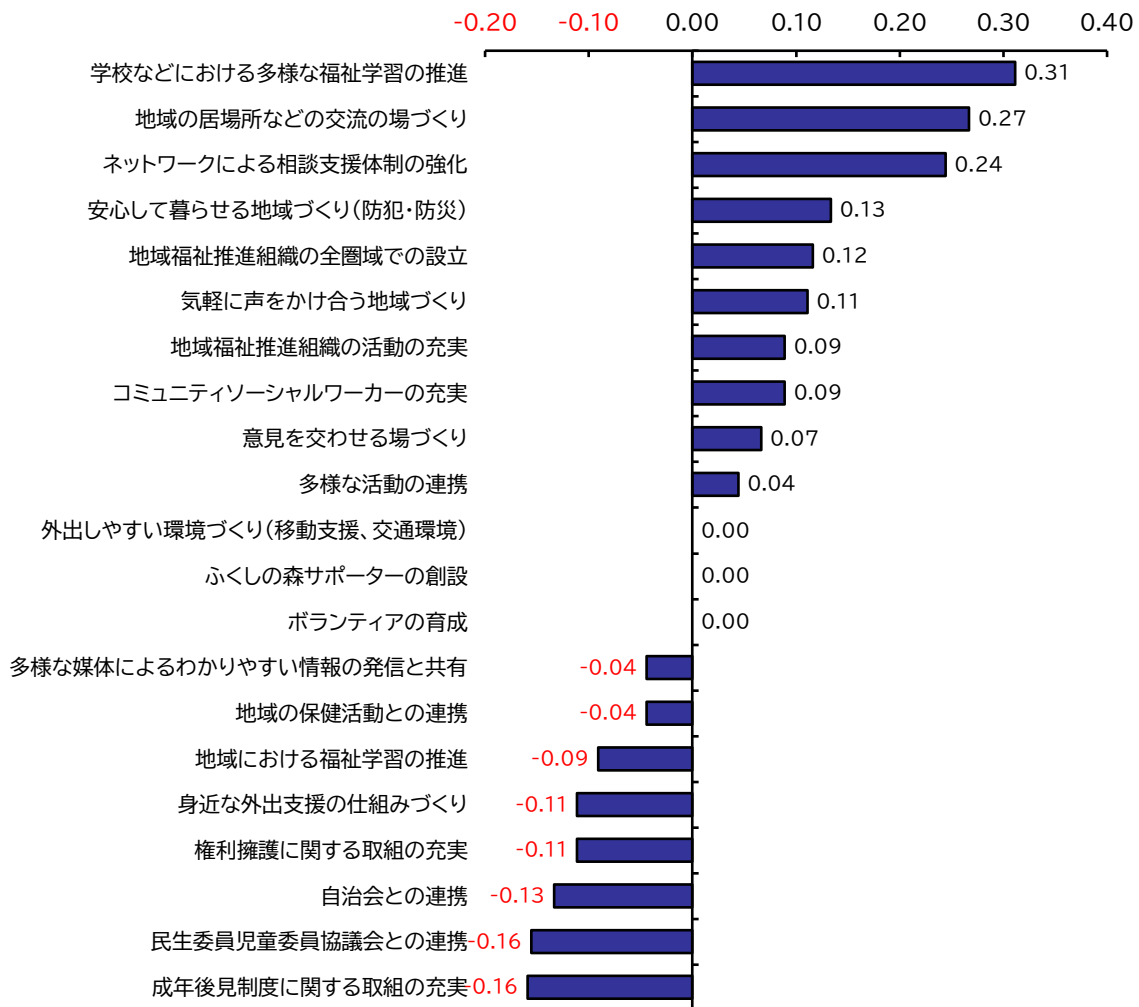
「多様な福祉学習」や「交流の場づくり」、「相談支援体制の強化」などの評価が高い

「第3次はんのうふくしの森プラン」に掲げられた施策内容の評価（問10）において、各項目の加重平均値※を算出し比較したところ、「学校などにおける多様な福祉学習の推進」が0.31点で最も高く、続いて「地域の居場所などの交流の場づくり」が0.27点、「ネットワークによる相談支援体制の強化」が0.24点で続いています。

一方、「成年後見制度に関する取組の充実」や「民生委員児童委員協議会との連携」、「自治会との連携」などはマイナスの評価となっています。

図 加重平均値による「第3次はんのうふくしの森プラン」の施策内容の評価の比較

回答者数：47人、単位：点



※ 「加重平均値」の考え方と算出方法については、4ページを参照してください。

表 「第3次はんのうふくしの森プラン」の施策内容の評価と加重平均値

回答者数：47人、単位：点

区分	とても進んだ	やや進んだ	あまり進んでいない	まったく進んでいない	わからない	加重平均値(点)
学校などにおける多様な福祉学習の推進	3	16	6	1	19	0.31
地域の居場所などの交流の場づくり	2	20	10	1	12	0.27
ネットワークによる相談支援体制の強化	1	19	8	1	16	0.24
安心して暮らせる地域づくり(防犯・防災)	1	14	10	0	20	0.13
地域福祉推進組織の全圏域での設立	1	9	6	0	27	0.12
気軽に声をかけ合う地域づくり	2	16	11	2	14	0.11
地域福祉推進組織の活動の充実	0	11	7	0	27	0.09
コミュニティソーシャルワーカーの充実	5	8	10	2	20	0.09
意見を交わせる場づくり	2	13	14	0	16	0.07
多様な活動の連携	0	13	11	0	21	0.04
外出しやすい環境づくり(移動支援、交通環境)	1	17	13	3	11	0.00
ふくしの森サポーターの創設	0	10	10	0	23	0.00
ボランティアの育成	0	12	12	0	21	0.00
多様な媒体によるわかりやすい情報の発信と共有	1	13	13	2	16	-0.04
地域の保健活動との連携	0	13	13	1	18	-0.04
地域における福祉学習の推進	1	10	14	1	18	-0.09
身近な外出支援の仕組みづくり	0	13	12	3	17	-0.11
権利擁護に関する取組の充実	1	9	14	1	20	-0.11
自治会との連携	0	9	15	0	21	-0.13
民生委員児童委員協議会との連携	1	7	14	1	22	-0.16
成年後見制度に関する取組の充実	1	10	15	2	16	-0.16

6-4-3 今後重点的に進めるべき施策（問13）

問13 今後、どの分野の取組を重点的に進めるべきだと思いますか。記入例を参考に、問12の(1)～(21)の中から該当する番号とその具体的な内容を下の枠にご記入ください。(いくつでも)
 〔記入例〕 4：相談につながるきっかけになることが大切

「交流の場づくり」や「外出しやすい環境づくり」が多くみられる

今後重点的に進めるべき施策について、記入いただいた内容を集計したところ、「地域の居場所などの交流の場づくり」が12.8%で最も多く、次いで「外出しやすい環境づくり（移動支援、交通環境）」が10.6%で続いています。

図 今後重点的に進めるべき施策（複数回答）

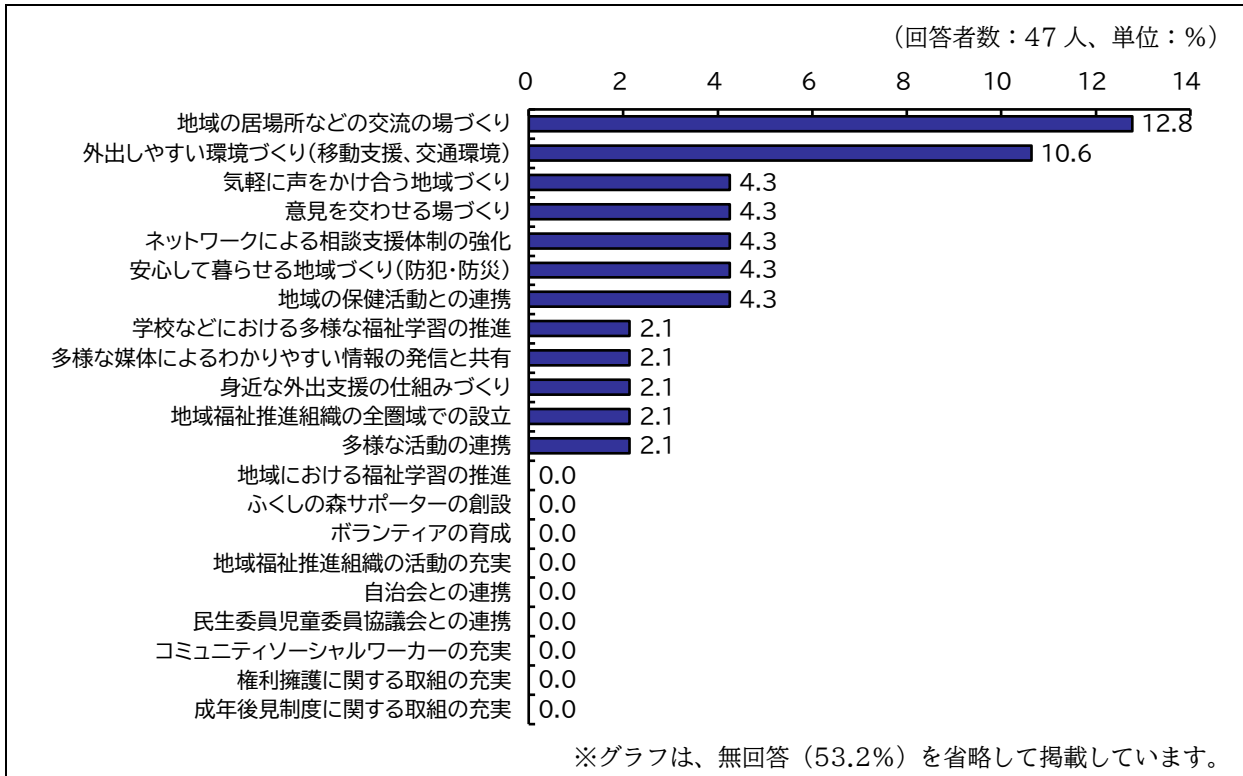


表 今後重点的に進めるべき施策（複数回答）

区分	人 (%)	区分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)	多様な活動の連携	1 (2.1)
地域の居場所などの交流の場づくり	6 (12.8)	地域における福祉学習の推進	0 (0.0)
外出しやすい環境づくり(移動支援、交通環境)	5 (10.6)	ふくしの森サポーターの創設	0 (0.0)
気軽に声をかけ合う地域づくり	2 (4.3)	ボランティアの育成	0 (0.0)
意見を交わせる場づくり	2 (4.3)	地域福祉推進組織の活動の充実	0 (0.0)
ネットワークによる相談支援体制の強化	2 (4.3)	自治会との連携	0 (0.0)
安心して暮らせる地域づくり(防犯・防災)	2 (4.3)	民生委員児童委員協議会との連携	0 (0.0)
地域の保健活動との連携	2 (4.3)	コミュニティソーシャルワーカーの充実	0 (0.0)
学校などにおける多様な福祉学習の推進	1 (2.1)	権利擁護に関する取組の充実	0 (0.0)
多様な媒体によるわかりやすい情報の発信と共有	1 (2.1)	成年後見制度に関する取組の充実	0 (0.0)
身近な外出支援の仕組みづくり	1 (2.1)	無回答	25 (53.2)
地域福祉推進組織の全圏域での設立	1 (2.1)		

その具体的な内容は次の通りとなっています。

(1) 地域の居場所などの交流の場づくりに関すること

- コミュニケーションできる機会がないと、支え合う関係性などが気づきにくい。地域の顔がわからない。(高齢者福祉)
- 子ども～育児中の人～高齢者まで気軽に立ち寄り、交流ができる魅力ある集いの場作り。引きこもりの方などに対してバーチャルなピアサポート体制など。(高齢者福祉、障害者福祉)
- 居場所の紹介と、そこへ行く手段の確保が必要。(高齢者福祉)
- やはり、コロナ禍で人と人の繋がりが希薄になっていると感じます。ここに力を入れないと地域福祉は進まないのでは。(高齢者福祉)
- 気軽に社会と繋がれる場所を作ること(児童福祉、障害者福祉、教育、医療)

(2) 外出しやすい環境づくり(移動支援、交通環境)に関すること

- 移動支援、交通環境の整備(高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉)
- どの地域の方ももっと外出がしやすい環境を整えばよい(高齢者福祉)
- 外出が気軽にできるようになれば安心。(高齢者福祉)

(3) 気軽に声をかけ合う地域づくりに関すること

- 挨拶は大切(高齢者福祉、障害者福祉)
- 活動内容を分かりやすく伝えてほしい(児童福祉)

(4) 意見を交わせる場づくりに関すること

- 意見を合わせる場がますます充実するとよいと思います。(高齢者福祉)
- コミュニケーションできる機会がないと、支え合う関係性などが気づきにくい。地域の顔がわからない。(高齢者福祉)

(5) ネットワークによる相談支援体制の強化に関すること

- 相談しやすい環境作り(高齢者福祉)

- 支援体制を整えることが必要に感じる。(児童福祉)

(6) 安心して暮らせる地域づくり(防犯・防災)に関すること

- 自治会、民生委員との協働(高齢者福祉)
- コミュニケーションできる機会がないと、支え合う関係性などが気づきにくい。地域の顔がわからない。(高齢者福祉)

(7) 地域の保健活動との連携に関すること

- 何か活動やボランティア等をするにも市民が健康で過ごす事が基本である。(児童福祉、障害者福祉)

(8) 学校などにおける多様な福祉学習の推進に関すること

- これからの子どもたちに福祉教育の大事なことを伝えるきっかけになる。(高齢者福祉)

(9) 多様な媒体によるわかりやすい情報の発信と共有に関すること

- 情報の発信が様々な人に届くことが大切なのは。(教育)

(10) 地域福祉推進組織の全圏域での設立に関すること

- コロナ禍で各機関連携をとりにくかったので、ネットワーク作り等、対面できなくても関われる方法を作る。

(11) 多様な活動の連携に関すること

- チームケアで個々をサポートする(高齢者福祉)

(12) その他に関すること

- まず、この取組を知らないで、知っていきたいと思いました。(児童福祉)
- 他機関が行っている事はなかなか理解して、何度でも説明をしながら浸透させる必要があると思います。(障害者福祉)

第5節 共に支え合う地域づくりについて

6-5-1 「地域共生社会」実現のための重点施策（問14）

問14 本市では、地域住民や地域の多様な主体が参画し、支える側と支えられる側の垣根を越えて人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現をめざしています。
「地域共生社会」を実現するために、特にどのような取組が大切だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「身近な地域で気軽に相談できる体制の充実」が最も多い

「地域共生社会」実現のための重点施策については、「身近な地域で気軽に相談できる体制の充実」が83.0%で最も多く、次いで「福祉に関する情報提供の充実」が76.6%、「必要な人に出向き、支援を届ける仕組みづくり」が66.0%で続いています。

図 「地域共生社会」実現のための重点施策（複数回答）

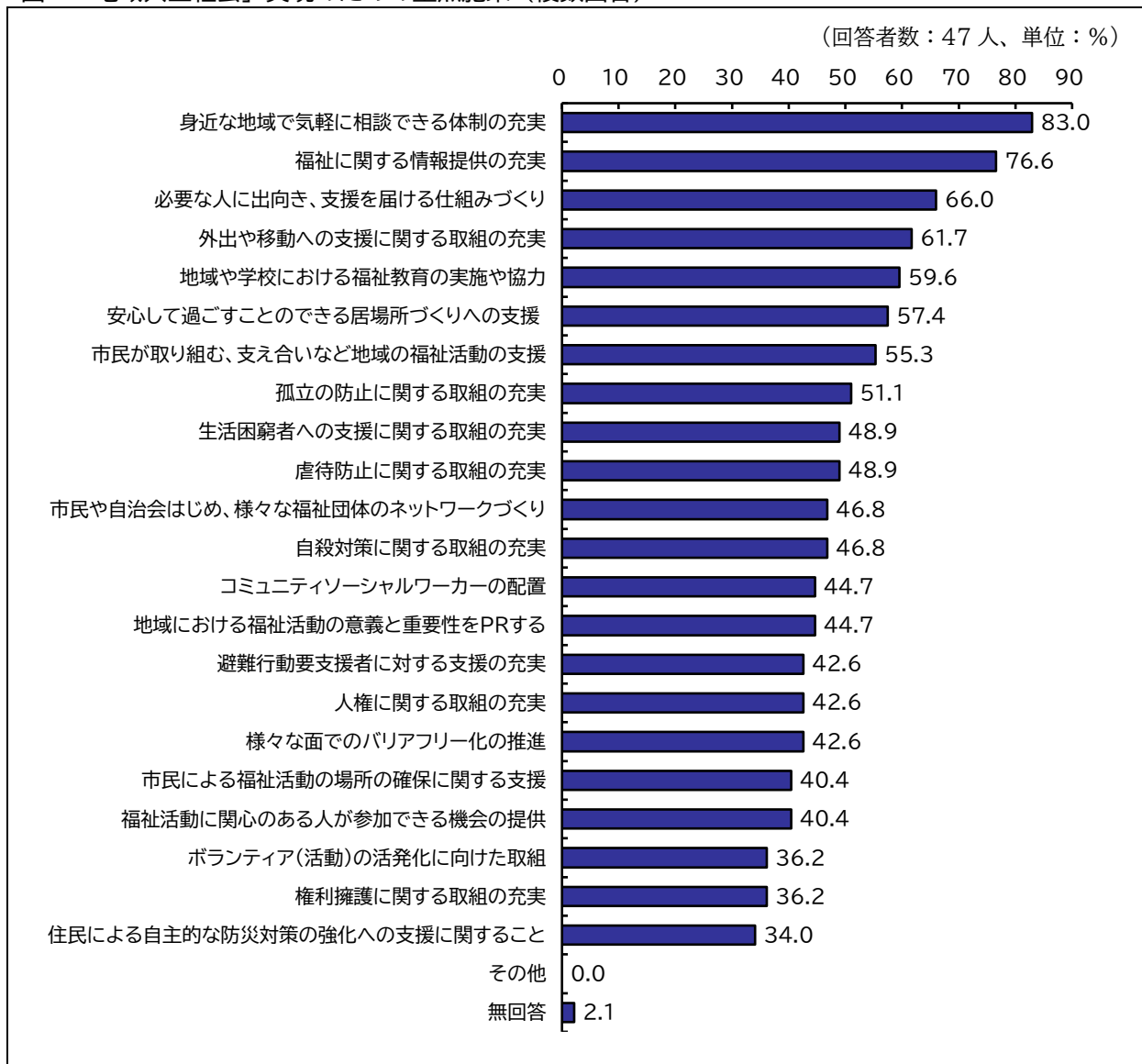


表 「地域共生社会」実現のための重点施策（複数回答）

区 分	人 (%)	区 分	人 (%)
回答者数	47 (100.0)	コミュニティソーシャルワーカーの配置	21 (44.7)
身近な地域で気軽に相談できる体制の充実	39 (83.0)	地域における福祉活動の意義と重要性をPRする	21 (44.7)
福祉に関する情報提供の充実	36 (76.6)	避難行動要支援者に対する支援の充実	20 (42.6)
必要な人に出向き、支援を届ける仕組みづくり	31 (66.0)	人権に関する取組の充実	20 (42.6)
外出や移動への支援に関する取組の充実	29 (61.7)	様々な面でのバリアフリー化の推進	20 (42.6)
地域や学校における福祉教育の実施や協力	28 (59.6)	市民による福祉活動の場所の確保に関する支援	19 (40.4)
他人と交流しながら安心して過ごすことのできる居場所づくりへの支援	27 (57.4)	福祉活動に関心のある人が参加できる機会の提供	19 (40.4)
市民が取り組む、支え合いや見守り活動など地域の福祉活動の支援	26 (55.3)	ボランティア(活動)の活発化に向けた取組	17 (36.2)
孤立の防止に関する取組の充実	24 (51.1)	権利擁護に関する取組の充実	17 (36.2)
生活困窮者への支援に関する取組の充実	23 (48.9)	住民による自主的な防災対策の強化への支援に関すること	16 (34.0)
虐待防止に関する取組の充実	23 (48.9)	その他	0 (0.0)
市民や自治会はじめ、様々な福祉団体のネットワークづくり	22 (46.8)	無回答	1 (2.1)
自殺対策に関する取組の充実	22 (46.8)		

6-5-2 共に支え合う地域づくりのために必要なこと(問15)

問15 その他、地域で暮らす人々が共に支え合う地域にしていくために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

共に支え合う地域づくりのために必要なことについて記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、回答者の取組分野を示しています。

(1) 高齢者に関する取組を行っている回答者

- 独居の認知症高齢者宅の防犯・防災の担保（高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉）
- 独居高齢者で家族の協力が得られない。あんサポを使うほどでもないけど金銭管理が難しい独居高齢者。（高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、医療）
- 認知症独居の方のサービスの不足、金銭面でサービスが使えない方への社会資源、ごみ出しなどの社会資源の充実、家族支援の連携体制など。（高齢者福祉、障害者福祉）
- 8050問題 資源屋敷（高齢者福祉）
- 認知症の家族を抱えて就労する難しさ（高齢者福祉）
- 就労していない家族がいる。認知症だが、一人暮らしである。（高齢者福祉）
- 高齢化が進み、地域での災害時の対策が大変になっています。特に山間部は交通の便も悪く移動が大変です。（高齢者福祉）
- 山間部ではまだ交通環境が充分ではないので、免許返納後の買物や通院に不安を抱くケースがある。（本人・ご家族）（高齢者福祉）

- 介護負担が増えて、争いが耐えない状態にある。（高齢者福祉）
- 虐待案件（高齢者福祉）
- セルフネグレクトや山間地域のケースなど（高齢者福祉）
- 家族も高齢化していることと、利用者さんの認知度も上がり、見守りや介助の頻度が多くなり1：1の介助が必要なことも増えた。独居の方も増え、心配は多い。体が不自由なことで災害時の避難も不安である。（高齢者福祉）
- 認知症高齢者ご夫婦、または、独居の方がいたるところにいらっしゃいます。病院受診も定かではなく、健康状態を悪くしています。バスなどの交通機関はなく、電車は通っていても駅まで歩いて30分以上。ますます閉じこもりになり、生活の質を悪くしています。（高齢者福祉）
- 山間部の居住者が多く病院や通所施設に通うことが容易ではない。買物についても同様である。（高齢者福祉）
- 当施設では上記の事柄を踏まえ個々に対応している。（高齢者福祉）
- 良い病院がない。婦人科（高齢者福祉）

(2) 児童福祉に関する取組を行っている回答者

- 障害福祉サービス利用の支援（児童福祉、障害者福祉、教育、医療）
- 児童への虐待案件、本人の家族からの相談、触法行為がある。（児童福祉、障害者福祉）
- お子さんの障害に対する受容（児童福祉）
- DV、ひきこもり、障害児の専門機関への繋げ方。（児童福祉）
- 子どもの発達、感染症、DW、虐待等（児童福祉）
- 学校に行けない子どもがいた時がありました。（児童福祉）
- 子どもが安心、安全に過ごしていただける環境作り、施設（児童福祉）
- 今学校に来ていない子がいて、体調が悪くなくてあまり行けていないとの事なので気になりました。（児童福祉）
- 的確なアドバイスができていますか（児童福祉）
- 保護者の子どもに対する関わり方の課題。（児童福祉）
- 核家族化が進み、家族の孤立化。特に、転居して飯能市に来た親子。（児童福祉）
- 子どもの保護者が病気になっていて、経済的に

困っている人がいる。（児童福祉）

- ご夫婦の仲が良くない家庭があり、子どもにも負担がかかっている。（児童福祉）
- 障害児とはっきり言われていない子に対する働きかけで、保護者の理解がなく、悩んでしまう。（児童福祉）

(3) 障害者福祉に関する取組を行っている回答者

- 子どもの障がい福祉、保育 またその親子支援（障害者福祉）
- 医療と障害の違いが住民にわかりにくいのではないかと思います。成人が自立するためには経済的な要素が大きいため。（障害者福祉）
- 金銭管理や将来の不安についてのご相談が多いです。（障害者福祉）

(4) 教育等に関する取組を行っている回答者

- 教育相談 就学相談（教育）
- 保育（教育）
- 個性的なお子さんが多いので、発達に対しての見通しや子育てについて相談される。（教育）

第 7 章

市内企業向けアンケート

第1節 回答者自身の状況

7-1-1 事業活動の分野（問1）

問1 事業活動の分野は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

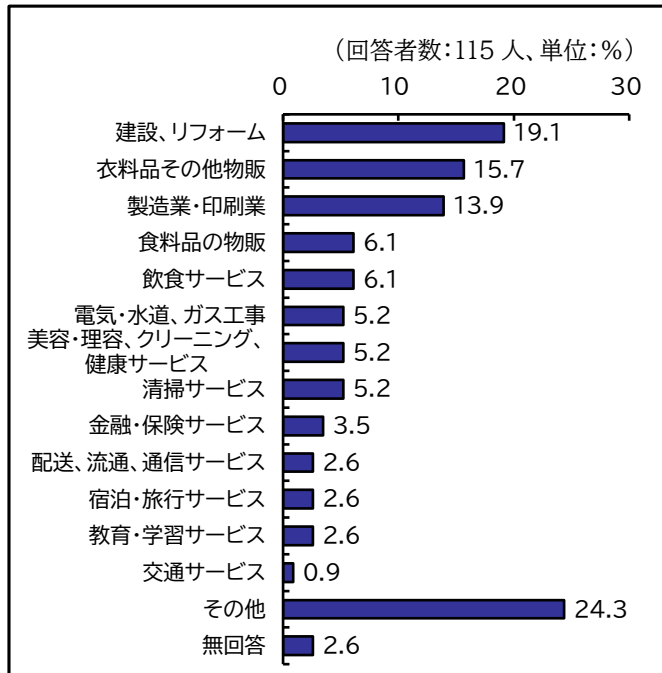
「建設、リフォーム」が最も多い

事業活動の分野については、「建設、リフォーム」が19.1%で最も多く、次いで「衣料品その他物販」が15.7%、「製造業・印刷業」が13.9%が続いています。

表 事業活動の分野

区分	人 (%)
回答者数	115 (100.0)
建設、リフォーム	22 (19.1)
衣料品その他物販	18 (15.7)
製造業・印刷業	16 (13.9)
食料品の物販	7 (6.1)
飲食サービス	7 (6.1)
電気・水道、ガス工事	6 (5.2)
美容・理容、クリーニング、健康サービス	6 (5.2)
清掃サービス	6 (5.2)
金融・保険サービス	4 (3.5)
配送、流通、通信サービス	3 (2.6)
宿泊・旅行サービス	3 (2.6)
教育・学習サービス	3 (2.6)
交通サービス	1 (0.9)

図 事業活動の分野



区分	人 (%)
その他	28 (24.3)
無回答	3 (2.6)

7-1-2 事業所の規模（問2）

問2 事業所の規模（正規・非正規を合わせた社員数）は次のどれですか。（1つだけに○）

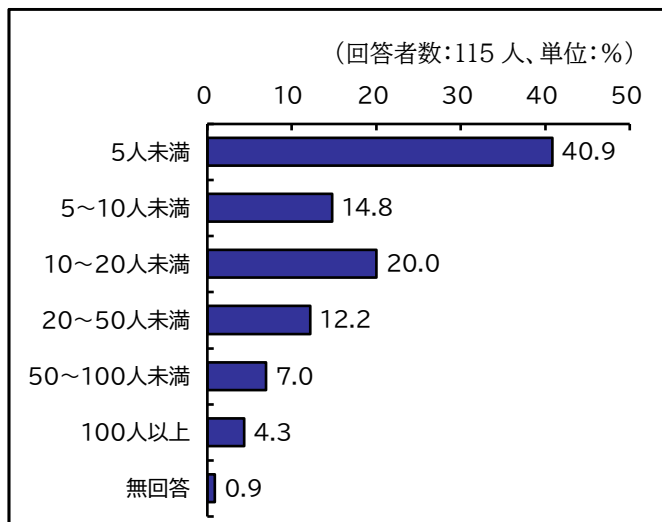
「5人未満」が最も多い

事業所の規模については、「5人未満」が40.9%で最も多く、次いで「10～20人未満」が20.0%が続いています。

表 事業所の規模

区分	人 (%)
回答者数	115 (100.0)
5人未満	47 (40.9)
5～10人未満	17 (14.8)
10～20人未満	23 (20.0)
20～50人未満	14 (12.2)
50～100人未満	8 (7.0)
100人以上	5 (4.3)
無回答	1 (0.9)

図 事業所の規模



7-1-3 事業活動の範囲（問3）

問3 ご回答の事業所の事業活動の範囲を教えてください。（1つだけに○）

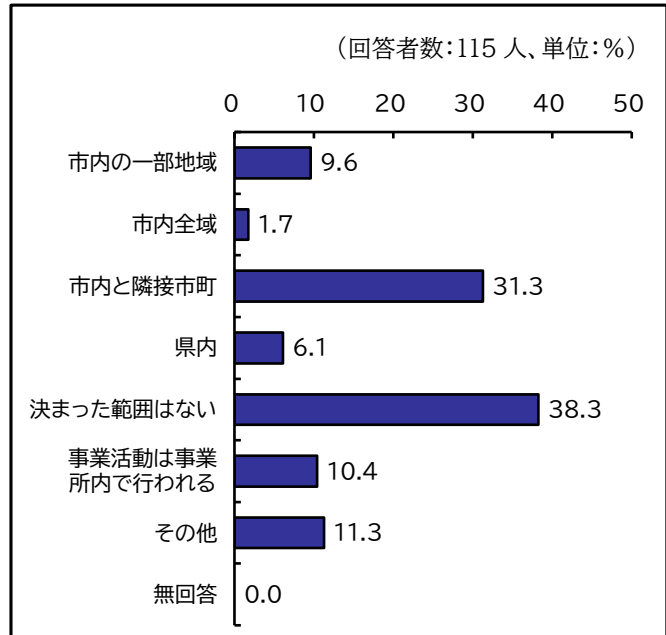
「決まった範囲はない」が最も多い

事業活動の範囲については、「決まった範囲はない」が38.3%で最も多く、次いで「市内と隣接市町」が31.3%が続いています。

表 事業活動の範囲

区分	人 (%)
回答者数	115 (100.0)
市内の一部地域	11 (9.6)
市内全域	2 (1.7)
市内と隣接市町	36 (31.3)
県内	7 (6.1)
決まった範囲はない	44 (38.3)
事業活動は事業所内で行われる	12 (10.4)
その他	13 (11.3)
無回答	0 (0.0)

図 事業活動の範囲



第2節 地域貢献活動について

7-2-1 地域貢献活動の状況（問4）

問4 現在、地域への貢献的な活動に取り組んでいますか。（1つだけに○）

「現在、取り組んでいる」が51.3%

地域貢献活動の状況については、「現在、取り組んでいる」が51.3%（59人）、「以前取り組んでいたが、現在は無い」が11.3%であり、これらを合わせると62.6%が“取り組んでいる・取り組んだことがある”と回答しています。

図 地域貢献活動の状況

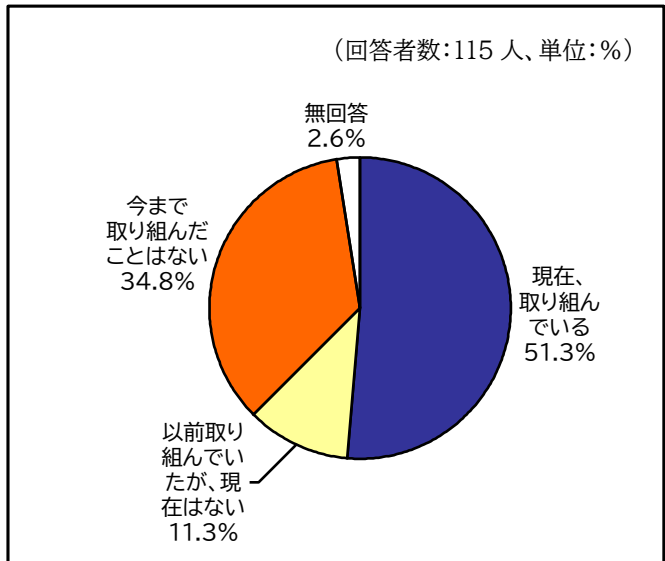


表 地域貢献活動の状況

区分	人 (%)
回答者数	115 (100.0)
現在、取り組んでいる	59 (51.3)
以前取り組んでいたが、現在は無い	13 (11.3)
今まで取り組んだことはない	40 (34.8)
無回答	3 (2.6)

7-2-2 地域貢献活動に取り組んでいる理由（問4-1）

問4-1 取組を行っている理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「地域の一員としての役割を担いたいから」が最も多い

地域貢献活動の状況(問4)において「現在、取り組んでいる」と回答した59人に対し、その理由について聞いたところ、「地域の一員としての役割を担いたいから」が78.0%で最も多く、次いで「地域社会とのコミュニケーションを深めたいから」50.8%で続いています。

図 地域貢献活動に取り組んでいる理由（複数回答）

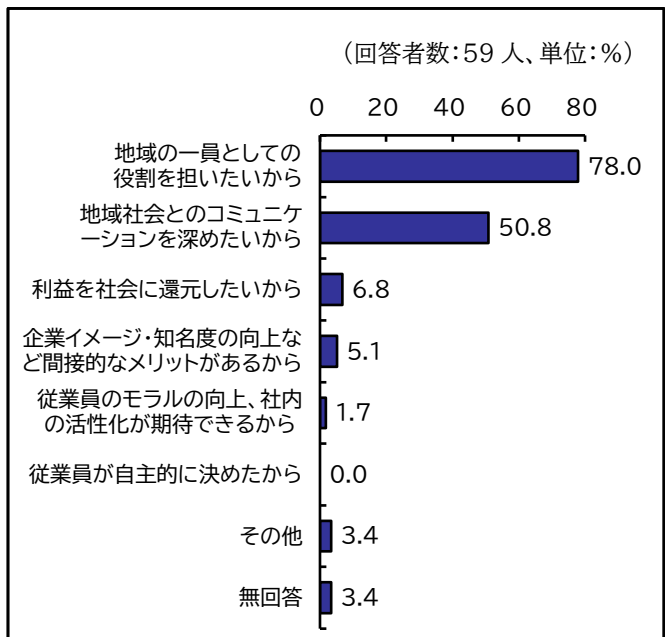


表 地域貢献活動に取り組んでいる理由（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	59 (100.0)
地域の一員としての役割を担いたいから	46 (78.0)
地域社会とのコミュニケーションを深めたいから	30 (50.8)
利益を社会に還元したいから	4 (6.8)
企業イメージ・知名度の向上など間接的なメリットがあるから	3 (5.1)
従業員のモラルの向上、社内の活性化が期待できるから	1 (1.7)

区分	人 (%)
従業員が自主的に決めたから	0 (0.0)
その他	2 (3.4)
無回答	2 (3.4)

7-2-3 現在取り組んでいる活動（問4-2）

問4-2 現在取り組んでいる活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「清掃や植栽など美化活動の実施」や「金銭の寄附」、「地域のお祭・イベントへの参加」などが多くみられる

地域貢献活動の状況（問4）において「現在、取り組んでいる」と回答した59人に対し、現在取り組んでいる活動について聞いたところ、「清掃や植栽など美化活動の実施」が39.0%で最も多く、次いで「金銭の寄附」及び「地域のお祭・イベントへの参加」がともに32.2%で続いています。

図 現在取り組んでいる活動（複数回答）

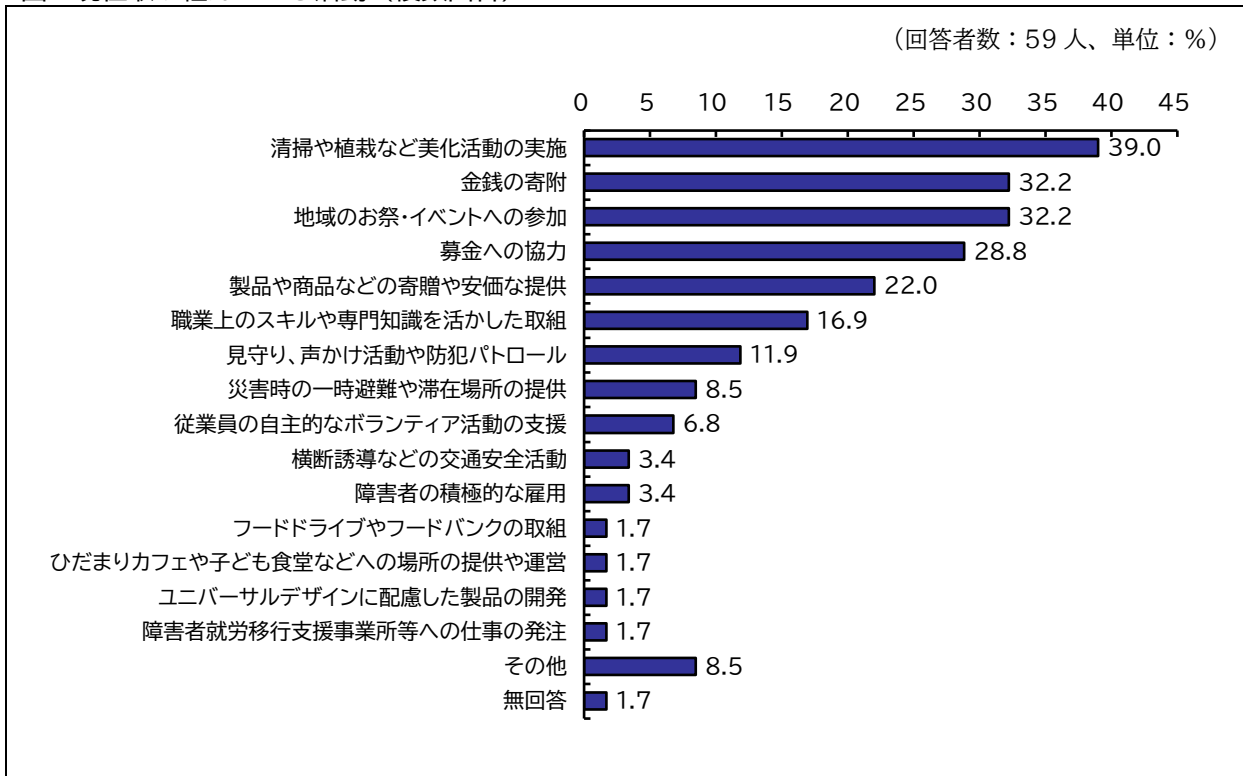


表 現在取り組んでいる活動（複数回答）

区分	人 (%)	区分	人 (%)
回答者数	59 (100.0)	横断誘導などの交通安全活動	2 (3.4)
清掃や植栽など美化活動の実施	23 (39.0)	障害者の積極的な雇用	2 (3.4)
金銭の寄附	19 (32.2)	フードドライブやフードバンクの取組	1 (1.7)
地域のお祭・イベントへの参加	19 (32.2)	ひだまりカフェや子ども食堂などへの場所の提供や運営	1 (1.7)
募金への協力	17 (28.8)	ユニバーサルデザインに配慮した製品の開発	1 (1.7)
製品や商品などの寄贈や安価な提供	13 (22.0)	障害者就労移行支援事業所等への仕事の発注	1 (1.7)
職業上のスキルや専門知識を活かした取組	10 (16.9)	その他	5 (8.5)
見守り、声かけ活動や防犯パトロール	7 (11.9)	無回答	1 (1.7)
災害時の一時避難や滞在場所の提供	5 (8.5)		
従業員の自主的なボランティア活動の支援	4 (6.8)		

7-2-4 今後の取組の意向（問5）

問5 今後、または今後とも地域への貢献活動を行っていきたいと思いますか。（1つだけに○）

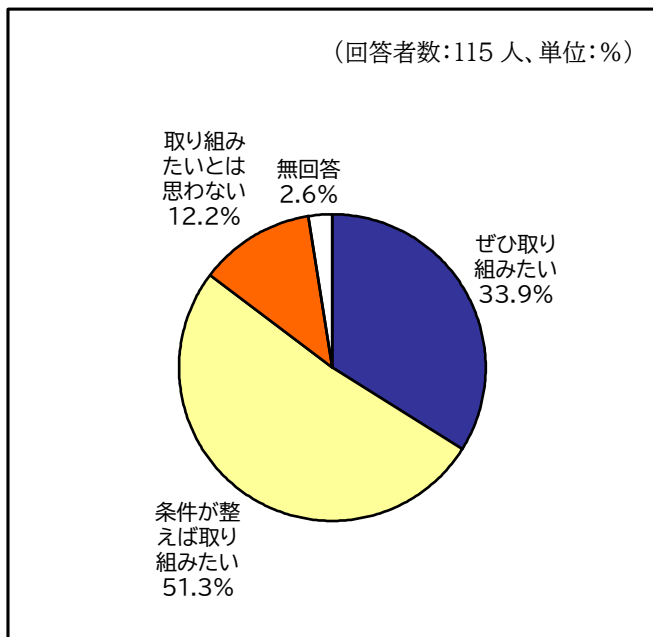
“取り組みたい”が85.2%

今後の取組の意向については、「ぜひ取り組みたい」が33.9%、「条件が整えば取り組みたい」が51.3%であり、これらを合わせると85.2%（98人）が“取り組みたい”と回答しています。

表 今後の取組の意向

区分	人 (%)
回答者数	115 (100.0)
ぜひ取り組みたい	39 (33.9)
条件が整えば取り組みたい	59 (51.3)
取り組みたいとは思わない	14 (12.2)
無回答	3 (2.6)

図 今後の取組の意向



7-2-5 今後取り組みたい活動（問 5-1）

問 5-1 今後、取り組みたい活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「地域のお祭・イベントへの参加」や「清掃や植栽など美化活動の実施」が多い

今後、地域貢献活動に“取り組みたい”と回答した 98 人に対し、その活動内容について聞いたところ、「地域のお祭・イベントへの参加」が 39.8%で最も多く、次いで「清掃や植栽など美化活動の実施」が 37.8%、「募金への協力」が 34.7%で続いています。

図 今後取り組みたい活動（複数回答）

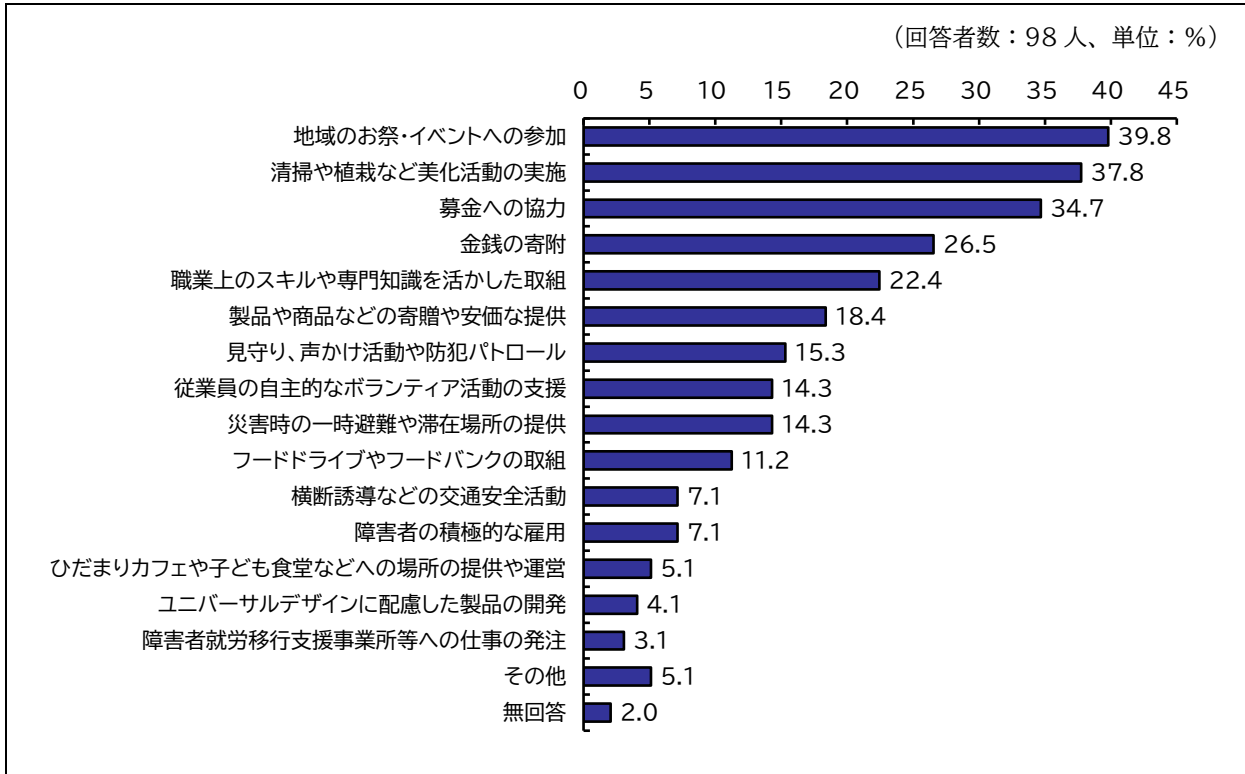


表 今後取り組みたい活動（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	98 (100.0)
地域のお祭・イベントへの参加	39 (39.8)
清掃や植栽など美化活動の実施	37 (37.8)
募金への協力	34 (34.7)
金銭の寄附	26 (26.5)
職業上のスキルや専門知識を活かした取組	22 (22.4)
製品や商品などの寄贈や安価な提供	18 (18.4)
見守り、声かけ活動や防犯パトロール	15 (15.3)
従業員の自主的なボランティア活動の支援	14 (14.3)
災害時の一時避難や滞在場所の提供	14 (14.3)

区分	人 (%)
フードドライブやフードバンクの取組	11 (11.2)
横断誘導などの交通安全活動	7 (7.1)
障害者の積極的な雇用	7 (7.1)
ひだまりカフェや子ども食堂などへの場所の提供や運営	5 (5.1)
ユニバーサルデザインに配慮した製品の開発	4 (4.1)
障害者就労移行支援事業所等への仕事の発注	3 (3.1)
その他	5 (5.1)
無回答	2 (2.0)

〔参考〕 現在取り組んでいる活動と今後取り組みたい活動の比較（問4-2、問5-1）

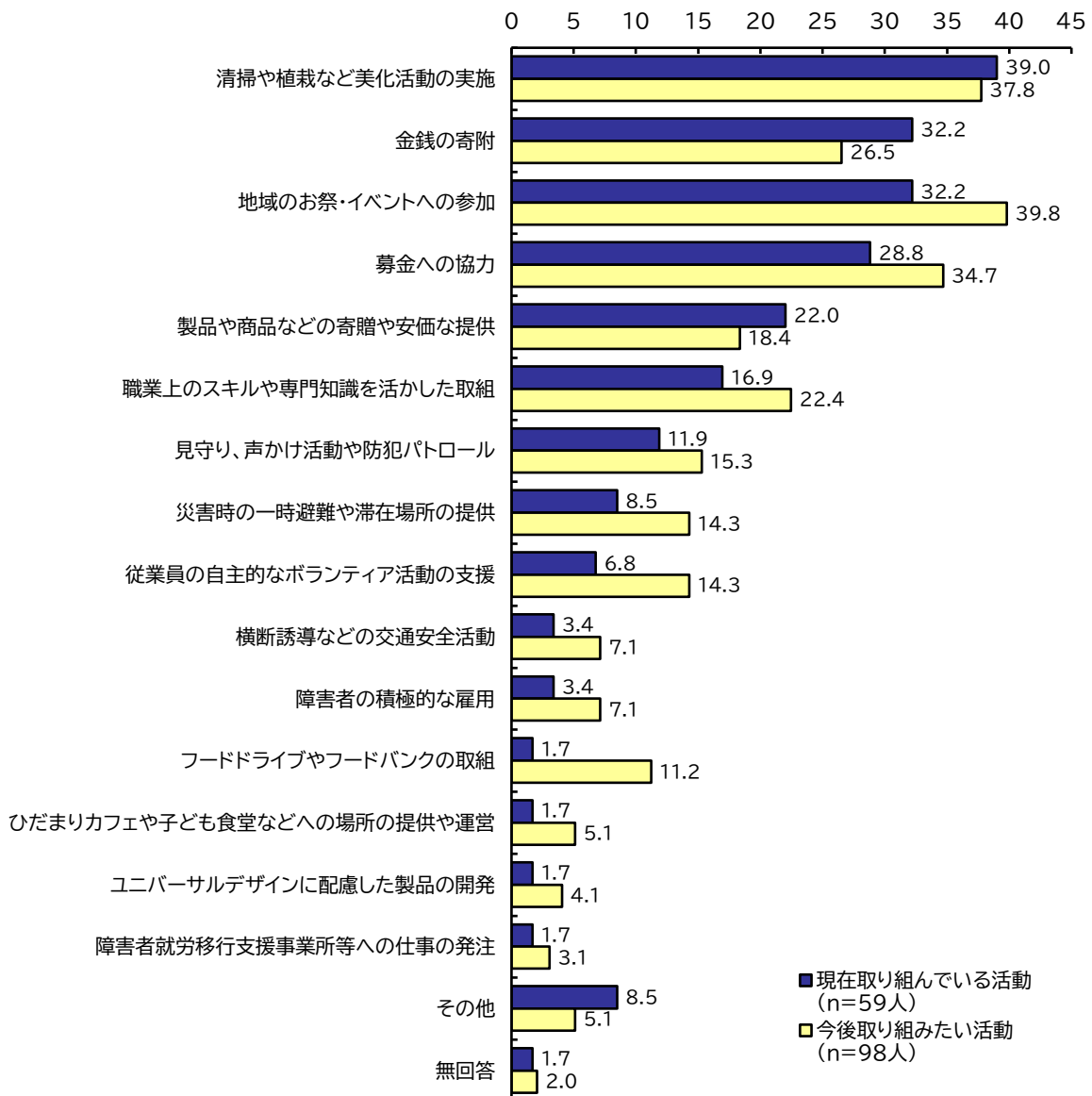
※問4-2、問5-1を基に作成

「清掃や植栽など美化活動の実施」及び「金銭の寄附」を除く多くの項目で「今後取り組みたい活動」の割合が高い

現在取り組んでいる活動（問4-2）と今後取り組みたい活動の比較（問5-1）の結果を比較したところ、現在取り組んでいる活動として上位にある「清掃や植栽など美化活動の実施」及び「金銭の寄附」を除く各項目で「今後取り組みたい活動」の割合が高くなっています。

このことから、より多様な活動を取り組みたいと考えている様子がうかがえます。

図 現在取り組んでいる活動（問4-2）と今後取り組みたい活動（問5-1）の比較（複数回答）
（単位：％）



7-2-6 地域への貢献活動がしやすくなるための条件（問6）

問6 どのような条件が整えば、貴社が地域への貢献活動を行いやすくなると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「活動場所や機会に関する情報の提供」が最も多い

地域への貢献活動がしやすくなるための条件については、「活動場所や機会に関する情報の提供」が47.8%で最も多く、次いで「活動場所や機会が数多くあること」が30.4%で続いています。

図 地域への貢献活動がしやすくなるための条件（複数回答）

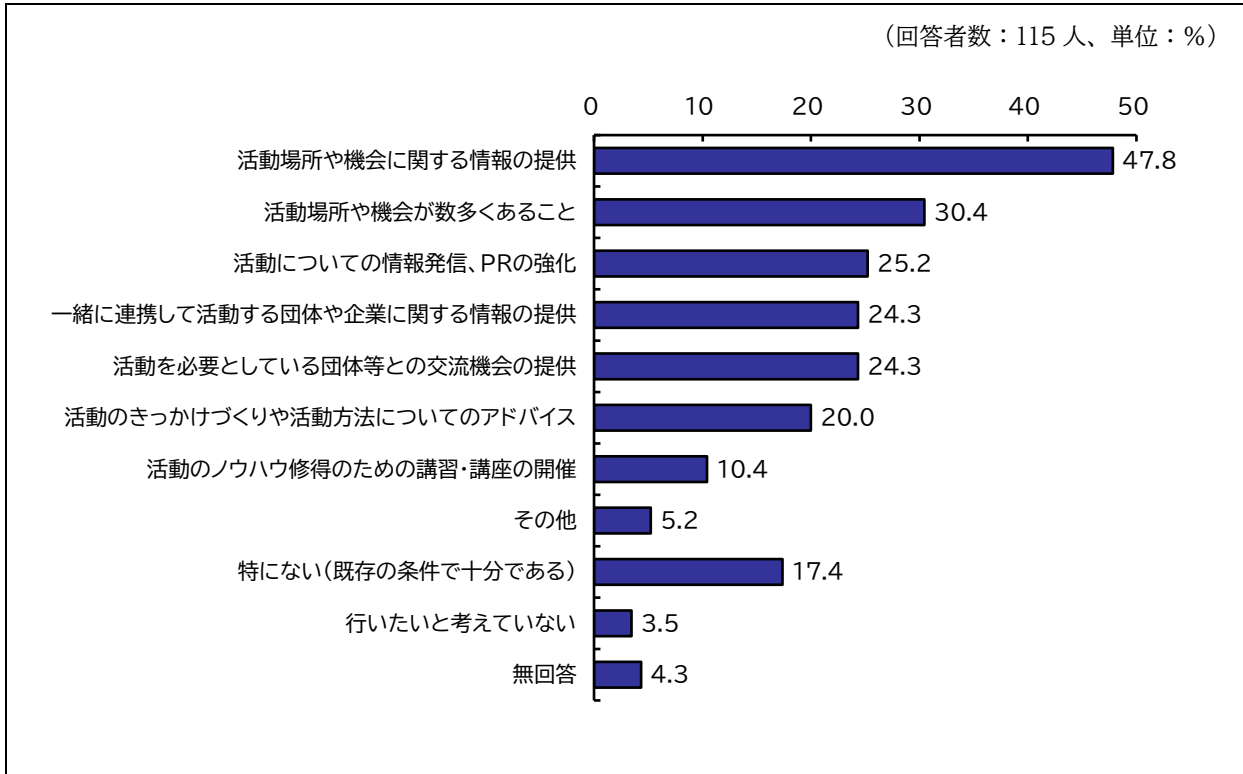


表 地域への貢献活動がしやすくなるための条件（複数回答）

区分	人 (%)	区分	人 (%)
回答者数	115 (100.0)	活動のきっかけづくりや活動方法についてのアドバイス	23 (20.0)
活動場所や機会に関する情報の提供	55 (47.8)	特になし(既存の条件で十分である)	20 (17.4)
活動場所や機会が数多くあること	35 (30.4)	活動のノウハウ修得のための講習・講座の開催	12 (10.4)
活動についての情報発信、PRの強化	29 (25.2)	その他	6 (5.2)
一緒に連携して活動する団体や企業に関する情報の提供	28 (24.3)	行いたいと考えていない	4 (3.5)
活動を必要としている団体等との交流機会の提供	28 (24.3)	無回答	5 (4.3)

第3節 福祉のまちづくりについて

7-3-1 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度（問7）

問7 「第3次はんのうふくしの森プラン」（平成31年度～令和5年度）をご存じですか。（1つだけに○）

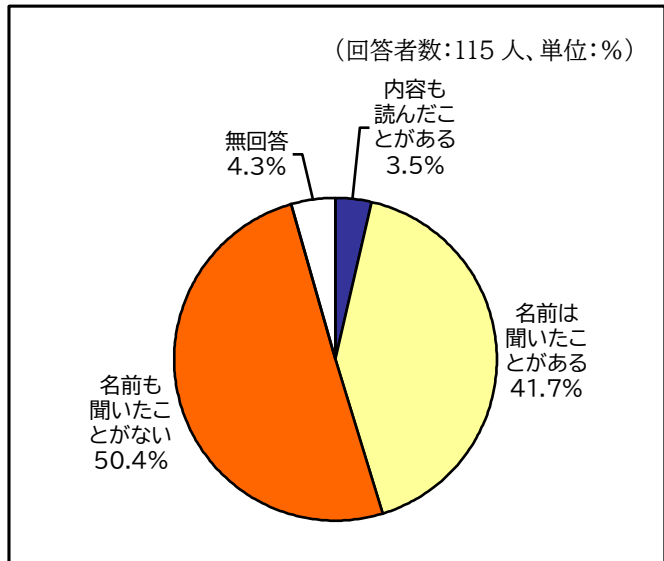
“知っている”が45.2%

「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度については、「内容も読んだことがある」が3.5%、「名前は聞いたことがある」が41.7%であり、これらを合わせると45.2%が“知っている”と回答しています。

表 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度

区分	人 (%)
回答者数	115 (100.0)
内容も読んだことがある	4 (3.5)
名前は聞いたことがある	48 (41.7)
名前も聞いたことがない	58 (50.4)
無回答	5 (4.3)

図 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度



7-3-2 共に支え合う地域づくりのために必要なこと（問8）

問8 地域で暮らす人々が共に支え合う地域にしていくために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

共に支え合う地域づくりのために必要なことについて記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、事業活動の分野を示しています。

(1) 建設・リフォーム

- 全世帯が自治会に加入し、自治会の活動を知ってほしい。(建設・リフォーム、衣料品その他物販)
- 事業者側の地域に対する理解。地域住民の事業者に対する理解。相互の理解が深まるための、公による施策。(建設・リフォーム)
- 地域情報の共有(建設・リフォーム)
- 零細企業ではなかなか地域貢献活動にまで手が回らない。(建設・リフォーム)

(2) 衣料品その他物販

- 地域の人々の見守り支援が必要だと思う(お年寄りや子ども)。(衣料品その他物販)
- 交流の場をつくる。(衣料品その他物販)
- 地域といえば、自治会があるので、もっと自治

会を利用して活動を広げていけばどうですか。毎年、毎年同じ行事を繰り返すだけで、何の進歩もない。(衣料品その他物販)

- どこで、誰が困っているのかわからない世の中なので、横のつながりができる様なシステムを使ったらよいと思います。(衣料品その他物販)
- 飯能市の積極的な情報やサービスの発信が必要であると考えます。(衣料品その他物販)

(3) 製造業・印刷業

- 福祉を地域で利用する際、わかりにくい。包括支援センターって何?となる。「福祉」に関する情報が少なく身近な感じがしない。個人情報保護の観点からして、身近な他人に手を差し伸べる時、戸惑いを感じる。コロナのせいで、他

人とのコミュニケーションを取りづらくしている。他人に「help」を言い出しづらい空気がある。自分が困ったときに、まず誰に相談をしていいのかわかりづらい。独居の方との関わり方、等、課題は山積みだと思う。「コミュニティーソーシャルワーカー」等のカタカナ表記はやめるべき。何をする人なのかわからない。
(製造業・印刷業)

(4) 食料品の物販

- 誰でも参加できる簡単な小さな事から大きな事までさまざまなパターンの数多くの地域貢献の仕組み作り(食料品の物販)

(5) 美容・理容、クリーニング、健康サービス

- まず、挨拶の大切さの啓蒙。毎日お互いに挨拶を交わせる、明るい街づくり。これにより、緩やかな地域のコミュニティを形成。そこから人々との目配り気配りを醸成してゆくことで、お互いに支え合う地域の安心感を作っているのではないかと。(美容・理容、クリーニング、健康サービス、清掃サービス、配送、流通、通信サービス)
- 地域の方々の顔を知る必要があると思う。コロナではあるが、地域活動を行い、それに参加してお互いを支え合うことができればよいと思う。(美容・理容、クリーニング、健康サービス)

(6) 清掃サービス

- 共同体意識を育てるため、地域活動、おまつりなどを通じ、子どもの頃から根付かせる。(清掃サービス)
- 地域住民と企業と行政が即時情報共有できる。ネットワークシステムがあればよいと思います。情報の時差がなければよい。(清掃サービス)
- 行政との積極的なコミュニケーション(清掃サービス)
- 情報の共有ができるシステムの構築(清掃サービス)
- 暇を持て余している高齢者の活用(清掃サービス)

- 地域の各協会、団体、行政との連携(清掃サービス)
- 企業が自らの利益だけでなく、社会をより良くすることにより目を向けること。社会があつての我々だということ深く理解し、そのつながりの場を設けることが必要。(清掃サービス)

(7) 金融・保険サービス

- 活動の内容や情報をもっと知る事ができたら、協力できる事があると思います。(金融・保険サービス)
- 人口の増加(金融・保険サービス)

(8) 配送、流通、通信サービス

- 人口増加(移住してもらえれば候補になる事)(配送、流通、通信サービス)
- 町内会よりも小さい隣近所の全員参加のイベント、ご近所でも名前と顔が一致せず特に最近では世代交代で長年住んでいるのにわからないことが多いため。(配送、流通、通信サービス)

(9) 宿泊・旅行サービス

- 問6の2を提供して頂きたい。交流機会を多くする。(宿泊・旅行サービス)

(10) 教育・学習サービス

- 私たちは、日本語教育機関で、外国人留学生が日本語を学んでいます。地域の一員となれるように連携が取れたらと思っています。国際交流等。機会があればぜひと思っています。(教育・学習サービス)
- 教育レベルの向上(教育・学習サービス)

(11) その他

- 各種イベントを多く開催して、各人が孤独にならない様に人々とのふれあいを多くする事。生きがいを持って日々楽しく生活できる様にしたい。生活する上で困っていることを県、市町村が条例を整備してほしい。弱者を助けて行きたい。キャリアを有効に活用していきたい。(その他)
- それぞれの個人や企業が、無理のない範囲で、長期継続的に支え合うことが重要だと思います。(その他)

第 8 章

個人商店向けアンケート

第1節 回答者自身の状況

8-1-1 事業活動の分野（問1）

問1 事業活動の分野は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

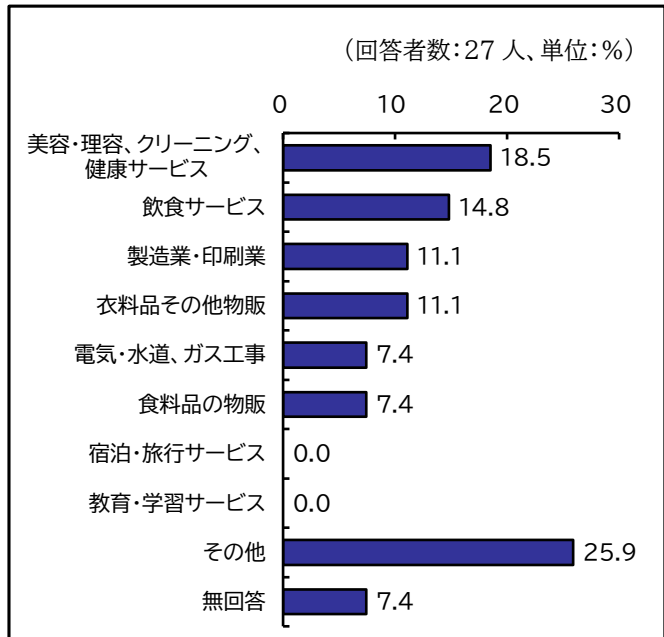
「美容・理容、クリーニング、健康サービス」が最も多い

事業活動の分野については、「美容・理容、クリーニング、健康サービス」が18.5%で最も多く、次いで「飲食サービス」が14.8%で続いています。

表 事業活動の分野

区分	人 (%)
回答者数	27 (100.0)
美容・理容、クリーニング、健康サービス	5 (18.5)
飲食サービス	4 (14.8)
製造業・印刷業	3 (11.1)
衣料品その他物販	3 (11.1)
電気・水道、ガス工事	2 (7.4)
食料品の物販	2 (7.4)
宿泊・旅行サービス	0 (0.0)
教育・学習サービス	0 (0.0)
その他	7 (25.9)
無回答	2 (7.4)

図 事業活動の分野



8-1-2 事業活動の範囲（問2）

問2 ご回答の店舗・事業所の事業活動の範囲を教えてください。（1つだけに○）

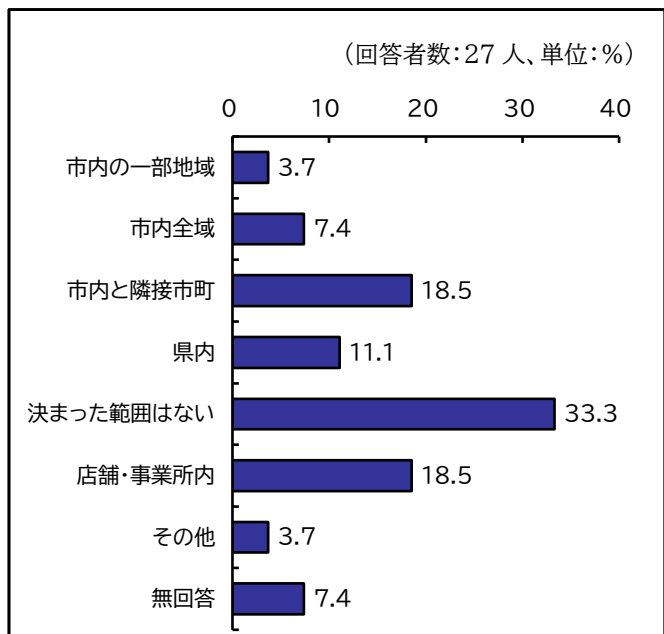
「決まった範囲はない」が最も多い

事業活動の範囲については、「決まった範囲はない」が33.3%で最も多く、次いで「市内と隣接市町」及び「店舗・事業所内」がともに18.5%で続いています。

表 事業活動の範囲

区分	人 (%)
回答者数	27 (100.0)
市内の一部地域	1 (3.7)
市内全域	2 (7.4)
市内と隣接市町	5 (18.5)
県内	3 (11.1)
決まった範囲はない	9 (33.3)
店舗・事業所内	5 (18.5)
その他	1 (3.7)
無回答	2 (7.4)

図 事業活動の範囲



第2節 地域貢献活動について

8-2-1 現在取り組んでいること（問3（1））

問3 地域福祉に役立つ取組やサービスについてうかがいます。(1) 現在、あなたの事業を通じて取り組んでいるものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

“取り組んでいる”は33.3%

現在取り組んでいることについては、回答者数から「特にない」59.3%及び無回答7.4%を除く33.3%が“取り組んでいることがある”と回答しています。

その内訳は「出張サービス」及び「趣味・健康づくり等のスクール・講座等の開催」がともに7.4%で最も多くなっています。

図 現在取り組んでいること（複数回答）

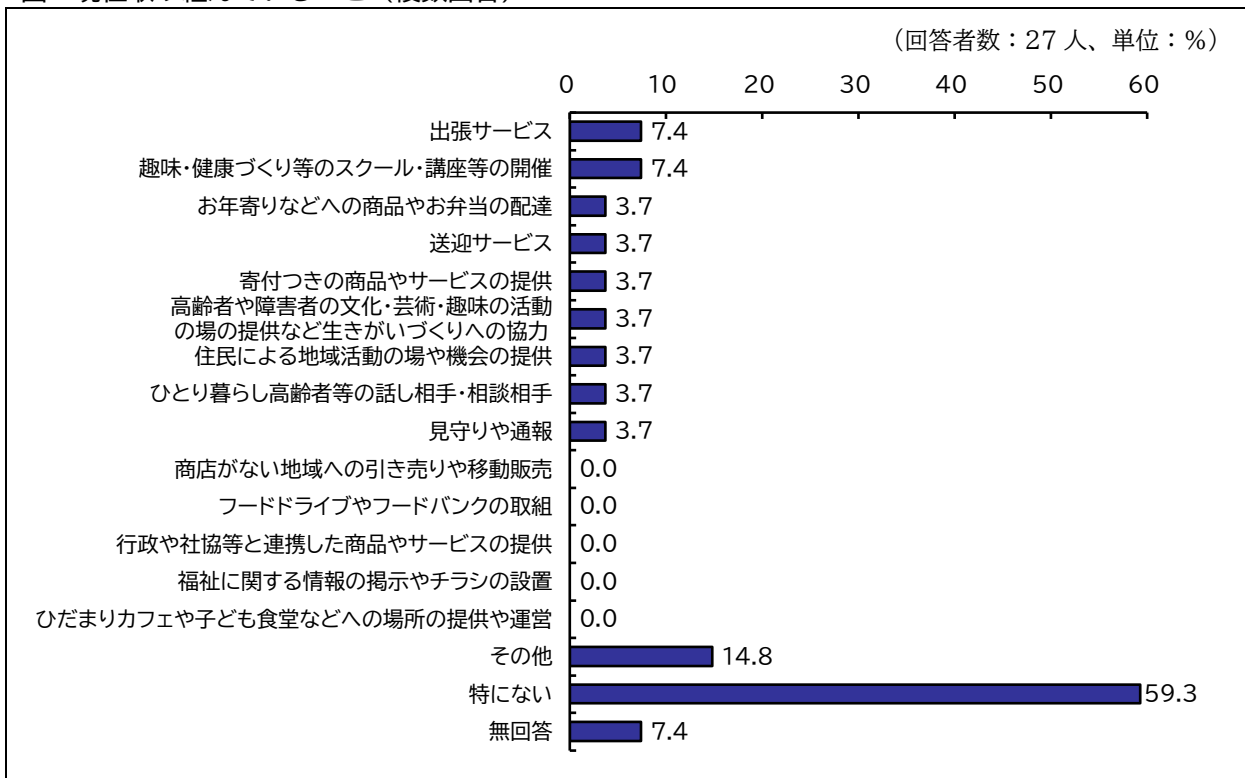


表 現在取り組んでいること（複数回答）

区分	人 (%)
回答者数	27 (100.0)
出張サービス	2 (7.4)
趣味・健康づくり等のスクール・講座等の開催	2 (7.4)
お年寄りなどへの商品やお弁当の配達	1 (3.7)
送迎サービス	1 (3.7)
寄付つきの商品やサービスの提供	1 (3.7)
高齢者や障害者の文化・芸術・趣味の活動の場の提供など生きがいづくりへの協力	1 (3.7)
住民による地域活動の場や機会の提供	1 (3.7)
ひとり暮らし高齢者等の話し相手・相談相手	1 (3.7)

区分	人 (%)
見守りや通報	1 (3.7)
商店がない地域への引き売りや移動販売	0 (0.0)
フードドライブやフードバンクの取組	0 (0.0)
行政や社協等と連携した商品やサービスの提供	0 (0.0)
福祉に関する情報の掲示やチラシの設置	0 (0.0)
ひだまりカフェや子ども食堂などへの場所の提供や運営	0 (0.0)
その他	4 (14.8)
特にない	16 (59.3)
無回答	2 (7.4)

8-2-2 今後取り組みそうなこと（問3（2））

(2) 現在は行っていないものの、今後取り組みそうなものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

“取り組みそうなことがある”が33.3%

今後取り組みそうなことについては、回答者数から「特にない」(51.9%)及び無回答(14.8%)を除く33.3%が“取り組みそうなことがある”と回答しています。

その内訳は、「見守りや通報」が11.1%で最も多くなっています。

図 今後取り組みそうなこと（複数回答）

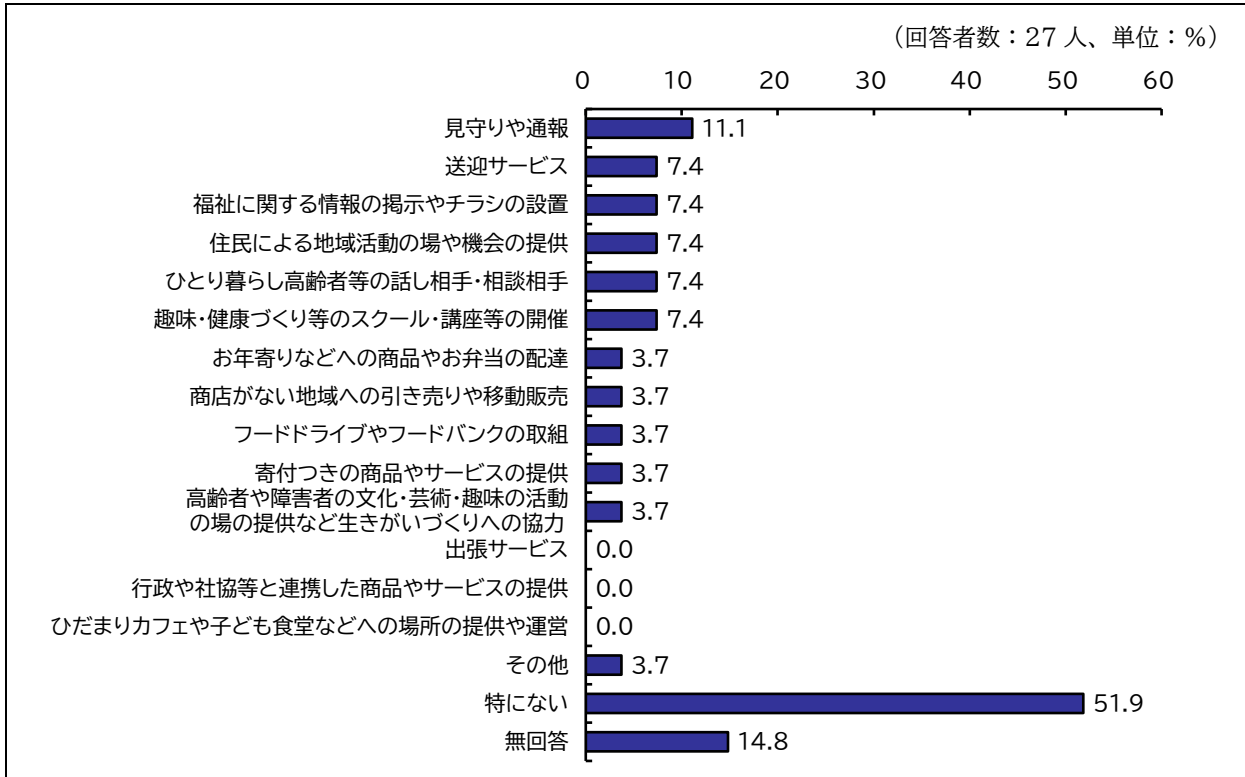


表 今後取り組みそうなこと（複数回答）

区分	人 (%)	区分	人 (%)
回答者数	27 (100.0)	寄付つきの商品やサービスの提供	1 (3.7)
見守りや通報	3 (11.1)	高齢者や障害者の文化・芸術・趣味の活動の場の提供など生きがいづくりへの協力	1 (3.7)
送迎サービス	2 (7.4)	出張サービス	0 (0.0)
福祉に関する情報の掲示やチラシの設置	2 (7.4)	行政や社協等と連携した商品やサービスの提供	0 (0.0)
住民による地域活動の場や機会の提供	2 (7.4)	ひだまりカフェや子ども食堂などへの場所の提供や運営	0 (0.0)
ひとり暮らし高齢者等の話し相手・相談相手	2 (7.4)	その他	1 (3.7)
趣味・健康づくり等のスクール・講座等の開催	2 (7.4)	特にない	14 (51.9)
お年寄りなどへの商品やお弁当の配達	1 (3.7)	無回答	4 (14.8)
商店がない地域への引き売りや移動販売	1 (3.7)		
フードドライブやフードバンクの取組	1 (3.7)		

〔参考〕 現在取り組んでいることと今後取り組みそうなことの比較（問3（1）、問3（2））

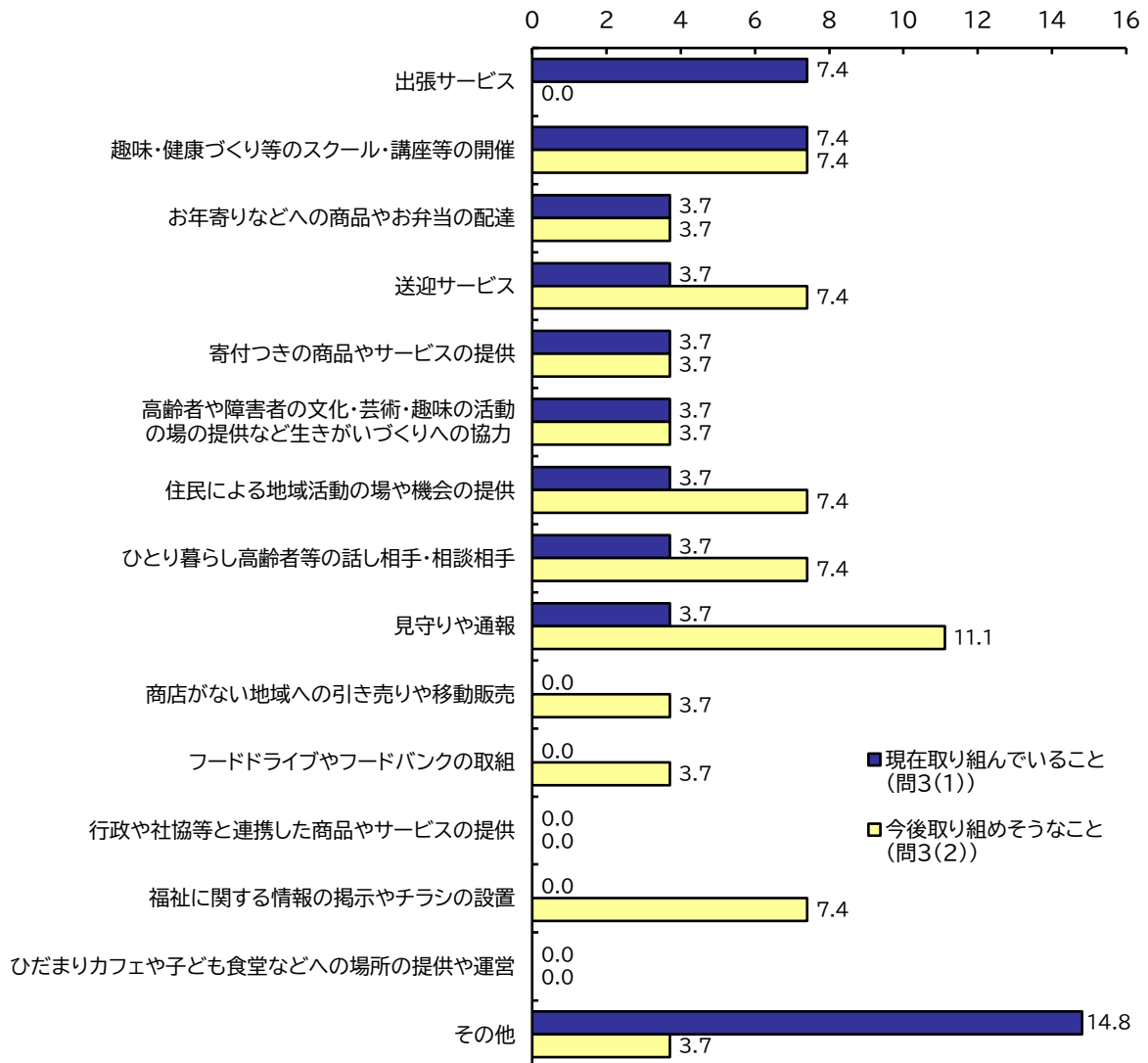
※問3（1）、問3（2）を基に作成

「見守りや通報」などで今後取り組みそうなことの割合が高い

現在取り組んでいること（問3（1））と今後取り組みそうなこと（問3（2））を比較したところ、「見守りや通報」や「住民による地域活動の場や機会の提供」、「送迎サービス」、「ひとり暮らし高齢者の話し相手・相談相手」、「福祉に関する情報の掲示やチラシの設置」などにおいて、現在取り組んでいることに比べて今後取り組みそうなことの割合が高くなっています。

図 現在取り組んでいることと今後取り組みそうなことの比較（複数回答）

（回答者数：27人、単位：％）



8-2-3 取組を行うための条件（問3（3））

（3）上記の取組を行っていく上で、どのような条件が整えばよいと思いますか。自由にお書きください。

取組を行うための条件について記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、事業活動の分野を示しています。

- 行政と地域福祉等のコミュニケーションや情報発信の場を、より多く細かく作っていかねばならないかと思ひます。（美容・理容、クリーニング、健康サービス）
- しっかりと頼まれれば協力できるかな。（飲食サービス、食料品の物販）
- 具体的な情報提供（飲食サービス）
- なにも協力してなくて申し訳ございません。（製造業・印刷業）
- お客様を送迎する等にあたり、車の乗降がしやすい車種を考へる。補助金等があれば。（衣料品その他物販）
- 何名か集まった時に、皆で唱歌や童謡等、声を出す事がよいと思ひます。（衣料品その他物販）
- 地域の事は今自分でできる事をしていります。（その他）
- 全市民に共通した情報が入るようにしなくては、市民どうしの対立が強くなるばかりだ。（その他）

8-2-4 商店等による福祉機能への評価（問4）

問4 本市の商店や事業所は、問3に例示したような地域の福祉やコミュニティを支える役割を發揮していると感じますか。（1つだけに○）

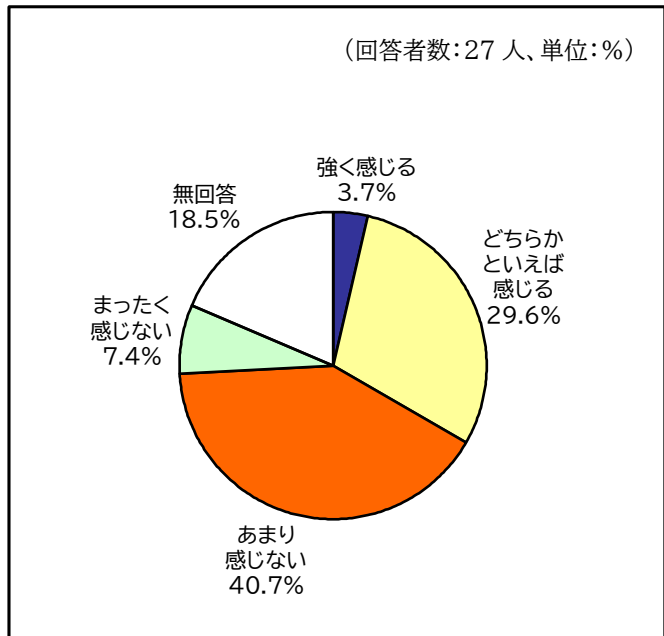
“感じる”が33.3%

商店等による福祉機能への評価については、「強く感じる」が3.7%、「どちらかといえば感じる」が29.6%であり、これらを合わせると33.3%が“感じる”と回答しています。

表 商店等による福祉機能への評価

区分	人 (%)
回答者数	27 (100.0)
強く感じる	1 (3.7)
どちらかといえば感じる	8 (29.6)
あまり感じない	11 (40.7)
まったく感じない	2 (7.4)
無回答	5 (18.5)

図 商店等による福祉機能への評価



第3節 福祉のまちづくりについて

8-3-1 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度(問5)

問5 あなたは、「第3次はんのうふくしの森プラン」(平成31年度～令和5年度)をご存じですか。(1つだけに○)

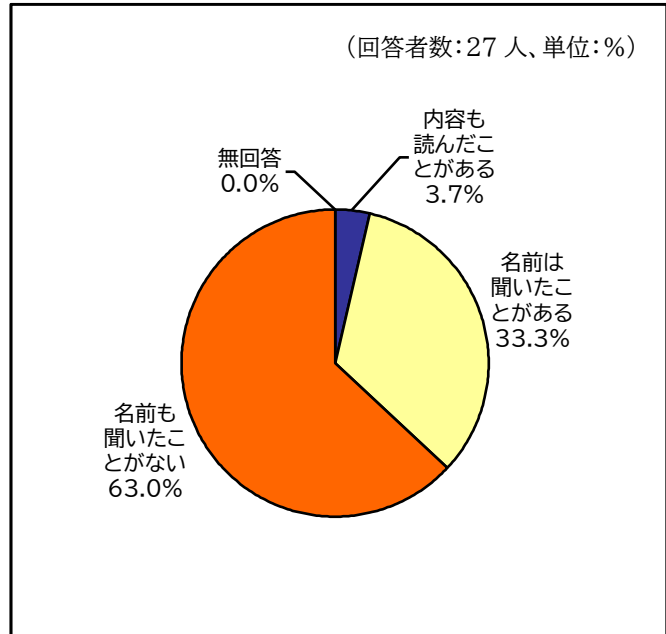
“知っている”が37.0%

「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度については、「内容も読んだことがある」が3.7%、「名前は聞いたことがある」が33.3%であり、これらを合わせると37.0%が“知っている”と回答しています。

表 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度

区分	人 (%)
回答者数	27 (100.0)
内容も読んだことがある	1 (3.7)
名前は聞いたことがある	9 (33.3)
名前も聞いたことがない	17 (63.0)
無回答	0 (0.0)

図 「第3次はんのうふくしの森プラン」の認知度



8-3-2 市や社会福祉協議会が取り組むべき施策（問6）

問6 共に支え合う地域づくりのために、市や社会福祉協議会はどのような取組に力を入れるとよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「気軽に相談できる窓口に関すること」が最も多い

市や社会福祉協議会が取り組むべき施策については、「気軽に相談できる窓口に関すること」が51.9%で最も多く、次いで「近所付き合いの希薄化への対応に関すること」、「子どもを育てる環境に関すること」及び「高齢者福祉に関すること」がともに40.7%で続いています。

図 市や社会福祉協議会が取り組むべき施策（複数回答）



表 市や社会福祉協議会が取り組むべき施策（複数回答）

区分	人 (%)	区分	人 (%)
回答者数	27(100.0)	住民による自主的な防災対策の強化への支援に関する事	5(18.5)
気軽に相談できる窓口に関する事	14(51.9)	ボランティアなど地域における福祉活動の促進に関する事	4(14.8)
近所付き合いの希薄化への対応に関する事	11(40.7)	生活困窮者の住まいや就労支援に関する事	4(14.8)
子どもを育てる環境に関する事	11(40.7)	様々な面でのバリアフリー化の推進の充実に関する事	4(14.8)
高齢者福祉に関する事	11(40.7)	防犯体制の充実に関する事	4(14.8)
自治会・町内会活動の活性化に関する事	10(37.0)	疾病予防など健康増進に関する事	3(11.1)
障害者福祉に関する事	10(37.0)	外国人に暮らしやすいまちづくりに関する事	3(11.1)
子どもの貧困など子どもへの支援に関する事	9(33.3)	避難行動要支援者に対する支援に関する事	2(7.4)
孤立の防止に関する事	8(29.6)	その他	0(0.0)
福祉に関する情報の提供に関する事	7(25.9)	無回答	1(3.7)
移動や交通環境に関する事	7(25.9)		
子どもや高齢者等への虐待防止に関する事	6(22.2)		
生きがいづくりや社会参加に関する事	5(18.5)		

8-3-3 共に支え合う地域づくりのために必要なこと（問7）

問7 地域で暮らす人々が共に支え合う地域にしていくために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

共に支え合う地域づくりのために必要なことについて記入していただいたところ、次の通りとなっています。なお、文末の（ ）内の表記は、事業活動の分野を示しています。

- なかなか難しい事ですが、まずは、各個人の意識が変わらなければ、駄目だと思います。（美容・理容、クリーニング、健康サービス）
- 大きいコミュニティよりも小さいコミュニティを大事にした方がいいと思います。（美容・理容、クリーニング、健康サービス）
- 仲良くする事でしょう。（飲食サービス、食料品の物販）
- デジタル化社会によって、人々の付き合いが、希薄になっている。昔の様に、おせっかいな事でも、おとなり同士が助け合って暮らせる地域社会が基本であり、大切だと思います。（製造業・印刷業）
- それぞれの地域の方々とは日ごろから親しくして生活すること。（製造業・印刷業）
- 近所もそうですが、住民の高齢化が進み、一人暮らしの方が増えております。孤立化を防ぐ手段を考える必要があると思う。（衣料品その他物販）
- 生活に困っていても気軽に相談する人がいないと言う事も耳にします。私の所へもさまざまな相談が来ますが、できる事は手を差し伸べて行きたいと思います。（その他）
- 自治会に入っていない人を仲間はずれ、無視する等は、やめてほしい。雪が降った朝、私の家の前に雪の山を作る等の行為が実際にあった。近所の方がだれも挨拶をしてくれない。こちらがしているのに。市がそういう風になるようにしているとしか思えない。市民として認められていない。広報が配られないのも差別だし他の市、町等ではこのような事はない。（その他）
- 災害時の声掛け、加齢や障害によって、生活上でできなくなった時のための助け合い方法、手順等、今後予想されるリスクを自治会の班ごとにコミュニティース／wが中心となって話し合いを持ち→継続→お互いを気遣う環境作りが望まれる。（その他）
- 地域の人々のコミュニケーションをとるため、行政が係り、前向きで活力ある地域の場所作りが必要。（無回答）
- 開かれた窓口であることと、平等に情報をつたえること。安心される組織であること。（無回答）

資料 1

第 3 次プランに関する主な指標のまとめ

ここでは、現行の「第 3 次 はんのうふくしの森プラン（第 3 次飯能市地域福祉計画・第 4 次飯能市地域福祉活動計画）」（以下「第 3 次プラン」といいます。）の基本目標・基本施策に関連する調査結果を指標として整理し、可能な限り前回調査（平成 29 年実施）との比較を行いました。

基本目標1【知】 お互いを知り合う・わかり合う機会をつくろう

1 地域コミュニティづくり

調査区分	指標名	前回(H29)	今回(R04)	備考	該当ページ
一般市民	1) 隣近所の人と積極的にあいさつをしている人の割合	—	41.5%	問7	14
	2) 身近な地域の住民どうしのつながりや交流がよく行われていると感じている人の割合	—	51.3%	問8	16
児童・生徒	1) 近所の人に自分から進んであいさつをしている児童・生徒の割合	66.5%	56.3%	問7	133
	2) 近所の人からあいさつをしてもらえる児童・生徒の割合	52.4%	56.6%	問8	134
	3) 地域の活動や行事に参加している児童・生徒の割合	73.5%	31.8%	問12カ)	144

2 福祉学習の推進

※該当項目なし。

3 情報の発信と共有

(1) 多様な媒体によるわかりやすい情報の発信と共有

調査区分	指標名	前回(H29)	今回(R04)	備考	該当ページ
一般市民	1) 複数の情報入手先を有している人の割合	—	38.8%	問13 ※2	61
	2) 福祉に関する情報をどこからも得られない人の割合	—	4.7%	問13 ※3	55
	3) 本市の福祉情報への満足度	—	32.8%	問14 ※4	63

※1 答者総数から回答者数から「どこからも得られない」及び無回答を除いた割合（いずれかの情報入手先を有している人の割合）

※2 複数の入手先を有している人の割合

※3 「どこからも得られない」の割合

※4 「充分得られている」及び「ある程度得られている」を合わせた割合

基本目標2【交】 交流が生まれる居場所と地域の移動・交通をつくろう

1 交流の場づくり

調査区分	指標名	前回(H29)	今回(R04)	備考	該当ページ
一般市民	1) 身近な居場所への認知度	—	49.8%	問10 ※1	33
	2) 居場所を必要としながら利用できていない人の割合	—	9.9%	問11	36
児童・生徒	1) 安心して過ごすことのできる居場所が家庭にも学校にもない児童・生徒の割合	—	6.9% (2.2%)	問11 ※2	141

※1 「名前も内容も知っている」及び「内容は知らないが、名前は知っている」を合わせた割合

※2 「家庭・学校以外の居場所がある」及び「どこにもない」の割合。()内は「どこにもない」の割合

2 地域の移動・交通の充実

調査区分	指標名	前回(H29)	今回(R04)	備考	該当ページ
一般市民	1) 買物、通院など外出のことで困っている人の割合	9.5%	9.9%	問18 ※1	74

※1 「買物、通院など外出のこと」の割合

基本目標3【支】 支え合いの仕組みをつくろう

1 地域で支え合う人の育成

調査区分	指標名	前回(H29)	今回(R04)	備考	該当ページ
一般市民	1) ボランティア活動など支え合いの取組に関心がある人の割合	—	64.6%	問9 (1) ※1	18
	2) ボランティア活動など支え合いの取組に参加したことがある人の割合	23.6%	33.4%	問9 (2) ※2	21
	3) ボランティア活動など支え合いの取組に参加したいと思う人の割合	—	65.4%	問9 (3) ※3	24
	4) 飯能市ボランティアセンターの認知度	42.9% (5.9%)	38.8% (7.8%)	問12 (6) ※4	43
児童・生徒	1) ボランティア活動をしている児童・生徒の割合	33.3%	16.0%	問12キ)	144

※1 「とても関心がある」及び「ある程度関心がある」を合わせた割合

※2 「現在、参加している」及び「以前、参加したことがある」を合わせた割合

※3 「ぜひ参加したい」及び「機会があれば参加したい」を合わせた割合

※4 「名前も内容も知っている」及び「名前は聞いたことがある」を合わせた割合で、下段()内は「名前も内容も知っている」の割合

2 支え合いの地域づくり

調査区分	指標名	前回(H29)	今回(R04)	備考	該当ページ
一般市民	1) 民生・児童委員の認知度	86.2% (29.8%)	84.1% (41.5%)	問12 (2) ※1	43
	2) 地域福祉推進組織の認知度	44.1% (8.7%)	34.1% (8.7%)	問12 (5) ※1	43
福祉関係事業所	1) 地域貢献活動(地域における公益的な取組)に取り組んでいる事業所の割合	—	27.5%	問7	201
市内企業	1) 地域への貢献的な活動に取り組んでいる企業の割合	76.3%	51.3%	問4	242
個人商店	1) 事業を通じて地域福祉に役立つ取組やサービスに取り組んでいる店舗・事業所の割合	—	33.3%	問3 (1) ※2	253
	2) 本市の商店や事業所が地域の福祉やコミュニティを支える役割を發揮していると感じている店舗・事業所の割合	—	33.3%	問4 ※3	256

※1 「名前も内容も知っている」及び「名前は聞いたことがある」を合わせた割合で、下段()内は「名前も内容も知っている」の割合

※2 回答者数から「特になし」及び無回答を除く割合

※3 「強く感じる」及び「どちらかといえば感じる」を合わせた割合

基本目標4【安】 安心して暮らせる仕組みをつくろう

1 相談支援体制の強化

調査区分	指標名	前回(H29)	今回(R04)	備考	該当ページ
一般市民	1) コミュニティソーシャルワーカーの認知度	37.9% (4.9%)	28.5% (7.3%)	問12 (4) ※1	43
	2) 相談窓口を複数有している人の割合	—	54.4%	問19 ※2	84
	3) 公的機関に相談できる人の割合	—	19.7%	問19 ※3	86
	4) 相談窓口がない人の割合	—	9.6%	問19 ※4	79
福祉専門職	1) 必要に応じて他の機関や職種と連携して取り組んでいる人の割合	—	90.3%	問8	224
	2) 参加支援(※5)の必要性を強く感じている専門職の割合	—	67.7%	問10 (1) ※6	226

※1 「名前も内容も知っている」及び「名前は聞いたことがある」を合わせた割合で、下段()内は「名前も内容も知っている」の割合

※2 複数の選択肢に○を付けた人の割合

※3 選択肢4～14のいずれかを選択した人の割合

※4 「気軽に相談できる相手や窓口はない」と回答した人の割合

※5 「参加支援」とは、本人やご家族のニーズと地域の資源との間を取り持つなど社会とのつながりを回復する支援のこと。

※6 「とても必要なことだと思う」の割合

2 権利擁護の推進

調査区分	指標名	前回(H29)	今回(R04)	備考	該当ページ
一般市民	1) 成年後見制度の認知度	—	62.3% (29.1%)	問12 (7) ※1	43
	2) 虐待防止法の認知度	—	53.5%	問15	66

※1 「名前も内容も知っている」及び「名前は聞いたことがある」の割合で、下段()内は「名前も内容も知っている」の割合

3 防災・防犯の地域づくり

調査区分	指標名	前回(H29)	今回(R04)	備考	該当ページ
一般市民	1) 避難行動要支援者名簿の認知度	48.9% (11.6%)	50.8% (20.1%)	問12 (8) ※1	43
	2) 家庭における防災対策を「十分に」行っている人の割合	—	72.6% (5.3%)	問16	70
	3) 地域の防災訓練に参加している人の割合	—	42.7% (11.1%)	問17 ※2	72

※1 「名前も内容も知っている」及び「名前は聞いたことがある」を合わせた割合で、下段()内は「名前も内容も知っている」の割合

※2 「いつも参加している」及び「ときどき参加している」を合わせた割合

4 すこやかに暮らせる地域づくり

※該当項目なし。

その他計画全体に関すること

1 「はんのうふくしの森プラン」等の認知度

調査区分	指標名	前回 (H29)	今回 (R04)	備考	該当 ページ
一般 市民	1) はんのうふくしの森プランの認知度	36.7% (3.7%)	34.5% (6.7%)	問12 (1) ※1	43
	2) 飯能市社会福祉協議会の認知度	73.3% (13.3%)	73.9% (28.4%)	問12 (3) ※1	43
ボラン ティア 団体	1) はんのうふくしの森プランの認知度	—	89.6% (51.2%)	問10 ※2	186
福祉関 係事業 所	1) はんのうふくしの森プランの認知度	—	90.0% (52.5%)	問9 ※2	204
専門職	1) はんのうふくしの森プランの認知度	—	85.1% (48.9%)	問11 ※2	228
市内 企業	1) はんのうふくしの森プランの認知度	—	45.2% (3.5%)	問7 ※2	248
個人 商店	1) はんのうふくしの森プランの認知度	—	37.0% (3.7%)	問5	257

※1 「名前も内容も知っている」及び「名前は聞いたことがある」を合わせた割合、下段の()内は「名前も内容も知っている」の割合

※2 「内容も読んだことがある」及び「名前は聞いたことがある」を合わせた割合、下段の()内は「内容も読んだことがある」の割合

資料 2

調査票

01 一般市民向けアンケート

問4 飯能市に何年お住まいですか。生まれた時からお住まいの方（一時的に転出した方も含みます）は、年数に関わらず「1 生まれた時から」を選択してください。(1つだけに○)

1 生まれた時から	3 5～10年未満	5 20～30年未満
2 5年未満	4 10～20年未満	6 30年以上

問5 あなたの家族構成を教えてください。(1つだけに○)

1 ひとり暮らし世帯	3 親と子の二世帯世帯	5 その他
2 夫婦のみ世帯	4 親と子と孫の三世帯世帯	()

問6 あなたの世帯は、自治会に加入していますか。(1つだけに○)

1 はい	2 いいえ	3 わからない
------	-------	---------

2. 住民同士の交流や支え合いについてうかがいます

問7 あなたは、ふだん、ご近所の方とのあいさつをどの程度していますか。(1つだけに○)

1 積極的にしている	3 あまりしていない
2 どちらかといえばしている	4 まったくしていない

問8 あなたの近所では、住民同士のつながりや交流はどの程度行われていますか。(1つだけに○)

1 よく行われている	3 あまり行われていない	5 わからない
2 ある程度行われている	4 まったく行われていない	

問9 市内で行われているボランティア活動など、支え合いの取組についてうかがいます。
(1) あなたは、こうした取組に関心がありますか。(1つだけに○)

1 とても関心がある	2 ある程度関心がある	3 特に関心はない
------------	-------------	-----------

(2) ここ5年間でこうした取組に参加したことがありますか。(1つだけに○)

1 現在、参加している	2 以前、参加したことがある	3 参加したことはない
-------------	----------------	-------------

(3) 今後、参加したいと思えますか。(1つだけに○)

1 ぜひ参加したい	2 機会があれば参加したい	3 参加したいとは思わない
-----------	---------------	---------------

01 一般市民向けアンケート

(4) どのようなことがあれば、こうした取組への参加がもっと進むと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1 一定の報酬が得られる	6 自分に都合のつく時間の参加ができる
2 ボランティアの講座・講習会有る	7 公民館の行事など公的な取組である
3 ボランティアの募集をもっとPRする	8 一緒に参加する仲間がいる
4 ボランティア参加のお誘いがある	9 家族の理解が得られる
5 自宅から近いところで参加できる	10 その他 ()

3. 「地域の居場所」についてうかがいます

問10 「地域の居場所」とは、地域において、他人と関わりながら安心して過ごすことのできる場所のことです。
市内では、多様な居場所づくりが進められており、コロナ禍においても「ふれあいいきいきサロン」・地域の茶の間、「地域子育て支援拠点」、「ひだまりカフェ（認知症カフェ）」などが運営されています。
あなたは、市内で実施されている「地域の居場所」をご存じですか。(1つだけに○)

1 名前も内容も知っている
2 内容は知らないが、名前程度は知っている
3 知らない

問11 問10のような、身近な地域において他人と関わりながら安心して過ごせる居場所について、あなたご自身や家族は、現在、必要性を感じていますか。(1つだけに○)

1 現在利用している	→ それほどのような場所ですか、具体的に記入してください。
2 利用したいができていない	
3 特に必要性を感じていない	

→ 問11-1 問11で「1 現在利用している」を選んだ方にうかがいます。
現在利用している居場所に満足していますか。(1つだけに○)

1 とても満足している	3 どちらかといえば満足である
2 どちらかといえば満足している	4 とても不満である

(満足している点や不満点について、具体的な内容をご記入ください。)

→ 問11-2 問11で「2 利用したいができていない」を選んだ方にうかがいます。
利用したいのにできないのはなぜですか。下の枠内に具体的に書きください。

01 一般市民向けアンケート

4. 地域福祉に関する組織や制度等の認知度についてうかがいます

問12 地域福祉の推進に関係している次の組織や計画、制度等をご存じですか。(それぞれ1つだけ)○

名前も内容も知っている	名前が聞いている	知らなかった	
(1) はんのうかくしの森プラン 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民の皆さんがお互いに支え合う地域づくりを実現するための計画です。	1	2	3
(2) 民生委員・児童委員 市内で約170人の方が活動し、市民と行政機関とのパイプ役となっています。	1	2	3
(3) 飯能市社会福祉協議会 地域福祉の推進を目的としている団体です。	1	2	3
(4) コミュニティソーシャルワーカー (CSW) 誰もが安心して暮らすことができる地域社会の実現に向け活動する、地域福祉のコーディネーターで、ふくしの森ステーションに常駐しています。	1	2	3
(5) 地域福祉推進組織 ・原市場地区社会福祉協議会 ・なぐり広場 ・加治東ふれあい広場 ・たすけあいあいの森・栗吉野 ・ふくしの森・栗吉野 ・ささえあい南高麗 ・あさひやまライフネット	1	2	3
(6) 飯能市ボランティアセンター 飯能市のボランティアに関する情報提供をはじめ、ボランティア活動の支援を行っています。	1	2	3
(7) 成年後見制度 認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力の不十分な方々に代わって、後見人等が財産を管理したり、契約を結んだりして、保護や支援する制度です。	1	2	3
(8) 避難行動要支援者名簿 (災害時要援護者リスト) 災害発生時に自ら避難することが困難な方の情報を、ご本人の希望に基づき名簿に登録し、災害時の避難支援等につなげていくための名簿です。	1	2	3

01 一般市民向けアンケート

5. 福祉情報の入手状況についてうかがいます

問13 福祉に関する情報 (サービスや制度、イベントなど) をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

1 市の広報紙	15 コミュニティソーシャルワーカー
2 社会福祉協議会の広報紙 (社協だより等)	16 地域包括支援センター
3 市のホームページ (SNS を含む)	17 すこやか福祉相談センター (障害者相談支援事業所)
4 飯能市ご当地アプリ	18 保健センター
5 社会福祉協議会のホームページ (SNS を含む)	19 子育て世代包括支援センター
6 新聞・雑誌・テレビなど	20 子育て総合センター
7 自治会のお知らせ	21 地域子育て支援拠点
8 家族、親族	22 医療機関や薬局
9 友人、知人、同僚	23 ケアマネジャーや福祉サービスの事業所
10 隣近所の人	24 NPO 法人やその他の民間団体
11 民生委員・児童委員	25 学校や幼稚園、保育園
12 市役所の窓口	26 その他 ()
13 地区行政センター	27 どこからも得られない
14 社会福祉協議会の窓口	28 得る必要がない

問14 本市の福祉に関する情報は、どの程度得られていると感じていますか。(1つだけに○)

- 1 充分得られている 3 あまり得られていない 5 得る必要がない
2 ある程度得られている 4 まったく得られていない

6. 安心・安全なまちづくり (権利擁護・防災) についてうかがいます

問15 高齢者虐待防止法、児童虐待防止法及び障害者虐待防止法では、虐待を見聞きした市民は市町村や児童相談所、警察などに通報することが義務づけられています。
あなたは、このこと (通報義務) をご存じでしたか。(1つだけに○)

- 1 はい 2 いいえ 3 どちらともいえない

問16 あなたのご家庭では、飲料、食料、生活必需品等の備蓄や家族の安否確認の方法、避難方法の確認などの防災対策を行っていますか。(1つだけに○)

- 1 十分に対策している 2 少し行っている 3 特に行っていない

問17 地域の防災訓練に参加していますか。(1つだけに○)

- 1 いつも参加している 2 ときどき参加している 3 参加したことはない

01 一般市民向けアンケート

7. 困っていることや相談窓口についてうかがいます

問18 現在、あなた自身やご家庭のことで困っていることはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 老後に関すること
- 2 健康・精神に関すること
- 3 生活費など経済的なこと
- 4 仕事、就労に関すること
- 5 生きがいに関すること
- 6 育児、子育て、教育に関すること
- 7 介護に関すること
- 8 障害に関すること
- 9 家族のひきこもりのこと
- 10 買い物、通院など外出のこと
- 11 ごみ出しなど日常の家事のこと
- 12 隣近所との付き合いのこと
- 13 孤立、孤独のこと
- 14 治安、防犯に関すること
- 15 災害時のこと
- 16 その他()
- 17 特にない

問19 生活の中での困りごとが発生した際に、気軽に相談できる相手や窓口はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族・親族
- 2 友人、知人、同僚
- 3 隣近所の人
- 4 民生委員・児童委員
- 5 市役所の窓口
- 6 地区行政センター
- 7 社会福祉協議会の窓口
- 8 コミュニティイン・アクション(ふくしの森ステーション)
- 9 地域包括支援センター
- 10 すこやか福祉相談センター(障害者相談支援事業所)
- 11 保健センター
- 12 子育て世代包括支援センター
- 13 子育て総合センター
- 14 地域子育て支援拠点
- 15 地域の居場所(サロンなど)
- 16 医療機関や薬局
- 17 ケアマネジャーや福祉サービスの事業所
- 18 NPO法人やその他の民間団体
- 19 学校や幼稚園、保育園
- 20 その他()
- 21 気軽に相談できる相手や窓口はない

問20 福祉に関する相談窓口について、どのような窓口であれば相談しやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 地域サロンや店舗など行きつけの場所で相談ができる
- 2 相談窓口が自宅から近い場所にある
- 3 相談内容に関わらず、一つの窓口で相談ができる(たらい回しにされない)
- 4 社会福祉士など専門性の高い専門職に相談ができる
- 5 秘密を絶対に守ってくれる
- 6 他人に会うことなくインターネットなどで相談ができる
- 7 その他()

01 一般市民向けアンケート

8. 今後取り組むべきことについてうかがいます

問21 共に支え合う地域づくりのために、市や社会福祉協議会はどのような取組に力を入れるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 近所付き合いの希薄化への対応に関すること
- 2 自治会・町内会活動の活性化に関すること
- 3 ボランティアなど地域における福祉活動の促進に関すること
- 4 気軽に相談できる窓口に関すること
- 5 福祉に関する情報の提供に関すること(保育所、放課後児童クラブなど)
- 6 子どもを育てる環境に関すること(保育所、放課後児童クラブなど)
- 7 障害者福祉に関すること
- 8 高齢者福祉に関すること
- 9 子どもの貧困など子どもへの支援に関すること
- 10 疾病予防など健康増進に関すること
- 11 生きがいづくりや社会参加に関すること
- 12 子どもや高齢者等への虐待防止に関すること
- 13 生活困窮者の住まいや就労支援に関すること
- 14 孤立の防止に関すること(他者との関わりをもちにくくい人への支援等)
- 15 外国人に暮らしやすいまちづくりに関すること
- 16 移動や交通環境に関すること(買い物や通院の交通手段の確保等)
- 17 様々な面でのバリアフリー化の推進の充実に関すること(物理的、文化、情報、制度など)
- 18 避難行動要支援者(災害時要援護者)に対する支援に関すること
- 19 住民による自主的な防災対策の強化への支援に関すること
- 20 防犯体制の充実に関すること
- 21 その他()

問22 市民、関係団体、市及び社会福祉協議会等が協働し、共に支え合う地域づくりを進めるために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

(空欄)

ご協力ありがとうございました。

02 児童・生徒向けアンケート

3. 近所の人のあいさつについてお聞きします

問7 あなたは、近所の人に自分から進んであいさつをしていますか。(1つだけに○)

- 1 自分から進んであいさつをしている
- 2 相手からあいさつされれば、自分でもあいさつをしている
- 3 相手からあいさつをされても、自分はあいさつをしていない
- 4 まったくあいさつをしていない

問8 近所の人は、あなたにあいさつをしてくれますか。(1つだけに○)

- 1 相手からあいさつをしてくれる
- 2 自分からあいさつをすれば、相手もしてくれる
- 3 あまりありさつしてくれない
- 4 まったくあいさつしてくれない

4. 相談相手や居場所についてお聞きします

問9 あなたには、いま、どのような悩みや不安がありますか。(いくつでも○)

- 1 親のこと
- 2 兄弟姉妹
- 3 友だちのこと
- 4 勉強のこと
- 5 部活や習いごとのこと
- 6 学校のこと
- 7 自分の将来のこと
- 8 自分からのこと
- 9 家庭のお金のこと
- 10 家族の世話や家事のこと
- 11 その他()
- 12 悩みや不安はない

問10 悩みや不安があったとき、気軽に相談できる相手は誰ですか。(いくつでも○)

- 1 親
- 2 祖父母
- 3 兄弟姉妹
- 4 友だち
- 5 学校の先生
- 6 さわやか相談員
- 7 電話の相談窓口(よい子の電話教育相談等)
- 8 習いごとの先生や監督・コーチ
- 9 ネットで知り合った人
- 10 誰もいない
- 11 その他()

▶問10-1 どのような相手だったら、気軽に相談できると思えますか。下の枠に記入してください。

02 児童・生徒向けアンケート

問11 あなたが、安心して過ごすことのできる居場所はどこですか。(いくつでも○)

- 1 家庭
- 2 学校
- 3 塾や習いごとなど
- 4 公民館や福祉センター、児童館など
- 5 公園
- 6 飲食店やコンビニなどのお店
- 7 オンラインゲームやLINE などネット上のつながり
- 8 どこにもない
- 9 その他()

5. 福祉に関する行動についてお聞きします

問12 この1年間、次のことを行いましたか。(ア～キのそれぞれ1つに○を付けてください)

	行った	関心はあるが、行っていない	行っていない
ア) お年寄りと交流する	1	2	3
イ) 障書のある方と交流する	1	2	3
ウ) 赤ちゃんや小さい子と交流する	1	2	3
エ) 学校で困っている人を見かけたら声をかける	1	2	3
オ) 学校以外で困っている人を見かけたら声をかける	1	2	3
カ) 地域の活動や行事に参加する	1	2	3
キ) ボランティア活動をする	1	2	3

問13 今後、次のことを行ってみたいと思いますか。(ア～キのそれぞれ1つに○を付けてください)

	ぜひ行いたい	機会があれば、行いたい	行いたいと思わない
ア) お年寄りと交流する	1	2	3
イ) 障書のある方と交流する	1	2	3
ウ) 赤ちゃんや小さい子と交流する	1	2	3
エ) 学校で困っている人を見かけたら声をかける	1	2	3
オ) 学校以外で困っている人を見かけたら声をかける	1	2	3
カ) 地域の活動や行事に参加する	1	2	3
キ) ボランティア活動をする	1	2	3

ご協力ありがとうございました。

4 ボランティア団体向けアンケート

04 ボランティア団体向け

飯能市の地域福祉に関するアンケート

～皆様のご意見をお聞かせください～

皆さまには、日ごろより飯能市の地域福祉の推進にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

飯能市及び飯能市社会福祉協議会では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民が互いに支え合う地域づくりを実現するため、市民、市及び社会福祉協議会が協働して「第3次はんのうふくしの森プラン（第3次飯能市地域福祉計画・第4次飯能市地域福祉活動計画）」を策定し、取組を進めているところです。

この計画の期間が令和5年度で終了することから、さらに将来を見据え令和11年度までを計画期間とする『第4次はんのうふくしの森プラン（第4次飯能市地域福祉計画・第5次飯能市地域福祉活動計画）』を策定します。

このアンケート調査は、地域福祉に関する皆様のご意見をお寄せいただき、計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。今後の地域福祉の推進に役立てさせていただきます。恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

令和4年11月

飯能市長・社会福祉法人飯能市社会福祉協議会会長 新井 重治

アンケート票について

■ 回答方法（次の①②のうちいずれかの方法でご回答ください。）

① アンケート票への記入による回答

ご記入いただいたアンケート票のみを同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに無記名のまま11月30日（水）までにポストへ投函してください。

② オンラインフォームによる回答

右のQRコードから回答フォームに直接ご回答ください。

このアンケートは、飯能市ボランティアセンター登録団体及び地域福祉に関する活動を行っている団体に送らせていただいています。

■ 調査結果は、すべて統計的に処理し、上記の目的以外に利用することは一切ありません。また、飯能市・飯能市社会福祉協議会のホームページにて結果をお知らせするほか、市役所の市政資料コーナーや図書館、地区行政センター、総合福祉センター及びはんのうふくしの森ステーションでご覧いただけます。

*このアンケートでご不明な点などがございましたら、下記までお問い合わせください。

飯能市 地域・生活福祉課 担当 馬場 飯能市社会福祉協議会 担当 梅木
電話 042-986-5081 電話 070-7792-2436

04 ボランティア団体向けアンケート

1. 活動状況についてうかがいます

問1 活動分野について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|----------|---------|---------|----------|
| 1 高齢者 | 3 子ども | 5 文化・芸術 | 7 環境保全 |
| 2 障害者(児) | 4 まちづくり | 6 国際交流 | 8 その他() |

問2 活動年数について教えてください。(1つだけに○)

- | | | | |
|--------|----------|-----------|---------|
| 1 3年未満 | 2 3～5年未満 | 3 5～10年未満 | 4 10年以上 |
|--------|----------|-----------|---------|

問3 活動範囲を教えてください。(1つだけに○)

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1 市内の一部地域 | 3 市内と隣接市町 | 5 その他() |
| 2 市内全域 | 4 県内 | |

2. 貴団体の運営上の課題などについてうかがいます

問4 貴団体は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、どの程度影響を受けましたか。(1つだけに○)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 特に影響を受けなかった | 3 ほとんど活動できなかった |
| 2 活動の一部制限が生じた | 4 活動が休止したままである |

問5 現在、運営において困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 新規メンバーの確保が難しい | 6 活動のPRが十分にできない |
| 2 後継者など中核的な人材がいらない | 7 他の組織や団体等との連携が難しい |
| 3 活動が停滞・休止している | 8 制度上の制限や制約がある |
| 4 活動頻度や機会が減少している | 9 その他() |
| 5 活動費の確保が難しい | 10 特にない |

問6 問5の困っていることの課題解決に向けて、どのようなことが必要と思われますか。下の枠にご記入下さい。

問7 今後も活動していくために、市や社会福祉協議会に望む取組はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 活動参加のきっかけになる講習会 | 6 他団体の活動内容についての情報 |
| 2 会員のスキル向上のための講習会 | 7 他分野の団体等との交流の場や機会 |
| 3 コロナ禍での活動方法に関する情報 | 8 法制度に関する情報 |
| 4 助成制度に関する情報 | 9 その他() |
| 5 活動のPR、情報発信への支援 | 10 特にない |

04 ボランティア団体向けアンケート

3. 他の組織・団体等との連携についてうかがいます

問8 現在、どの組織・団体と連携していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|---------------|----|--------------|
| 1 | 市役所 | 9 | 民生委員・児童委員協議会 |
| 2 | 飯能市社会福祉協議会 | 10 | 子ども会 |
| 3 | 地区行政センター(公民館) | 11 | 老人クラブ |
| 4 | 地域福祉推進組織 | 12 | 他のボランティア団体 |
| 5 | 保育所・幼稚園 | 13 | 商店・商店街 |
| 6 | 小・中学校 | 14 | 企業 |
| 7 | 高校・大学・専門学校等 | 15 | その他() |
| 8 | 自治会 | 16 | 特にない |

問9 今後、どの組織・団体と連携を深めていきたいと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|---------------|----|--------------|
| 1 | 市役所 | 9 | 民生委員・児童委員協議会 |
| 2 | 飯能市社会福祉協議会 | 10 | 子ども会 |
| 3 | 地区行政センター(公民館) | 11 | 老人クラブ |
| 4 | 地域福祉推進組織 | 12 | 他のボランティア団体 |
| 5 | 保育所・幼稚園 | 13 | 商店・商店街 |
| 6 | 小・中学校 | 14 | 企業 |
| 7 | 高校・大学・専門学校等 | 15 | その他() |
| 8 | 自治会 | 16 | 特にない |

問9-1 他の組織・団体等と連携することでのどのようなことを期待していますか。

記入例を参考に、問9にある連携先ごとに記入下さい。

記入例

- 〔連携先の選択肢番号〕 期待すること
 〔2〕 メンバーを増やせるような講座を開催してほしい
 〔7〕 大学のサークルやゼミの学生にイベントの担い手として参加してほしい

04 ボランティア団体向けアンケート

4. 共に支え合う地域づくりについてうかがいます

問10 あなたは、「第3次はんのうふくしの森プラン」(平成31年度~令和5年度)をご存じですか。(1つだけに○)

- 1 内容も読んだことがある 2 名前は聞いたことがある 3 名前も聞いたことがない

問11 共に支え合う地域づくりのために、市や社会福祉協議会はどのような取組に力を入れると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|---|
| 1 | 近所付き合いの希薄化への対応に関すること |
| 2 | 自治会・町内会活動の活性化に関すること |
| 3 | ボランティアなど地域における福祉活動の促進に関すること |
| 4 | 気軽に相談できる窓口に関すること |
| 5 | 福祉に関する情報の提供に関すること(保育所、放課後児童クラブなど) |
| 6 | 子どもを育てる環境に関すること |
| 7 | 障害者福祉に関すること |
| 8 | 高齢者福祉に関すること |
| 9 | 子どもの貧困など子どもへの支援に関すること |
| 10 | 疾病予防など健康増進に関すること |
| 11 | 生きがいづくりや社会参加に関すること |
| 12 | 子どもや高齢者等への虐待防止に関すること |
| 13 | 生活困難者の住まいや就労支援に関すること |
| 14 | 孤立の防止に関すること(他者との関わりを持ちにくい人への支援等) |
| 15 | 外国人に暮らしやすいまちづくりに関すること |
| 16 | 移動や交通環境に関すること(買い物や通院の交通手段の確保等) |
| 17 | 避難行動要支援者(災害時要援護者)に対する支援に関すること(物理的、文化、情報、制度など) |
| 18 | 住民による自主的な防災対策の強化への支援に関すること |
| 19 | 防犯体制の充実に関すること |
| 20 | 防犯体制の充実に関すること |
| 21 | その他() |

問12 その他、地域で暮らす人々が共に支え合う地域にしていきたいために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

5 福祉関係事業所向けアンケート

05 福祉関係事業所向け

飯能市の地域福祉に関するアンケート

～皆様のご意見をお聞かせください～

皆様には、日ごろより飯能市の地域福祉の推進にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

飯能市及び飯能市社会福祉協議会では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民が互いに支え合う地域づくりを実現するため、市民、市及び社会福祉協議会が協働して「第3次はんのうふくしの森プラン（第3次飯能市地域福祉計画・第4次飯能市地域福祉活動計画）」を策定し、取組を進めているところです。

この計画の期間が令和5年度で終了することから、さらに将来を見据え令和11年度までを計画期間とする『第4次はんのうふくしの森プラン（第4次飯能市地域福祉計画・第5次飯能市地域福祉活動計画）』を策定します。

このアンケート調査は、地域福祉に関する皆様のご意見をお寄せいただき、計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。今後の地域福祉の推進に役立てさせていただきたいと考えております。

お忙しい中、恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

令和4年11月

飯能市長・社会福祉法人飯能市社会福祉協議会会長 新井 重治

アンケート票について

■ 回答方法：オンラインフォームによる回答となります。

この案内文書を添付したメール内にあるURLをクリックして回答フォームを開き、直接ご回答ください。

※レイアウトの都合上、なるべくパソコンからの回答をお願いいたします。

■ このアンケートは、飯能市内で活動する福祉関係事業所に送らせていただいております。できるだけ管理者の方からお答えください。

■ 調査結果は、すべて統計的に処理し、上記の目的以外に利用することは一切ありません。また、飯能市・飯能市社会福祉協議会のホームページにて結果をお知らせするほか、市役所の市政資料コーナーや図書館、地区行政センター、総合福祉センター及びひふくしの森ステーションでご覧いただけます。

*このアンケートでご不明な点などございましたら、下記までお問い合わせください。

飯能市 地域・生活福祉課 担当 馬場

電話 042-986-5081

飯能市社会福祉協議会 担当 梅木

電話 070-7792-2436

05 福祉関係事業所向けアンケート

1. 事業所についてうかがいます

問1 実施している事業や取組の分野を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- 1 高齢者福祉
- 2 障害者福祉
- 3 児童福祉
- 4 その他 ()

問2 運営主体を教えてください。(1つだけに○)

- 1 企業 (株式会社、有限会社等)
- 2 社会福祉法人
- 3 医療法人
- 4 NPO法人
- 5 その他 ()

問3 事業所の規模 (正規・非正規を合わせた社員数) は次のどれですか。(1つだけに○)

- 1 5人未満
- 2 5～10人未満
- 3 10～20人未満
- 4 20～50人未満
- 5 50～100人未満
- 6 100人以上

問4 活動範囲を教えてください。(1つだけに○)

- 1 市内の一部地域
- 2 市内全域
- 3 市内と隣接市町
- 4 県内
- 5 その他 ()

05 福祉関係事業所向けアンケート

2. 他の組織・団体や行政等との連携についてうかがいます

問5 現在、どの組織・団体と連携していますか。(あてはまるものすべてに○)

1 市役所	10 子ども会
2 飯能市社会福祉協議会	11 老人クラブ
3 地区行政センター(公民館)	12 ボランティア団体
4 地域福祉推進組織	13 商店・商店街
5 保育所・幼稚園	14 他の福祉関係事業所
6 小・中学校	15 一般企業
7 高校・大学・専門学校等	16 その他()
8 自治会	17 特にない
9 民生委員・児童委員協議会	

問6 今後、どの組織・団体等と連携を深めていきたいと思いませんか。(あてはまるものすべてに○)

1 市役所	10 子ども会
2 飯能市社会福祉協議会	11 老人クラブ
3 地区行政センター(公民館)	12 ボランティア団体
4 地域福祉推進組織	13 商店・商店街
5 保育所・幼稚園	14 他の福祉関係事業所
6 小・中学校	15 一般企業
7 高校・大学・専門学校等	16 その他()
8 自治会	17 特にない
9 民生委員・児童委員協議会	

問6-1 他の組織・団体等と連携することでのどのようなことを期待していますか。
記入例を参考に、問6にある連携先ごとにご記入下さい。

記入例
〔2〕複雑な事例について連携して対応していきたい

〔連携先の選択肢番号〕 期待すること

05 福祉関係事業所向けアンケート

3. 地域貢献活動についてうかがいます

問7 現在、地域貢献活動(地域における公益的な取組)を行っていますか。(1つだけに○)

1 現在、取り組んでいる

2 以前取り組んでいたが、現在はしない

3 今まで取り組んだことはない

問7-1 それほどのような取組ですか。下の枠にお書き下さい。

問8 今後(今後も)、地域貢献活動を行いたいと思いませんか。(1つだけに○)

1 ぜひ取り組みたい

2 条件が整えば取り組みたい

3 取り組みたいとは思わない

問8-1 それは、どのような取組ですか。下の枠に記入してください。

問8-2 どのような条件が整えば、地域貢献活動を行いやすくなると思いますか。下の枠にお書き下さい。

05 福祉関係事業所向けアンケート

4. 「はんのうふくしの森プラン」についてうかがいます

問9 「第3次はんのうふくしの森プラン」(平成31年度～令和5年度)をご存じですか。(1つだけに○)

- 1 内容も読んだことがある 2 名前は聞いたことがある 3 名前も聞いたことがない

問10 現行の「第3次はんのうふくしの森プラン」では、次のように4つの基本目標とそれを実現するための取組を掲げ、市民、市及び社会福祉協議会が協働して行っています。これらの取組についてどのようなようにお考えですか。それぞれ1つずつお答えください。

	とても進んだ	やや進んだ	あまり進んでいない	まったく進んでいない
基本目標1【知】 お互いを知り合う・わかり合う機会をつくろう				
(1) 地域コミュニケーション(あいせつや声かけなど)	1	2	3	4
(2) 福祉学習の推進	1	2	3	4
(3) 情報の発信と共有	1	2	3	4
基本目標2【交】 交流が生まれる居場所と地域の移動・交通をつくろう				
(4) 交流の場づくり(多様な居場所づくりなど)	1	2	3	4
(5) 地域の移動・交通の充実	1	2	3	4
基本目標3【支】 支え合いの仕組みをつくろう				
(6) 地域で支え合う人の育成(ボランティア育成など)	1	2	3	4
(7) 支え合いの地域づくり(地域福祉推進組織の設置や自治会、民生委員・児童委員との連携など)	1	2	3	4
基本目標4【安】 安心して暮らせる仕組みをつくろう				
(8) 相談支援体制の強化	1	2	3	4
(9) 権利擁護の推進(虐待防止、成年後見制度など)	1	2	3	4
(10) 防災・防犯の地域づくり	1	2	3	4
(11) すこやかに暮らせる地域づくり(地域保健活動)	1	2	3	4

問11 今後、どの分野の取組を重点的に進めるべきだと思いますか。記入例を参考に、問10の(1)～(11)の中から該当する番号とその具体的な内容を下の枠にご記入ください。(いくつでも)
 (記入例) 4: 相談につながるきつかけになることが大切。

05 福祉関係事業所向けアンケート

5. 共に支え合う地域づくりのための方策についてうかがいます

問12 本市では、地域住民や地域の多様な主体が参画し、支える側と支えられる側の垣根を越えて人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現をめざしています。「地域共生社会」を実現するために、特にどのような取組が大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【福祉に関する情報の提供や相談体制の充実に関すること】

- 福祉に関する情報提供の充実
 - 身近な地域で気軽に相談できる体制の充実
 - 必要な人に出向き、支援を届ける仕組みづくり
 - コミュニケーションワーカー*の配置(次ページ下欄参照)
- 【市民の福祉活動への支援に関すること】
- 市民が取り組む、支え合いや見守り活動など地域の福祉活動の支援
 - 他人と交流しながら安心して過ごすことのできる居場所づくりへの支援
 - 市民による福祉活動の場所の確保に関する支援

【ネットワークづくりや担い手の育成に関すること】

- 市民や自治会はじめ、様々な福祉団体のネットワークづくり
- ボランティア(活動)の活発化に向けた取組
- 地域における福祉活動の意義と重要性をPRする
- 地域や学校における福祉教育の実施や協力
- 福祉活動に関心のある人が参加できる機会の提供

【災害時の対策に関すること】

- 避難行動要支援者に対する支援の充実
- 住民による自主的な防災対策の強化への支援に関すること

【その他に関すること】

- 外出や移動への支援に関する取組の充実
- 生活困難者への支援に関する取組の充実
- 虐待防止に関する取組の充実
- 権利擁護に関する取組の充実(成年後見制度など)
- 孤立の防止に関する取組の充実
- 自給対策に関する取組の充実(ゲートキーパーの養成など)
- 人権に関する取組の充実(差別の解消など)
- 様々な面でのバリアフリー化の推進(物理的、文化・情報、制度など)
- その他()

6 専門職向けアンケート

専門職向けアンケート

飯能市の地域福祉に関するアンケート

～皆様のご意見をお聞かせください～

皆様には、日ごろより飯能市の地域福祉の推進にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

飯能市及び飯能市社会福祉協議会では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民が互いに支え合う地域づくりを実現するため、市民、市及び社会福祉協議会が協働して「第3次はんのうふくしの森プラン（第3次飯能市地域福祉計画・第4次飯能市地域福祉活動計画）」を策定し、取組を進めているところです。

この計画の期間が令和5年度で終了することから、さらに将来を見据え令和11年度までの計画期間とする『第4次はんのうふくしの森プラン（第4次飯能市地域福祉計画・第5次飯能市地域福祉活動計画）』を策定します。

このアンケート調査は、地域福祉に関する皆様のご意見をお寄せいただき、計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。今後の地域福祉の推進に役立てさせていただきます。

お忙しい中、恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和4年11月

飯能市長・社会福祉法人飯能市社会福祉協議会会長 新井 重治

アンケート票について

■回答方法：Google・フォームによる回答となります。
この案内文書を添付したメールアドレスにあるURLをクリック、または、右のQRコードから回答フォームを開き、直接ご回答ください。



■このアンケートは、飯能市内で活動する福祉関係事業所において、利用者に直接関わる職員の方を対象とさせていただきます。各事業所なるべく多くの方に協力いただければ幸いです。

■調査結果は、すべて統計的に処理し、上記の目的以外に利用することは一切ありません。また、飯能市・飯能市社会福祉協議会のホームページにて結果をお知らせするほか、市役所の市政資料コーナーや図書館、地区行政センター、総合福祉センター及びふくしの森ステーションでご覧いただけます。

*このアンケートでご不明な点などがございましたら、下記までお問い合わせください。

飯能市 地域・生活福祉課 担当 馬場 飯能市社会福祉協議会 担当 梅木
電話 042-986-5081 電話 070-7792-2436

06 専門職向けアンケート

1. あなたご自身のことについてうかがいます

問1 あなたが勤務している事業や取組の分野を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- 1 高齢者福祉
- 2 障害者福祉
- 3 児童福祉
- 4 医療
- 5 教育
- 6 その他()

問2 あなたが勤務している事業所の運営主体を教えてください。(1つだけに○)

- 1 公的機関(市所、市の関係機関等)
- 2 企業(株式会社、有限会社等)
- 3 社会福祉法人
- 4 医療法人
- 5 NPO法人
- 6 学校法人
- 7 その他()

問3 あなたの業務の内容は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 相談支援(ケアマネ・包括など)
- 2 通所
- 3 入所
- 4 訪問
- 5 保育・学童
- 6 医療関係
- 7 教育関係
- 8 その他()

問4 あなたの業務の活動範囲を教えてください。(1つだけに○)

- 1 市内の一部地域
- 2 市内全域
- 3 市内と隣接市町
- 4 県内
- 5 その他()

2. 対象者をめぐる課題や問題点についてうかがいます

問5 あなたが担当している方やご家族等に関して、気になる課題はありますか。該当する項目に○をつけ、具体的な内容をお書きください。(あてはまるものすべてに○)

- 1 高齢・介護(認知症、見守り)に関する事
- 2 障害(身体・知的・精神等)に関する事
- 3 健康・医療に関する事
- 4 就労・経済的な事項に関する事
- 5 子ども・子育てに関する事
- 6 自立やひきこもりに関する事
- 7 交通環境・買い物・通院環境に関する事
- 8 防災・防犯に関する事
- 9 ごみ・住環境に関する事
- 10 人権・家庭内暴力に関する事
- 11 居場所・孤立に関する事
- 12 近隣とのトラブルに関する事
- 13 その他()
- 14 特にない

06 専門職向けアンケート

問5-1 問5で答えたことについて、具体的な内容をご記入ください。

問6 あなたが担当している方やご家族等について、現行のサービスのサービスや社会資源の活用では解決できず困っている問題・事例はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 課題が複合化しているケース
 2 制度の狭間にあるケース
 3 社会資源が不足しているケース
 4 他機関や他の専門職との協働がうまくいかないケース
 5 利用者及び家族の理解や協力が得られにくいケース
 6 その他 ()
 7 特にない

問6-1 その具体的な内容を、問6の番号ごとに下の枠に記入してください。

問6-2 上記で書かれた問題・事例に対して、解決に向けたご提案がありましたらお書きください。

3. 多職種連携についてうかがいます

問7 あなたは、相談支援業務を行っていますか。(1つだけ○)

1 行っている 2 行っていない

問8~問10は、相談支援業務を行っている方(問7で「1 行っている」とお答えの方)にうかがいます。

問8 相談支援業務を行うにあたり、他の機関や職種と連携して取り組むことはありますか。(1つだけ○)

1 必要に応じて連携している 4 連携を必要とするケースはない
 2 連携できているが容易ではない 5 わからない
 3 連携の必要性はあがってきていない

06 専門職向けアンケート

問9 相談支援業務を行うにあたり、他の機関や職種と連携して取り組むことについてどのように思いますか。(1つだけ○)

1 とても必要なことだと思う 3 特に必要だとは思わない
 2 どちらかといえば必要だと思う 4 わからない

問9-1 今後、他の機関や職種との連携が円滑になるためには、どのような条件が整えばよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1 他の機関や職種とのつながりが見えること
 2 どういった場合に連携を働きかけられるか判断が明確であること
 3 困難性が高いケースについて相談しやすい窓口や相手がいること
 4 日頃の業務の負担が軽減されること
 5 他の職種の内容を理解できること
 6 他の職種との人間関係があること
 7 調整してくれる人がいること
 8 特定の専門職に負担が集中しないこと
 9 その他 ()

問10 本人やご家族のニーズと地域の資源との間を取り持つなど社会とのつながりを回復する支援(参加支援)についてお伺いします。

(1) あなたは、「参加支援」についてどのように思いますか。(1つだけ○)

1 とても必要なことだと思う 3 特に必要だとは思わない
 2 どちらかといえば必要だと思う 4 わからない

(2) 普段の業務の中で、「参加支援」を必要とする対象者はいますか。(1つだけ○)

1 いる 2 いない 3 わからない

(3) 「参加支援」を必要とする対象者について、具体的な内容をお書き下さい。

06 専門職向けアンケート

とても進んだ	やや進んだ	あまり進んでいない	まったく進んでいない	わからない
1	2	3	4	5

問13 (21) 地域の保健活動との連携
今後、どの分野の取組を重点的に進めたいか、記入例を参考に、問12の(1)～(21)の中から該当する番号とその具体的な内容を下の枠にご記入ください。(いくつでも)
【記入例】 4: 相談につながるきっかけになることが大切

5. 共に支え合う地域づくりのための方策についてうかがいます

問14 本市では、地域住民や地域の多様な主体が参画し、支える側と支えられる側の垣根を越えて人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現をめざしています。
「地域共生社会」を実現するために、特にどのような取組が大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【福祉に関する情報の提供や相談体制の充実に関すること】

- 1 福祉に関する情報提供の充実
- 2 身近な地域で気軽に相談できる体制の充実
- 3 必要な人に出向き、支援を届ける仕組みづくり
- 4 コミュニティソーシャルワーカー^{*}の配置(次ページ下欄参照)

【市民の福祉活動への支援に関すること】

- 5 市民が取り組む、支え合いや見守り活動など地域の福祉活動の支援
- 6 他人と交流しながら安心して過ごすことのできる居場所づくりへの支援
- 7 市民による福祉活動の場所の確保に関する支援

【ネットワークづくりや担い手の育成に関すること】

- 8 ネットワークづくりや担い手の育成に関すること
- 9 ボランティア(活動)の活発化に向けた取組
- 10 地域における福祉活動の意義と重要性をPRする
- 11 地域や学校における福祉教育の実施や協力
- 12 福祉活動に関心のある人が参加できる機会の提供

【災害時の対策に関すること】

- 13 避難行動要支援者に対する支援の充実
- 14 住民による自主的な防災対策の強化への支援に関すること

【その他に関すること】

- 15 外出や移動への支援に関する取組の充実
- 16 生活困窮者への支援に関する取組の充実

06. 専門職向けアンケート

4. 「はんのうふくしの森プラン」についてうかがいます

問11 あなたは、「第3次はんのうふくしの森プラン」(平成31年度～令和5年度)をご存じですか。(1つだけに○)

1 内容も読んだことがある 2 名前は聞いたことがある 3 名前も聞いたことがない

問12 現行の「第3次はんのうふくしの森プラン」では、次のように4つの基本目標とそれを実現するための取組を掲げ、市民、市及び社会福祉協議会が協働して行っています。あなたは、(1)～(21)の取組についてどのようにお考えですか。それぞれ1つずつお答えください。

とても進んだ	やや進んだ	あまり進んでいない	まったく進んでいない	わからない
1	2	3	4	5

基本目標1【知】 お互いを知り合う・わかり合う機会をつくろう

(1) 気軽に声をかけ合う地域づくり	1	2	3	4	5
(2) 学校などにおける多様な福祉学習の推進	1	2	3	4	5
(3) 地域における福祉学習の推進	1	2	3	4	5
(4) 多様な媒体によるわかりやすい情報の発信と共有	1	2	3	4	5
基本目標2【交】 交流が生まれる居場所と地域の移動・交通をつくろう					
(5) 地域の居場所などの交流の場づくり	1	2	3	4	5
(6) 意見を交わせる場づくり	1	2	3	4	5
(7) 身近な外出支援の仕組みづくり	1	2	3	4	5
(8) 外出しやすい環境づくり(移動支援、交通環境)	1	2	3	4	5

基本目標3【支】 支え合いの仕組みをつくろう

(9) ふくしの森サポーターの創設	1	2	3	4	5
(10) ボランティアの育成	1	2	3	4	5
(11) 地域福祉推進組織の全圏域での設立	1	2	3	4	5
(12) 地域福祉推進組織の活動の充実	1	2	3	4	5
(13) 自治会との連携	1	2	3	4	5
(14) 民生委員児童委員協議会との連携	1	2	3	4	5
(15) 多様な活動の連携	1	2	3	4	5

基本目標4【安】 安心して暮らせる仕組みをつくろう

(16) コミュニティソーシャルワーカーの充実	1	2	3	4	5
(17) ネットワークによる相談支援体制の強化	1	2	3	4	5
(18) 権利擁護に関する取組の充実	1	2	3	4	5
(19) 成年後見制度に関する取組の充実	1	2	3	4	5
(20) 安心して暮らせる地域づくり(防犯・防災)	1	2	3	4	5

06 専門職向けアンケート

- 17 虐待防止に関する取組の充実
- 18 権利擁護に関する取組の充実（成年後見制度など）
- 19 孤立の防止に関する取組の充実
- 20 自殺対策に関する取組の充実（ゲートキーパーの養成など）
- 21 人権に関する取組の充実（差別の解消など）
- 22 様々な面でのバリアフリー化の推進（物理的、文化・情報、制度など）
- 23 その他（ ）

問15 その他、地域で暮らす人々が共に支え合う地域にしていきたいために、どのようなことが必要と
考えますか。ご自由にお書きください。

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）のご紹介



コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、高齢者や障害者、ひとり親家庭など社会的な支援が必要な方やその家族が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、ともに支え合う地域社会の実現に向け活動する、地域福祉のコーディネーターです。

CSW の役割

- 支援を要する方の地域での生活を支えるネットワークの構築
- 要援護者に対する見守り、相談、適切なサービスのつなぎ
- 地域住民活動の手助け
- 行政への情報提供

ご協力ありがとうございました。

7 市内企業向けアンケート

07 市内企業向けアンケート

1. 事業活動についてうかがいます

問1 事業活動の分野は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 製造業・印刷業	9 飲食サービス (配食、テイクアウトを含む)
2 建設、リフォーム	10 美容・理容、クリーニング、健康サービス
3 電気・水道、ガス工事	11 宿泊・旅行サービス
4 配送、流通、通信サービス	12 教育・学習サービス
5 交通サービス	13 清掃サービス
6 金融・保険サービス	14 その他 ()
7 食料品の物販	
8 衣料品その他物販 (7以外の物販)	

問2 事業所の規模 (正規・非正規を合わせた社員数) は次のどれですか。(1つだけに○)

1 5人未満	3 10~20人未満	5 50~100人未満
2 5~10人未満	4 20~50人未満	6 100人以上

問3 ご回答の事業所の事業活動の範囲を教えてください。(該当するものに○)

1 市内の一部地域	5 決まった範囲はない
2 市内全域	6 事業活動は事業所内で行われる
3 市内と隣接市町	7 その他 ()
4 県内	

2. 地域への貢献活動についてうかがいます
(清掃や植栽等の美化活動など、地域での身近な活動も含みます)

問4 現在、地域への貢献的な活動に取り組んでいますか。(1つだけに○)

1 現在、取り組んでいる	2 以前取り組んでいたが、現在はしない	3 今まで取り組んだことはない
--------------	---------------------	-----------------

問4-1 取組を行っている理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 地域社会とのコミュニケーションを深めたいから	2 地域の一員としての役割を担いたいから	3 利益を社会に還元したいから
4 企業イメージ・知名度の向上など間接的なメリットがあるから	5 従業員のモラルの向上、社内の活性化が期待できるから	6 従業員が自主的に決めたから
7 その他 ()		

次ページに続く

07 一般企業向け

飯能市の地域福祉に関するアンケート

～皆様のご意見をお聞かせください～

皆様には、日ごろより飯能市の地域福祉の推進にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

飯能市及び飯能市社会福祉協議会では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民が互いに支え合う地域づくりを実現するため、市民、市及び社会福祉協議会が協働して「第3次はんのうふくしの森プラン (第3次飯能市地域福祉計画・第4次飯能市地域福祉活動計画)」を策定し、取組を進めているところです。

この計画の期間が令和5年度で終了することから、さらに将来を見据え令和11年度までを計画期間とする『第4次はんのうふくしの森プラン (第4次飯能市地域福祉計画・第5次飯能市地域福祉活動計画)』を策定します。

このアンケート調査は、地域福祉に関する皆様のご意見をお寄せいただくこと、計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。今後、地域福祉の推進に役立てさせていただきますと考えております。

お忙しい中、恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和4年11月
飯能市長・社会福祉法人飯能市社会福祉協議会会長 新井 重治

アンケート票について

■ 回答方法 (次の①②のうちいずれかの方法でご回答ください。)

① アンケート票への記入による回答
ご記入いただいたアンケート票のみを同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに無記名のまま11月30日 (水) までにポストへ投函してください。

② オンラインフォームによる回答
右のQRコードから回答フォームに直接ご回答ください。

■ このアンケートは、飯能市内の企業の中から300社を無作為に選びお寄せさせていただきます。

■ 調査結果は、すべて統計的に処理し、上記の目的以外に利用することは一切ありません。また、飯能市・飯能市社会福祉協議会のホームページにて結果をお知らせするほか、市役所の市政資料コーナーや図書館、地区行政センター、総合福祉センター及びはんのうふくしの森ステーションでご覧いただけます。

*このアンケートでご不明な点などがございましたら、下記までお問い合わせください。

飯能市 地域・生活福祉課 担当 馬場	飯能市社会福祉協議会 担当 梅木
電話 042-986-5081	電話 070-7792-2436

8 個人商店向けアンケート

08 個人商店向けアンケート

1. 事業活動についてうかがいます

問1 事業活動の分野は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1	製造業・印刷業	9	その他 ()
2	電気・水道・ガス工事	10	
3	食料品の物販	11	
4	衣料品その他物販 (3以外の物販)	12	
5	飲食サービス (配食、テイクアウトを含む)	13	
6	美容・理容、クリーニング、健康サービス	14	
7	宿泊・旅行サービス	15	
8	教育・学習サービス	16	

問2 ご回答の店舗・事業所の事業活動の範囲を教えてください。(1つだけに○)

1	市内の一部地域	7	その他 ()
2	市内全域		
3	市内と隣接市町		
4	県内		
5	決まった範囲はない		
6	店舗・事業所内		

2. 地域への貢献活動についてうかがいます

問3 地域福祉に役立つ取組やサービスについてうかがいます。
(1)現在、あなたの事業を通じて取り組んでいるものはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

1	お年寄りなどへの商品やお弁当の配達	9	高齢者や障害者の文化・芸術・趣味の活動の提供など生きがいづくりへの協力
2	出張サービス (訪問理美容サービスなど)	10	ひだまりカフェ (認知症カフェ) や子ども食堂などへの場所の提供や運営
3	商店がない地域への引き売りや移動販売	11	住民による高齢活動の場や機会の提供
4	送迎サービス	12	ひとり暮らし高齢者等の話し相手・相談相手
5	フードドライブやフードバンクの取組	13	風守りや通報 (認知症、安否確認、虐待など)
6	行政や社協等と連携した商品やサービスの提供 (ひとり親家庭向け買い物券など)	14	趣味・健康づくり等のスクール・講座等の開催
7	寄付つきの商品やサービスの提供	15	その他 ()
8	福祉に関する情報の掲示やチラシの設置	16	特になし

08 個人商店向け

飯能市の地域福祉に関するアンケート

～皆様のご意見をお聞かせください～

皆様には、日ごろより飯能市の地域福祉[※]の推進にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

飯能市及び飯能市社会福祉協議会では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民が互いに支え合う地域づくりを実現するため、市民、市及び社会福祉協議会が協働して「第3次はんのうふくしの森プラン (第3次飯能市地域福祉計画・第4次飯能市地域福祉活動計画)」を策定し、取組を進めているところです。

この計画の期間が令和5年度で終了することから、さらに将来を見据え令和11年度までを計画期間とする『第4次はんのうふくしの森プラン (第4次飯能市地域福祉計画・第5次飯能市地域福祉活動計画)』を策定します。

このアンケート調査は、地域福祉に関する皆様のご意見をお寄せいただき、計画策定にあたっての貴重な資料とさせていただきます。また、今後の地域福祉の推進に役立てさせていただきます。

いと考えるお忙しい中、恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

令和4年11月
飯能市長・社会福祉法人飯能市社会福祉協議会会長 新井 重治

アンケート票について

■回答方法 (次の①②のうちいずれかの方法でご回答ください。)

①アンケート票への記入による回答
ご記入いただいたアンケート票のみを同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに無記名のまま11月30日 (水) までにポストへ投函してください。

②オンラインフォームによる回答
右のQRコードから回答フォームに直接ご回答ください。

■このアンケートは、飯能市内の個人商店等の中から100件を無作為に選びお送りさせていただきます。

■調査結果は、すべて統計的に処理し、上記の目的以外に利用することは一切ありません。また、飯能市・飯能市社会福祉協議会のホームページにて結果をお知らせするほか、市役所の市政資料コーナーや図書館、地区行政センター、総合福祉センター及びふくしの森ステーションでご覧いただけます。

*このアンケートでのご不明な点などがございましたら、下記までお問い合わせください。

飯能市 地域・生活福祉課 担当 馬場 飯能市社会福祉協議会 担当 梅木
電話 042-986-5081 電話 070-7792-2436

08 個人商店向けアンケート

(2) 現在は行っていないもの、今後取り始めそうなものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 お年寄りなどへの商品やお弁当の配達
- 2 出張サービス(訪問理美容サービスなど)
- 3 商店がない地域への引き売りや移動販売
- 4 送迎サービス
- 5 フードドライブやフードバンクの取組
- 6 行政や社協等と連携した商品やサービスの提供(ひとり親家庭向け買い物券など)
- 7 寄付つきの商品やサービスの提供
- 8 福祉に関する情報の掲示やチラシの設置
- 9 高齢者や障害者の文化・芸術・趣味の活動の場の提供など生きがいづくりへの協力
- 10 ひだまりカフェ(認知症カフェ)や子ども食堂などへの場所の提供や運営
- 11 住民による地域活動の場や機会の提供
- 12 ひとり暮らし高齢者等の話し相手・相談相手
- 13 見守りや通報(認知症、安否確認、虐待など)
- 14 趣味・健康づくり等のスクール・講座等の開催
- 15 その他()
- 16 特になし

(3) 上記の取組を行っていく上で、どのような条件が整えばよいと思いますか。自由にお書きください。

問4 本市の商店や事業所は、問3に例示したような地域の福祉やコミュニティを支える役割を發揮していると感じますか。(1つだけに○)

- 1 強く感じる
- 2 どちらかといえば感じる
- 3 あまり感じない
- 4 まったく感じない

3

08 個人商店向けアンケート

3. 福祉のまちづくりについてうかがいます

問5 あなたは、「第3次はんのうふくしの森プラン」(平成31年度～令和5年度)をご存じですか。(1つだけに○)

- 1 内容も読んだことがある
- 2 名前は聞いたことがある
- 3 名前も聞いたことがない

問6 共に支え合う地域づくりのために、市や社会福祉協議会はどのような取組に力を入れるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 近所付き合いの希薄化への対応に関する事
- 2 自治会・町内会活動の活性化に関する事
- 3 ボランティアなど地域における福祉活動の促進に関する事
- 4 気候に相談できる窓口に関する事
- 5 福祉に関する情報の提供に関する事(保育所、放課後児童クラブなど)
- 6 子どもを育てる環境に関する事(保育所、放課後児童クラブなど)
- 7 障害者福祉に関する事
- 8 高齢者福祉に関する事
- 9 子どもへの貧困など子どもへの支援に関する事
- 10 疾病予防など健康増進に関する事
- 11 生きがいづくりや社会参加に関する事
- 12 子どもや高齢者等への虐待防止に関する事
- 13 生活困難者の住まいや就労支援に関する事
- 14 孤立の防止に関する事(他者との関わりを持ちにくい人への支援等)
- 15 外国人に暮らしやすいまちづくりに関する事
- 16 移動や交通環境に関する事(買い物や通院の交通手段の確保等)
- 17 様々な面でのバリアフリー化の推進の充実に関する事(物理的、文化、情報、制度など)
- 18 避難行動要支援者(災害時要援護者)に対する支援に関する事
- 19 住民による自主的な防災対策の強化への支援に関する事
- 20 防犯体制の充実に関する事
- 21 その他()

問7 地域で暮らす人々が共に支え合う地域にしていけるために、どのようなことが必要と考えますか。ご自由にお書きください。

問8 飯能市及び飯能市社会福祉協議会では、今後、講座やイベントの案内など地域福祉に関する情報を発信していきたいと考えております。情報を希望される方は、ご担当者様のメールアドレスをご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

4

飯能市の地域福祉に関するアンケート
調査結果報告書

— 令和5年3月発行 —

発行：飯能市
社会福祉法人 飯能市社会福祉協議会
編集：飯能市 福祉子ども部 地域・生活福祉課
〒357-8501 埼玉県飯能市大字双柳1番地の1
電話 042-986-5081 (直通)
メール chifuku@city.hanno.lg.jp
社会福祉法人 飯能市社会福祉協議会
〒357-0021 埼玉県飯能市双柳371番地の13
電話 042-973-0022 (代表)
メール tiikifukusi@hannosyakyu.or.jp
